

**opentext™**

# Dimensions RM

ソフトウェアバージョン: 24.4 (12.12.1)

## RM Browserユーザーガイド



Copyright © 2024 Open Text.

Open Textおよびその関連会社およびライセンサ（「Open Text」）の製品およびサービスの保証は、当該製品およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、Open Textはいかなる責任も負いません。ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

製品バージョン: 24.4 (12.12.1)

最終更新日: 2024年9月26日

# 目次

---

## 第1章

はじめに	15
テクニカルサポートへの問い合わせ	15
<b>RM Browserの基礎</b>	<b>17</b>
機能の概要	18
一般的な用語	18
[属性の編集] ダイアログ	20
サンプルインスタンス	22
RM Browserインターフェイスのメインページ	24
RM Browserの一般的なナビゲーションとコントロール	25
[ようこそ] メニュー	26
メニューバー	26
RMインスタンス階層リンク	27
[カテゴリ] ペイン	28
最近使用した項目	31
[アクション] ペイン	31
編集可能なグリッド、グリッド、およびフォームビュー	35
編集可能なグリッドビュー	36
グリッドビュー	38
複数の要件の選択	39
検索、フィルタリング、書式設定の基本	40
クイック検索フィルターの使用	40
カテゴリの選択	40
[表示する属性] リスト	41
[並べ替え順] リスト	42
HTMLテキスト書式設定ツールバー	43
リスト値の検索と選択	49
フィルタリングと検索のメカニズム	50
[属性制約] タブ	52
[関係制約] タブ	57
[表示オプション] タブ	59
Dimensions RMへのアクセス	65
ログアウト	67
別のRMインスタンスへの切り替え	68
パスワードの変更	68
ヘルプの表示	69
ユーザー通知	69
用語集	70
グラフエディター	70
グラフエディターを開く	71
[グラフエディター] ダイアログ	71

グラフィエディターの [ファイル] メニュー . . . . .	72
コメントの操作 . . . . .	73
ドキュメント内のコメント . . . . .	73
要件内のコメントの管理 . . . . .	75
[アクション] ペインからのコメントの追加 . . . . .	76
ディスカッションからのコメントの追加 . . . . .	76
フルインターフェイスでの表示 . . . . .	77
バージョンおよびシステム情報の表示 . . . . .	77
RM Browserでのスペルチェックの使用 . . . . .	77
Internet Explorerの設定 . . . . .	78
Edgeの設定 . . . . .	78
Firefoxの設定 . . . . .	79
Chromeの設定 . . . . .	80

## 第2章

<b>Dimensions RMの設定 . . . . .</b>	<b>81</b>
ユーザー設定とインスタンス設定 . . . . .	82
設定の構成 . . . . .	82
一般設定 . . . . .	83
ホームの設定 . . . . .	84
要件の設定 . . . . .	86
クイック検索の設定 . . . . .	92
階層の設定 . . . . .	93
ドキュメントの設定 . . . . .	94
レポートの設定 . . . . .	97
リンクブラウザーの設定 . . . . .	97
分割ビューの設定 . . . . .	98
通知設定 . . . . .	99
リスク管理の設定 . . . . .	100
テスト管理 . . . . .	101
分岐/同期ビューの設定 . . . . .	102
セキュリティ . . . . .	103
[アクション] ペインのデフォルトの設定 . . . . .	105

## 第3章

<b>ドキュメントの操作 . . . . .</b>	<b>107</b>
ドキュメントについて . . . . .	108
ドキュメントの基礎 . . . . .	108
ナビゲーションペイン . . . . .	109
詳細ペイン . . . . .	110
ドキュメントのフィルタリング . . . . .	111
ドキュメントビューモード . . . . .	115
ドキュメントまたはスナップショットを開く . . . . .	117
1つ以上のオブジェクトを表示する権限がない . . . . .	118
ドキュメント変更の表示 . . . . .	118
文字列の検索と置換 . . . . .	119
ドキュメントまたはスナップショットの異なるカテゴリへの移動 . . . . .	121
ドキュメントのURLのクリップボードへのコピー . . . . .	121
ドキュメントの操作 . . . . .	123
ドキュメントの新規作成 . . . . .	123

階層ビューでの新規ドキュメントの作成	125
ドキュメントの削除	126
ドキュメントの削除の取り消し	127
ドキュメントの除去	127
新しい名前でのドキュメントの保存	128
ドキュメント設定	128
ドキュメントでの要素の参照	136
ドキュメントの変更のマージ	136
チャプターおよび要件の操作	139
チャプターの新規作成	139
チャプターの編集	142
ドキュメント全体ビューモードでのチャプターまたは要件の編集	142
チャプターの削除	143
チャプターのコピー	144
チャプターの書式設定	145
要件の新規作成とドキュメントへの追加	146
ドキュメント全体ビューでの要件の新規作成	147
ドキュメントへの要件の追加	147
階層からドキュメントへの要件の追加	147
ドキュメントからの要件の削除	148
チャプターおよび要件の移動	149
チャプターに対する変更の提案	150
ドキュメントでのコメントの使用	152
ECPのドキュメントへの割り当て	152
ドキュメントでの要件バージョンの交換	153
ドキュメントでのプレースホルダーの使用	154
チャプターの変更のマージ	157
ドキュメントのスナップショット	160
ドキュメントのスナップショットの作成	160
スナップショットの操作	161
ドキュメントおよびスナップショットの比較	162
[ドキュメントの比較] ナビゲーションペインの操作	163
要件差異サマリーの使用	164
ドキュメント差異レポートのエクスポート	164
スナップショットまたはドキュメントの表示	164
ドキュメントのエクスポート	165
ドキュメントでのワークフローの使用	171
ドキュメントのワークフローへの割り当て	172
ドキュメントでの遷移の実行	172
ドキュメントに関する情報の表示	172
<b>第4章 要件の操作</b>	<b>173</b>
要件の基礎	174
機能の保存、更新、削除、除去	181
ダイアログタイトルからのアクション	182
[アクション] ボックスを使用した属性の編集	182
クラスに関する情報の表示	183
要件のバージョン	184

選択した要件の変更の通知	184
要件のロック	185
ワークフロー	185
要件のURLをクリップボードにコピー	188
[階層] ビューの操作	189
要件の操作	190
要件の新規作成	190
要件の一括作成	192
新しい要件の提案	193
要件の編集	194
要件のコピー	197
展開機能の使用方法	197
要件の削除	197
要件の削除の取り消し	198
要件のバージョンの除去	198
要件の印刷	198
要件のクラスの変更	199
カテゴリ、ドキュメント、レポート、コレクション、ベースラインに 含まれる要件の表示	199
変更要求の提出	200
変更要求のレビュー	201
要件のエクスポート	202
Microsoft Excelスプレッドシートとしてエクスポート	203
Microsoft Wordドキュメントとしてエクスポート	203
Adobe PDFドキュメントとしてエクスポート	204
XMLドキュメントとしてエクスポート	204
Webページとしてエクスポート	207
CSVファイルとしてエクスポート	207
プレーンテキストまたはプレーンテキストのテーブルファイルとして エクスポート	207
階層ビューでの要件のエクスポート	208
リンクの操作	208
リンクの作成または既存要件にリンク	210
分割ビューによる既存の要件のリンク	213
要件の新規作成とその要件へのリンク	215
新しい要件の提案とその要件へのリンク	216
リンクの削除または除去	216
削除済みリンクの復元	217
要検討リンクのクリア	217
リンクプロパティ	217
リンク属性の編集	218
要検討リンク	219
要検討の履歴の使用方法	222
継承されたリンク	223
リンクブラウザーの使用方法	224
[コンテナ] セクション	226
継承されたコンテナ	228
ファイル添付の操作	229

グループ属性の操作	230
要件の履歴の表示	232
履歴プロパティの表示の変更	233
履歴の相違の表示	233
前のバージョンを現行バージョンにする	235
ドキュメント内の要件バージョンの変更	236
系図ビューの使用方法	237
要件変更のマージ	239
マージステータス	240
要件の以前のバージョンの表示	241
変更内容のマージ	241
要件の分岐とマージ	241
プロダクトまたはプロジェクトの新規作成	243
プロダクトまたはプロジェクトの編集	245
1つの要件の分岐	246
分岐からの1つの要件の削除	246
分岐ビュー	247
同期	249
調査	252
投票	255
調査結果の表示	255
[自分の作業] ダッシュボードへのアクティブな調査の追加	256
ディスカッションへの参加	256
NLP複雑性分析	256
NLP類似性分析	257
リスク管理のアクティブ化	258
<b>[ホーム] ビューの操作</b>	<b>263</b>
[ホーム] ビューについて	264
ダッシュボード	265
ダッシュボードの使用方法	265
ダッシュボードウィジェットの使用法	267
ダッシュボードの作成	268
ダッシュボードへの標準レポートの追加	269
ダッシュボードへのグラフィカルレポートの追加	270
実行時パラメーターを持つレポートの使用法	270
ダッシュボードへのカレンダーレポートの追加	271
ダッシュボードへのWebサイトの追加	271
ダッシュボードのコピー	272
ダッシュボードの編集	272
ダッシュボードの削除	273
ダッシュボードのエクスポート	273
デフォルトダッシュボード	274
[ボード] タブ	274
ボードの作成	275
ボードの削除	276
[ドキュメント] タブ	276
[要件] タブ	277

[レポート] タブ . . . . .	277
[コレクション] タブ . . . . .	280
[ベースライン] タブ . . . . .	281
[用語集] タブ . . . . .	281

## 第6章

<b>レポートの操作 . . . . .</b>	<b>285</b>
レポートについて . . . . .	286
トレーサビリティレポート . . . . .	287
実行時パラメーターを使用したレポートの実行 . . . . .	287
レポートの作成 . . . . .	289
クラスレポートの作成 . . . . .	289
グラフィカルレポートの作成 . . . . .	290
関係レポートの作成 . . . . .	298
トレーサビリティレポートの作成 . . . . .	300
トレーサビリティ作業ページでの作業 . . . . .	302
レポートの編集 . . . . .	304
レポートの名前の変更 . . . . .	307
レポートの削除 . . . . .	307
レポートのエクスポート . . . . .	307
レポートの異なるカテゴリへのコピーおよび移動 . . . . .	307
レポートのURLのクリップボードへのコピー . . . . .	308
コンプライアンスレポート . . . . .	311
シンプルなコンプライアンスレポートの作成 . . . . .	311
コンプライアンスレポートの展開 . . . . .	316

## 第7章

<b>コレクションとベースラインの操作 . . . . .</b>	<b>319</b>
コレクション内の要件の管理 . . . . .	320
コレクションの新規作成 . . . . .	321
コレクションへの要件の追加 . . . . .	322
コレクションからの要件の除去 . . . . .	323
コレクションの削除 . . . . .	323
コレクションの削除の取り消し . . . . .	324
コレクションの除去 . . . . .	324
コレクションの内容の更新 . . . . .	324
コレクションプロパティの更新 . . . . .	325
ベースラインの管理 . . . . .	325
ベースラインの新規作成 . . . . .	326
コンテナの追加 . . . . .	326
ベースラインの除去 . . . . .	327
ベースラインプロパティの更新 . . . . .	327
親コレクションの操作 . . . . .	327
親コレクションの作成 . . . . .	328
親コレクションへの子の追加 . . . . .	329
親コレクションからの子の除去 . . . . .	329
ベースラインおよびコレクション関連の機能 . . . . .	330
コレクションまたはベースラインの比較 . . . . .	330
コレクションまたはベースラインでのワークフローの使用 . . . . .	330
コレクションまたはベースラインの異なるカテゴリへの移動 . . . . .	331



	コレクションまたはベースラインのURLのクリップボードへのコピー . . . . .	332
	コレクションまたはベースラインのURLの変更 . . . . .	332
<b>第8章</b>	<b>要件のインポート . . . . .</b>	<b>335</b>
	Microsoft Word ドキュメントからの要件のインポート . . . . .	336
	ドキュメントのインポートにはRM BrowserとRM Importのどちらを 使用すべきか . . . . .	336
	ブラウザーインポートの書式設定の要件 . . . . .	337
	インポート対象のWordドキュメント全体の書式設定 . . . . .	338
	Wordファイルのインポート . . . . .	338
	ラウンドトリップドキュメントのインポート . . . . .	342
	XMLファイルからの要件のインポート . . . . .	343
	CSVまたはExcelファイルからの要件のインポート . . . . .	345
	テストステップを含むテストケースのインポート . . . . .	349
	RMからエクスポートされた要件のインポート . . . . .	350
	[インポート結果] ダイアログ . . . . .	351
	ReqIFファイルからの要件のインポート . . . . .	351
	[ReqIFのインポート] ダイアログ - セットアップ . . . . .	353
	[ReqIFのインポート] ダイアログ - マッピング . . . . .	355
<b>第9章</b>	<b>テスト管理 . . . . .</b>	<b>359</b>
	テスト管理の使用 . . . . .	360
	[テスト] ビューの表示 . . . . .	361
	テストケースとテストステップの作成 . . . . .	361
	テストスイートの作成と入力 . . . . .	363
	テストスイートへのケースの割り当て . . . . .	364
	テストスイートの実行 . . . . .	365
	テストスイート全体のベースラインの作成 . . . . .	366
	テスト実行の作成 . . . . .	367
	テスト管理の設定 . . . . .	368
	AI生成のテストケース . . . . .	370
<b>第10章</b>	<b>アジャイル . . . . .</b>	<b>373</b>
	開始する前に . . . . .	374
	アジャイルの基礎 . . . . .	374
	要件管理とアジャイル型アプローチの比較 . . . . .	375
	アジャイルへのアクセス . . . . .	375
	プロダクトについて . . . . .	376
	リリースについて . . . . .	376
	ストーリーについて . . . . .	376
	スプリントについて . . . . .	376
	フィーチャーについて . . . . .	377
	エピックについて . . . . .	377
	タスクについて . . . . .	377
	マッピングされたクラスについて . . . . .	377
	バッジについて . . . . .	377
	キャパシティについて . . . . .	378
	ストーリーマップについて . . . . .	378

ツールチップ	378
表示オプション	379
ダイアログの属性の表示/非表示	380
追加のストーリー属性のカードへの表示	380
アジャイルタブ	380
[概要] タブ	380
[プロダクトバックログ] タブ	381
[ストーリーマップ] タブ	383
[プロダクトストーリーボード] タブ	384
[スプリント計画] タブ	384
[スプリントストーリーボード] タブ	385
[タスクボード] タブ	386
アジャイルの使用	388
アジャイルプロダクトの追加	388
アジャイルプロダクトの編集	388
リリースの使用	390
エピックの使用	391
フィーチャーの使用	391
ストーリーの使用	392
スプリントの使用	393
アジャイルでのチームの使用	394
項目のリンク履歴の表示	395
フィルター	395
並べ替え	396
<b>第11章</b>	
<b>管理</b>	<b>397</b>
管理について	398
ユーザー管理	398
ユーザー情報のエクスポート	399
ユーザーの新規作成	399
既存ユーザーのコピー	400
ユーザーの編集	400
ユーザーのログインの変更	401
ユーザーの削除	401
グループの管理	402
グループの新規作成	402
グループの編集	402
グループのコピー	403
グループの削除	403
グループへのユーザーの割り当て	403
グループからのユーザーの割り当て解除	404
デフォルトのグループ権限の設定	405
チームの管理	409
チームの新規作成	410
チームの編集	410
既存チームのコピー	410
チームの削除	411
ユーザーのチームへの割り当て	411

ユーザーのチームからの割り当て解除	411
カテゴリの管理	411
カテゴリの命名規則	413
カテゴリの追加	413
カテゴリの削除	413
カテゴリ名の変更	414
カテゴリアイコンの追加	414
カテゴリのアクティブ化または非アクティブ化	415
カテゴリの移動	416
カテゴリ割り当ての管理	416
カテゴリの内容のコピー	418
カテゴリ間での要件の移動	419
ドキュメントのロックの管理	420
要件のロックの管理	420
通知の管理	421
通知ルール	421
属性定義	423
属性タイプ	424
属性プロパティ	425
属性の非表示	426
属性の削除	427
英数字属性	427
日付属性	428
添付ファイル属性	429
グループ属性	430
リスト属性	432
ルックアップ属性	437
数値属性	439
テキスト属性	440
URL属性	441
ユーザー属性	441
PUID属性	443
リスト属性値の管理	444
リストの値の追加	444
リストの値の削除	445
リストの値の順序付け	445
既存データのリスト値の変更	446
カテゴリリスト属性値	447
カテゴリのデフォルトリスト値	447
カテゴリのデフォルトユーザー値	447
算出属性の設定	448
算出属性の作成	449
算出属性の編集	449
算出属性の削除	449
式について	450
Web フォームの定義	452
アジャイルの設定	454
プロダクト	455

リリース	455
スプリント	455
エピック	456
フィーチャー	456
ストーリー	456
アジャイルマッピングのクリア	457
RMスキーマの概要	457
インスタンススキーマエディターにない機能	460
スキーマクラスの作成	462
クラスの定義	463
関係の定義	470
ProductクラスとProjectクラスの作成	476
コメントのサポート	478
ワークフローの編集	479
ワークフローの作成または編集	480
ワークフロー状態	481
ワークフローの遷移	483
ワークフローの削除	491
ワークフローでのコンテナの使用	491
管理ツール	492
Tomcat証明書の更新	492
SSO証明書の更新	494
RMサービスの管理	495
RMプロセスログ	495
ログファイルへのアクセス	496
管理監査へのアクセス	496
スキーマに関する命名規則	497
インスタンスの命名規則	497
クラスの命名規則	498
属性の表示名の命名規則	498
属性名の命名規則	498
関係の命名規則	499
ワークフロー状態の命名規則	499
ワークフロー遷移の命名規則	499
Dimensions RMの予約語	499
<b>第12章 スクリプトの構文</b>	<b>507</b>
概要	508
SELECTステートメント	508
DTPtag	509
DTP_TEXT表示項目	509
RTM_KEYWORD表示項目	510
WHERE句	510
ORDER BY句	518
CALCULATEステートメント	520
XREFステートメント	521
PLUSステートメント	523
COMMENTステートメント	523

クエリプロンプトへのリッチフォーマットテキストの追加 . . . . . 524

**用語集 . . . . . 527**

**索引 . . . . . 537**



# はじめに

---

このドキュメントでは、Dimensions RM (開発チームによるプロダクトライフサイクルを通じた要件のキャプチャー、エンジニアリング、管理を可能にする、包括的な要件管理パッケージ) 用のRM Browserクライアントの使用方法について説明します。

## 目的

このドキュメントは、Dimension RMのインストール後に本製品を使用する方法について説明することを目的とします。

## 対象ユーザー

このドキュメントは、プロダクトライフサイクル中にDimensions RMを使用して要件の作成、管理、追跡を行う、プロダクト開発チームのメンバーを対象としています。

## テクニカルサポートへの問い合わせ

Open Textは、最初の30日間限定のインストールサポートを含めたテクニカルサポートを、本製品のすべての登録ユーザーに提供します。この期間の終了後にサポートが必要になった場合は、Open Text Supportの以下のURLにアクセスし、指示に従ってください。

<http://supportline.microfocus.com>

現地営業時間内であれば、特定の言語によるテクニカルサポートを利用できます。それ以外の時間帯では、テクニカルサポートは英語で提供されます。

Open Text SupportのWebページは、以下にも使用することができます。

- 問題の報告や質問
- 最新のテクニカルサポート情報 (Web、自動電子メール通知、ニュースグループ、および地域ユーザーグループを介して当社顧客によって共有されている情報を含む) の入手
- ナレッジベース (ハウツー情報を含み、テクニカル掲示板のキーワード検索が可能) へのアクセス
- Open Text製品の修正リリースのダウンロード

---

## サードパーティソフトウェアのライセンスおよび著作権情報

このリリースに含まれるサードパーティソフトウェアのライセンスおよび著作権情報については、ファイルThird\_Party\_Licenses.txtを確認してください。このファイルは、Dimensions RM インストールディレクトリ (例: C:\Program Files\Open Text\Dimensions 24.4\RM) にあります。



# 第1章

---

## RM Browserの基礎

機能の概要	18
一般的な用語	18
サンプルインスタンス	22
RM Browserインターフェイスのメインページ	24
RM Browserの一般的なナビゲーションとコントロール	25
編集可能なグリッド、グリッド、およびフォームビュー	35
検索、フィルタリング、書式設定の基本	40
Dimensions RMへのアクセス	65
別のRMインスタンスへの切り替え	68
パスワードの変更	68
ヘルプの表示	69
ユーザー通知	69
用語集	70
グラフィエディター	70
コメントの操作	73
フルインターフェイスでの表示	77
バージョンおよびシステム情報の表示	77
RM Browserでのスペルチェックの使用	77

## 機能の概要

要件は、プロダクトの開発目標を満たしているかどうかを確認する際に役立ちます。Dimensions RMには、そのための機能が用意されています。

Dimensions RMでは、次の処理が可能です。

- Word文書やスプレッドシートで関係者から収集した要件のインポート
- ローカルの命名規則による要件情報の管理
- 要件の作成、更新、置換、廃止
- 履歴管理下にある要件のレビューと改訂
- 要件間のリンクの作成および移動
- 変更の影響評価
- 「要検討」と考えられるリンクの表示とクリア
- エンドツーエンドのトレーサビリティの文書化
- 要件の優先度設定
- ディスカッションスレッドの追跡
- ステータスと承認の両方を追跡する包括的なワークフロープロセスのサポート
- ダッシュボードとグラフィカルレポートの作成を目的とした、レポートウィザードによるステータスの通知
- 階層形式のドキュメント構造を使用した、要件とチャプターの表示、作成、変更
- 要件リリースのベースライン作成
- 親/子ドキュメントやリリースの分岐によるバリエーションのサポート
- バリエーションで行われた変更内容のレビューとマージ
- Microsoft Word、Excel、PDF、またはReqIFへのドキュメントのエクスポート
- レビューや再提出のために提出するラウンドトリップドキュメントの公開
- テスト管理を利用した、システム要件の検証
- 要件またはドキュメントの履歴の表示
- 電子メールまたはターゲットブラウザーアラートを介した通知機能の提供
- 内部に保存されている要件と同様に、変更可能なスキーマ定義。

## 一般的な用語

以下のセクションで、重要な用語について説明します。これらの用語の詳細と他のRM関連用語については、「用語集」(527ページ)を参照してください。

要件

Dimensions RMは要件管理ソリューションです。顧客要件、ソフトウェア要件、デザインステートメント、テストケース、または不具合など、組織はRMを使用して、各タイプに関連するデータを保存するクラスと、それらを結び付ける関係を定義します。このドキュメントでは、RM内に保存されているオブジェクトを要件と呼ぶことがよくあります。これは、各オブジェクトが要件管理プロセスにおけるニーズを表しているためです。

## 属性

属性は、RMクラスを使用して管理されるさまざまなオブジェクトタイプに関連付けられた各特性を管理するために使用されるプロパティです。属性は、テキスト、リスト、または利用可能な形式のいずれかで保存されます（「[検索、フィルタリング、書式設定の基本](#)」(40ページ)と「[属性タイプ](#)」(32ページ)を参照)。

## コレクション

1つ以上のタイプ(クラス)から収集された、ラベル付きの関連オブジェクトセット。コレクションは、要件を整理するための手段として、統合や標準レポートに使用したり、グラフィカルレポートの作成、リリースの追跡、またはユーザーが現在作業中の項目を追跡するために使用したりできます。「[コレクション内の要件の管理](#)」(320ページ)を参照してください。

## 親コレクション

親コレクションは、1つ以上のコンテナ(コレクション、ベースライン、ドキュメント、スナップショット)から作成および入力される、ラベル付きのオブジェクトセットです。親コレクションには、その旨がわかるように「(親)」という語が追加され、構成要素であるコンテナへの変更が反映されます。「[親コレクションの操作](#)」(327ページ)を参照してください。

## ベースライン

ベースラインとは、凍結状態にあるラベル付きの要件セットです。コレクション、またはドキュメントの内容からベースラインを作成すると、オブジェクトバージョンと、オブジェクトバージョン間で共有されているリンクはそのまま保持されます。ベースラインは比較やレポート作成に常に利用できます。「[ベースラインの管理](#)」(325ページ)を参照してください。

## ドキュメント

ドキュメントでは、要件や構造をインポートできるとともに、要件をチャプターおよびサブチャプターに整理して説明を自由形式のテキストで追加できます。ドキュメントを使用すると、バージョン管理システムやソフトウェアの要件仕様をレポートとして作成し、公開できます。詳細については、「[ドキュメントについて](#)」(108ページ)を参照してください。

## 親ドキュメント

共通の構造やコンテンツを管理する目的で作成されたドキュメントは、親ドキュメントとして作成することができ、その構造やコンテンツは、親に基づいて作成された各子ドキュメントに継承されます。詳細については、「[ドキュメントについて](#)」(108ページ)を参照してください。

## スナップショット

スナップショットは、ドキュメントの凍結バージョンです。ドキュメントのスナップショットは通常、配布する前に作成されます。比較機能では、スナップショット間の変更箇所の詳細を記載したカバーシートを含めることができるため、レビュー担当者は変更箇所に集中することができます。「[ドキュメントのスナップショット](#)」(160ページ)を参照してください。

## コンテナ

コンテナとは、さまざまなラベル付き要件セット ([コレクション](#)、[ベースライン](#)、[ドキュメント](#)、[スナップショット](#)) を表す用語です。コンテナは要件タイプによって制限されず、インスタンス全体で使用できます。

## レポート

レポートへの入力、ニーズに応じてフィルタリングされたオブジェクトのリストで構成されています。出力の形式は、詳細なリスト、要求からテストまでの要件のトレーサビリティ、グラフィカルに表示される進行状況レポート、複雑なトレンドレポートなど、多岐にわたります。Dimensions RMのレポートウィザードは、ユーザーがステータスの追跡、把握、通知を行えるように開発されています。詳細については、「[レポートの操作](#)」(285ページ)を参照してください。

SQLに似たスクリプト言語を使用してデータベース情報に対するクエリを実行することもできます。詳細については、「[スクリプトの構文](#)」(507ページ)を参照してください。

## カテゴリ

カテゴリは、各Dimensions RMインスタンス内の階層構造で表され、サブカテゴリもサポートされます。カテゴリの機能はファイルシステムのフォルダーに似ており、コンポーネントや機能領域別の要件の管理とアクセスを支援します。グループの権限も、カテゴリを通じて割り当てます。

「お気に入り」のカテゴリを指定することで、各ユーザーはデフォルトカテゴリを設定して簡単にアクセスすることができます。カテゴリの詳細については、「[カテゴリの管理](#)」(411ページ)を参照してください。



**注意!** 一般に、アクセス権限はカテゴリを使用して割り当てます。そのため、ユーザーグループによっては、選択されたカテゴリに含まれる要件を変更できない場合や、表示できない場合があります。コンテナに含まれている要件が一定範囲のカテゴリに限定されている場合、ユーザーはアクセス権限を持つカテゴリの要件のみを確認できます。

## [属性の編集] ダイアログ

要件、テストケース、用語集、情報オブジェクトなど、RMで管理されている各オブジェクトは、[アクション] ペインの [開く] アクションを使用して、選択して開くことができます ([「要件の編集」](#)(194ページ)を参照)。

RMオブジェクトは、デフォルトでは属性グループごとにセグメント化されたフォームで開かれます。代表的なセクションには次のようなものがあります。

- 状態の履歴 - ワークフローを使用している場合、遷移履歴とカテゴリが表示されます。
- 標準 - タイトル、説明、要件ID、現在のワークフロー状態が表示されます。
- カスタム属性またはユーザー属性 - 優先度、ターゲットリリース、推定作業量、デザインステータス、レビュー担当者など、クラスに関連すると組織が判断したプロパティ。
- システム属性 - RM内で定義、管理される暗黙の属性。要件の作成者や変更者、追加または変更された要件、その時刻などを管理します。
- 残りのセグメントには、添付ファイル、コメント、リンク、履歴、コンテナがあります。これらのセグメントには、データが入力されるとその数が表示されます。

各セグメント名は、フォームの上部に一覧表示され、簡単に選択して展開できます。

インスタンス管理者が定義するフォームヘッダーには、クラス名、要件ID、タイトルを含めることができます。以下のヘッダーは、要件ID (BR\_0099) とタイトルを示しています。ロックは、表示されているバージョンが、プロセスルールやベースライン化を通じて変更できないことを示します。

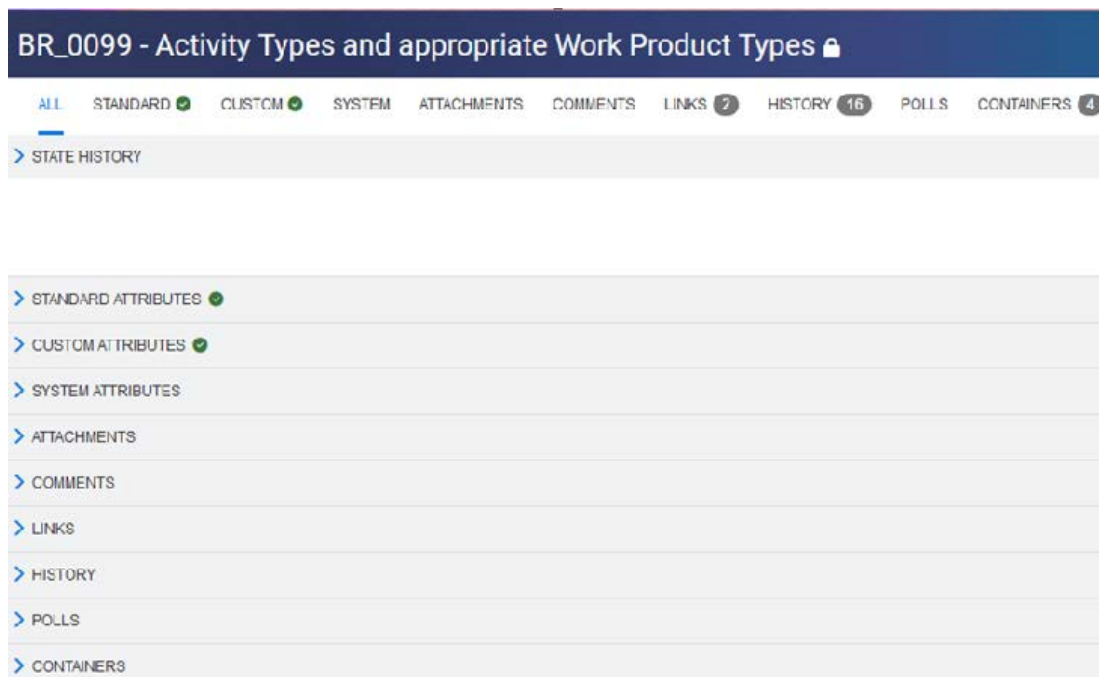


図 1-1. 開いているビジネス要件フォームのサンプル

### システム属性

システム属性または暗黙属性は、Dimensions RMIによって定義および管理される属性です。たとえば、システム属性は、[属性の編集] ダイアログの [システム属性] セクションに表示されます。

RM内で管理されるシステム属性の例を次に示します。

表示名	内部名	説明
作成者	CREATED_BY	そのバージョンの要件を作成したユーザー名を示します。
現在のステータス	STATUS	要件のステータス (最新、置換済み、提案済みなど) を示します。
最初の作成者	INITIAL_CREATED_BY	最初のバージョンの要件を作成したユーザー名を示します。
最初の作成日時	INITIAL_TIME_CREATED	最初のバージョンの要件が作成された日時を示します。
変更者	MODIFIED_BY	現在のバージョンの要件を更新または置換したユーザー名を示します。

表示名	内部名	説明
通知	RTM_NOTIFICATION	電子メール通知またはブラウザ通知の設定ステータスを示します。 可能な値： <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Yes:</b> 有効</li> <li>■ <b>No:</b> 無効</li> </ul> 値が指定されていない場合、通知は設定されていません。
オブジェクトID	OBJECT_ID	要件のIDを示します。
オブジェクトバージョンID	OBJECT_VERSION_ID	要件のバージョン数を示します。「保存」操作を行うたびに、このIDが大きくなります。
要件リンク	REQUIREMENT_LINK	要件に直接アクセスできるリンク。
要検討	SUSPECT	要件が要検討かどうかを示します。詳細については、「 <a href="#">要検討リンク</a> 」(219ページ)を参照してください。
作成日時	TIME_CREATED	現在のバージョンの要件が作成された日時を示します。
変更日時	TIME_MODIFIED	要件が更新または置換された日時を示します。
<場合によって異なる>	PUID	PUIDは永続的な一意のIDです。通常は、MRKT_ (「マーケティング要件」の場合) のようなプレフィックスが付きます。

## サンプルインスタンス

Dimensions RMの各ディストリビューションには、4つのサンプルインスタンスが含まれています。各サンプルには固有の機能セットがあり、Dimensions RMの機能の習得に役立てることができます。また、上級者は、サポート部門が再現できるインスタンスを使用して疑問点や問題点を提出する際、これらのサンプルを使用できます。

さらに、Dimensions RMのシステム管理者は、ユーザーコミュニティによるインストールとアクセスのためにこれらのサンプルを使用できます。ただし、本番用インスタンスを作成する際の土台には決して使用しないでください。

インスタンスサンプルは次のとおりです。

**QLARIUS\_RM** - 簡単なプロセスを使用して、架空の保険会社の要件を管理します。


**RMDEMO** - 架空の写真共有アプリケーションを使用します。このサンプルは、基本的なプロセスを拡張するために、Engineering Change Proposal (ECP) で開始されたプロセスと、Product\_Requirementsクラスに含まれるワークフローを追加しています。RMDEMOは、プロダクト分岐機能も紹介します。

**ALM\_DEMO** - ePhotoを使用して、ワークフロープロセスの使用方法和テストケースの使用方法を示します。

**AGILE\_RMDEMO** - 上記と同じ写真共有アプリケーションを使用して、Agile Dimensions RMの豊富な機能を追加します。

## RM Browserインターフェイスのメインページ

RM Browserには、一連のメニュー（ドロップダウンリスト）にアクセスするためのメニューバーと、ページやビューを変更するためのボタンが表示されます。以下では、主要な設定について説明します。

**ホーム:** これは、通常、[ホーム] ビューと呼ばれ、カテゴリの選択や設定、ダッシュボードの定義や表示、またはドキュメント、要件、レポート、コレクション、ベースラインの表示やレビューを行うためのブラウザーページです。アクセスされたオブジェクトタイプに応じて、[アクション] ペインで関連する操作を選択できます。[ホーム] ビューを表示するには、 をクリックします。

**カテゴリ:** [ホーム] ビューで選択した1つまたは複数のカテゴリによって、RMのビューやフィルターで選択/表示対象になるオブジェクトが制限されます。

[ホーム] ビューのタブには、[ダッシュボード]、[ドキュメント]、[要件]、[レポート]、[コレクション]、[ベースライン]、[ボード]、[用語集] があります。表示されるタブは、インスタンスとユーザーの両方の選択によって決まります。選択したタブに表示されるオブジェクトは、カテゴリの選択によって決まります。オブジェクトの作成、変更、表示については、このドキュメントで詳細に説明します。

**ダッシュボード:** ユーザー、チーム、またはプロジェクトのステータスを表示することを意図して選択された一連のレポートです。

**ドキュメント:** [ドキュメント] タブには、使用可能なドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントを選択して開くと、目次、チャプター、およびサブチャプターを含むドキュメント形式で要件が表示されます。開いているドキュメントで、ユーザーはチャプターと要件の追加、削除、移動、および編集を行うことができます。ドキュメントビューの左側のペインには、目次を表すナビゲーションツリーが表示されます。中央のペインは詳細ペインで、ユーザーの選択内容に基づいた情報が表示されます。右側のペインは [アクション] ペインで、関連する機能が表示されます。

**要件:** [要件] タブは、ホームページでクイック検索を利用できるようにします。分布グラフが表示されるほか、標準のフィルターを利用できます。

**レポート:** クラス、関係、トレーサビリティの各タイプの公開レポートとユーザーレポートが表示されます。個別のレポートを選択して実行し、編集可能なグリッド、グリッド、またはフォームビューで結果を表示できます。

**コレクション:** 選択可能なコレクションのリストが表示されます。このタブを選択すると、編集可能なグリッド、グリッド、またはフォームビューでリストを表示できます。

**ベースライン:** 選択可能なベースラインのリストが表示されます。このタブを選択すると、編集可能なグリッド、グリッド、またはフォームビューでリストを表示できます。

**ボード:** カンバンレポートとして利用可能なリストが表示されます。

**リスク:** 製品の成果に影響を及ぼす可能性のある、特定されたリスクを評価するオプションのレポート。

**用語集:** Glossaryクラスに含まれるオブジェクトのリストが表示されます。

[ドキュメント]、[コレクション]、[ベースライン]、[レポート]、[ボード] タブには、リストされている各オブジェクトについて次の情報が表示されます。

**名前:** ドキュメント、スナップショット、コレクション、またはベースラインの名前。

**作成日時:** ドキュメント、コレクション、またはベースラインが作成された日時。

**変更日時:** ドキュメント、コレクション、またはベースラインの最も新しい変更の日時。



**変更者:** ドキュメント、コレクション、またはベースラインの最も新しい変更を行った人の名前またはユーザー名。

**所有者:** ドキュメント、コレクション、またはベースラインを作成した人、またはワークフロー内でそれらを割り当てられた人の名前またはユーザー名。

**状態:** ドキュメント、コレクション、またはベースラインのワークフロー状態 (定義されている場合)。

**ビュー:** メインページの [ビュー] の下には、要件の一覧表示、並べ替え、フィルター、レビュー、変更を実行できる部分があります。

**クイック検索:** [ビュー] タブの下にあり、コンテナーに関係なくすべての要件が一覧表示されます。

**分割ビュー:** 選択した関係の両側の要件が一覧表示され、ドラッグアンドドロップでリンクを作成できます。

**ドキュメント分割ビュー:** 選択した2つのドキュメントのオブジェクトが一覧表示され、ドラッグアンドドロップによるリンクの作成や、リンクの選択による削除や除去が可能です。

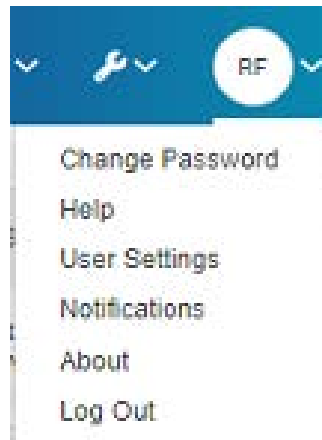
分岐が使用されている場合は、[ビュー] メニューから**分岐ビュー**および**同期ビュー**用の選択項目も利用できます。

## RM Browserの一般的なナビゲーションとコントロール

RM Browserインターフェイスの主要なナビゲーション要素およびコントロール要素の概要については、次のサブセクションを参照してください。

- 「[ようこそ] メニュー」 (26 ページ)
- 「メニューバー」 (26 ページ)
- 「RM インスタンス階層リンク」 (27 ページ)
- 「[カテゴリ] ペイン」 (28 ページ)
- 「お気に入り」 (31 ページ)
- 「[アクション] ペイン」 (31 ページ)
- 「お気に入り」 (31 ページ)
- 「属性タイプ」 (32 ページ)

## [ようこそ]メニュー



メニューバーの右上にある自分のイニシャルをクリックすると、次の項目にアクセスできます。

- **パスワードの変更:** [パスワードの変更] ページが開きます。「[パスワードの変更](#)」(68ページ)を参照してください。
- **ヘルプ:** RM Browserのヘルプが開きます。「[ヘルプの表示](#)」(69ページ)を参照してください。
- **ユーザー設定:** [ユーザー設定] ダイアログが開きます。このダイアログでは、**クイック検索**の結果に表示する属性などのインスタンス設定をオーバーライドできます。「[RM Browserの基礎](#)」(17ページ)を参照してください。
- **通知:** [通知] ダイアログが開きます。このダイアログでは、電子メール通知やブラウザ通知を有効または無効にできます。「[ユーザー通知](#)」(69ページ)を参照してください。このダイアログには、フォロー中のオブジェクトも表示されます。
- **バージョン情報:** [**Dimensions RMのバージョン情報**] ダイアログが開きます。Dimensions RMのバージョンやサーバーのオペレーティングシステムなどの情報が表示されます。サポートケースを送信するときに、この表示の情報を含めると、質問や問題の解決を早めることができます。「[バージョンおよびシステム情報の表示](#)」(77ページ)を参照してください。
- **ログアウト:** RM Browserセッションが終了し、[ログイン] ページが表示されます。「[ログアウト](#)」(67ページ)を参照してください。





## メニューバー



メニューバーは、RM Browserのすべてのページの上部に表示されます。ここには、以下のメニューとボタンが表示されます。

- **ホーム:** [ホーム] ビューが開きます。[ホーム] ビューの詳細については、「[\[ホーム\] ビューの操作](#)」(263ページ)を参照してください。
- **新規:** このメニューを使用すると、要件、レポート、ドキュメント、コレクション、およびベースラインなどの新規項目の作成に使用するダイアログが開きます。
- **ビュー:** このメニューを使用すると、要件の収集、編集、エクスポートを行うための**クイック検索**、および**分割ビュー**と**ドキュメント分割ビュー**にアクセスできます。詳細については、「[ク](#)


[イック検索による要件の検索](#)(174 ページ)と「[分割ビューによる既存の要件のリンク](#)」(213 ページ)を参照してください。

- **アジャイル (オプション):** このボタンは、アジャイル機能が有効になっている場合にのみ使用でき、クリックすると [アジャイル] ビューが開きます。アジャイルの詳細については、「[アジャイルの基礎](#)」(374 ページ)を参照してください。
- **テスト (オプション):** このボタンは、管理者がテスト機能を有効にしている場合にのみ使用でき、クリックするとテスト管理のビューが開きます。
- ** グローバル検索:** このアイコンをクリックすると、入力した用語をインスタンス内で検索するためのダイアログが開きます。グローバル検索では、要件や、任意のコンテナーまたはレポートのタイトルを検索でき、フィルターも適用できます。「[グローバル検索](#)」(180 ページ)を参照してください。
- ** 通知フラグ:** このアイコンは、ブラウザー通知が有効になっている場合に表示されます。これは、閲覧可能な通知の数を示します (「[ユーザー通知](#)」(69 ページ)を参照)。
- ** インポート:** このメニューを使用すると、CSV、Microsoft Word、XMLファイルなどの外部コンテンツをRM要件にインポートするためのダイアログが開きます。「[要件のインポート](#)」(335 ページ)を参照してください。
- ** 管理:** 管理機能のダイアログが開き、カテゴリとスキーマ定義の管理と構成、およびRM Browserの動作 (ローカルユーザー設定でオーバーライドされている場合を除き、すべてのユーザーに表示される動作) のデフォルト設定や上位レベル設定の構成を行うことができます。「[管理について](#)」(398 ページ)を参照してください。
- [ようこそ] メニュー: 小さな円の中にユーザーのイニシャルが表示され、定期的に使用するアクションにアクセスすることもできます (「[\[ようこそ\] メニュー](#)」(26 ページ)を参照)。

## RM インスタンス階層リンク

RM インスタンス階層リンクは、RM Browserのすべてのページの左上にあるメニューバーのすぐ下に表示されます。

標準階層リンク:

RMDEMO ▾ ➤  RMDEMO\Quality\Safety

**データベース名:** 左側の要素には、RM インスタンス名が表示されます。下矢印をクリックすると、RM インスタンスのリストが開きます。別のRM インスタンスを選択すると、そのインスタンスに切り替わります。詳細については、「[別のRM インスタンスへの切り替え](#)」(68 ページ)を参照してください。

各インスタンスはデータベース内で管理されており、現在のRM インスタンスのデータベース名を表示するには、インスタンス名の上にマウスポインターを合わせます。ツールチップに、データベース名とインスタンス名が表示されます。

**カテゴリパス:** フォルダーアイコンの右側の要素には、カテゴリのフルパスが表示されます。RM カテゴリはファイルシステム上のフォルダーのようなもので、チームは定義された構造内ですべてのRM オブジェクトを管理できます。

この例に表示されているパスは、ルートカテゴリ (インスタンス名)、オブジェクトを管理するフォルダー (Quality)、およびそのフォルダー内の安全性に特化したオブジェクト (Safety) を示します。

**データベース名:** 標準階層リンクの一部として、データベースの名前が含まれる場合があります。データベース名は、インスタンス名の左側に表示されます。これはインスタンスの設定であり、通常、ユーザーが複数のデータベースを使用している場合にのみ適用されます。

開かれたコンテナまたはレポートのために展開される階層リンク:

RMDEMO ▾ > > RMDEMO\Quality\Safety ▾ > TDR Quality Review ▾

ユーザーがコンテナ（ドキュメント、スナップショット、コレクション、ベースライン）またはレポートを開くと、その名前が表示されるように階層リンクが展開されます。上の画像では、RMDEMO\Quality\SafetyからTDR品質レビューのドキュメントが開かれています。

標準階層リンクと同様の表示:

**RM インスタンス名:** 例: RMDEMO

**カテゴリパス:** RMDEMO\Quality\Safety

**開いているコンテナまたはレポート:** この例では、開いている項目の名前、つまり「TDR品質レビュー」です。

▼各要素の後のキャレットまたは下矢印を使用すると、要素タイプ内で展開と選択を行うことができます。

開いているコンテナまたはレポートを閉じるには、次の操作を実行します。

✕ ヘッダー行の右端にある [x] アイコンをクリックすると、開いている要素が閉じます。

## [カテゴリ] ペイン

[ホーム] ビューの左側には [カテゴリ] ペインがあります。このペインで、インスタンスのカテゴリとサブカテゴリの構造全体を展開できるため、どの作業場所にも簡単にアクセスできます。

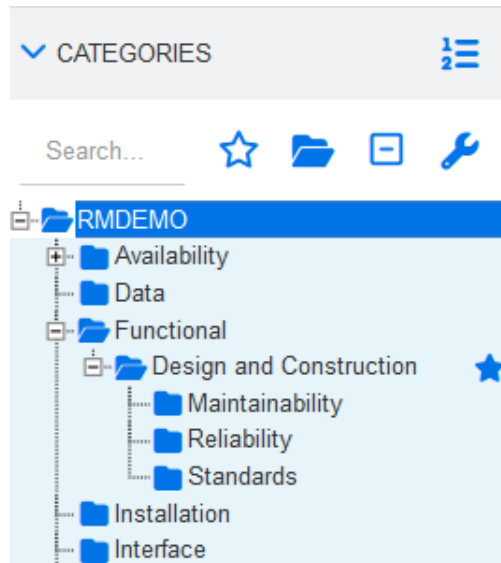




図 1-2. カテゴリビュー、青い星はお気に入り

[カテゴリ] ペインから階層にアクセスすることも可能です。ユーザーは、[ユーザー設定] でデフォルトビューを [階層] または [カテゴリ] のいずれかに設定できます（「ホームの設定」(84ページ)を参照）。


カテゴリヘッダー：

 **階層ビューに切り替え**：このボタンは、カテゴリの要件をツリービューで表示します。サブカテゴリから階層ビューに切り替えると、表示されるツリーの最上位はそのサブカテゴリになります。

 **カテゴリビューに切り替え**：階層ビューでこのボタンをクリックすると、カテゴリビューに切り替わります。


検索行のカテゴリビュー：

**検索**：検索文字列に一致するオブジェクトのみを、カテゴリビューと階層ビューのどちらかに表示します。動的な検索であるため、文字を入力するたびに、検索結果が絞り込まれます。一致候補が太字で表示されます。全カテゴリツリーの表示に戻すには、[検索] フィールドの文字列を削除するか、[検索] フィールドの [X] ボタンをクリックします。



 **お気に入りカテゴリの表示**：このボタンをクリックすると、標準ビューと、お気に入りとしてマークされたカテゴリのみを表示するビューが切り替わります。


1つ以上のカテゴリをお気に入りとしてマークしておくと、大規模なプロジェクトの限られた領域で作業する場合に便利です。お気に入りとしてマークするには、カテゴリにマウスポインターを合わせて、右側の星をクリックします。

[お気に入りカテゴリの表示] の星をクリックすると、お気に入りのみが表示されます。

 **サブカテゴリを含める**：この切り替えがオープンになっている場合は、選択されたカテゴリの下のサブカテゴリが含まれることを示します。クローズになっている場合、選択されたカテゴリのみが含まれます。

つまり、ルートカテゴリ（この例ではRMDemo）が選択され、このフォルダーがクローズになっている場合、たとえば [ホーム] ビューで [要件] タブを選択すると、ルートカテゴリにある要件のみが一覧表示されます。

 **すべてのサブカテゴリを折りたたむ**：このボタンをクリックすると、選択したカテゴリの下にある展開されているすべての分岐が折りたたまれます。サブカテゴリを含むカテゴリは、 アイコンをクリックすると展開されます。

 **レンチ/スパナー**：インスタンス管理者の場合のみ、この行の末尾にレンチアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、カテゴリを管理するためのダイアログが開きます。詳細については、「[カテゴリの管理](#)」(411 ページ) を参照してください。

ドキュメント、スナップショット、コレクション、またはベースラインのカテゴリを変更するには、次の手順を実行します。

[ホーム] ビューの関連タブからオブジェクトを選択し、ツリー内のターゲットカテゴリにドラッグします。移動に成功すると、緑色のチェックが表示されます。

オブジェクトを別のカテゴリに移動できない場合、ターゲットカテゴリに対する権限がない可能性があります。また、プロセスの考慮事項が原因で移動に失敗した可能性もあります。

## 検索行の階層ビュー:

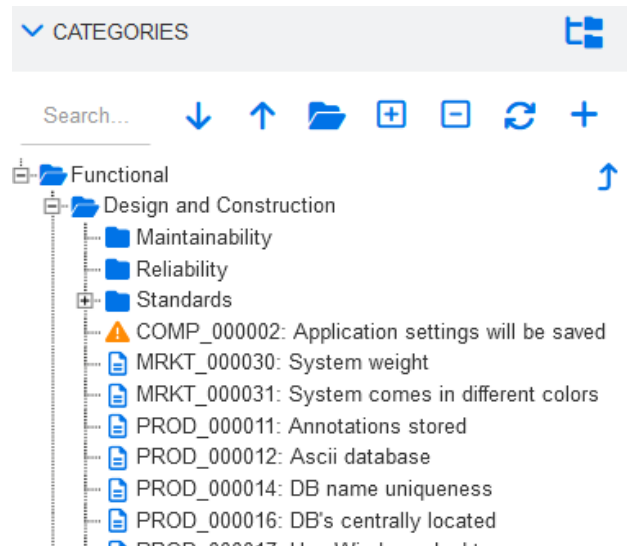


図 1-3. 階層ビュー、カテゴリとコンテンツを一覧表示

- 🔍 **検索:** 階層ビューで検索するには、検索文字列を入力し、Return キーを押すか検索ボタンをクリックして、一致するオブジェクトを探します。一致したオブジェクトは太字で表示されます。カテゴリ、ヘッダー、または要件の親オブジェクトに一致した場合、子オブジェクトが一覧表示されます。

完全な階層に戻るには、検索フィールドの [X] ボタンをクリックするか、検索文字列を削除します。

- ⬇️ **下に移動:** 階層ビューでリスト内のオブジェクトを下に移動するには、このボタンをクリックします。
- ⬆️ **上に移動:** 階層ビューでリスト内のオブジェクトを上移動するには、このボタンをクリックします。

<階層的な親>という特別な属性は、階層内のオブジェクトの親に対する相対的な位置を保持します。オブジェクトが移動されると、新しいバージョンが作成されます。「要件の履歴の表示」(232ページ)を参照してください。<階層的な親>は、すべての属性と同様に、リスト、レポート、ドキュメントに含めることができます。

- 📁 **サブカテゴリを含める:** この切り替えがオープンになっている場合は、選択されたカテゴリの下のサブカテゴリが含まれることを示します。クローズになっている場合、選択されたカテゴリのみが考慮されます。

つまり、機能カテゴリ(図 1-3を参照)が選択され、このフォルダーがクローズになっている場合、[ホーム]ビューで[ドキュメント]タブを選択すると、機能カテゴリに含まれるドキュメントのみが一覧表示されます。

- 📄 **すべてのサブカテゴリを折りたたむ:** このボタンをクリックすると、選択したカテゴリの下にある展開されているすべての分岐が折りたたまれます。サブカテゴリを含むカテゴリは、⊕ アイコンをクリックすると展開されます。
- 🔄 **更新:** 階層ビューで要件のリストを再ロードします。
- + **新規:** このボタンは階層ビューでのみ使用でき、以下の機能のショートカットメニューを開きます。
  - 新規の子:** 選択したカテゴリまたは要件に新規の子を追加します。新規の子は、選択した親の最後の項目として追加されます。

- **上に新規作成:** 選択した要件と同じクラスで新しい要件を作成するための編集フォームを開きます。要件は、選択した要件の上に表示されます。
- **下に新規作成:** 選択した要件と同じクラスで新しい要件を作成するための編集フォームを開きます。要件は、選択した要件の下に表示されます。
- **新規カテゴリ:** 新しいカテゴリを作成するためのダイアログを開きます。この機能は管理者のみが利用可能です。
- **↑ 上に移動:** 階層の中から、表示されるツリーを拡張します。

## お気に入り

お気に入りを使用すると、カテゴリや頻繁に使用する項目（ドキュメント、レポート、コレクションなど）に簡単にアクセスできます。項目に星印を付けることで、それぞれお気に入りに指定できます。[カテゴリ] ペインの上部にある ☆ に入力すると、[ホーム] ビューにお気に入りだけが表示されます。

項目をお気に入りに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 追加する項目上にマウスポインターを移動します。
- 2 ☆ をクリックします。

項目をお気に入りから削除するには、次の手順を実行します。

- 1 削除するお気に入りの項目上にマウスポインターを移動します。
- 2 ☆ をクリックします。

## 最近使用した項目

カテゴリ/階層ツリーの下には [最近使用した項目] リストがあります。[最近] リストには、ドキュメント、スナップショット、要件、レポート、コレクション、ベースラインを含めることができます。このリストを使用すると、最近開いたオブジェクトを簡単に再選択できます。

[最近] リストの項目を定義するには、次の手順を実行します。

- 1 [最近] リストのタイトルにマウスポインターを合わせると、タイトルバーに歯車が表示されます。
- 2 歯車をクリックして、[設定] メニューを開きます。
- 3 [最近] リストに一覧表示する項目の左側にあるボックスをオンにします。
- 4 [OK] をクリックします。

[ホーム] ビューから設定を変更すると、[ユーザー設定] ダイアログで選択した設定がオーバーライドされることに注意してください（「最近使用した項目」(85ページ) を参照）。

## [アクション] ペイン

[アクション] ペインは、RM Browserのすべてのページの右側に表示されます。ここには、現在のコンテキストで使用可能なアクションが表示されます。

これらのアクションは、展開/折りたたみ可能な複数のセクションに分かれて表示され、各セクションの見出しにある鉛筆アイコンを選択することで、さらに変更することができます（「[\[アクション\] ペインのデフォルトの設定](#)」(105ページ)を参照)。




アクションがグレー表示になる場合は、そのアクションを実行する権限を持っていないか、そのアクションが選択された要件に対応していないかのどちらかです。

利用可能なアクションは、ユーザー権限、選択されたオブジェクト、コンテキストによって異なります。たとえば、ワークフローが定義されていないクラスのオブジェクトを強調表示すると、[遷移の実行]はグレー表示されます。[ホーム]ビューでは、表示されるアクションは選択したタブやオブジェクトによって異なります。






右側のペインに表示されているアクションに加えて、開いている要件の右上にある[アクション]メニューから、要件に関連する追加のアクションを利用できます。「[\[アクション\] ボックスを使用した属性の編集](#)」(182ページ)を参照してください。





## 属性タイプ





Dimensions RMでは、ユーザーはさまざまな属性タイプで表されるデータを入力できます。以下の表に、これらの属性タイプと属性タイプにアクセスするためのコントロールを示します。

属性タイプ	説明
英数字	最大1000文字の単一行のテキスト。
算出	式で指定された属性が変更されたときに算出される読み取り専用の数値属性です。
日付	日付または日時のどちらかを選択できます。日付の形式は管理者が設定します。
添付ファイル	<p>添付ファイル属性には、単一のファイルを保持することも、複数のファイルを保持することもできます。</p> <p>添付ファイルの追加、表示、置き換え、または削除を行うには、対応するリンクをクリックします。</p> <p>添付ファイルを追加するには、 をクリックします。</p> <p>添付ファイルを削除するには、 をクリックします。</p> <p>添付ファイルを置き換えるには、 をクリックします。</p> <p>添付ファイルを表示するには、ファイル名をクリックします。</p> <p>デフォルトでは、添付ファイル属性は、要件の[添付ファイル]セクション内に存在します。</p> <p>システム設定によっては、すべてのファイルタイプをアップロードできない場合があります。詳細については、「<a href="#">クイック検索の設定</a>」(92ページ)を参照してください。</p>












属性タイプ	説明
<p data-bbox="405 205 501 237">グループ</p> 	<p data-bbox="651 205 1460 268">リスト属性と似ていますが、一連のサブ属性で構成されます。各ドロップダウンリストボックスは、左横のドロップダウンボックスに依存します。</p> <p data-bbox="651 306 1460 453"><b>例:</b> 3つのドロップダウンボックスから成るグループがあるとして、中央のドロップダウンボックスには、左側のドロップダウンボックスの選択された値に関連する値のみが表示されます。右側のドロップダウンボックスには、中央のドロップダウンボックスの選択された値に関連する値のみが表示されます。</p> <p data-bbox="651 491 1460 625">グループリストボックスでは、複数の行を使用できます。新しい (空の) 行を追加するには、 をクリックします。選択された行の値を使用して新しい行を追加するには、 をクリックします。行を削除するには、 をクリックします。</p> <p data-bbox="667 667 738 699"><b>ヒント</b></p> <ul data-bbox="667 726 1460 1045" style="list-style-type: none"> <li>■ すべての値を追加するには、ドロップダウンリストから <b>[(すべて選択)]</b> を選択します。すべての値が選択されない場合は、このグループで複数選択がアクティブ化されていません。</li> <li>■ 空の値のクエリを実行するには、ドロップダウンリストから <b>[(なし)]</b> を選択します。</li> <li>■ レポートで実行時パラメーターとしてグループ属性を使用する場合は、どれかの値が一致 (OR) かすべての値が一致 (AND) を選択できます。これは、グループ属性のドロップダウンリストの前のドロップダウンリストで選択できます。</li> </ul>
<p data-bbox="405 1064 611 1096"><b>リスト (単一の値)</b></p>	<p data-bbox="651 1064 1460 1127">管理者が設定した値のリスト。このリストでは、1つの値のみを選択できます。</p> <p data-bbox="651 1165 746 1197"><b>値を選択</b></p> <p data-bbox="651 1201 1460 1285">リスト属性の横にある  ボタンをクリックすると、<b>[リスト値の検索と選択]</b> ダイアログが開きます。詳細については、<b>「リスト値の検索と選択」(49ページ)</b> を参照してください。</p>

属性タイプ	説明
リスト (複数の値)	<p>管理者が設定した値のリスト。このリストでは、複数の値を選択できます。<b>標準モード</b></p> <p>複数の値の選択が可能な場合は、次の修飾キーを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>クリック</b>: リストの1つの値が選択された値になります。他の選択済みの値はすべて選択解除されます。</li> <li>• <b>Ctrl+クリック</b>: リストの1つの値を、選択された値に追加または選択された値から削除します。</li> <li>• <b>Shift+クリック</b>: 前に選択した値とクリックした値の間にあるすべての値を、選択された値に追加します。</li> </ul> <p><b>割り当てボックスモード</b></p> <p>割り当てボックスモードでは、2つのリストが表示されます。 をクリックするとエントリを選択項目に追加でき、 をクリックするとエントリを選択項目から削除できます。</p> <p><b>値を選択</b></p> <p>リスト属性の横にある  ボタンをクリックすると、[リスト値の検索と選択] ダイアログが開きます。詳細については、「<a href="#">リスト値の検索と選択</a>」(49ページ)を参照してください。</p>
リスト (タグモード)	<p>タグモードは、リスト (単一の値および複数の値のリストの両方) の追加機能です。タグモードでは、要件および属性に対する書き込みアクセス権限を持つ任意のユーザーが、そのリストに値を追加できます。属性に対して追加された値は、他のすべてのユーザーが利用できます。</p> <p>リストボックスに入力する際には、入力したテキストと一致するエントリが表示されます。新しい値を指定する場合は、候補として表示されるエントリのリストに存在しないテキストを入力します。</p>
チェックボックス	<p>チェックボックスは、リスト属性の表示オプションとして使用されます。値の選択や選択解除を簡単に行えます。要件を (クイック検索などで) 検索するときに、関連する属性には関連する値 (はい/いいえ、承認済み/拒否済み、管理者が属性に対して定義したその他の値など) が表示されます。</p>
ラジオボタン	<p>ラジオボタンは、単一の値しか選択できない3つ以上の値から成るリスト属性の表示オプションとして使用されます。</p>
ルックアップ	<p>ルックアップ属性を使用すると、任意のクラスのPUID属性またはタイトル属性を参照する1つまたは複数の値 (その属性の設定によって異なります) を選択できます。リンクされた要件を開くには、 をクリックします。</p>
数値	<p>数値のみを使用できます。</p>

属性タイプ	説明
テキスト	<p>最大65,000文字のテキストのブロック。複数バイトを使用する文字（中国語や日本語など）の場合、最大文字数が少なくなることにご注意してください。</p> <p>テキスト属性でHTML機能が有効になっている場合は、テキストの書式設定（テキストの色やフォントスタイルなど）を行うことができます。HTML書式設定の詳細については、「<a href="#">HTMLテキスト書式設定ツールバー</a>」（43ページ）を参照してください。</p>
URL	<p>URL属性は、その設定に応じて、単一のURLを保持することも、複数のURLを保持することもできます。URLごとに、実際のURLと表示テキストを指定できます。管理者は、検証するURL属性を設定できます（たとえば、URLは特定のサーバーを指している必要があるなど）。</p> <p>新しいURLを追加するには、 をクリックします。  既存のURLを変更するには、 をクリックします。  既存のURLを削除するには、 をクリックします。</p>
ユーザー	<p><b>ユーザー / グループモード</b></p> <p>ユーザー属性は、割り当て可能なユーザー名のリストを表示するように設定されます。ユーザーリストにすべてのインスタンスユーザーが含まれることは、ほとんどありません。これらのリストは、割り当てや参照に使用され、通常は特定のグループのメンバーに限定されます。</p> <p>例：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Analyst</b> という名前のユーザー属性を、ビジネスアナリストグループのメンバーに限定できます。</li> <li>• このリストは、さらに、特定のカテゴリに割り当てられたアナリストグループのメンバーに限定することができます。</li> </ul> <p><b>チームモード</b></p> <p>ユーザー属性はチームのリストを表示します。チームの詳細については、「<a href="#">チームの管理</a>」（409ページ）を参照してください。</p> <p><b>自分のユーザーアカウントの選択</b></p> <p>現在のユーザーがリストのメンバーであり、割り当ての対象である場合は、<b>[自分]</b> をクリックします。</p> <p><b>ユーザーの検索：</b></p> <p>標準の検索アイコンは、ユーザー属性の隣にあります。リストが長い場合は、 ボタンをクリックすると、<b>[ユーザーの検索と選択]</b> ダイアログが開きます。詳細については、「<a href="#">リスト値の検索と選択</a>」（49ページ）を参照してください。</p>

## 編集可能なグリッド、グリッド、およびフォームビュー

[クイック検索] ビューの要件リスト、または [ホーム] ビューの [要件] タブには、次の3つのボタンのいずれかを使用してリストの形式を切り替える機能があります。編集可能なグリッド、グリッド、およびフォームビューの切り替えを行うことができます。

- **編集可能なグリッド:**    「編集可能なグリッドビュー」(36ページ)
- **グリッド:**    「グリッドビュー」(38ページ)
- **フォーム:**    「フォームビュー」(39ページ)




**注記** クエリから複数のクラスが返される場合、フォームビューは使用できません。


## 編集可能なグリッドビュー

MARKETING_REQUIREMENTS (35)				
Load All   Page 1 of 1   Total number of pages/requirements - 1/35				
<input type="checkbox"/>	Category	Containers	Rqmt ID	Title
<input type="checkbox"/>	RMDEMO	<a href="#">ePhoto - Release 1.1</a> <a href="#">ePhoto Requirements</a> <a href="#">Marketing Requirements for Build1</a>	MRKT_000003	Runs on "standard" home PC
<input type="checkbox"/>	RMDEMO	<a href="#">ePhoto - Release 1.1</a> <a href="#">ePhoto Requirements</a> <a href="#">User</a>	MRKT_000004	Annotate photos with text


このビューでは、要件が表形式で表示され、1つまたは複数の要件の要件属性を直接編集できます。たとえば、1つのリリースに複数の要件を割り当てたり、1つ以上の要件のワークフロー状態を変更したりする場合、編集ダイアログを開かなくても、編集可能なグリッドでタスクを実行できます。

このビューには、以下のコントロールがあります。

 **更新:** データベースの最新のデータがビューに読み込まれます。

 **変更の適用:** 変更内容が保存されます。変更が保存されていない場合は、左上に赤い三角形が表示されます。

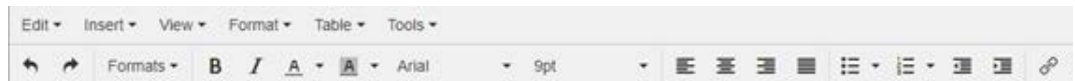
 **変更を元に戻す:** ビューを元の内容に戻し、未保存の変更を削除します。

 **新規要件の作成:** 作成する新規要件の属性を入力するための、空白の行がビューに追加されます。**変更の適用** ボタンをクリックすると、要件のID番号などのシステム属性が読み込まれます。

**すべてロード:** このボタンはクイック検索のみで使用できます。デフォルトでは、Dimensions RMで、すべての要件が編集可能なグリッドにロードされる訳ではありません。これは、クエリで返される要件の数が多い場合に待機時間が長くなるようにするためです。[すべてロード] をクリックすると、実行したクエリのすべての要件が編集可能なグリッドにロードされます。

**ページコントロール:** ビューの内容が複数のページにまたがる場合は、[ページ] フィールドで表示するページを入力または選択できます。または、**最初のページ**、**前のページ**、**次のページ**、および**最後のページ**コントロールを使用して、ページを順番に参照することもできます。

**書式設定ツールバー:** 選択した属性がHTML対応の場合、テキストの書式設定が可能で、編集のためにダブルクリックすると、次のツールバーが要件の上に表示されます。



列の見出しをクリックすると、その属性で要件の並べ替えが行われます。属性を編集するには、属性をダブルクリックします。属性のセルが編集可能な状態に変わります。

**次の属性タイプがサポートされています。**

**日付:** 日付属性を選択すると、カレンダーコントロールが開きます。Dimensions RMの構成によっては、このカレンダーコントロールで時刻を設定することもできます。

**リスト:** 属性が事前に定義されたリストから選択するものである場合、選択肢がドロップダウンリストとして提示されます。削除されたリスト値はセルに引き続き表示されますが、ドロップダウンリストには表示されないことに注意してください。

**数値:** 数値を入力できます。

**テキスト:** 属性がテキスト値である場合は、セル内にカーソルが表示され、必要に応じてテキストを編集することができます。属性でテキストの書式設定が可能な場合、セル内に書式設定ツールバーが表示されます。テキスト属性の場合、次のサブタイプがあります。

**シンプルテキスト属性 (英数字):** シンプルテキスト属性では、テキストの書式設定が可能ですが、改行はできません。

**複数行テキスト属性 (HTML非対応テキスト):** 複数行テキスト属性 (HTML非対応) では、テキストの書式設定はできませんが、テキストを複数行に配置することができます。改行を行うには、**Enter** キーを押します。

**HTMLテキスト属性:** HTMLテキスト属性では、テキストの書式設定と改行を使用することができます。テキストの書式設定には、上記の**書式設定ツールバー**を使用します。

**ユーザー:** ユーザー属性を選択すると、ユーザーやグループのリストが開きます。削除されたユーザーはセルに引き続き表示されますが、ドロップダウンリストには表示されなくなることにご注意ください。

**ワークフロー:** ワークフローを選択するときに、ターゲットワークフローに関連付けられている必須属性がある場合、最初の要件に対してそれらの属性を入力するように求められ、その設定が他のすべてのワークフローに適用されます。

一連の要件全体に対してアクションを実行するには、選択内容を展開し、[アクション] ペインのハイライトされたリストからアクションを選択します (例: [コレクションに追加],[クラスの変更] など)。

**ヒント**

- 複数の要件を対象に、リスト属性などの属性を同じ値に設定するには、変更する要件を強調表示し、**属性**の1つのインスタンスのセルをダブルクリックして目的の値に設定し、カーソルを移動して強調表示した別の要件をクリックします。
- HTML 対応のテキスト属性の場合を除いて、編集可能なセルでは、次のショートカットが利用できます。
  - **Shift+Enter:** 変更をセルに適用し、上の行の同じセルに移動します。
  - **Ctrl+Enter:** 変更をセルに適用し、下の行の同じセルに移動します。

**編集可能なグリッドでの再フィルタリング**

フィルタリングされたリストやレポートで、リストを再度フィルタリングすることができます。

編集可能なグリッドで表示されたエントリをフィルタリングするには、次の手順を実行します。

- 1 フィルタリングする列タイトル上にマウスポインターを移動します。**▼**アイコンが表示されます。
- 2 **▼**をクリックし、[フィルター] を選択します。
- 3 サブメニューで、結果をフィルタリングするための値を選択または入力します。

## 編集可能なグリッドからの一時的な列の削除

編集可能なグリッドから列を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 フィルタリングする列タイトル上にマウスポインターを移動します。▼アイコンが表示されます。
- 2 ▼をクリックし、[列]を選択します。
- 3 サブメニューで、削除する列名の横のボックスをクリアします。

## グリッドビュー

このビューでは、要件が表形式で表示されます。列の見出しをクリックすると、その属性で要件の並び替えが行われます。要件を編集用に開くには、要件をダブルクリックして、[属性の編集]ダイアログで要件を開きます（「要件の編集」(194ページ)を参照）。

現在選択されている1つまたは複数の要件に対して他のアクションを実行するには、[アクション]ペインの[要件]の下にハイライト表示されるアクションから目的のアクションを選択します。

一連の要件全体に対してアクションを実行するには、選択内容を展開し、[アクション]ペインのハイライトされたリストからアクションを選択します（例：[コレクションに追加]、[クラスの変更]など）。

▼ MARKETING_REQUIREMENTS 35							
Rqmt ID▲	Title	Text	Priority	Modified ...	Containers	Links Out	Delivery .
MRKT_000001	EPhoto ...	The ePhoto system shall enable the ...	High	Ryan ...	ePhoto - Release 1.1, eP...	▶ 3	Build1
MRKT_000002	Support ...	The ePhoto system shall support ph...	Medium	Ryan ...	ePhoto - Release 1.1, eP...	0	Build2
MRKT_000003	Runs on ...	The ePhoto system shall be accessi...	High	Ryan ...	ePhoto - Release 1.1, eP...	▶ 3	Build1
MRKT_000004	Annotate...	The user shall be able to annotate th...	Medium	Ryan ...	ePhoto - Release 1.1, eP...	▶ 5	Build3

## フォームビュー

フォームビューでは、一度に1つの要件の属性が表示されます。

属性は、タイプごとに展開/折りたたみ可能な複数のセクションに分かれて表示されます。[最初]、[前へ]、[次へ]、および[最後]コントロールを使用すると、要件を順番に参照することができます。

現在の要件を編集するには、**編集**ボタンをクリックして、[属性の編集]ダイアログに要件を開きます（「[要件の編集](#)」(194ページ)を参照）。

現在の要件に対して他のアクションを実行するには、[アクション]ペインの[要件]の下に表示されるアクションから目的のアクションを選択します。

## 複数の要件の選択

グリッドビューまたは編集可能なグリッドビューでは、一般に複数の要件を選択できます。次の選択方法がサポートされています。

- **Ctrl+クリック**：複数選択を行う
- **Shift+クリック**：一定範囲の要件をまとめて選択する
- **Ctrl+A**：すべての要件を選択する



### 注記

- セクション内に要件が表示されている場合（クイック検索で複数/すべてのクラスを対象に検索を行う場合など）、**Ctrl+A**を使用すると、アクティブなセクションの要件のみが選択されます。
- 分割ビューモードでクイック検索を使用する場合、複数選択は参照されるクラスでのみ可能です。

## 検索、フィルタリング、書式設定の基本

RM Browserの多くのダイアログに共通のコントロール要素の概要については、次のサブセクションを参照してください。

- [「クイック検索フィルターの使用」](#) (40 ページ)
- [「\[表示する属性\] リスト」](#) (41 ページ)
- [「\[並べ替え順\] リスト」](#) (42 ページ)
- [「HTMLテキスト書式設定ツールバー」](#) (43 ページ)
- [「リスト値の検索と選択」](#) (49 ページ)
- [「フィルタリングと検索のメカニズム」](#) (50 ページ)
- [「\[関係制約\] タブ」](#) (57 ページ)
- [「\[表示オプション\] タブ」](#) (59 ページ)

### クイック検索フィルターの使用

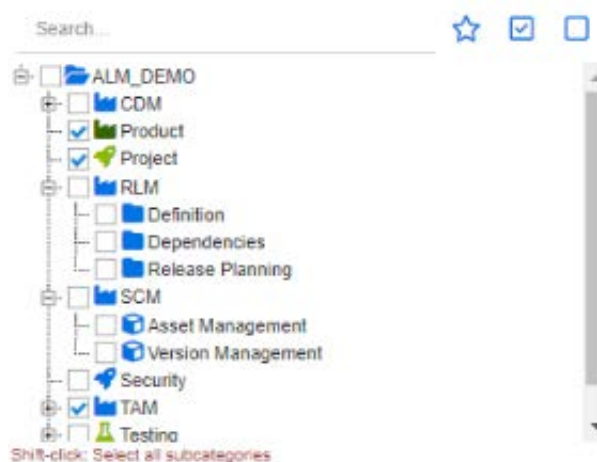
クイック検索は、[ビュー] の下であり、フィルターを簡単に作成できるダイアログを提供します。これらのフィルターは、[クイック検索] ビューとホームページの [要件] タブの両方から作成および編集が可能で、要件のプールからレビューやレポートに必要な要件だけを検索するのに役立ちます。

ユーザーは、自分の作業との関連性が最も高いオブジェクトを選択し、フィルターを作成して保存し、複数のダイアログから複数回適用することができます。

詳細な手順については、[「クイック検索による要件の検索」](#) (174 ページ) を参照してください。

### カテゴリの選択

レポートやレビューのために複数のフォルダーから要件を収集する場合、[カテゴリの選択] ダイアログが使用できます。



[カテゴリの選択] の内側をクリックして展開し、次の機能にアクセスします。



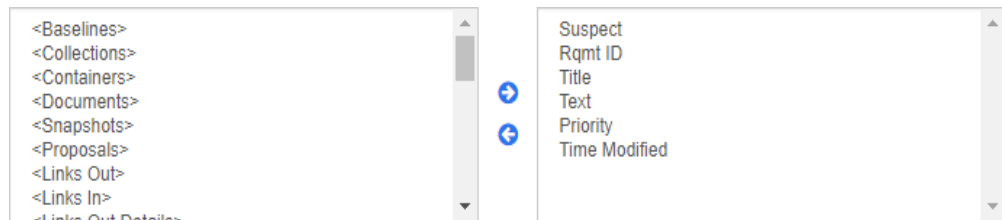
- **検索:** 検索文字列を入力して、カテゴリを動的に見つけます。
- ☆ をクリックして、お気に入りのカテゴリを選択します。
- をクリックして、すべてのカテゴリを選択します。
- をクリックして、選択したカテゴリをすべてクリアします。
- **Shift** キーを押しながらクリックして、親カテゴリとすべてのサブカテゴリを選択します。

## [表示する属性] リスト




[表示する属性] リストでは、表またはリストに表示する要件、ドキュメント、レポート、コレクション、またはベースラインの属性を定義します。クイック検索、および [ホーム] ビューの [要件] タブから [列] を選択すると、[ユーザー設定] の [クイック検索] タブが表示されます。表示リストを変更するクラスを選択し、表示する属性を選択します。

標準のクラス属性以外にも、表示に含めることができる選択肢があります。たとえば、要件が含まれているコレクションや、ドキュメントなどです。


特別な属性の一覧については、「[特別な属性](#)」(63ページ) を参照してください。



[表示する属性] リストでは、次の機能が利用できます。

-  選択した属性を表示される属性のリストに追加します。
  -  表示される属性のリストから選択した属性を削除します。
  -  選択した属性の表示順序を変更します。
- この機能は、[ドキュメント設定] ダイアログでのみ使用できます。このダイアログでは、要件がグリッドビューに表示されているか、テーブルにエクスポートされている場合に、属性の列幅を指定できます。この設定はパブリッシュテンプレートには影響しないことに注意してください。

**列幅を指定するには、次の手順を実行します。**

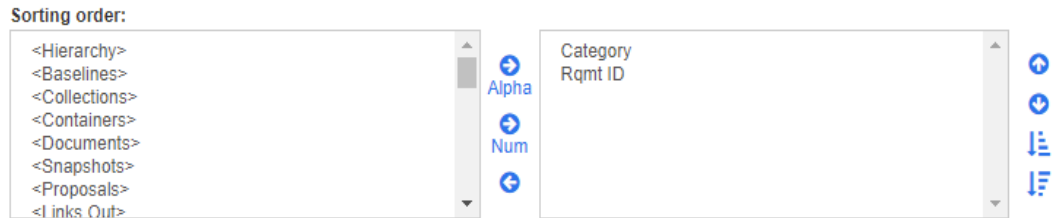
- 1 表示される属性のリストで1つまたは複数の属性を選択します。
- 2  をクリックします。[列幅の設定] ダイアログが開きます。
- 3 目的の列幅をピクセル単位で入力します。
- 4 [OK] をクリックします。





**ヒント** 幅が割り当てられていない列は、残りのスペースを使用します。

## [並べ替え順] リスト

[並べ替え順] リストでは、要件を並べ替える順序を定義します。カテゴリ内のIDなど、複数の属性を指定して並べ替えを行うことができます。





並べ替えのタイプを指定するには、次の手順を実行します。

- 1 [並べ替え順] リストで、1つまたは複数の属性を選択します。
- 2 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - アルファベット順ボタン  Alpha：シンプルなアルファベット順による並べ替えを行う場合。
  - 数値ボタン  Num：数値による並べ替えを行う場合。このタイプの並べ替えは、アウトラインの段落番号などの英数字属性に使用できます。たとえば、数値による並べ替えでは、(10、20、1、2) という数字は、(1、10、2、20) ではなく (1、2、10、20) という順序に並べ替えられます。



**注記** 別の方法として、属性をダブルクリックして、右側の並べ替えリストにアルファベット順による並べ替えとして追加することもできます。

並べ替え順序を指定するには、次の手順を実行します。



- 1 並べ替えリストでいずれかのエントリを選択します。
- 2 並べ替え順序を変更するには、次のいずれかのボタンをクリックします。
  - ボタン ：他のデータよりも前に、そのデータで並べ替えられるようにします。
  - ボタン ：他のデータよりも後に、そのデータで並べ替えられるようにします。

たとえば、元のドキュメントで表示された順序でクエリ結果を並べ替える場合は、[段落ID] を選択し、数値ボタンをクリックして、段落番号を使って並べ替えます。次に、段落IDが同じ要件をそれぞれに割り当てられた優先度を使って並べ替える場合は、[優先度] を選択し、アルファベット順ボタンをクリックします。



**注記** 日付データタイプの属性を選択した場合、アルファベット順または数値のどちらを選ぶかに関係なく、結果は日付順に並べ替えられます。

並べ替え方向を指定するには、次の手順を実行します。

- 1 並べ替えリストでいずれかのエントリを選択します。
- 2 並べ替え方向を変更するには、次のいずれかのボタンをクリックします。
  - ボタン ：昇順 (A-Z、0-9) に並べ替える場合。
  - ボタン ：降順 (Z-A、9-0) に並べ替える場合。

## HTMLテキスト書式設定ツールバー

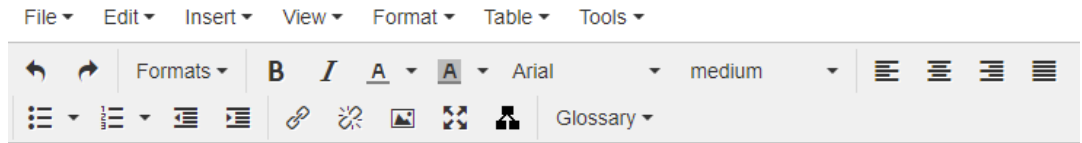


図 1-4. 標準的なHTMLテキスト書式設定ツールバー

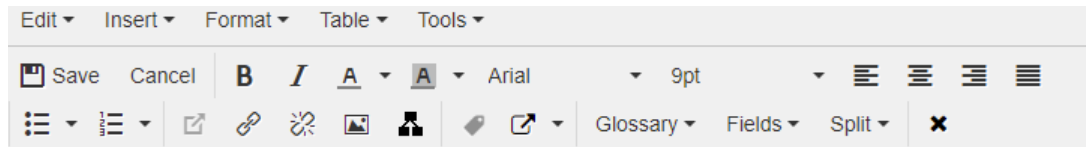


図 1-5. ドキュメント全体ビューでのHTMLテキスト書式設定ツールバー

テキスト属性でHTML書式設定（属性ごとに管理者が設定するオプション）を使用できる場合、属性のテキストボックス内をクリックすると、ツールバーが表示されます。複数の行に以下のコントロールが表示されます。

元に戻す/やり直し

標準的な書式設定：

太字および斜体書式を適用します。

文字色および背景色を選択します。

テキストを位置揃えします。

リストの書式設定を適用します。

インデントの書式設定を適用します。

**リンクを開く**：クリックして選択されたリンクを開きます。このボタンはドキュメント全体ビューのみで使用できます。

**リンクの挿入/編集**：リンクを作成または既存のリンクを編集するには、テキストを選択し、**リンクの挿入/編集**ボタンをクリックします。[**リンクの挿入**] ダイアログが表示されます。必要なフィールドをすべて入力し、[**OK**] をクリックします。

**Insert link** ✕

---

Url

Text to display


Title

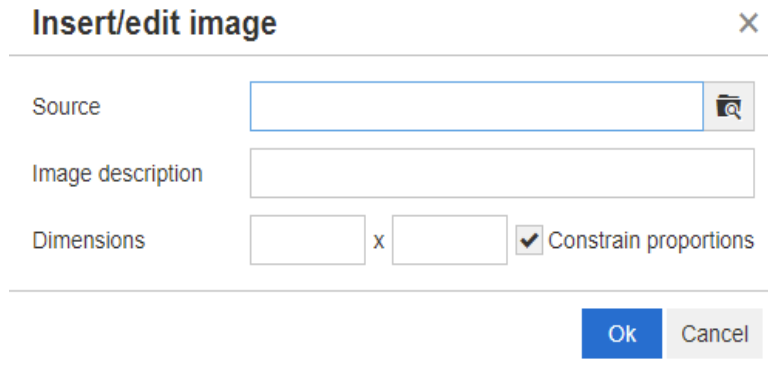
Target


---


Ok Cancel


**リンクの除去**：既存のリンクを削除するには、リンクを選択し、**リンクの除去**ボタンをクリックします。

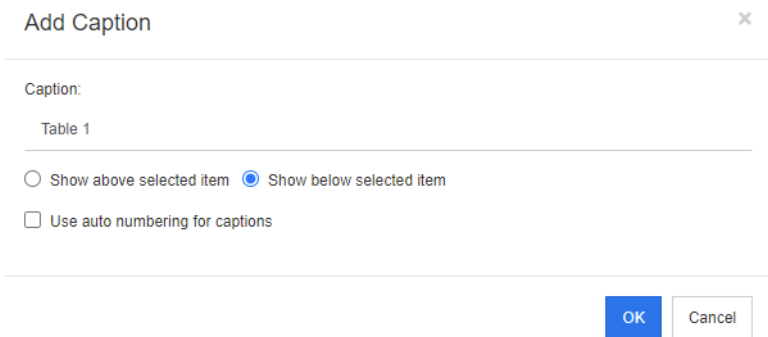
 **画像の挿入 / 編集**: 属性にグラフィックを挿入する場合は、画像を挿入する場所にカーソルを置きます。既存の画像のHTMLパラメーターを編集する場合は、画像要素を選択します。続いて、**画像の挿入 / 編集** ボタンをクリックします。**[画像の挿入 / 編集]** ダイアログが開きます。必要なフィールドをすべて入力し、**[OK]** をクリックします。




 **全画面モードの切り替え**: クリックして、編集中のテキスト属性のダイアログ表示と全画面表示を切り替えます。

 **グラフエディターを開く**: グラフエディターを開きます。グラフエディターの詳細については、「[グラフエディター](#)」(70 ページ) を参照してください。

 **キャプションの追加**: キャプションの追加または名前の変更を行うには、画像または表を選択し、**キャプションの追加** ボタンをクリックします。**[キャプションの追加]** ダイアログが開きます。必要なフィールドをすべて入力し、**[OK]** をクリックします。



**[キャプションに自動ナンバリングを使用する]** を有効にすると、ドキュメント内のすべてのキャプションの番号が自動的に作成されます。番号は、ドキュメントが読み込まれるたびに自動的に更新されます。

 **相互参照**: このボタンの横の三角形をクリックすると、次の機能を含むメニューが開きます。

**更新**: 選択した相互参照リンクを更新します。

**挿入**: **[挿入]** を選択するか、**相互参照** ボタンをクリックすると、**[相互参照の追加]** ダイアログが開きます。このダイアログでは、要件、チャプター、またはキャプション付

きの画像や表への参照を挿入できます。必要なフィールドを選択/入力し、[OK] をクリックします。

#### 参照タイプ:

**チャプター / 要件:** [選択] ボックスに、現在のドキュメントのすべてのチャプターと要件が表示されます。

**図:** [選択] ボックスに、キャプション付きのすべての画像が表示されます。


**表:** [選択] ボックスに、キャプション付きのすべての表が表示されます。

**選択:** [参照タイプ] ボックスの選択内容に応じて、[選択] ボックスにチャプター、要件、画像、または表が表示されます。

**検索:** チャプターおよび要件で、検索対象のテキストの一部を入力して、[選択] ボックス内のエントリをフィルタリングできます。

**参照名:** これは、参照リンクで使用されるテキストです。デフォルトでは、これはチャプターまたは要件のタイトル、または画像や表のキャプションです。必要に応じて変更します。

**[用語集] メニュー:** [用語集] メニューは、管理者が『Administrator's Guide』の説明に従って Glossary クラスを作成した場合のみ使用できます。このメニューには、以下のメニュー項目が含まれています。

**エントリの挿入:** [用語の挿入] ダイアログが開き、用語を検索できます。用語をドキュメントに追加するには、用語を選択して [挿入] をクリックします。用語を検索するには、用語または説明の一部を入力して  をクリックします。

**エントリの追加:** [新規用語] ダイアログが開き、新しい用語を用語集に追加できます。

**テキストのスキャン:** 用語集のエントリでテキストをスキャンします。一致した用語ごとに、ツールチップにその用語の説明が表示されます。一致した用語は、白色のテキストと青緑色の背景色で分かりやすく表示されます。


**[フィールド] メニュー:** [フィールド] メニューでは、変数のように、エクスポートプロセス中に実際の値に置き換えられるプレースホルダーを含めることができます。詳細については、「[ドキュメントでのプレースホルダーの使用](#) (154 ページ) を参照してください。

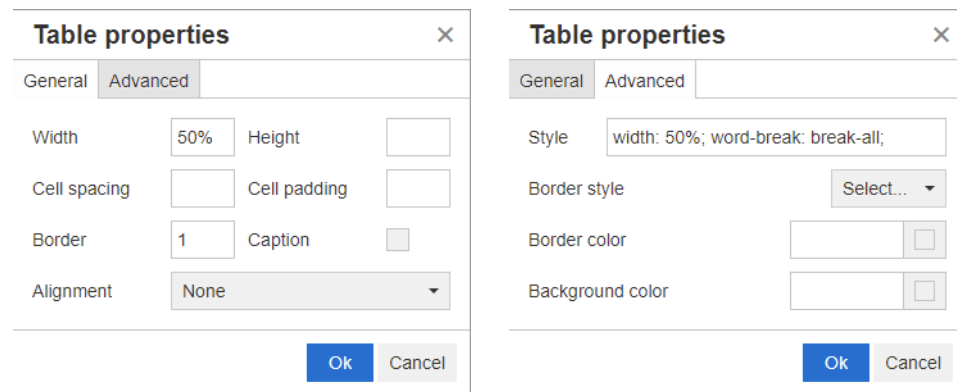
**保存:** 変更内容を保存します。[保存] は、ドキュメント全体ビューのみで使用できます。

**キャンセル:** 変更内容を破棄します。[キャンセル] は、ドキュメント全体ビューのみで使用できます。

## 表のプロパティ

表のプロパティを開くには、次の手順を実行します。

- 1 表を選択します。
- 2 ポップアップツールバーの  をクリックします。[テーブルのプロパティ] ダイアログが開きます。



**幅:** 表の幅を指定します。幅は、% (例: 50%) またはピクセル (例: 75) で指定できます。

**高さ:** 表の高さを指定します。高さは、% (例: 50%) またはピクセル (例: 75) で指定できます。

**セル間のスペース:** 2つのセル間またはセルと表の枠線との間の距離をピクセルで定義します。

**セル内のスペース:** セルの内容とセルの枠線との間の距離をピクセルで定義します。

**枠線:** 表の枠線の幅をピクセルで定義します。値0は枠線なしを意味します。

**キャプション:** 表の上部に、表のキャプション (見出し) を入力するための追加行を作成します。これは、**キャプションの追加** (🔍) 機能とは関係ありません。

**位置揃え:** 表の位置揃えを選択します。

**なし:** デフォルトの位置揃え (通常、[左揃え]) を使用します。

**左揃え:** 表をウィンドウの左枠に揃えます。

**中央揃え:** 表を横方向の中央に揃えます。

**右揃え:** 表をウィンドウの右枠に揃えます。

**スタイル:** この属性では、CSSスタイルを定義できます。通常は、この値を編集する必要はありません。

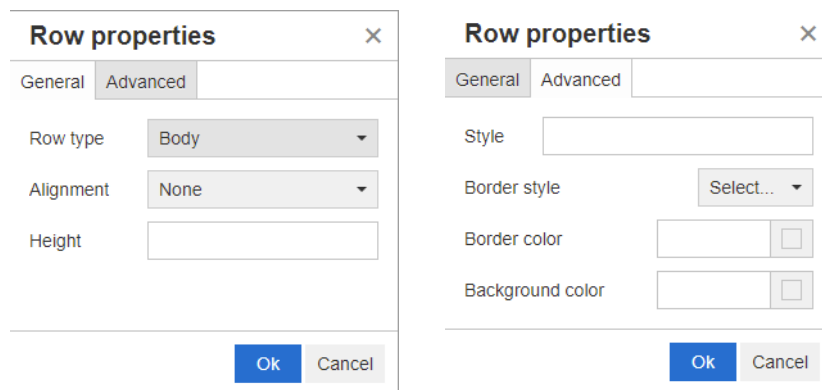
**枠線の色:** 表の枠線の色を定義します。この値には、HTMLの既知の色 (例: red、green、blue) または色の値 (#FF0000、#00FF00、#0000FF) を使用できます。すべてのブラウザがこの機能をサポートしているとは限りません。グレーのボックスをクリックすると、[色] ダイアログが開き、目的の色を容易に選択することができます。

**背景色:** 表のすべてのセルの色を定義します。この値には、HTMLの既知の色 (例: red、green、blue) または色の値 (#FF0000、#00FF00、#0000FF) を使用できます。グレーのボックスをクリックすると、[色] ダイアログが開き、目的の色を容易に選択することができます。

## 行のプロパティ

行のプロパティを開くには、次の手順を実行します。

- 1 表内の行を選択します。
- 2 [表] メニューで [行] をポイントし、[行のプロパティ] を選択します。[行のプロパティ] ダイアログが開きます。



**行タイプ:** 表内の行のタイプを定義します。この設定は無視できます。

**ヘッダー:** この行は見出し行です (HTMLでは、これはTHEADタグ内の行です)。[ヘッダー] タイプを選択すると、エクスポートされたWordドキュメントで新しいページごとにヘッダーが繰り返されます。

**本文:** この行は通常の本文行です。これはデフォルトです。

**フッター:** この行はフッター行です (HTMLでは、これはTFOOTタグ内の行です)。

**位置揃え:** 行内のすべてのセルの内容を位置揃えます。

**なし:** デフォルトの位置揃え (通常、[左揃え]) を使用します。

**左揃え:** すべての内容を左に揃えます。

**中央揃え:** すべての内容を中央に揃えます。

**右揃え:** すべての内容を右に揃えます。

**高さ:** 行の高さを指定します。高さは、% (例: 50%) またはピクセル (例: 75) で指定できます。

**スタイル:** この属性では、CSSスタイルを定義できます。通常は、この値を編集する必要はありません。

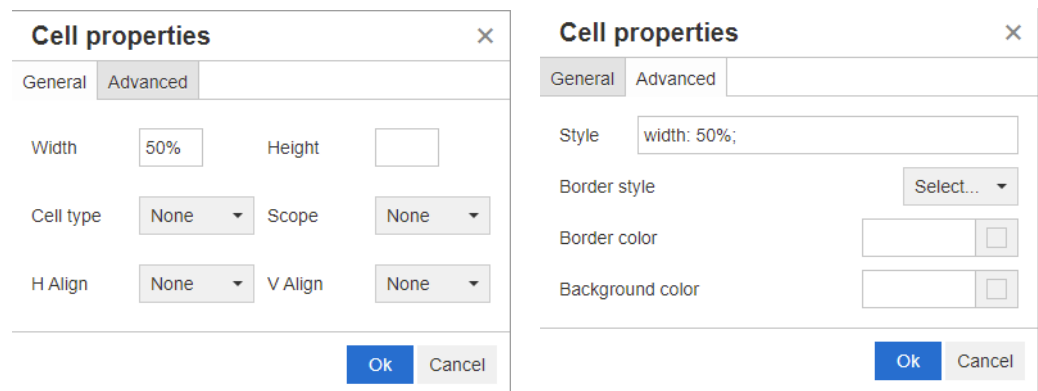
**枠線の色:** 選択した行内のすべてのセルの枠線の色を定義します。この値には、HTMLの既知の色 (例: red、green、blue) または色の値 (#FF0000、#00FF00、#0000FF) を使用できます。すべてのブラウザがこの機能をサポートしているとは限りません。グレーのボックスをクリックすると、[色] ダイアログが開き、目的の色を容易に選択することができます。

**背景色:** 選択した行内のすべてのセルの色を定義します。この値には、HTMLの既知の色 (例: red、green、blue) または色の値 (#FF0000、#00FF00、#0000FF) を使用できます。グレーのボックスをクリックすると、[色] ダイアログが開き、目的の色を容易に選択することができます。

## セルのプロパティ

セルのプロパティを開くには、次の手順を実行します。

- 1 表内の1つまたは複数のセルを選択します。
- 2 [表] メニューで [セル] をポイントし、[セルのプロパティ] を選択します。[セルのプロパティ] ダイアログが開きます。



**幅:** 選択したセルの幅を指定します。幅は、% (例: 50%) またはピクセル (例: 75) で指定できます。

**高さ:** 選択したセルの高さを指定します。高さは、% (例: 50%) またはピクセル (例: 75) で指定できます。

**セルのタイプ:** 選択したセルのタイプを指定します。

**セル:** これは通常のセルです。

**ヘッダーセル:** これは見出しのセルで、追加の書式設定を適用できます。

**スコープ:** 選択したセルのスコープを指定します。通常は、この設定を変更する必要はありません。

**なし:** このセルにスコープはありません。これはデフォルトです。

**行:** このセルは行の見出しです。

**列:** このセルは列の見出しです。

**行グループ:** このセルは複数行のグループの見出しです。

**列グループ:** このセルは複数列のグループの見出しです。

**水平配置:** 選択したセルの内容を横方向に位置揃えします。

**なし:** デフォルトの位置揃え (通常、[左揃え]) を使用します。

**左揃え:** すべての内容を左に揃えます。



**中央揃え:** すべての内容を中央に揃えます。

**右揃え:** すべての内容を右に揃えます。

**垂直配置:** 選択したセルの内容を上下方向に位置揃えします。

**なし:** デフォルトの位置揃え (通常、[中央揃え]) を使用します。

**上揃え:** すべての内容をセルの上部に揃えます。

**中央揃え:** セルの内容を上下方向の中央に揃えます。

**下揃え:** すべての内容をセルの下部に揃えます。


**スタイル:** この属性では、CSSスタイルを定義できます。通常は、この値を編集する必要はありません。

**枠線の色:** 選択したセルの枠線の色を定義します。この値には、HTMLの既知の色 (例: red、green、blue) または色の値 (#FF0000、#00FF00、#0000FF) を使用できます。すべてのブラウザがこの機能をサポートしているとは限りません。グレーのボックスをクリックすると、[色] ダイアログが開き、目的の色を容易に選択することができます。

**背景色:** 選択したセルの色を定義します。この値には、HTMLの既知の色 (例: red、green、blue) または色の値 (#FF0000、#00FF00、#0000FF) を使用できます。グレーのボックスをクリックすると、[色] ダイアログが開き、目的の色を容易に選択することができます。


## 改ページの挿入

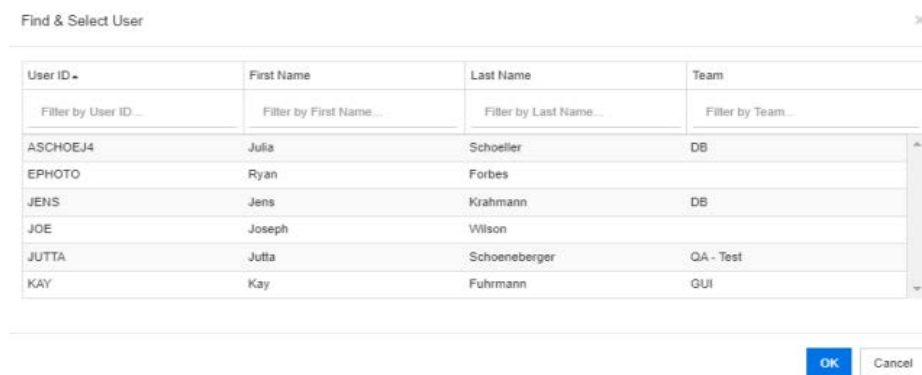
ドキュメントをエクスポートする際に、チャプター (または要件) 内の長い表の前などで改ページを使用できます。

改ページを挿入するには、[挿入] メニューを選択してから、 改ページを選択します。

改ページは、 で表示されます。

## リスト値の検索と選択

リスト属性とユーザー属性では、リストが長くなった場合に [検索と選択] ダイアログを利用できます。リスト属性の横にある  アイコンをクリックすると、フィルタリングが可能なダイアログが表示されます。リスト属性のダイアログには可能な値がすべて表示されますが、ユーザー属性のダイアログにはユーザー ID、フルネームおよびチームのメンバーシップが表示されます。以下のスクリーンショットと手順では、ユーザー属性のダイアログについて説明しています。



以下のボックスを使用してリストをフィルタリングすると、ユーザーを簡単に見つけることができます。

**ユーザー ID:** ユーザー IDの一部を入力して、リストをフィルタリングします。

**名:** ファーストネーム (名)の一部を入力して、リストをフィルタリングします。

**姓:** ラストネーム (姓)の一部を入力して、リストをフィルタリングします。

**チーム:** 有効になっている場合、チーム名の一部を入力して、リストをフィルタリングします。

リストに目的の値が表示されたら、チェックボックスをオンにして **[OK]** をクリックします。

## フィルタリングと検索のメカニズム

Dimensions RMには、要件の収集中に検索を絞り込むのに役立つ機能があります。要件の収集では、属性の内容または関係に焦点を当てることができます。このセクションで説明する機能は、複数のダイアログからまったく同じ方法でアクセスできます。

このセクションでは、次の内容について説明します。

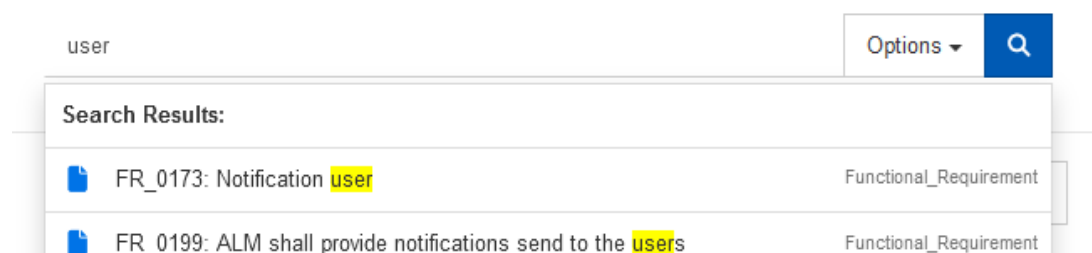
- 最近アクセスした項目からの検索: [「最近アクセスした項目からのクイック検索」\(50 ページ\)](#)
- 高度な検索の使用: [「高度な検索」\(51 ページ\)](#)

### 最近アクセスした項目からのクイック検索

要件を扱う場合、同じオブジェクトや関連オブジェクトを使用して機能を実行することがよくあります。つまり、**[リンクの作成]** や **[ドキュメントに追加]** などのアクションを使用する場合、最近作成したものや最近アクセスしたものを検索することがよくあります。検索を容易にするために、これらのアクションには、最近のリストから選択する機能と、**[高度な検索]** ダイアログへのリンクが用意されています。

- 1 検索ボックス内をクリックすると、**[最近の要件]** リストが開きます。
  - a 表示される場合、リストから該当する要件を選択します。
  - b **[追加]** をクリックします。

*A quick find rather than an Advanced Search*



**図 1-6.** **[検索]** ボックスをクリックして最近アクセスした要件の一覧を表示するか、検索文字列を入力します。

- 2 検索文字列を入力し、検索アイコンをクリックして、一致する要件を検索します。
- 3 **[オプション]** をクリックすると、検索をさらに絞り込むことができます。

- a [検索範囲] を使用して、検索文字列の範囲を PUID (要件 ID)、タイトル、説明に限定します。
  - b [クラスフィルター] を使用して、表示されるクラスを限定します。リンクする場合は、リンク可能なオブジェクトのみが表示されます。
  - c [カテゴリ] を使用して、カテゴリを限定します。
- 4 要件を1つ選択するか、**Ctrl+クリック**で複数の対象を選択します。
  - 5 [追加] をクリックします。
  - 6 [リンク] または [さらに追加] をクリックすると、ダイアログに戻ります。[閉じる] をクリックして閉じます。

検索対象を見つけるために追加の検索オプションが必要な場合は、[高度な検索] を使用して、[検索の実行] の全機能にアクセスします (「高度な検索」(51 ページ) を参照)。

### 高度な検索

高度な検索、またはそのコンポーネント部分は、ドキュメントやレポートに含めるオブジェクトやリンクするオブジェクトを見つけるための重要な機能です。この検索は [検索の実行] ボタンで実行され、属性や関係をフィルタリングしたり、一度見つかった項目は確実に認識できるように表示を定義したりできます。

高度な検索のオプションは保存が可能です。ユーザーからは、これは特に表示オプションに有用であるというフィードバックが得られています。

高度な検索は、メインダイアログと3つのサブダイアログで構成されており、いずれも RM ユーザーには使い慣れたものです。

メインダイアログから、次の手順を実行します。


- 1 検索対象の関係またはクラスを入力します。

関係: ソース要件が複数のクラスに関連している場合は、検索対象となるクラスとの関係を選択します。

クラス: コンテナに追加する要件を検索する場合は、クラスを選択します。
- 2 **フィルター:** クイック検索または [ホーム] ビューでフィルターに名前を付けて保存した場合は、保存したフィルターをここで選択して適用できます。関連するクラスレポートも使用できます。
- 3 **属性制約:** 必要に応じて、選択項目を、指定された属性の内容を含む要件に限定します。「[属性制約] タブ」(52 ページ) を参照してください。
- 4 **関係制約:** 必要に応じて、選択項目を、名前付きコンテナに含まれる要件、または指定されたリンクを持つ要件に限定します。「[関係制約] タブ」(57 ページ) を参照してください。
- 5 **表示オプション:** 必要に応じて、検索に最も役立つ結果を表示します。「[表示オプション] タブ」(59 ページ) を参照してください。
- 6 **リンク属性:** このオプションは、リンク属性が定義されている関係を選択した場合にのみ使用できます。
  - a [リンク属性] をクリックします。[リンク属性の編集] ダイアログが開きます。
  - b 目的の属性または必要な属性を編集または選択します (「リンク属性の編集」(218 ページ) を参照)。

- c [保存] をクリックします。
- 7 これらのオプションを記憶する: 今後ダイアログを開く際に現在の設定をデフォルトとして維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
- 8 検索の実行: このボタンをクリックすると、検索が実行されます。結果はダイアログの下側のペインに表示されます。

**[リンクの作成]に関する注意点:**

リンクが目的の場合、元の要件にすでにリンクされている各要件の横には、チェーンアイコン  が表示されます。

**[ドキュメントに追加]に関する注意点:**

  - a ドキュメントに要件を追加する場合、最初の列にアイコンがあれば、その要件はすでにドキュメントに含まれていることを示しますが、他のチャプターに再度含めることもできます。
  - b オブジェクトを選択したら、[サブ要件として追加する] チェックボックスをオンにして、そのオブジェクトをナビゲーションペインで選択されているオブジェクトのサブ要件として追加できます。
  - c 選択した要件がすでにドキュメント内にある場合は、[除去] ボタンがクリック可能になります。[除去] を選択すると、ドキュメントからオブジェクトが除去されます。
- 9 要件を1つ選択するか、**Ctrl+クリック**で複数の要件を選択します。
- 10 [追加] または [リンクの追加] をクリックします。
- 11 新規検索: このボタンをクリックすると、現在の検索条件と結果がクリアされます。

## [属性制約] タブ

このタブは、選択した属性の内容に基づいて、選択する要件を限定します。レポート生成、高度な検索、コンテナに追加する要件の収集など、多くのRMダイアログで使用されます。

[属性制約] タブを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [属性制約] タブをクリックします。
- 2 検索するカテゴリを変更する場合は、[カテゴリ] リストでカテゴリを選択します。
- 3 トレーサビリティレポートで、[クラス] リストからエントリを選択します。最上位クラスまたは [表示する関連クラス] タブで選択した任意のサブクラスを選択できます。
- 4 クラスレポートとグラフィカルレポートでは、次の手順を実行することで、リンクされたアイテムの属性でフィルタリングすることができます。
  - a [関連クラスを選択] をクリックしてダイアログを開きます。
  - b 1つまたは複数のクラスを選択します。リストされたクラスの1つにリンクされているクラスを含める場合は、そのリストされたクラスを展開 (オプションボックスの横にある三角形をクリック) し、子クラスを選択します。
  - c [保存] をクリックします。
  - d [クラス] リストからエントリを選択して、そのクラスの制約を設定できるようにします。
- 5 以下のいずれかのセクションで属性ごとに、値を1つずつ指定します。

次の点に注意してください。

- フィールドを空欄のままにすると、その属性の任意の値がクエリで取得されます。
- リストに表示されている属性に対して複数の値を選択すると、選択した値のいずれかの値と一致します。
- 属性制約セクションでワイルドカードを使用して、キーワードを検索することができます。たとえば、タイトルに "system" という言葉が含まれる要件を見つける場合は、[ **タイトル** ] 属性に「\*system\*」と入力します。

6 複数のクラスの属性ボックスに値を入力するには、手順3と5を繰り返します。

7 大文字と小文字を区別するには、[ **大文字と小文字を区別する** ] チェックボックスをオンにします。


### [属性制約] タブのコントロール

このセクションでは、[ **属性制約** ] タブでの属性の選択や設定に関連するコントロールについて説明します。

#### カテゴリ

カテゴリ制約は、要件の取得時に使用するカテゴリを記述します。ユーザーが実行時 (スクリプトの実行時) に1つまたは複数のカテゴリを入力するようにするか、または1つまたは複数のカテゴリをクエリの一部として保存するかを選択できます。カテゴリおよび実行時の選択内容は、トレーサビリティレポートのすべてのクラスに適用されます。

次のいずれかの手順を実行します。

- [ **カテゴリ** ] リストの右側にある下矢印  をクリックし、[ **今すぐ入力** ] を選択します。[ **カテゴリ** ] リストから1つ以上のカテゴリを選択し、[ **カテゴリ** ] リストの左側にある下矢印をクリックし、[ **クエリに含める** ] または [ **含まれない** ] を選択して、カテゴリをクエリに含めるかどうかを指定します。
- [ **カテゴリ** ] リストの右側にある下矢印をクリックし、[ **実行時に入力** ] を選択します。
- [ **カテゴリ** ] リストの左側にある下矢印をクリックし、[ **クエリに含める** ] または [ **含まれない** ] を選択して、カテゴリをクエリに含めるかどうかを指定します。

カテゴリの複数選択については、[「クイック検索フィルターの使用」\(40ページ\)](#) を参照してください。

#### グループ属性:

グループ属性は、行ごとに1つまたは複数の値を持つテーブルのように動作します。クイック検索では、これらの値がどのように評価されるかを検討できます。

次のいずれかを選択できます。



- in (AND)
- in (OR)
- not in (AND)
- not in (OR)
- null
- not null

次の例では、**RMDEMO** インスタンスの **Tests** クラスを使用します。

#### In (AND)

**[in (AND)]** 演算子を選択すると、グループ属性のすべての値がクエリ内のすべての値と一致する場合に、要件が結果リストに追加されます。

例:



- 1 クラス **[Tests]** を選択します。
- 2 属性 **[Operating System]** を追加します。
- 3 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[XP]** を選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[Vista]** を選択します。
- 6  をクリックします。
- 7 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[7]** を選択します。
- 8 演算子の選択が **[in (AND)]** と表示されていることを確認します。
- 9 レポートを実行します。

結果リストには、次の値の組み合わせを **[Operating System]** 属性の値として持つ要件が示されます: **[Desktop-Windows-XP]**、**[Desktop-Windows-Vista]**、**[Desktop-Windows-7]**。

### In (OR)

**[in (OR)]** 演算子を選択すると、グループ属性のいずれかの値がクエリ内の値の1つ以上と一致する場合に、要件が結果リストに追加されます。

例:



- 1 クラス **[Tests]** を選択します。
- 2 属性 **[Operating System]** を追加します。
- 3 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[XP]** を選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[Vista]** を選択します。
- 6  をクリックします。
- 7 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[7]** を選択します。
- 8 演算子の選択が **[in (OR)]** と表示されていることを確認します。
- 9 レポートを実行します。

結果リストには、**[Operating System]** 属性の値として、(他の値とともに) **[Desktop-Windows-XP]**、**[Desktop-Windows-Vista]** または **[Desktop-Windows-7]** のいずれかを含む要件が示されます。

### Not in (AND)

**[not in (AND)]** 演算子を選択すると、グループ属性の値がクエリ内のすべての値と一致しない場合、要件が結果リストに追加されます。

例:



- 1 クラス [**Tests**] を選択します。
- 2 属性 [**Operating System**] を追加します。
- 3 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows**]、[**XP**] を選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows**]、[**Vista**] を選択します。
- 6  をクリックします。
- 7 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows**]、[**7**] を選択します。
- 8 演算子の選択が [**not in (AND)**] と表示されていることを確認します。
- 9 レポートを実行します。

結果リストには、次の値の組み合わせを [**Operating System**] 属性の値として持たない要件が示されます: [**Desktop-Windows-XP**]、[**Desktop-Windows-Vista**]、[**Desktop-Windows-7**]。

### Not in (OR)

[**not in (OR)**] 演算子を選択すると、グループ属性の値がクエリ内のどの値とも一致しない場合、要件が結果リストに追加されます。

例:

- 1 クラス [**Tests**] を選択します。
- 2 属性 [**Operating System**] を追加します。
- 3 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows**]、[**XP**] を選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows**]、[**Vista**] を選択します。
- 6  をクリックします。
- 7 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows**]、[**7**] を選択します。
- 8 演算子の選択が [**not in (OR)**] と表示されていることを確認します。
- 9 レポートを実行します。

結果リストには、[**Operating System**] 属性の値として、[**Desktop-Windows-XP**]、[**Desktop-Windows-Vista**] または [**Desktop-Windows-7**] のどれも含まない要件が示されます。

### Null

[**null**] 演算子を選択すると、グループ属性の値が指定されていない場合、要件が結果リストに追加されます。

### Not Null

[**not null**] 演算子を選択すると、グループ属性にいずれかの値が指定されている場合、要件が結果リストに追加されます。

## 演算子

属性ラベルの左側にある下矢印 ▾ にマウスポインターを合わせると、演算子のリストが表示されます。このリストには、属性タイプに関連する演算子のみが表示されます。以下の表は、各演算子について説明したものです。

演算子	説明
=	属性が指定した値と等しい。ワイルドカード文字*、%、_がサポートされます。 *または%: 任意の文字列を表すワイルドカード文字。 _: 1つの文字を表すワイルドカード文字。
not =	属性が指定した値と等しくない。ワイルドカード文字*、%、_がサポートされます。 *または%: 任意の文字列を表すワイルドカード文字。 _: 1つの文字を表すワイルドカード文字。
<	属性が指定した値よりも小さい。
>	属性が指定した値よりも大きい。
<=	属性が指定した値以下である。
>=	属性が指定した値以上である。
between	属性が指定した2つの値の間にある。"between" 演算子を選択すると、もう1つの値を入力するためのフィールドが追加で表示されます。
not between	属性が指定した2つの値の間がない。"not between" 演算子を選択すると、もう1つの値を入力するためのフィールドが追加で表示されます。
null	属性が設定されていない (初期化されていない)。
not null	値が設定されている (初期化されている)。
in	属性が指定した値のいずれかと等しい。
not in	属性が指定した値のいずれとも等しくない。

## 実行時の選択

属性ラベルの右側にある下矢印 ▾ にマウスポインターを合わせると、属性値を実行時 (スクリプトの実行時) に入力するか、クエリの一部として保存するかを選択するためのリストが表示されます。以下の表は、リストの各選択肢について説明したものです。

選択肢	説明
今すぐ入力	属性値がクエリの一部として保存されます。
実行時に入力	クエリの実行時にユーザーに属性値の入力を求めるプロンプトが表示されます。実行時オプションを適用する場合、[これらのパラメーターを記憶する] にチェックを入れると属性値を保存できます。
現在の日付	このオプションは日付属性のみで使用できます。 レポートの実行時に、日付フィールドがこのオプションが選択されている日付属性の日付 (日時) と照合されます。

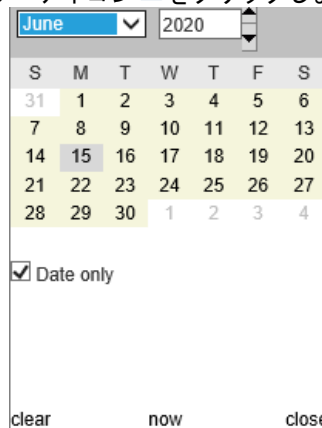
## 日付と時刻のコントロール

日付と時刻のコントロールに表示される日付と時刻は、属性定義で指定した形式と同じになります。



日付と時刻のコントロールを使用するには、次の手順を実行します。

- 1 カレンダーアイコン  をクリックします。



S	M	T	W	T	F	S
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

Date only

clear                      now                      close

- 2 選択に時間を含めるには、[日付のみ] のチェックを外します。
- 3 [今日] をクリックし、必要に応じて時間を再設定して、[OK] をクリックします。
- 4 月、年、日、(および時刻) を選択し、[OK] をクリックします。

## [関係制約] タブ

このタブでは、関係条件を使用して、対象に含める要件を指定します。



**注記** この [制約] タブで選択した制約は、AND 演算子で結合されます。つまり、指定されたすべての制約を満たしていないと、要件はレポートに含められません。

[関係制約] タブを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [関係制約] タブをクリックします。
- 2 トレーサビリティレポートのみ: 関係の制約は、クラスごとに個別に適用できます。基準を特定のクラスに限定するには、[すべてのクラスに適用] のチェックを外し、[クラス] ドロップダウンから目的のクラスを選択します。
- 3 コレクション制約は、要件の取得時に使用されるコレクションのメンバーシップを記述します。[コレクション] リストからコレクションを選択し、制約のオプションを選択して、それらをクエリに含めるかどうかを指定します。リスト内の複数のコレクションを選択する場合は、Ctrlキーを押した状態で複数のコレクションを選択します。一定範囲のコレクションをまとめて選択する場合は、最初のコレクションを選択し、Shiftキーを押して最後のコレクションを選択します。コレクションを見つけるには、リストをスクロールするか、[コレクションの検索] ボックスにコレクション名の一部を入力します。

制約のオプションには、以下が含まれます。

- 選択したいいずれかのコレクションに含まれる: 選択したいいずれかのコレクションの要件を含めます。
- 選択したどのコレクションにも含まれない: 選択したいいずれかのコレクションの要件を除外します。

- **選択したすべてのコレクションに含まれる:** 選択した個々のコレクションに存在する要件を含めます。
  - **選択したいずれかのコレクションに含まれない:** 選択した個々のコレクションに存在しない要件を除外します。
  - **いずれかのコレクションに含まれる:** 選択したいずれか (1つでも可) のコレクションの要件を含めます。
  - **どのコレクションにも含まれない:** 選択したいずれか (1つでも可) のコレクション内に存在する要件を除外します。
- 4 ベースライン制約は、要件の取得時に使用されるベースライン化された要件のセットを記述します。[**ベースライン**] リストからベースラインを選択し、[**クエリに含める**] または [**含まれない**] を選択して、それらをクエリに含めるかどうかを指定します。複数のベースライン制約をクエリに含めることができます。ベースラインを見つけるには、リスト内でスクロールするか、[**ベースラインの検索**] ボックスにベースライン名の一部を入力します。

リスト内の複数のベースラインを選択する場合は、Ctrlキーを押した状態で複数のベースラインを選択します。一定範囲のベースラインをまとめて選択する場合は、最初のベースラインを選択し、Shiftキーを押して最後のベースラインを選択します。

制約のオプションには、以下が含まれます。

- **選択したいずれかのベースラインに含まれる:** 選択したいずれかのベースラインの要件を含めます。
  - **選択したどのベースラインにも含まれない:** 選択したいずれかのベースラインの要件を除外します。
  - **いずれかのベースラインに含まれる:** 選択したいずれか (1つでも可) のベースラインの要件を含めます。
  - **どのベースラインにも含まれない:** 選択したいずれか (1つでも可) のベースライン内に存在する要件を除外します。
- 5 ドキュメント制約は、要件の取得時に使用するドキュメントを記述します。[**ドキュメント**] リストからドキュメントを選択し、[**クエリに含める**] または [**含まれない**] を選択して、それらをクエリに含めるかどうかを指定します。

ドキュメントを見つけるには、リスト内でスクロールするか、[**ドキュメントの検索**] ボックスにドキュメント名の一部を入力します。

リスト内の複数のドキュメントを選択する場合は、Ctrlキーを押した状態で複数のドキュメントを選択します。一定範囲のドキュメントをまとめて選択する場合は、最初のドキュメントを選択し、Shiftキーを押して最後のドキュメントを選択します。

制約のオプションには、以下が含まれます。

- **選択したいずれかのドキュメントに含まれる:** 選択したいずれかのドキュメントの要件を含めます。
  - **選択したどのドキュメントにも含まれない:** 選択したいずれかのドキュメントの要件を除外します。
  - **いずれかのドキュメントに含まれる:** 選択したいずれか (1つでも可) のドキュメントの要件を含めます。
  - **どのドキュメントにも含まれない:** 選択したいずれか (1つでも可) のドキュメント内に存在する要件を除外します。
- 6 スナップショットは、ドキュメントのある時点のバージョンです。スナップショット制約は、要件の取得時に使用するスナップショットを記述します。[**スナップショット**] リストからスナップ

ショットを選択し、[クエリに含める] または [含まれない] を選択して、それらをクエリに含めるかどうかを指定します。複数のスナップショットの制約をクエリに含めることができます。スナップショットを見つけるには、リスト内でスクロールするか、**スナップショットの検索**ボックスにスナップショット名の一部を入力します。

リスト内の複数のスナップショットを選択する場合は、Ctrlキーを押した状態で複数のスナップショットを選択します。一定範囲のスナップショットをまとめて選択する場合は、最初のスナップショットを選択し、Shiftキーを押して最後のスナップショットを選択します。

制約のオプションには、以下が含まれます。

- **選択したいいずれかのスナップショットに含まれる:** 選択したいいずれかのスナップショットの要件を含めます。
  - **選択したどのスナップショットにも含まれない:** 選択したいいずれかのスナップショットの要件を除外します。
  - **いずれかのスナップショットに含まれる:** 選択したいいずれか (1つでも可) のスナップショットの要件を含めます。
  - **どのスナップショットにも含まれない:** 選択したいいずれか (1つでも可) のスナップショット内に存在する要件を除外します。
- 7 クラスレポート、グラフィカルレポート、およびトレーサビリティレポートのみ: 関係は、プライマリクラスとセカンダリクラスを結び付けるものです。[関係] リストから関係を選択し、[クエリに含める] または [含まれない] を選択して、それらをクエリに含めるかどうかを指定します。クエリに含めることができる関係制約は1つだけです。

関係を見つけるには、リスト内でスクロールするか、[関係の検索] ボックスに関係名の一部を入力します。



#### 注記

<Source> および <Immediate> は、要件のバージョンを特定するのに使用する特別な関係です。<Source> 関係は、一連のバージョンの最初の要件を表します。<Immediate> 関係は、要件の前のバージョンまたは次のバージョンを表します。

## [表示オプション] タブ

このタブでは、表示する属性、表示方法、場合によっては、表示するときに呼び出す属性を指定します。

[表示オプション] タブの機能は、レポート、ドキュメント、検索クエリのすべてのクラスに表示される属性に適用されます。

このタブに値を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [表示オプション] タブをクリックします。
- 2 各クラスについて、並べ替え順を設定できます。

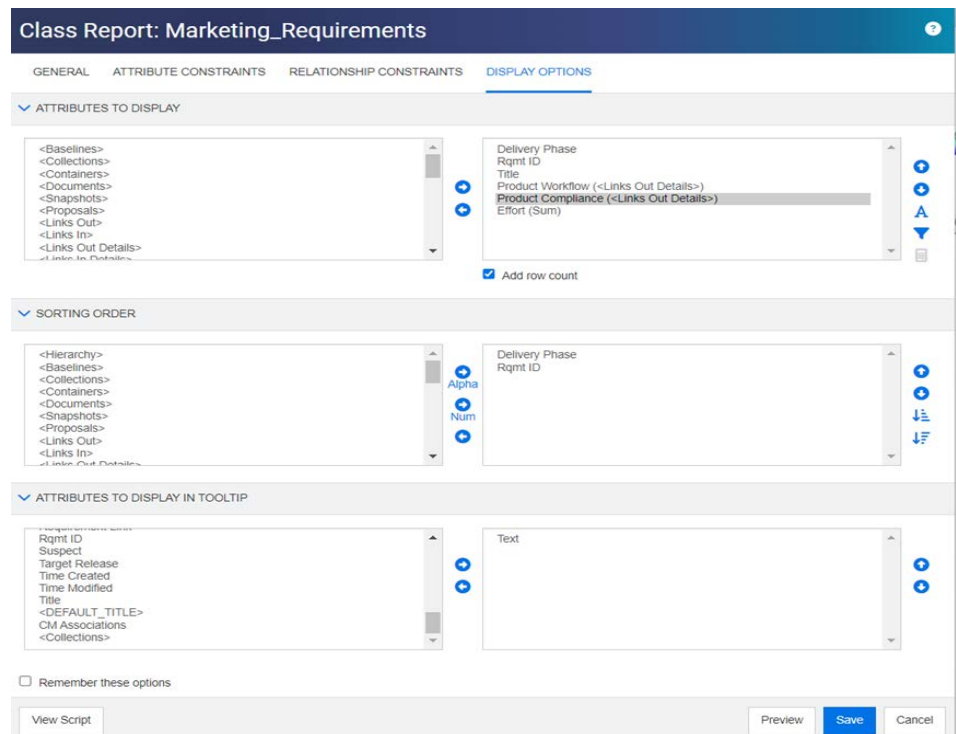


図 1-7. リンクされた **Product** クラスからのワークフローとコンプライアンスを含むクラスレポートの選択 (このレポートには **RMDEMO** サンプルから変更したデータを使用)

- 3 リストに表示する列とその順序を指定するには、「[\[表示する属性\] リスト](#)」(41 ページ) を参照してください。
- 4 クラス、関係、トレーサビリティのレポートでは、レポートの下部に合計行数を表示するための「[\[行数を追加する\]](#)」チェックボックスを利用できます。
- 5 並べ替えのタイプと順序を指定するには、「[\[並べ替え順\] リスト](#)」(42 ページ) を参照してください。

- 6 ユーザー設定に設定を保存して、次回同じクラスでダイアログが呼び出されたときにアクセスできるようにするには、[これらのオプションを記憶する] をオンにします。










	<b>上に移動:</b> 強調表示されたエントリを表示順または並べ替え順で上に移動します。
	<b>下に移動:</b> 強調表示されたエントリを表示順または並べ替え順で下に移動します。
	<b>名前の変更:</b> 表示されているエントリの名前を変更することができます。これは、リンクされたクラスの属性を表示する場合に特に便利です。
	<b>フィルター:</b> 選択した属性タイプに応じて、フィルターリンクまたはフィルターコメントにアクセスすることができます。<この要件へのリンクの詳細>または<この要件からのリンクの詳細>のデータを含めると、リンクされたオブジェクトに関するさらに詳しい情報を得ることができます。
	<b>列幅の設定:</b> 列の幅をピクセル単位で制限することができます。
	<b>計算設定:</b> 数値属性の場合は、関数を選択し、オプションでラベルを変更します。
	<b>昇順に並べ替え:</b> 選択した数値属性は0-9の順序、英数字はA-Zの順序で並べ替えます。 日付属性の場合は数値として選択し、昇順で古いものから順に並べ替えます。
	<b>降順に並べ替え:</b> 選択した数値属性は9-0の順序、英数字はZ-Aの順序で並べ替えます。 日付属性の場合は数値として選択し、降順で新しいものから順に並べ替えます。

図 1-8. [表示オプション] タブのアイコン

<この要件へのリンクの詳細>または<この要件からのリンクの詳細>を使用して、リンクされた要件に関するさらに詳しい情報を得る


- 1 表示する属性に<この要件へのリンクの詳細>または<この要件からのリンクの詳細>を追加します。  
同じリンクされたクラスの複数の属性を表示するには、どちらかを複数回選択する必要があります。
- 2 表示属性リストで属性を強調表示します。
- 3  をクリックします。[リンクのフィルタリング] ダイアログが開きます。
  - a [リンクのフィルタリング] ダイアログの [リンクを表示] ドロップダウンから、関連するクラスを選択します。
  - b [属性の表示:] から、内容を表示する属性を選択します。リスト属性を選択した場合、[チャート] をオンにすると、内容がリストではなくチャートで表示されます。図 1-9 を参照してください。製品ワークフローと製品コンプライアンスはリスト属性です。
  - c [OK] をクリックしてダイアログを閉じます。

- 4 出力に表示される列タイトルは、[名前の変更]を使用して変更できます。
- a レポートを保存する前に入力内容を確認するには、[プレビュー]ボタンを選択します。

Marketing_Requirements					
Deliver...	Rqmt ID	Title	Product Workflow	Product Compliance	Effort
Build1	MRKT_000001	EPhoto will be an online phot...	3	2 1	4
Build1	MRKT_000003	Runs on "standard" home PC	3	1 2	4
Build1	MRKT_000023	Displaying stored photo info	1	1	7
Build1	MRKT_000025	Setting personal preferences	2	1 1	6
Build1	MRKT_000026	Application preferences reme...	1 1	1 1	4
Build2	MRKT_000029	System response times	1	1	4
Build2	MRKT_000037	Smart Phone Accessible	2	2	7
Build2	MRKT_000038	Integration	3	1 2	4
Build3	MRKT_000004	Annotate photos with text	4 1	4 1	5
Build3	MRKT_000039	Tablets	3	3	6
Build3	MRKT_000040	Duplicates	1	1	6
Build3	MRKT_000041	Facial recognition	1	1	5
Build3	MRKT_000042	Search facilities	1	1	4
					Sum: 66

図 1-9. 図 1-7 に表示されている設定を使用したレポート出力


フィルタリングされたコメントを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 <コメント>属性を表示される属性のリストに追加します。
- 2 表示される属性のリストで<コメント>属性を選択します。
- 3  をクリックします。[コメントのフィルタリング] ダイアログが開きます。
- 4 リストから定義済みのいずれかの値を選択するか、日数を入力して、含めるコメントの最大経過日数を設定します。
- 5 [OK] をクリックします。[コメントのフィルタリング] ダイアログが閉じます。

#### レポートでの数値属性値の計算

レポートを作成するときに、数値の合計、平均、最小値、または最大値を計算する必要がある場合があります (たとえば、平均処理時間の取得など)。結果は、レポートの最後の、属性と同じ列に表示されます。

レポート出力の属性値を計算するには、次の手順を実行します。

- 1 合計、平均、最小値、または最大値を計算する数値属性を、表示される属性のリストに追加します。
- 2 表示される属性のリストで数値属性を選択します。
- 3  をクリックします。[計算設定] ダイアログが開きます。

- [関数] ボックスで、目的の関数を選択します。
  - 必要に応じて、[ラベル] ボックスでテキストを変更します。
  - [OK] をクリックして [計算設定] ダイアログを閉じます。
- 4 表示属性のリストの数値属性には、選択されている関数が括弧付きで含まれます (例: Dev Effort (合計))。



**注記** ウィザードでは、属性ごとに1つの関数しか使用できません。1つの属性に複数の関数を使用する場合は、スクリプトを変更する必要があります。詳細については、「[CALCULATEステートメント](#)」(520ページ) を参照してください。

- 5 1-9のレポート表示では、数値属性 **Effort** を合計するために関数 **SUM** が使用されました。

#### 特別な属性

リストには、<>で囲まれた特別な属性名がいくつか含まれています。これらの属性は、クラスの属性ではありません。これらの属性には、収集された値や算出された値が含まれます。次の表に、これらの属性を示します。

属性名	スクリプト名	説明
<ベースライン>	RTM_BASELINES	この要件を参照しているベースラインの名前。
<チャプター>	RTM_CHAPTERS	オブジェクトを含むチャプターの名前。
<コレクション>	RTM_COLLECTIONS	この要件を参照しているコレクションの名前。
<コメント>	RTM_COMMENTS	この要件に関連するコメント。
<コンテナ>	RTM_KEYWORD	この要件を参照しているコンテナの名前。
<ドキュメント>	RTM_DOCUMENTS	この要件を参照しているドキュメントの名前。
<階層的な親>	RTM_HIERARCHY_PARENT	階層内の要件オブジェクトの親。
<リンクあり>	RTM_RELATION	<p>リンクされた要件が指定された属性制約と一致する要件をカウントします。たとえば、リンクされたクラスの属性制約でリスト属性値を指定すると、リンクされた要件がそのリスト属性値と一致するすべての要件が「リンクあり」としてカウントされ、一致しないすべての要件が「リンクなし」としてカウントされます。</p> <p><b>注記</b> この属性は、グラフィカルレポートでのみ使用できます。</p>

属性名	スクリプト名	説明
<この要件へのリンクの詳細>	RTM_LINKS_TO_DETAILS	他の要件からこの要件にリンクされた要件の PUID。結果リスト ([ <a href="#">グリッド</a> ]/[ <a href="#">編集可能なグリッド</a> ]) <a href="#">要件のレイアウトモード</a> のクイック検索、レポート、またはドキュメント) で、PUID をクリックして、リンクされた要件を開くことができます。 <この要件へのリンクの詳細>に属性を追加することができます。手順については、「 <a href="#">リンクブラウザの設定</a> 」(97ページ) を参照してください。
<この要件からのリンクの詳細>	RTM_LINKS_FROM_DETAILS	この要件のリンク先の要件の PUID。結果リスト ([ <a href="#">グリッド</a> ]/[ <a href="#">編集可能なグリッド</a> ]) <a href="#">要件のレイアウトモード</a> のクイック検索、レポート、またはドキュメント) で、PUID をクリックして、リンクされた要件を開くことができます。 <この要件へのリンクの詳細>に属性を追加することができます。手順については、「 <a href="#">リンクブラウザの設定</a> 」(97ページ) を参照してください。 <リンク先のテストケース>を使用する場合、テストケースは<この要件からのリンクの詳細>結果リストに含まれないことに注意してください。
<リンク先のテストケース>	RTM_LINKED_TESTCASES	この要件のリンク先のテストケース (「 <a href="#">テスト管理</a> 」(359ページ) を参照) の PUID。結果リスト ([ <a href="#">グリッド</a> ]/[ <a href="#">編集可能なグリッド</a> ]) <a href="#">要件のレイアウトモード</a> のクイック検索、レポート、またはドキュメント) で、PUID をクリックして、リンクされた要件を開くことができます。 <リンク先のテストケース>を使用する場合、デフォルトでは、テストケースは<この要件からのリンクの詳細>結果リストに表示されないことに注意してください。
<この要件へのリンク>	RTM_LINKS_TO	他の要件からこの要件へのリンクの数。 結果リスト ([ <a href="#">グリッド</a> ]/[ <a href="#">編集可能なグリッド</a> ]) <a href="#">要件のレイアウトモード</a> のクイック検索、レポート、またはドキュメント) で、結果リストの要件の [ <a href="#">この要件へのリンク</a> ] 列の矢印または数値をクリックしてリンクされた要件のリストを開くことができます。リスト内の要件をクリックすると、その要件が編集用に開きます。
<この要件からのリンク>	RTM_LINKS_FROM	この要件から他の要件へのリンクの数 (リンクされたテストケースの数を含む)。 結果リスト ([ <a href="#">グリッド</a> ]/[ <a href="#">編集可能なグリッド</a> ]) <a href="#">要件のレイアウトモード</a> のクイック検索、レポート、またはドキュメント) で、結果リストの要件の [ <a href="#">この要件からのリンク</a> ] 列の矢印または数値をクリックしてリンクされた要件のリストを開くことができます。リスト内の要件をクリックすると、その要件が編集用に開きます。



属性名	スクリプト名	説明
<通知>	NOTIFICATION	通知の設定ステータスを示します。 可能な値: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Yes:</b> 有効</li> <li>■ <b>No:</b> 無効</li> </ul> 値が指定されていない場合、通知は設定されていません。
<提案>	RTM_PROPOSALS	ステータスが <b>提案済み</b> の要件に関連する提案の数。承認済みまたは拒否済みの提案はカウントされません。数値をクリックすると、[変更の承認]ダイアログが開きます。このダイアログでは、提案を承認または拒否することができます。詳細については、「 <a href="#">変更要求のレビュー</a> 」(201ページ)を参照してください。
<関連コンテナ>	RTM_RELATED_CONTAINER	関連するワークフロー項目に関連付けられたコンテナをリスト表示します(ワークフローのみで使用)。リスト表示された項目を開くと、コンテナのタイプと詳細が表示されます。
<スナップショット>	RTM_SNAPSHOTS	この要件を参照しているドキュメントのスナップショットの名前。
<スレッド>	RTM_COMMENTS_THREAD	コメントの並べ替え順でのみ使用できます。コメントがスレッドで並べ替えられた場合、返信は、返信先のコメントの後に表示されます。

スクリプト名は、レポートスクリプトの作成または変更時、またはDimensions RM Web Services へのアクセス時に使用します。スクリプトの詳細については、「[スクリプトの構文](#)」(507ページ)を参照してください。Dimensions RM Web Servicesの詳細については、『Web Service and Rest Service Reference』ガイドを参照してください。

## Dimensions RM へのアクセス

### ログイン

ユーザーのログイン手順は、管理者がどのログインソースを実装しているかに応じて変わります。

- 「[RM または LDAP のログイン](#)」(66 ページ)
- 「[シングルサインオン \(SSO\) のログイン](#)」(66 ページ)
- 「[スマートカードを使用したシングルサインオンのログイン](#)」(66 ページ)

- 「Azure ログイン」(67 ページ)



#### 注記

- RM Browserにログインするには、Cookieを有効にする必要があります。
- 一定期間操作が行われないと、RM Browserセッションがタイムアウトし、ユーザーはRM Browserからログアウトされます。ログインダイアログが表示されるため、ユーザーは再度ログインすることができます。デフォルトで、セッションタイムアウトは30分です。管理者はこの値を変更できます。RM Browserでの作業が終了したら、RM Browserからログアウトすることをお勧めします。
- RMのログインで2要素認証(2FA)を使用する場合は、認証システムアプリ(例: NetIQ Advanced Authenticator、Google Authenticator、またはMicrosoft Authenticator)が必要です。これらは、Google PlayストアまたはApple App Storeでダウンロードできます。認証システムアプリでログインプロセスをサポートするには、[パスワードの変更]ダイアログを開き(「パスワードの変更」(68ページ)を参照)、QRコードをスキャンします。

## RM または LDAP のログイン

RM Browserにログインするには、次の手順を実行します。

- 1 管理者が指定したURLに移動します。ユーザーログインページが開きます。
- 2 ユーザー名とパスワードを入力します。
- 3 作業を行うデータベースを選択します。初めてログインしたときには、すべてのリストが表示されます。その後は、最後にアクセスしたデータベースがデフォルトで選択されます。
- 4 作業を行うRMインスタンスを選択します。アクセス可能なRMインスタンスのみが表示されます。
- 5 [ログイン] ボタンをクリックするか、Enterキーを押します。

## シングルサインオン (SSO) のログイン

SSOでログインするには、次の手順を実行します。

- 1 管理者が指定したURLに移動します。SSOサインインページが開きます。
- 2 ユーザー名とパスワードを入力します。
- 3 [ログイン] ボタンをクリックします。ユーザーログインページが開きます。
- 4 作業を行うデータベースを選択します。初めてログインしたときには、すべてのリストが表示されます。その後は、最後にアクセスしたデータベースがデフォルトで選択されます。
- 5 作業を行うインスタンスを選択します。アクセス可能なインスタンスのみが表示されます。
- 6 [ログイン] ボタンをクリックするか、Enterキーを押します。

## スマートカードを使用したシングルサインオンのログイン

スマートカードでログインするには、次の手順を実行します。

- 1 管理者が指定したURLに移動します。SSOサインインページが開きます。

- 2 スマートカードがカードリーダーに挿入されているのを確認し、[スマートカードログイン] ボタンをクリックします。
- 3 スマートカード (CAC) から有効な証明書を選択し、必要なPINを入力します。
- 4 [OK] ボタンをクリックします。[ユーザー名] フィールドが入力済みの読み取り専用の状態で、ユーザーログインページが開きます。
- 5 作業を行うデータベースを選択します。初めてログインしたときには、すべてのリストが表示されず、その後は、最後にアクセスしたデータベースがデフォルトで選択されます。
- 6 作業を行うインスタンスを選択します。アクセス可能なインスタンスのみが表示されます。
- 7 [続行] ボタンをクリックするか、Enterキーを押します。

## Azure ログイン

管理者がMicrosoft Azure経由のログインを設定した場合は、Azureログイン資格情報を使用してDimensions RMにログインすることが必要になる場合があります。

**Azureでログインするには、次の手順を実行します。**

- 1 管理者が指定したURLに移動します。Dimensions RM環境設定に応じて、Dimensions RMユーザーログインページまたはAzureログインページが開きます。
- 2 Dimensions RMユーザーログインページが開いた場合、[ログイン] ボタンの下にある**Microsoft Azure認証**のリンクをクリックします。
- 3 Azureユーザー名を入力して、[次へ] をクリックします。
- 4 パスワードを入力して、[サインイン] をクリックします。
- 5 作業を行うデータベースを選択します。初めてログインしたときには、すべてのリストが表示されず、その後は、最後にアクセスしたデータベースがデフォルトで選択されます。
- 6 作業を行うRMインスタンスを選択します。アクセス可能なRMインスタンスのみが表示されます。
- 7 [ログイン] ボタンをクリックするか、Enterキーを押します。

## ログアウト

**RM Browserからログアウトするには、次の手順を実行します。**

[ようこそ] メニューから [ログアウト] を選択します。[ようこそ] メニューの詳細については、「[ようこそ] メニュー」(26ページ) を参照してください。



**注記** RM Browserでの作業が終了したら、RM Browserからログアウトすることをお勧めします。

## 別のRMインスタンスへの切り替え

同じデータベース内の別のRMインスタンスに切り替えるには、現在のRMインスタンス名の横にあるUボタンをクリックします。

RMDEMO ▾ >  RMDEMO

別のデータベースのRMインスタンスに切り替える場合は、ログアウトしてから、目的のデータベースにログインする必要があります。「[Dimensions RMへのアクセス](#)」(65ページ)を参照してください。

## パスワードの変更



**注記** 以下の内容については、RMを使用してログインしている組織または組織内のユーザーにのみ影響があります。

ユーザーがパスワードを定期的に変更することは、効果的なセキュリティ対策になります。RM管理者は、パスワードの有効期限が切れるまでの日数を設定して、定期的なパスワード変更を強制できます。また、RM管理者は、パスワードの最小文字数、新しいパスワードと古いパスワードの間で異ならなければならない最小文字数、文字/数字/特殊文字の最小数、パスワードの頻繁な再利用を防ぐために保存する古いパスワードの数といったパスワードの品質要件を適用することもできます。以下の手順を使用すると、RMデータベースで使用されているパスワードルールを表示できます。

現在のパスワードの有効期限が近くなると、パスワードを変更するための警告ダイアログが表示されます。

パスワードを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 画面の右上にある [ようこそ、<ユーザー ID> さん] リンクをクリックします。[パスワードの変更] ダイアログボックスが開きます。
- 2 このRMデータベースで使用されているパスワードルールを表示するには、[パスワードルール] リンクをクリックします。



### 注記

- このルールは、データベース内のすべてのRMインスタンスに適用されます。
- RM管理者は、このルールの対象から個別のユーザーを除外することができます。除外されたユーザーであっても、[パスワードルール] リンクをクリックすると、ルールが表示されます。

- 3 既存のパスワードを [古いパスワード] フィールドに入力します。
- 4 新しいパスワードを [新しいパスワード] フィールドに入力します。
- 5 新しいパスワードを [パスワードの確認] フィールドに再度入力します。
- 6 [OK] をクリックします。

## ヘルプの表示

現在使用中のページまたはダイアログボックスに固有のヘルプを表示できます。また、ヘルプシステム全体の目次機能や検索機能を使用して、情報を探し出すこともできます。

開いているページまたはダイアログボックスのヘルプを表示するには、次の手順を実行します。



- **ビューの場合:** (例: [ホーム] ビュー、ドキュメントビュー、クイック検索) [ようこそ] メニューから [ヘルプ] を選択します。そのビューのヘルプトピックが開きます。
- **ダイアログの場合:** ダイアログの右上にある [ヘルプ] リンクをクリックします。そのダイアログのヘルプトピックが開きます。

## ユーザー通知



### 通知の有効化と無効化

選択したプライベート通知ルールは、ブラウザーの右上隅にあるユーザーアイコンの下の [通知] ドロップダウンから有効化できます。

通知を有効化するには、次の手順を実行します。

- 1 [ユーザー] メニューから [通知] を選択します。[通知] ダイアログが開きます。
- 2 [非アクティブな通知] のリストで、クラス名の横にある  をクリックしてクラスを展開します。
- 3 該当する通知ルールを強調表示します。
- 4  をクリックしてアクティブリストに移動します。
- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [閉じる] をクリックしてダイアログを終了します。

通知を無効化するには、次の手順を実行します。

- 1 [ユーザー] メニューから [通知] を選択します。
- 2 [アクティブな通知] リストで、クラス名の横の  をクリックして目的のクラスを展開します。
- 3 該当する通知ルールを強調表示します。
- 4  をクリックして非アクティブリストに移動します。
- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [閉じる] をクリックしてダイアログを終了します。

### プライベート通知ルールの作成

ユーザーは、インスタンス管理者が作成した通知をアクティブ化したり ([「通知の有効化と無効化」\(69ページ\)](#) を参照)、個人通知を作成して管理したりできます。

また、インスタンス管理者が定義した通知ルールと同じ動作をするプライベート通知を作成することもできます。プライベート通知とグループのすべてのメンバーが利用できる通知の唯一の違いは、プライベート通知には作成者だけがアクセスできることです。

新しいプライベート通知を作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [ユーザー]メニューから[通知]を選択します。[通知]ダイアログが開きます。
- 2 詳細な手順については、「[通知ルール](#)」(421ページ)を参照してください。

## 用語集

Dimensions RMの用語集は、管理者が『Administrator's Guide』の説明に従ってGlossaryクラスを作成した場合のみアクティブになります。


用語集では、独自のエントリを定義することができます。HTML属性およびチャプターのテキストでは、用語集のエントリをスキャンできます。一致した用語ごとに、ツールチップにその用語の説明が表示されます。一致した用語は、白色のテキストと青緑色の背景色で分かりやすく表示されます。

用語集には、使用が推奨されていない表現を含めることもできます。用語が**非推奨**とマークされ、用語集の強調表示が有効になっている場合、その用語には赤色のマークが付きます。非推奨の表現は、ドキュメントの用語集チャプターには追加されません。

用語集は、次の方法で使用できます。

[ホーム]ビューの[用語集]タブを使用する。「[\[用語集\]タブ](#)」(281ページ)を参照してください。

要件およびドキュメントのチャプターのHTML対応属性から表示する。「[HTMLテキスト書式設定ツールバー](#)」(43ページ)を参照してください。

ドキュメントで、 アイコンをクリックして用語集エントリをスキャンする。「[詳細ペイン](#)」(110ページ)を参照してください。

## グラフィエディター

グラフィエディターでは、高度な図表の作成や編集を行うことができます。グラフィエディターでは、次のような機能が利用できます。

- 図表の新規作成
- 既存の図表の編集
- Microsoft® Visioファイル(vsd形式)のインポート
- 数多くの図形やチャートが利用可能
- 画像の参照が可能(URLを使用)

詳細については、以下を参照してください。

「グラフエディターを開く」(71ページ)


「[グラフエディター] ダイアログ」(71ページ)

「グラフエディターの [ファイル] メニュー」(72ページ)


グラフエディターの追加情報については、<https://support.draw.io/display/D0/Draw.io+Online+User+Manual>を参照してください。

## グラフエディターを開く

要件でグラフエディターを開くには、次の手順を実行します。

- 1 既存の要件を開くか、新規要件を作成します。
- 2 HTML対応テキスト属性内をクリックします。
- 3  をクリックします。

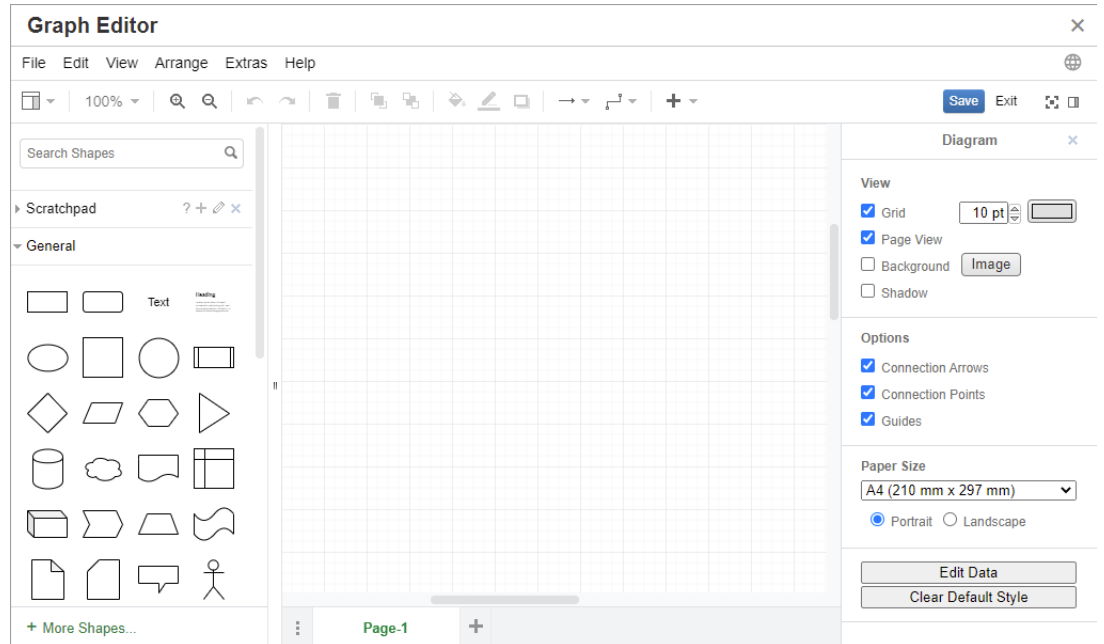
ドキュメントでグラフエディターを開くには、次の手順を実行します。

- 1 チャプターエディターを開きます。
- 2 チャプターの説明ボックス内をクリックします。
- 3  をクリックします。

## [グラフエディター] ダイアログ

[グラフエディター] ダイアログでは、図表の編集を行うことができます。このダイアログは、次のセクションに分かれています。

- メニューバー
- ツールバー
- 図形パネル
- 編集領域
- 図表パネルまたは書式パネル



## グラフエディターの [ファイル] メニュー

[ファイル] メニューでは、次の機能が利用できます。

- 1 **次の場所からインポート:** vsdx形式のMicrosoft ® Visioファイルおよびその他のファイル形式をインポートできます。以下の形式のファイルをインポートできます。
  - **VSDX**形式のMS Visioファイル。その他のVisio形式 (VSDなど) はサポートされていません。
  - GIF、JPG、PNG 形式の画像
  - HTML ファイルファイルをインポートするには、次の手順を実行します。
  - a [ファイル] メニューで [次の場所からインポート] をポイントし、ファイルの場所を選択します。
  - b **デバイス ...:** [アップロードするファイルの選択] ダイアログが開きます。次に、インポートするファイルを選択し、[開く] をクリックします。
  - c **URL...:** [URL] ボックスにインポートするファイルのURLを入力します。
  - d [インポート] をクリックします。
- 2 **形式を指定してエクスポート:** グラフをさまざまな形式でエクスポートできます。
- 3 **ページ設定:** 以下を選択するためのダイアログが開きます。
  - 用紙サイズ
  - 向き
  - 背景色
  - (編集領域の) グリッドサイズ



4 印刷: 次の機能が利用できます。

- 印刷
- プレビュー
- 拡大縮小

## コメントの操作

チャプターまたは要件には、コメントを追加できます。コメントでは、ユーザーが要件やチャプターに関するトピックについてディスカッションできます。この機能により、チームメンバーはコメントスレッドをフォローしたり、レビューと承認のプロセスですべてのコメントを検討したりできます。コメントはクイック検索で検索できます (詳細については、「[クイック検索による要件の検索](#)」(174 ページ) を参照してください)。



**注記** コメントを追加したり、コメントに返信したりするには、次の権限が必要です。

- Commentクラスの作成権限
- 要件クラスの閲覧権限
- Commentクラスと要件クラス間の関係の作成権限

詳細については、以下を参照してください。

[「ドキュメント内のコメント」](#) (73 ページ)

[「要件内のコメントの管理」](#) (75 ページ)

[「\[アクション\] ペインからのコメントの追加」](#) (76 ページ)

[「ディスカッションからのコメントの追加」](#) (76 ページ)

[「コメントへの返信」](#) (73 ページ)

### ドキュメント内のコメント

ドキュメントでコメントを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 目的のドキュメントを開きます。
- 2 [アクション] ペインの [コメント] セットを展開します。
- 3 ドキュメントツリーでコメントを追加するチャプターまたは要件を選択します。
- 4 **+** をクリックするか、特定のコメントに対する [返信] をクリックします。必須属性である [件名] と [コメント] がダイアログに追加され、さらに、管理者が設定した他の属性も追加されます。
- 5 コメントを入力し、[保存] をクリックします。

#### コメントへの返信

ドキュメントでは、以下の手順を実行することで、要件またはチャプターに関連付けられたコメントにすばやく返信できます。

ドキュメント内のコメントに返信するには、次の手順を実行します。

- 1 目的のドキュメントを開きます。
- 2 ドキュメントツリーでルートチャプターを選択します。
- 3 [アクション] ペインの [コメント] セットを展開します。
- 4 必要に応じて、コメントをフィルタリングします (詳細については、「ドキュメント内のコメント」(73ページ) を参照してください)。
- 5 目的のコメントで、[返信] をクリックします。
- 6 コメントを入力し、[保存] をクリックします。

#### テキストへのコメントの追加







ドキュメントでは、チャプターまたは要件内の任意の文字列に、コメントを追加することができます。コメントを追加すると、コメントを追加した文字列がハイライト表示されます。コメントをクリックすると、ドキュメントビューの関連するチャプターまたは要件に移動できます。

コメントを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 コメントを追加する文字列を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [コメント] セクションで、+ をクリックします。
- 3 コメントを追加します。
- 4 [保存] をクリックします。

[コメント] グループでは、次の機能が利用できます。

**フィルタリング:** [新規]、[アクティブ]、[完了]、[承認済み]、または [拒否済み] ボタンをクリックすると、コメントを状態別にフィルタリングできます。各状態ボタンの数値は、その状態のコメントの数を表示しています。

-  **自分のコメントの表示:** クリックすると、ユーザーが参加したすべてのコメントスレッドが表示されます。
-  **すべてのコメントの表示:** クリックすると、ドキュメント内のすべてのコメントが表示されます。もう一度クリックすると、選択されたチャプターまたは要件のコメントのみが表示されます。
-  **削除されたコメントの表示:** クリックすると、削除済みの要件またはチャプターに属するすべてのコメント、またはドキュメントから除去された要件のすべてのコメントが表示されます。ただし、この機能はスナップショットでは利用できません。
- +** **コメントの追加:** コメントリストの末尾にテキスト入力フィールドが表示されます。コメントを確定する場合は、[保存] をクリックします。コメントを破棄する場合は、[閉じる] をクリックします。
-  **更新:** コメントリストを再ロードします。
-  **前のコメント:** コメントリストの前のコメントを選択します。
-  **次のコメント:** コメントリストの次のコメントを選択します。

## 要件内のコメントの管理






[コメント] グループでは、次の機能が利用できます。

**フィルタリング:** [新規]、[アクティブ]、[完了]、または [拒否済み] ボタンをクリックすると、コメントを状態別にフィルタリングできます。各状態ボタンの数値は、その状態のコメントの数を表しています。

- + **コメントの追加:** [属性の編集] ダイアログの下部に入力領域が表示されます。コメントを確定する場合は、[保存] をクリックします。コメントを破棄する場合は、[閉じる] をクリックします。
- 🔄 **更新:** コメントリストを再ロードします。







### コメントの状態

各コメントは、次のいずれかの状態になっています。

-  **新規:** 現在のユーザーがまだ読んでいないコメントです。
-  **既読:** 既読ですが、取り込み済みまたは拒否済みではないコメントです。
-  **完了:** 取り込み済みのコメントです。
-  **承認済み:** 承認済みのコメントです。
-  **拒否済み:** 拒否済みのコメントです。

### コメントの機能

各コメントで、次の機能が利用できます。

-  **取り込み:** コメントの承認/取り込みを行います。
-  **承認:** この機能は、管理者が承認機能を許可するように設定している場合にのみ使用できます。コメントを承認するには、最初にコメントを取り込む必要があります。
-  **拒否:** コメントを拒否します。
-  **削除:** コメントを削除します。次のすべての条件に当てはまる場合にのみ、コメントを削除できます。
  - 自分が所有するコメントであること。
  - コメントに返信が付いていないこと。
-  **返信:** 新しいコメントを返信として追加します。コメントを入力するテキストボックスが、コメント内に表示されます。返信を確定する場合は、[保存] をクリックします。返信を破棄する場合は、[閉じる] をクリックします。
-  **返信を表示:** コメント内の返信を表示します。

- ☐ **返信を非表示:** コメントへの返信を表示しません。
- @ **ユーザーの選択:** コメントに@記号を入力すると、リストが表示され、ユーザーを選択できます。管理者が通知サービスを設定している場合、コメントに追加されたユーザーに変更が通知されます。

## [アクション] ペインからのコメントの追加

[アクション] ペインから要件にコメントを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 ([ホーム] ビュー、クイック検索、またはドキュメントビューなどで) 要件を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットから [コメントの追加] を選択します。[コメントの追加] ダイアログが開きます。
- 3 見出しを [件名] ボックスに入力し、[コメント] ボックスにコメントを入力します。
- 4 必要に応じて、その他の属性を入力または選択します。
- 5 次のいずれかをクリックします。
  - **保存:** 選択した要件にコメントを追加し、ダイアログを開いたままにします。
  - **閉じる:** 選択した要件にコメントを追加し、ダイアログを閉じます。

## ディスカッションからのコメントの追加

ディスカッションからコメントを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 要件を編集用を開きます。
- 2 [コメント] セクションを展開します。
- 3 **+** をクリックするか、特定のコメントに対する [返信] をクリックします。必須属性である [件名] と [コメント] がダイアログに追加され、さらに、管理者が設定した他の属性も追加されます。



**注記** 新しいディスカッションを開始する場合、ディスカッションの件名を [件名] ボックスに入力します。コメントに返信する場合は、すでにタイトルが入力されており、タイトルの前には Re. が追加されています。タイトルを変更すると、コメントは元のディスカッションスレッドから切り離され、新しいディスカッションが始まります。

- 4 必要に応じて、その他の属性を入力または選択します。
- 5 次のいずれかをクリックします。
  - **保存:** 選択した要件にコメントを追加し、ダイアログを開いたままにします。
  - **閉じる:** コメントを保存せずにダイアログを閉じます。

## フルインターフェイスでの表示

第三者から受け取ったリンクを使用してオブジェクト (要件、ドキュメント、スナップショット、コレクション、またはベースライン) を開く場合、ログインが必要になることがあります。

ログイン時に、[フルインターフェイスも開く] オプションを有効にすると、関連するビューのナビゲーション要素と、開いたオブジェクトが表示されます。シングルサインオン (SSO) の場合、[フルインターフェイスも開く] オプションは使用できません。

([フルインターフェイスも開く] オプションが選択されていないか、SSOでログインしているため) オブジェクトがフルインターフェイスで表示されていない場合は、画面の右上にある [全画面表示で開く] をクリックすると、フルインターフェイスで表示されます。

## バージョンおよびシステム情報の表示

バージョンおよびシステム情報を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 RM Browserの右上にある [バージョン情報] リンクをクリックします。[Dimensions RMのバージョン情報] ダイアログボックスが開きます。

以下の情報が表示されます。

- **バージョン**: 使用中のDimensions RMの正確なバージョン。
- **Webサーバー**: RMをホストしているWebサーバーの種類。  
例: Apache Tomcat/9.0.68
- **WebサーバーのOS**: Webサーバー上で使用しているオペレーティングシステム。
- **データベース**: 使用中のデータベース、バージョン番号、構成。
- **クライアント**: データベースクライアント情報。
- **ブラウザー名**: 使用中のブラウザーソフトウェアの名前。
- **ブラウザーエージェント**: ブラウザーとその設定に関するバージョン固有の情報。
- Micro Focusのホームページへのリンク、Micro Focusの問い合わせ情報、およびその他の便利なリンクについては、[連絡先情報] タブを参照してください。

## RM Browserでのスペルチェックの使用

Dimensions RMでは、次の要件入力フィールドで、スペルチェック機能をサポートしています。

- テキストボックス
- [属性の編集] ダイアログおよび編集可能なグリッドのHTMLテキストボックス

## Internet Explorerの設定

Internet Explorerでは、いくつかの言語のスペルチェックが可能です。一度に使用できる言語は1つだけです。スペルチェックのデフォルト言語は、Windowsインストールの言語または英語のいずれかです。

**Internet Explorer 11でスペルチェックを設定するには、次の手順を実行します。**

- 1 次のいずれかを実行します。
  - 歯車をクリックし、ショートカットメニューから [アドオンの管理] を選択します。
  - **Alt** キーを押してから放し、続いて、[ツール] メニューから [アドオンの管理] を選択します。
- 2 [アドオンの種類] リストで、[スペルの修正] を選択します。
- 3 [スペルの修正を有効にする] オプションが選択されていることを確認します。
- 4 スペルチェックの言語を変更するには、目的の言語を右クリックし、ショートカットメニューで [標準に設定] を選択します。
- 5 [閉じる] をクリックします。

## Edgeの設定

Edgeでは、Windowsにインストールされた任意の辞書でスペルチェックを行うことができます。一度に使用できる言語は1つだけです。スペルチェックのデフォルト言語は、Windowsインストールの言語です。追加の辞書をインストールするには、「[追加辞書のインストール](#)」(78ページ)を参照してください。

**現在の言語で単語を修正するには、次の手順を実行します。**

- 1 間違っている単語を右クリックします。ショートカットメニューが表示されます。
- 2 ショートカットメニューから正しい綴りを選択します。

**辞書がインストールされた別の言語で単語を修正するには、次の手順を実行します。**

- 1 正しくない単語を選択します (左クリック)。
- 2 システムトレイで、キーボードシンボルの横 (Windowsタスクバーの時計の近く) にある言語ショートカットをクリックします。インストールされている言語のリストと入力方式のリストが表示されます。
- 3 スペルチェックに使用する言語を選択します。
- 4 間違っている単語を右クリックします。ショートカットメニューが表示されます。
- 5 ショートカットメニューから正しい綴りを選択します。

## 追加辞書のインストール

**辞書をインストールするには、次の手順を実行します。**

- 1 Windowsのスタートメニューボタンをクリックします。

- 2 歯車（設定）をクリックします。
- 3 [時刻と言語] を選択します。
- 4 [地域と言語] を選択します。
- 5 [言語を追加する] をクリックします。使用可能な言語のリストが表示されます。
- 6 リストから目的の言語を選択します。ダウンロードが開始され、辞書がインストールされます。

## Firefoxの設定

Firefoxでは、いくつかの言語のスペルチェックが可能です。一度に使用できる言語は1つだけです。スペルチェックのデフォルト言語は、Firefoxインストールの言語です。

**Firefox 61でスペルチェックを設定するには、次の手順を実行します。**

- 1 次のいずれかを実行します。
  - ☰ をクリックし、メニューから [オプション] を選択します。
  - **Alt** キーを押してから放し、続いて、[ツール] メニューから [オプション] を選択します。
- 2 検索ボックスに、「スペル」と入力します。
- 3 [自動スペルチェック機能を使用する] オプションが選択されていることを確認します。

### 追加辞書のインストール

辞書をインストールするには、次の手順を実行します。



**注意！** Firefoxの辞書はアドオンです。辞書のインストールは、組織のポリシーでアドオンのインストールが許可されている場合にのみ行ってください。

- 1 次のいずれかを実行します。
  - ☰ をクリックし、メニューから [アドオン] を選択します。
  - **Alt** キーを押してから放し、続いて、[ツール] メニューから [アドオン] を選択します。
- 2 左側のペインで [拡張機能] を選択します。
- 3 検索ボックスに検索語句を入力します（例：German dictionary）。
- 4 目的の辞書と一致する検索結果をクリックします。その辞書の [アドオン] ページが開きます。
- 5 [Firefoxへ追加] をクリックします。
- 6 ダウンロードが完了したら、[追加] をクリックします。

## スペルチェックの使用

Firefoxでは、辞書がインストールされている任意の辞書でスペルチェックを行うことができます。辞書をインストールするには、「[追加辞書のインストール](#)」(79ページ)を参照してください。


テキストフィールドのスペルチェックを行うには、次の手順を実行します。

- 1 チェックするテキストフィールドを右クリックします。
- 2 ショートカットメニューから、[**スペルチェックを行う**]を選択します。最後にスペルチェックを行った言語が使用されます。
- 3 別の言語でスペルチェックを繰り返す場合は、次の手順を実行します。
  - a チェックするテキストフィールドを右クリックします。
  - b [**言語**]メニューで、スペルチェックに使用する言語を選択します。

## Chromeの設定


Chromeでは、辞書がインストールされている任意の辞書でスペルチェックを行うことができます。辞書をインストールするには、「[追加辞書のインストール](#)」(80ページ)を参照してください。

**Chrome 78**でスペルチェックを有効または無効にするには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックし、メニューから [**設定**]を選択します。
- 2 [**詳細設定**] をクリックします。
- 3 [**言語**] を選択します。
- 4 [**言語**] セクションを展開します。
- 5 スペルチェックを有効または無効にするには、**スペルチェック**という単語の横のスライダーを切り替えます。スイッチが右側にあれば、スペルチェックは有効です。

## 追加辞書のインストール

**Chrome 78**に辞書を追加するには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックし、メニューから [**設定**]を選択します。
- 2 ページの末尾に移動して、[**詳細設定**] をクリックします。
- 3 [**言語**] を選択します。
- 4 [**言語**] セクションを展開します。
- 5 [**言語を追加**] をクリックします。
- 6 [**言語**] リストで、使用する言語を選択します。  
スペルチェック機能では、すべての言語が使用できる訳ではありません。
- 7 [**追加**] をクリックします。
- 8 スペルチェックを有効または無効にするには、**スペルチェック**という単語の横のスライダーを切り替えます。スイッチが右側にあれば、スペルチェックは有効です。



## 第2章

---

# Dimensions RM の設定

ユーザー設定とインスタンス設定	82
設定の構成	82

---

## ユーザー設定とインスタンス設定

インスタンス設定は、インスタンス管理者が確立して維持する設定です。これらの設定の多くは、個々のユーザーが、独自のニーズに合った環境を構築するためにオーバーライドすることができます。たとえば、ユーザーは、ブラウザーで使用する言語を変更したり、デフォルトで利用可能な要件タイプや各タイプで表示される属性を制限したりできます。

次のセクションでは、すべての設定を定義し、ユーザーが変更できる設定についてはその詳細を示します。このセクションには、管理者のみが利用できるインスタンス全体の設定が含まれています。



### 注記

- 一部のセクション（たとえば [クイック検索] タブ）では、選択された各クラスは最初に [インスタンス設定を使用する] ボックスがチェックされた状態で表示されます。変更を加える前に、このボックスをクリアする必要があります。
- 設定の中にはインスタンス全体に適用されるものがあります。これらの設定は、[ユーザー設定] ダイアログではグレー表示になり、編集することはできません。
- それぞれの [ユーザー設定] タブの左下に、[インスタンス設定にリセット] ボタンがあります。

## 設定の構成

[ユーザー設定] ダイアログと [インスタンス設定] ダイアログは似ています。このセクションでは [ユーザー設定] の機能と使用に重点を置いて説明していますが、[インスタンス設定] も記載されています。ユーザーはこれらの設定を変更することはできませんが、設定を理解し、おそらくは変更を要求したいと考えるでしょう。

[ユーザー設定] は、画面の右上隅にある [ようこそ] メニューからアクセスします。[インスタンス設定] には、[管理] メニューからアクセスします。

メインの [設定] ダイアログは、[一般]、[ホーム]、[要件] などのタブのリストで構成されています。各タブ内には、そのタブに関連するオプションが表示されます。ユーザーや管理者は、各タブのデフォルトを選択できます。

変更が完了したら、次の操作を実行します。

- [OK] ボタンをクリックすると、変更が保存され、[設定] ダイアログが終了します。
- [適用] ボタンをクリックすると、変更が保存されます。
- [キャンセル] をクリックすると変更がキャンセルされ、[設定] ダイアログが終了します。

タブとその説明は次のとおりです。

- 「一般設定」(83 ページ)
- 「ホームの設定」(84 ページ)
- 「要件の設定」(86 ページ)
- 「クイック検索の設定」(92 ページ)
- 「階層の設定」(93 ページ)

- [「ドキュメントの設定」](#) (94 ページ)
- [「レポートの設定」](#) (97 ページ)
- [「リンクブラウザの設定」](#) (97 ページ)
- [「分割ビューの設定」](#) (98 ページ)
- [「分岐/同期ビューの設定」](#) (102 ページ)
- [「通知設定」](#) (99 ページ)
- [「リスク管理の設定」](#) (100 ページ)
- [「テスト管理」](#) (101 ページ)
- [「セキュリティ」](#) (103 ページ)

すべての実装ですべてのタブが使用できるわけではありません。たとえば、テスト管理が実装されていない場合、その設定は表示されません。

## 一般設定

以下の項目は、[ユーザー設定] ([ようこそ] メニュー) または [インスタンス設定] ([管理] メニュー) の [一般] タブから設定します。

### ロケール

管理者またはユーザーは、UIのローカライズ、つまり、デフォルト言語の変更を実行できます。利用可能な言語は、中国語、英語、ドイツ語、日本語、スペイン語、ポルトガル語 (ブラジル) です。

### テーマ

管理者またはユーザーは、RM Browserのテーマを選択できます。デフォルトのOpen Textブルー、従来のRMブルー、シアン、またはグリーンから選択できます。

### カテゴリ: 非アクティブなカテゴリを表示する

管理者は、選択したカテゴリを非アクティブ化することができます。これは通常、完了したプロジェクトまたは廃止されたコンポーネントに対して行われます。非アクティブ化されたカテゴリは、デフォルトで、カテゴリツリーやクエリダイアログで非表示になります。非アクティブなカテゴリに含まれるオブジェクト (要件、ドキュメント、コレクション、ベースライン、およびレポート) は、すべて読み取り専用です。

表示されている場合、非アクティブなカテゴリとその中のサブカテゴリは、フォルダーアイコンがグレーで表示され、名前がグレーの斜体で表示されます。

カテゴリをアクティブ化または非アクティブ化するには、「[カテゴリのアクティブ化または非アクティブ化](#)」 (415 ページ) を参照してください。

ユーザーは、非アクティブなカテゴリの表示を有効にするか無効にするかを選択できます。

#### 有効: 非アクティブなカテゴリを表示する

このオプションが**有効**の場合、カテゴリツリーには非アクティブなカテゴリが表示され、すべてのクエリダイアログにはその内容が含まれます。

#### 無効: 非アクティブなカテゴリを表示する

このオプションが**無効**の場合、カテゴリツリーには非アクティブなカテゴリは表示されず、クエリダイアログにはその内容は含まれません。

### カテゴリ: 階層リンクのデフォルトカテゴリを使用する

このオプションは、新しいオブジェクト (つまり、要件、提案、ドキュメント、コレクション、ベースライン、およびレポート) のカテゴリをダイアログで設定する方法を定義します。

#### 有効:

このオプションが**有効**の場合、新しいオブジェクト用のカテゴリ属性は、階層リンクに表示されるカテゴリで**事前入力**されます。

#### 無効:

**無効**の場合、新しいオブジェクト用に事前入力されるカテゴリは、ダイアログまたはタブで**最後に使用されたカテゴリ**と同じになります。

### 階層リンク

この設定は、[ **インスタンス設定** ] ダイアログでのみ変更できます。

管理者は、階層リンクにデータベース名を含めることができます。これは、複数のインスタンスで作業するチームにとって便利です。

#### 有効: データベース名を表示する

### コレクション: 自動更新

ユーザーは、**レポートベースのコレクション** (クエリに基づいて作成されたコレクションなど) を開いたときに自動的に更新するかどうかを選択できます。

**有効** - レポートベースのコレクションは、コレクションを開いたときに更新されます。アクティブな統合をサポートするためにレポートベースのコレクションを使用する場合、この設定を有効にすることをお勧めします。

**無効**: コレクションは手動で更新する必要があります。詳細については、「**コレクションの内容の更新**」(324 ページ) を参照してください。

### チーム

この設定は、[ **インスタンス設定** ] ダイアログでのみ変更できます。

チームは、チームとして定義されたグループにタスクを割り当てる機能を提供します (「**チームの管理**」(409 ページ) を参照)。

**有効**: チーム機能は有効です。

### アジャイル

この設定は、[ **インスタンス設定** ] ダイアログでのみ変更できます。

Dimensions RM は、アジャイル開発をサポートしています。詳細については、「**アジャイル**」(373 ページ) を参照してください。

## ホームの設定

以下の項目は、[ **ユーザー設定** ] ([ようこそ] メニュー) または [ **インスタンス設定** ] ([管理] メニュー) の [ **ホーム** ] タブから設定します。

### タブ

[ **ホーム** ] ビューからユーザーが利用できるタブとその表示順序、割り当てられたラベルを表示します。

利用可能なすべてのタブは、[ **利用可能なタブ** ] リストに含まれています。ただし、ユーザーは利用可能なタブのサブセットを選択して、[ **表示可能なタブ** ] リストに含めることができます。

表示可能なリストに表示されるアイテムは、必要に応じて選択して利用可能なリストに移動したり、戻したりすることができます。

[表示可能なタブ] リストのすべてのタブ名が、[ホーム] ビューにリストの順に表示されず (リストの一番上のエントリが [ホーム] ビューの左端のタブです)。

#### タブのラベルの変更:

インスタンス管理者またはユーザーは、プロジェクト固有のプロセス言語に合わせてタブ名を変更できます。たとえば、「リスク」を「危険」と呼んだり、「ダッシュボード」を「企業ステータス」と呼んだりしている場合、これらのラベルを適用することができます。

タブのラベルを変更するには、[表示可能なタブ] のリストでタブを強調表示し、タブの順序を変更するために使用する矢印の下にある文字 **[A]** を選択します。

### デフォルトビュー

ホームページの左端のパネル ([カテゴリ] ペイン) のリストは、次の2つの表示のいずれかに設定できます。

**[カテゴリ] ビューを有効にする:** カテゴリとサブカテゴリをファイルシステムのフォルダーのように表示します。カテゴリビューでは、フォルダーを選択すると、選択したカテゴリに関連するオブジェクトが表示され、デフォルトでは新しいオブジェクトはそのフォルダー内に作成されます。

**[階層] ビューを有効にする:** カテゴリもフォルダーとして表示されますが、表示が拡張され、フォルダー内に含まれるオブジェクト (要件、ドキュメントなど) が階層構造で表示されます。多くの組織では、この階層形式で要件を管理し、ドキュメントのような構造で、ヘッダー要件をその下の詳細からオフセットすることを選択しています。実際、ドキュメントは階層構造から直接作成および入力できます。

要件階層を管理するすべてのチームメンバーが、オブジェクトの作成と変更に関与する際に階層ビューを選択することが一般的です。これにより、階層構造が維持されます。

### 最近使用した項目

ユーザーは、1つ以上のボックスをチェックして、[ホーム] ビューの **[最近]** に表示される最近変更されたオブジェクトのタイプを選択します。要件のセットを変更または確認したり、お気に入りのレポートを実行したりするときに、**[最近]** を使用すると、ユーザーは簡単にオブジェクトに戻り、さらに検討したり、リンクしたりすることができます。

**[最近]** の右側にある歯車を使用すると、ユーザーは作業中に設定を変更し、現在重要なものだけを表示するように制限することができます。

ドキュメント/スナップショット

要件

レポート

コレクション/ベースライン

#### ドキュメント: 最も新しいスナップショットだけを表示する

**有効:** 最新のドキュメントスナップショットのみが [ホーム] ビューに表示されます。このオプションをクリアすると、すべてのドキュメントスナップショットが表示されます。

### ページネーション

**有効:** ドキュメントの [コレクション] タブと [ベースライン] タブのリストビューは、指定された **[ページサイズ]** によって制限されます。

## 要件の設定

以下の項目は、[ユーザー設定] ([ようこそ] メニュー) または [インスタンス設定] ([管理] メニュー) の [要件] タブから設定します。

[要件] タブ設定の詳細は、以下のとおりです。

- [同時編集](#)
- [クラスの表示設定](#)
- [ユーザー属性の表示設定](#)
- [リストの表示設定](#)
- [ワークフロー設定](#)
- [テキストフィールドの高さ](#)
- [コピーオプション](#)
- [変更提案](#)
- [要検討リンク](#)
- [クラスの変更](#)
- [コメント](#)
- [複雑性分析](#)
- [類似性分析](#)
- [デフォルトのリンクビュー](#)

### 同時編集

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

**有効: 編集中に要件をロックする** - 要件オブジェクトがロックされている間 (つまり、チームメンバーが編集モードで開いている間)、ユーザーはその要件オブジェクトを編集のために開くことはできません。ユーザーには、アイテムがロックされていることと、ロックしたユーザーが通知されます。

**有効: 同時編集とマージを許可する** - 複数のユーザーが同時にオブジェクトを変更できます。同時編集が許可されている場合、2番目のユーザーがファイルを保存するときにダイアログが表示されます。「[要件変更のマージ](#)」(239ページ) を参照してください。

マージ機能が適切に動作するため、ほとんどの組織では同時編集を選択しています。

### クラスの表示設定

この設定は、[インスタンス設定] または [ユーザー設定] で変更できます。

デフォルトで表示されるクラスを制限し、表示順序を制御します。これにより、たとえばアナリストは、機能要件を最初にリストし、テストケースと不具合を除外するようにデフォルトのリストを制限することができます。

変更を行うには、ユーザーは [インスタンス設定を使用する] を無効にする必要があります。

アクセスできるすべてのクラスは、左側の [利用可能なクラス] リストに含まれています。ユーザーは、利用可能なクラスのサブセットを選択して、右側の [選択したクラス] リストに含めることができます。上矢印と下矢印を使用して表示順序を変更できます。

表示対象としてクラスのサブセットが選択されている場合、クイック検索などのダイアログで [すべてのクラス] を選択すると、選択したクラスが順番に表示されます。リストの下部にある [表示数を増やす] ボタンをクリックすると、残りのすべてのクラスが表示されます。

**カテゴリ内のクラス別の表示設定を変更するには、次の手順を実行します。**

選択したクラスリストの下には [カテゴリごとの設定] ボックスがあり、選択したカテゴリ内の異なるクラスセットを指定するためのダイアログが表示されます。カテゴリ内のクラス設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. [カテゴリごとの設定] ボックスをクリックします。
2. 表示されるクラスを変更するカテゴリを選択します。
3. [親カテゴリから継承する] オプションをクリアします。
4. 目的のクラスを選択します。
5. 変更するカテゴリごとに2~4を繰り返します。
6. [保存] をクリックします。

## ユーザー属性の表示設定

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

ユーザー属性の表示設定は、ユーザー識別子を含む属性の内容をシステム全体でどのように表示するかを定義します。この設定は、レビュー担当者またはテスト担当者として割り当てられたユーザーのリストなど、ローカルで定義された属性だけでなく、オブジェクトを最初に作成したユーザー (最初の作成者) やオブジェクトのバージョンを作成または変更したユーザー (作成者と変更者) を表示するために使用されるシステム属性にも影響します。

**表示設定を変更するには、次の手順を実行します。**

1. [管理] メニューから [インスタンス設定] を選択します。
2. [要件] を選択します。
3. [ユーザー属性の表示設定] セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。

**ユーザー ID を表示する:** ユーザー ID (例: 企業識別子) のみを表示します。

**ユーザーのフルネームを表示する:** ユーザーのフルネーム (例: Ryan Forbes) を表示します。

**ユーザーのフルネームとユーザー ID を表示する:** ユーザーのフルネームと ID (例: Ryan Forbes (企業識別子)) を表示します。

**ユーザー ID とユーザーのフルネームを表示する:** ユーザー ID とフルネーム (例: 企業識別子 (Ryan Forbes)) を表示します。

## カテゴリの表示設定

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

カテゴリの表示設定により、管理者はインスタンスに定義された構造の形式と深さに基づいて、カテゴリパスの最も適切な設定を選択できます。

[カテゴリの表示設定] セクションで、次のラジオボタンのいずれかを選択します。

**フルパスを表示する:** 常に完全なカテゴリパスを表示します。例:  
RMDEMO\TAM\Doc\Administration

**名前のみを表示する:** ヒントのみを表示します。例: Administration

**名前を表示する: 'n' 個の親を含む:** ヒントと、選択した数の親を表示します。1つの親を選択した場合の例: Doc\Administration

## リストの表示設定

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

このオプションは、要件のリスト（他の複数行テキスト属性の説明を含むクイック検索、[ホーム] ビューの [要件] タブ、コレクション、レポートなど）における複数行テキスト属性の動作を定義します。

**有効: すべての行を表示する:** すべての内容が表示されます。

**有効: 最初の行のみを表示する:** 各エントリの最初の行が表示されます。

**有効: 最初の行のみを表示する - 選択すると展開:** 最初の行が表示され、エントリを選択するとすべての内容が表示されます。

**複数の値を選択できる属性**では、値の区切り文字を使って、すべての値を1行に表示しようとします。

**リスト属性:** 複数選択リスト属性値は、パイプ記号 (|) で区切られます。

**ユーザー属性:** ユーザー属性値は、カンマで区切られます。

**グループ属性:** グループ属性値は、カンマで区切られます。

**特別な属性:** 特別な属性 (<コレクション>、<ベースライン>、<ドキュメント>、<スナップショット>、<コンテナ>など) の値は、カンマで区切られます。

## ワークフロー設定

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

ワークフロー定義では、適用されるプロセスに**自動遷移**を含めることができます。たとえば、機能要件にタイトル、説明、開発作業量が割り当てられると、ユーザーによる操作がなくてもオブジェクトが次の状態に遷移するようルールで規定することができます。

設計上、この自動遷移はオブジェクトの最新（現在）のバージョンにのみ適用されます。この設定により、最新ではないオブジェクト（現在のステータスが「置換済み」の要件など）の自動遷移を許可することができます。

**有効: 最新でないオブジェクトに対して自動遷移を実行する:** 現在のステータスが「最新」ではないオブジェクトに自動遷移を適用できるようにします。

## テキストフィールドの高さ

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。



[**テキストフィールドの高さ**] 設定は、各テキストボックス (説明など) に適用されるデフォルトの高さを定義します。

以下のオプションが利用できます。

**自動:** デフォルトの動作です。

**固定:** このオプションを選択すると、インスタンス管理者はテキストボックスの高さをピクセル単位で入力できるようになります。値は50~2147483647の範囲で指定する必要があります。

## コピーオプション

この設定は、[**インスタンス設定**] ダイアログでのみ変更できます。

[**コピーオプション**] 設定は、[**コピー**] アクションを使用して作成された要件のデフォルトの動作を、ソースがメンバーであるコレクションやドキュメントに追加するかどうかを決定します。この設定により、オブジェクトに関連付けられたリンクが、コピーされたオブジェクトに含まれるかどうかのデフォルトも設定されます。

この設定により、[**コピー**] アクションのデフォルトも決定されますが、[**コピー**] ダイアログの一部としてデフォルトを変更することもできます。

コピーされた要件の設定をデフォルトとして有効にするかどうかは、組織で実施されているプロセスに大きく依存します。たとえば、ドキュメントに重点を置いている (つまり、ほとんどの機能をドキュメント内で実行している) チームでは、通常、コピーされた要件は変更され、ドキュメントや、ソースが含まれているコレクションの一部として残ることが想定されています。

以下のオプションが利用できます。それぞれ独立しており、すべて有効にすることもできます。

**表示: コピーした要件を元の要件と同じコレクションに追加する** - デフォルトで、新しく作成されたオブジェクトを、元の要件がメンバーであるすべてのコレクションに含めるオプションが適用されます。

**表示: コピーした要件を元の要件と同じドキュメントに追加する** - デフォルトで、新しく作成されたオブジェクトを、元の要件がメンバーであるすべてのドキュメントに含めるオプションが適用されます。

**表示: 元の要件からリンクをコピー** - デフォルトで、新しく作成されたオブジェクトに、元の要件に関連付けられていたすべてのリンクを含めるオプションが適用されます。



**注記** 既存のドキュメントから**チャプターと要件**をコピーするオプションを使用してドキュメントを作成する場合、これらのオプションは適用されません。

## 変更提案

これらの設定は、[**インスタンス設定**] ダイアログでのみ変更できます。

これらの設定は、組織がプロセスの一部として [**新規要件を提案**] および [**変更を提案**] アクションを使用している場合にのみ適用されます。これらのアクションに関連するプロセスでは、ユーザーは、新しい要件を作成するのではなく提案することができ、既存の要件の変更を行うのではなく変更を提案することができます。提案された要件や変更は、受け入れ前にチームリーダーによってレビューおよび承認されます。同様のプロセスは、**ワークフロー**を使用して採用できます。

要件の提案の詳細については、「**新しい要件の提案**」(193ページ)を参照してください。

以下のオプションが利用できます。それぞれ独立しており、すべて有効にすることもできます。

**有効: [新規要件を提案] で変更理由を必須にする - [新規要件を提案] アクション**を使用して、新しい要件を作成するのではなく提案する場合に、ユーザーが変更の理由を必ず入力するようにします。

**有効: [変更を提案] で変更理由を必須にする - [変更を提案] アクション**を使用して既存の要件への変更を提案する場合に、ユーザーが変更の理由（変更理由属性）を必ず入力するようにします。

**有効: 最新ではないオブジェクトに対して [変更を提案] を有効にする - ユーザーが最新ではないオブジェクト（現在のステータスが「置換済み」の要件など）に対する変更を提案できるようにします。**

## 要検討リンク

最初の2つの設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できることに注意してください。

ただし、管理者が [新しいバージョンによって要検討リンクを自動的にクリア] オプションを有効にした場合でも、慎重なユーザーは [ユーザー設定] でその設定をオーバーライドし、確認を求めることができます。

関連する要件が変更されると、要検討が提起されます。詳細については、[「要検討リンク」\(219 ページ\)](#) を参照してください。ビジネス要件によって多数の機能要件が引き出されることがありますが、ビジネス要件が変更されるとどうなるでしょうか。実装されたプロセスによって、これらのリンクされた要件がそれぞれ要検討になると判断される可能性があります。

要検討は、すべてのクラスで維持されるシステム属性です。この属性は、リンクされたオブジェクトに変更が加えられ、レビューが推奨される要検討が提起されると、'True' に設定されます。

以下のオプションは互いに独立しており、両方を有効にすることができます。

**有効: アップストリームおよびダウンストリームの要検討リンクを視覚化する - 要検討の三角形ではなく矢印で、要検討の原因となった要件の方向が表示されます。**要件がアップストリームにある場合は、下矢印が表示され、要検討を示します。ダウンストリームにある場合は、上矢印が表示されます。

**有効: 新しいバージョンによって要検討リンクを自動的にクリア - このオプションを有効にすると、要検討の要件が変更されて保存されると、要検討リンクが自動的にクリアされます。**このオプションが有効ではない場合、変更した要件の保存時に、要検討リンクを手動でクリアする必要があります。

次の設定は、[インスタンス設定] で [新しいバージョンによって要検討リンクを自動的にクリア] が有効になっている場合にのみ、ユーザーが実行できます。

**有効: 保存の際に要検討リンクをクリアすることを確認 - 有効にすると、ダイアログが表示され、要検討リンクのクリアを確認することができます。**

## クラスの変更

これらの設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

[クラスの変更] 設定は、要件のクラスを変更するときの動作を定義します（[「要件のクラスの変更」\(199 ページ\)](#) を参照）。

以下のオプションが利用できます。それぞれ独立しており、すべて有効にすることもできます。

**有効: ワークフロー状態を保持する** - 新しいクラスと元のクラスの両方に同じ名前のワークフロー状態がある場合、元のオブジェクトのワークフロー状態が新しいクラスに適用されます。

**有効: リンクを保持する** - 新しいクラスに一致する関係が存在する場合、リンクは保持されます。[クラスの変更] ダイアログの [リンク] セクションには、変更の実行時に保持できるリンクと削除されるリンクが表示されます。有効になっていない場合、リンクは保持されません。

## コメント

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

**有効: 承認済み状態を含める** - コメントに承認済みワークフロー状態を適用できるようにし、承認済み状態のコメントをフィルタリングするメカニズムを提供します。

## 用語集チェック

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

[用語集チェック] の設定により、ユーザーが用語集で [非推奨] として記載されているテキスト属性に用語を含める際の応答を制御します。

**無効:** 有効に設定されている場合、用語集チェックは無効になります。

**警告:** 有効に設定されている場合、送信時に警告が表示され、ユーザーにその用語の使用を再検討するか、続行するかを確認を促します。送信はブロックされません。

**エラー:** 有効に設定されている場合、送信を試みる際、その用語が要件テキストで使用できないことを示すメッセージが表示されます。送信はブロックされます。

## 複雑性分析

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

要件の複雑さをレビューし、警告を発するために、Flesch-Kincaidリーダビリティテストに基づく自然言語処理が実装されています。これらの設定の詳細な説明については、「[NLP複雑性分析](#)」(256 ページ) を参照してください。

## 類似性分析

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

文の類似性、または意味的なテキストの類似性を分析するように設計された自然言語プロセスが実装されています。これらの設定の詳細な説明については、「[NLP類似性分析](#)」(257 ページ) を参照してください。

## デフォルトのリンクビュー

この設定は、[インスタンス設定] と [ユーザー設定] の両方で変更できます。

編集ダイアログの [リンク] セクションにリンクを表示するには、2つの方法があります。

**有効: クイックビュー** - クラスに関係なく、リンクされたすべての要件を1つの表に表示します。表示できるのは共通の属性のみです。

**有効: 展開ビュー** - リンクされた要件をクラス別に表示します。プロパティ機能を使用して、クラス内のすべての属性を表示できます。

### 要件ヘッダーの表示設定

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

**要件ヘッダーのオプション**では、バージョン管理されたオブジェクト（要件、テストケースなど）を表示または編集するために開いたときに表示される属性を設定します。以下のオプションは、1つ、2つ、3つを有効にすることも、どれも有効にしないことも可能です。

**有効: クラス名** - 開いているオブジェクトのヘッダーに**クラス名**を含めます。

**有効: 要件ID** - 開いているオブジェクトのヘッダーに**要件ID**を含めます。

**有効: タイトル** - 開いているオブジェクトのヘッダーに**タイトル**を含めます。

Test\_Case: TC\_0017 - Define Release Dependencies

図 2-1. テストケースのヘッダー。要件 ID (PUID) とタイトルが有効になっています。

### クイック検索の設定

以下の項目は、[ユーザー設定] ([ようこそ] メニュー) または [インスタンス設定] ([管理] メニュー) の [クイック検索] タブから設定します。

**クラスの選択、および表示する属性、並べ替え順、ツールチップの選択**



**注記** 表示するクラス属性に適用される [インスタンス設定を使用する] チェックボックスは、[ツールチップに表示する属性] 設定のすぐ下にあります。クラス設定を変更する前に、各クラスでこのチェックボックスをクリアする必要があります。

クイック検索の結果に表示される属性（列）を変更するには、次の手順を実行します。

[**クラスの選択**] リストから**クラス**を選択します。[**表示する属性**]、[**並べ替え順**]、[**ツールチップ**] の現在の設定が表示されます。

矢印を使用して、属性を表示リスト内に移動したり、表示リストの外に移動したりします（詳細については、「[**表示する属性**] リスト」(41 ページ) を参照してください）。

矢印を使用して並べ替え順を選択します。詳細については、「[**並べ替え順**] リスト」(42 ページ) を参照してください。

#### 追加設定

**デフォルトクエリを自動的に実行する:** ページを開いたときに最近使用した検索を実行するには、このチェックボックスをチェックします。この機能が有効になっていない場合、クイック検索フィールドには情報が入力されますが、検索ボタンがクリックされるまで検索は実行されません。

**インスタンス設定を使用する:** ローカルのページネーション設定を管理者がインスタンスレベルで設定したものに変更するには、このチェックボックスを選択します。



**注記** この2つ目の [インスタンス設定を使用する] チェックボックスは、ダイアログの下部に表示され、ページネーション設定のみに適用されます。このチェックボックスを無効にするまで、これらの設定を編集することはできません。

**ページネーションを有効にする:** ページネーションにインスタンスのデフォルトを適用するには、このボックスをチェックします。[\[ページサイズ\]](#) (1ページに表示されるレコード数) を指定するには、チェックを外します。

### 分割ビュー

分割ビューおよびドキュメント分割ビューに関連する設定については、[「分割ビューの設定」\(98 ページ\)](#) を参照してください。

## 階層の設定

以下の項目は、[\[ユーザー設定\]](#) ([\[ようこそ\]](#) メニュー) または [\[インスタンス設定\]](#) ([\[管理\]](#) メニュー) の [\[階層\]](#) 設定タブから設定します。

### 階層ツリー、ツールチップ、エクスポート

[\[階層\]](#) 設定では、階層ツリーに表示される属性、階層エントリにマウスカーソルを移動したときに表示される属性、エクスポートに含める属性を定義します。



**注記** クラス関連の設定を変更する前に、各クラスの [\[インスタンス設定を使用する\]](#) チェックボックスをオフにする必要があります。この設定は、[\[エクスポートする属性\]](#) セクションのすぐ下にあります。

**表示される属性 (列) を変更するには、次の手順を実行します。**

[\[クラスの選択\]](#) リストからクラスを選択します。

選択したクラスの [\[表示する属性\]](#)、[\[ツールチップに表示する属性\]](#)、[\[エクスポートする属性\]](#) の現在の設定が表示されます。

表示する列を指定します。[「\[表示する属性\] リスト」\(41 ページ\)](#) を参照してください。

ツールチップに表示する属性を指定します。階層ツリーでエントリにマウスカーソルを移動したときに最も役立つ属性を選択してください。リストの選択は、[「\[表示する属性\] リスト」\(41 ページ\)](#) で説明されているのとほぼ同じように機能します。

[\[エクスポートする属性\]](#) リストを変更します。[「\[表示する属性\] リスト」\(41 ページ\)](#) を参照してください。



**注記** 複数のクラスを変更する場合、別のクラスを選択する前に [\[適用\]](#) をクリックする必要はありません。ダイアログボックスが開いている間、変更内容は記憶されています。

### 要件を追加する位置

[\[要件を追加する位置\]](#) オプションは、指定が明確でない場合に、階層内のどの位置に要件を追加するかを定義します (子を追加、下に追加など)。

**階層の一番上:** 要件を最初の要件として追加します。

**階層の最後:** 要件を最後の要件として追加します。

### 順序

[\[順序\]](#) オプションは、[\[階層\]](#) ビューがフォルダーと要件を表示する方法を定義します。

**要件の前にフォルダー：**カテゴリが最初に表示され、要件は最後のカテゴリの後に表示されます。

**フォルダーの前に要件：**要件が最初に表示され、カテゴリは最後の要件の後に表示されます。

## ドキュメントの設定

以下の項目は、特に記載されている場合を除き、[ユーザー設定] ([ようこそ]メニュー) または [インスタンス設定] ([管理]メニュー) の [ドキュメント] タブから設定できます。

ドキュメント設定には、以下が含まれます。

- [エクスポートオプション](#)
- [編集中にドキュメントをロック](#)
- [要件のデフォルトレイアウト](#)
- [デフォルトのドキュメントビューモード](#)
- [要件を追加する位置](#)
- [デフォルトワークフロー](#)
- [オブジェクトを移動](#)
- [インライン編集](#)

### エクスポートオプション

RM Browserのドキュメントビューでは、要件とチャプターは通常、デフォルトでナンバリングされます。Microsoft® Wordを使用してドキュメントをエクスポートする場合、管理者がこの設定をオーバーライドしない限り、Wordドキュメントにはドキュメントビューに表示される番号が含まれます。[インスタンス設定] で、管理者が [チャプタータイトルのナンバリングをエクスポートする] ボックスをチェックしていない場合、チャプター番号はエクスポートされません。要件タイトルのナンバリングについても同様です。

Dimensions RMは、Wordを使用してドキュメントをエクスポートするときに、チャプターや要件のナンバリングについてさまざまなアプローチをサポートしているため、この1つの設定だけですべてのチャプターやタイトルのナンバリングを制御しようとしませんことをお勧めします。[「ドキュメントのエクスポート」\(165ページ\)](#)

- **インスタンス設定を使用する：**  
このチェックボックスをクリアすると、関連する2つのボックスの実際のインスタンス設定が表示されます。これらはクリアすることも、チェックすることもできます。
- **チャプタータイトルのナンバリングをエクスポートする：**  
このチェックボックスをクリアすると、自動ナンバリングがクリアされ、ユーザーはWordの設定を使用してチャプター番号を割り当てることができます。
- **要件タイトルのナンバリングをエクスポートする：**  
このチェックボックスをクリアすると、要件の自動ナンバリングがクリアされ、ユーザーはWordの設定を使用して、リストされた要件に番号を割り当てることができます。
- **[OK]** をクリックします。

## ドキュメントの自動ロード

自動ロードを選択すると、前回のRM Browserセッションで開いたドキュメントが自動的に開きます。

ドキュメントの自動ロードを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [ドキュメントの自動ロード] チェックボックスを選択またはクリアします。
- 2 [OK] をクリックします。

## 編集中にドキュメントをロック

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

このオプションが有効になっている場合、編集モードでドキュメントを開けるユーザーは1人だけになります。他のユーザーが同時にそのドキュメントを開こうとすると、ドキュメントがロックされていることを示す通知が表示されます。

このオプションが有効になっていない場合は、開いているドキュメントを手動でロックできます。また、複数のユーザーが同時にドキュメントを編集した場合に、編集内容をマージすることもできます。

### 個別ドキュメントの手動でのロック:

ユーザーは、[アクション] ペインでロック機能を選択することで、ドキュメントの所有権を「宣言」することができます。編集を何度繰り返しても、そのユーザーがドキュメントのロック解除を行うまで、そのドキュメントはロックされたままになります。万が一、ユーザーがドキュメントをロックしたままにしてしまった場合は、管理者がドキュメントをロック解除できます（「要件のロックの管理」(420ページ) を参照）。

ドキュメントを手動でロックしている間、他のユーザーがそのドキュメントを開こうとすると、ドキュメントが読み取り専用モードで開かれていることを示す警告が表示されます。ドキュメントタイトルの右側に、そのドキュメントをロックしているユーザーの名前が表示されます。


## ドキュメントの編集内容のマージ

以下では、2人のユーザーがドキュメントを同時に変更した場合に行うマージ操作について説明します。この例では、JOEとEPHOTOの2人のユーザーがドキュメントを編集します。

### 例1:

JOEがチャプターを追加します。JOEに続いて、EPHOTOがチャプターを追加します。

EPHOTOにはドキュメントツリー内にJOEのチャプターがあることが分かりますが、JOEにはドキュメントツリー内にEPHOTOのチャプターがあることは分かりません。

解決策: JOEはドキュメントツリーを更新するために、 をクリックする必要があります。

### 例2:

JOEとEPHOTOの2人が同じチャプターを編集用を開きます。最初に、JOEが変更を保存します。

EPHOTOに、JOEが変更を行ったこと、および競合を解決してからでないとEPHOTOの変更内容を保存できないことを示す警告が表示されます。競合の解決の詳細については、「チャプターの変更のマージ」(157ページ) を参照してください。

## 要件のデフォルトレイアウト

[要件のデフォルトレイアウト] オプションでは、ドキュメント内の要件の初期レイアウトを定義します。

要件のデフォルトレイアウトを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [ドキュメント設定] セクションで、[要件のデフォルトレイアウト] リストボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
  - 編集可能なグリッド
  - グリッド
  - 段落
- 2 [OK] をクリックします。

レイアウトの追加の変更は、「ドキュメントの書式設定」(130ページ)と「チャプターの書式設定」(145ページ)で説明されているように、[ドキュメントの書式設定] または [チャプターの書式設定] を使用して適用できます。

## デフォルトのドキュメントビューモード

[デフォルトのドキュメントビューモード] は、ドキュメントを最初に開いたときの表示方法を定義します。

**チャプター:** 強調表示された1つのチャプターまたはサブチャプターとその内容に表示を限定します。

**ドキュメント全体:** ドキュメント全体をスクロールできます。



**注記** この設定はドキュメントビューで変更することもできます（「詳細ペイン」(110ページ)を参照）。ドキュメントビューで設定を変更すると、ユーザー設定内の設定が更新されます。

## 要件を追加する位置

[要件を追加する位置] オプションでは、チャプターが選択されているときに要件を追加するチャプター内の位置を定義します。

**チャプターの最初:** 要件を最初の要件として追加します。

**チャプターの最後:** 要件を最後の要件として追加します。

## デフォルトワークフロー

[デフォルトワークフロー] 設定では、ユーザーはドキュメントとスナップショットに定義されたワークフローの中からデフォルトを選択できます。このデフォルトはドキュメントの作成時に変更できます。

## オブジェクトを移動

[オブジェクトを移動] ボックスをチェックすると、ドラッグアンドドロップを使用した誤った移動から保護することができます。チェックすると、ドラッグアンドドロップでオブジェクトを移動する場合に確認が必要になります。



## インライン編集

[インライン編集] ボックスをチェックすると、ドキュメントの編集が制限され、実質的に読み取り専用になります。ただし、レビュー担当者はコメントを追加できます。

## レポートの設定

### 関係制約モードの設定

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

[関係制約モード] の設定を使用することで、インスタンス管理者は、2つの要件の関係（実行したレポートの [関係制約] で示される関係）を評価する方法を定義できます。

デフォルトでは、[最新のみ] の設定はオフになっています。この場合、ステータスが "最新" 以外の要件も含めて、レポートに関連する要件が表示されます。

[最新のみ] の設定をオンにすると、レポートにはステータスが "最新" の関連要件のみが表示されるようになります。

この設定は、外部への関係（たとえば、ビジネス要件から機能要件への関係）と外部からの関係（機能要件からビジネス要件への関係）の両方向の関係評価に影響します。

### トレーサビリティデフォルトビュー

トレーサビリティレポートは、ギャップビュー（欠落しているリンクを表示する Excel レポート）または構造化されたアウトラインビューのいずれかで表示できます。

デフォルトビューを設定するには、次の手順を実行します。

1. [トレーサビリティデフォルトビュー] で、リストボックスから [ギャップ] または [アウトライン] を選択します。
2. [OK] をクリックします。

## リンクブラウザーの設定

リンクブラウザーの設定は、表示の色、形式、属性、およびこの要件へのリンクとこの要件からのリンクの詳細に表示される属性を制御します。

変更を行うには、ユーザーは [インスタンス設定を使用する] を無効にする必要があります。

### リンクブラウザーの表示

事前に定義された色を使用してクラスの色を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [クラスの選択] リストからクラス名を選択します。
- 2 [色の選択] リストから色を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

### 色の選択

色の選択では、値を入力して色を選択または定義できます。

色の選択を使用してクラスの色を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [クラスの選択] リストからクラス名を選択します。

**2 次のいずれかを実行します。**

- a 縦長のカラーバーから、色の範囲を選択します。続いて、プレビューボックスで色を選択します。
- b **[H]** (色相)、**[S]** (彩度)、**[V]** (明度) の各ボックスに、目的の値を入力します。  
**H**: 有効範囲: 0 ~ 359  
**S**: 有効範囲: 0 ~ 100  
**V**: 有効範囲: 0 ~ 100
- c R (赤)、G (緑)、B (青) のボックスに、目的の値を入力します。R、G、Bの有効範囲は、0 ~ 255です。
- d 色の16進数値を入力します。16進数値はRGB形式に従います。それぞれの色を2つの文字で表します。たとえば、#ffeeddは、R (ff)=255、G (ee)=238、B (dd)=221を表します。

**3 [OK] をクリックします。**

ノード半径を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 変更を行う前に、**[インスタンス設定を使用する]** がクリアされていることを確認します。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - a **[ノード半径 (px)]** に数値 (40以上) を入力します。
  - b または **[PUIDに合わせる]** チェックボックスを選択します。これにより、表示するように選択された属性に合わせてノード半径が調整されます。
- 3 **[OK]** をクリックします。

表示する属性を変更するには

**[表示する属性]** リストまたは **[ツールチップに表示する属性]** リストの変更を行うには、**[インスタンス設定を使用する]** ボックスをクリアしておく必要があります。

**[表示する属性]** で選択された項目は、**[この要件へのリンク]** と **[この要件からのリンクの詳細]** に含まれます。

リンク表示とツールチップの両方において、属性の選択は **「[表示する属性] リスト」(41ページ)** の説明と同じように機能します。ただし、この **[表示する属性]** リストの場合は、以下の制限があります。

- 要件ノード内のテキストが判読できなくなるのを避けるために、表示は3つの属性に制限されます。
- 特別な属性はサポートされていません。リストについては、**「特別な属性」(63ページ)** を参照してください。

## 分割ビューの設定

クイック検索の分割ビューモードの設定は、**[ユーザー設定]** ([ようこそ] メニュー) または **[インスタンス設定]** ([管理] メニュー) の **[分割ビュー]** タブから変更できます。



**注記** クラス設定を変更する前に、各クラスで **[インスタンス設定を使用する]** チェックボックスをクリアする必要があります。

分割ビューで表示する列を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [クラスの選択] リストからクラスを選択します。  
[表示する属性] および [並べ替え順] セクションが表示されます。
- 2 表示する列を指定します。「[表示する属性] リスト」(41ページ) を参照してください。
- 3 並べ替え順序を指定します。「[並べ替え順] リスト」(42ページ) を参照してください。
- 4 必要に応じて別のクラスを選択し、上記の手順を繰り返します。



**注記** 別のクラスを選択する前に、[適用] をクリックする必要はありません。ダイアログボックスが開いている間、変更内容は記憶されています。

- 5 **クエリの自動実行:** チェックすると、ページを開いたときに前回使用した検索条件が実行されます。  
この機能が有効でない場合、クイック検索フィールドには最後の検索の条件が読み込まれますが、検索ボタンをクリックするまで結果は表示されません。
- 6 **グリッドに表示するレコード数を制限する:** 表示されるレコードの最大数を指定します。
- 7 [OK] をクリックします。

## 通知設定

このセクションでは、オブジェクトをフォローするユーザー選択によって生成される通知の上位レベル設定を定義します。

これらの設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ設定または変更できます。

ユーザーは、[ようこそ] メニューの [通知] タブから選択した通知ルールをアクティブ化できます。「ユーザー通知」(69ページ) を参照してください。

### 通知 (配信方法):

配信方法は、電子メール、ブラウザーアラート、またはその両方を選択できます。

電子メール: 電子メールで通知が送信されます。

ブラウザー: ブラウザー内にアラートが表示されます。



**重要!** 電子メールは、Open Text Mail Serviceが設定済みで稼働中の場合にのみ送信されます。詳細については、『Dimensions RM Administrator's Guide』の「RM Mail Service」を参照してください。

**タイプ:** 要件オブジェクト (一般)、チャプター、コメントに関連するメッセージに対して、通知テキストを設定できます。

**電子メールの件名:** 件名テキストはローカライズ可能ですが、プレースホルダー (<#PUID#> など) は変更不要でください。

**電子メールの本文:** メッセージのテキストはローカライズ可能で、プレースホルダーを追加することもできます。

## リスク管理の設定

[リスク] 設定では、[ホーム] ビューから利用可能な追加タブの設定を定義します。

このタブは、[インスタンス設定] でのみ設定できます。

リスク管理のレポート作成では、スキーマ定義でローカルに定義された属性名を使用します。レポートは、現在のリスクの脅威を計算して表示するために、カラーコーディングを使用するように設計されています。

	Title	Severity Rating - Initial	Occurrence Rating - Initial	Severity Rating - Final	Occurrence Rating - Final	Risk Priority - Initial	Risk Priority - Final
	Performance goals...	3	3	2	2	High	Medium
	SLA not reached	3	2	2	1	High	Medium
	Data loss in integr...	4	2	4	2	Extreme	Extreme
	Increasing round-tr...	2	2	2	3	Medium	High

[ホーム] ビューで [リスク] タブを定義してアクティブ化するには、次の手順を実行します。

- 1 リスクの影響レベルの名前を指定し、そのレベルに対応するカラーバーを使用します。  
右側のアイコンを使用すると、行の削除や表示の並べ替えを行うことができます。

Name	Color	Description
Low		Low probability with little or no effect
Medium		Some annoyance, but not critical to the operation
High		Impact on the operation
Extreme		Could result in disaster

2 マトリクス計算は、[発生可能性] と [重大度] の初期値と最終値に基づいて行われます。

		Acceptable	Tolerable	Undesirable	Intolerable
Severity:		Little to no effect on event	Effects are felt, but not critical to outcome	Serious impact to the course of action and outcome	Could result in disaster
Occurrence:					
Improbable Risk is unlikely to occur		Low	Medium	Medium	High
Possible Risk will likely occur		Low	Medium	High	Extreme
Probable Risk will occur		Medium	High	High	Extreme

3 [名前] と [説明] は変更できます。

## テスト管理

[テスト管理] 設定では、[ホーム] ビューから利用可能な追加タブの設定を定義します。

有効にする



テスト管理を有効にするには、事前に管理者が必要なすべてのクラスと関係を作成しておく必要があります。詳細については、『Dimensions RM Administrator's Guide』の「Test Case Management」を参照してください。

詳細については、「[テスト管理の使用 \(360 ページ\)](#)」を参照してください。

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

[テスト管理] が有効になると、メニューバーに [テスト] ビューが表示され、利用できるようになります。



### 実行時間ダイアログ

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログでのみ変更できます。

有効にすると、推定実行時間と実際の実行時間が追跡され、すべてのテストステップが完了した後に表示されます。

### ページネーション

リストが [ページサイズ] フィールドに入力された数量を超える場合、ユーザーはこのオプションを有効にして、[テスト] ビューのリスト表示を複数のページに分割することができます。

## オブジェクトを開く

この設定は、[テスト]ビュー内でテスト管理クラスを開く操作を制御するために使用します。たとえば、属性を編集する場合、テスト関連のクラスは標準の要件編集ダイアログを使用して開くことができますが、推奨される方法は[テスト管理ビューで開く]を選択することです。次のいずれかを選択します。

- 編集ダイアログで開く
- テスト管理ビューで開く
- 開く方法を常に確認する

## ステータスの色

この設定は、[インスタンス設定]ダイアログでのみ変更できます。

[実行ステータス]は、テスト実行クラスで定義されたリスト属性です。この例では、このリストにはブロック済み、実行済み、失敗、進行中、実行なし、計画なし、合格、成功(誤差あり)が含まれます。

管理者は、定義された状態にローカルの命名規則を適用できます。各状態について、状態名をさらに分類するために色コードを選択することができます。

[管理]メニューから[インスタンス設定]を選択します。[テスト管理]タブを選択します。状態名の右側にある色を選択/クリックすると、色選択チャートが表示され、変更できるようになります。

## 分岐/同期ビューの設定

### 表示列

クイック検索の分岐ビューモードで表示する列の別のセットを選択できます。

分岐ビューモードで表示する列を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [クラスの選択]リストからクラスを選択します。以下のセクションが表示されます。
  - 表示する属性
  - [詳細]に表示する属性
  - 並べ替え順
  - プロジェクトからプロダクトに提供/マージする属性
  - プロダクトからプロジェクトに提供/マージする属性
- 2 インスタンス設定を使用する: 選択したクラスに対して管理者がインスタンスレベルで設定したデフォルト設定をオーバーライドする場合は、このチェックボックスを選択解除します。
- 3 表示する列を指定します。「[表示する属性]リスト」(41ページ)を参照してください。
- 4 同期ビューから[詳細]に表示する属性では、選択された属性での変更が強調表示され、ユーザーはリストされているすべての要件に対するそれらの変更を表示できます。
- 5 並べ替え順序を指定します。「[並べ替え順]リスト」(42ページ)を参照してください。



**注記** 別のクラスを選択する前に、[適用]をクリックする必要はありません。変更内容は、ダイアログボックスが開いている間は記憶されています。

6 必要に応じて別のクラスを選択し、上記の手順を繰り返します。

7 **[OK]** をクリックします。

#### 提供 / マージで選択した属性値のコピー

この設定は、**[インスタンス設定]** ダイアログのみで使用できます。

提供 / マージによってコピーされる属性を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 **[クラスの選択]** リストからクラスを選択します。以下のセクションが表示されます。
  - 表示する属性
  - 並べ替え順
  - プロジェクトからプロダクトに提供 / マージする属性
  - プロダクトからプロジェクトに提供 / マージする属性
- 2 **[プロジェクトからプロダクトに提供 / マージする属性]** または **[プロダクトからプロジェクトに提供 / マージする属性]**、またはその両方で目的の属性を選択します。
- 3 必要に応じて別のクラスを選択し、上記の手順を繰り返します。



**注記** 別のクラスを選択する前に、**[適用]** をクリックする必要はありません。ダイアログボックスが開いている間、変更内容は記憶されています。

4 **[OK]** をクリックします。

#### 追加設定

**リンク付き提供:** このオプションを選択すると、**[提供]** ダイアログの同じ名前のオプションのデフォルトが定義されます。

**ページネーションを有効にする:** 結果が一定量を超える場合に結果を複数ページに分けるには、このオプションを選択します。この一定量の指定は、**[ページサイズ]** フィールドで行います。

## セキュリティ

このセクションでは、アプリケーションのセキュリティに関する設定を定義します。これらの設定は、**[インスタンス設定]** ダイアログでのみ変更できます。

これらの設定には以下が含まれます。

- クライアントアイドルタイムアウト
- アップロードファイルの制限
- 添付ファイル
- HTMLコードのサニタイズ
- ユーザーの最終ログイン日を表示する

#### クライアントアイドルタイムアウト

一定期間操作が行われないと、RM Browserセッションがタイムアウトし、ユーザーはRM Browserからログアウトされます。ユーザーが再度ログインできるように、ログインダイアログが表示されず。デフォルトで、セッションタイムアウトは30分です。

**RM Browserのセッションタイムアウト値を指定するには、次の手順を実行します。**

- 1 [管理] メニューから [インスタンス設定] を選択します。[インスタンス設定] ダイアログが開きます。
- 2 [セキュリティ] を選択します。
- 3 [クライアントセッションのアイドルタイムアウト (分)] ボックスに、値 (分) を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

### アップロードファイルの制限

この機能を選択すると、管理者は、ユーザーがアップロードできるファイルタイプを定義できます。



**重要!** セキュリティ上および安全上の理由から、管理者はホワイトリストを作成し、以下の3aの手順に従ってリストを作成することをお勧めします。

**[アップロードファイルの制限] 設定を変更するには、次の手順を実行します。**

- 1 [管理] メニューから [インスタンス設定] を選択します。[インスタンス設定] ダイアログが開きます。
- 2 [セキュリティ] を選択します。
- 3 目的の設定を選択します。
  - a 次のファイルタイプを許可する: 推奨。

この設定により、アップロード可能なファイルはリストされているファイルタイプに制限されます。それ以外のファイルタイプのファイルをアップロードすることはできません。
  - b すべてのファイルタイプを許可する:

この設定では、ユーザーがあらゆるタイプのファイルをアップロードすることを許可します。このため、ユーザーは潜在的に危険なファイル (実行ファイルなど) をアップロードすることもできます。
  - c 次のファイルタイプを禁止する:

この設定では、指定したファイルタイプのファイルをユーザーがアップロードすることを禁止します。それ以外のファイルタイプのファイルをアップロードすることは可能です。
- 4 [OK] をクリックします。

### 添付ファイル



**重要!** セキュリティ上および安全上の理由から、自動オープンが無効にすると、RM Browserユーザーは添付ファイルを開く前に必ず保存することが求められます。

添付ファイルを開く前に強制的にローカルに保存させるには、自動オープンが無効にする必要があります。これを行うには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [インスタンス設定] を選択します。[インスタンス設定] ダイアログが開きます。
- 2 [セキュリティ] を選択します。
- 3 [添付ファイル] オプションで、[自動オープンが無効にする] タブを強調表示します。
- 4 [OK] をクリックします。



## HTMLコードのサニタイズ



**重要!** セキュリティ上および安全上の理由から、**HTMLコードのサニタイズ**の設定を有効にすることはをお勧めします。

HTMLコンテンツの検査を有効にして、「安全」と指定されたタグと属性のみが保持されるようにするには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [インスタンス設定] を選択します。
- 2 [セキュリティ] を選択します。
- 3 [HTMLコードのサニタイズ] オプションで、[有効にする] タブを強調表示します。
- 4 [OK] をクリックします。

### ユーザーの最終ログイン日を表示する




ブラウザーのフッターにユーザーの最終ログイン日を表示できるようにするには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [インスタンス設定] を選択します。
- 2 [セキュリティ] を選択します。
- 3 [ユーザーの最終ログイン日を表示する] オプションで、[有効にする] タブを強調表示します。
- 4 [OK] をクリックします。

## [アクション] ペインのデフォルトの設定

管理者またはユーザーは、[アクション] ペインに表示するアクションを選択できます。これにより、要件を除去するための [除去] コマンド (ほとんど許可されていないアクション) など、一般的ではない機能を非表示にできます。

アクションを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 編集するアクションセットのセクションタイトルの上にマウスポインターを移動します。
- 2 編集するモードを選択します。
  -  : クリックしてインスタンス設定を編集します。このオプションは管理者のみが利用可能です。
  -  : クリックしてユーザー設定を編集します。
- 3 コマンドを表示するには、そのオプションボックスを選択します。コマンドを非表示にするには、そのオプションボックスをクリアします。  
ユーザー設定の場合、[インスタンス設定を使用する] オプションは他のすべてのオプションを無効にし、管理者が定義したオプションを表示します。
- 4  をクリックして、設定を確認します。



## 第3章

---

# ドキュメントの操作

ドキュメントについて	108
ドキュメントの基礎	108
ドキュメントの操作	123
チャプターおよび要件の操作	139
ドキュメントのスナップショット	160
ドキュメントのエクスポート	165
ドキュメントでのワークフローの使用	171

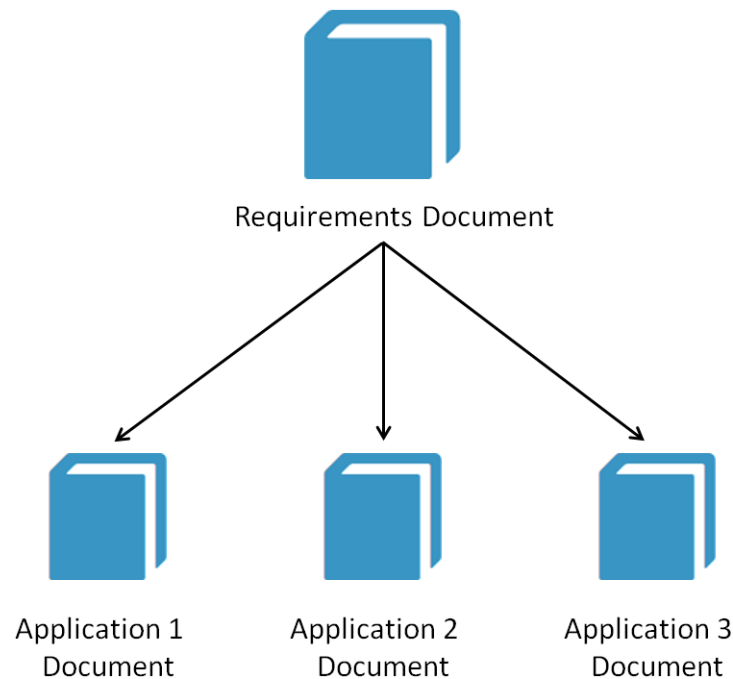
## ドキュメントについて

ドキュメントは、構造化のための機能です。要件をチャプターおよびサブチャプターに整理し、説明を自由形式のテキストで追加することができます。ドキュメントを使用すると、システム要件やソフトウェア要件の仕様などをレポートとして作成し、公開できます。ドキュメントとの間で要件を追加、削除したり、ドキュメント内で要件を作成することができます。

### 親ドキュメントと子ドキュメント

共通の構造やコンテンツを管理する目的で作成されたドキュメントは、親ドキュメントとして作成することができ、その構造やコンテンツは、親に基づいて作成された各子ドキュメントに継承されます。親で定義されたコンテンツ、または親にリンクされたコンテンツは、子では変更できません。

子ドキュメントは、親ドキュメントからレイアウトを継承します。親ドキュメントへの変更は、関連する子ドキュメントに直ちに反映できます。子ドキュメントでは、親ドキュメントから継承された部分は読み取り専用となり、変更することはできません。次の図は、親ドキュメントと子ドキュメントのユースケースを示しています。



## ドキュメントの基礎

[「ドキュメントまたはスナップショットを開く」](#) (117ページ)

[「ナビゲーションペイン」](#) (109ページ)

[「詳細ペイン」](#) (110ページ)

[「ドキュメントのフィルタリング」](#) (111ページ)

「ドキュメントのレイアウト」(113ページ)

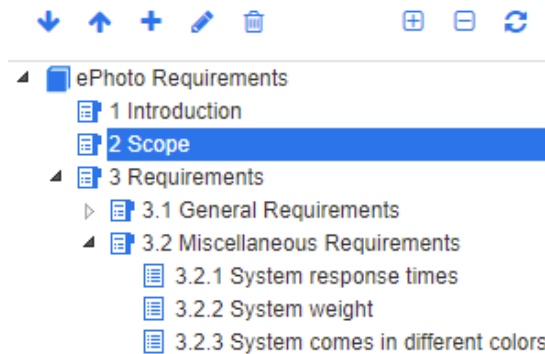
「1つ以上のオブジェクトを表示する権限がない」(118ページ)

「ドキュメント変更の表示」(118ページ)










ドキュメント作成の詳細については、「ドキュメントの操作」(123ページ)を参照してください。


## ナビゲーションペイン


ドキュメントビューの左側のペインには、目次が表示されます。





要素の上と横に表示されるアイコンは、次の機能を示します。


- 

**下/上:** これらのボタンを使用すると、ドキュメントの構造内で選択したチャプターや要件を下または上に移動できます。
- 
**新規チャプター:** このボタンを使用すると、[新規チャプター] ダイアログが開きます。[サブチャプターとして追加] チェックボックスが有効になっているか、ドキュメントのルートが選択されている場合を除き、新規チャプターは現在選択されているチャプターと同じレベルに配置されます。「[チャプターの新規作成](#)」(139ページ)を参照してください。
- 
**チャプターの編集:** このボタンを使用すると、選択したチャプターの [チャプターの編集] ダイアログが開きます。[チャプターの編集] ダイアログでは、チャプターのタイトル、内容、書式を変更できます。「[チャプターの編集](#)」(142ページ) および「[チャプターの書式設定](#)」(145ページ)を参照してください。
- 
**チャプターの削除:** このボタンを使用すると、現在選択されているチャプターが削除されます。操作を完了するには、確認ダイアログで [OK] をクリックします。「[チャプターの削除](#)」(143ページ)を参照してください。
- 
**すべてのチャプターの展開:** このボタンを使用すると、ドキュメントツリーですべてのチャプターが展開されます。
- 
**すべてのチャプターの折りたたみ:** このボタンを使用すると、すべてのサブチャプターが折りたたまれ、ルートチャプターのみが表示されます。
- 
**このドキュメントの再ロード:** このボタンを使用すると、現在開いているドキュメントがサーバーから取得され、作業ページに再ロードされます。
- 
**ルート:** これは、ドキュメントのルートレベルです。

 **チャプター:** これは、ドキュメント内のチャプターです。

 **自動更新:** このチャプターはレポートおよび階層に基づいており、自動的に更新されます。チャプターが更新されると、子オブジェクト (サブチャプターや要件など) に対するすべての構造的変更 (要件の追加や除去など) は元に戻ります。

 **要件:** これは、ドキュメント内の要件です。

 **CRを含む要件:** これは、「提案済み」状態のCRを含む要件です。

 **要検討リンク:** これは、要検討リンクを含む要件です。



**注記** 前書きがある場合は、ドキュメントのルートレベルに配置されます。通常、前書きには、会社のロゴ、著作権情報、および履歴表などの項目が記載されます。これには目次は含まれません。ドキュメントがエクスポートされたときに、前書きは目次よりも前に表示されます。

ナビゲーションペインには、次のような機能上の特徴があります。

**チャプターと要件**は、階層構造のアウトライン形式を使用して自動的にナンバリングされます。このナンバリングは、ドキュメントの内容の構成や順序の変更に合わせて更新されます。

要件をいずれかの要件のサブ要件にするには、要件の名前を選択し、その要件を親要件までドラッグします。

チャプターを別のチャプターのサブチャプターにするには、チャプターを選択し、そのチャプターを親チャプターまでドラッグします。

ドキュメントまたはチャプターの名前の上にマウスポインターを合わせると、ドキュメントまたはチャプターに加えることができるクラスがツールチップとして表示されます。

要件名の上にマウスポインターを合わせると、各要件のPUIDとオブジェクトIDがツールチップとして表示されます。

ナビゲーションペインで選択した要素の内容が、詳細ペインに表示されます。

## 詳細ペイン

詳細ペインの表示は、ナビゲーションペインで選択した要素、詳細ペインで選択したレイアウト、およびドキュメントおよびチャプターレベルで有効になっている書式設定に依存します。

詳細ペインは、選択したチャプターまたはドキュメントのルートに含まれる内容に応じて、以下のように表示されます。

- **要件のみ**が含まれる場合、このペインはグリッドレイアウトまたは段落レイアウトで表示できます。ユーザーは、必要に応じてレイアウトを切り替えて使用できます。また、特定のチャプターやドキュメント全体でデフォルトレイアウトを使用するように設定することもできます。
- **チャプターのみ**が含まれる場合、このペインは段落レイアウトで表示されます。
- **チャプターと要件の両方**が含まれる場合、チャプターは段落レイアウトで表示されますが、要件セクションでは必要に応じてグリッドレイアウトと段落レイアウトを切り替えることができます。












チャプターは、次のモードで表示できます。

- **ドキュメントのレイアウト**: ブックスタイルでチャプターと要件を表示します。
- **グリッドレイアウト**: 表形式で要件を表示します。
- **編集可能なグリッドレイアウト**: 表形式で要件を表示します。このモードでは、[編集] ダイアログを開くことなく、表示される属性を編集できます。

[段落]、[グリッド]、および [編集可能なグリッド] レイアウトを切り替えるには、[チャプターの編集] ダイアログの [チャプターの書式設定] タブで目的のレイアウトを選択します。

### 詳細ペインのアイコン (ドキュメントのフィルタリングに関連するものを除く)

次のアイコンは、ドキュメントの変更ステータスを示しています。

-  **ドキュメントの保存**: ドキュメントの変更を保存するか、チェックボックスを選択して自動保存を開始します。
-  **インライン編集を無効にする**: このアイコンを選択すると、レビュー中の変更が禁止されます。コメントは作成できますが、編集はできません。
-  **選択/選択解除**: [コレクションに追加] などの許可されたアクションを実行するために、ドキュメント内のすべての要件を選択/選択解除します。
-  **変更なし**: ドキュメントは前回のアクセス時から変更されていません。
-  **変更あり**: ドキュメントが前回のアクセス時から変更されています。**変更あり**アイコンをクリックすると、最近の変更が表示されます。ドキュメントの変更の詳細については、「[ドキュメント変更の表示](#)」(118 ページ) を参照してください。
-  **用語集エントリのスキャン**: 用語集エントリのテキストをスキャンします。ドキュメントビューモードによっては、選択されたチャプターまたはドキュメント全体をスキャンします。この機能は、管理者が Glossary クラスを作成している場合にのみ使用できます。用語集の詳細については、「[用語集](#)」(70 ページ) を参照してください。
-  **ドキュメント全体ビュー**: 2つのビューモードの一つ。ドキュメント全体ビューでは、ドキュメント全体をスクロールできます。「[ドキュメントビューモード](#)」(115 ページ) を参照してください。
-  **チャプター内容ビュー**: ドキュメントビューをチャプター内容ビューに変更します。個別のチャプターをスクロールできます。「[ドキュメントビューモード](#)」(115 ページ) を参照してください。
-  **検索と置換**: このボタンを使用すると、[ドキュメント内で検索と置換] ダイアログが開き、ドキュメントまたは選択したチャプターで文字列を検索することができます。「[文字列の検索と置換](#)」(119 ページ) を参照してください。
-  **印刷**: お使いのシステムの印刷ダイアログが起動し、詳細ペインの現在の内容が印刷されます。「[印刷](#)」(116 ページ) を参照してください。
-  **更新**: データベースの最新のデータが詳細ペインに読み込まれます。

## ドキュメントのフィルタリング

以下の要素により、ユーザーは表示されるドキュメントデータをフィルタリングできます。

- 1 **フィルター**: 検索文字列を入力し、検索アイコンをクリックして、一致するドキュメントデータを検索します。
- 2 **オプション**: [オプション] をクリックすると、検索をさらに絞り込むことができます。

- [検索範囲] を使用して、検索文字列の範囲をPUID (要件ID)、タイトル、説明に限定します。
  - [チャプターを含める] をチェックすると、検索にチャプターのテキストが含まれます。
  - [ドキュメント全体ビュー] で [コンテキストの表示] をチェックすると、検索に一致する要件のコンテキストがわかるように、チャプターやサブチャプターのヘッダーが含まれます。
- 3 保存されたフィルターには、検索アイコンの右側にあるドロップダウンをクリックするとアクセスできます。[クイック検索] で作成したフィルターは、編集を加えるかどうかに関係なく、ドキュメントに適用できます。
- 以下で説明するクイック検索機能の詳細な説明については、「クイック検索による要件の検索」(174 ページ) を参照してください。
- 4 ドキュメント内からクイック検索フィルターを編集するには、鉛筆アイコンを使用して [フィルターの編集] ダイアログを表示します (図 3-1 の画像を参照)。
- 既存のフィルターを編集し、新しい名前で作成します。
  - 既存のフィルターを編集し、同じ名前で作成します。保存した編集内容は、クイック検索のフィルターに適用されます。
- 5 新しいフィルターを作成するには、フィルターの選択をクリアし ([なし] を選択)、鉛筆アイコンをクリックします。[新規フィルター] ダイアログが表示されます。

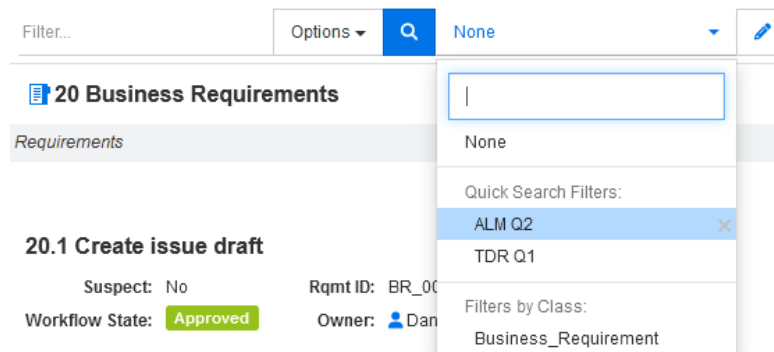


図 3-1. ドキュメントビューでの保存済みフィルターの選択

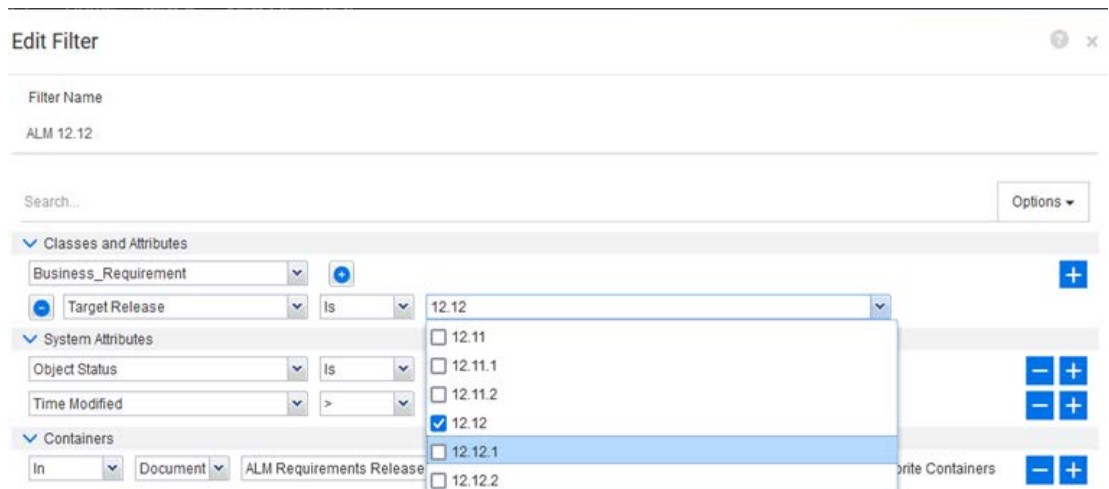


図 3-2. [フィルターの編集] ダイアログ



# ドキュメントのレイアウト

## 段落レイアウト

**3.2 Miscellaneous Requirements**

Requirements Layout: [Editable Grid](#) | [Grid](#) | [Paragraph](#)

**3.2.1 System response times**

Suspect: No                      Rqmt ID: MRKT\_000029                      Priority: High  
 Time Modified: 30-SEP-2015@01:54:24  
 The system response time shall not be greater than 3 seconds for 80 percent of the transactions.

**3.2.2 System weight**

Suspect: No                      Rqmt ID: MRKT\_000030                      Priority: High  
 Time Modified: 30-SEP-2015@01:54:24  
 The system shall weigh less than 8 pounds.

**3.2.3 System comes in different colors**

Suspect: No                      Rqmt ID: MRKT\_000031                      Priority: High  
 Time Modified: 30-SEP-2015@01:54:24  
 The system shall be available in a variety of colors.

段落レイアウトでリスト表示された要件に対してアクションを実行するには、要件を選択してから、[アクション] ペインの [要件] グループで目的のアクションを選択します。

## グリッドレイアウト

**3.2 Miscellaneous Requirements**

Requirements Layout: [Editable Grid](#) | [Grid](#) | [Paragraph](#)

#	Rqmt ID	Title	Text	Priority	Time Modified
3.2.1	MRKT_000029	System respon...	The system res...	High	30-SEP-2015...
3.2.2	MRKT_000030	System weight	The system sh...	High	30-SEP-2015...
3.2.3	MRKT_000031	System comes ...	The system sh...	High	30-SEP-2015...

グリッドレイアウトには、次の機能があります。

- **並べ替え:** 列の見出しをクリックすると、その属性で並べ替えが行われます。
- **要件の編集:** 要件をダブルクリックすると、[属性] ダイアログが開きます。

グリッドレイアウトでリスト表示された要件に対してアクションを実行するには、要件を選択してから、[アクション] ペインの [要件] グループで目的のアクションをクリックします。

## 編集可能なグリッドレイアウト

3.2 Miscellaneous Requirements

Requirements Layout: Editable Grid | Grid | Paragraph

Row count: 3

#	Rqmt ID	Title	Text	Priority	Time Mo...
3.2.1	MRKT_000029	System response times	The system response time shall not be greater than 3 seconds for 80 percent of the transactions.	High	30-Sep-2015@01:54:24
3.2.2	MRKT_000030	System weight	The system shall weigh less than 8 pounds.	High	30-Sep-2015@01:54:24
3.2.3	MRKT_000031	System comes in different colors	The system shall be available in a variety of colors.	High	30-Sep-2015@01:54:24

編集可能なグリッドレイアウトには、次の機能があります。

- **並べ替え**: 列の見出しをクリックすると、その属性で並べ替えが行われます。
- **属性の編集**: 表のセルをダブルクリックして、要件の属性を編集します。
- **要件の編集**: 要件IDをダブルクリックするか、要件を選択して [アクション] ペインから [開く] をクリックします。

編集可能なグリッドレイアウトでリスト表示された要件に対してアクションを実行するには、要件を選択してから、[アクション] ペインの [要件] グループで目的のアクションをクリックします。

## フォームレイアウト

## 3.2.2 System weight



Propose

Refresh

Edit

Print

Category: RMDEMO/Functional/Design and Construction

## STANDARD ATTRIBUTES

Rqmt ID:  
MRKT\_000030

Title:  
System weight

Text:  
The system shall weigh less than 8 pounds.

» CUSTOM ATTRIBUTES

» SYSTEM ATTRIBUTES

» ATTACHMENTS

» COMMENTS

» LINKS

» HISTORY

» POLLS

» CONTAINERS

このレイアウトには、次のコントロールと機能が含まれています。

- **提案:** このボタンを使用すると、[変更の提案] ダイアログが開き、現在選択されている要件への変更を提案することができます。「[変更要求の提出](#)」(200ページ)を参照してください。
- **更新:** データベースの最新のデータが詳細ペインに読み込まれます。
- **開く:** このボタンをクリックすると、表示用または編集用に要件が開きます。「[要件の編集](#)」(194ページ)を参照してください。
- **印刷:** お使いのシステムの印刷ダイアログが起動し、詳細ペインの現在の内容が印刷されます。「[印刷](#)」(116ページ)を参照してください。



**注記** フォームレイアウトのセクションの内容が印刷されるのは、セクションが展開されている場合のみです。

- 現在選択されている要件に対してアクションを実行するには、[アクション] ペインの [要件] グループで目的のアクションを選択します。

## ドキュメントビューモード

ドキュメントでは、2種類のビューモード (チャプターおよびドキュメント全体) が利用できます。ビューモードによって、詳細ペインでのドキュメントの表示形式が決まります。ドキュメントビューモードを変更するには、インスタンス設定/ユーザー設定 (「[デフォルトのドキュメントビューモード](#)」(96ページ)を参照) を使用するか、詳細ペインで または をクリックします (「[詳細ペイン](#)」(110ページ)を参照)。

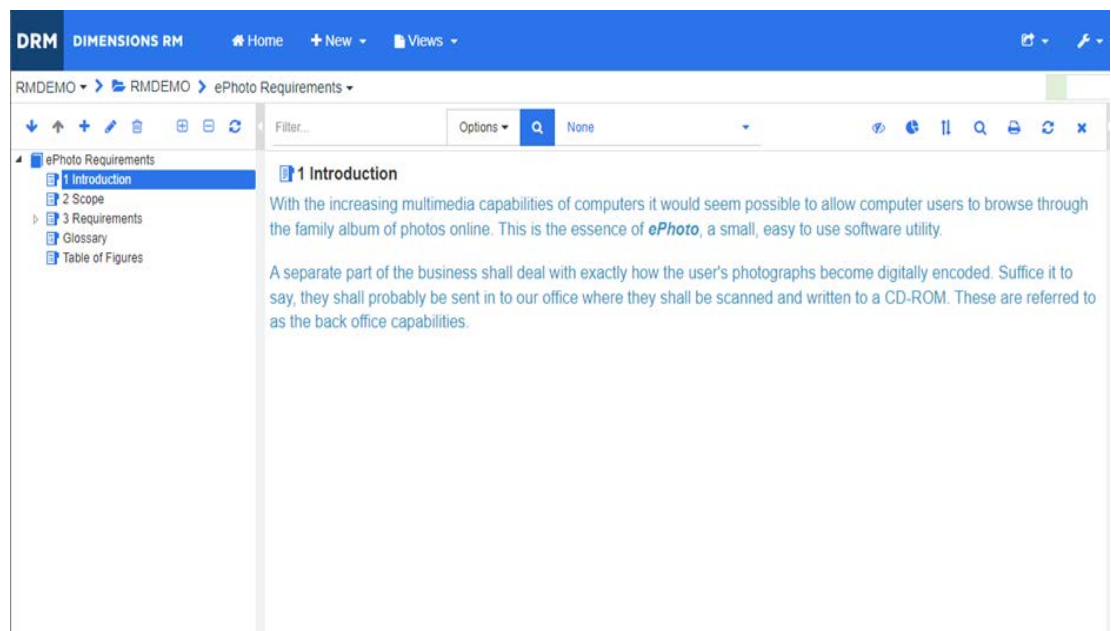


図 3-3. ドキュメントビューモード: チャプター

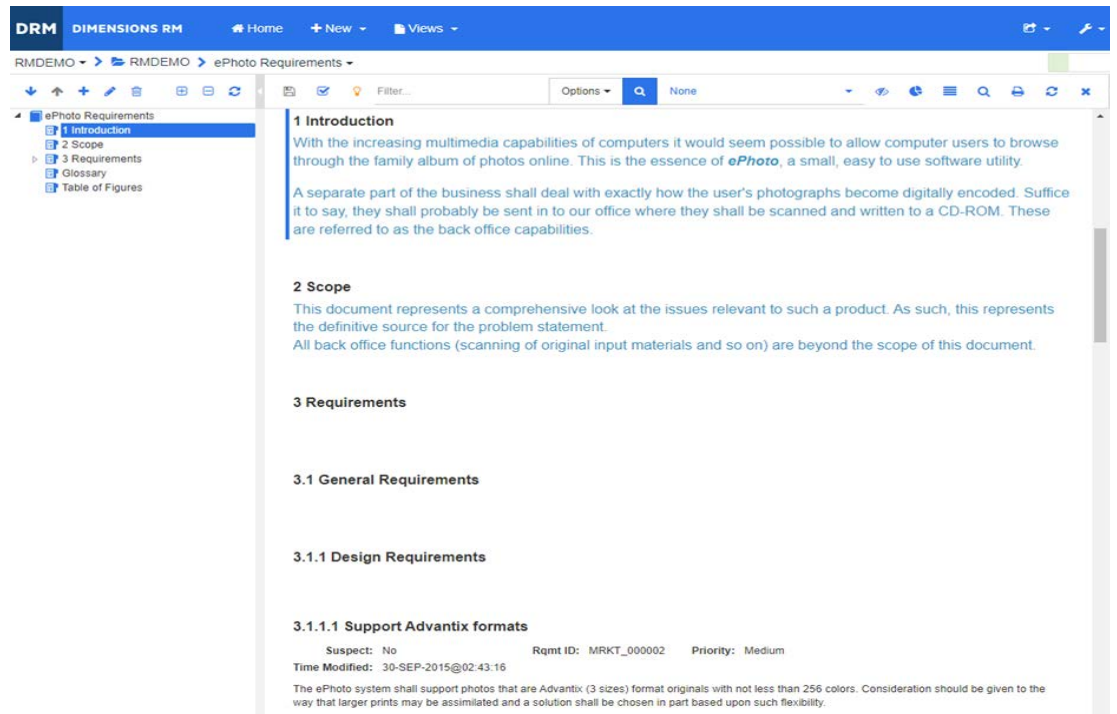


図 3-4. ドキュメントビューモード：ドキュメント全体（標準モード）

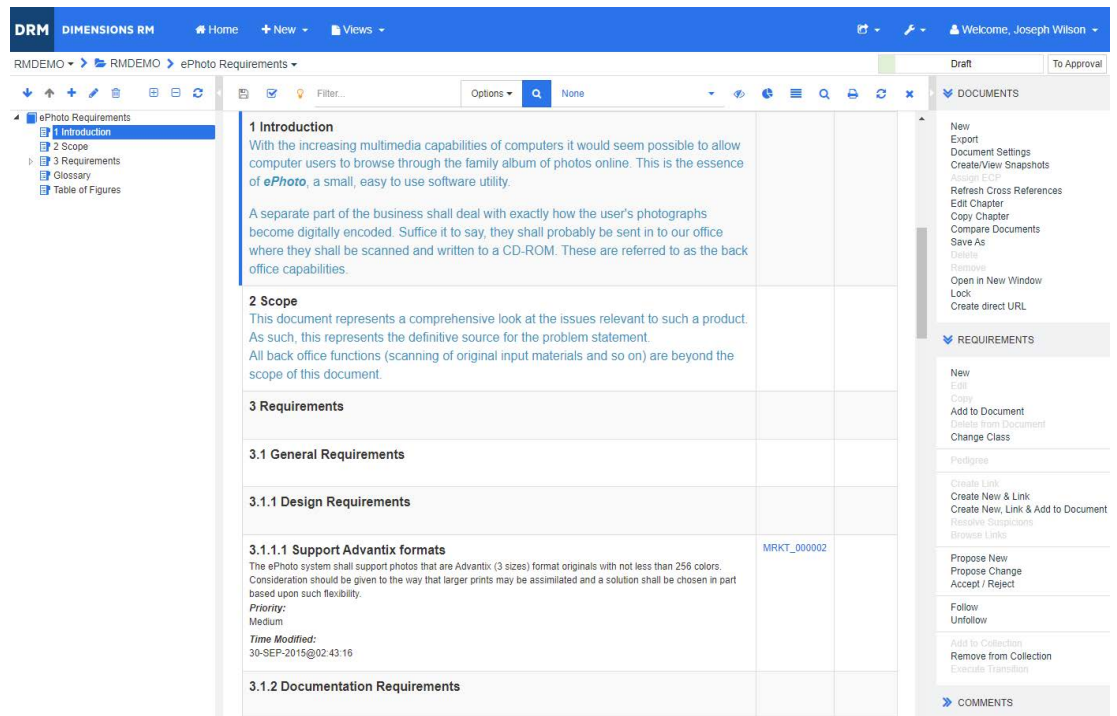


図 3-5. ドキュメントビューモード：ドキュメント全体（コンパクトモード）

## 印刷

ナビゲーションペインで要件、チャプター、またはドキュメントを選択している場合、詳細ペインの内容を印刷できます。

詳細ペインの内容を印刷するには、次の手順を実行します。

- 1 詳細ペインで [印刷] をクリックします。印刷用に内容が書式設定されたウィンドウが開きます。このウィンドウに表示されるRMのコントロールは機能しません。




**注記** フォームレイアウトのセクションの内容が印刷されるのは、セクションが展開されている場合のみです。


- 2 お使いのシステムの印刷ダイアログが表示されます。[印刷] をクリックします。要件がプリンターに送信されます。
- 3 印刷が済んだら、書式設定された内容を表示したウィンドウを閉じます。

## ドキュメントまたはスナップショットを開く

ドキュメントを開くには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 [ドキュメント] タブを選択します。
- 3 ドキュメントが別のカテゴリ内にある場合は、[カテゴリ] ツリーでそのカテゴリを選択します。
- 4 目的のドキュメントをダブルクリックします。ドキュメントビューにドキュメントが開きます。

スナップショットを開くには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 [ドキュメント] タブを選択します。
- 3 [スナップショットの表示] をクリックして、[ドキュメント] タブにスナップショット列を表示します。
- 4 目的のスナップショットをダブルクリックします。ドキュメントビューにスナップショットが開きます。


現在のドキュメント/スナップショットを新しいウィンドウで開くには、次の手順を実行します。

- 1 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [新しいウィンドウで開く] をクリックします。
- 2 新しいブラウザウィンドウに、ドキュメントまたはスナップショットが開きます。

## ドキュメントとスナップショットリストを開く

ドキュメントの多数のスナップショットを操作している際は、ドキュメントとスナップショットのリストを同時に開きたい場合があります。同じドキュメントを頻繁に開く必要がある場合は、簡単にアクセスできるようにURLをブックマークすることをお勧めします。

ドキュメントとスナップショットのリストを開くには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 [ドキュメント] タブを選択します。
- 3 ドキュメントを選択し、[スナップショットの作成] をクリックします。選択したドキュメントのスナップショットのリストが開きます。
- 4 次のいずれかを実行します。
  - **クリック:** 新しいブラウザのタブまたはウィンドウでドキュメントとスナップショットのリストを開きます。

- **右クリック:** ショートカットメニューから [ **リンクのアドレスをコピー** ] (または同様のエントリ) を選択して、ブックマークを作成できる URL を取得します。

## 1つ以上のオブジェクトを表示する権限がない

ドキュメントを初めて開いたときに表示される次のメッセージは、ドキュメントに含まれる内容の中に表示できないものがあることを示しています。

警告: このドキュメント内のオブジェクトを表示する権限がありません。

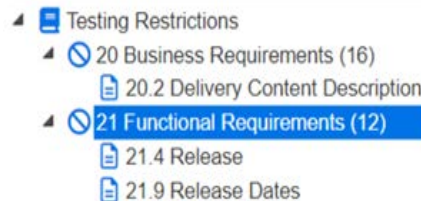
これらのオブジェクトは表示されません。

これは、ドキュメント内に次に属する要件が含まれていることを意味します。

- 読み取り権限のないクラス
- 読み取り権限のないカテゴリ
- 非アクティブ化されているカテゴリ

非表示のオブジェクトを含むチャプターまたはサブチャプターには、

警告マークが表示されます。



**図 3-6.** この警告は、そのセクション内のオブジェクトに対する読み取りアクセス権がないことを示します。

利用できないオブジェクトの数を把握するには、次のように設定を変更します。

[ドキュメントの設定] > [ドキュメントの書式設定] > [ドキュメントツリー] で、[チャプターのタイトルに割り当てられた要件の数を表示する] を選択します。

権限が問題である場合は、チームリーダーまたはインスタンス管理者にお問い合わせください。


これらのオブジェクトを含むカテゴリが非アクティブ化されていることが問題である場合は、非アクティブ化されたカテゴリへの読み取り専用アクセス権を取得してください (「[カテゴリ: 非アクティブなカテゴリを表示する](#)」(83 ページ))。

## ドキュメント変更の表示






前回のアクセス時から変更されているドキュメントを開くと、ドキュメントが変更されていることを示すメッセージが表示されます。ドキュメント上で他のユーザーが行った変更だけでなく、ドキュメント外で要件に対して行われた変更も簡単に確認できます。

ドキュメントセクションのツールバーでは、💡 アイコンは変更があることを示します。変更なしは、🔍 アイコンで示されます。アイコンをクリックすると、変更の数と個別の変更を示す表が表示されます。さらに、以下を表示するように詳細ペインが変更されます。

- 次のオプションを含むドロップダウンリスト:
  - **最近の変更:** 前回ドキュメントを開いてから以降に他のユーザーが行った変更を表示します。これはデフォルトです。

- **日付以降の変更:** 日付を選択できる日付セレクターを表示します。
- **スナップショット以降の変更:** このドキュメントのすべてのスナップショットとスナップショットが作成された日付を含む、ドロップダウンリストを表示します。
- : 選択したオプションの検索を開始します。
- **[親の変更を含める]** オプション: このオプションは子ドキュメントで使用できます。このオプションを選択すると、親ドキュメントの変更も表示されます。デフォルトはオフです (子ドキュメントの変更のみが表示されます)。
- **[変更のみを表示]** オプション: ドキュメントツリーを更新して、変更されたチャプター、要件、または変更要求のみを親チャプターまたは要件とともに表示します。

変更の検索を実行すると、変更が記載された表が表示されます (変更がある場合)。表の内容をフィルタリングするには、表の最初の行の1つまたは複数のボックスにテキストを入力します。変更されたチャプターまたは要件は、表内の関連するエントリをクリックすることで開くことができます。変更されたチャプターと要件は、ドキュメントツリー内でハイライト表示されることにも注意してください。

チャプターまたは要件に変更が存在する場合、チャプターまたは要件の横に  マークが表示されます。それぞれのチャプターまたは要件のすべての変更を表示するには、 をクリックします。こうすると、表示されている各属性の変更が表示されます。除去された値は取り消し線付きで赤色で表示されます。属性の差異を表示していることを示すため、 マークが  に変わります。現在の属性値に戻るには、 をクリックします。

## 文字列の検索と置換

開いているドキュメントのチャプターや要件では、文字列の検索と置換を行うことができます。以下に含まれる文字列の検索と置換を行うことができます。

- ドキュメント全体または選択されたチャプター
- TitleおよびDescription属性またはすべての英数字、リスト、またはユーザー属性



### 注記

- ドキュメントおよびスナップショットの比較を行う場合、**[検索と置換]** メニュー項目は無効になります (**「ドキュメントおよびスナップショットの比較」(162ページ)** を参照)。
- 読み取り専用オブジェクト (スナップショットおよびECPが割り当てられていないECPコントロールドキュメント) の場合、**[置換]** および **[すべて置換]** ボタンは表示されません。これらのオブジェクトでは、ダイアログの検索機能のみが利用できます。
- **[置換]** および **[すべて置換]** コマンドを使用するには、要件またはチャプターを置換する権限が必要です。選択したオブジェクトの一部しか変更する権限がない場合は、メッセージが表示されます。

文字列の検索と置換を行うには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント作業ページにドキュメントを開きます (まだ開いていない場合)。「**ドキュメントまたはスナップショットを開く**」(117ページ) を参照してください。
- 2 特定のチャプター内で検索を行う場合は、ナビゲーションペインでチャプターを選択します。

- 3 [検索と置換] (🔍) ボタンをクリックすると、[検索と置換] ダイアログが開きます。

Find and Replace in Document

Find what: General

Replace with:

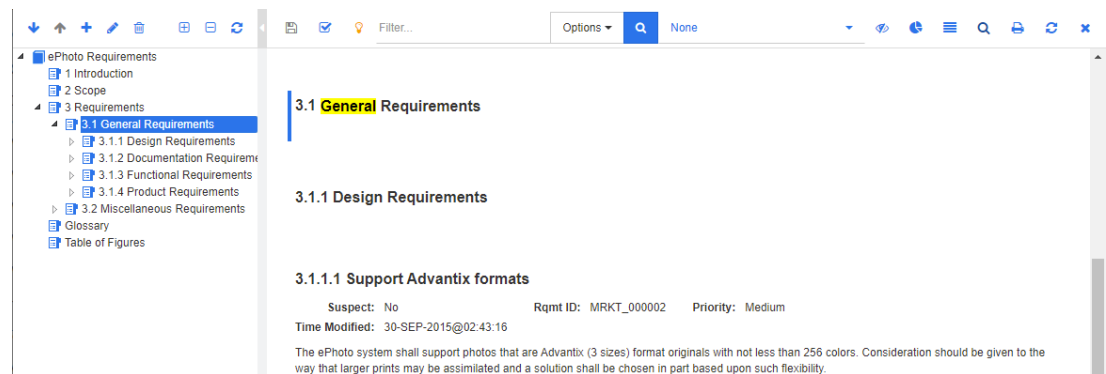
Match Options:  Match Case

Find and Replace in:  Selected chapter  All chapters  
 Title and description  All attributes

Find Next Replace Replace All Cancel

- 4 **検索文字列:** 検索する文字列を入力します。
- 5 **置換文字列:** 文字列を置き換える場合は、ここに置換用の文字列を入力します。
- 6 **大文字と小文字を区別する:** 一致条件に文字列の大文字/小文字の区別を含める場合は、このチェックボックスを有効にします。
- 7 次のいずれかを選択します。
- **選択したチャプター:** 選択したチャプターとそのチャプターに含まれるサブチャプターと要件のみを検索します。
  - **すべてのチャプター:** すべてのチャプターとその内容を検索します。
- 8 次のいずれかを選択します。
- **タイトルと説明:** Title および Description 属性のみを検索します。
  - **すべての属性:** すべての英数字、リスト、およびユーザー属性を検索します。
- 9 次のいずれかのボタンをクリックします。
- **次を検索:** このボタンをクリックすると、1つ以上の検索文字列を含む最初のチャプターまたは要件が表示されます。ナビゲーションペインで該当するチャプターまたは要件が選択され、詳細ペインで検出された文字列がハイライト表示されます。検索に一致する次の内容を表示する場合は、このボタンを再度クリックします。






- **置換:** 現在選択されているチャプターまたは要件が、[置換文字列] ボックスで指定した文字列を含むものに置き換えられます。
- **すべて置換:** このボタンをクリックすると、[検索文字列] フィールドで指定した文字列を含むすべてのチャプターと要件が、[置換文字列] フィールドで指定した文字列に置き換えられます。

[検索と置換] ダイアログが閉じ、"Replacing all strings" というメッセージが表示されます。この操作が完了すると、ダイアログに置き換えられたチャプターと要件の数が表示されます。また、エラーがある場合はエラーが報告されます。

## ドキュメントまたはスナップショットの異なるカテゴリへの移動

ドキュメントを別のカテゴリに移動するには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 [ドキュメント] タブを選択します。
- 3 スナップショットを移動する場合は、[スナップショットの表示] をクリックします。
- 4 ドキュメントまたはスナップショットをドラッグし、[カテゴリ] ツリーの目的のカテゴリにドロップします。

## ドキュメントのURLのクリップボードへのコピー

後から使用または参照できるように、ドキュメントまたはスナップショットのURLをコピーしてファイルに貼り付けることができます。このURLを起動すると、RM Browserが開いて該当するドキュメントまたはスナップショットが表示されます。以下の該当するセクションを参照してください。

### 開いているドキュメントまたはスナップショットのURLのコピー

開いているドキュメントまたはスナップショットのURLをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 作業ページにドキュメントまたはスナップショットを開いた状態で、[アクション] ペインの [ドキュメント] セットの [直接URLの作成] をクリックします。[直接URL] ダイアログが開きます。
- 2 URLを右クリックし、[リンクのアドレスをコピー] を選択して、URLをクリップボードにコピーします。
- 3 [閉じる] をクリックしてダイアログを閉じます。

- 4 Ctrl+Vキー、または関連するアプリケーション固有のメニューコマンドを使用して、URL を使用するファイルまたはアプリケーションにURLを貼り付けます。

#### 閉じているドキュメントのURLのコピー

閉じているドキュメントのURLをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューを開きます (まだ開いていない場合)。[ホーム] ビューの詳細については、「[\[ホーム\] ビューの操作](#)」(263ページ)を参照してください。
- 2 [ドキュメント] タブを選択します。
- 3 目的のドキュメントを選択します。従属ドキュメントを開くには、子ドキュメント列から従属ドキュメントを選択します (「[\[ドキュメント\] タブ](#)」(276ページ)を参照)。
- 4 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [直接URLの作成] をクリックします。[直接URL] ダイアログが開きます。
- 5 URLを右クリックし、[リンクのアドレスをコピー] を選択して、URLをクリップボードにコピーします。
- 6 [閉じる] をクリックしてダイアログを閉じます。
- 7 Ctrl+Vキー、または関連するアプリケーション固有のメニューコマンドを使用して、URL を使用するファイルまたはアプリケーションにURLを貼り付けます。

#### [ホーム] ビューでの閉じているスナップショットのURLのコピー


[ホーム] ビューで閉じているスナップショットのURLをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューを開きます (まだ開いていない場合)。[ホーム] ビューの詳細については、「[\[ホーム\] ビューの操作](#)」(263ページ)を参照してください。
- 2 [ドキュメント] タブを選択します。
- 3 関連するスナップショットを示す、直角括弧で始まるドキュメントを展開します。
- 4 目的のスナップショットを選択します。
- 5 [アクション] ペインの [ドキュメント] セクションの [直接URLの作成] をクリックします。[直接URL] ダイアログが開きます。
- 6 URLを右クリックし、[リンクのアドレスをコピー] を選択して、URLをクリップボードにコピーします。
- 7 [閉じる] をクリックしてダイアログを閉じます。
- 8 Ctrl+Vキー、または関連するアプリケーション固有のメニューコマンドを使用して、URL を使用するファイルまたはアプリケーションにURLを貼り付けます。

#### 開いているドキュメントでの閉じているスナップショットのURLのコピー

ドキュメントビューで閉じているスナップショットのURLをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント作業ページにドキュメントを開きます (まだ開いていない場合)。「[ドキュメントまたはスナップショットを開く](#)」(117ページ)を参照してください。
- 2 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [スナップショットの作成/表示] をクリックします。[スナップショット] ダイアログが開きます。

- 3 目的のスナップショットの横にあるリンク  アイコンを右クリックします。
- 4 ブラウザーから、[リンクのアドレスをコピー] を選択します (または、ご使用のブラウザーに応じて同様のメニュー項目を選択します)。URLがクリップボードにコピーされます。
- 5 Ctrl+Vキー、または関連するアプリケーション固有のメニューコマンドを使用して、URL を使用するファイルまたはアプリケーションにURLを貼り付けます。

## ドキュメントの操作

このセクションでは、ドキュメントの作成と削除、作成時に割り当てられるドキュメントの設定、ドキュメントのライフサイクルにおけるそれらの変更の詳細について説明します。

[「ドキュメントの新規作成」](#) (123ページ)

[「階層ビューでの新規ドキュメントの作成」](#) (125ページ)

[「ドキュメントの削除」](#) (126ページ)

[「ドキュメントの除去」](#) (127ページ)

[「新しい名前でのドキュメントの保存」](#) (128ページ)

[「ドキュメント設定」](#) (128ページ)

### ドキュメントの新規作成



#### 注記

- Chapterクラスとコレクションの両方の「作成」権限が必要です。
- [作成オプション] で [チャプターのみ] または [チャプターと要件] を選択する場合は、以下の権限も必要です。
  - Chapterクラス: 「閲覧」
  - コレクション: 「リンク」 および 「既存のコレクションに基づいて作成」

新規ドキュメントを作成する場合は、次のいずれかをテンプレートとして使用できます。

- 空白のテンプレート。
- 既存のドキュメントのチャプター構造。
- 既存のドキュメントのチャプター構造と要件。

新規ドキュメントを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [新規] メニューから [ドキュメント] を選択します。[新規ドキュメント] ダイアログが開きます。
- 2 **名前:** ドキュメントの名前を入力します。
- 3 **説明:** ドキュメントの説明を入力します。

説明は [ドキュメント設定] ダイアログで管理され、[ホーム] ビューの [ドキュメント] タブでドキュメントを一覧表示するときに含めることができます。

ドキュメントの内容をコピーしても、説明はコピーされません。

**4 作成オプション:** 次のいずれかを選択します。

- a **空白:** 空白のテンプレートからドキュメントを作成します。このオプションを選択すると、テンプレートリストのドキュメントは無効になります。これはデフォルトです。
- b **チャプターのみ:** テンプレートリストから選択する既存のドキュメントのチャプター構造に基づいてドキュメントを作成します。
- c **チャプターと要件:** テンプレートリストから選択する既存のドキュメントのチャプター構造と要件に基づいてドキュメントを作成します。
- d **要件のコピー:** このオプションは、オプション [チャプターと要件] が選択されている場合にのみ使用できます。  
このオプションが選択されている場合、元のドキュメントのすべての要件がコピーされ、新しいドキュメントにコピー内容が追加されます。ドキュメントにリンクされた要件が含まれる場合、要件間のリンクもコピーされます。  
このオプションが選択されていない場合、元のドキュメントのすべての要件が新しいドキュメントにリンクされます。
- e **子ドキュメントにする:** 新規に作成する子ドキュメントを関連付ける親ドキュメントのリストが表示されます。
- f **兄弟関係に基づく:** このオプションは、[子ドキュメントにする] が選択されている場合にのみ使用できます。このオプションを選択した場合、親ドキュメントのリストに選択可能な子ドキュメントが含まれます。新しい子ドキュメントは選択された子ドキュメントのコピーになります。また、親ドキュメントも同じになります。
- g **テンプレートの検索:**
  - テンプレートとして使用するドキュメントのカテゴリを選択します。
  - テンプレートとして使用するドキュメントを選択します。必要に応じて、カテゴリの横にあるボックスを使用して、リストに表示されているドキュメントをフィルタリングします。

**5 ドキュメント設定:**

- a **選択したドキュメントから継承:** 選択すると、以下のドキュメントオプションには、選択したベースドキュメントのオプションが反映されます (空白を使用していない場合に限り)。  
これらの設定を変更するには、このオプションをオフにして続行します。
- b **タイトルのエクスポート:** Wordにエクスポートする際に、[名前] フィールドの文字列をドキュメントのタイトルとして使用する場合に選択します。
- c **最新バージョンに更新 (チップ):** このオプションを選択すると、ドキュメントには現在のステータスが「最新」で追加された要件の最新バージョンが常に反映されます。このオプションをクリアすると、ドキュメント内のすべての要件が、ドキュメント外の要件に加えられた変更の影響を受けなくなります。
  - このチェックボックスをオフにした後でオンにすると、確認ダイアログが表示され、次の質問が行われます。ドキュメント内の既存の要件をすべて最新バージョンに更新しますか？
    - [OK] をクリックすると、設定が変更され、ドキュメント内のすべてのオブジェクトが最新バージョン (つまり、ステータスが「最新」) に更新されます。
    - [キャンセル] をクリックすると、設定は変更されますが、内容は変更されません。

ドキュメントに含まれる要件のバージョンを手動で変更するには、「ドキュメントでの要件バージョンの交換」(153 ページ) を参照してください。

### この設定の使用について:

この設定は、要件定義とレビューのプロセスではオンにされることが多くなりますが、ドキュメントの最終レビューが始まるとオフにされることが多くなります。

たとえば、要件ドキュメントがリリース2.2ではレビュー中で、リリース3では作業が進行中であるような場合が考えられます。このオプションをオフにすると、2.2のドキュメントには、進行中のリリース3の作業に適用された変更は反映されなくなります。開いているドキュメントの**内部**から要件に加えられた変更は反映されます。

**d 用語集:** 「用語集」チャプターを自動的に作成する場合は、このオプションを選択します。このチャプターには、このドキュメント内で使用される用語の説明が記載されます。

**e ECPコントロール:** インスタンス管理者がECPタイプのクラスを作成した場合にのみ表示されます。

ECPコントロールはプロセスであり、いったんドキュメントで採用すると、取り消すことはできません。詳細については、「[ECPのドキュメントへの割り当て](#)」(152 ページ) を参照してください。

**f 親ドキュメント:** ドキュメントを親ドキュメントにする場合は、このオプションを選択します。

**g 図表目次:** 「図表目次」チャプターを自動的に作成する場合は、このオプションを選択します。このチャプターには、キャプション付きのすべての画像と表が記載されます (「[HTML テキスト書式設定ツールバー](#)」(43 ページ) の「キャプションの追加」を参照)。このチャプターは、ドキュメントを開いたときや再ロードしたときに更新されます。

**6 カテゴリ:** 新規ドキュメントを追加するカテゴリを選択します。ドキュメントは、ユーザーがアクセス可能な任意のカテゴリに属することができます。

**7 ワークフロー:** ドキュメントで使用するワークフローを選択します。ワークフローを選択すると、選択したワークフローの属性 (レビュー担当者など) が、このダイアログにロードされます。ワークフローが選択されている場合、カスタム属性が **[カスタム属性]** セクションに表示されます。ワークフローの **[新規作成]** トランザクションの定義によっては、一部の属性が必須属性になることがあります。ドキュメントを作成するには、必須属性に必ず入力する必要があります。

**8 [OK]** をクリックします。

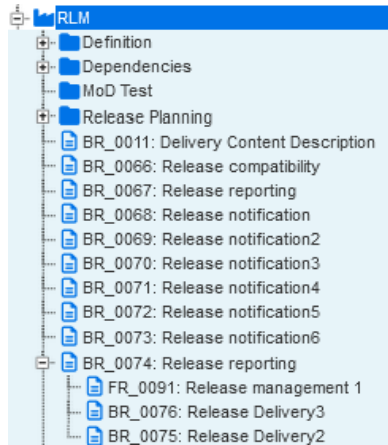
## 階層ビューでの新規ドキュメントの作成

ここでは、階層からドキュメントを作成するプロセスについて説明します。ドキュメントのナビゲーションペインには、階層構造が反映されます。

また、階層構造のセグメントに基づいて、既存のドキュメントに要件セットを追加することもできます。詳細については、「[階層からドキュメントへの要件の追加](#)」(147 ページ) を参照してください。

新規ドキュメントを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューで、ドキュメントを作成する階層のセグメントを選択します。以下の例では、カテゴリRLMとそのコンテンツが選択されています。




- 2 [アクション] ペインの [階層] セットから [ドキュメントの作成] を選択します。[新規ドキュメント] ダイアログが開きます。
- 3 名前: ドキュメントの名前を入力します。
- 4 説明: ドキュメントの説明を入力します。この説明は [ドキュメント設定] ダイアログに表示され、[ドキュメント] タブに表示されるエントリーに含めることができます。
- 5 [OK] をクリックします。

## ドキュメントの削除

ドキュメントを削除すると、そのドキュメントには削除済みのマークが付きますが、データは保持され、[削除されたドキュメントの表示] アクションを使用して表示できます。ドキュメントとコレクションの「削除」権限がある場合は、ドキュメントを削除できます。

スナップショットを含むドキュメントが削除済みとしてマークされると、関連するスナップショットも削除済みとしてマークされます。

### [ホーム] ビューからのドキュメントの削除

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 削除するドキュメントを選択します。
- 3 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [削除] をクリックします。
- 4 確認を求めるメッセージが表示されたら、ドキュメントを削除することを確認します。

親ドキュメントの場合、子ドキュメントの処理方法を選択します。[すべての子ドキュメントの依存関係を解除] を選択した場合、削除した親ドキュメントの削除を後で取り消しても、依存関係は復元できません。

### ドキュメントビューからのドキュメントの削除

- 1 ドキュメント作業ページのナビゲーションペインで、ドキュメントのルートを選択します。
- 2 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [削除] をクリックします。


- 3 確認を求めるメッセージが表示されたら、ドキュメントを削除することを確認します。

親ドキュメントの場合、子ドキュメントの処理方法を選択します。[すべての子ドキュメントの依存関係を解除]を選択した場合、削除した親ドキュメントの削除を後で取り消しても、依存関係は復元できません。

## ドキュメントの削除の取り消し

ドキュメントを削除すると、ドキュメントに削除済みのマークが付きますが、データは保持されます。ドキュメントの削除を取り消すと、ドキュメント、チャプター、および関連するスナップショットが復元されます。

### [ホーム] ビューからのドキュメントの削除の取り消し

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [削除されたドキュメントの表示] を選択します。
- 3 削除を取り消すドキュメントを選択します。
- 4 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [削除の取り消し] をクリックします。
- 5 確認を求めるメッセージが表示されたら、ドキュメントの削除を取り消すことを確認します。

### ドキュメントビューからのドキュメントの削除の取り消し

- 1 ドキュメント作業ページのナビゲーションペインで、ドキュメントのルートを選択します。
- 2 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [削除の取り消し] をクリックします。
- 3 確認を求めるメッセージが表示されたら、ドキュメントの削除を取り消すことを確認します。


## ドキュメントの除去



**注意!** ドキュメントを除去すると、チャプターと関連するスナップショットを含むドキュメントがデータベースから**完全に**削除されます。除去したドキュメント、チャプター、スナップショットは復元できません。

ドキュメントを除去しても、データベースから要件は除去されません。ドキュメント、コレクション、およびクラスの「除去」権限がある場合は、ドキュメントを除去できます。

### [ホーム] ビューからのドキュメントの除去

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 削除するドキュメントを選択します。
- 3 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [除去] をクリックします。

### ドキュメントビューからのドキュメントの除去

- 1 ドキュメント作業ページのナビゲーションペインで、ドキュメントのルートを選択します。
- 2 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [除去] をクリックします。
- 3 確認を求めるメッセージが表示されたら、ドキュメントを削除することを確認します。

## 新しい名前でのドキュメントの保存

この機能を使用すると、現在開いているドキュメントに名前を付けて保存できます。



**権限** [名前を付けて保存]を使用するには、次の権限が必要です。

- Chapterクラス: 「作成」および「閲覧」
- コレクション: 「作成」、「リンク」、「既存のコレクションに基づいて作成」

新しい名前でのドキュメントを保存するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント作業ページにドキュメントを開きます (まだ開いていない場合)。「[をクリックして、\[ホーム\]ビューを開きます。](#)」(117ページ)を参照してください。
- 2 [アクション]ペインの[ドキュメント]グループの[名前を付けて保存]をクリックします。[ドキュメントを名前を付けて保存]ダイアログが表示されます。
- 3 **名前:** 保存するドキュメントの名前を入力します。
- 4 **説明:** ドキュメントの説明を入力します。
- 5 **チャプターと要件:** チャプターと要件を新しいドキュメントにコピーする場合は、このオプションを選択します。
- 6 **要件のコピー:** このオプションは、オプション[チャプターと要件]が選択されている場合にのみ使用できます。このオプションが選択されている場合、元のドキュメントのすべての要件がコピーされ、新しいドキュメントにコピー内容が追加されます。ドキュメントにリンクされた要件が含まれる場合、要件間のリンクもコピーされます。このオプションが選択されていない場合、元のドキュメントのすべての要件が新しいドキュメントにリンクされます。
- 7 **チャプターのみ:** 元のドキュメントのチャプターのみ (要件なし) をコピーする場合は、このオプションを選択します。
- 8 [OK]をクリックします。

## ドキュメント設定

[ドキュメント設定]ダイアログでは、属性の詳細、一般的な書式設定、表示オプション、エクスポート用の属性、クラスの制限、依存関係にアクセスできます。ほとんどの設定は、ドキュメントのライフサイクル中に変更できます。

ドキュメント設定には、ドキュメントビュー、つまり開いているドキュメント内からアクセスします。

- **一般:** ドキュメント名、説明、詳細設定、ワークフローを変更できます。「[ドキュメントの属性の編集](#)」(129ページ)を参照してください。
- **ドキュメントの書式設定:** チャプターまたはドキュメント全体のレイアウトを指定できます。詳細については、「[ドキュメントの書式設定](#)」(130ページ)を参照してください。
- **表示オプション:** (テンプレートなしで)[グリッド]、[編集可能なグリッド]、または[段落]モードを使用する場合は、表示される属性を指定できます。詳細については、「[表示オプション](#)」(133ページ)を参照してください。



- **エクスポートオプション:** ドキュメントをエクスポートする場合に、クラスごとの属性を指定できます。詳細については、「[エクスポートオプション](#)」(134 ページ) を参照してください。
- **クラスの制限:** ドキュメントで使用可能なクラスを指定できます。詳細については、「[ドキュメントでの要件のクラスの制限](#)」(134 ページ) を参照してください。
- **依存関係:** 親ドキュメントと子ドキュメントの間の依存関係を表示します。詳細については、「[ドキュメントの依存関係](#)」(135 ページ) を参照してください。

## ドキュメントの属性の編集

ドキュメント設定には、ドキュメントビュー、つまり開いているドキュメント内からアクセスします。「[ドキュメントまたはスナップショットを開く](#)」(117 ページ) を参照してください。

以下では、[一般] タブについて説明します。

ドキュメントの属性を編集するには、次の手順を実行します。

- 1 **名前:** ドキュメント名を入力または変更します。
- 2 **説明:** ドキュメントの説明を入力または変更します。

説明は、[ホーム] ビューの [ドキュメント] タブでドキュメントを一覧表示するときに含めることができます。

ドキュメントの内容をコピーしても、説明はコピーされません。
- 3 **ワークフロー:** このドキュメントで使用するワークフローを選択または変更します。

ワークフローを選択すると、そのワークフローに関連する属性が読み込まれます。これらの属性には、作者、開始日、終了日、レビュー担当者、承認者などがあります。
- 4 **ドキュメント設定:**
  - a **タイトルのエクスポート:** Wordにエクスポートする際に、[名前] フィールドの文字列をドキュメントのタイトルとして使用する場合に選択します。
  - b **最新バージョンに更新 (チップ):** このオプションを選択すると、ドキュメントには現在のステータスが「最新」で追加された要件の最新バージョンが常に反映されます。このオプションをクリアすると、ドキュメント内のすべての要件が、ドキュメント外の要件に加えられた変更の影響を受けなくなります。
    - **このチェックボックスをオフにした後でオンにすると、確認ダイアログが表示され、次の質問が行われます。ドキュメント内の既存の要件をすべて最新バージョンに更新しますか?**
      - [OK] をクリックすると、設定が変更され、ドキュメント内のすべてのオブジェクトが最新バージョン (つまり、ステータスが「最新」) に更新されます。
      - [キャンセル] をクリックすると、設定は変更されますが、内容は変更されません。

ドキュメントに含まれる要件のバージョンを手動で変更するには、「[ドキュメントでの要件バージョンの交換](#)」(153 ページ) を参照してください。

### [最新バージョンに更新 (チップ)] の使用について:

この設定は、要件定義とレビューのプロセスではオンにされることが多くなりますが、ドキュメントの最終レビューが始まるとオフにされることが多くなります。

たとえば、要件ドキュメントがリリース2.2ではレビュー中で、リリース3では作業が進行中であるような場合が考えられます。このオプションをオフにすると、2.2のドキュメントには、進行中のリリース3の作業に適用された変更は反映されなくなります。開いているドキュメントの内部から要件に加えられた変更は反映されます。

- c **用語集:** インスタンス管理者が用語集クラスの作成を選択した場合は、このドキュメントで使用される用語の定義を反映した用語集を生成するために、このチェックボックスをオンにします。
- d **ECPコントロール:** インスタンス管理者がECPタイプのクラスを作成した場合にのみ表示されます。  
ECPコントロールはプロセスであり、いったんドキュメントで採用すると、取り消すことはできません。詳細については、「[ECPのドキュメントへの割り当て](#)」(152ページ)を参照してください。
- e **親ドキュメント:** ドキュメントを親ドキュメントにする場合は、このオプションを選択します。
- f **図表目次:** 「図表目次」チャプターを自動的に作成する場合は、このオプションを選択します。このチャプターには、キャプション付きのすべての画像と表が記載されます(「[HTMLテキスト書式設定ツールバー](#)」(43ページ)の「キャプションの追加」を参照)。このチャプターは、ドキュメントを開いたときや再ロードしたときに更新されます。

5 [OK] をクリックします。

### ドキュメントの書式設定

ドキュメント設定には、ドキュメントビュー、つまり開いているドキュメント内からアクセスします。「[ドキュメントまたはスナップショットを開く](#)」(117ページ)を参照してください。

以下では、[ドキュメントの書式設定] タブについて説明します。

ドキュメント書式を指定するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメントの書式を設定するには、ナビゲーションペインでルート(ドキュメントタイトル)を選択します。
- 2 **エクスポート時のページの向き:**
  - a **パブリッシュテンプレートから継承:** パブリッシュテンプレートで指定されているのと同じページの向きを使用します。パブリッシュテンプレートが指定されていない場合は、デフォルト(縦)が使用されます。
  - b **縦:** ページの向きを縦に設定します。
  - c **横:** ページの向きを横に設定します。
  - d **すべてのチャプターをリセット:** すべてのチャプターのページの向きをリセットして、前のチャプターから継承します。これは、向きが変更された場合にのみ必要です。
- 3 **ドキュメント全体ビュー:** [ドキュメント全体ビュー] を選択したときの、チャプターと要件の表示方法を指定します。
  - a **標準モード:** チャプターが個別のセクションとして表示されます。要件は[要件のレイアウト]設定で定義された形式で表示されます。
  - b **コンパクトモード:** チャプターと要件が1つの表に表示されます。コンパクトモードでドキュメントをMicrosoft Wordにエクスポートする場合、チャプターと要件のタイトルはMicrosoft Wordのナビゲーションペインに表示されません。これは、Microsoft Wordの制限事項です。
- 4 **要件のレイアウト:**

- a **編集可能なグリッド:** 要件が表に表示されます (1行に1つの要件)。RM Browserでドキュメントを編集するときに、要件の属性を変更できます。

[表示オプション] の設定で指定された属性が表示/エクスポートされます (「表示オプション」(133ページ) を参照)。同じチャプター/サブチャプターに複数のクラスの要件が含まれている場合、このオプションは無効になります。このオプションを使用するには、要件クラスを別々のサブチャプターに分けます。
  - b **グリッド:** 要件が表に表示されます (1行に1つの要件)。

[表示オプション] の設定で指定された属性が表示/エクスポートされます (「表示オプション」(133ページ) を参照)。同じチャプター/サブチャプターに複数のクラスの要件が含まれている場合、このオプションは無効になります。このオプションを使用するには、要件クラスを別々のサブチャプターに分けます。
  - c **段落:** 要件が個別に表示されます。[表示オプション] の設定で指定された属性のみが表示/エクスポートされます (「表示オプション」(133ページ) を参照)。
- 5 **ラベルの表示とエクスポート:** 次の設定は、詳細ペインおよびエクスポートされたドキュメントでの属性ラベルの表示方法を変更します。これらの設定は、[要件のレイアウト] オプションの[段落] を使用する場合にのみ該当します。
- a **<デフォルトのタイトル>:** 選択した場合、タイトル属性の名前が要件タイトルの名前の前に表示されます (例: Title: Database stores at least 1024 entries)。
  - b **<デフォルトの説明>:** 選択した場合、説明属性の名前が説明の前に表示されます (例: Text: The database shall store not less than 1024 entries)。
- 6 **すべてのチャプターをリセット:** このボタンを使用すると、ドキュメント内のすべてのチャプターの [要件のレイアウト] と [ラベルの表示とエクスポート] の設定が、親の設定を継承するデフォルト設定に戻ります。
- 7 **要件テンプレートのエクスポート:** カスタムテンプレートはインスタンス管理者が定義します。定義されている場合は、使用可能なテンプレートをドロップダウンから選択できます。
- a カスタムテンプレートを使用するには、[要件のレイアウト] を [段落] にする必要があります。
  - b 要件クラスのパブリッシュテンプレートが存在する場合は、そのテンプレートで指定されたレイアウトと属性が使用されます。
- 8 **最初のチャプター番号:** 別々のセクションでエクスポートされたドキュメントをサポートするために、最初のチャプター番号を任意の開始番号に設定することができます。チャプター番号には小数点を含めることができます (例: 2または2.2)。
- 9 **ドキュメントのナンバリング**
- a チャプターと要件のナンバリングを分ける場合は、[チャプターと要件のナンバリングを分ける] チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、ドキュメント内の最上位レベルのチャプターと同じレベルにある要件は、チャプターとしてナンバリングされます。このような要件を追加または削除すると、ドキュメント内のすべてのチャプターのナンバリングが変更されます。
  - b ドキュメント内で要件番号を示すのに使用される書式文字列を定義する場合は、[文字列の書式設定] フィールドに目的の書式を入力します。書式文字列に使用できるのは10文字までです。以下の文字には、特別な意味があります。
    - ナンバー (#) 記号は、要件番号の位置を表します。(ナンバー記号は、パウンド、ハッシュ、オクトソープ、シャープなど世界各地でさまざまな名称で呼ばれています。)

- キャレット (^) 記号は、エスケープ記号として機能します。要件番号の位置を表すのではなく、# という文字そのものを表示する場合は、# 文字の前にキャレット記号を挿入します。

以下の例は、2.1.1 という番号の付いたサブチャプター内に2つの要件がある場合を示しています。

文字列	結果
.#	2.1.1.1 Macサポート 2.1.1.2 期限 (これはデフォルトです。)
-#	2.1.1-1 Macサポート 2.1.1-2 期限
^##	2.1.1#1 Macサポート 2.1.1#2 期限
^^#	2.1.1^1 Macサポート 2.1.1^2 期限
RQ:#	2.1.1RQ:1 Macサポート 2.1.1RQ:2 期限
ReqNumber#	2.1.1ReqNumber1 Macサポート 2.1.1ReqNumber2 期限
	Macサポート 期限  <b>注記</b> ドキュメント、ドキュメントツリー、またはグリッドレイアウトには、要件のナンバリングは表示されません。



**注記** ナンバリングの設定を変更して [OK] をクリックすると、新しい設定を適用する前にドキュメントのスナップショットを作成するかどうかを確認するダイアログが表示されます。スナップショットを作成しない場合は、表示されたスナップショットダイアログで [キャンセル] をクリックします。



**ヒント** 更新ボタンをクリックすると、作業ページ上にナンバリングの変更が反映されるのを確認できます。

- 10** **ドキュメントツリー**：次のオプションを変更すると、ドキュメントツリーに追加情報を表示するかどうかを指定できます。
  - **チャプターのタイトルに割り当てられた要件の数を表示する**：タイトルの後にチャプターまたはサブチャプター内の要件の数を表示します。
  - **チャプターのツールチップに割り当てられた要件の数を表示する**：チャプターのタイトルにマウスポインターを合わせたときに表示されるツールチップに、チャプターまたはサブチャプター内の要件の数を表示します。
  - **変更提案があるオブジェクトを強調表示する**：ステータスが [提案済み] の要件と提案済みのオブジェクトを含むチャプターをオレンジ色で強調表示します。
- 11** [OK] をクリックします。

## 表示オプション

[ドキュメント設定] の [表示オプション] タブでは、クラスごとに要件に対して表示される属性を指定できます。



**注記** これらの設定は、現在のドキュメントに対するものです。設定を再利用するには、既存のドキュメントに基づいて新しいドキュメントを作成し、新しい名前で作成します。

ドキュメントのプロパティを指定するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメントを開きます。詳細については、「ドキュメントまたはスナップショットを開く」(117 ページ) を参照してください。
- 2 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [ドキュメント設定] をクリックして、[ドキュメント設定] ダイアログを開きます。
- 3 [表示オプション] タブを選択します。

- 4 プロパティを指定するクラスを選択します。
- 5 **表示する属性:** ドキュメントの [詳細] ペインに表示する属性列を指定するには、左側に表示されている属性から項目を選択し、右矢印を使用して右側に移動します (詳細については、「[表示する属性] リスト」(41 ページ) を参照)。

ドキュメントの表示オプションで使用できるアイコンは次のとおりです。

	<b>上に移動:</b> 強調表示されたエントリを表示順または並べ替え順で上に移動します。
	<b>下に移動:</b> 強調表示されたエントリを表示順または並べ替え順で下に移動します。

	<b>名前の変更:</b> 表示されているエントリの名前を変更することができます。これは、リンクされたクラスの属性を表示する場合に特に便利です。
	<b>列幅の設定:</b> 列の幅をピクセル単位で制限することができます。
	<p><b>フィルター:</b> &lt;この要件へのリンクの詳細&gt;または&lt;この要件からのリンクの詳細&gt;を含めるときに表示するクラスを選択します。表示対象として選択した&lt;この要件... リンクの詳細&gt;属性を強調表示し、[フィルター]をクリックして、[リンクのフィルタリング]ダイアログから含める対象のクラスを選択します。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a フィルタリングされたリンクは、わかりやすくするために<b>名前を変更</b>できます。</li> <li>b これらの属性は、異なるフィルターと名前を使用して、複数のセクションに含めることができます。</li> </ul>

- 6 **ツリーに表示する属性:** ナビゲーションペインに表示する属性を指定するには、左側に表示されている属性から項目を選択し、右矢印を使用して右側に移動します (詳細については、[「\[表示する属性\] リスト」\(41ページ\)](#) を参照)。
- 7 **ツールチップに表示する属性:** ナビゲーションペインのツールチップに表示する属性を指定するには、左側に表示されている属性から項目を選択し、右矢印を使用して右側に移動します (詳細については、[「\[表示する属性\] リスト」\(41ページ\)](#) を参照)。
- 8 **自動的に含める関連クラス:** 関係を選択すると、リンクされた要件がドキュメントに自動的に追加されます。
- 9 **オプション:**
  - **区切り文字:** 選択したクラスのツールチップの属性値間の区切り文字を指定します。
  - **テキスト属性の表示文字数:** ナビゲーションペインとツールチップの両方に対するテキスト属性の最大表示文字数を変更します。両方の属性文字列の合計文字数がこの上限を越えると、文字列の末尾が切り詰められて、省略記号 (...) が表示されます。デフォルトは、50文字です。
- 10 **[OK]** をクリックします。

### エクスポートオプション

エクスポートオプションでは、エクスポートするクラスごとの属性を指定できます。デフォルトでは、[「表示オプション」\(「表示オプション」\(133ページ\)\)](#) を参照) で指定された属性がエクスポートされます。

エクスポートオプションを変更するには、[「表示オプション」\(133ページ\)](#) の手順に従います。

### ドキュメントでの要件のクラスの制限

ドキュメントは、ドキュメント内で一部のクラスのみを使用できるように制限できます。この設定はいつでも行うことができます。この設定が、ドキュメント内にすでに存在する要件に影響することはありません。ドキュメントを一部の要件クラスに制限するには、お使いのユーザーアカウントにドキュメントに対する**作成権限**と**プロパティの更新権限**が必要です。

ドキュメントで一部のクラスを制限するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメントビューに制限を行うドキュメントを開きます（まだ開いていない場合）。「[ドキュメントまたはスナップショットを開く](#)」(117ページ)を参照してください。
- 2 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [ドキュメント設定] をクリックします。
- 3 [クラスの制限] タブを選択します。
- 4 [許可されたクラスの選択] の表で、ドキュメントに追加できないようにするクラスのチェックボックスをオフにします。すべてのチェックボックスを切り替えるには、[名前] の横にあるチェックボックスをクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。



#### 注記

- 制限されたクラスは、[チャプターに追加] ダイアログに表示されません。
- クラス制限を含むドキュメントを元に作成されたドキュメントは、それらの制限を継承します。

## ドキュメントの依存関係

子ドキュメントは、親ドキュメントに依存します。この依存関係は、親ドキュメントと子ドキュメントの [ドキュメント設定] ダイアログで表示できます。

親ドキュメントと子ドキュメントの間の依存関係を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメントビューに依存関係を表示する親ドキュメントまたは子ドキュメントを開きます（まだ開いていない場合）。「[ドキュメントまたはスナップショットを開く](#)」(117ページ)を参照してください。
- 2 [アクション] ペインの [ドキュメント] セクションの [ドキュメント設定] をクリックします。
- 3 [依存関係] タブを選択します。

ドキュメントが子ドキュメントである場合は、 をクリックしてドキュメントを独立したドキュメントに変更できます。

## ドキュメントでの要素の参照

ドキュメント全体ビューを使用する場合、チャプター、要件、画像、および表へのリンクを作成できます。こうすることで、これらの項目に簡単に移動できるようになります。参照の作成の詳細については、「HTMLテキスト書式設定ツールバー」(43ページ)を参照してください。



**注記** 表や画像の参照はチャプター内のみで行うことを、強くお勧めします。要件で参照を使用することは、以下の理由によりお勧めできません。

- 要件で参照を使用した場合、参照名 (たとえば、表3) があるドキュメントでは正しくても、別のドキュメントでは正しくなくなる場合があります (この表がドキュメント内の最初の表である場合など)。この場合、ドキュメントをエクスポートするたびに参照を更新したり、エクスポートされたドキュメントで参照を変更したりする必要があります。
- 参照を更新すると、新しいバージョンの要件が作成され、要件が要検討になることがあります。
- ユーザーには、該当するクラスの要件の置き換えや要件が存在するカテゴリの置き換えを行う権限が必要です。ユーザーにこの権限がない場合、参照を更新することはできません。

ドキュメント全体ビューモードの使用時には、ドキュメント内の個別の参照またはすべての参照を更新できます。

- 個別の参照を更新するには、次の手順を実行します。
  - a 相互参照を選択します。
  - b HTMLテキスト書式設定ツールバーで、相互参照ボタンのドロップダウンメニューを開きます。
  - c [更新] を選択します。
- ドキュメント内のすべての参照を更新するには、[アクション] ペインの [ドキュメント] セクションで [相互参照の更新] を選択します。

## ドキュメントの変更のマージ

この構成は、[インスタンス設定] ダイアログで設定します。



**注記** 複数のユーザーが1つの要件やチャプターを同時に編集する場合、ロック機能やマージ機能を使用して複数ユーザーによる同時編集を処理するようにRM Browserを設定できます。ここでは、ドキュメントのマージ機能について説明します (ドキュメントの「ルートチャプター」はドキュメントそのものです)。

マージ機能を使用するようにRM Browserが構成されている場合、2人のユーザーが同じドキュメントを同時に編集したときにドキュメントの変更をマージする必要があります。



変更は、以下の表に示すように、自動または競合のいずれかになります。

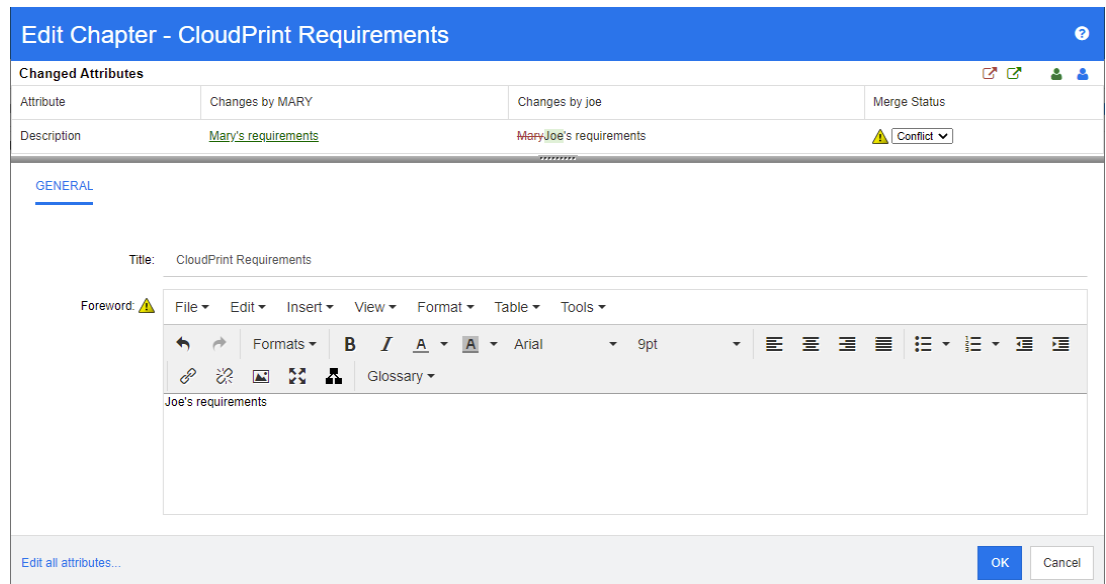
変更タイプ	説明
自動	最初のユーザーによる変更が2番目のユーザーによる変更と同じである場合、または最初のユーザーによる変更が2番目のユーザーによる変更と異なるものである場合は、変更のレビューが厳密には必要ないため、自動マージを実行できます。ただし、承認を行う前に2番目のユーザーが最初のユーザーによる変更をレビューすることをお勧めします。
競合	2番目のユーザーによる変更が最初のユーザーによる変更と競合する場合、2番目のユーザーが変更内容をレビューし、次のいずれかを実行する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2番目のユーザーによる変更を承認する</li> <li>■ 最初のユーザーによる変更を承認する</li> <li>■ 元の値を承認する</li> <li>■ ダイアログのメイン部分で値を直接編集し、両方のユーザーの変更を手動で組み合わせる</li> </ul>

以下のシナリオは、ドキュメントのマージに至る一連の操作をまとめたものです。

- 1 2人のユーザーが同じドキュメントを同時に編集します。
- 2 最初のユーザーが、[ドキュメントの編集] ダイアログで [OK] をクリックします。[ドキュメントの編集] ダイアログが閉じます。
- 3 2番目のユーザーが、[ドキュメントの編集] ダイアログで [OK] をクリックします。
- 4 2番目のユーザーに、最初のユーザーがそのドキュメントに対して1つ以上の変更を行っていることを示す通知が表示されます。この通知には、(最初のユーザーによる変更と2番目のユーザーによる変更が競合していないため) 自動的にマージを行うことができるという説明が記載されている場合と、2人のユーザーによる変更が競合しているため、競合を解消してからでないと2番目のユーザーはドキュメントを置き換えることができないという説明が記載されている場合があります。
- 5 2番目のユーザーは、通知メッセージで [OK] をクリックします。[ドキュメントの編集] ダイアログが [ドキュメントのマージ] ダイアログになります。[ドキュメントのマージ] ダイアログは [ドキュメントの編集] ダイアログと異なるもので、[ドキュメントのマージ] ダイアログには、次の特徴があります。
  - 上部に変更内容をまとめたセクションがあり、変更内容をマージするためのユーザーインターフェイスがある
  - 属性の横に2番目のユーザーが選択したマージのタイプを示す表示がある
- 6 2番目のユーザーは、「以前のバージョンのドキュメントの表示」(138ページ) および「変更内容のマージ」(138ページ) の手順に従って、[ドキュメントのマージ] ダイアログの上部にあるマージセクションを使用して変更を解決します。

## マージステータス


MaryとJoeが行った変更のマージステータスが、[ドキュメントのマージ] ダイアログボックスの上部にある[変更された属性] セクションにハイライト表示されています。




最初の変更で、[前書き] の属性値をMaryが "Mary's requirements" に変更し、これをJoeが "Joe's requirements" に変更しました。[マージステータス] 列では、リストから[競合] が選択されています。競合を表すアイコンは、感嘆符を含む三角形 ⚠ で、[マージステータス] リストの左側と、ダイアログのメイン部分の[前書き] 属性の左側に表示されます。

## 以前のバージョンのドキュメントの表示

変更を解決する際には、以前のバージョンのドキュメントを表示できると便利です。

2番目のユーザーが、元のバージョンのドキュメントの表示ボタン  をクリックするか、関連する[マージステータス] 列のリストで[元の値] をクリックすると、元のバージョンのドキュメントを表示できます。



2番目のユーザーが、自分が変更する前の最新バージョンのドキュメントの表示ボタン  をクリックすると、2番目のユーザーが変更を行う前の、最初のユーザーによる変更後の状態でドキュメントを表示できます。

## 変更内容のマージ

2番目のユーザーは変更の解決方法を判断した後に、変更内容をマージすることができます。

変更内容をマージするには、次の手順を実行します。

- [マージステータス] 列のリストで[自動] が選択されている場合、次の手順のいずれかを実行します。
  - [自動] を選択した状態のまま、その変更を承認します。
  - 変更を行ったユーザー名を選択して、その変更を承認します。
  - [元の値] を選択して、属性を元の値に戻します。
- [マージステータス] 列のリストボックスで[競合] が選択されている場合、次の手順のいずれかを実行します。

- 承認する変更を行ったユーザー名を選択します。
  - [元の値] を選択して、属性を元の値に戻します。
  - 承認する値と一致するように、メインフォームで値を手動で編集します。
- 3 特定のユーザー (MaryやJoeなど) によるすべての変更を承認する場合は、[次のユーザーによる変更をすべて承認: Mary] ボタン  または [次のユーザーによる変更をすべて承認: Joe] ボタン  をクリックします。
- 4 [OK] をクリックします。

## チャプターおよび要件の操作

このセクションでは、次の内容について説明します。

- [「チャプターの新規作成」](#) (139 ページ)
- [「チャプターの編集」](#) (142 ページ)
- [「ドキュメント全体ビューモードでのチャプターまたは要件の編集」](#) (142 ページ)
- [「チャプターの削除」](#) (143 ページ)
- [「チャプターのコピー」](#) (144 ページ)
- [「チャプターの書式設定」](#) (145 ページ)

### チャプターの新規作成

新規チャプターは、以下のいずれかの方法で作成できます。

**ナビゲーションペインからチャプターを作成する:** チャプター内容ビューまたはドキュメント全体ビューのいずれかのモードから、ナビゲーションペインの [新規チャプター] ボタンを使用してチャプターを作成できます。この場合、新規チャプターの定義、入力、書式設定を行うためのダイアログが表示されます。詳細については、[「ナビゲーションペインからチャプターを作成する」](#) (140 ページ) を参照してください。

**ドキュメント全体ビューからチャプターを作成する:** 挿入ポイントをクリックし、タイトルとテキストを入力することでチャプターを作成できます。詳細については、[「ドキュメント全体ビューでのチャプターの作成」](#) (141 ページ) を参照してください。

## ナビゲーションペインからチャプターを作成する

- 1 ナビゲーションペインで、**新規チャプター**ボタンをクリックします。**[新規チャプター]**ダイアログが開きます。

- 2 **[タイトル]** フィールドに、チャプターの名前を入力します。
- 3 **[タイトル]** の下のボックス内をクリックします。HTML編集コントロールが表示されます。ボックスに説明を入力します。
- 4 チャプター番号を非表示にするには、ドキュメントツリーでエクスポート時に、**[チャプター番号を表示しない]** オプションを選択します。このオプションは、管理者が設定した場合にのみ使用できます。
- 5 チャプターの内容を自動的に読み込むには、以下を実行します。

**レポートに基づく:** レポートで照会されたすべての要件をチャプターに追加します。以下のオプションが利用できます。

**自動更新:** ドキュメントを開いたときにレポートを実行してチャプターの内容を更新します。


**カテゴリでフィルタリング:** 選択した場合、カテゴリに一致するデータのみがレポートで照会されます。選択しない場合、すべてのデータがレポートで照会されます。

**サブカテゴリを含める:** 選択した場合、選択したカテゴリとそのサブカテゴリのデータがレポートで照会されます。**[カテゴリでフィルタリング]** を選択した場合のみ、**[サブカテゴリを含める]** オプションを選択できます。

**グラフを埋め込む:** レポートで照会されたすべての要件をチャプターとグラフィカル表現に追加します。利用できるオプションは、**[レポートに基づく]** に記載された内容と同じです。

**階層:** 選択したカテゴリおよびサブカテゴリのすべての要件をチャプターに追加します。サブカテゴリはチャプターとして表示されます。

**注:** 内容はドキュメント内から変更できますが、階層に基づいてチャプターに内容が読み込まれた後は、階層構造を変更しないでください。

- 6 チャプターの内容のベースとしてインポートし、使用するレポートを選択します。レポート設定を変更または表示するには、レポート名の横にある  をクリックします。

レポートで要件の複数のバージョンが返される場合や、最新バージョン以外のバージョンが返される場合は、これらのバージョンがドキュメントに追加されます。

- 7 オプションで [自動更新] オプションを選択すると、レポートが更新されたときにチャプターの内容が動的に更新されます。

レポートでステータス (最新、置換済みなど) を使用して要件バージョンを指定する場合、指定したステータスに割り当てられた要件のバージョンを反映して、ドキュメントに含まれるバージョンが更新されます。

レポートで特定のオブジェクトバージョン番号を指定する場合、ステータスの変更に関係なく、そのバージョンの要件がドキュメント内に残ります。

- 8 [新規チャプター] ボタンをクリックしたときに強調表示されているオブジェクトのサブチャプターとしてチャプターを追加する場合は、[サブチャプターとして追加] チェックボックスをオンにします。

- 9 [OK] をクリックします。

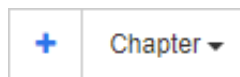


**注記** 親ドキュメントで作成したチャプターは、関連する子ドキュメントで直ちに使用できるようになります。

### ドキュメント全体ビューでのチャプターの作成

ドキュメント全体ビューでドキュメントにチャプターを追加するには、目的の場所をクリックし、タイトルと説明を追加します。他の詳細や書式設定は後で追加できます。



- 1 新規チャプターを挿入する場所にマウスポインターを移動します。次のようなクラス選択ダイアログが表示されます。
- 2 関連するエントリを選択します。この例では「Chapter」です。



- 3 既存のチャプターの下にチャプターを追加する場合は、次のオプションが利用できます。

**兄弟として:** 新規チャプターが前のチャプターと同じレベルに作成されます。前のチャプターがチャプター番号1の場合、新規チャプターはチャプター番号2になります。

**子として:** 新規チャプターが前のチャプターの子として作成されます。前のチャプターがチャプター番号1の場合、新規チャプターはチャプター番号1.1になります。

- 4  をクリックします。空のチャプターがドキュメントに追加されます。
- 5 タイトルと内容を指定して、[保存]  を使用して保存します。

## チャプターの編集


チャプターの名前と説明を変更できます。また、レポートに基づいてチャプターの内容を読み込むようにチャプターを変更できます。

チャプターの名前と説明を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント作業ページにドキュメントを開きます（まだ開いていない場合）。「[ドキュメントまたはスナップショットを開く](#)」(117ページ)を参照してください。
- 2 ナビゲーションペインでチャプターを選択します。
- 3 詳細ペインで、**編集**ボタンをクリックします。[**チャプターの編集**] ダイアログが開きます。



**注記** ドキュメントが子ドキュメントである場合、親ドキュメントから継承したチャプターを編集することはできません。

- 4 必要に応じて、タイトルと説明を編集します。テキストの書式設定については、「[HTMLテキスト書式設定ツールバー](#)」(43ページ)を参照してください。
- 5 レポートまたはグラフに基づいてチャプターの内容を読み込むには、[**レポートに基づく**] または [**グラフを埋め込む**] を選択します。
- 6 チャプターの内容のベースとしてインポートし、使用するレポートを選択します。レポート設定を変更または表示するには、レポート名の横にある  をクリックします。



**注記** レポートで要件の複数のバージョンが返される場合や、最新バージョン以外のバージョンが返される場合は、これらのバージョンがドキュメントに追加されます。

- 7 オプションで [**自動更新**] チェックボックスを選択すると、レポートが更新されたときにチャプターの内容が動的に更新されます。



### 注記

- レポートでステータス（最新、置換済みなど）を使用して要件バージョンを指定する場合、指定したステータスに割り当てられた要件のバージョンを反映して、ドキュメントに含まれるバージョンが更新されます。
- レポートで特定のオブジェクトバージョン番号を指定する場合、ステータスの変更に関係なく、そのバージョンの要件がドキュメント内に残ります。

- 8 [**OK**] をクリックします。



**注記** [**すべての属性の編集...**] をクリックすると、[**属性の編集**] ダイアログが開きます。このダイアログでは、すべての属性（システム属性）に加えて、変更履歴にアクセスできます。

## ドキュメント全体ビューモードでのチャプターまたは要件の編集

チャプターまたは要件が [ドキュメント全体] ビューモードで表示されている場合でも、「[チャプターの編集](#)」(142ページ)の説明に従って編集できます。ただし、詳細ペインで属性を直接変更する方がはるかに高速です。

テキストをすばやく変更するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント作業ページにドキュメントを開きます（まだ開いていない場合）。「ドキュメントまたはスナップショットを開く」（117ページ）を参照してください。
- 2 詳細ペインで、チャプターの目的の属性または要件の目的の属性をクリックします。
  - **テキスト属性 / 英数字属性:** クリックすると、そのテキスト属性のHTMLエディターが表示されます。



**注記** プレーンテキスト属性または英数字属性の場合、書式設定のオプションは無効になっています。

- **日付属性:** カレンダーポップアップを表示します。このカレンダーポップアップでは、日付属性の設定に応じて日付/時刻を選択できます。
  - **リスト属性:** 複数の値を含むポップアップリストを表示します。ポップアップの上部にあるテキストボックスに入力すると、リスト値をフィルタリングできます。
  - **数値属性:** クリックすると、数値を入力するための入力ボックスが表示されます。
  - **ユーザー属性:** (ユーザー属性の設定に応じて) 複数のユーザーまたはチームを含むポップアップリストを表示します。ポップアップの上部にあるテキストボックスに入力すると、リスト値をフィルタリングできます。
- 3 必要に応じて内容を編集します。
  - 4 HTMLエディターのツールバーで **[保存]** をクリックします。



**注記**

- 変更を保存せずに、ドキュメントビューを離れた場合（たとえば、[ホーム] ビューに移動した場合）、変更を保存せずにドキュメントビューを終了するか、ドキュメントビューに戻って変更を保存するかを確認するメッセージが表示されます。
- 別のチャプターまたは要件を選択し、変更を保存していない場合は、**!** マークが表示されます。マークにカーソルを合わせると、前のバージョンと（保存されていない）変更の差異が表示されます。**!** マークをクリックすると、差異を示すダイアログが開きます。このダイアログでは、テキストが画面に収まらない場合は、テキスト属性内をスクロールして多くの変更を確認できます。

## チャプターの削除

チャプターを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 ナビゲーションツリーでチャプターを選択します。複数のチャプターを選択する場合は、Ctrlキーを押したまま追加のチャプターをクリックします。
- 2 **[削除]** ボタンをクリックします。



**注記** ドキュメントが子ドキュメントである場合、親ドキュメントのチャプターを削除することはできません。

- 3 確認を求めるメッセージが表示されたら、選択したチャプターを削除することを確認します。



#### 注記

- 選択したチャプターとすべてのサブチャプターが、ドキュメントから削除されます。
- 選択したチャプター内の要件はドキュメントから削除されますが、RM データベースからは削除されません。
- [削除] コマンドが有効になるのは、Chapterクラスの除去権限がある場合に限られます。

## チャプターのコピー

ドキュメントビューでは、現在のドキュメントから別のドキュメントへ、またはその逆方向にチャプターをコピーできます。

### ドキュメント内外へのチャプターのコピー

- 1 ドキュメント作業ページにドキュメントを開きます（まだ開いていない場合）。「[ドキュメントまたはスナップショットを開く](#)」(117ページ)を参照してください。
- 2 ナビゲーションペインから、コピーするチャプターを選択します。
- 3 [アクション] ペインの [ドキュメント] セクションの [チャプターのコピー] をクリックします。



#### コピー方向:

- 4 ドロップダウンから、コピー方向を選択します。
  - a **ドキュメントにコピー** - 選択したチャプターをインスタンス内でアクセス可能なドキュメントにコピーするか、または同じドキュメントにコピーします（選択されている場合）。
  - b **ドキュメントからコピー** - インスタンス内でアクセス可能なドキュメントからコピーするチャプターを選択するか、または同じドキュメント内からチャプターを選択することができます（選択されている場合）。

#### 作成オプション:

- 5 [作成オプション] セクションで次のオプションを使用できます。
  - a サブチャプターを含める:
    - 有効にすると、選択したチャプターとすべてのサブチャプター（すべてのレベル）がコピーされます。
    - 無効にすると、選択したチャプターのみがコピーされます。
  - b 要件を含める:
    - 有効にすると、選択したチャプター（および [サブチャプターを含める] が有効な場合はサブチャプター）の要件がチャプターとともに追加されます。
    - 無効にすると、要件はチャプターに追加されません。
  - c **要件をコピーする:** このオプションは、[要件を含める] を有効にした場合にのみ使用できます。
    - 有効にすると、選択したチャプターの要件のコピーがターゲットに作成されます。
    - 無効にすると、既存の要件がチャプターに追加されます。




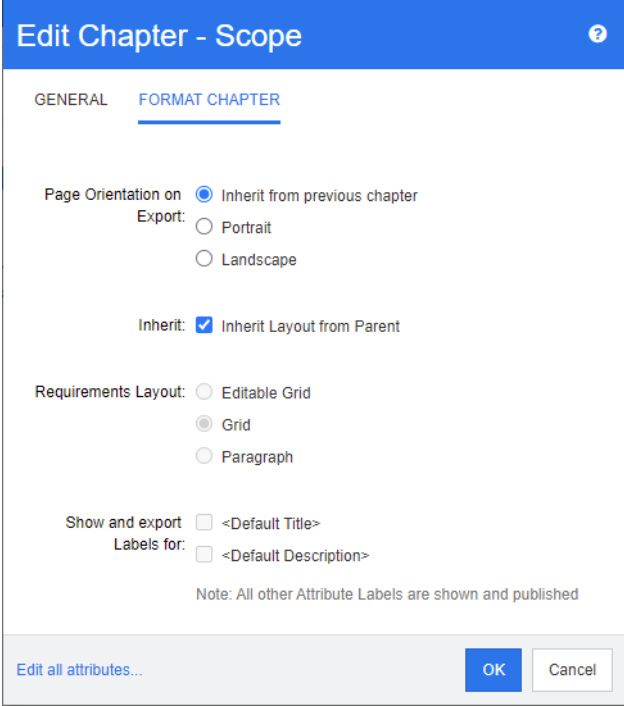
- 6 [ドキュメント] ドロップダウンから、コピー元またはコピー先のドキュメントを選択します。
  - a ドキュメント名の一部を入力して、リストをフィルタリングできます。
  - b 選択したドキュメントを別のタブまたはウィンドウで開くには、 をクリックします。
  - c 現在のドキュメントを選択するには、 をクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。

## チャプターの書式設定

ルートチャプター（前書きを含む）の書式設定については、「ドキュメントの書式設定」(130ページ)を参照してください。

チャプターのレイアウトを指定するには、次の手順を実行します。

- 1 チャプターの編集 () ボタンをクリックします。[チャプターの編集] ダイアログが開きます。
- 2 [チャプターの書式設定] タブを選択します。



The image shows a dialog box titled "Edit Chapter - Scope" with a blue header bar. Below the header, there are two tabs: "GENERAL" and "FORMAT CHAPTER", with "FORMAT CHAPTER" being the active tab. The dialog contains several settings:

- Page Orientation on Export:** A radio button is selected for "Inherit from previous chapter". Below it are two unselected radio buttons: "Portrait" and "Landscape".
- Inherit:** A checked checkbox is next to "Inherit Layout from Parent".
- Requirements Layout:** Three radio buttons are present: "Editable Grid" (unselected), "Grid" (selected), and "Paragraph" (unselected).
- Show and export Labels for:** Two unselected checkboxes are next to "<Default Title>" and "<Default Description>".
- Note:** "All other Attribute Labels are shown and published".
- Buttons:** At the bottom, there is a link "Edit all attributes...", a blue "OK" button, and a white "Cancel" button.

- 3 **エクスポート時のページの向き:** ページの向きの設定は、選択したチャプター以降の残りのドキュメントの向きを変更します。
  - a **前のチャプターから継承:** 選択したチャプターの前にエクスポートされたチャプターと同じページの向きを使用します。
  - b **縦:** ページの向きを縦に設定します。
  - c **横:** ページの向きを横に設定します。
- 4 **親からレイアウトを継承:** このチェックボックスを選択すると、チャプターの [要件のレイアウト] と [ラベルの表示とエクスポート] の設定が、親の設定を継承するデフォルト設定に戻ります。
- 5 **要件のレイアウト:**

- a **編集可能なグリッド:** 要件が表に表示されます (1行に1つの要件)。RM Browserでドキュメントを編集するときに、要件の属性を変更できます。[\[表示オプション\]](#) の設定 ([「表示オプション」](#) (133 ページ) を参照) で指定された属性のみが表示/エクスポートされます。
- b **グリッド:** 要件が表に表示されます (1行に1つの要件)。[\[表示オプション\]](#) の設定 ([「表示オプション」](#) (133 ページ) を参照) で指定された属性のみが表示/エクスポートされます。
- c **段落:** 要件が個別に表示されます。要件クラスのパブリッシュテンプレートが存在する場合は、レイアウトがテンプレートで指定されます。パブリッシュテンプレートが存在しない場合は、[\[表示オプション\]](#) 設定で指定された属性のみが表示/エクスポートされます ([「表示オプション」](#) (133 ページ) を参照)。



**注記** 同じチャプターまたはサブチャプターにクラスの異なる要件が混在している場合、[\[グリッド\]](#) オプションは無効になります。



**ヒント** 異なる複数のクラスの要件を同じチャプターに含める場合は、各クラスの要件を別々のサブチャプターに入れます。

- 6 **ラベルの表示とエクスポート:** 次の設定は、詳細ペインおよびエクスポートされたドキュメントでの属性ラベルの表示方法を変更します。これらの設定は、[\[要件のレイアウト\]](#) オプションの[\[段落\]](#) を使用する場合にのみ該当します。
  - a **<デフォルトのタイトル>:** 選択した場合、タイトル属性の名前が要件タイトルの名前の前に表示されます (例: Title: Database stores at least 1024 entries)。
  - b **<デフォルトの説明>:** 選択した場合、説明属性の名前が説明の前に表示されます (例: Text: The database shall store not less than 1024 entries)。
- 7 [\[OK\]](#) をクリックします。

## 要件の新規作成とドキュメントへの追加

以下の手順では、ドキュメントビューで要件を作成し、その要件をドキュメントに追加する方法について説明します。

新しい要件を作成するには、次の手順を実行します。

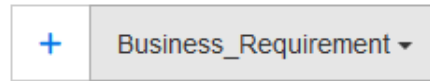
- 1 新しい要件を追加するチャプターを選択します。
- 2 [\[アクション\]](#) ペインの [\[要件\]](#) セットから [\[新規\]](#) を選択します。[\[新規\]](#) ダイアログが開きます。
- 3 [\[クラス\]](#) ボックスで、作成する要件のクラスを選択します。
- 4 必要に応じて要件の属性を入力します。
- 5 [\[保存\]](#) をクリックします。

## ドキュメント全体ビューでの要件の新規作成

[ドキュメント全体ビュー]では、ユーザーは通常の方法（「[チャプターの新規作成](#)」(139ページ)）でチャプターを作成できます。また、以下のショートカットも使用できます。

要件を作成するには、次の手順を実行します。

- 1 新しい要件を挿入する位置にマウスポインターを移動します。次のようなクラス選択ダイアログが表示されます。



- 2 ドロップダウンから、要件のクラスを選択します。
- 3 **+** をクリックします。空の要件がドキュメントに追加されます。
- 4 要件の属性値を入力します。必須属性は、ドキュメントに表示されない場合でも入力する必要があります。ことに注意してください。
- 5 [保存] をクリックして要件を作成し、それをドキュメントに追加します。

## ドキュメントへの要件の追加

[クイック検索] ダイアログまたは [高度な検索] を使用して、開いているドキュメントに既存の要件を追加できます。

- 1 開いているドキュメントの要件のアクションセットで、[ドキュメントに追加] を選択します。
- 2 検索ボックス内をクリックすると、[最近の要件] リストが開きます。
  - a 表示される場合、リストから該当する要件を選択します。
  - b [追加] をクリックします。
- 3 検索文字列を入力したり、特定のカテゴリやクラスに検索を限定するオプションを選択したりすることもできます。追加の詳細については、「[最近アクセスした項目からのクイック検索](#)」(50ページ)を参照してください。

検索対象を見つけるために追加のオプションが必要な場合は、[高度な検索] を使用して、[検索の実行] の全機能にアクセスします（「[高度な検索](#)」(51ページ)を参照）。

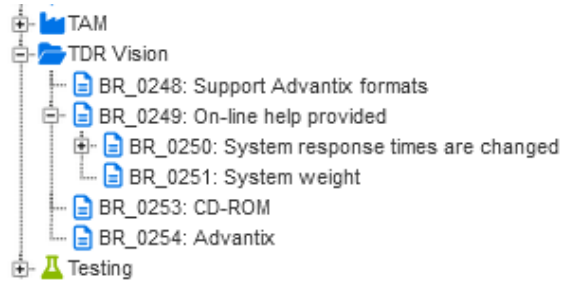


**ヒント** ドキュメントに含まれる特定の要件のバージョンを手動で変更するには、「[ドキュメントでの要件バージョンの交換](#)」(153ページ)を参照してください。

## 階層からドキュメントへの要件の追加

以下の手順では、階層からドキュメントに要件をすばやく追加する方法について説明します。このアクションを実行するには、[ホーム] ビューを表示する必要があります。

- 1 追加する階層セクションを強調表示します。以下の例では、[TDR Vision] が選択されています。



- 2 [アクション] ペインの [階層] セクションで、[ドキュメントに追加] を選択します。
- 3 [ドキュメントに追加] ダイアログに表示されるドキュメントのリストで、対象のドキュメントにチェックを入れます。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 要件はドキュメントのルートノードに追加されます。開いているドキュメントで、セグメントヘッダー（この例では [TDR Vision]）を強調表示し、矢印を使用して移動することができます。

選択したドキュメントの場所に個々の要件を追加する方法については、「[ドキュメントへの要件の追加](#)（147ページ）で説明しています。

**新規ドキュメントを作成するには、次の手順を実行します。**

- 1 1つまたは複数の要件を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [階層] セットから [ドキュメントに追加] を選択します。[ドキュメントに追加] ダイアログが開きます。
- 3 要件を追加するドキュメントを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

## ドキュメントからの要件の削除

**ドキュメントから要件を削除するには、次の手順を実行します。**

- 1 ドキュメント作業ページのナビゲーションペインで、ドキュメントから削除する要件を選択します。複数の要件を選択する場合は、Ctrlキーを押したまま追加の要件をクリックします。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットから [ドキュメントから除去] をクリックします。[ドキュメントから除去] ダイアログボックスが開きます。
- 3 インスタンスからも要件を削除する場合は、[インスタンスからも削除] オプションを選択します。
- 4 [はい] をクリックして、要件を削除することを確認します。





**注記** ドキュメントから要件を除去すると、関係の設定によっては、リンクされた要件が要検討になる場合があります。

## チャプターおよび要件の移動

ドキュメント内でチャプターや要件を移動するには、ドラッグアンドドロップを使用します。すべてのドラッグアンドドロップ操作には、次のルールが適用されます。

- チャプターを要件上にドロップすることはできません。
- チャプター上にドロップしたチャプターまたは要件は、そのチャプターの子になります。新しい子は既存の子の前に挿入されます。
- 要件上にドロップした要件は、その要件の子になります。新しい子は既存の子の前に挿入されます。
- チャプターまたは要件をチャプターまたは要件の間にドロップすると、その場所に挿入されます。
- チャプターまたは要件をドロップする場合、選択したチャプターまたは要件の元の順序は維持されます。
- 自動ナンバリングが有効になっている場合、チャプターまたは要件を移動すると、移動されたチャプターまたは要件および後続のすべてのチャプターまたは要件のナンバリングが変更されます。

個別のチャプターまたは要件を移動するには、次の手順を実行します。

- 1 チャプターまたは要件を選択します。
- 2 次のいずれかを実行します。
  -  または  をクリックします。
  - チャプターまたは要件を、移動先の場所までドラッグアンドドロップします。

複数のチャプターを移動するには、次の手順を実行します。

- 1 いずれかのチャプターを選択します。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - Shift キーを押しながら、いずれかのチャプターをクリックします。これにより、ステップ 1 で選択したチャプターと Shift キーを押しながらクリックしたチャプター（このチャプターを含む）の間にあるすべてのチャプターが選択されます。
  - Ctrl キーを押しながら、1 つまたは複数のチャプターをクリックします。これにより、Ctrl キーを押しながらクリックしたチャプターが選択内容に追加されます。
- 3 選択したチャプターを、移動先の場所までドラッグアンドドロップします。

複数の要件を移動するには、次の手順を実行します。

- 1 いずれかの要件を選択します。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - Shift キーを押しながら、いずれかの要件をクリックします。これにより、ステップ 1 で選択した要件と Shift キーを押しながらクリックした要件（この要件を含む）の間にあるすべての要件が選択されます。
  - Ctrl キーを押しながら、1 つまたは複数の要件をクリックします。これにより、Ctrl キーを押しながらクリックした要件が選択内容に追加されます。

- 3 選択した要件を、移動先の場所までドラッグアンドドロップします。



#### ヒント

- Ctrlキーを押しながら選択済みのチャプターまたは要件をクリックすると、選択内容から除去されます。
- チャプターまたは要件の大きなブロックから一部のチャプターまたは要件を除外する場合は、Ctrlキーを押しながら移動対象のすべてのチャプターまたは要件をクリックするよりも、Shiftキーを押してブロックをまとめて選択してから、Ctrlキーを押して一部のチャプターや要件を選択解除の方が簡単です。

## チャプターに対する変更の提案

チャプターを作成または編集する権限を持っていない場合でも、クラスの「CRの作成」権限と属性の「更新」権限を持っていれば、チャプターに関する変更を要求できます。

変更を提案するには、次の手順を実行します。

- 1 変更を提案するチャプターを選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] グループの [変更を提案] をクリックします。[変更の提案] ダイアログが開きます。
- 3 必要に応じて、[タイトル] と [チャプターの説明] のテキストを変更します。
- 4 [変更理由] ボックスに、変更の理由を入力します。
- 5 **ドキュメント内で交換:** このチェックボックスを選択すると、ドキュメント内のバージョンを新しいバージョンに置き換えることができます。
- 6 **保存後に閉じる:** 変更要求を保存した後に変更要求を閉じる場合は、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、保存後も変更要求は編集用に開いたままになります。ナビゲーションバーが表示されている場合、[保存後に閉じる] は使用できません。
- 7 [提出] をクリックして変更要求を提出します。[保存後に閉じる] チェックボックスが選択されていない場合、変更要求は編集用に開いたままになります。

## テキストを要件に分割する

1つの要件からチャプターのテキストまたは複数のステートメントを選択し、[分割] を使用して新しい要件に変換します。

チャプターのテキストを変換するには、「[チャプターのテキストの要件への変換](#)」を参照してください。

要件を複数の要件に分割するには、「[選択したテキストの要件への変換](#)」を参照してください。

### チャプターのテキストの要件への変換

チャプターは要件に変換できます。ただし、要件をチャプターに変換することはできません。つまり、チャプターを要件に変換した後に、その要件を再度チャプターに戻すことはできません。この場合は、チャプターを作成して、タイトルと内容をコピーする必要があります。

チャプターを要件に変換するには、次の手順を実行します。

- 1 変換する1つまたは複数のチャプターを選択します。  
チャプターを変換できるのは、次の場合に限られます。
  - チャプター内にサブチャプターが存在しない場合（チャプターに要件がリンクされていても構いません）
  - チャプターが親ドキュメントに属していない場合
- 2 [アクション] ペインの [要件] グループの [クラスの変更] をクリックします。[クラスの変更] ダイアログが開きます。
- 3 [新規クラス] ボックスで、チャプターの変換先となるクラスを選択します。複数のチャプターを選択している場合、すべてのチャプターが選択したクラスに変換されます。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 必要に応じて、属性の入力やカテゴリの変更を行います。
- 6 [保存] をクリックします。[変更されました] ダイアログが開き、変更したチャプターの概要が表示されます。チャプターの [要件ID] リンクをクリックすると、元のバージョンが開きます。[新規ID] リンクをクリックすると、要件の現在のバージョンが編集用に開きます。要件の編集の詳細については、「要件の編集」(194ページ) を参照してください。
- 7 [閉じる] をクリックします。



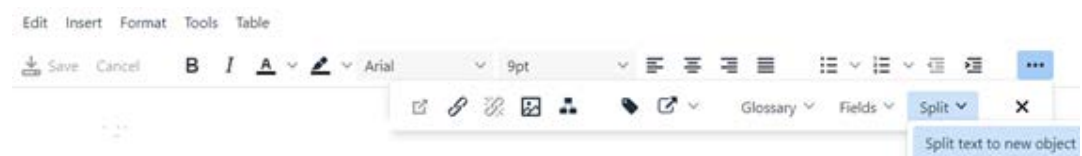
#### 注記

- TitleおよびDescription属性は、対応するTitleおよびDescription属性に自動的に転送されます（名前はターゲットクラスに依存します）。
- 変換後の要件は、変換前と同じ位置に配置されるとは限りません。これは、サブチャプターが親チャプターの要件をフォローする必要があるためです。
- ターゲットクラスでワークフロー機能が有効になっている場合、要件は常に新規の遷移で作成されます。

#### 選択したテキストの要件への変換

以下の機能は、ドキュメント全体ビューモードでのみ使用できます。

これがデフォルトの作業方法でない場合でも、要件テキストに変換する必要があるチャプターのテキストがある場合や、複数のステートメントで構成される要件がある場合は、切り替えると便利です。どちらの場合も、要件テキストをコピーして、新しい要件ダイアログに貼り付けることができます。ただし、分割を使用して、それらの周囲に新しい要件を作成することもできます。



テキストを新しい要件に分割するには、次の手順を実行します。

- 1 チャプター内の自由形式のテキストから、または既存の要件内の HTML 対応属性から、テキスト文字列を強調表示します。
- 2 [ドキュメント全体ビュー] のテキストエディターで [分割] をクリックし、[テキストを新規オブジェクトに分割] を選択してダイアログを開きます。
- 3 [新規クラス] ドロップダウンから対象のクラスを選択します。

- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 必要に応じて、属性の入力やカテゴリの変更を行います。
- 6 [保存] をクリックします。
- 7 [テキストを新規オブジェクトに分割] ダイアログが開き、変換の概要が表示されます。
  - a ID (左側) をクリックすると、元のバージョンのチャプターのリンクまたは元の要件が開きます。
  - b 新規 ID (右側) をクリックすると、新しく作成された要件が編集用に開きます。
- 8 結果を確認したら、[閉じる] をクリックします。



#### 注記

- チャプターのタイトルは、要件の対応するタイトル属性 (名前はターゲットクラスに依存) に自動的に転送されます。
- 元の要件のタイトルは、要件の対応するタイトル属性 (名前はターゲットクラスに依存) に自動的に転送されます。
- ターゲットクラスでワークフロー機能が有効になっている場合、要件は常に**新規**の遷移で作成されます。

## ドキュメントでのコメントの使用

ドキュメント内のテキスト、チャプター、または要件に、コメントを追加できます。コメントを使用すると、ユーザーはドキュメントのコンテキスト内でトピックについて議論したり、ドキュメントの配布準備中にレビューや承認を追跡したりできます。

コメントの作成と追跡の詳細については、「[コメントの操作](#)」(73ページ) を参照してください。

## ECPのドキュメントへの割り当て

ECPは上位の変更管理クラスタイプ (Engineering Change Proposal) で、複数の変更要求を1つのパッケージにまとめるのに使用できます。

ドキュメントでECPコントロールが有効になっている場合、現在のECPの名前がインスタンス階層リンクの右側に表示されます。

RMDEMO > > RMDEMO > ePhoto Requirements > ECP-00001 (Changes to Support Advantix Prints) Draft To Approval

ECPコントロールが有効になっていても、現在のユーザーがECPを割り当てていない場合は、ユーザーがドキュメントにECPを割り当てるまで、ドキュメントは読み取り専用になります。ECPの名前の代わりに、次のメッセージが表示されます: **(ECPがありません。ドキュメントは読み取り専用です。)**



**注記** ドキュメントでECPコントロールを有効にするには、「[ドキュメントの属性の編集](#)」(129ページ) を参照してください。

**ECPを割り当てるには、次の手順を実行します。**

- 1 ドキュメント作業ページにドキュメントを開きます (まだ開いていない場合)。「[ドキュメントまたはスナップショットを開く](#)」(117ページ) を参照してください。



- 2 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [ECPの割り当て] をクリックします。[ECPの割り当て] ダイアログが開きます。
- 3 [クラスの検索] リストから ECP を選択します。
- 4 **フィルター:** クイック検索でフィルターを保存している場合は、これらのフィルターを使用して ECP を検索できます。
- 5 **制約:** 必要に応じて、目的の ECP を見つけるための条件を指定します。「[フィルタリングと検索のメカニズム](#)」(50 ページ) および「[関係制約](#)」タブ(57 ページ) を参照してください。
- 6 **表示オプション:** 必要に応じて、結果の表示方法を指定します。「[表示オプション](#)」タブ(59 ページ) を参照してください。
- 7 指定した属性値の大文字/小文字表記と完全に一致する検索結果が必要な場合は、**[大文字と小文字を区別する]** チェックボックスを選択します。
- 8 **検索の実行:** このボタンをクリックすると、検索が実行されます。結果はダイアログの下側のペインに表示されます。
- 9 **新規検索:** このボタンをクリックすると、現在の検索条件と結果がクリアされます。
- 10 検索結果から目的の ECP を選択します。
- 11 以下を実行します。
  - **割り当て:** このボタンをクリックすると、選択された ECP がドキュメントに割り当てられます。
  - **クリア:** このボタンをクリックすると、選択された ECP がドキュメントから削除されます。

## ドキュメントでの要件バージョンの交換

ドキュメント内で現在使用中の要件のバージョンを、別のバージョンに変更することができます。

ドキュメントに含める要件バージョンを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント作業ページのナビゲーションペインで、変更する要件を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットの下にある **[開く]** を選択します。
- 3 開いている要件の **[履歴]** セクションを展開します。

» LINKS

» HISTORY

Pedigree Properties

			Time Modified	Object ID	Modified By	Current Status
			18-MAY-2006@09:17:06	33	Ryan Forbes	Replaced
			25-NOV-2014@08:23:23	51	Ryan Forbes	Replaced
			30-SEP-2015@01:54:24	67	Ryan Forbes	Current (Baseline)

» POLLS

ドキュメントで使用中のバージョンには、交換 ( ⇄ ) アイコンが表示されません (拒否済みバージョンにも表示されません)。

- 4 ドキュメント内で使用するバージョンの ⇄ をクリックします。[要件の交換] ダイアログが開きます。
- 5 [はい] をクリックして変更を確認します。

## ドキュメントでのプレースホルダーの使用

ドキュメントモードを [ドキュメント全体ビュー] に設定すると、プレースホルダーをチャプターまたは要件に含めることができ、ドキュメントをエクスポートしたときに含める情報の場所を設定できます。たとえば、ドキュメントをエクスポートするたびに、ドキュメントが最後に変更された日付や含まれる要件の数をタイトルページに記載することができます。

### ドキュメントプレースホルダー

次のドキュメントプレースホルダーが利用できます。

プレースホルダー	説明
ドキュメントのカテゴリ	ドキュメントが存在するカテゴリの名前 (例: Maintenance)。
ドキュメントのカテゴリパス	ドキュメントが存在するカテゴリのフルパス (例: RMDemo\Support\Maintenance)。
ドキュメントのチャプター数	ドキュメント内のチャプターの数。
ドキュメントの作成日時	ドキュメントが作成された日付または日時。日付プレースホルダーの書式設定方法の詳細については、「 <a href="#">日付プレースホルダーの書式の指定</a> 」(156ページ)を参照してください。
ドキュメントの作成者	ドキュメントを作成したユーザーの名前。フォーマットは、ユーザー属性の表示設定によって異なります (「 <a href="#">ユーザー属性の表示設定</a> 」(87ページ)を参照)。
ドキュメントの変更日時	ドキュメントが最後に変更された日付または日時。日付プレースホルダーの書式設定方法の詳細については、「 <a href="#">日付プレースホルダーの書式の指定</a> 」(156ページ)を参照してください。
ドキュメントの変更者	ドキュメントを最後に変更したユーザーの名前。フォーマットは、ユーザー属性の表示設定によって異なります (「 <a href="#">ユーザー属性の表示設定</a> 」(87ページ)を参照)。
ドキュメントの所有者	ドキュメントを所有するユーザーの名前。フォーマットは、ユーザー属性の表示設定によって異なります (「 <a href="#">ユーザー属性の表示設定</a> 」(87ページ)を参照)。
ドキュメントの要件数	ドキュメント内の要件の数。

プレースホルダー	説明
ドキュメントのリビジョン番号	スナップショットのリビジョン番号 (例: 1.2)。ドキュメントの場合、リビジョン番号は常に0.0です。
ドキュメントのリビジョン番号 (メジャー)	スナップショットのリビジョン番号のメジャー部分。リビジョン番号が2.1の場合、メジャー部分は2になります。ドキュメントの場合、常に0です。
ドキュメントのリビジョン番号 (マイナー)	スナップショットのリビジョン番号のマイナー部分。リビジョン番号が2.1の場合、マイナー部分は1になります。ドキュメントの場合、常に0です。
ドキュメントのタイトル	ドキュメントの名前。
	以下のプレースホルダーは、ドキュメントにワークフローが割り当てられている場合にのみデータを保持します。
ドキュメントのワークフロー	ドキュメントに割り当てられたワークフローの名前。
ドキュメントのワークフロー状態	ワークフローでのドキュメントの状態。
ドキュメントのワークフロー状態の達成日時	ドキュメントがワークフローの現在の状態に達した日付または日時。日付フォーマットの詳細については、「 <a href="#">日付プレースホルダーの書式の指定</a> 」(156ページ)を参照してください。
ドキュメントのワークフロー遷移履歴	すべての遷移または選択した遷移の履歴: ドキュメントがワークフローの状態に達した日付または日時。日付フォーマットの詳細については、「 <a href="#">日付プレースホルダーの書式の指定</a> 」(156ページ)を参照してください。

## チャプターまたは要件へのプレースホルダーの追加

チャプターまたは要件にプレースホルダーを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメントを開きます (「[ドキュメントまたはスナップショットを開く](#)」(117ページ)を参照)。
- 2 ドキュメントがドキュメント全体ビューに表示されていることを確認します (「[ドキュメント全体ビューモードでのチャプターまたは要件の編集](#)」(142ページ)を参照)。
- 3 HTMLが有効になっている要件のチャプターの説明またはテキスト属性をクリックします。
- 4 プレースホルダーの対象の位置にカーソルを置きます。
- 5 [フィールド] ドロップダウンリストで、目的のプレースホルダーをクリックします。
- 6 [保存] をクリックします。

### ドキュメントのヘッダーとフッターにプレースホルダーを含める

プレースホルダーは、ドキュメントのヘッダーファイルとフッターファイルでも使用できます。ヘッダーファイルとフッターファイルは、書式を設定すると、サーバー上のTomcat構造に配置されます。配置は管理者が管理します。定義の手順については、『Dimensions RM Administrator's Guide』の「Defining Headers and Footers for Exported Documents」を参照してください。

ヘッダーまたはフッターに「エクスポート対応」のプレースホルダーを追加する最も効率的な方法は、プレースホルダーをドキュメントから直接コピーすることです。つまり、次の手順を実行します。

- 「[「チャプターまたは要件へのプレースホルダーの追加」\(155ページ\)](#)の手順1～5を実行します。
- プレースホルダーを強調表示して切り取り、ヘッダーまたはフッターに含めるために保存します。

### 日付プレースホルダーの書式の指定

日付プレースホルダーは、特定の日付を表示するように書式設定できます。Microsoft Wordの制限により、書式は、チャプターの説明またはテキスト属性のHTMLのプレースホルダーで指定する必要があります。

次の表に、サポートされている書式指定子を示します。すべての例が次の日付/時刻を想定しています：2008年9月1日の14:03:04

書式設定	説明
d	1桁の日 (可能な場合)。 例: 1
dd	2桁の日。 例: 01
ddd	曜日の略称。名前は、サーバーの言語設定によって異なります。 例: 月
dddd	曜日の名前。名前は、サーバーの言語設定によって異なります。 例: 月曜日
M	1桁の月 (可能な場合)。 例: 9
MM	2桁の月。 例: 09
MMM	月の略称。名前は、サーバーの言語設定によって異なります。 例: 9月
MMMM	月の名前。名前は、サーバーの言語設定によって異なります。 例: 9月
y	1桁の年 (可能な場合)。 例: 8
yy	2桁の年。 例: 08
yyyy	4桁の年。 例: 2008
h	12時間形式の1桁の時間 (可能な場合)。 例: 2
hh	12時間形式の2桁の時間。 例: 02
H	24時間形式の1桁の時間 (可能な場合)。 例: 14
HH	24時間形式の2桁の時間。 例: 14

書式設定	説明
m	1桁の分 (可能な場合)。 例: 3
mm	2桁の分。 例: 03
s	1桁の秒 (可能な場合)。 例: 4
ss	2桁の秒。 例: 04
a	AM/PM 指定子。実際の値はシステム設定によって異なります。 デフォルト: AM および PM
p	AM/PM 指定子。実際の値はシステム設定によって異なります。 デフォルト: AM および PM

日付プレースホルダーの書式を指定または変更するには、次の手順を実行します。

- 1 プレースホルダーを保持する説明属性またはテキスト属性をクリックします。
- 2 リッチテキストエディターで、[ツール] メニューから [ソースコード] を選択します。
- 3 書式を指定する日付プレースホルダーを見つけます。  
例:  

```
<a target="_blank" class="rmPlaceholder" data-rmplaceholderformat="" data-rmplaceholderfriendlyname="Document Created At" data-rmplaceholdername="rmDocumentCreatedAt">###Document Created At###</a>
```
- 4 data-rmplaceholderformat 属性を目的の書式に変更します。  
例:  

```
<a target="_blank" class="rmPlaceholder" data-rmplaceholderformat="MMMM/dd/yyyy hh:mm:ss" data-rmplaceholderfriendlyname="Document Created At" data-rmplaceholdername="rmDocumentCreatedAt">###Document Created At###</a>
```
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 ドキュメント全体ビューを使用する場合、または新しい要件を作成する場合は、[保存] をクリックします。  
[新規チャプター] または [チャプターの編集] ダイアログで、[OK] をクリックします。  
[属性の編集] ダイアログで、[保存] または [更新] をクリックします。

## チャプターの変更のマージ

この構成は、管理者が使用できる [インスタンス設定] ダイアログボックスで設定します。



**注記** 複数のユーザーが1つの要件やチャプターを同時に編集する場合、ロック機能やマージ機能を使用して複数ユーザーによる同時編集を処理するようにRM Browserを設定できます。ここでは、チャプターのマージについて説明します。

マージ機能を使用するようにRM Browserが構成されている場合、2人のユーザーが同じチャプターを同時に編集したときにチャプターの変更をマージする必要があります。

変更は、以下の表に示すように、自動または競合のいずれかになります。

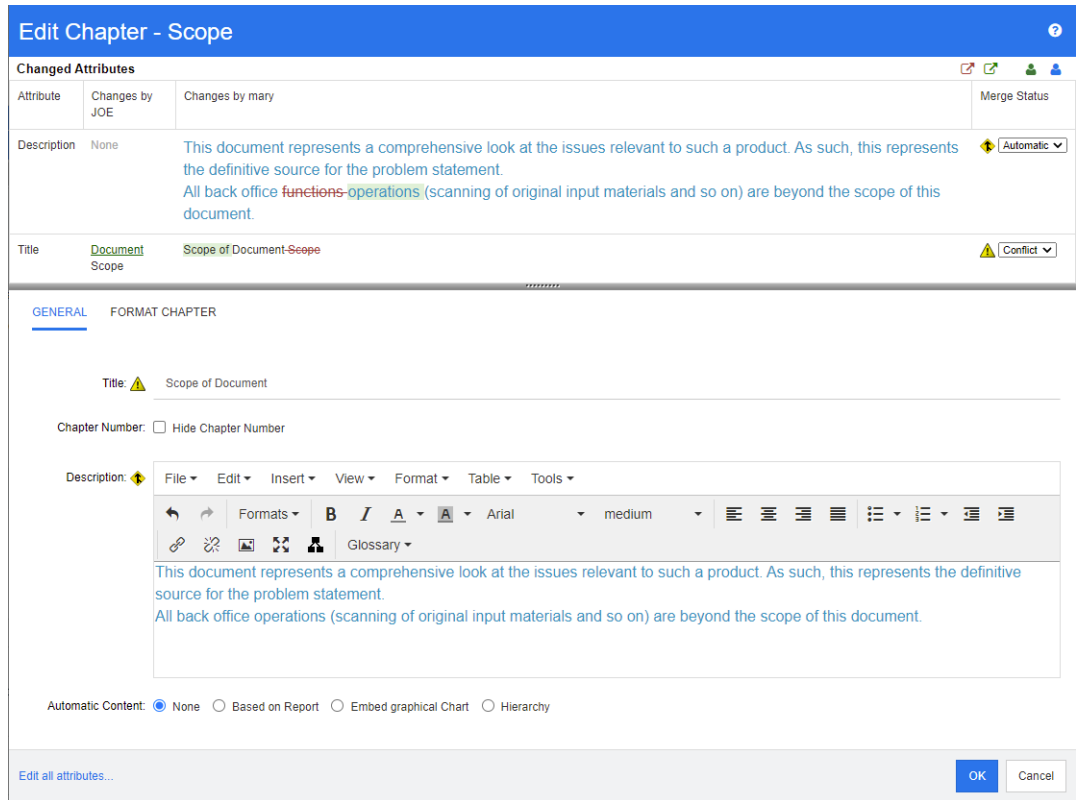
変更タイプ	説明
自動	最初のユーザーによる変更が2番目のユーザーによる変更と同じである場合、または最初のユーザーによる変更が2番目のユーザーによる変更と異なるものである場合は、変更のレビューが厳密には必要ないため、自動マージを実行できます。ただし、承認を行う前に2番目のユーザーが最初のユーザーによる変更をレビューすることをお勧めします。
競合	2番目のユーザーによる変更が最初のユーザーによる変更と競合する場合、2番目のユーザーが変更内容をレビューし、次のいずれかを実行する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2番目のユーザーによる変更を承認する</li> <li>■ 最初のユーザーによる変更を承認する</li> <li>■ 元の値を承認する</li> <li>■ ダイアログボックスのメイン部分で値を直接編集し、両方のユーザーの変更を手動で組み合わせる</li> </ul>


以下のシナリオは、チャプターのマージに至る一連の操作をまとめたものです。


- 1 2人のユーザーが同じチャプターを同時に編集します。
- 2 最初のユーザーが、**[チャプターの編集]** ダイアログで **[OK]** をクリックします。
- 3 2番目のユーザーが、**[チャプターの編集]** ダイアログで **[OK]** をクリックします。
- 4 2番目のユーザーに、最初のユーザーがそのチャプターに対して1つ以上の変更を行っていることを示す通知が表示されます。この通知には、(最初のユーザーによる変更と2番目のユーザーによる変更が競合していないため) 自動的にマージを行うことができるという説明が記載されている場合と、2人のユーザーによる変更が競合しているため、競合を解消してからでないと2番目のユーザーはチャプターを置き換えることができないという説明が記載されている場合があります。
- 5 2番目のユーザーは、通知メッセージで **[OK]** をクリックします。**[チャプターの編集]** ダイアログが **[チャプターのマージ]** ダイアログになります。**[チャプターのマージ]** ダイアログは **[チャプターの編集]** ダイアログと異なるもので、**[チャプターのマージ]** ダイアログには、次の特徴があります。
  - 上部に変更内容をまとめたセクションがあり、変更内容をマージするためのユーザーインターフェイスがある
  - 属性の横に2番目のユーザーが選択したマージのタイプを示す表示がある
- 6 2番目のユーザーは、「**以前のバージョンのチャプターの表示**」(159ページ) および「**変更内容のマージ**」(160ページ) の手順に従って、**[チャプターのマージ]** ダイアログの上部にあるマージセクションを使用して変更を解決します。

## マージステータス

JoeとMaryが行った変更のマージステータスが、[チャプターのマージ] ダイアログの上部にある [変更された属性] セクションにハイライト表示されています。





最初の変更で、Joeは [タイトル] 属性を "Scope" から "Document Scope" に変更しました。Maryは [タイトル] 属性を "Scope" から "Scope of Document" に変更したため、この変更では競合が起きています。[マージステータス] 列では、リストから [競合] が選択されています。競合を表すアイコンは、感嘆符を含む三角形  で、[マージステータス] リストの左側と、ダイアログのメイン部分のボックスの左側に表示されます。

2番目の変更で、Maryは "office functions" を "office operations" に変更しました。[マージステータス] 列で、リストから [自動] が選択されています。これは、変更内容にJoeによる変更との競合がないためです。自動マージを表すアイコンは、マージの矢印を含む菱形  で、[マージステータス] リストとダイアログのメイン部分のボックスの左側に表示されます。

## 以前のバージョンのチャプターの表示



変更を解決する際には、以前のバージョンのチャプターを表示できると便利です。

- 2番目のユーザーが、[元のバージョンのチャプターを表示] ボタン  をクリックするか、関連する [マージステータス] 列のリストで [元の値] をクリックすると、元のバージョンのチャプターを表示できます。
- 2番目のユーザーが、[変更前のバージョンのチャプターを表示] ボタン  をクリックすると、2番目のユーザーが変更を行う前の、最初のユーザーによる変更後の状態でチャプターを表示できます。

## 変更内容のマージ

2番目のユーザーは変更の解決方法を判断した後に、変更内容をマージすることができます。

変更内容をマージするには、次の手順を実行します。

- 1 [マージステータス] 列のリストボックスで [自動] が選択されている場合、次の手順のいずれかを実行します。
  - [自動] を選択した状態のまま、その変更を承認します。
  - 変更を行ったユーザー名を選択して、その変更を承認します。
  - [元の値] を選択して、属性を元の値に戻します。
- 2 [マージステータス] 列のリストボックスで [競合] が選択されている場合、次の手順のいずれかを実行します。
  - 承認する変更を行ったユーザー名を選択します。
  - [元の値] を選択して、属性を元の値に戻します。
  - 承認する値と一致するように、メインフォームで値を手動で編集します。
- 3 特定のユーザー (JoeやMaryなど) によるすべての変更を承認する場合は、[次のユーザーによる変更をすべて承認: Joe] ボタン  または [次のユーザーによる変更をすべて承認: Mary] ボタン  をクリックします。
- 4 [OK] をクリックします。

# ドキュメントのスナップショット

## ドキュメントのスナップショットの作成

スナップショットは、ドキュメントの読み取り専用のコピーです。スナップショットには、後から参照できるようにドキュメントの現在の状態が保持されます。スナップショットを作成する際は、ドキュメントに含まれている要件バージョンのベースラインを作成することもできます。

スナップショットを作成すると、[プロパティ] ダイアログで指定された設定も保存されます。

ドキュメントのスナップショットを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 スナップショットの作成は、開いているドキュメントまたは閉じているドキュメントから開始できます。
  - 開いているドキュメントで、[アクション] ペインの [ドキュメント] セットの [スナップショットの作成 / 表示] をクリックします。
  - [ホーム] ビューの [ドキュメント] タブでドキュメントを選択し、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループで [スナップショットの作成] をクリックします。
- 2 [スナップショット] ダイアログが開きます。
- 3 [新規スナップショット] ボタンをクリックします。[スナップショットの作成] ダイアログが開きます。
- 4 **名前:** 最初は、このフィールドには、元のドキュメントの名前が入力されています。必要に応じて変更します。



- 5 **メジャーバージョンおよびマイナーバージョン:** スナップショット名のバージョン番号を大きくします。変更が行われると上書きされます。  
例:  
スナップショットバージョンが1.1の場合、
    - **メジャーバージョン**では、スナップショットバージョンが2.0になります。
    - **マイナーバージョン**では、スナップショットバージョンが1.2になります。
  - 6 **説明:** 最初は、このフィールドには、元のドキュメントの説明が入力されています。必要に応じて変更します。
  - 7 **ワークフロー:** このスナップショットで使用するワークフローを選択できます。
  - 8 **対応するベースラインを自動的に作成する:** ドキュメント内に現在存在する要件バージョンのベースラインを作成する場合は、このチェックボックスを有効にします。
  - 9 **[スナップショットの作成]** ダイアログで **[OK]** ボタンをクリックします。
  - 10 **[スナップショット]** ダイアログの **[閉じる]** ボタンをクリックします。
- 追加の詳細については、「[スナップショットの操作](#)」(161ページ)を参照してください。

## スナップショットの操作

スナップショットは、開いているドキュメント内からアクセスすることも、[アクション] ペインのドキュメントセットで強調表示してアクセスすることもできます。

開いているドキュメントに関連付けられたスナップショットにアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント作業ページにドキュメントを開いた状態で、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループの **[スナップショットの作成/表示]** をクリックします。[スナップショット] ダイアログが開きます。
- 2 リストから目的のスナップショットを選択します。

閉じているドキュメントに関連するスナップショットにアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ページの [ドキュメント] タブで、スナップショットが所有するドキュメントを選択します。
- 2 ドキュメントを展開してスナップショットを選択できるようにします。
- 3 リストから目的のスナップショットを選択します。


スナップショットでも、次のような通常ドキュメントアクションを使用できます。

- **開く:** スナップショットを選択し、ドキュメント作業ページで開くことができます。  
開いたら、ドキュメント名や説明などのドキュメント設定を変更できます。ワークフローはスナップショットに割り当てることができます。
- **名前を付けて保存:** 選択したスナップショットの内容に基づいて、スナップショットを作業ドキュメントとして新しい名前で保存できます。
- **エクスポート:** スナップショットの内容をエクスポートできます ([「ドキュメントのエクスポート」](#) (165ページ)を参照)。
- **削除:** スナップショットを削除済みとしてマークできます。
- **除去:** **[スナップショットの除去]** ダイアログが開きます。**[OK]** をクリックして、スナップショットを削除します。

## ドキュメントおよびスナップショットの比較

ドキュメントを別のドキュメントまたはスナップショットと比較したり、2つのスナップショットを比較したりすることができます。スナップショットが同じドキュメントである必要はありません。相違点は、ナビゲーションペインおよび詳細ペインに表示されます。

ドキュメントおよびスナップショットを比較するには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 [カテゴリ] ツリーで、ドキュメントまたはスナップショットを含むカテゴリを選択します。
- 3 比較するドキュメントまたはスナップショットを選択します。(通常、スナップショットは、作成元のドキュメントと同じカテゴリに属しています。この場合は、ドキュメントを展開してスナップショットを選択できるようにします。)
- 4 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの [ドキュメントの比較] をクリックします。[スナップショットの比較] ダイアログが開きます。
- 5 次のいずれかの方法で、ドキュメントまたはスナップショットを選択します。
  - 同じドキュメントのスナップショットを選択する。
    - 1 下のリストからスナップショットを選択します。
    - 2 [基準バージョン] または [変更されたバージョン] の横の矢印をクリックして、それぞれのフィールドに値を入力します。
  - 別のドキュメントを選択する。
    - 1 [...] をクリックして、[ドキュメントの選択] ダイアログを開きます。
    - 2 ドキュメントが別のカテゴリ内にある場合は、[カテゴリ] ボックスでそのカテゴリを選択します。
    - 3 下のリストからドキュメントを選択します。[検索] ボックスに名前の一部を入力すると、リストを短くすることができます。
    - 4 [選択] をクリックします。
  - 別のスナップショットを選択する。
    - 1 [...] をクリックして、[ドキュメントの選択] ダイアログを開きます。
    - 2 ドキュメントが別のカテゴリ内にある場合は、[カテゴリ] ボックスでそのカテゴリを選択します。
    - 3 下のリストからドキュメントを選択します。[検索] ボックスに名前の一部を入力すると、リストを短くすることができます。
    - 4 [選択] をクリックします。
    - 5 下のリストからスナップショットを選択します。
    - 6 [基準バージョン] または [変更されたバージョン] の横の矢印をクリックして、ドキュメント名をスナップショット名に置き換えます。
- 6 [比較] をクリックします。[比較] ダイアログが閉じ、選択したドキュメントやスナップショットが比較されます。その結果、ドキュメント作業ページのナビゲーションペインには、選択したドキュメントやスナップショットのすべてのチャプターをまとめたものが表示されます。詳細ペインには、[要件差異サマリー] が表示されます。

関連するダイアログについては、










- 「[ドキュメントの比較] ナビゲーションペインの操作」(163ページ)
- 「要件差異サマリーの使用」(164ページ)を参照してください。

## [ドキュメントの比較] ナビゲーションペインの操作

ドキュメントを比較する場合：

- ドキュメント作業ページのナビゲーションペインには、選択したドキュメントやスナップショットのすべてのチャプターをまとめたものが表示されます。
- 詳細ペインには、[要件差異サマリー]が表示されます。

ナビゲーションペインには次の機能があります。

- ナビゲーションペインのアイコンは、特定のチャプターまたは要件の変更ステータスを示します。
  - **チャプター**
    - : チャプターは変更されていません。
    - : チャプターが変更されました。
    - : チャプターは追加されました。
    - : チャプターは除去されました。
  - **要件**
    - : 要件は変更されていません。
    - : 要件は変更されました。
    - : 要件は移動されました。
    - : 要件は追加されました。
    - : 要件は除去されました。
- チャプターレベルでは、変更アイコンはチャプターの説明のみに対応しており、チャプター内の要件には対応していません。そのため、チャプター内のサブチャプターや要件が変更されていても、チャプターの説明が変更されていなければ、チャプターのアイコンはチャプターが未変更であることを示す表示になります。
- 2つのドキュメントでチャプターまたは要件のタイトルが異なる場合は、ナビゲーションペインに両方のタイトルが表示されます。
- ナビゲーションペインでチャプターを選択すると、詳細ペインにグリッドビューで要件が表示されます。



**注記** 表示される属性は、ドキュメント内で表示用に定義された属性です。「[表示オプション](#)」(133ページ)を参照してください。

- 要件が追加、削除、移動、変更されているか、または未変更であることを示すアイコンは、グリッドビューにも表示されます。
- ナビゲーションペインで変更された要件を選択した場合：
  - 詳細ペインに2つのバージョンの相違点が表示されます。


- 変更された属性を含む詳細ペイン内のセクションの横にアイコンが表示され、変更された属性を含むセクションが展開されます。
- 特に移動された要件（ドラッグアンドドロップ操作を行って追加/削除された要件）の場合、比較は基準バージョンに対して行われます。


差異サマリーに関する追加情報については、「要件差異サマリーの使用」(164ページ)を参照してください。


## 要件差異サマリーの使用


要件差異サマリーは、ナビゲーションペインの他のすべてのチャプターの前に表示される特別なチャプターであり、比較したドキュメント/スナップショットの各要件の変更ステータスが含まれています。要件ごとに、要件ID、タイトル、およびクラスが表示されます。


要件差異サマリーには、次の要件が含まれています。

 **追加済みの要件:** ドキュメントまたはスナップショットに追加された要件のリストが含まれています。

 **除去済みの要件:** ドキュメントまたはスナップショットから除去された要件のリストが含まれています。

 **移動済みの要件:** ベースドキュメントまたはスナップショットにすでに存在していたが、(別のチャプターへの移動などで) 位置が変更された要件のリストが含まれています。

 **変更済みの要件:** ベースドキュメントとスナップショットにすでに存在していた、(説明テキストの変更などで) 変更済みの要件のリストが含まれます。

 **未変更の要件:** ベースドキュメントまたはスナップショットにすでに存在していた、変更されていない要件のリストが含まれています。

## ドキュメント差異レポートのエクスポート

[エクスポート] コマンドを使用すると、「Microsoft Wordドキュメントとしてエクスポート」(165ページ)の手順に従って、ドキュメント作業ページからMicrosoft Wordドキュメントをエクスポートできます。ただし、エクスポートされたドキュメントの目次の各チャプタータイトルの末尾に、[ADDED]、[REMOVED]、[MOVED]、[CHANGED]、または [UNCHANGED] が追加されます。

## スナップショットまたはドキュメントの表示

ドキュメント作業ページの「比較」バージョンの個別のスナップショットまたはドキュメントを表示することができます。

ドキュメントビューの「比較」バージョンのスナップショットまたはドキュメントを表示するには、次の手順を実行します。

- 詳細ペインの上部にある [移動:] の横のドキュメントまたはスナップショットのリンクをクリックします。

ドキュメントまたはスナップショットの通常のドキュメント作業ページが表示されます。スナップショットは読み取り専用であるため、ナビゲーションペイン内で、これらのチャプター、サブチャプター、および要件は淡色表示になっています。

# ドキュメントのエクスポート

Dimensions RMドキュメントは、リリースプロセス全体を通じて管理し、企業フォーマットに基づいたテンプレートを使用してパブリッシュすることができます。また、多くのお客様がドキュメントビューでの作業を好むため、1つのチャプターで構成されたドキュメントを維持することも可能です。

**バックグラウンドで実行:** ドキュメントのエクスポートは、バックグラウンドで実行することができます。ドキュメントセットにある **[履歴のエクスポート]** という新しいアクションを使用して、エクスポートステータスを確認できます。

**docx4j Javaライブラリ:** このリリースではベータ版としてリストされているdocx4j Javaライブラリの機能は、企業サーバーにMicrosoft Officeをインストールできないお客様をサポートすることを目的としています。

ドキュメントはDimensions RMから次のようにエクスポートできます。

- Wordドキュメントとしてエクスポートするには (ベータ版を含む)、**「Microsoft Wordドキュメントとしてエクスポート」** (165 ページ) を参照してください。
- ラウンドトリップドキュメントとしてエクスポートするには、**「ラウンドトリップドキュメントとしてエクスポート」** (168 ページ) を参照してください。
- PDFドキュメントとしてエクスポートするには、**「Adobe PDFドキュメントとしてエクスポート」** (169 ページ) を参照してください。
- **Excelスプレッドシート**としてエクスポートするには、**「Microsoft Excelスプレッドシートとしてエクスポート」** (169 ページ) を参照してください。
- ReqIF形式でエクスポートするには、**「ReqIFZドキュメントとしてエクスポート」** (170 ページ) を参照してください。

ドキュメントのエクスポートに関連する追加の機能:

- **「エクスポートされたドキュメントでのファイル添付の表示」** (166 ページ)
- **「ドキュメントのエクスポートURLのクリップボードへのコピー」** (171 ページ)

•

## Microsoft Wordドキュメントとしてエクスポート

Microsoft Wordファイルにエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム]ビューの [ドキュメント] タブで、ドキュメントまたはスナップショットを強調表示するか、開いているドキュメントまたはスナップショットで、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループから **[エクスポート]** を選択します。[ドキュメントのエクスポート] ダイアログが開きます。
- 2 ドキュメントのエクスポート形式:
  - デフォルトのWordエクスポートは、docxファイルを生成するために、サーバーにインストールされているMicrosoft Officeに依存します。
  - ベータ版: このWordエクスポートは、docx4j.javaライブラリを使用して、Microsoft Open XML Word形式でドキュメントを作成します。

- 3 テンプレートのエクスポート: 該当する場合は、ドロップダウンからエクスポート時に適用するパブリッシュテンプレートを選択します。



**注記** インスタンス管理者は、エクスポートされるドキュメントにヘッダーとフッターを含めたり、エクスポートされるドキュメントにカスタムスタイルを使用したりするように設定できます。また、管理者は、エクスポートされるドキュメント用に選択できるカスタムテンプレートを作成することもできます。「エクスポートされるドキュメントのカスタムスタイル」に関する情報については、『Dimensions RM Administrator’s Guide』を参照してください。

- 4 目次ページ番号の生成: docx4j形式でエクスポートする場合、出力にページ番号を含めるには、このボックスをオンにします。
- 5 バックグラウンドで実行: エクスポートプロセスをバックグラウンドで実行する場合は、このボックスをオンにします。これは、特に大きなファイルをエクスポートするときに便利です。

[バックグラウンドで実行] を選択した場合、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループにある [履歴のエクスポート] アクションを使用して、ステータスを確認できます。

- 6 [エクスポート] をクリックします。

Word形式でのドキュメントのエクスポートについて:

- RMドキュメントの名前が、Wordファイルの名前になります。
- [タイトルのエクスポート] ボックスをオンにすると、RMドキュメント名がWordドキュメントのタイトルとして表示されます。
- ナビゲーションペインがWordドキュメントの目次になります。
- Wordドキュメントの本文は、詳細ペインの内容とレイアウトによって決まります。



**注記**

- サーバーにMicrosoft Wordがインストールされていない場合に、Word (Office) を選択すると、ファイル拡張子として.docxではなく.docを使用して、Microsoft Wordドキュメントが作成されます。.docファイルを開く際に、このファイルが正しいdocx形式ではないことを知らせるメッセージが表示される場合があります。このダイアログボックスで [はい] をクリックしても、ファイルはWordで問題なく開き、docxで保存されます。
- .docファイルが作成される場合、目次のリンク先がすべて1ページ目になります。目次の項目の数字を修正するには、目次を右クリックし、コンテキストメニューで [更新] を選択します。

## エクスポートされたドキュメントでのファイル添付の表示

ドキュメント内の要件に添付ファイル属性が含まれる場合、ファイル添付をエクスポートされたWordドキュメントにリンクとして追加することができます。リンクを表示するには、[ドキュメント設定] ダイアログボックスの [表示する属性] リストに、File Attachment属性を追加する必要があります。このダイアログボックスについては、「[表示オプション](#)」(133ページ) を参照してください。

リンクはアイコンとして表示されます。エクスポートされたドキュメントでアイコンをダブルクリックすると、関連するファイルが開きます。





#### 注記

- エクスポートされたドキュメントと添付ファイルは 1 つのドキュメントとして保存されるため、ドキュメントのサイズがかなり大きくなる場合があります。ドキュメントのサイズは、添付ファイルを含む要件の数と添付ファイルのサイズに左右されます。
- お使いの Dimensions RM Webサーバーに Microsoft Word をインストールして、ドキュメント内の添付ファイルをエクスポートすることができます。また、他のサーバーに Microsoft Word をインストールすることもできます。Webサーバーに Word をインストールしない場合は、管理者がサーバーの設定を行うことができます。詳細については、『Dimensions RM Administrator's Guide』を参照してください。

次の図は、グリッドレイアウトでエクスポートされたドキュメント内の添付ファイルのリンクを示しています。

### 3.1.3 機能要件

#	要件ID	タイトル	テキスト	添付ファイル
3.1.3.1	MRKT_000001	ePhotoがオンラインフォトアルバムになる	ePhotoシステムで、ユーザーがオンラインフォトアルバムを閲覧できるようにします。卓上用フォトアルバムとよく似た電子フォトアルバムのようなルックアンドフィールにします。	ファイルが添付されていません
3.1.3.1.1	MRKT_000024	保管した写真のスライドショー	ePhotoシステムで、保管した写真のスライドショーを作成する機能を提供します。	 prototype.png
3.1.3.1.2	MRKT_000023	ePhotoがオンラインフォトアルバムになる	ePhotoシステムで、ユーザーがオンラインフォトアルバムを閲覧できるようにします。卓上用フォトアルバムとよく似た電子フォトアルバムのようなルックアンドフィールにします。	 prototype.png

次の図は、段落レイアウトでエクスポートされたドキュメント内の添付ファイルのリンクを示しています。


### 3.1.3 機能要件

#### 3.1.3.1 EPhoto がオンラインフォトアルバムになる

**要件ID:** MRKT\_000001      **添付ファイル:** ファイルが添付されていません


このePhotoシステムで、卓上用フォトアルバムと同じように、ユーザーがオンラインフォトアルバムを閲覧できるようにします。

##### 3.1.3.1.1 保管した写真のスライドショー

**要件ID:** MRKT\_000024      **添付ファイル:**  prototype.png

ePhotoシステムで、保管した写真のスライドショーを作成する機能を提供します。

##### 3.1.3.1.2 保存されたフォト情報の表示

**要件ID:** MRKT\_000023      **添付ファイル:**  prototype.png

このePhotoシステムで、ユーザーが写真と一緒に保存された情報を表示できるようにします。

## ラウンドトリップドキュメントとしてエクスポート

Wordドキュメントを外部編集用に誰かに提供して、後から変更内容をインポートする場合は、標準のWordドキュメントではなく、ラウンドトリップドキュメントを使用することをお勧めします。ラウンドトリップドキュメントは通常のWordドキュメントと異なり、ラウンドトリップドキュメントでは、エクスポートされた要件で定義済みの形式が使用され、チャプターとドキュメントヘッダーに対してIDが指定されます。これらのID (および要件内のID) により、インポート時に変更を認識することができます。

ラウンドトリップドキュメントにエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [ドキュメント] タブで、ドキュメントまたはスナップショットを強調表示するか、開いているドキュメントまたはスナップショットで、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループから [エクスポート] を選択します。[ドキュメントのエクスポート] ダイアログが開きます。
- 2 [ドキュメントのエクスポート] ダイアログには、エクスポートに使用できる形式が一覧表示されます。[ラウンドトリップWordドキュメント (\*.docx)] を選択します。
- 3 バックグラウンドで実行: エクスポートプロセスをバックグラウンドで実行する場合は、このボックスをオンにします。これは、特に大きなファイルをエクスポートするときに便利です。  
[バックグラウンドで実行] を選択した場合、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループにある [履歴のエクスポート] アクションを使用して、ステータスを確認できます。



- 4 [エクスポート] をクリックします。

## Adobe PDF ドキュメントとしてエクスポート

ドキュメントビューで、RMドキュメントまたはスナップショットをAdobe PDFファイルとしてエクスポートすることができます。

- RMドキュメントの名前が、PDFファイルの名前になります。
- [新規ドキュメント] または [ドキュメントの編集] ダイアログで [タイトルのエクスポート] チェックボックスをクリアした場合を除き、RMドキュメントの名前がPDFドキュメントのタイトルになります。
- ナビゲーションペインが、PDFドキュメントの目次になります。
- PDFドキュメントの本文は、詳細ペインの内容とレイアウトによって決まります。



### 注記

ファイル添付をPDFドキュメント内に埋め込むことはできません。

サーバーでは、PDFファイルを生成するのにMicrosoft Wordが必要です。サーバーにMicrosoft Wordがインストールされていない場合は、PDFファイルの代わりにファイル拡張子.docを使用してMicrosoft Wordドキュメントが作成されます。.docファイルを開く際に、ファイルが.doc以外の形式であることを知らせるメッセージが表示される場合があります。このダイアログボックスで [はい] をクリックすると、ファイルをWordで問題なく開くことができます。

**Adobe PDF ファイルにエクスポートするには、次の手順を実行します。**

- 1 [ホーム] ビューの [ドキュメント] タブで、ドキュメントまたはスナップショットを強調表示するか、開いているドキュメントまたはスナップショットで、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループから [エクスポート] を選択します。[ドキュメントのエクスポート] ダイアログが開きます。
- 2 [ドキュメントのエクスポート] ダイアログには、エクスポートに使用できる形式が一覧表示されます。[PDFドキュメント] を選択します。
- 3 バックグラウンドで実行: エクスポートプロセスをバックグラウンドで実行する場合は、このボックスをオンにします。これは、特に大きなファイルをエクスポートするときに便利です。  
[バックグラウンドで実行] を選択した場合、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループにある [履歴のエクスポート] アクションを使用して、ステータスを確認できます。
- 4 [エクスポート] をクリックします。

## Microsoft Excel スプレッドシートとしてエクスポート

ドキュメントビューで、RMドキュメントまたはスナップショットをMicrosoft Excelファイルとしてエクスポートすることができます。

- RMドキュメントの名前が、Excelファイルの名前になります。
- Excelスプレッドシートのセルの内容は、詳細ペインの内容とレイアウトによって決まります。
- エクスポートした後に、Excelファイルをダウンロードしたり開いたりすることができます。

**Microsoft Excel ファイルにエクスポートするには、次の手順を実行します。**

- 1 [ホーム] ビューの [ドキュメント] タブで、ドキュメントまたはスナップショットを強調表示するか、開いているドキュメントまたはスナップショット内で、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループから [エクスポート] を選択します。[ドキュメントのエクスポート] ダイアログが開きます。
- 2 [ドキュメントのエクスポート] ダイアログには、エクスポートに使用できる形式が一覧表示されます。[Excelスプレッドシート (\*.xlsx)] を選択します。
- 3 必要に応じて、次のオプションを選択します。
  - a **画像を含める:** 選択すると、画像がExcelファイルにエクスポートされます。
  - b **テーブルを含める:** 選択すると、テーブルがExcelファイルにエクスポートされます。



#### 注記

- Excel の 1 つのセルにテキストと画像を入力することはできません。また、大きな画像を含むドキュメントをパブリッシュすることにも問題があります。エクスポートする Excel ファイルには画像を含めず、代わりに Word を使用することをお勧めします。
  - c **表示されているすべての属性をエクスポート:** 選択すると、[表示する属性] リスト（「[表示オプション](#)」(133ページ) を参照) で選択されたすべての属性が、Excelスプレッドシートにエクスポートされます。このオプションをクリアすると、Document Section Identifier、Chapter Title、Title、Description属性のみがExcelスプレッドシートにエクスポートされます。
- 4 **バックグラウンドで実行:** エクスポートプロセスをバックグラウンドで実行する場合は、このボックスをオンにします。これは、特に大きなファイルをエクスポートするときに便利です。  
 [バックグラウンドで実行] を選択した場合、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループにある [履歴のエクスポート] アクションを使用して、ステータスを確認できます。
  - 5 [エクスポート] をクリックします。

## ReqIFZ ドキュメントとしてエクスポート

ドキュメントビューで、RMドキュメントまたはスナップショットをReqIFZドキュメントファイルとしてエクスポートすることができます。

- RMドキュメントの名前が、ReqIFZファイルの名前になります。
  - TitleおよびDescriptionは、ReqIF.NameおよびReqIF.Descriptionの値として保存されます。
- エクスポートした後で、ReqIFZファイルをダウンロードすることができます。



#### 注記

- エクスポートされたReqIFZファイルは、Dimensions RMのデータベース内には保存されません。
- ファイル添付をReqIFZドキュメント内に埋め込むことはできません。

**ReqIFZ ファイルにエクスポートするには、次の手順を実行します。**

- 1 [ホーム] ビューの [ドキュメント] タブで、ドキュメントまたはスナップショットを強調表示するか、開いているドキュメントまたはスナップショット内で、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループから [エクスポート] を選択します。[ドキュメントのエクスポート] ダイアログが開きます。

- 2 [ドキュメントのエクスポート] ダイアログには、エクスポートに使用できる形式が一覧表示されます。**[ReqIFドキュメント (\*.reqifz)]** を選択します。
- 3 DOORSへのインポート用に画像を変換するには、**[画像エクスポートのDOORSサポート]** オプションを選択します。このオプションをクリアすると、画像は元のフォーマットでエクスポートされます。
- 4 バックグラウンドで実行: エクスポートプロセスをバックグラウンドで実行する場合は、このボックスをオンにします。これは、特に大きなファイルをエクスポートするときに便利です。  
[バックグラウンドで実行] を選択した場合、[アクション] ペインの [ドキュメント] グループにある **[履歴のエクスポート]** アクションを使用して、ステータスを確認できます。
- 5 **[エクスポート]** をクリックします。

## ドキュメントのエクスポートURLのクリップボードへのコピー

ドキュメントを特定の形式で頻繁にエクスポートする必要がある場合は、そのドキュメントのエクスポートURLをお使いのWebブラウザに保存してタスクを簡素化することができます。エクスポートURLをクリックすると、そのドキュメントが (PDF形式などで) エクスポートされます。ユーザーは (お使いのWebブラウザの設定に応じて) そのドキュメントを開いたり保存したりすることができます。

ドキュメントのエクスポートURLをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント作業ページにドキュメントまたはスナップショットを開きます (まだ開いていない場合)。「**ドキュメントまたはスナップショットを開く**」(117ページ) を参照してください。
- 2 [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの **[エクスポート]** をクリックします。
- 3 **[ドキュメントのエクスポート]** プロンプトで、ドロップダウンからエクスポート形式を選択します。
- 4 **[直接URLの作成]** をクリックします。[直接URL] ダイアログが開きます。
- 5 URLを右クリックし、**[リンクのアドレスをコピー]** を選択して、URLをクリップボードにコピーします。
- 6 **[閉じる]** をクリックしてダイアログを閉じます。
- 7 Ctrl+Vキーを押すか、関連するアプリケーション固有のメニューコマンドを使用して、そのURLを使用するファイルまたはアプリケーションにURLを貼り付けます。



**ヒント** URLにユーザー名とパスワードを追加すると、ログインせずにドキュメントをエクスポートできるようにすることができます。

URLに次の内容を追加します: `&u=user_name&pwd=password`

## ドキュメントでのワークフローの使用

ドキュメント (または任意のタイプのコンテナ) にワークフローを割り当てるには、ワークフローコンテナタイプのクラスが存在する必要があります。[ワークフロー] ボックスが表示されない場合、または [ワークフロー] ドロップダウンにドキュメント設定の内容がない場合は、管理者に確認してください。

1. ドキュメントを開きます (「**ドキュメントまたはスナップショットを開く**」(117ページ) を参照)。
2. [アクション] ペインの [ドキュメント] グループの **[ドキュメント設定]** をクリックします。

3. [ワークフロー] ボックスで、目的のワークフローを選択します。

## ドキュメントのワークフローへの割り当て

ドキュメントをワークフローに割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメントを開きます (「ドキュメントまたはスナップショットを開く」(117ページ) を参照)。
- 2 [アクション] ペインの [ドキュメント] セットから [ドキュメント設定] を選択します。[ドキュメント設定] ダイアログが開きます。
- 3 [一般] タブが選択されていることを確認します。
- 4 [ワークフロー] ボックスで、目的のワークフローを選択します。



**注意!** このダイアログで設定を確定した後に、ドキュメントのワークフロー設定を変更することはできません。そのため、正しいワークフローを選択していることを確認してください。

- 5 [OK] をクリックします。

## ドキュメントでの遷移の実行

ドキュメントでワークフローを使用するには、そのドキュメントにワークフローを割り当てる必要があります (「ドキュメントのワークフローへの割り当て」(172ページ) を参照)。

遷移を実行するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメントを開きます (「ドキュメントまたはスナップショットを開く」(117ページ) を参照)。
- 2 目的の遷移のボタンをクリックします。ボタンは、画面の右上隅の [ようこそ] メニューのすぐ下にあります。遷移を実行すると、入力用のフォームが開く場合があります。遷移を完了するには、このフォームに入力する必要があります。

遷移ボタンの横には、現在の状態を示す進行状況バーがあります。管理者が設定している場合は、進行状況バーの値がワークフロー状態に従って変わることがあります。

## ドキュメントに関する情報の表示

ドキュメントがワークフローに割り当てられている場合は、要件の場合と同じ機能 (属性の表示/変更、状態変更履歴の確認、遷移の実行など) を使用できます。

ドキュメント情報を開くには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメントを開きます (「ドキュメントまたはスナップショットを開く」(117ページ) を参照)。
- 2 現在の状態を示す進行状況バーをクリックします。ドキュメントの [属性の編集] ダイアログが開きます。

[属性の編集] ダイアログの詳細については、「要件の編集」(194ページ) (ステップ2以降) および「ワークフロー」(185ページ) を参照してください。

## 第4章

---

# 要件の操作

要件の基礎	174
要件の操作	190
要件のエクスポート	202
リンクの操作	208
[コンテナー] セクション	226
ファイル添付の操作	229
グループ属性の操作	230
要件の履歴の表示	232
要件変更のマージ	239
要件の分岐とマージ	241
調査	252
ディスカッションへの参加	256
NLP複雑性分析	256
NLP類似性分析	257
リスク管理のアクティブ化	258

## 要件の基礎

このセクションでは、要件の検索方法と、フィルターを使用して要件を再検索する方法について説明します。

- 「クイック検索による要件の検索」(174 ページ)
- 「グループ属性を使用した要件の検索」(176 ページ)
- 「検索フィルターの使用」(179 ページ)
- 「グローバル検索」(180 ページ)

### クイック検索による要件の検索



#### 注記

要件を最初に作成したユーザーと、要件の最新バージョンを作成したユーザーを表す2つの暗黙の属性があります。「最初の作成者」属性には、要件の最初のバージョンを作成したユーザーの名前が含まれます。この属性は、要件が別のユーザーによって変更された（置き換えられた）ときに保持されます。要件の特定のバージョンを置き換えたユーザーの名前は、「作成者」属性に保存されます。

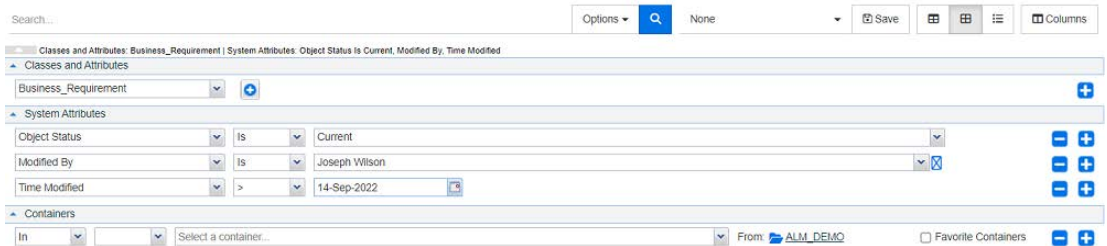
クイック検索は、[ビュー] に移動した時に、リストの上にあります。画面のスペースを節約するため、現在の選択内容のサマリーが、次のように細い行で表示されます。

Classes and Attributes: All Classes | System Attributes: Object Status Is Current

この行には、現在、選択されているクラスと属性が表示されます。ダイアログを展開するには、下矢印をクリックします。ここからフィルターを変更できます。任意のシステム属性またはカスタム属性をフィルターに含めることができます。

検索条件を入力または変更するたびに、

をクリックして検索結果を更新します。



#### 1 [検索] ボックスの使用方法:

- [検索]** ボックスに、単語または文字列を入力して、検索ワードを含むオブジェクトに検索結果を絞り込みます。
  - 文字列を引用符で囲んだ場合、文字列全体を含む要件が表示されます。
  - 文字列を引用符で囲まない場合、文字列の各語を含む要件が表示されます。
- [オプション]** ドロップダウンから次のオプションのいずれか1つ以上を選択します。

**PUID:** 検索を要件の PUID 属性 (バージョンに依存しない ID) に限定する場合、このチェックボックスを選択します。クラス設定によっては、PUID が要件 ID として表示されたり、ローカル識別子が使用されたりすることもあります。

**タイトル:** このチェックボックスを選択すると、検索文字列がタイトル属性に制限されます。クラス設定によっては、Title 属性に別の表示名が割り当てられることもあります。

**説明:** このチェックボックスを選択すると、オブジェクトのテキストまたはステートメントに検索が制限されます。



#### 注記

[PUID]、[タイトル]、[説明] の各チェックボックスの選択を解除すると、表示されるテキスト属性および英数字属性が検索に含まれます。システム属性は、文字列検索に含まれません。

[PUID]、[タイトル]、[説明] チェックボックスの選択または選択解除によって指定するのは、検索対象であり、表示される属性は変更されません。表示列の変更については、「[クック検索の設定](#)」(92 ページ) を参照してください。

#### 2 サブカテゴリを含める:

現在のカテゴリとその子カテゴリを含めるようにフィルターを広げるには、このチェックボックスを選択します。検索を現在のカテゴリに限定するには、このチェックボックスの選択を解除します。

#### 3 提供済みを除く:

このオプションは、インスタンスが分岐/マージを使用している場合に表示されます。このオプションを選択すると、マージされていない要件に検索結果が制限されます。分岐/マージの詳細については、「[要件の分岐とマージ](#)」(241 ページ) を参照してください。

#### 4 [クラスと属性]、[システム属性]、[コンテナ] のいずれかを選択できます。これらの検索設定を編集するには、 をクリックし、検索定義を展開します。

##### ■ クラスと属性

- 1 つ以上のクラスを追加するには、右端のプラスアイコンをクリックします。
- 属性を追加するには、クラスリストの横のプラスアイコンをクリックします。
- 複数のクラス属性、つまり選択したクラス内で複数のカスタム属性を選択する場合は、「AND」と「OR」を組み合わせることでフィルタリングすることができます。たとえば、優先度の高い項目または特定のドメイン内の項目を検索に含めることができます。

##### ■ システム属性: すべての要件のクラスに存在する [現在のステータス] や [変更日時] などの属性を選択できます。


##### ■ コンテナ: コンテナ内の要件の有無を確認することで、要件を検索できます。この検索は、次の 3 つのドロップダウンで構成されています。

- a [In] または [Not In] を選択して、要件がコンテナに含まれている必要があるかどうかを定義します。
- b コンテナタイプを選択します: コレクション、ベースライン、ドキュメント、またはスナップショット。

- c 1つ以上のコンテナ（コレクションなど）を選択します。



**ヒント** コンテナをより簡単に見つけるには、コンテナ名の一部をドロップダウンボックスに入力します。

- 5 属性で検索するには、属性を選択し、[次の値である] または [次の値ではない] を選択して、値を持つ属性を比較します。検索対象として、空の属性を持つ要件を含めるには、[Nullである] を選択し、選択した属性に値が設定されている要件を含めるには、[Nullではない] を選択します。
- 6 新しい検索条件を追加するには、プラスアイコンをクリックし、検索条件を除去するには、マイナスアイコンをクリックします。
- 7 [コンテナ] または [バージョン] を選択する場合、[In] または [Not In] を選択して、次の項目を検索対象に含めるか、対象から除外するかを選択します。
  - a 特定のコンテナ
  - b 特定の状態のバージョン（最新など）
- 8 [カテゴリ] の変更には、次の2つの方法があります。
  - a 検索全体のカテゴリの変更。カテゴリのドロップダウンリストからカテゴリを選択します。
  - b 1つのコンテナのカテゴリの変更。コンテナリストの隣のフォルダーアイコンの横にあるリンクをクリックします。
- 9  をクリックして検索を実行します。



#### ヒント

- クイック検索の設定をリセットするには、[アクション] ペインの [デフォルトのフィルター] をクリックします。
- 要件の複数選択については、「[複数の要件の選択](#)」(39ページ) を参照してください。



**注記** たとえば、[すべてのクラス] を選択した場合、内容が返されたクラスのみが表示されます。

### グループ属性を使用した要件の検索

通常、クエリの作成時に、すべての属性が選択内容に一致する必要があります。グループ属性は、1行に1つ以上の値を持つテーブルのように扱われ、ユーザーはクイック検索を使用して、その中の値を検索でどのように扱うかを定義することができます。次のいずれかを選択できます。

- Is (AND)
- Is (OR)
- Is not (AND)
- Is not (OR)
- Null



- Not Null



**注記** クエリで1行のみを指定する場合、次のように処理されます。



- [Is (AND)] と [Is (OR)] は同じ結果を返します。
- [Is not (AND)] と [Is not (OR)] は同じ結果を返します。

次の例では、**RMDEMO** インスタンスの **Tests** クラスを使用します。

### Is (AND)

[Is (AND)] 演算子を選択すると、グループ属性のすべての値がクエリ内のすべての値と一致する場合に、要件が結果リストに追加されます。

例:



- 1 クラス [Tests] を選択します。
- 2 属性 [Operating System] を追加します。
- 3 グループ属性ボックスで、[Desktop]、[Windows]、[XP] を選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 グループ属性ボックスで、[Desktop]、[Windows]、[Vista] を選択します。
- 6  をクリックします。
- 7 グループ属性ボックスで、[Desktop]、[Windows]、[7] を選択します。
- 8 ボックスに [Is (AND)] が表示されていることを確認します。
- 9 [検索] をクリックします。

結果リストには、次の値の組み合わせを [Operating System] 属性の値として持つ要件が示されます: [Desktop-Windows-XP]、[Desktop-Windows-Vista]、[Desktop-Windows-7]。

### Is (OR)

[Is (OR)] 演算子を選択すると、グループ属性のいずれかの値がクエリ内の値の1つ以上と一致する場合に、要件が結果リストに追加されます。

例:

- 1 クラス [Tests] を選択します。
- 2 属性 [Operating System] を追加します。
- 3 グループ属性ボックスで、[Desktop]、[Windows]、[XP] を選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 グループ属性ボックスで、[Desktop]、[Windows]、[Vista] を選択します。
- 6  をクリックします。
- 7 グループ属性ボックスで、[Desktop]、[Windows]、[7] を選択します。

8 ボックスに **[Is (OR)]** が表示されていることを確認します。



9 **[検索]** をクリックします。

結果リストには、**[Operating System]** 属性の値として、(他の値とともに) **[Desktop-Windows-XP]**、**[Desktop-Windows-Vista]** または **[Desktop-Windows-7]** のいずれかを含む要件が示されます。

### Is not (AND)

**[Is not (AND)]** 演算子を選択すると、グループ属性の値がクエリ内のすべての値と一致しない場合、要件が結果リストに追加されます。

例:



- 1 クラス **[Tests]** を選択します。
- 2 属性 **[Operating System]** を追加します。
- 3 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[XP]** を選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[Vista]** を選択します。
- 6  をクリックします。
- 7 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[7]** を選択します。
- 8 ボックスに **[Is not (AND)]** が表示されていることを確認します。
- 9 **[検索]** をクリックします。

結果リストには、次の値の組み合わせを **[Operating System]** 属性の値として持たない要件が示されます: **[Desktop-Windows-XP]**、**[Desktop-Windows-Vista]**、**[Desktop-Windows-7]**。

### Is not (OR)

**[Is not (OR)]** 演算子を選択すると、グループ属性の値がクエリ内のどの値とも一致しない場合、要件が結果リストに追加されます。

例:

- 1 クラス **[Tests]** を選択します。
- 2 属性 **[Operating System]** を追加します。
- 3 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[XP]** を選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[Vista]** を選択します。
- 6  をクリックします。
- 7 グループ属性ボックスで、**[Desktop]**、**[Windows]**、**[7]** を選択します。
- 8 ボックスに **[Is not (OR)]** が表示されていることを確認します。

## 9 [検索] をクリックします。

結果リストには、[Operating System] 属性の値として、[Desktop-Windows-XP]、[Desktop-Windows-Vista] または [Desktop-Windows-7] のどれも含まない要件が示されます。

### Null

[Null] 演算子を選択すると、グループ属性の値が指定されていない場合、要件が結果リストに追加されます。


### Not Null

[Not Null] 演算子を選択すると、グループ属性にいずれかの値が指定されている場合、要件が結果リストに追加されます。

## 再利用またはドキュメントビューで使用するための検索フィルターの保存

クイック検索では、後で使用するためにフィルターを保存できます。[保存] を選択し、フィルターに名前を付けると、クイック検索と [ドキュメントビュー] でフィルターを再利用できるようになります。

検索フィルターを保存するには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックします。[フィルター名の入力] ダイアログが開きます。
- 2 フィルターの保存に使用する名前を入力します。
- 3 [OK] をクリックします。フィルターが保存され、[フィルター名の入力] ダイアログが閉じます。

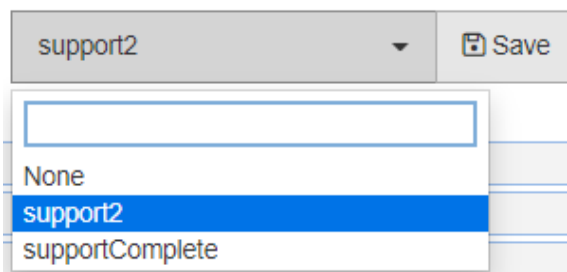



図 4-1. クイック検索で保存したフィルターはドキュメントビューで利用可能

## 検索フィルターの使用

### 保存済みのフィルターリスト

保存済みの検索フィルターを使用するには、次の手順を実行します。

- 1 検索フィルターボックスの小さな矢印をクリックして、検索フィルターのリストを開きます。検索フィルターボックスは、 ボタンの左側にあります。
- 2 リストからエントリを選択します。


### 検索フィルターの削除

検索フィルターを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 検索フィルターボックスの小さな矢印をクリックして、検索フィルターのリストを開きます。

- 2 削除する検索フィルター上にマウスポインターを移動します。検索フィルターがハイライトされ、名前の横に小さい [x] が表示されます。
- 3 検索フィルター名の横にある小さい [x] をクリックします。
- 4 [OK] をクリックして削除を確認します。

#### データの更新

 をクリックして検索結果を更新します。



**注記** RM Browserでは、F5キーを押しても、表示データは更新されません。代わりに、RM Browser ページが初期状態に戻ります。

## クイック検索の結果の保存

クイック検索の結果は、[アクション] ペインの [エクスポート] を使用してファイルに保存できます。デフォルトはExcelですが、リストから別の形式も選択できます（「要件のエクスポート」(202ページ)を参照）。

リストビューまたは編集可能なグリッドビューを使用して収集したクイック検索の結果は、[サイズに合わせて印刷] を使用して印刷用にフォーマットすることもできます。



**注記** 1つの要件のフォームビューを印刷するには、「要件の印刷」(198ページ)を参照してください。

クイック検索の結果を印刷するには、次の手順を実行します。

- 1 [アクション] ペインの [カテゴリ] の下にある項目から [サイズに合わせて印刷] を選択します。ウィンドウが開き、印刷用に書式設定された内容が表示されます。
- 2 お使いのシステムの印刷ダイアログが表示されます。[印刷] をクリックします。内容がプリンターに送信されます。
- 3 印刷が済んだら、書式設定された内容のウィンドウを閉じます。

## グローバル検索

グローバル検索は、メニューバーの検索アイコンからアクセスでき、現在の要件や、ドキュメント、コレクション、レポートのタイトルに含まれる用語を検索することができます。TDROコンポーネントに関連するすべての要件を検索したり、タイトルに "Verified" や "Release1" という用語が含まれるすべてのドキュメントを検索したりする場合は、すべてグローバル検索が便利です。

このダイアログは、メニューバーからアクセスできます。



- グローバル検索は、検索アイコンをクリックすると展開されます。
- 検索文字列を入力し、フィルターを展開して検索範囲をタイプ（ベースライン、コレクション、ドキュメント、レポート、要件、スナップショット）に限定するか、クラスフィルターを使用して検索範囲を選択したクラスに限定します。

- チェックボックス [PUID、タイトル、説明に限定して検索] をクリアすると、現在のオブジェクトのすべてのテキスト属性と英数字属性が検索されます。システム属性は検索されません。
- 検索パラメーターと結果はユーザー設定に格納され、次にダイアログを開いたときに再ロードされます。
- 結果セクションには、一致した結果が20個単位でリストされ、さらに表示する結果がある場合は、[表示数を増やす...] リンクを使用して、追加で20個の項目にアクセスできます。
- グローバルダイアログの検索結果は、項目タイプ（要件、レポートなど）ごとに100項目に制限されます。リストがこれより長い場合は、検索結果の数が '> 100' と表示されます。長い要件リストは、クイック検索を使用して、インスタンス名（ルート）を一番上に設定することで、より簡単にアクセス、表示、再フィルタリングできます。これにより、アクセス権を持つ要件のすべてにアクセスできます。

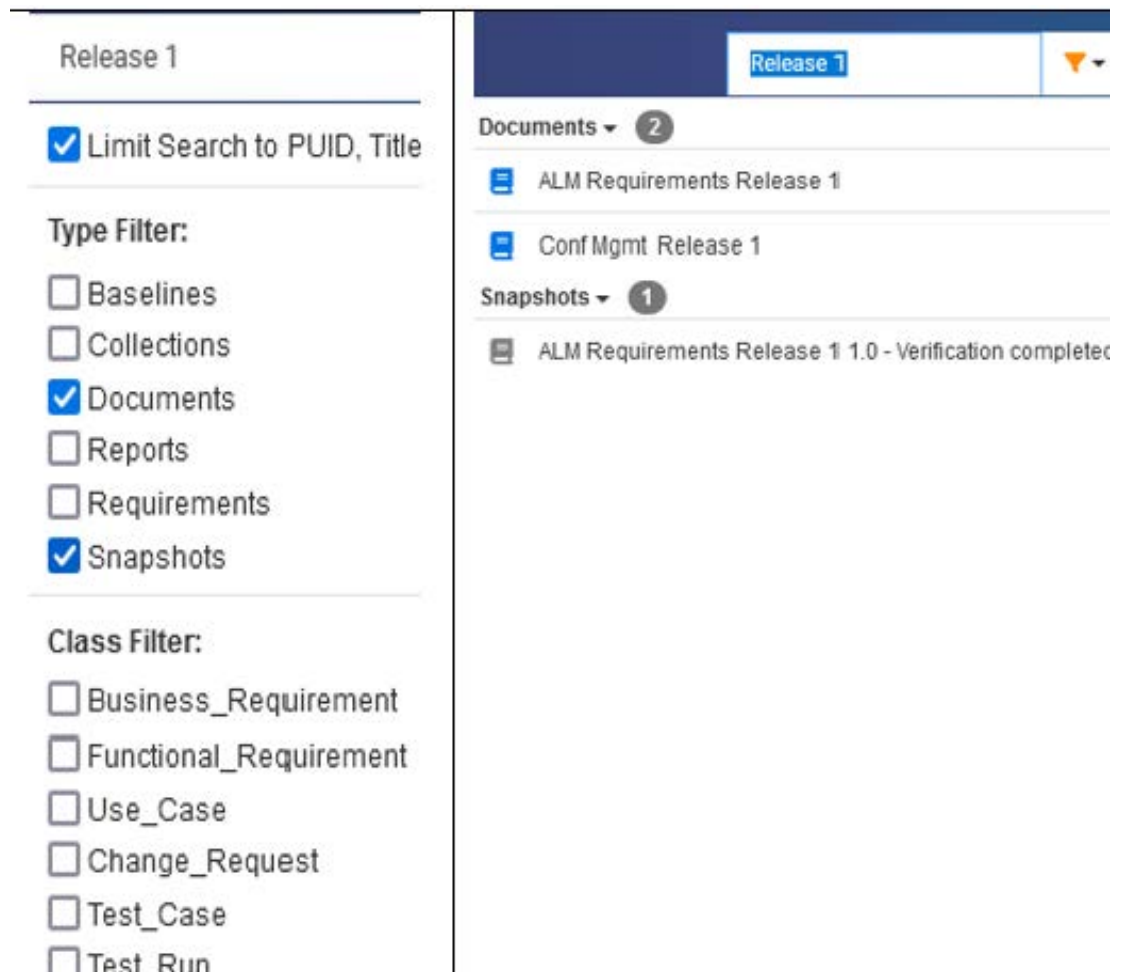


図 4-2. ドキュメントとスナップショット内で 'Release 1' をグローバル検索

## 機能の保存、更新、削除、除去

Dimensions RMでは、根本的に異なる方法で要件の変更に対処する複数のプロセスを定義できます。





これらの選択肢の違いを理解し、プロセスの各ステップで最も効果的な方法を選択することが重要です。インスタンス管理者によって割り当てられた権限によっては、すべてが表示されない場合があります。

- **保存**は、新しいバージョンを作成すると同時に、変更履歴を保持します。これにより、チームは要件の変更を時系列で追跡することができます。監査性を確保できるため、要件の変更方法としてお勧めします。
- **更新**は、要件バージョンの内容を上書きします。変更履歴は保持されません。このオプションは、要件のライフサイクル全体で使用することはお勧めできませんが、定義フェーズや、監査の対象にする必要がない誤入力の修正時には、非常に効果的です。たとえば、トレンドレポートには、トレンドを計算するために履歴情報が必要になることに注意してください。
- **削除**は、要件を削除済みとしてマークし、変更不能にします。ただし、データベースには残り、後で削除を取り消すことができます。デフォルトでは、削除された要件は表示されませんが、クエリの対象にすることはできます。
- **除去**は、要件の現行バージョンをデータベースから除去し、前バージョンを現行バージョンにします。削除と異なり、除去された要件を復元することはできません。
- **削除の取り消し**は、削除機能で削除した要件を復元します。

## ダイアログタイトルからのアクション

要件は、要件をダブルクリックするか、強調表示して [アクション] ペインの [要件] の下に表示されているアクションから [編集] を選択することで、ほぼどこからでも開いて編集することができます。

[属性の編集] ダイアログの最上部にある [タイトル] ペインでは、いくつかの一般的な機能にアクセスすることができます。

アクション	説明
	ユーザーはオブジェクトをフォロー (変更の通知を要求) したり、オブジェクトをアクティブにフォローしているユーザーを表示したりできます。
	現在のダイアログを再ロードします。再ロードすると、(警告とともに) 適用した変更は失われ、要件は元の状態に戻ります。
	[印刷] ダイアログが開きます。
	オンラインヘルプが開きます。

## [アクション] ボックスを使用した属性の編集

[アクション] ボックス (要件の編集ダイアログの右上隅にあるドロップダウンリスト) には、要件に関連する機能が表示されます。利用可能なアクションは、権限とワークフロー状態によって異なります。

以下のアクションが利用できます。

アクション	説明
リンク	[要件のリンク] ダイアログが開きます。詳細については、「 <a href="#">リンクの作成または既存要件にリンク</a> 」(210ページ)を参照してください。
新規作成してリンク	[新規作成してリンク] ダイアログが開きます。新しい要件を作成し、既存の要件にリンクできます。
リンクの参照	[リンクブラウザー] ダイアログが開きます。詳細については、「 <a href="#">リンクブラウザーの使用法</a> 」(224ページ)を参照してください。
コメントの追加	要件を[コメントの追加]モードにします。[コメント]セクションで[新しいディスカッションの開始]をクリックするのと同じです。コメントの詳細については、「 <a href="#">ディスカッションへの参加</a> 」(256ページ)を参照してください。
変更を提案	現在の要件に基づいて変更要求を作成し、要件にリンクします。変更要求の作成の詳細については、「 <a href="#">変更要求の提出</a> 」(200ページ)を参照してください。
承認/拒否	ユーザーが変更要求をレビューし、承認または拒否できるようにします。詳細については、「 <a href="#">変更要求のレビュー</a> 」(201ページ)を参照してください。
コレクションに追加	[コレクションに追加] ダイアログが開きます。現在の要件をコレクションに追加できます。コレクションの詳細については、「 <a href="#">コレクション内の要件の管理</a> 」(320ページ)を参照してください。
直接URLの作成	現在の要件へのリンクが含まれる[要件リンク]ダイアログを開きます。
内容をクリア	要件の編集可能な属性をすべてクリアします。
更新	現在のダイアログを再ロードします。新しい要件を再ロードすると、入力または選択したデータは失われます。
印刷	印刷可能なビューと[印刷]ダイアログが開き、プリンターを選択できます。
クラス情報	[クラス情報]ダイアログが開き、属性の詳細とワークフローの状態および遷移(クラスでワークフローが使用される場合)が表示されます。詳細については、「 <a href="#">クラスに関する情報の表示</a> 」(183ページ)を参照してください。
ヘルプ	オンラインヘルプが開きます。

## クラスに関する情報の表示

クラスフォームで属性を入力する場合、または関連するワークフローの遷移を検討する場合には、**クラス情報**が役に立ちます。このアクションは、開いている要件フォームから利用可能で、フォームで定義されている属性を識別し、説明を表示します。

クラス情報を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 要件を開くか、目的のクラスの新しい要件を作成します。
- 2 ウィンドウ上部の[アクション]ボックスを開き、[クラス情報]を選択します。

[クラスに関する情報]ダイアログに次の情報が表示されます。

- クラスの説明
- ワークフロー図（選択したクラスがワークフローを使用する場合）
- 状態に関する記述
- 遷移に関する記述
- 各カスタム属性に関する詳細
- システム属性に関する記述

## 要件のバージョン

要件を置換すると、新しいバージョンの要件が作成されます。これらのバージョンによって、要件を変更したユーザー、要件が変更された日時、変更内容などの要件の変更履歴を追跡することができます。また、要件の2つのバージョンを比較することも可能です。詳細については、「[要件の履歴の表示](#)」(232ページ)を参照してください。

変更のために開いた要件が、最新バージョンではないことがあります。これは、一連の変更を加える際にビューが更新されない場合によく発生します。この状態が発生すると、「[属性の編集](#)」ダイアログに警告メッセージが表示されます。この警告メッセージは5秒後に消えます。表示される「[最新バージョンの編集](#)」リンクをクリックすると、現在の（最新）バージョンが開きます。

## 選択した要件の変更の通知

現在のタスクにとって重要な要件の変更について通知を受ける場合は、通知をサブスクライブできます。この機能によって、ユーザーは選択した要件が変更された場合に、ブラウザーまたは電子メールを通じて通知を受け取ることができます。




**重要！** 生成される通知電子メールは、Open Text Mail Serviceが設定済みで稼働中の場合にのみ送信されます。Mail Serviceの詳細については、『Dimensions RM Administrator's Guide』の「RM Mail Service」を参照してください。

### 要件変更通知のサブスクライブ

変更通知をサブスクライブするには、作業ペインに表示されている目的の要件を強調表示し、「アクション」ペインで「フォロー」を選択します。

要件の編集ダイアログで変更通知をサブスクライブするには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで目的の要件を強調表示します。
- 2 「アクション」ペインの「要件」セットから「開く」を選択します。「属性の編集」ダイアログが開きます。
- 3 タイトルペインで、 をクリックします。「フォロワー」ダイアログが開き、「フォロー」（または「フォロー解除」）ボタンと、この要件をフォローすることに同意したユーザーのリストが表示されます。
- 4 「フォロー」をクリックします。


「フォロー」属性は、列を設定できる場所であればどこでも、表示対象として選択できます。「[クイック検索の設定](#)」(92ページ)を参照してください。

### 要件変更通知のサブスクライブ解除



変更通知のサブスクライブを解除するには、作業ペインに表示されている目的の要件を強調表示し、[アクション] ペインで [フォロー解除] を選択します。

要件の編集ダイアログで変更通知のサブスクライブを解除するには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで目的の要件を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットから [開く] を選択します。[属性の編集] ダイアログが開きます。
- 3 タイトルペインで、 をクリックします。[フォロワー] ダイアログが開き、この要件の通知をサブスクライブしているユーザーのリストが表示されます。
- 4 [フォロー解除] をクリックします。

## 要件のロック



**注記** 複数のユーザーが1つの要件やチャプターを同時に編集する必要がある場合、ロック機能やマージ機能を使用して複数ユーザーによる同時編集を処理するようにRM Browserを設定できます。このセクションでは、ロックメカニズムについて説明します。「要件変更のマージ」(239ページ)を参照してください。

この設定は、[インスタンス設定] ダイアログで行います。このダイアログは、管理者のみが使用できます。詳細については、「同時編集」(86ページ)を参照してください。

要件とチャプター（ドキュメント自身を示す「ルートチャプター」も含む）は、それぞれの [編集] ダイアログボックスを開くと、永続的にロックされます。要件またはチャプターがロックされると、ダイアログボックスのバナーにロックアイコンが表示され、他のユーザーはその要件またはチャプターを編集できなくなります。

ロックアイコンは、次のシナリオで表示されます。

- 現行ユーザーが要件をロックした。
- 別のユーザーが要件をロックした。
- 要件がCMロックされた。
- 要件がベースライン化された。

最後の3つのシナリオでは、ロックに関する警告メッセージが表示されます。アイコンにマウスポインターを合わせるとツールチップが現れ、要件のロックの理由が表示されます。

次のいずれかを行うと、ロックは解除されます。

- ダイアログを閉じる。
- 変更を保存する。
- [ロックの管理] ダイアログでロックを解除する（「要件のロックの管理」(420ページ)を参照）。ユーザーは、自分でロックした要件またはチャプターのロックを解除できます。Unlock権限を持つユーザーは、他のユーザーがロックした要件またはチャプターのロックも解除できます。

## ワークフロー

管理者は、各要件クラスのワークフローを定義することができます。ワークフローを使用すると、属性、状態、遷移から成る定義済みプロセスに基づいて、要件を正しいフローに沿って使用することができます。要件は、提出以降、このワークフローによって設定されたルールに従う必要があります。

[**属性の編集**] ダイアログで開かれた要件は、ワークフロー状態バッジ (以下の例では **In Analysis**) が要件タイトルの横に表示されます。ワークフロー状態バッジは、レポートにも含まれます。

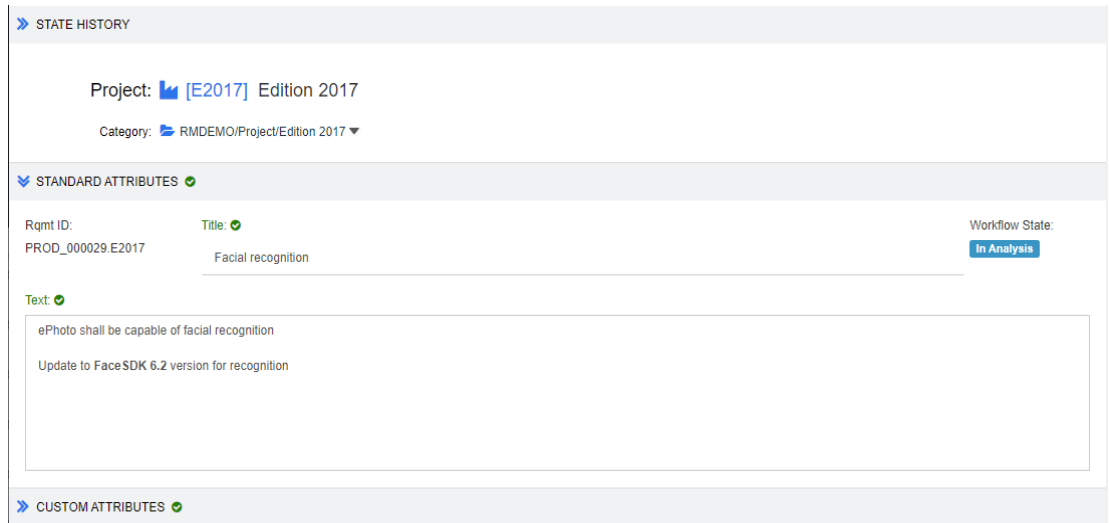


図 4-3. 要件のワークフロー状態

### ワークフローの要素

ワークフローは、状態と遷移の2要素で構成されています。

**状態:** 状態とは、ワークフロー内での要件の位置です。要件が所定の状態にある間、次の状態に遷移する前に、特定のタスク (レビュー、分析など) の実行を担当する所有者が割り当てられます。要件の過去の状態はすべて、[**状態の履歴**] に表示されます。



図 4-4. 状態の履歴

**遷移:** 遷移によって、要件はワークフローのある状態から別の状態へと移動します。たとえば、'To Analysis' 遷移によって、要件は 'Proposed' 状態から 'In Analysis' 状態に移動します。

**詳細:** [ **詳細** ] ([ **状態の履歴** ]) の各遷移エントリの下部) を選択すると、ワークフロー遷移中に適用された属性の変更を列挙したレポートが開きます。

Transition Details		
Attribute	Prior Value	New Value
Workflow State	In Text	Completed

図 4-5. [ **遷移の詳細** ] ダイアログ

[ **遷移の詳細** ] ダイアログのタイトルバーにある  (上の図を参照) をクリックすると、[ **履歴の相違** ] ダイアログが開きます。

## 要件を別のワークフロー状態に遷移

遷移は、通常の遷移またはクイック遷移として定義できます。

通常の遷移では、所有者が要件を手動でレビューしてから、次のワークフロー状態を選択する必要があります。次のワークフロー状態を選択すると、遷移が正常に完了するために入力される属性、または入力が**必要な**属性を含むダイアログ (ワークフローフォーム) が表示されます。

クイック遷移では、必須の条件がすべて満たされると、自動的に遷移が実行されます。たとえば、「提案済み」から「レビュー」への遷移にアナリストの割り当てが必要な場合、その属性が入力されると直ちに要件が自動的に遷移します。

ワークフローの要素、遷移のフォームと設定の詳細については、「[ワークフローの編集](#)」(479ページ)を参照してください。

### 電子署名を使用した要件の遷移

変更の責任者として記録された人物が、実際に変更を加えた人物であることを保証するために、電子署名を要求することができます。

電子署名が有効になっている要件を遷移させる場合、ユーザーはパスワードを入力して本人確認を行う必要があります。署名と遷移が正常に完了した要件は、遷移の [詳細] と [状態の履歴] セクションに表示されます。

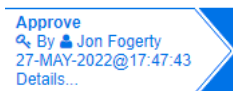


図 4-6. 状態の履歴に表示される電子署名

### 1つの要件を別のワークフロー状態に遷移

選択した要件は、次の操作によって遷移させることができます。

ドキュメント内、クイック検索、または要件のリストが表示されている任意のビューから**要件を強調表示**すると、ユーザーは [アクション] ペインの [要件] セットから [**遷移の実行**] を選択できるようになります。


開いたドキュメントで**要件のワークフローバッジ**を選択します。このバッジは、要件がグリッドビューまたは編集可能なグリッドビューに保存されている場合、可能な遷移のターゲットを選択するドロップダウンリストの項目になります。

電子署名が必要な場合のサポート: [電子署名を使用した要件の遷移](#)を参照してください。

### 複数の要件を別のワークフロー状態に遷移

[遷移の実行] を使用して1つ以上の要件を遷移するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント、コレクションから、またはクイック検索を使用して、遷移させる要件を選択します ([「クイック検索による要件の検索」](#) (174ページ) を参照)。

- 2 [アクション] ペインの [要件] セットの [遷移の実行] をクリックします。
- 3 [遷移] ボックスから目的の遷移を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。  
遷移が**クイック遷移** (フォームを表示しない遷移) の場合、**すべての条件**が満たされていると、遷移の実行が始まります。[手順7](#)に進みます。  
  
遷移が**通常の遷移**の場合、要件の属性値を編集するダイアログが表示されます。[手順5](#)に進みます。
- 5 すべての必須属性を入力するか、変更します。その他の変更も行うことができますが、複数の要件を遷移する場合、フォームに入力された値は**すべての要件**に適用されます。
- 6 [OK] をクリックして遷移の実行を開始します。
- 7 プロセスが完了すると、[遷移結果] ダイアログが開きます。遷移した要件のIDを表示するには、をクリックして結果リストを展開します。

## 要件のURLをクリップボードにコピー

要件のURLをコピーし、将来の使用や参照に備えてファイルに貼り付けることができます。後でURLを呼び出すと、RM Browserが開き、その要件が表示されます。

常に要件の最新バージョンを示すURLをコピーすることも、要件の特定バージョンを示すURLをコピーすることもできます。以下の該当するセクションを参照してください。

### 要件の最新バージョンのURLのコピー

- 1 要件を編集用を開きます。「[要件の編集](#)」(194ページ)を参照してください。
- 2 [属性の編集] ダイアログの [システム属性] セクションを展開します。
- 3 [要件リンク] とラベル付けされているURLを右クリックします。
- 4 [ショートカットのコピー] を選択します (ご使用のブラウザに応じて、同様のメニュー項目を選択します)。

URLがWindowsのクリップボードにコピーされます。URLを保管するファイルにクリップボードのURLを貼り付けます。

### 要件の特定バージョンのURLのコピー

- 1 要件を編集用を開きます。「[要件の編集](#)」(194ページ)を参照してください。

## 2 [属性の編集] ダイアログの [履歴] セクションを展開します。

LINKS			
HISTORY			
Pedigree			Properties Differences
	Time Modified	Modified By	Current Status
	18-MAY-2006@08:59:35	Ryan Forbes	Replaced (Baselined)
	30-SEP-2015@01:41:48	Ryan Forbes	Replaced
	28-JUL-2020@06:15:11	Joseph Wilson	Current

POLLS

### 3 目的のバージョンの横にあるリンク アイコンを右クリックします。

### 4 [ショートカットのコピー] を選択します (ご使用のブラウザに応じて、同様のメニュー項目を選択します)。

URLがWindowsのクリップボードにコピーされます。URLを保管するファイルにクリップボードのURLを貼り付けます。

## [階層] ビューの操作

一般的には、コレクションまたは文書を使用して、要件を構造化することができます。この方法が望ましくない場合は、[階層] ビューを使用して要件を構造化することができます。[階層] ビューは、[ホーム] ビューのカテゴリツリーで利用できます。[階層] ビューに切り替えるには、 をクリックします。

デフォルトでは、[階層] ビューには、カテゴリのすべての要件がそのカテゴリの単純なリストとして表示されます。要件をドラッグして他の要件にドロップすると、ドロップされた要件は、ドロップ先の要件の子になります。



### 注記

- ある要件を別の要件にドロップしても、2つの要件はリンクされません。
- 構造はすべてのユーザーで同じです。

[階層] ビューから要件をエクスポートするには、「[階層ビューでの要件のエクスポート](#)」(208ページ)を参照してください。

表示される列またはエクスポートされる列の変更については、「[階層の設定](#)」(93ページ)を参照してください。



1つまたは複数の要件を1つまたは複数のドキュメントに追加するには、「[階層からドキュメントへの要件の追加](#)」(147ページ)を参照してください。

## 要件の操作

厳密には、多くのオブジェクトタイプがRMを使用して格納されているため、説明の対象を要件に限定するべきではありません。オブジェクトは、変更要求やテストケース、コメント、あるいは要件の場合があります。

いずれかのオブジェクトを作成、編集、または表示する際、オブジェクトはフォームを使用して表示されます。これはデフォルトのフォームである場合もあれば、インスタンス管理者によって作成されたフォームである場合もあります。

フォームの上部には、そのオブジェクトに含まれるセクションの名前が表示されます。

ALL STANDARD  CUSTOM  SYSTEM ATTACHMENTS (3) COMMENTS (9) LINKS (2) HISTORY (5) POLLS (1) CONTAINERS (2)

セクション名 ([カスタム] など) をクリックすると、そのセクション内で管理されている属性に表示が限定されます。[すべて] を選択すると、すべてのセクションが利用可能になります。項目のリストが含まれるセクションには、以下のような含まれている項目の数が表示されます。[添付ファイル]、[コメント]、[リンク]、[履歴]、[調査]、[コンテナ]。

## 要件の新規作成

Dimensions RMのすべてのアクションには、アクションに対する権限と、オブジェクトが存在するカテゴリで作業するための権限の両方が必要です。

要件を作成する権限 (作成) を持つユーザーは、要件を作成できます。一部のインストールでは、ユーザーが要件を提案 (CreateCR) すると、承認前に、その要件はチームによってレビューされます。「[新しい要件の提案](#)」(193ページ) を参照してください。

以下では、要件の作成について説明します。このプロセスは、組織によって若干異なる場合があります。

新しい要件を作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [アクション] ペインの [要件] グループから [新規] を選択します。プロセスで変更提案を使用する場合は、[アクション] ペインから [新規要件を提案] を選択します。
- 2 **クラス:** 新しい要件が属するクラスを選択します。このリストには、ユーザーに「作成」または「提出」権限があるクラスがすべて表示されます。



### 注記

- [属性の編集] ダイアログの [リンク] セクションにある [新規作成してリンク] ボタンをクリックして [新規] ダイアログを起動した場合、クラスの選択は変更できません。
- アジャイルを使用し、新しいプロダクトを作成する場合、アジャイルの機能でプロダクトを作成することを強くお勧めします ([「アジャイルプロダクトの追加」](#) (388ページ) を参照)。アジャイルで既存のプロダクトを使用するには、「[プロダクトの手動割り当て](#)」(389ページ) を参照してください。

- 3 **カテゴリ:** 新しい要件が属するカテゴリを選択します。
- 4 **属性:** 必要に応じて、属性の各セクションのフィールドを入力します。不完全な属性や正しくない属性には、赤い感嘆符 (❗) が表示されます。緑のチェックマーク (✅) は、許容される値で

あることを示します。許容される値に関するヒントを表示するには、属性の感嘆符またはチェックマークの上にマウスポインターを合わせます。



#### 注記

- **グループ属性:** このセクションが表示される場合は、1つ以上のグループ属性を含めるように要件クラスが定義されています。「[グループ属性の操作](#)」(230ページ)を参照してください。
- **HTML形式の適用:** テキスト属性でHTML書式設定を使用できる場合、属性のフィールドをクリックしたときにテキスト書式設定ツールバーが表示されます。「[HTMLテキスト書式設定ツールバー](#)」(43ページ)を参照してください。

- 5 **添付ファイル:** 要件にファイルを添付するには、このセクションを展開し、[添付]をクリックします。[添付ファイルを追加]ダイアログが開きます。ファイルの完全パスを入力するか、[参照]をクリックしてファイルを選択して、[OK] ボタンをクリックします。
- 6 **コンテナ:** 新しい要件をコレクションに追加するには、このセクションを展開し、次のボタンのいずれかをクリックします。
  - **+ 新規コレクションを作成して追加:** 新しいコレクションを作成し、新しい要件をそのコレクションに追加します。[新規コレクション]ダイアログが開きます。「[コレクションの新規作成](#)」(321ページ)を参照してください。ただし、[ベースの選択] セクションについては、このダイアログの起動に該当しないため、無視してください。
  - **🔍 コレクションに追加:** 新しい要件を既存のコレクションに追加します。[コレクションに追加]ダイアログが開きます。目的のコレクション(複数可)を選択し、[OK] をクリックします。
- 7 **サブ要件として追加する:** ([新規] ダイアログをドキュメントから起動した場合のみ表示) ドキュメントで要件を選択してからこのダイアログを起動した場合、新しい要件を選択済み要件のサブ要件として追加するには、このチェックボックスを選択します。新しい要件を選択済み要件の親チャプターに追加する場合は、このチェックボックスの選択を解除します。ダイアログの起動時に要件が選択されていなかった場合、このチェックボックスは表示されず、新しい要件は、ドキュメントツリーで選択されていた要素に追加されます。
- 8 **保存後に閉じる:** 要件を保存した後に要件を閉じる場合は、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、保存後も要件は編集用に開いたままになります。
- 9 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - **保存:** 新しい要件を作成して[新規]ダイアログを閉じます。[保存後に閉じる]チェックボックスが選択されていない場合、要件は編集用に開いたままです。「[要件の編集](#)」(194ページ)を参照してください。
  - **保存してコピー:** 新しい要件を作成し、別の新しい要件を作成するために属性値を保持します。



**注記** 属性が次の要件にコピーされるのは、管理者が属性を定義する際に[コピー時に入力]オプションを選択している場合のみです。「[属性プロパティ](#)」(425ページ)を参照してください。

- **保存して新規作成:** 新しい要件を作成した後、別の新しい要件を作成するために属性値をクリアします。

## 要件の一括作成

Dimensions RMでは、基本要件にリンクされる要件を多数作成できます。この例としては、テストケースからのテスト実行の作成などがあります。

なお、要件の一括作成は、リンクが可能なクラスでのみ実行できます。

### クイック検索での要件の一括作成

要件を一括作成するには、次の手順を実行します。

- 1 クイック検索結果、レポート結果、またはドキュメントで、1つまたは複数の要件を選択します。要件の検索については、「[クイック検索による要件の検索](#)」(174ページ)を参照してください。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットの [新規作成してリンク] をクリックします。[「新規作成してリンク」の一括実行] ダイアログが開きます。
- 3 [新規要件を作成するクラスの選択] ボックスで、新しい要件のクラスを選択します。
- 4 [次へ >] をクリックします。
- 5 必要に応じて、[Titleのプレフィックス] ボックスでプレフィックスを指定します。プレフィックスは新しい要件のタイトル属性で使用され、要件を簡単に見つけるのに役立ちます。
- 6 必要に応じて、属性の入力やカテゴリの変更を行います。
- 7 [保存] をクリックします。要件の作成およびリンクが開始されます。処理が完了すると、[作成済み] ダイアログが開きます。このダイアログには、元の要件と作成された要件を含む表が表示されます。要件のIDをクリックすると、要件を編集用に開くことができます（「[要件の編集](#)」(194ページ)を参照）。
- 8 [閉じる] をクリックします。

### コレクションの要件の一括作成

要件を一括作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [コレクション] タブでコレクションを選択します。[ホーム] ビューについては、「[\[ホーム\] ビューの操作](#)」(263ページ)を参照してください。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットの [新規作成してリンク] をクリックします。[「新規作成してリンク」の一括実行] ダイアログが開きます。
- 3 [基底クラス] ボックスで、作成してリンクした要件を受け取るクラスを選択します。
- 4 [新規要件を作成するクラスの選択] ボックスで、新しい要件のクラスを選択します。
- 5 [次へ >] をクリックします。
- 6 必要に応じて、[Titleのプレフィックス] ボックスでプレフィックスを指定します。プレフィックスは新しい要件のタイトル属性で使用され、要件を簡単に見つけるのに役立ちます。
- 7 必要に応じて、属性の入力やカテゴリの変更を行います。



- 8 デフォルトでは、[コレクションに追加 <コレクション名>] ボックスが選択されます。このボックスが選択されている場合、新しい要件は元のコレクションに追加されます。このボックスが選択されていない場合、新しい要件はどのコレクションにも追加されません。
- 9 [保存] をクリックします。要件の作成およびリンクが開始されます。処理が完了すると、[作成済み] ダイアログが開きます。このダイアログには、元の要件と作成された要件を含む表が表示されます。要件のIDをクリックすると、要件を編集用に開くことができます（「要件の編集」(194 ページ) を参照）。
- 10 [閉じる] をクリックします。

## 新しい要件の提案

変更要求の提出権限 (CRの作成) がある場合、新しい要件を提案できます。新しい要件の作成権限がない場合でも同様です。提案の際、新しい要件に使用する属性を指定することができます。

新しい要件を提案するには、次の手順を実行します。

- 1 次のいずれかを実行します。
  - [アクション] ペインの [要件] セットから [新規要件を提案] を選択します。[新規要件の提案] ダイアログが開きます。次に、[クラス] ボックスから、新しい要件が属するクラスを選択します。このリストには、ユーザーに作成または提出権限があるクラスがすべて表示されます。
- 2 カテゴリ: 新しい要件が属するカテゴリを選択します。
- 3 属性: 必要に応じて、属性の各セクションのフィールドを入力します。不完全な属性や正しくない属性には、赤い感嘆符 (❗) が表示されます。緑のチェックマーク (✔) は、許容される値であることを示します。許容される値に関するヒントを表示するには、属性の感嘆符またはチェックマークの上にマウスポインターを合わせます。



**注記** ダイアログの起動時に要件が選択されていた場合または要件が開いていた場合は、クラスが選択された状態でダイアログが開きます。

- メニューバーの [新規] メニューから、変更要求を作成するクラスを選択します。新しい要件を作成するためのダイアログが開きます。次に、[アクション] ドロップダウンリストから [新規要件を提案] を選択します。
- 4 添付ファイル: 要件にファイルを添付するには、このセクションを展開し、[添付] をクリックします。[添付ファイルを追加] ダイアログが開きます。ファイルの完全パスを入力するか、[参照] をクリックしてファイルを選択して、[OK] ボタンをクリックします。
  - 5 変更理由: 新しい要件を作成する理由を入力します。



### 注記

- **グループ属性:** このセクションが表示される場合は、1つ以上のグループ属性を含めるように要件クラスが定義されています。「グループ属性の操作」(230ページ) を参照してください。
- **HTML形式の適用:** テキスト属性でHTML書式設定を使用できる場合、属性のフィールドをクリックしたときにテキスト書式設定ツールバーが表示されます。「HTMLテキスト書式設定ツールバー」(43ページ) を参照してください。

- 6 **ECP:** 新しい要件をECPクラスオブジェクトにリンクする場合は、リストから目的のECPを選択します。ECPが定義されていない場合、リストは表示されません。



**注記** ECPは上位の変更管理クラスタイプ (Engineering Change Proposal) で、複数の変更要求を1つのパッケージにまとめるのに使用できます。

- 7 **ドキュメントに変更要求を追加する:** ドキュメントの作業ページからダイアログを起動した場合、変更要求をそのドキュメントに追加するオプションがあります。
- 8 **保存後に閉じる:** 変更要求を保存した後に変更要求を閉じる場合は、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、保存後も要件は編集用に開いたままになります。
- 9 次のいずれかのボタンをクリックします。
- **提出:** 変更要求を提出し、ダイアログを閉じます。
  - **提出して次をロード:** 変更要求を提出した後、別の変更要求を提出できるようにダイアログを開いたままにします。



**注記** 新しい提案を作成するとき、リンクとコレクションは元の要件から継承されます。詳細については、「[継承されたリンク](#)」(223ページ)と「[コンテナのプロパティ](#)」(228ページ)を参照してください。

## 要件の編集



### ヒント

- RM内のどの場所でも、右側に [アクション] ペインまたはパネルが表示されます。このリストから、その場所に関連する機能にアクセスできます。
- クラスに関連するすべてのダイアログの右上には、追加のアクションのセットが表示されます。詳細については、「[\[アクション\] ボックスを使用した属性の編集](#)」(182ページ)を参照してください。

要件、テストケース、用語集、情報オブジェクトなど、RMで管理されている各オブジェクトは、[アクション] ペインの [開く] アクションを使用して、選択して開くことができます。

ダイアログは属性グループごとにセグメント化されており、セグメントのタイトルはインスタンス管理者によって変更できます。各セグメント名は、フォームの上部に一覧表示され、簡単に選択して展開できます。

新しいオブジェクトを開くと、最後に選択したセグメントが展開されます。

**すべて** - このセグメントを選択すると、すべてのセグメントが使用可能になります。

一般的なセクション名には次のようなものがあります。

**状態の履歴** - ワークフローを使用する場合、進行状況を表示

**標準またはメイン** - タイトル、説明、要件ID、カテゴリを表示

**カスタム属性またはユーザー属性** - 優先度、ターゲットリリース、推定作業量、デザインステータス、レビュー担当者など、クラスに関連すると組織が判断したプロパティ。

**システム属性** - RM内で定義、管理される暗黙の属性。要件の作成者や変更者、追加または変更された要件、その時刻などを管理します。

**コンテンツ数を含むセグメント** - 残りのセグメントには、添付ファイル、コメント、リンク、履歴、コンテナーがリストされます。これらのセグメントには、入力されたエントリの数が表示されます。

要件を編集するには、次の手順を実行します。

- 1 変更するセクションを選択または展開します。
- 2 **カテゴリ**: デフォルトでは一番上にリストされており、[すべて] を選択するとアクセスできます。別のカテゴリに要件を保存するには、元のカテゴリの横の矢印をクリックします。
- 3 **属性**: 必要に応じて、属性の各セクションを更新します。

不完全な属性や正しくない**必須属性**には、赤い感嘆符 (❗) が表示されます。緑色のチェックマーク (✅) は、属性が正しく入力されていることを示しています。

属性の感嘆符またはチェックマークの上にマウスポインターを合わせると、期待値または許容値に関するヒントが表示される場合があります。

**リスト属性**: リスト内のエントリがグレー表示されている場合、このエントリは削除済みであり、選択できませんが、検索では引き続き使用できます。

**グループ属性**: このセクションが表示される場合は、1つ以上のグループ属性を含めるように要件クラスが定義されています。「[グループ属性の操作](#)」(230ページ) を参照してください。

**ユーザー属性**: ユーザー属性としてユーザー名がリンクで表示されている場合、リンクをクリックすると、ポップアップウィンドウが開き、ユーザー情報 (例: フルネーム、メールアドレス、電話番号) が表示されます。なお、ユーザー作成時に入力されたデータのみが表示されます。ユーザー属性としてグループ名が表示される場合、ポップアップにはグループのユーザーが表示されます。

**HTML形式の適用**: テキスト属性でHTML書式設定を使用できる場合、属性のフィールドをクリックしたときにテキスト書式設定ツールバーが表示されます。「[HTMLテキスト書式設定ツールバー](#)」(43ページ) を参照してください。
- 4 **添付ファイル**: 要件にファイルを添付する場合、または要件からファイルを除去する場合、このセクションを展開します。「[ファイル添付の操作](#)」(229ページ) を参照してください。
- 5 **コメント**: 要件に関連するコメントを表示する場合、またはディスカッションに参加するか、ディスカッションを開始する場合、このセクションを展開します。「[ディスカッションへの参加](#)」(256ページ) を参照してください。
- 6 **コンテナー**: コレクションまたはドキュメントに要件を追加する場合、または、コレクションまたはドキュメントから要件を除去する場合、[コンテナー] セクションを展開します。「[\[コンテナー\] セクション](#)」(226ページ) を参照してください。
- 7 **リンク**: リンクセクションは展開して、要件に関連するクラス、既存のリンクを表示したり、リンクを追加または削除したりすることができます。要検討リンクを表示することもできます。「[リンクの操作](#)」(208ページ) を参照してください。
- 8 **Dimensions CM**: 実装がDimensions CMと統合されている場合、このセクションには、要件に関連付けられているDimensions CMのプロジェクトと要求が表示されます。

- 9 履歴:** 要件の変更日時、変更者、要件のステータスなどの情報を表示します。
- 10 調査:** 要件に関する調査の作成、既存の調査の変更、調査への投票、調査結果の表示を行うには、このセクションを展開します。「[調査](#)」(252ページ)を参照してください。
- 11 リンク属性:** [リンク属性] セクションは、新しい要件または変更要求を作成し、それを要件にリンクする場合にのみ表示されます。詳細については、「[リンク属性の編集](#)」(218ページ)を参照してください。
- 12 ナビゲーションバーの表示 / ナビゲーションバーの非表示:** クリックすると、ダイアログの下部にあるナビゲーションバーの表示/非表示が切り替わります。[最初]、[前へ]、[次へ]、および[最後] コントロールを使用すると、要件を順番に参照することができます。
- 13 保存後に閉じる:** 要件を保存した後に要件を閉じる場合は、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、保存後も要件は編集用に開いたままになります。ナビゲーションバーが表示されている場合、[保存後に閉じる] は使用できません。
- 14 変更済み要件の下部に表示されるクリック可能なボタンは、プロセスと権限によって異なります。以下のボタンが利用できます。**

**コピー** - 同じクラスの新しいオブジェクトを作成します。ただし、[コピー時に入力] が指定されている属性が、そのクラスに事前に設定されている場合に限りです。「[要件のコピー](#)」(197ページ)を参照してください。

**リンク付きコピー** - 上記と同様のアクションですが、コピーには現在のすべてのリンクが含まれます。

**閉じる** - ダイアログを閉じます。保存していない変更がある場合、警告が表示されます。



**注記** 保存していない変更がある場合のみ、[更新] と [保存] がクリックできます。開いている要件から追加されたリンクは直ちに保存されます。

**更新** - 要件の新しいバージョンを作成せずに、変更を保存します。(要件の変更の履歴や監査証跡が必要な場合は、このオプションを使用しないことをお勧めします。)

**更新して次へ:** 上記と同様ですが、ダイアログは開いたままになり、次の要件がロードされます。ナビゲーションバーが表示されている場合は、このバージョンのボタンが表示されます。

**保存** - 変更内容を要件の新しいバージョンとして保存します。設定によっては、要件を置き換えると、[要検討をクリア] ダイアログがトリガーされる場合があります。「[要件の置換時での要検討リンクのクリア](#)」(221ページ)を参照。

**保存して次へ:** 上記と同様ですが、ダイアログは開いたままになり、次の要件がロードされます。ナビゲーションバーが表示されている場合は、このバージョンのボタンが表示されます。



#### ヒント

一部の属性は、編集可能なグリッドビューで直接編集することができます。このビューでは、複数の要件に対して属性を一度に編集することができます。「[編集可能なグリッド、グリッド、およびフォームビュー](#)」(35ページ)を参照してください。

## 要件のコピー

要件のグループを作成する場合、属性が共通していることがよくあります。タイトルと説明が類似していることもあるかもしれません。そのような場合、[コピー]アクションを使用すると便利です。変更された要件を保存する場合は、[保存してコピー]を使用します。



**注記** [コピー] または [保存してコピー] を使用すると、設定時に選択した属性のみが新しい要件にコピーされます。「[属性プロパティ](#)」(425 ページ) を参照してください。

コピー機能は、ほぼすべてのビューやコンテキストの [アクション] ペインから選択できます。任意のクラスのオブジェクトをコピーでき、以下のオプションがあります。

**リンク付きコピー** - 新しく作成されたオブジェクトに、ソースからのすべてのリンクを含めるためのチェックボックス。これは、同じアップストリーム要件から取得した類似の機能要件などをコピーする場合に最適です。

**コンテナ付きコピー** - 新しく作成されたオブジェクトを、ソースがメンバーであるコレクションおよびドキュメントに含めるためのチェックボックス。

**コレクション** - 新しく作成されたオブジェクトを、ソースがメンバーであるコレクションに含めるためのチェックボックス。

**ドキュメント** - 新しく作成されたオブジェクトを、ソースがメンバーであるドキュメントに含めるためのチェックボックス。

新しく作成された要件やテストケースを、たとえばリリースに関連付けられたすべてのオブジェクトが含まれるドキュメントに自動的に含めることで、新しいものが確実に追加されるようにすることができます。

## 展開機能の使用方法

[展開] を使用すると、要件を「分岐」できます。元の要件をロックしたまま、1つ以上の新しい要件を作成し、元の要件にリンクできます。この履歴は、ロックされた親も含め、[系図ビュー] に表示されます (「[系図ビューの使用方法](#)」(237 ページ) を参照)。

要件を展開するには、次の手順を実行します。

- 1 [要件] ビューで、最新または展開済みのオブジェクトステータスを持つ要件を1つ以上選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットの [展開] をクリックします。  
[新規クラス名] ダイアログが開きます。
- 3 必要に応じて内容を変更します。
- 4 [保存] をクリックします。



**注記** 要件を展開すると、元の要件のオブジェクトステータスは展開済みに設定されます。新しい要件のオブジェクトステータスは最新です。

## 要件の削除

要件を削除すると、要件に削除済みのマークが付きますが、データは保持されます。要件のクラスの「削除」権限がある場合は、「最新」の状態を持つ要件を削除できます。要件を削除すると、要件の削除の監査証跡がすべて保持されるように、新しいバージョンが作成されます。

要件を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで1つまたは複数の要件を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットから [削除] を選択します。
- 3 [OK] をクリックして操作を確認します。

## 要件の削除の取り消し

要件を削除すると、要件に削除済みのマークが付きますが、データとオブジェクト履歴は保持されます。要件の削除を取り消すと、監査証跡に要件の削除が確実に含まれるように、前バージョンが新しいバージョンに置き換えられます。

要件の削除を取り消すには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで1つまたは複数の要件を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットから [削除の取り消し] を選択します。
- 3 [OK] をクリックして操作を確認します。

## 要件のバージョンの除去

要件を除去すると、選択したバージョンはインスタンスから完全に除去され、前バージョンが現行バージョンになります。要件のクラスの「除去」権限がある場合は、「最新」の状態を持つ要件を除去できます。



**注意!** 除去操作は取り消すことができません。除去操作が推奨されるのは、誤って要件を作成した場合のみです。

要件を除去するには、次の手順を実行します。


- 1 作業ペインで1つまたは複数の要件を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットから [除去] を選択します。
- 3 **すべてのバージョンを含める:** このオプションを選択すると、要件のすべてのバージョンが除去されます。1つまたは複数のバージョンがベースラインまたはスナップショットに含まれている場合、すべてのバージョンを除去できるわけではないことに注意してください。
- 4 [OK] をクリックして操作を確認します。

## 要件の印刷

[属性の編集] ダイアログボックスで要件を印刷できます。

要件を印刷するには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで目的の要件を選択した後に、[アクション] ペインの [要件] セットから [開く] を選択します。
- 2 セクションとサブセクションの内容を印刷するには、それらを展開する必要があります。

- 3 ダイアログボックスの右上の [印刷] ボタン  をクリックします。印刷用に内容が書式設定されたウィンドウが開きます。このウィンドウに表示されるRMのコントロールは機能しません。
- 4 お使いのシステムの印刷ダイアログが表示されます。[印刷] をクリックします。要件がプリンターに送信されます。
- 5 印刷が済んだら、書式設定された内容を表示したウィンドウを閉じます。

## 要件のクラスの変更

誤ったクラスで要件を作成したなどの理由で、要件のクラスを変更しなければならない場合があります。クラス変更機能を使用すると、クラスの変更を簡単に行うことができ、変更は要件の履歴に表示されます。これは、監査証跡のために重要です。

要件のクラスを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 クイック検索結果、レポート結果、またはドキュメントで、1つまたは複数の要件を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットの [クラスの変更] をクリックします。[クラスの変更] ダイアログが開きます。
- 3 [新規クラス] ボックスから、要件の変換後のクラスを選択します。複数の要件を選択した場合、すべての要件が選択したクラスに変換されます。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 必要に応じて、属性の入力やカテゴリの変更を行います。
- 6 [保存] をクリックします。[変更されました] ダイアログが開き、変更された要件の概要が示されます。要件の左のIDリンク (名前は元のクラスによって異なる) をクリックすると、元のバージョンが開きます。[新規ID] リンクをクリックすると、要件の現在のバージョンが編集用が開きます。要件の編集の詳細については、「[要件の編集](#)」(194ページ) を参照してください。
- 7 [閉じる] をクリックします。




### 注記

- 該当するTitle属性とText属性 (名前は関連するクラスによって異なる) は、自動的に移行されます。
- ターゲットクラスでワークフロー機能が有効な場合、クラスの変換後、要件は必ず [新規] 遷移の後の状態になります。
- Dimensions RM構成によっては、リンクされた要件が要検討になる場合があります。

## カテゴリ、ドキュメント、レポート、コレクション、ベースラインに含まれる要件の表示

特定の項目に含まれる要件のリストを表示するには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。

- 2 要件を表示するために、項目に応じて、次の操作を行います。
  - **カテゴリまたはサブカテゴリ**：[カテゴリ] ペインから目的のカテゴリを選択します。次に、[アクション] ペインの [カテゴリ] セットの **[要件の表示]** をクリックします。
  - **ドキュメントまたはスナップショット**：選択ペインの [ドキュメント] タブで、目的のドキュメントまたはスナップショットをダブルクリックします。
  - **レポート**：選択ペインの [レポート] タブで、目的のレポートをダブルクリックします。
  - **コレクション**：選択ペインの [コレクション] タブで、目的のコレクションをダブルクリックします。
  - **ベースライン**：選択ペインの [ベースライン] タブで、目的のベースラインをダブルクリックします。

## 変更要求の提出

Dimensions RM内の変更要求は、選択した要件に変更を適用するための提案を参照します。

要件管理プロセスは組織によって異なり、組織内のグループがプロセスの変更を決定する場合もあります。要件変更の機能は、変更承認に使用されるワークフローのレビューサイクルを持つ標準プロセスである場合があります。多くの組織では、ユーザーには要件を変更する権限はなく、変更を提案することしかできません。提案された変更のレビューと承認はチームリーダーに委ねられています。

変更要求を提出するには、クラスの「CRの作成」権限が必要です。



**注記** 要件の新規作成を提案する変更要求を提出するには、「[新しい要件の提案](#)」(193ページ)を参照してください。

要件の変更要求を提出するには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで目的の要件を選択した後に、[アクション] ペインの [要件] セットから **[変更を提案]** を選択します。[**変更の提案**] ダイアログが開きます。
- 2 必要に応じて、属性セクションの属性を変更します。変更には、 マークが付きます。
- 3 **[変更理由]** ボックスに、変更要求の理由を入力します。文字数に制限はありません。**[変更理由]** フィールドでは、HTML編集コントロールは使用できません。
- 4 変更要求をEngineering Change Proposal (ECP) クラスオブジェクトにリンクする場合は、**[ECP]** リストからオブジェクトを選択します。ECPが定義されていない場合、**[ECP]** リストボックスは表示されません。
- 5 **ドキュメント内で交換**：ドキュメントから要求を提出した場合、このチェックボックスを選択すると、ドキュメント内のバージョンを新しいバージョンに置き換えることができます。
- 6 **保存後に閉じる**：変更要求を保存した後に変更要求を閉じる場合は、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、保存後も変更要求は編集用に開いたままになります。ナビゲーションバーが表示されている場合、**[保存後に閉じる]** は使用できません。
- 7 次のいずれかを実行します。



- [提出] をクリックして変更要求を提出します。[保存後に閉じる] チェックボックスが選択されていない場合、変更要求は編集用に開いたままになります。
- [提出して次をロード] をクリックします。変更要求が提出された後、クエリ結果の次の要件がロードされます。



#### 注記

- ボタンのラベルは、ナビゲーションバーの表示/非表示によって変わります。表示されている場合は、[提出して次をロード] が表示されます。非表示の場合は、[提出] が表示されます。
- [新規変更要求] ダイアログボックスでも、新しい要件の変更要求を提出できます。詳細については、「[新しい要件の提案](#) (193ページ) を参照してください。

- 8 ダイアログボックス下部のナビゲーションバーを使用すると、表示されている要件の生成元クエリから生成された別の要件に移動することができます。ナビゲーションバーを非表示にするには、[ナビゲーションバーの非表示] をクリックします。ナビゲーションバーを表示するには、[ナビゲーションバーの表示] バーをクリックします。クエリ結果に要件が1つしか含まれない場合、ナビゲーションバーは表示されません。ナビゲーションバーには、要件リストの生成元であるエンティティの名前が表示されます。これらのエンティティには、スクリプト名、**クイック検索**、および**クエリ結果**が含まれます。
- 9 要件の生成元クエリから生成された次の要件または前の要件に移動するには、次 ▶ または前 ◀ ボタンをクリックします。最初または最後の要件に移動するには、最初 ◀ または最後 ▶ ボタンをクリックします。



**注記** 変更要求を提出するとき、リンクとコンテナは継承されます。詳細については、「[継承されたリンク](#) (223ページ) と「[コンテナのプロパティ](#) (228ページ) を参照してください。

## 変更要求のレビュー

変更要求が承認されると、現行バージョンの要件は、変更後の要件に置き換えられます。その要件に対して複数の変更要求がある場合、レビューされていない要求のリンクは維持されます。

提案された変更は、拒否または承認のどちらの場合も、要件履歴に残ります。

要件に対して提出された変更要求をレビューするには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで目的の要件を強調表示してから、[アクション] ペインの [要件] セットから [承認 / 拒否] を選択するか、または要件を編集のために開いて [アクション] ドロップダウンから [承認 / 拒否] を選択します。どちらの場合も、[提案の承認 / 拒否] ダイアログが開きます。
- 2 要件に対する保留中の変更要求のリストが左ペインに表示されます。変更要求を選択して、詳細を表示します。  
提案済みの変更内容と現行バージョンの相違が、テキスト内でマーキングされます。
- 3 必要に応じて、変更の承認または拒否の理由を入力します。

- 4 変更要求を承認する場合は [承認] を、拒否する場合は [拒否] をクリックします。どちらの場合も、要求提出時に入力した変更理由は保持されます。





**注記** 要件が存在するドキュメントでECPコントロールが有効になっていても、ユーザーがそのドキュメントにECPを割り当てておらず、かつ [最新バージョンに更新 (チップ)] が有効な場合、このアクションは停止します。[承認] ボタンをクリックすると、メッセージが表示されます。「ドキュメントの変更のマージ」(136ページ) を参照してください。

- 5 以前拒否した変更要求を承認するには、次の手順を実行します。
- a ダイアログボックスの左上隅にある [以前拒否した要求を表示] リンクをクリックします。
  - b 拒否済みの変更要求を選択します。
  - c 拒否済みの変更要求を承認する権限がある場合は、[承認] ボタンが有効になります。[承認] ボタンをクリックします。
  - d [閉じる] をクリックします。

## 要件のエクスポート

RM内で管理されるすべての要素はエクスポート可能であり、選択された出力フォーマットに応じて、エクスポートのプロセスは類似しています。以下に、独自のフォーマットとオプションをいくつか示します。

- ドキュメントとスナップショットには、独自の出力フォーマットとオプションがあります。詳細については、「ドキュメントのエクスポート」(165ページ) を参照してください。
- ダッシュボードは、PowerPointまたはPDFにエクスポートできます (「ダッシュボードのエクスポート」(273ページ) を参照)。
- [階層] ビューから要件をエクスポートするには、「階層ビューでの要件のエクスポート」(208ページ) を参照してください。

- 1 レポートをエクスポートするには、次の手順を実行します。
  - a  をクリックして [ホーム] ビューを開き、[レポート] タブからレポートを選択します。
  - b [アクション] ペインの [レポート] セットから [実行] を選択します。
  - c [アクション] ペインの [レポート] セットの [エクスポート] をクリックします。
  - d [形式を指定してエクスポート] ボックスで、目的の形式を選択します。
  - e 手順3に進みます。
- 2 コレクションまたはベースラインをエクスポートするには、次の手順を実行します。
  - a  をクリックして [ホーム] ビューを開き、それぞれのタブからコレクションまたはベースラインを選択します。
  - b [アクション] ペインの [コレクション] または [ベースライン] セットの [エクスポート] をクリックします。
  - c [形式を指定してエクスポート] ボックスで、目的の形式を選択します。
- 3 フォーマットに応じて、以下のように進めます。

- **Excelスプレッドシート**としてエクスポートするには、「[Microsoft Excelスプレッドシートとしてエクスポート](#)」(203 ページ) を参照してください。
- **Wordドキュメント**としてエクスポートするには、「[Microsoft Wordドキュメントとしてエクスポート](#)」(203 ページ) を参照してください。
- **PDFドキュメント**としてエクスポートするには、「[Adobe PDFドキュメントとしてエクスポート](#)」(204 ページ) を参照してください。
- **XMLドキュメント**としてエクスポートするには、「[XMLドキュメントとしてエクスポート](#)」(204 ページ) を参照してください。
- **Webページ**としてエクスポートするには、「[Webページとしてエクスポート](#)」(207 ページ) を参照してください。
- **CSV (カンマ区切り)**としてエクスポートするには、「[CSVファイルとしてエクスポート](#)」(207 ページ) を参照してください。
- **プレーンテキストまたはプレーンテキスト (テーブル)**としてエクスポートするには、「[プレーンテキストまたはプレーンテキストのテーブルファイルとしてエクスポート](#)」(207 ページ) を参照してください。

## Microsoft Excelスプレッドシートとしてエクスポート

[Excelスプレッドシート (\*.xlsx)] を選択した後、任意の要件セットをエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 次のいずれかのオプションを選択します。
  - a **画像を含める**: 選択すると、画像がExcelファイルにエクスポートされます。画像の多くはセルにエクスポートできません。選択した画像をセルに貼り付けることができない場合、RMでもその画像はエクスポートできません。  
画像を含むオブジェクトは、Microsoft Wordを使用してドキュメントの一部としてエクスポートすることをお勧めします。
  - b **テーブルを含める**: 選択すると、要件がExcelの複数の行にまたがる場合があります。選択しないと、キャプションが含まれます。キャプションがない場合は、「表」と表の最初のエントリが含まれます。
  - c **スクリプトを含める**: 選択すると、要件のクエリに使用されるスクリプトがExcelスプレッドシートに含まれます。
- 2 [エクスポート] をクリックします。

## Microsoft Wordドキュメントとしてエクスポート

### サーバー上のWord:

DOCXまたはPDFファイルを生成するには、Dimensions RM ServerにMicrosoft Wordが必要です。サーバーにWordがインストールされていない場合は、.docファイルが作成されます。.docファイルを開く際に、ファイルが.doc以外の形式であることを知らせるメッセージが表示される場合があります。このダイアログボックスで [はい] をクリックすると、ファイルをWordで問題なく開くことができます。

.docファイルが作成される場合、目次のリンク先がすべて1ページ目になります。目次の項目の数字を修正するには、目次を右クリックし、コンテキストメニューで [更新] を選択します。

[Wordドキュメント (\*.docx)] を選択した後、任意の要件セットをエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 ページの向きを選択します。
  - a 縦 (既定値)
  - b 横
- 2 [エクスポート] をクリックします。

## Adobe PDF ドキュメントとしてエクスポート

### サーバー上のWord:

PDFファイルを生成するには、Dimensions RM ServerにMicrosoft Wordが必要です。

docx4j Javaライブラリからの機能は、ベータ版とみなされてはいますが、企業のサーバーにMicrosoft Officeをインストールできない顧客をサポートするためにDimensions RMに含まれています。この機能を使用すると、[ドキュメントビュー] から要件をエクスポートできます。「[ドキュメントのエクスポート](#)」(165ページ)を参照してください。

**[PDFドキュメント]** を選択した後、**任意の要件セットをエクスポート**するには、次の手順を実行します。

- 1 ページの向きを選択します。
  - a 縦 (既定値)
  - b 横
- 2 **[エクスポート]** をクリックします。

## XML ドキュメントとしてエクスポート

**[PDFドキュメント]** を選択した後、**任意の要件セットをエクスポート**するには、次の手順を実行します。

- 1 **エンコード**: 画像と書式設定 (テキストの色、テキストの配置など) を含めるには、ボックスをチェックします。
- 2 **[エクスポート]** をクリックします。

### エクスポートされるXML ドキュメントについて

このセクションでは、要件をエクスポートすることによって作成されるXMLドキュメントの例を抜粋して示します。さらに、抜粋部分の各要素について表で説明します。

```

1 - <?xml version="1.0" encoding="iso-8859-1" ?>
2 - <REPORT name="Baseline Check" project="SPRINT5" user="EPHOTO"
3 -   xmlns="http://schemas.serena.com/rm/2005">
4 - <SUBREPORT>
5 - <LAYOUT>
6 -   <COLUMN name="PUID" attrId="26" classId="1">PUID</COLUMN>
7 -   <COLUMN name="TEXT" attrId="31" classId="1">Baseline 1</COLUMN>
8 -   <COLUMN name="PUID" attrId="26" classId="1">PUID</COLUMN>
9 -   <COLUMN name="TEXT" attrId="31" classId="1">Baseline 2
10 -     Modifications</COLUMN>
11 - </LAYOUT>
12 - <SCHEMA>
13 -   <CLASS name="MARKETING_REQUIREMENTS" id="1">
14 -     <ATTRIBUTE name="PUID" id="26" type="puid" mandatory="false" editable="false"
15 -       unique="false" visible="true">
16 -       <FORMAT>MRKT_<#></FORMAT>
17 -       <DISPLAYNAME>Rqmt ID</DISPLAYNAME>
18 -     </ATTRIBUTE>
19 -     <ATTRIBUTE name="TEXT" id="31" type="text" mandatory="true" editable="true"
20 -       unique="false" visible="true">
21 -       <DEFAULTVALUE>Dummy Text</DEFAULTVALUE>
22 -       <DISPLAYNAME>Text</DISPLAYNAME>
23 -     </ATTRIBUTE>
24 -   </CLASS>
25 - </SCHEMA>
26 - <requirement class="MARKETING_REQUIREMENTS" id="1" version="1"
27 -   puid="MRKT_000001">
28 -   <attribute id="PUID">MRKT_000001</attribute>
29 -   <attribute id="TEXT">
30 -     This system shall enable the user to browse an on-line photo album. It
31 -     shall look and feel just like an electronic photo album.
32 -   </attribute>
33 - </requirement>
34 - <LINK name="Marketing_Requirements_CHANGE">
35 - </LINK>
36 - <requirement class="MARKETING_REQUIREMENTS" id="8" version="1"
37 -   puid="MRKT_000001">
38 -   <attribute id="PUID">MRKT_000001</attribute>

```

```

39 -   <attribute id="TEXT">
40 -     shall look and feel just like an electronic photo album.
41 -   </attribute>
42 - </requirement>
43 - <LINK name="Marketing_Requirements_CHANGE">
44 - </LINK>
45 - <requirement class="MARKETING_REQUIREMENTS" id="8" version="1"
46 -   puid="MRKT_000001">
47 -   <attribute id="PUID">MRKT_000001</attribute>
48 -   <attribute id="TEXT">
49 -     The ePhoto system shall enable the user to browse an on-line photo
50 -     album. It shall look and feel just like an electronic photo album, just
51 -     like the one on the coffee table.
52 -   </attribute>
53 - </requirement>
54 - <LINK name="Marketing_Requirements_CHANGE">
55 - </LINK>
56 - <requirement class="MARKETING_REQUIREMENTS" id="42" version="1"
57 -   puid="MRKT_000001">
58 -   <attribute id="PUID">MRKT_000001</attribute>
59 -   <attribute id="TEXT">
60 -     The ePhoto system shall enable the user to browse an on-line photo
61 -     album. It shall look and feel just like an electronic photo album, just
62 -     like the one on the coffee table.
63 -   </attribute>
64 - </requirement>
65 - <LINK name="Marketing_Requirements_CHANGE">
66 - </LINK>
67 - <requirement class="MARKETING_REQUIREMENTS" id="2" version="1"
68 -   puid="MRKT_000002">
69 -   <attribute id="PUID">MRKT_000002</attribute>

```

```

</attribute>
</requirement>
</SUBREPORT>
<SCRIPT>
- <![CDATA[
select <PUID>PUID <Baseline 1>TEXT from Marketing_Requirements where
group in ('Baseline 1') and STATUS != 'Deleted'

xref source secondary_history

select <PUID>PUID <Baseline 2 Modifications>TEXT from
Marketing_Requirements where group in ('Baseline 2')

plus

select <PUID>PUID <Baseline 2 Additions>TEXT from
Marketing_Requirements where group in ('Baseline 2') and group not
in ('Baseline 1') and NOT_SECONDARY_IN immediate

plus

select <PUID>PUID <Baseline 1 Deletions>TEXT from
Marketing_Requirements where group in ('Baseline 1') and
STATUS='Deleted'
]]>
</SCRIPT>
</REPORT>

```

上記の抜粋の各要素について、次の表で説明します。用語の定義を示します。

- タグとは、< > かつこで囲まれた文字列です。
- 属性とは、タグ内の「名前=値」の部分です。
- 内容とは、開きタグと閉じタグの間にあるプレーンテキストです。

キー	説明
①	<REPORT> は、このXMLドキュメントのルートタグです。クエリ名、インスタンス名、およびクエリを実行したユーザーに対する属性があります。
②	クエリでは、複数のスクリプトを1つに結合するために、PLUSステートメントを使用できます。作成されたスクリプトから、1回のデータ抽出で複数のレポートが作成されます。PLUSレポートを実行すると、サブレポートごとに <SUBREPORT> タグが追加作成されます。
③	各 <REPORT> または <SUBREPORT> タグの内容には <LAYOUT> タグが含まれます。このタグは、Dimensions RM属性名と、レポート内で使用される表示名との対応関係を示します。
④	<SCHEMA> タグは、クエリで使用されるクラスと、含まれる属性の詳細を含みます。 注: <LAYOUT> タグでは、同一属性を複数回定義できますが、<SCHEMA> タグにはその属性は1回しか表示されません。
⑤	<CLASS> タグは、クエリから返される要件ごとに作成されます。このタグの内容は、クラス名とクラスIDです。
⑥	各 <ATTRIBUTE> タグには、name、ID、typeの各属性と、mandatory、editable、unique、visibleの各フラグがあります。 タイプが "puid"、"alphanumeric"、または "date" の各RM属性には、<FORMAT> タグが作成されます。属性タイプによって、<FORMAT> タグの属性が決まります。 タイプが "list" の各Dimensions RM属性には、<LISTVALUES> タグが作成されます。このタグには、属性の有効な値が列挙されます。

キー	説明
⑦	クエリから返されるDimensions RM要件ごとに、Dimensions RMクラス名 (たとえば、<requirement class>) と一致し、要件IDを指定したタグが作成されます。各requirementタグには、クエリで要求された属性が含まれています (要素番号8を参照)。
⑧	特定の要件に関してクエリで要求されたDimensions RM属性ごとに、Dimensions RM属性名と一致するタグ (たとえば <TEXT>) が作成されます。このタグの内容は、Dimensions RM属性の値です。
⑨	クエリでXREFステートメントを使用すると、要件間の関係、つまりトレーサビリティを指定することができます。XREFレポートを実行すると、関係は入れ子の <LINK> タグで示されます。"name" 属性は、Dimensions RM関係の名前です。<LINK> タグには、関連する要件のタグが含まれます。同じレベルに複数の <LINK> タグがある場合は、同一要件に対して複数のリンクがあることを示します。XML出力に同一要件が複数回出現するのは、その要件に複数の関係が存在するためです。
⑩	レポートの最後のタグは <SCRIPT> タグです。このタグの内容は、クエリに使用されたクエリ文字列です。すべてのテキストを保持するために、互換性のないXMLテキストは [<![CDATA] ブロックで囲まれます。

## Webページとしてエクスポート

[Webページ] を選択した後、要件セットをエクスポートするには、次の手順を実行します。

[エクスポート] をクリックするだけです。

## CSVファイルとしてエクスポート

[CSV (カンマ区切り)] を選択した後、要件セットをエクスポートするには、次の手順を実行します。

[エクスポート] をクリックするだけです。

[テストケース] または [テスト実行] 要件 ([「テスト管理」\(359ページ\)](#) で定義) をCSV形式にエクスポートする際、以下の特別に考慮すべき事項があります。

- [テストステップ] の列は次の各列に分割されます。
  - テストステップ - 説明
  - テストステップ - 予期される結果
  - テストステップ - 実際の結果 (テスト実行要件の場合のみ)
- [テストステップ] のステップ番号はエクスポートされません。
- CSV にエクスポートする際に、エクスポートしたファイルを再インポートする意図がある場合、ID列PUIDまたはオブジェクトIDを含める必要があります。

## プレーンテキストまたはプレーンテキストのテーブルファイルとしてエクスポート

[プレーンテキスト (\*.txt)] または [プレーンテキストテーブル] を選択した後、要件セットをエクスポートするには、次の手順を実行します。

[エクスポート] をクリックするだけです。

## 階層ビューでの要件のエクスポート



**ヒント** 要件のエクスポートを開始する前に、[カテゴリ] ビューでエクスポートするカテゴリを選択します。その後で [階層] ビューに切り替えます。



**注記** サーバーでは、XLSXファイルを生成するためにMicrosoft Excelが必要です。サーバーにMicrosoft Excelがインストールされていない場合は、ファイル拡張子として.xlsを使用して、Microsoft Excelスプレッドシートが作成されます。.xlsファイルを開く際に、ファイルが.xls以外の形式であることを知らせるメッセージが表示される場合があります。このダイアログボックスで [はい] をクリックすると、ファイルをExcelで問題なく開くことができます。

[階層] ビューから要件をエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 [階層] ビューに変更します。
- 2 [アクション] ペインの [階層] セットで、[エクスポート] をクリックします。
- 3 目的のエクスポートオプションを選択します。
- 4 [エクスポート] をクリックします。

## リンクの操作

リンクは、トレーサビリティ、つまり開発ライフサイクル全体にわたる要件の内訳と追跡を提供します。

1つのビジネス要件から、10のユースケース、30の機能要件、40のテストケースが作成されることもあります。製品管理でその初期ビジネス要件のステータスを確認する場合、それらの各テストケースの合格が記録された日時を把握するために、システム全体でステータスを追跡できることが目標になります。

RM Browserでは、以下からリンクを作成できます。

**要件定義プロセス。**

リンクの作成、新規作成してリンクなどの**アクション**は、リンクを簡素化するためのクイック検索フィルタリングを提供します。

開いている**ドキュメント**からは、新規作成、リンク、およびドキュメントに追加などの**アクション**を使用できます。

**分割ビューとドキュメント分割ビュー** (クイック検索のフィルタリングで、ドラッグアンドドロップを使用したリンク設定をサポート)











**関係マトリクス**はワンクリックリンクを提供します





**リンクブラウザー**は、関係を表示し、新しい関係を構築するための機能も提供します。

デフォルトの動作では、要件の特定のバージョン間ではなく、現在のバージョン間でリンクが作成されます。ビジネス要件と1つ以上の機能要件を結合するリンクは、関連する要件すべてが変更される場合でも保持されます。これは、リンクが子に移動するためです。リンクは削除されるまで保持されます。削除後も、リンクがベースラインに含まれていた場合は、インスタンスが残っている限り、履歴が維持されます。



要件の編集ダイアログの [リンク] セクションにある [リンク] のアイコンは、次のように定義されています。

	<p><b>リンクの参照:</b> [リンクブラウザー] ダイアログが開きます。詳細については、「<a href="#">リンクブラウザーの使用法</a>」(224 ページ) を参照してください。</p>
	<p><b>要検討の履歴:</b> [要検討の履歴] ダイアログが開きます。詳細については、「<a href="#">要検討の履歴の使用法</a>」(222 ページ) を参照してください。</p>
	<p><b>展開:</b> すべてのリンクセクションを展開します。この機能は、一度クイックビューに切り替えると利用できなくなります。</p>
	<p><b>折りたたみ:</b> すべてのリンクセクションを折りたたみます。クイックビューの使用時は、この機能は使用できません。</p>
	<p><b>クイックビュー:</b> リンクされているすべての要件を1つの表に表示します。異なるクラスの要件が表示されるため、共通する属性のみが表示可能です。アクティブなリンクがないクラスは表示されません。表内の要件をダブルクリックすると、その要件が開きます。</p>
	<p><b>展開ビュー:</b> リンクされた要件をクラス別に個別の表に表示します。プロパティ機能を使用して表示を拡張できます。表内の要件をダブルクリックすると、その要件が開きます。</p>
	<p><b>プロパティ:</b> [リンクプロパティ] ダイアログが開きます。詳細については、「<a href="#">リンクプロパティ</a>」(217 ページ) を参照してください。</p>
	<p><b>すべての要検討リンクをクリア:</b> 要検討リンクをすべてクリアします。詳細については、「<a href="#">要検討リンクのクリア</a>」(221 ページ) を参照してください。</p>
	<p><b>既存要件にリンク:</b> [要件のリンク] ダイアログが開きます。現在の要件を既存の要件にリンクすることができます。[既存要件にリンク] は、ユーザーにクラスのリンク権限と関係の作成権限がある場合に使用できます。「<a href="#">リンクの作成または既存要件にリンク</a>」(210 ページ) を参照してください。</p>
	<p><b>新規作成してリンク:</b> 複数の選択肢がある場合は、作成する関係を選択するダイアログが開き、その後で要件の [新規] ダイアログが開きます。新しく作成される要件がリンクされます。[保存してコピー] を選択した場合、次に作成される要件もリンクされます。これは、同じ親から複数の新しい子要件を作成する場合に便利な機能です。</p>
	<p><b>新規要件を提案してリンク:</b> [新しい要件の提案] ダイアログが開き、作成した提案をリンクできます。[新規要件を提案してリンク] は、チームがワークフロープロセスを利用せずに提案を使用している場合にのみ、利用可能です。</p>
	<p><b>リンク属性の編集:</b> リンクのカスタム属性を表示および変更できる [リンク属性の編集] ダイアログが開きます。詳細については、「<a href="#">リンク属性の編集</a>」(218 ページ) を参照してください。</p>
	<p><b>リンクの削除:</b> 選択されたリンクを削除します。[リンクの削除] は、ユーザーにクラスのリンク権限と関係の削除権限がある場合に使用できます。</p>


	<p><b>リンクの除去:</b> リンクを恒久的に除去します。[リンクの除去] は、ユーザーにクラスのリンク権限と関係の除去権限がある場合に使用できます。</p> <p><b>注意!</b> 除去したリンクを元に戻すことはできません。</p>
	<p><b>リンクの削除の取り消し:</b> 削除済みのリンクを復元します。[リンクの削除の取り消し] は、ユーザーにクラスのリンク権限と関係の削除の取り消し権限がある場合に使用できます。削除済みリンクの取り消し方法の詳細については、「<a href="#">リンクプロパティ</a>」(217ページ) を参照してください。</p>
	<p><b>要検討の提起:</b> 要件の要検討リンクを作成します。[要検討の提起] は、ユーザーにクラスのリンク権限と関係の要検討リンクの提起権限がある場合に使用できます。要検討リンクの詳細については、「<a href="#">要検討リンク</a>」(219ページ) を参照してください。</p>
	<p><b>要検討リンクの解決:</b> 強調表示されている1つ以上のリンク済みオブジェクトから要検討をクリアします。[要検討リンクの解決] は、ユーザーにクラスのリンク権限と、関係の要検討リンクをクリア権限および要検討リンクを一括クリア権限がある場合に使用できます。要検討リンクのクリアの詳細については、「<a href="#">要検討リンク</a>」(219ページ) を参照してください。</p>

## リンクの作成または既存要件にリンク

[既存要件にリンク] または [リンクの作成] アクションでは、以下の処理を実行できます。

- 最近アクセスした要件をすばやく表示する
- 削除されたリンクを再リンクのために表示する ([リンクプロパティ](#)で選択されている場合)
- オプションを使用して、最近のリストをテキストでフィルタリングする
- [オプション] ダイアログを使用して以下の処理を行う:
  - 検索フィルターを PUID、タイトル、または説明に限定する
  - 複数のクラス関係が存在する場合、関連クラスを選択する
  - 検索をカテゴリに限定する
- [高度な検索] ダイアログにアクセスして、[検索の実行] ダイアログの全範囲にアクセスする

既存の要件にリンクするには、次の手順を実行します。

- 1 任意の要件リストから、リストされている1つ以上の要件を強調表示します。  
[アクション] ペインの [要件] セットから [リンクの作成] を選択します。
- 2 または、要件の [属性の編集] ダイアログを使用する場合は、次の手順を実行します。
  - a [リンク] セクションを展開します。
  - b  をクリックして、[既存要件にリンク] ダイアログを開きます。
- 3 次の手順を実行して、最近アクセスされた要件のリストを表示します (下の図を参照)。
  - a 検索ボックス内をクリックします。
  - b 該当する要件がリストに**表示された場合**は、その要件を選択します。要件が見つからない場合は「[検索対象の限定](#)」(211ページ) に進みます。
  - c [追加] をクリックします。

別々のクラスに属する2つの要件間にリンクを追加する場合は、タスクは完了です。ダイアログを閉じるか、[その他のリンクの作成]を選択して追加のリンクを追加できます。

ただし、関係が循環関係である場合（例：機能から機能への関係）、別の質問が表示されます。「[循環リンクの作成](#)」(212 ページ)を参照してください。

Link Business\_Requirement: BR\_0052

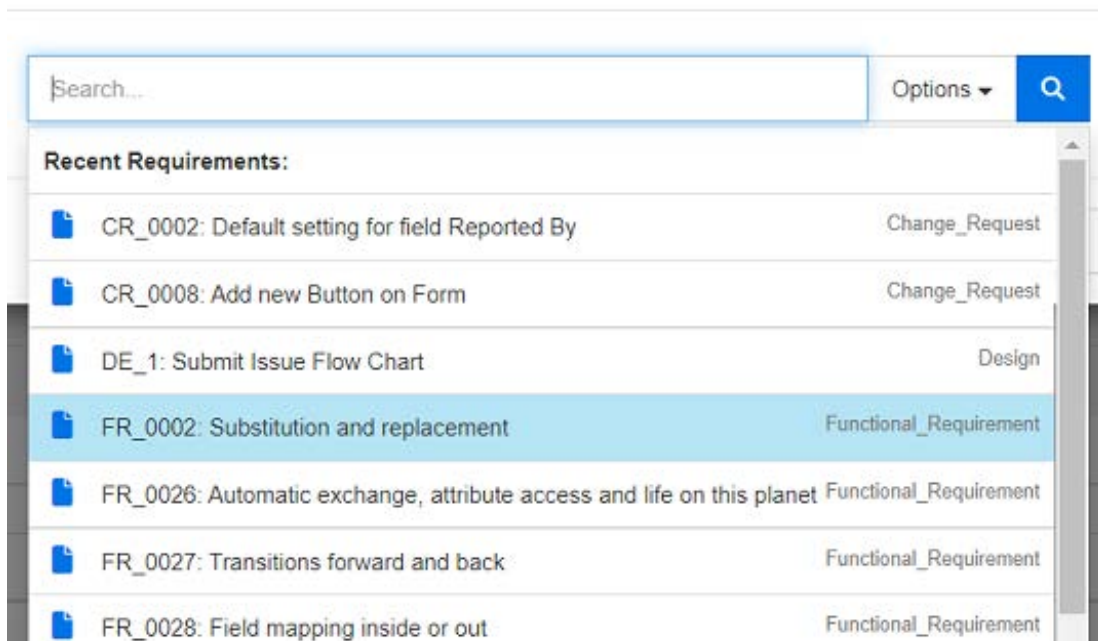



図 4-7. [検索] ボックスをクリックして最近アクセスされた要件を表示するか、検索文字列を入力します。

#### 検索対象の限定

リストが長い場合、または検索対象が見つからない場合は、次の手順に進みます。表示内容は、検索  をクリックしていつでも更新できます。

4 表示されるリストをフィルタリングするために、検索文字列を入力します。

5 [オプション] をクリックして追加のフィルターを適用します。

検索文字列を PUID、タイトル、または説明に**限定**します。

**クラスフィルター**：選択した要件に複数のクラスとの関係が含まれている場合は、検索する要件のクラスを選択します。

**カテゴリフィルター**：検索するカテゴリを1つまたは複数選択します。複数選択するには、**Ctrl+クリック**を使用します。

6 検索対象が見つかった場合は、次の手順を実行します。

[追加] を選択してクリックします。

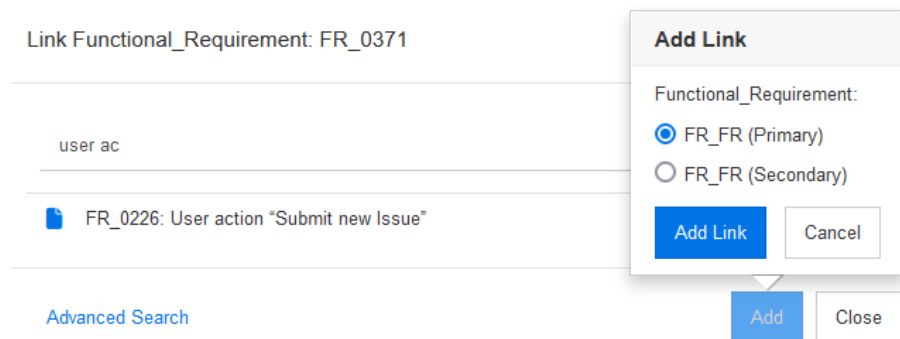
リストに戻るには、[その他のリンクの作成]を使用します。

検索範囲をインスタンスの全範囲に拡大するには、[高度な検索]を使用します（「[高度な検索モードを使用したリンク](#)」(212 ページ)を参照）。

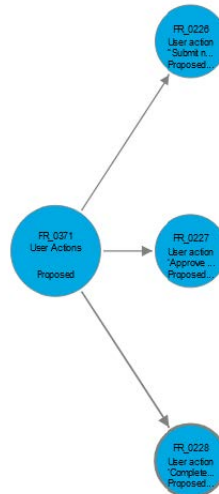
## 循環リンクの作成

循環関係（「[循環関係](#)」(531ページ)を参照）は通常、単一の要件を関連し合う複数のサブ要件に分割するために作成します。[既存の要件にリンク]を使用して同一クラスの2つの要件をリンクするには、どちらがプライマリでどちらがセカンダリかを示す必要があります。

決定：リンク元の要件（以下の例ではFR\_0371）をプライマリにする場合は、選択した要件に対して[プライマリ]を選択します。リンク元の要件が、リンク先として選択した要件（以下の例ではFR\_0226）に対してセカンダリ（サブ要件）である場合は、[セカンダリ]を選択します。





循環リンクを適用する場合、つまり要件を関連する複数のサブ要件に分割する場合、この例ではFR\_0371からのリンクブラウザーは次のようになります。



## 高度な検索モードを使用したリンク

- 1 [高度な検索] をクリックします。
- 2 **制約:** 必要に応じて、目的の要件を見つけるための条件を指定します。「[\[属性制約\] タブ](#)」(52ページ) および「[\[関係制約\] タブ](#)」(57ページ)を参照してください。
- 3 **表示オプション:** 必要に応じて、結果の表示方法を指定します。「[\[表示オプション\] タブ](#)」(59ページ)を参照してください。

- 4 **リンク属性:** このオプションは、選択した関係にリンク属性が定義されている場合にのみ使用できます。
  - a [ **リンク属性** ] をクリックします。[ **リンク属性の編集** ] ダイアログが開きます。
  - b 目的の属性または必要な属性を編集または選択します (「**リンク属性の編集**」(218 ページ) を参照)。
  - c [ **保存** ] をクリックします。
- 5 **これらのオプションを記憶する:** 今後ダイアログを開く際に現在の設定をデフォルトとして維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
- 6 **フィルター:** クイック検索でフィルターを保存した場合、これらのフィルターを使用して、リンク先の要件を検索できます。
- 7 **検索の実行:** このボタンをクリックすると、検索が実行されます。結果はダイアログの下側のペインに表示されます。元の要件にリンクされた各要件の横には、チェーンアイコン  が表示されます。

	Rqmt ID	Title
	COMP_000001	Utilize Tcl/Tk
	COMP_000002	Application settings will be saved
	COMP_000003	Default window size 140x100

- 8 **新規検索:** このボタンをクリックすると、現在の検索条件と結果がクリアされます。
- 9 要件を1つ選択するか、**Ctrl+クリック**で複数の要件を選択します。
- 10 [ **リンクの追加** ] をクリックします。

## 分割ビューによる既存の要件のリンク

[ **ビュー** ] タブの下にある**分割ビュー**または**ドキュメント分割ビュー**では、既存の要件を簡単にリンクできます。

クイック検索のフィルタリングを使用すると、関係の両側で利用可能な要件 (たとえば、分割ビューの左側にビジネス要件、右側に機能要件) を関係にドラッグするか、既存の関係を変更できます。

いずれかの分割ビューパネルのリストを変更して、ビューの内容をドキュメント内の要件に限定することができます。あるいは、[ **ドキュメント分割ビュー** ] を選択して、リンクの入力として使用する2つのドキュメントを選択できます。この方法は、たとえば設計要件を機能明細にリンクする必要がある場合に役立ちます。

要件の検索の詳細については、「**要件のエクスポート**」(202 ページ) を参照してください。

リンクのために分割ビューを使用するには、次の手順を実行します。

- 1 メニューバーの [ **要件** ] をクリックしてクイック検索を開きます。

- 2 [アクション] ペインの [分割ビュー] をクリックします。クイック検索ウィンドウが2つのウィンドウに分割されます。クイック検索の左のウィンドウではクラス (親または子) を選択でき、右のウィンドウでは関連クラスを選択できます。

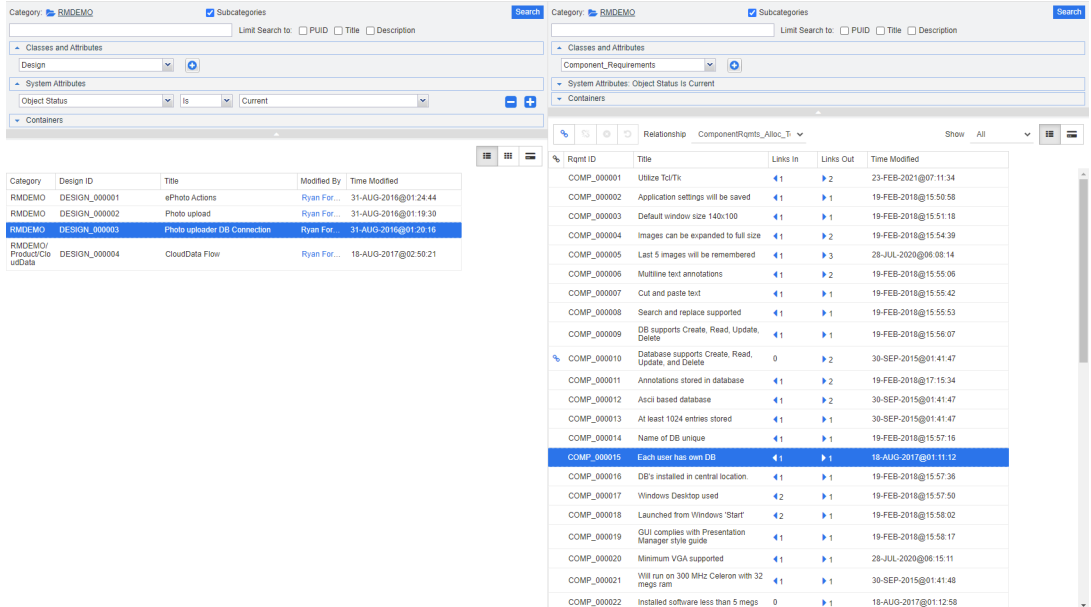


図 4-8. 分割ビューモードのクイック検索

右側のクイック検索ウィンドウには、次の機能もあります。



**リンクの作成:** 1つ以上の子クラス要件を1つの親クラス要件にリンクします。[リンクの作成] は、ユーザーにクラスのリンク権限と関係の作成権限がある場合に使用できます。



**ヒント** ドラッグアンドドロップで要件をリンクすることもできます。



**リンクの削除:** 1つ以上の子クラス要件と1つの親クラス要件との間のリンクを削除します。[リンクの削除] は、ユーザーにクラスのリンク権限と関係の削除権限がある場合に使用できます。



**リンクの除去:** 1つ以上の子クラス要件と1つの親クラス要件との間のリンクを完全に除去します。[リンクの除去] は、ユーザーにクラスのリンク権限と関係の除去権限がある場合に使用できます。



**注意!** 除去したリンクを元に戻すことはできません。



**リンクの削除の取り消し:** 1つ以上の子クラス要件と1つの親クラス要件との間で以前削除したリンクを復元します。[リンクの削除の取り消し] は、ユーザーにクラスのリンク権限と関係の削除の取り消し権限がある場合に使用できます。

**関係:** 親クラスと子クラスとの間の関係をすべて表示します。

**表示:** 子クラスの要件をフィルタリングします。次の値のいずれかを選択できます。

**すべて:** すべての要件を表示します。

**リンクあり:** リンクされている要件のみを表示します。

**リンクなし:** リンクされていない要件のみを表示します。

**削除されたリンク:** 削除済みリンクを持つ要件のみを表示します。

- ☰ **グリッドビュー:** 要件を表形式で表示します。クイック検索の標準的なビューです。
- ☰ **マトリクスビュー:** 要件リンクを行と列から成る表形式で表示します。
- ☰ **カードビュー:** 要件を個々のカードとして表示します。各カードには、次の情報が表示されます。
  - 要件ID
  - タイトル
  - 所有者
  - 最終変更日
  - リンク数




通常のクイック検索ウィンドウに戻るには、[アクション] ペインの [クイック検索] をクリックします。



**注記** リンクの作成、削除、除去、削除取り消しを行うには、親クラス要件を1つ選択し、子クラス要件を1つ以上選択する必要があります。

## 要件の新規作成とその要件へのリンク

- 1 要件を1つ以上強調表示し、[新規作成してリンク] アクションを選択します。
  - a リンク先の要件を含むクラスを選択します。
  - b [次へ] を選択します。[新規] ダイアログが開きます。ダイアログの下部には、新しい要件を保存すると、選択した要件にリンクされることを示す説明があります。
  - c 新しい要件を入力して保存します。
- 2 または要件を編集のために開いて、次の手順を実行します。
  - a [リンク] セクションを展開します。
  - b リンクする要件を含むクラスを展開します。
  - c 要件を選択します。
  - d  をクリックして [新規作成してリンク] ダイアログを開きます。


- e 新しい要件を作成するクラスを選択します。
- f [次へ] を選択します。
- g [新規] ダイアログが開きます。ダイアログの下部には、要件を保存すると、選択した要件にリンクされることを示す説明があります。
- h [保存] をクリックするか、[保存してコピー] または [保存して新規作成] を使用して、親要件にリンクされた追加の要件を作成します。



**注記** 管理者が設定している場合は、親要件から同じ名前の属性値が新しく作成された要件にコピーされることがあります。

## 新しい要件の提案とその要件へのリンク

プロセスで要件提案機能を使用している場合、[新規要件を提案] アクションを使用して新規要件を提案し、[リンクの作成] アクションを使用して新規要件を既存の要件にリンクするか、次に説明するように [新規要件を提案してリンク] を使用できます。

- 1 [アクション] ペインの [要件] セットから [開く] を選択します。
- 2 [リンク] セクションを展開します。
- 3 リンク先の要件を含むクラスを展開します。
- 4  をクリックします。新しい要件を追加するためのダイアログが開きます。
- 5 属性を入力します。
- 6 管理者がリンク属性を設定した場合は、[リンク属性] セクションで2つの要件間のリンク属性値の編集または選択が必要な場合があります。
- 7 [提出] をクリックします。



**注記** 管理者が設定している場合は、親要件の属性値が新しく作成された要件にコピーされることがあります。



## リンクの削除または除去



**注記** ベースライン化されたリンク (つまり、リンクされた親子のオブジェクトが1つのベースラインに含まれる) は、削除できません。ベースラインの内容が変わるためです。ベースライン化されたリンクを削除しようとする、「リンクされたオブジェクトを置き換える必要があります。続行しますか?」という警告が表示されます。[OK] をクリックすると、要件の新しいバージョンが作成され、ベースラインリンクは変更されません。

- 1 オブジェクトを強調表示し、[アクション] ペインの [要件] セットから [開く] を選択します。
- 2 [リンク] セクションを展開します。
- 3 削除または除去する要件を含むクラスを展開します。
- 4 削除または除去する要件を選択します。



- 5 削除する場合は  をクリックします。除去する場合は  をクリックします。



#### 注意!


- 除去したリンクを元に戻すことはできません。
- リンクを削除すると、リンク属性値も除去されます。リンクを再度追加しても、リンク属性値は**復元されません**。

- 6 ポップアップメッセージを確認します。

## 削除済みリンクの復元

削除済みリンクは、クラスの [削除されたリンクを表示する] オプションをオンにした場合のみ、リストに表示されます。削除済みリンクの表示方法の詳細については、「[リンクプロパティ](#)」(217ページ)を参照してください。

削除済みリンクを復元するには、次の手順を実行します。

- 1 オブジェクトを強調表示し、[アクション] ペインの [要件] セットから [開く] を選択します。
- 2 [リンク] セクションを展開します。
- 3 復元する要件を含むクラスを展開します。
- 4 復元する削除済みリンクを選択します。削除済みリンクは、イタリック体で赤く表示されます。
- 5  をクリックします。
- 6 ポップアップメッセージを確認します。

## 要検討リンクのクリア

[要検討] 列が選択されている場合や、要件の編集ダイアログのヘッダーには、要検討を示すアイコンが表示されます。



要検討をクリアする方法は数多くありますが、定義されたプロセスに基づいて、1つ以上の要件を強調表示し、[[要検討リンクの解決](#)] アクションを選択するだけでクリアできます。あるいは、[属性の編集] ダイアログで [要検討] アイコンをクリックします。

要検討リンクの詳細については、「[要検討リンク](#)」(219ページ) または「[要検討リンクのクリア](#)」(221ページ)を参照してください。

## リンクプロパティ

[属性の編集] のリンクセクションでは、[プロパティ] ダイアログを使用して、**クイックビュー**にリストされるすべてのクラス、またはより詳細な**展開ビュー**にリストされる個々のクラスに対して、表示する属性を選択または変更できます。両方の並べ替え順は変更できます。

**表示する属性:** 表示する属性を指定します。「[\[表示する属性\] リスト](#)」(41ページ)を参照してください。

**並べ替え順:** 並べ替え順序を指定します。「[\[並べ替え順\] リスト](#)」(42ページ) を参照してください。

表示に加えて、リストされているすべてのクラスに対して次の変更を加えることができます。

**すべての要件バージョンを含める:** 現在リンクされているバージョンだけでなく、リンクされている要件のすべてのバージョンをリストします。このチェックボックスをオンにすると、リストされている個々のバージョンを判別するために、[現在のステータス] と [オブジェクトバージョンID] を含めるように求められます。

**注:** これはバージョン履歴を確認するのに役立ちますが、このボックスをチェックしたままにしておくことはお勧めしません。長い履歴を持つプロダクトの場合、リストが長くなる場合があります。

**リンク作成情報を表示する:** チェックされている場合、リストにはリンク作成日時が含まれます。

**削除されたリンクを表示する:** チェックされている場合、削除されたリンクがイタリック体でこのリストに追加され、簡単に再リンクできるように [\[既存要件にリンク\]](#) など他のアクションでも使用できるようになります。



#### 注記

インスタンスのすべてのユーザーのデフォルトのプロパティを変更するには、管理者が [\[インスタンス設定として設定\]](#) ボタン (左下) をクリックします。こうすることで、ユーザーが独自に設定を導入するまで、選択された設定がすべてのユーザーにとってのデフォルトとなります。

## リンク属性の編集

リンクオブジェクトに関連する追加情報が必要な場合、リンク属性を使用できます。たとえば、チームが複数の顧客向けにテストケースを作成する場合、次のようないくつかの可能性のいずれかを検討できます。

テストに関連する顧客を識別するために、各テストケースクラス内に **リスト属性** を定義します。


あるいは

リンク自体にリスト属性を定義します。

**リンク属性は以下の場合に編集できます。**

- 既存の要件にリンクを作成する場合 ([「リンクの作成または既存要件にリンク」](#) (210ページ) を参照)。
- 新しい要件にリンクを作成する場合 ([「要件の新規作成とその要件へのリンク」](#) (215ページ) を参照)。
- 新しい変更要求にリンクを作成する場合 ([「新しい要件の提案とその要件へのリンク」](#) (216ページ) を参照)。

**既存のリンクのリンク属性を編集するには、次の手順を実行します。**




- 1 オブジェクトを強調表示し、[アクション] ペインの [要件] セットから **[開く]** を選択します。
- 2 **[リンク]** セクションを展開します。
- 3 リンクされた要件を選択します。
- 4  をクリックします。[リンク属性の編集] ダイアログが開きます。

- 5 必要または目的に応じて、属性値を入力または選択します。
- 6 [保存] をクリックします。

## 要検討リンク

[要検討] は、すべてのクラスで維持されるシステム属性であり、TRUEまたはFalseのいずれかです。クラス間の関係を確認する際、インスタンス管理者は、リンクされた要件内の特定の属性が変更されたときに要検討の提起（つまり、要検討属性をTRUEに設定）を選択できます。チームは、変更による影響の可能性を特定するために、要検討要件をレビューする必要があります。

要検討は、上流での変更の影響に限定される場合もあれば、たとえばタイトルや説明など特定の属性に対する変更に限定される場合もあります。




	<p>標準の要検討リンクアイコンは、関連付けられたオブジェクトに検討が必要であることを示しています。オブジェクトを開いて、アイコンをクリックすると、要検討の原因を示すダイアログが表示されます。</p>
	<p>設定に [アップストリームおよびダウンストリームの要検討リンクを視覚化する] が含まれ、要検討の原因がアップストリームの変更である場合、下矢印が表示されます。</p>
	<p>設定に [アップストリームおよびダウンストリームの要検討リンクを視覚化する] が含まれ、要検討の原因がダウンストリームの変更である場合、上矢印が表示されます。</p>

### 要検討が提起される場合:

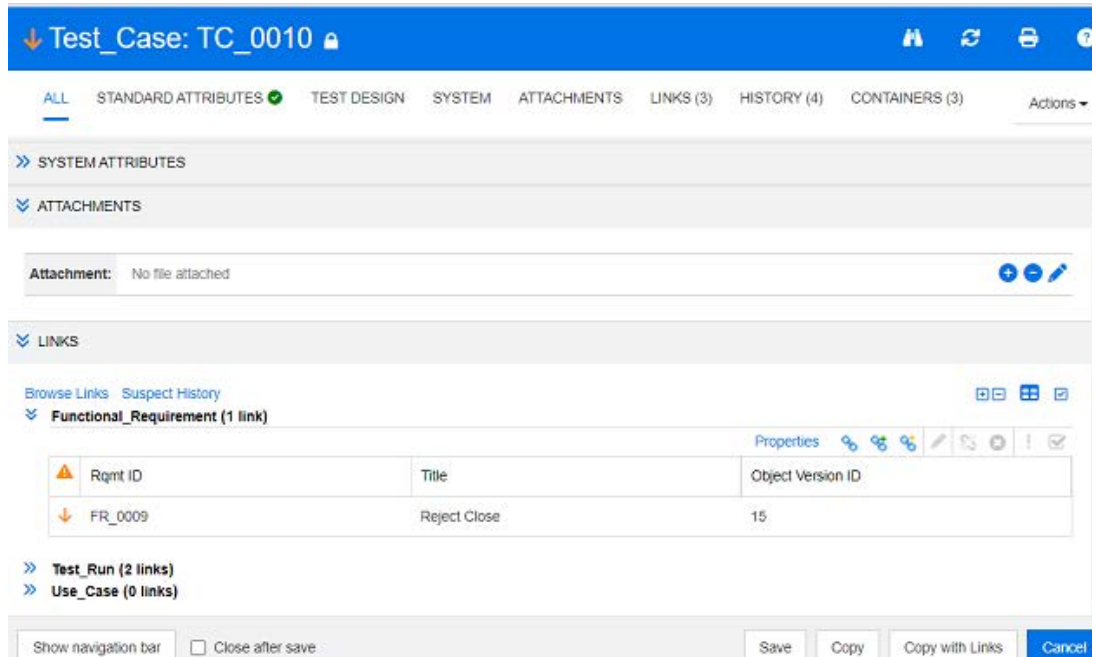
親要件の変更によって、必ず子要件に要検討が提起されるわけではありません。また、子要件の変更によって、必ず親要件のレビューが開始されるわけでもありません。特定の属性が要検討の提起から除外される場合もあります。たとえば、注記属性や優先度の変更は要検討を提起しない可能性もありますが、タイトル、ステートメント、説明、ビジネスのメリットが変更されると、要検討が提起されます。リンクの削除などの関係の変更や、ワークフロー状態の変更によっても、要検討が提起されることがあります。

チームは、妥当性に応じて要検討を提起することができます。要検討リンク機能を利用すると、要検討リンクを含むすべてのオブジェクトをリストし、要検討の原因とその影響をレビューし、確立されたプロセスに従って要検討をクリアすることができます。

## 要検討リンクの識別

	標準の要検討リンクアイコンは、関連付けられたオブジェクトに検討が必要であることを示しています。オブジェクトを開いて、アイコンをクリックすると、要検討の原因を示すダイアログが表示されます。
	設定に [アップストリームおよびダウンストリームの要検討リンクを視覚化する] が含まれ、要検討の原因がアップストリームの変更である場合、下矢印が表示されます。
	設定に [アップストリームおよびダウンストリームの要検討リンクを視覚化する] が含まれ、要検討の原因がダウンストリームの変更である場合、上矢印が表示されます。

- 1 作業ペインで目的の要件を強調表示した後に、[アクション] ペインの [要件] セットから [開く] を選択します。
- 2 要件が要検討状態にある場合、ダイアログボックスの左上隅に要検討リンクアイコンが表示されます。アイコンは、要検討を提起した変更がすべてクリアされるまで表示されます。
- 3 このアイコンをクリックすると、[要検討の理由] ダイアログが開きます。このダイアログの詳細については、「[要検討の理由に関する情報](#)」(221ページ)を参照してください。



- 4 または、[リンク] セクションを展開して、要検討の原因を把握できます。たとえば、特にアクションの必要がない、アップストリーム要件の微細な変更が要検討の原因である場合もあります。

- 5 変更の影響がある場合は要件を変更し、変更が要件に影響を与えない場合は、要検討リンクをクリアします。



**注記** 要検討リンクアイコンは、RM Browserの他の領域にも表示されることがあります。たとえば、クイック検索のクエリ結果や、ドキュメントとトレーサビリティの作業ページのナビゲーションツリーなどです。

### 要検討の理由に関する情報

[属性の編集] ダイアログの要検討リンクアイコンをクリックするか、リンクブラウザーでリンクのショートカットメニューの [要検討の理由の表示] 項目を使用すると、[要検討の理由] ダイアログが表示されます。このダイアログには、変更された属性、変更したユーザー、変更した日時に関する情報が表示されます。

Class	PUID	Attribute	New Value	Raised At	Raised By
<input checked="" type="checkbox"/> Functional_Requirement	FR_0005	Owner	RYAN FORBES JOSEPH WILSON	01-DEC-2021@08:12:39	Joseph Wilson
<input checked="" type="checkbox"/> Functional_Requirement	FR_0002	Owner	RYAN FORBES JOSEPH WILSON	01-DEC-2021@08:12:39	Joseph Wilson

STANDARD ATTRIBUTES

Test ID: Test Name  
TC\_0003 Replacement for Tasks:

Description  
Assign Task to different user with same role profile

CUSTOM ATTRIBUTES

Show navigation bar  Close after save

Save Copy Copy with Links Cancel

### 要検討リンクのクリア

要検討リンクをクリアするには、次の手順を実行します。

- 1 要検討を提起した変更をレビューします。詳細情報を確認する場合は、PUIDをクリックします。
- 2 現時点で要検討をクリアすべきではない要件のチェックを外します。
- 3 [要検討リンクをクリア] を選択します。
- 4 プロセスに必要な場合は、[要検討リンクの解決] ダイアログが表示されます。(「[要検討リンクを解決する理由の記述](#)」(222ページ)を参照)。

### 要件の置換時での要検討リンクのクリア

管理者がこのオプションを選択している場合、要検討の要件を変更して保存すると、要検討リンクが自動的にクリアされます。それ以外の場合は、変更を加えた後に要検討リンクをクリアする必要があります。

正確な動作はローカルの設定によって異なります(「[クラスの変更](#)」(90ページ)を参照)。

## 要検討リンクを解決する理由の記述

要検討リンクを手動で解決する場合は、[要検討リンクの解決] ダイアログが表示されます。

図 4-9. [要検討リンクの解決] ダイアログ

1つまたは複数の要検討リンクを解決するには、次の手順を実行します。

- 1 必要に応じて、[コメント] ボックスに要検討リンクを解決する理由を記述します。
- 2 [OK] をクリックし、記述したコメントで要検討リンクを解決します。

## 要検討の履歴の使用方法

要件が要検討になるたびに、要検討の履歴にエントリが作成されます。各エントリは、関連するクリアプロセスについての詳細情報を示します。

[要検討の履歴] を開くには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで目的の要件を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットから [開く] を選択します。
- 3 [リンク] セクションを展開します。
- 4 [要検討の履歴] をクリックして [要検討の履歴] ダイアログを開きます。

[要検討の履歴] テーブルに次の情報と機能が表示されます。

列	説明
クラス	リンクされた要件のクラスを示します。
PUID	リンクされた要件のPUIDを示します。PUIDをクリックすると、リンクされた要件が開き、編集することができます。
属性	変更され、要件が要検討になる原因となった属性の名前。
新しい値	変更された属性の新しい値。

列	説明
変更者	要件を変更し、要検討にしたユーザーの名前またはID、またはその両方と、変更した日時。
要検討のクリア	リンクされた要件の要検討ステータスをクリアしたユーザーの名前またはID、またはその両方、要検討がクリアされた日時を表示します。ユーザー名またはIDをクリックすると、ポップアップが開き、そのユーザーに関する情報が表示されます。 要検討ステータスがクリアされた理由も表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>手動:</b> [クリアしたユーザー] のユーザーが要検討ステータスを手動でクリアしました。</li> <li>■ <b>置換済み:</b> [クリアしたユーザー] のユーザーが、要件を新しいバージョンに置換することで、要検討ステータスをクリアしました。</li> </ul>
理由	解決に責任があるユーザーが加えたコメント。

## 継承されたリンク

要件の変更を提案する際（つまり、提案を作成する際）、元の要件に関連付けられているすべてのリンクが継承されます。

継承されたリンクを識別するには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで目的の提案を選択した後に、[アクション] ペインの [要件] セットから [開く] を選択します。

» STANDARD ATTRIBUTES 
» CUSTOM ATTRIBUTES
» SYSTEM ATTRIBUTES
» ATTACHMENTS
» COMMENTS
» LINKS

[Browse Links](#) [Suspect History](#)

» ECPs (0 links)

» Product\_Requirements (3 links)

	Rqmt ID	Title
	PROD_000020	256 color VGA
	PROD_000021	Run on 300 Mhz celeron with 32 megs of ram
	PROD_000022	Install footprint less than 5 megs of disk space

- 2 [リンク] セクションを展開します。
- 3 リンクを持つクラスを開きます。

- 4 継承されたリンクには、🔗 が表示されます。



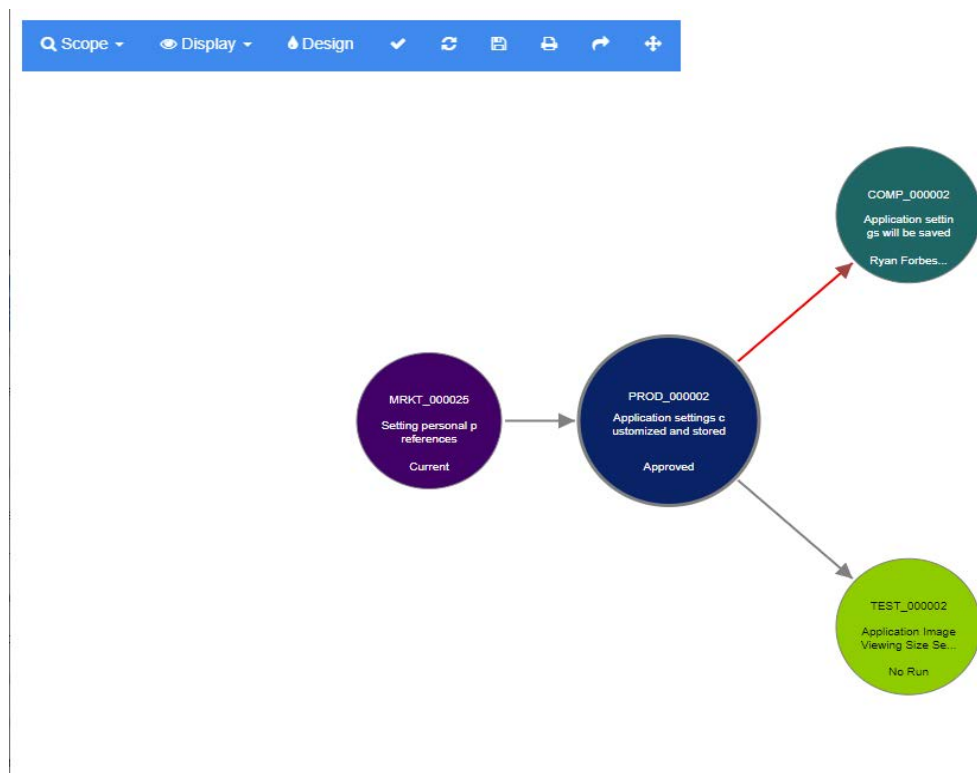
**注記** 要件の変更を提案する際、元の要件を含むコレクションは継承されます。詳細については、「[コンテナのプロパティ](#)」(228ページ)を参照してください。

## リンクブラウザーの使用方法

選択された要件オブジェクトが指定されると、リンクブラウザーには関連するすべてのオブジェクトが表示されます。

リンクブラウザーにアクセスするには、プロダクトのほぼすべてのリストから1つまたは複数の要件を選択し、[アクション] ペインから [リンクの参照] を選択します。

開いている要件のリンクセクションから、[リンクの参照] にアクセスすることもできます。



表示されている要件をクリックすると、関連する要件と、選択されている場合はそれらが属するコンテナのビューが展開されます。要件をダブルクリックすると、[属性の編集] ダイアログが開きます。

リンクブラウザーでは、マウスホイールで拡大、縮小を行うことができます。

**ツールバー：**



ツールバーには次の一般的な機能があります。



**スコープ:** このアイコンをクリックすると、次のエントリを含むサブメニューが表示されます。

**クラスと関係:** クラスやクラス間のリンクを選択できます。それらのクラスに属するリンクされた要件だけが表示されます。すべてのクラスの選択を解除すると、リンクブラウザーには現在のクラスのみが表示されます。

**カテゴリ:** 表示対象のリンクされた要件が属さなければならないカテゴリを選択できます。

**コンテナ:** 表示対象のリンクされた要件が属さなければならないコンテナを選択できます。

変更を行った後に、[適用] をクリックします。



**表示:** このアイコンをクリックすると、次のエントリを含むサブメニューが表示されます。コンテナ

**コンテナ:** チェックすると、リンクブラウザーには、要件が属すコンテナが表示されます。コンテナは、水色の長方形で表示されます。

**最新のオブジェクトのみ:** チェックすると、リンクブラウザーには、現行の要件とリンクのみが表示されます。現行以外の要件のステータスは、要件の下に表示されます。

**削除されたリンクの表示:** チェックすると、リンクブラウザーには、削除済みリンクも表示されます。削除済みリンクは点線で表示されます。

**要検討リンクの強調表示:** チェックすると、要検討リンクは赤色で表示されます。

**関係の深さ:** 要件をロードまたはクリックした場合に表示するリンクの深さを値で指定します。値1は、子のみを表示することを意味します。値2は、子と孫を表示することを意味します。

変更を行った後に、[適用] をクリックします。



**デザイン:** [ユーザー設定] ダイアログが開き、各クラスの色を設定できます。この操作は、[ログイン] メニューで [ユーザー設定] を選択し、[リンクブラウザー] を選択するのと同じ意味を持ちます。リンクブラウザーの設定の詳細については、「[リンクブラウザーの設定](#)」(97 ページ) を参照してください。



**適用:** オプション変更を適用し、現在のビューに基づいてオブジェクトをロードします。



**再ロード:** オプション変更を適用し、元のオブジェクトに基づいてオブジェクトをロードします。



**保存:** 現在の [リンクブラウザー] ダイアログのイメージを作成して、ダウンロードできるようにします。



**印刷:** [リンクブラウザー] ダイアログを印刷します。



**デフォルトフィルターに戻る:** スコープをデフォルトに戻します。

### 要件のコンテキストメニュー

このコンテキストメニューは、要件を選択している場合にのみ使用できます。すべての要件で次の機能がすべて使用できるとは限りません。

**編集:** 要件の属性を編集するダイアログが開きます。

**リンクの参照:** 新しい [リンクブラウザー] ダイアログが開き、選択した要件が親として表示されます。

**削除:** 選択した要件を削除します。

**除去:** 選択した要件を除去します。

**削除の取り消し:** 選択した要件の削除を取り消します。

**要検討リンクの解決:** 要検討リンクをすべてクリアします。

**リンクの作成:** [要件のリンク] ダイアログが開きます。既存の要件を、表示されたリストから選択した要件にリンクできます。

**新規作成してリンク:** サブメニューからクラスを選択すると、そのクラスの要件の [新規] ダイアログが開きます。要件を保存すると、新しい要件は選択した要件にリンクされます。

**コレクションに追加:** [コレクションに追加] ダイアログが開きます。

### リンクのコンテキストメニュー

このコンテキストメニューは、リンクを選択している場合にのみ使用できます。すべてのリンクで次の機能がすべて使用できるとは限りません。

コンテキストメニューには次の機能があります。

**削除:** リンクを削除します。

**除去:** リンクを除去します。

**削除の取り消し:** リンクの削除を取り消します。

**要検討の理由の表示:** [要検討の理由] ダイアログが開き、要件が要検討になる原因となった要件および属性の変更が示されます。詳細については、「[要検討の理由に関する情報](#)」(221 ページ) を参照してください。

**要検討リンクの解決:** 要検討リンクをクリアします。






## [コンテナー] セクション

選択した要件を含むドキュメント、スナップショット、コレクション、ベースラインは、[要件を開く] フォームの [コンテナー] セクションに一覧表示されます。以下では、[要件を開く] から利用できる機能について説明します。



[コンテナー] セクションからアクセスできるもの以外のコレクションの詳細は、「[コレクションとベースラインの操作](#)」(319 ページ) で確認できます。

ドキュメントとスナップショットに関する完全な詳細は、「[ドキュメントの操作](#)」(107 ページ) のチャプターで確認できます。

展開済みの [コンテナ] セクションには、次の機能があります。


	[表示する属性の選択] は、表示する属性を選択するためのメカニズムを提供するダイアログを開きます。詳細については、「 <a href="#">コンテナのプロパティ</a> 」(228ページ) を参照してください。
	<b>コレクションに追加:</b> [コレクションに追加] ダイアログが開きます。現在の要件をコレクションに追加できます。[コレクションに追加] は、ユーザーにクラスのリンク権限とコレクションのリンク権限がある場合に使用できます。 ドキュメントの構造と要件の場所は非常に重要であるため、オブジェクトは開いているドキュメントからのみドキュメントに追加できます。
	<b>コレクションから除去:</b> 選択したコレクション (複数可) からオブジェクトを完全に除去します。[コレクションから除去] は、ユーザーにクラスのリンク権限とコレクションのリンク権限がある場合に使用できます。
	<b>展開:</b> コンテナサブセクションを展開して、開いているオブジェクトと特定のコンテナの内容の中のリンクを表示、作成、または除去します。一覧表示されているリンクされたオブジェクトのバージョンは、コンテナ内にあるオブジェクトのバージョンと一致します。 <b>オブジェクトの現行バージョンのみへのリンクを一覧表示する場合は、[リンク] セクションを確認してください。</b>
	<b>コンテナを開く:</b> 目的のコンテナが開きます。コンテナがドキュメントまたはスナップショットの場合、コンテナはドキュメント内の開いている要件の最初の位置で開きます。コンテナがコレクションまたはベースラインの場合、強調表示された開いた要件とともにコンテナを開きます。

開いているオブジェクトがメンバーであるコンテナのリストがテーブルで一覧表示されます。テーブル内のエントリを並べ替えるには、列見出しをクリックします。

	<b>昇順:</b> エントリは、マーキングされている列の値の昇順 (0 から 9、A から Z) で並べ替えられます。
	<b>降順:</b> エントリは、マーキングされている列の値の降順 (9 から 0、Z から A) で並べ替えられます。

### 既存のコレクションへの要件の追加


要件を編集のために開いて、次の手順を実行します。

- 1 [コンテナ] セクションを展開します。
- 2  をクリックして [コレクションに追加] ダイアログを開きます。
- 3 [コレクションに追加] ダイアログで、関連するコレクションを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

開いている要件の右上にある [アクション] メニューを使用して、開いている要件をコレクションに追加することもできます。

- 1 [アクション] メニューで [コレクションに追加] を選択します。
- 2 [コレクションに追加] ダイアログで、関連するコレクションを選択します。
- 3 [OK] をクリックします。要件は直ちに追加されます。

### コレクションからの要件の除去


- 1 要件の [属性の編集] ダイアログを開きます。
- 2 [コンテナー] セクションを展開します。
- 3 削除または除去するコレクションを選択します。
- 4  をクリックします。



**注記** コンテナーから要件を除去すると、関係の設定によっては、リンクされた要件が要検討になる場合があります。

### コンテナーのオープン


ドキュメント、スナップショット、コレクション、またはベースラインのいずれかのクイックビューを使用するには、次の手順を実行します。

- 1 要件の [属性の編集] ダイアログを開きます。
- 2 [コンテナー] セクションを展開します。
- 3 開くコンテナーの横にある  をクリックします。



### コンテナーのプロパティ

[コンテナーのプロパティ] ダイアログでは、[コンテナー] セクションに表示するデータを定義できます。


列を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [表示する列] リストで1つまたは複数の列を選択します。
- 2  をクリックして、選択した列を追加します。

列の順序を指定するには、次の手順を実行します。

- 1 右側のリストで1つまたは複数の列を選択します。
- 2  または  をクリックして、列の表示順序を指定します。

列を除去するには、次の手順を実行します。

- 1 右側のリストで1つまたは複数の列を選択します。
- 2  をクリックして、選択した列を除去します。




### 注記

- インスタンスのデフォルトのコンテナーのプロパティを変更するには、**管理者**が変更を加えてから、[インスタンス設定として設定] ボタン (左下) をクリックします。

### 継承されたコンテナー

提案を行うとき、元の要件のコンテナーは**継承対象**になります。プロセスに基づいて、いったん**承認済み**になると、提案された要件で元のバージョンが置き換えられます。

継承されたコンテナを識別するには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで目的の提案を選択した後に、[アクション] ペインの [要件] セットから [開く] を選択します。
- 2 [コンテナ] セクションを展開します。
- 3 提案された要件が継承対象であるコンテナは  でマークされます。



**注記** 提案を行うとき、元の要件のリンクも継承されます。詳細については、「[継承されたリンク](#)」(223ページ) を参照してください。

## ファイル添付の操作

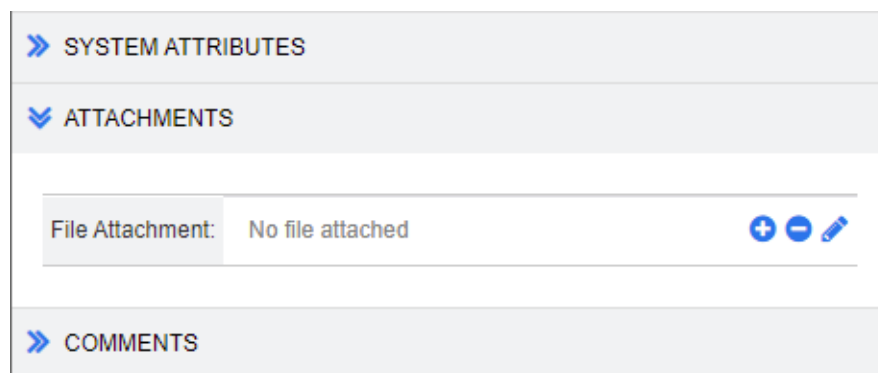
ファイル添付を属性として要件に追加することができます。要件の各添付ファイル属性は、[要件を開く] ダイアログボックスの [添付ファイル] セクションに1行ずつ表示されます。添付ファイル属性の設定に応じて、単一のファイルを保持することも、複数のファイルのファイル保持することもできます。






**注記** 添付ファイルを追加する機能がない場合は、インスタンス管理者に、関連するクラスに1つ以上の添付ファイル属性を追加するように依頼します。詳細については、「[属性定義](#)」(423ページ) を参照してください。

ファイルを添付、置換、削除、またはダウンロードするには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで目的の要件を選択した後に、[アクション] ペインの [要件] セットから [開く] を選択します。
- 2 折りたたまれている場合は、[添付ファイル] セクションを展開します。



- 3 以下を実行します。
  -  : ファイルを要件に添付するには、このボタンをクリックします。[添付ファイルを追加] ダイアログが開きます。ファイルの完全パスを入力するか、[参照] をクリックしてファイルを選択し、[OK] をクリックします。
  -  : 要件のファイル添付を解除するには、このボタンをクリックします。
  -  : 既存のファイルを別のファイルに置換するには、このボタンをクリックします。[添付ファイルを置換] ダイアログボックスが開きます。ファイルの完全パスを入力するか、[参照] をクリックしてファイルを選択し、[OK] をクリックします。

- **ファイル名:** ファイル名のリンクをクリックしてファイルを開きます。ファイルをダウンロードしてから開くように組織のセキュリティが設定されている場合は、ファイルがダウンロードされます。



**注意!** 添付ファイルへの変更を含む属性の変更は、以下の説明のように [保存] ボタンをクリックするまで保存されません。変更を保存しないで終了しようとすると、警告が表示されます。

- 4 **ナビゲーションバーの表示 / ナビゲーションバーの非表示:** クリックすると、ダイアログの下部にあるナビゲーションバーの表示/非表示が切り替わります。[最初]、[前へ]、[次へ]、および[最後] コントロールを使用すると、要件を順番に参照することができます。
- 5 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - **コピー:** ダイアログを閉じ、要件の新規作成でできるように属性値をコピーします。[新規クラス名] ダイアログが開きます (「要件の新規作成」(190ページ) を参照)。



**注記** 属性が次の要件にコピーされるのは、管理者が属性を定義する際に [コピー時に入力] オプションを選択している場合のみです。「属性プロパティ」(425ページ) を参照してください。

- **更新:** 要件の新しいバージョンを作成せずに、ダイアログを閉じて、変更内容を保存します。(要件の変更の履歴や監査証跡が必要な場合は、このオプションを使用しないことをお勧めします。)

**更新して次へ:** 上記と同様ですが、ダイアログは開いたままになり、次の要件がロードされます。ナビゲーションバーが表示されている場合は、このバージョンのボタンが表示されます。

- **保存:** ダイアログを閉じて、変更内容を要件の新しいバージョンとして保存します。

**保存して次へ:** 上記と同様ですが、ダイアログは開いたままになり、次の要件がロードされます。ナビゲーションバーが表示されている場合は、このバージョンのボタンが表示されます。

## グループ属性の操作

グループ属性は、ユーザー選択用に定義済みの値のリストを提供するという点でリスト属性に似ています。ただし、単純なリスト属性と異なり、グループ属性は一連のサブ属性で構成されています。ユーザーに提供される選択肢は、グループ属性内の上位レベルの属性 (親属性) での選択内容に依存します。

たとえば、「Operating System」というグループ属性に、サブ (メンバー) 属性として、「Platform」、「Family」、「Version」があると仮定します。「Platform」はグループの第1 (親) 属性であり、「Mobile」、「Desktop」、「Server」のいずれかの値を選択できます。「Desktop」を選択すると、「Family」サブ属性には、デスクトップオペレーティングシステムの名前を選択でき

ます。「Platform」に「Mobile」などの別の値を選択すると、Family属性はモバイルオペレーティングシステムの名前になります。

Tests: TEST\_00001

ALL STANDARD CUSTOM SYSTEM ATTACHMENTS LINKS (4) HISTORY (7) CONTAINERS Actions

Designer: Engineer 1 Estimated DevTime: 0

Execution Date: 29/11/2021 Execution Status: Passed

Operating System:

Platform	Family	Version
Desktop	Windows	XP
Desktop	Windows	7

Planned Execution Date: 11/30/2021

Prerequisites:

この例の「Family」サブ属性は子属性「Version」も持ち、その値は、「Family」の選択に基づきます。従属の流れは、グループ属性のサブ属性を左から右へと進みます。



**注記** この例に示すように、どの要件も、グループ属性に複数の値セット（行）を持つ場合があります。

グリッドビューでこの例を表示すると、次の画像の選択行のようになります。

PUID▲	Test Name	Operating System
TEST_00001	Application CRUD Processing 111	Desktop-Windows-XP Desktop-Windows-7
TEST_00002	Application Image Viewing Size Settings	Mobile-Android-KitKat
TEST_00003	Application Opens Image on Windows	Desktop-Windows-7, Desktop-Windows-XP, Desktop-W





**注記** グループ属性の値セットごとに、要求者が要件行の専用の行に表示されます。

グリッドに表示する場合、グループ属性の各値は、ダッシュ文字 (-) で区切られます。この例の最初の行（値セット）は「Desktop-Windows-7」です。つまり、「Desktop」が「Platform」の値であり、「Windows」が「Family」の値、「7」が「Version」の値です。



右端の属性ボックスのアイコンには、次の機能があります。



新しい（空）行を追加します。

-  選択した行の値を持つ新しい行を追加します。
-  選択した行を削除します。[すべてクリア]をクリックすると、グループ内のすべての行が削除されます。



**注記** 管理者が設定した場合、 と  は使用できず、このグループ属性では値の行を1行しか選択できません。



**ヒント** 特定のメンバーの可能な値を表す値セットを素早く作成するには、そのメンバーの [すべて選択] ドロップダウンメニュー項目を選択してください。

## 要件の履歴の表示
















変更要求、テストケース、不具合、要件など、データベース内の各オブジェクトは履歴を保持します。履歴は、オブジェクトについての情報と、それが時間の経過とともにどのように変更されたかについてチームに提供します。編集またはレビューのためにフォームを開いた場合、デフォルトのフォームには常に [履歴] セクションが表示されます。




履歴セクションでは、変更者と変更箇所、いつ変更されたかが表示されるだけでなく、レポートにマークされた追加、削除、変更を使用してユーザーがバージョンを比較することもできます。

要件の履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで目的の要件を選択した後に、[アクション] ペインの [要件] セットから [開く] を選択します。
- 2 [履歴] セクションを展開します。


表示される属性を変更するには、「[履歴プロパティの表示の変更](#)」(233ページ) を参照してください。


▼ HISTORY						
Pedigree					Properties	Difference
	Object Version ID	Workflow State	Owner	Modified By	Current Status	
	 1	<span>New</span>	 Ryan Forbes	 Ryan Forbes	Replaced	
	 2	<span>New</span>	 Ryan Forbes	 Ryan Forbes	Replaced	
	 3	<span>New</span>	 Ryan Forbes	 Ryan Forbes	Replaced	
	 4	<span>In Review</span>	 Peticia Miata	 Ryan Forbes	Current	


アイコン	説明
	情報アイコンをクリックすると、[履歴の詳細] ダイアログが開き、現在の項目と選択した項目の簡単な比較が表示されます。
	選択したオブジェクトのバージョンを開きます。
	[履歴の詳細] ダイアログの上部に目のマークが表示され、これをクリックすると履歴の相違が開き、選択した項目間の全体の比較が表示されます。「 <a href="#">履歴の相違の表示</a> 」(233ページ) を参照してください。



分岐を使用する際、該当する場合は、追加情報が [現在のステータス] 列に表示されます。

 : 要件が異なるプロダクトまたはプロジェクトに分岐 (提供) されているか、要件バージョンが同期を使用して新しいバージョンを作成するのに使用された。

 : 要件が別のプロダクトまたはプロジェクトから分岐 (提供) された。

 : 要件が同期された。

## 履歴プロパティの表示の変更

オブジェクトの現在のバージョンを以前のバージョンの内容に置き換えるには、「[前のバージョンを現行バージョンにする](#)」(235ページ) を参照してください。

[履歴] 表示に含まれる属性は、[プロパティ] を使用して変更できます。



### 注記

対象: インスタンス管理者

インスタンスのすべてのユーザーのデフォルトのプロパティを変更するには、管理者が変更を行い、[インスタンス設定として設定] ボタン (左下) をクリックします。

表示される属性を変更するには、次の手順を実行します。

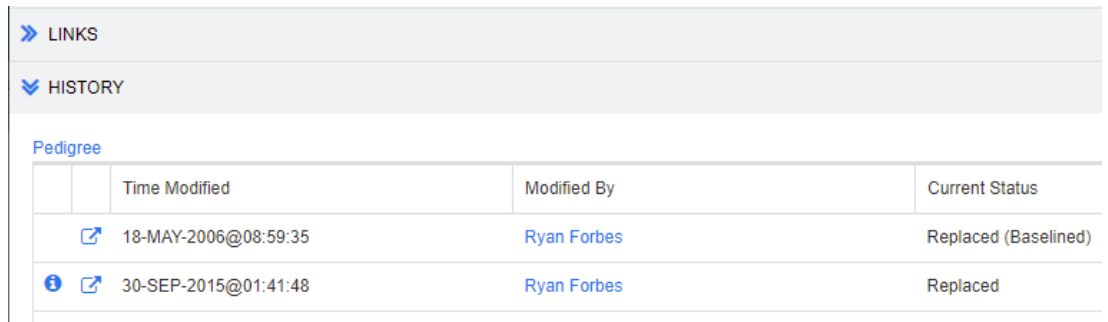
- 1 開いている要件オブジェクトで、[履歴] セクションを展開します。
- 2 [プロパティ] をクリックして [履歴プロパティ] ダイアログにアクセスします。
- 3 表示する属性を指定するには、左側から属性を選択し、矢印を使用して属性を右側に移動します。詳細については、「[\[表示する属性\] リスト](#)」(41ページ) を参照してください。
- 4 並べ替え順序を指定します。「[\[並べ替え順\] リスト](#)」(42ページ) を参照してください。
- 5 表示用に選択した属性とその順序はクラスごとに記憶され、クラスの要件の [履歴] を表示するときに使用されます。




## 履歴の相違の表示

開いている要件と選択したバージョンの要件との相違や、要件の2つの選択したバージョン間の相違を表示することができます。

相違を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [履歴] セクションを展開します (まだ展開されていない場合)。



	Time Modified	Modified By	Current Status
	18-MAY-2006@08:59:35	Ryan Forbes	Replaced (Baselined)
 	30-SEP-2015@01:41:48	Ryan Forbes	Replaced

- 2 次のいずれかのアクションを実行します。

開いている要件を別バージョンと比較するには、別バージョンを選択し、[差異] をクリックします。

要件の2つのバージョンを比較する場合、両者を選択し、[差異] をクリックします。

[履歴の相違] ダイアログボックスが開き、2バージョン間の変更内容が表示されます。

History Differences for Product\_Requirements: PROD\_0000

▼ STANDARD ATTRIBUTES ○

Rqmt ID: PROD\_000001 Title ○: Try to use Tcl/Tk-

Text ○: This effort shall be undertaken using the Tcl/Tk scripting language. This ensures rapid prototyping and high portability. [T 3-44](#)  
[7, Windows](#)  
~~95, Windows NT~~  
[10](#) and various UNIX flavors.

▶ CUSTOM ATTRIBUTES ○

▶ SYSTEM ATTRIBUTES ○

Created By:  
Ryan Forbes




#### 注記

[履歴] セクションで3つ以上のバージョンを選択した場合、[差異] リンクは無効になります。オブジェクトIDが低いバージョンでは、置き換えられた変更が表示されます。

デフォルトのフォームテンプレートでは、履歴に使用されるセクション名は固定されています。インスタンス管理者は、カスタム属性のこのセクション名を使用できません。Webフォームのカスタマイズの詳細については、『Dimensions RM Administrator's Guide』を参照してください。

## 前のバージョンを現行バージョンにする

前のバージョンを現行バージョンにすると、前のバージョンに含まれるデータを使用して新しいバージョンが作成されます。前のバージョンを現行バージョンにするには、次の手順を実行します。

- 1 [履歴] セクションを展開します (まだ展開されていない場合)。
- 2 現行バージョンにする要件のバージョンを選択します。
- 3  をクリックします。

**注記**

- 前のバージョンを現行バージョンにしても、ワークフローの状態や、ユーザーが上書きできないその他の属性は変更されません（セキュリティ上の制限などのため）。
- 系図ビューで、前のバージョンを現行バージョンにすることもできます（「系図ビューの使用方法」(237ページ)を参照）。

## ドキュメント内の要件バージョンの変更

要件をドキュメント内から履歴セクションに開くと、ユーザーはドキュメントに含まれる要件バージョンを別バージョンと交換できます。この交換は、要件の最新バージョンがドキュメントに関連していなかったり、[最新バージョンに更新]がチェックされておらず、最新バージョンこそが必要なものであったりするため、必要になる場合があります。

ドキュメント内に含まれるバージョンを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント内から、バージョンを交換する必要がある要件を開きます。
- 2 ドキュメント内から [履歴] セクションを展開します。

HISTORY			
edegree <span style="float: right;">Properties Differences &lt;</span>			
	TIME MODIFIED	MODIFIED BY	CURRENT STATUS
	18-MAY-2006@09:17:06	Ryan Forbes	Replaced
	25-NOV-2014@08:23:23	Ryan Forbes	Replaced
	30-SEP-2015@01:54:24	Ryan Forbes	Current (Baselined)

POLLS			
-------	--	--	--

- 3 正しいバージョンを見つけ、 をクリックすると、[要件の交換] ダイアログが開きます。
- 4 プロセスですべてのドキュメントが [最新バージョンに更新] を有効にして作成される場合（つまり、要件の最新バージョンが常にドキュメントに含まれている場合）、[交換] ダイアログに [... しますか?] という質問が表示されるので、実行する場合は [はい] をクリックします。

### Exchange Requirement

Are you sure you want to exchange requirement 'MRKT\_000030' version 3 with version 1?

Also exchange requirements in these document(s):

<input type="checkbox"/>	Name	Time Created	Time Modified
<input type="checkbox"/>	ePhoto Tablet Requirements	30-AUG-2021@12:32:08	30-AUG-2021@12:32:08

- 5 プロセスに、[最新バージョンに更新] が有効になっているドキュメントまたは一連のドキュメントが含まれている場合（つまり、ドキュメントに含まれる要件が常に手動で更新されている場合）、[交換] ダイアログでは確認を求められるだけでなく、要件を含み、[最新バージョンに更新] が有効になっていない他のドキュメントも含まれます。

リストからドキュメントを選択すると、これらのドキュメントの要件バージョンも交換されます。ドキュメントを選択するには、ドキュメント名の横のボックスをクリックします。すべてのドキュメントを選択するには、見出しのボックス ([名前:] 見出しの横) をクリックします。

## 系図ビューの使用方法

系図ビューは、要件の履歴をグラフィカルに表現したものです。

系図ビューを開くには、次の手順を実行します。

- 1 [要件] ビューで目的の要件を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットの [系図] をクリックします。[系図ビュー] ダイアログが開きます。

要件を [属性の編集] ダイアログで表示している場合、次の手順を実行できます。

- 1 [履歴] セクションを展開します。
- 2 [系図] をクリックします。[系図ビュー] ダイアログが開きます。

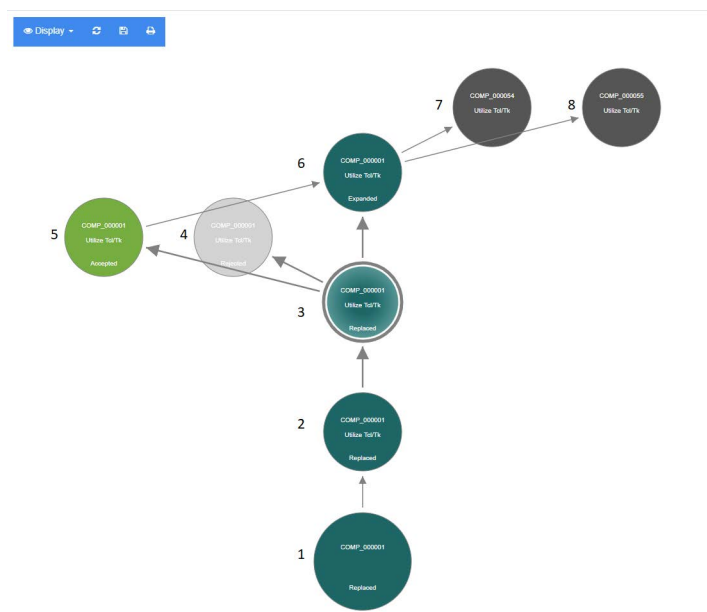


図 4-10. 要件の系図ビュー

この図の要素は、次の意味を持ちます。

- 1 これは、元の要件です。
- 2 これは、#1の変更バージョンです。
- 3 これは、#2の変更バージョンです。
- 4 これは、#3に基づく提案で、拒否されたものです。
- 5 これは、#3に基づく提案で、承認されたものです。

- 6 これは、承認された提案 (#5) に基づいて作成された要件です。  
この要件は、2つの要件 (#7と #8) に展開 (分割) されています。
- 7 これは、#6を拡張して作成された要件です。
- 8 これは、#6を拡張して作成された要件です。

系図ビューのツールバーには、次の機能があります。



**再ロード:** [系図ビュー] ダイアログを再ロードします。



**ダウンロード:** 現在の [系図ビュー] ダイアログのイメージを作成して、ダウンロードできるようにします。



**印刷:** [系図ビュー] ダイアログを印刷します。

ショートカットメニュー (要件要素を右クリックして表示) には、次の機能があります。

**開く:** 選択したバージョンの要件が開きます。

**現在のものにする:** 選択したバージョンのデータを使用して、要件の新しいバージョンを作成します。

**注記**

- 前のバージョンを現行バージョンにしても、ワークフローの状態や、ユーザーが上書きできないその他の属性は変更されません (セキュリティ上の制限などのため)。
- [属性の編集] ダイアログの [履歴] セクションで、前のバージョンを現行バージョンにすることもできます (「[前のバージョンを現行バージョンにする](#)」(235ページ) を参照)。

**展開:** 要件が展開されます。

なお、展開できる要件は、オブジェクトステータスが**最新**または**展開済み**の要件のみです。要件の展開の詳細については、「[展開機能の使用方法](#)」(197ページ) を参照してください。

**相違点の表示:** [履歴の相違] ダイアログが開き、選択したバージョンと現行バージョンとの間の変更内容が表示されます。なお、選択したバージョンが現行バージョンの場合、この機能は使用できません。

**リンクの参照:** [リンクブラウザー] が開き、選択したバージョンの要件が表示されます。

**系図:** 選択した要件のために、別の [系図ビュー] ダイアログが開きます。



**注記** 系図ビューには、リンクブラウザーの設定が使用されます。リンクブラウザーの設定を変更すると、系図ビューの設定も変更されます。

## 要件変更のマージ



**注記** RM Browserは同時編集を有効にするように設定できます（「[同時編集](#)」(86ページ)を参照）。この設定により、複数のユーザーが要件またはチャプターを同時に編集できるようになります。このセクションでは、要件のマージについて説明します。

同時編集を許可するようにRM Browserが設定されている場合、2人のユーザーが同時に要件を編集するときには、要件変更をマージする必要があります。

変更は、以下の表に示すように、自動または競合のいずれかになります。

変更タイプ	説明
自動	最初のユーザーによる変更が2番目のユーザーによる変更と同じである場合、または最初のユーザーによる変更が2番目のユーザーによる変更と異なるものである場合は、変更のレビューが厳密には必要ないため、自動マージを実行できます。ただし、承認を行う前に2番目のユーザーが最初のユーザーによる変更をレビューすることをお勧めします。
競合	2番目のユーザーによる変更が最初のユーザーによる変更と競合する場合、2番目のユーザーが変更内容をレビューし、次のいずれかを実行する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2番目のユーザーによる変更を承認する</li> <li>■ 最初のユーザーによる変更を承認する</li> <li>■ 元の値を承認する</li> <li>■ ダイアログボックスのメイン部分で値を直接編集し、両方のユーザーの変更を手動で組み合わせる</li> </ul>

要件のマージにつながるアクションの概要を次のシナリオに示します。

- 1 2人のユーザーが要件を同時に編集しています。
- 2 最初のユーザーが[属性の編集]ダイアログボックスの[保存]をクリックします。要件は置換され、[属性の編集]ダイアログボックスは閉じます。
- 3 2番目のユーザーが[属性の編集]ダイアログボックスの[保存]をクリックします。
- 4 2番目のユーザーは、最初のユーザーがその要件に1つ以上の変更を加えたことを通知されます。2番目のユーザーへの通知は、自動マージが可能であることを示す通知か（最初のユーザーの変更が、2番目のユーザーの変更と競合しないため）、変更が競合するため、2番目のユーザーが要件を置換する前に変更内容を解決しなければならないことを示す通知のいずれかです。
- 5 2番目のユーザーは、通知メッセージで[OK]をクリックします。[属性の編集]ダイアログボックスが、[属性のマージ]ダイアログボックスに変わります。[属性のマージ]ダイアログボックスは、[属性の編集]ダイアログボックスとは異なります。[属性のマージ]ダイアログボックスには、次の特徴があります。

- 上部に変更内容をまとめたセクションがあり、変更内容をマージするためのユーザーインターフェイスがある
  - [更新] ボタンがない
  - 属性の横に2番目のユーザーが選択したマージのタイプを示す表示がある
- 6 2番目のユーザーは、[属性のマージ] ダイアログボックスの上部にあるマージセクションを使用して、「要件の以前のバージョンの表示」(241ページ)と「変更内容のマージ」(241ページ)の説明に従って変更内容を解決します。

## マージステータス

MaryとJoeの行った変更のマージステータスは、[属性のマージ] ダイアログボックス上部の[変更された属性] セクションに表示されます。

Attribute	Changes by Joseph Wilson	Changes by Mary Jones	Merge Status
Text	This effort shall be undertaken using the Tcl/Tk scripting language. This ensures rapid prototyping and high portability. Tcl/Tk currently runs on: Windows 3.11, Windows 95, Windows NT, <u>Windows XP</u> , and various UNIX flavors.	None	Automatic
Verification Level	<u>Component</u>	<u>ComponentModule</u>	Conflict
Verification Method	<u>Analysis</u>	<u>AnalysisInspection</u>	Conflict

Category: RMDemo

STANDARD ATTRIBUTES

Rqmt ID: COMP\_000024 Title: Utilize Tcl/Tk

Text: This effort shall be undertaken using the Tcl/Tk scripting language. This ensures rapid prototyping and high portability. Tcl/Tk currently runs on: Windows 3.11, Windows 95, Windows NT, Windows XP and various UNIX flavors.

Show navigation bar  Close after save  Save Copy Copy with Links Cancel

Joeが行った最初の変更は、Text属性に "Windows XP" を追加するものでした。[マージステータス] 列で、リストから[自動]が選択されています。これは、変更内容にMaryによる変更との競合がないためです。自動マージを表すアイコンは、マージ矢印をひし形で囲んだ形です(🔒)。[マージステータス] リストの左側と、ダイアログボックスのメイン部分のテキスト属性ボックスの左側に表示されます。



第2の変更と第3の変更は、競合を含んでいます。第2の変更では、JoeがVerification Level属性の値を「**Component**」に変更したのに対して、Maryはこの属性を「**Module**」に変更しています。[マージステータス] 列では、リストから[競合]が選択されています。競合を表すアイコンは、感嘆符を三角形で囲んだ形です(⚠️)。[マージステータス] リストの左側と、ダイアログボックスのメイン部分のVerification Level属性の左側に表示されます。

第3の変更も競合を含んでいます。MaryがVerification Method属性の値を「**Inspection**」に変更したのに対して、Joeは「**Analysis**」に変更しています。



## 要件の以前のバージョンの表示



変更を解決する前に、要件の以前のバージョンを確認できると便利です。

- 2番目のユーザーが要件の元のバージョンを表示するには、[元のバージョンを表示: 要件] ボタン  をクリックするか、該当する [マージステータス] 列のリストにある [元の値] をクリックします。
- 2番目のユーザーが、最初のユーザーの変更直後の状態（つまり、自分が変更する前の状態）の要件を表示するには、[変更前の要件のバージョンを表示] ボタン  をクリックします。

## 変更内容のマージ

2番目のユーザーは変更の解決方法を判断した後に、変更内容をマージすることができます。

変更内容をマージするには、次の手順を実行します。

- 1 [マージステータス] 列のリストボックスで [自動] が選択されている場合、次の手順のいずれかを実行します。
  - [自動] を選択した状態のまま、その変更を承認します。
  - 変更を行ったユーザー名を選択して、その変更を承認します。
  - [元の値] を選択して、属性を元の値に戻します。
- 2 [マージステータス] 列のリストボックスで [競合] が選択されている場合、次の手順のいずれかを実行します。
  - 承認する変更を行ったユーザー名を選択します。
  - [元の値] を選択して、属性を元の値に戻します。
  - 承認する値と一致するように、メインフォームで値を手動で編集します。
- 3 特定ユーザー（たとえば、MaryまたはJoe）の行った変更をすべて承認する場合は、「次のユーザーによる変更をすべて承認: Mary Jones」ボタン  または「次のユーザーによる変更をすべて承認: Joseph Wilson」ボタン  をクリックします。
- 4 [保存] をクリックします。

## 要件の分岐とマージ

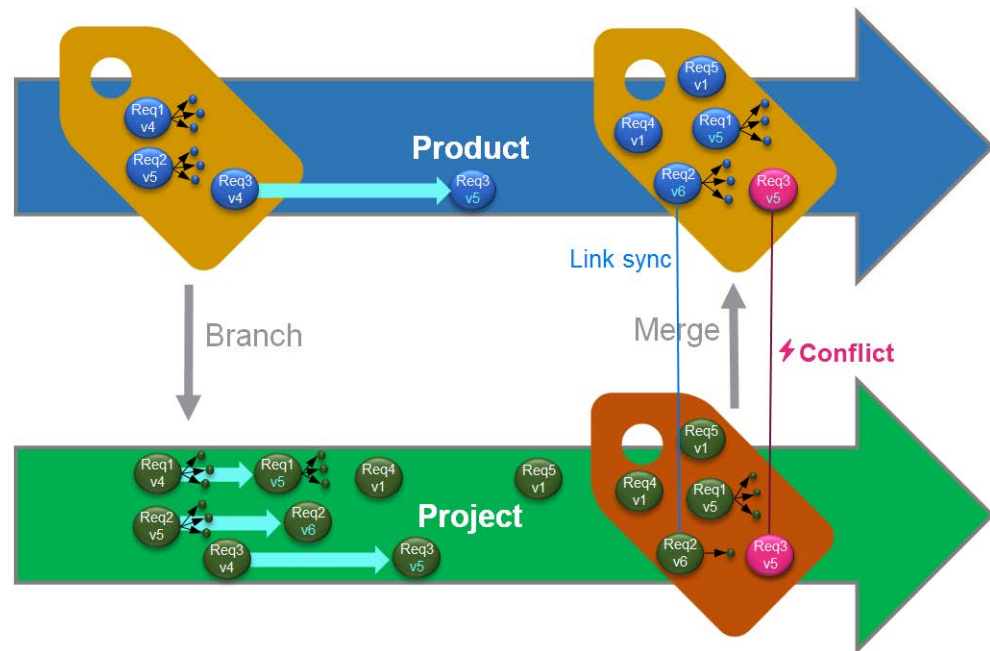
要件の分岐とマージによって、バリエーションを保持したり、共通コンポーネントを共有したりできます。

多くの場合、ソフトウェアの複数のリリースを同時にサポートする必要があります。リリース9、10、11にはサポートやパッチが必要になるかもしれませんが、リリース12は開発中である場合があります。

また、誘導システムやエンジンの駆動、列車の運行といったテクノロジーの製造に使用される複雑なソフトウェアやハードウェアコンポーネントをリリースしている組織もあります。こういった組織が開発しているコンポーネントは、対象となるメーカーやモデルに合わせて変更が必要になります。このような組織では、中核となる部分と、顧客のニーズに対応するための変更を分離する必要があります。コンポーネントは、1つのエンジニアリングチームが担当しているとしても、さまざまなシステムリリースに含まれることがあります。

多くのお客様から寄せられたニーズに応えるため、Dimensions RMは、コンポーネントのバリエーションを選択して複数の製品をリリース対象として構成できる分岐モデルを開発しました。各エンジニアリングチームは基盤となる部分を可視化できます。

以下は、1つのプロダクトから分岐するプロジェクトバリエーションを示しています。多数のプロジェクトバリエーションが存在し、複数のプロダクトに含まれることもあります。



上の図は、次のシナリオを示しています。

- 1 Productから分岐 (Project) が作成され、Productに割り当てられます。(青色の) 要件Req1、Req2、Req3がProjectにコピーされています (緑色の要件として示されています)。緑色の各要件のバージョン番号は、最初は、青色の各要件のバージョン番号と同一です。
- 2 Projectで、緑色の要件Req1、Req2、Req3を変更します。Req2についてはリンクも除去します。緑色の要件のバージョン番号が増えます。
- 3 Productの要件Req3も変更します。青色と緑色のReq3要件は、どちらもバージョン番号が同じ (v5) ですが、内容は異なります。
- 4 このプロセスの間に、Projectには要件Req4とReq5が作成されました。
- 5 ProjectからProductに要件をマージするとき、次の選択を行うことができます。
  - a 新しい要件Req4とReq5を引き継ぐかどうか
  - b リンクを除去するか保持するか
  - c 各Project要件からどの属性値をコピーするか

分岐には**Product**クラスと**Project**クラスの作成が必要です。メインメニューバーから[新規]を選択したときに**Project**と**Product**がメニューに表示されない場合は、インスタンス管理者に確認するか、もしくは、管理アクセス権がある場合は「[分岐用のProductクラスとProjectクラスの作成](#)」(477ページ)を参照してください。

プロダクトを定義して入力する前に、プロダクトカテゴリを作成する必要があります。詳細については、「[プロダクトまたはプロジェクトの新規作成](#)」(243ページ)を参照してください。

## プロダクトまたはプロジェクトの新規作成

### プロダクトの新規作成

ProductクラスとProjectクラスを作成したら、その中にエンティティを作成し、値を入力し、追跡できるようにします。

新しいプロダクトを作成すると、同名のカテゴリが作成されます。要件のセットは、システム全体向けであっても、単一のアプリケーション向けであっても、これらのプロダクトカテゴリ内で管理できます。

新しいプロダクトを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 メインメニューバーの[新規]をポイントし、ドロップダウンメニューから[プロダクト]を選択します。[新規プロダクト]ダイアログが開きます。
- 2 [名前]ボックスに値を入力します。
- 3 必要に応じて、[説明]を指定します。説明は、分岐ターゲットの選択を含め、プロダクトまたはプロジェクト情報が表示されるたびに表示されます。
- 4 [短い名前]を指定します。この短い名前は変更の識別に使用されるため、一意である必要があります。短い名前は、プロダクトの名前に基づいて作成されます。



**注記** 管理者が**Product**クラスを作成していない場合、[短い名前]属性が使用できない可能性があります。グループで分岐を使用する予定の場合は、「[分岐用のProductクラスとProjectクラスの作成](#)」(477ページ)の手順に従って**Product**クラスを作成するように依頼してください。

- 5 既存のプロジェクトの要件を新しいプロダクトに関連付けることができます。この新しいプロダクトが、新しい要件や、まだプロジェクトに関連付けられていないオブジェクトを保持するために作成されている場合は、#8に進んでください。
- 6 この新しいプロダクトに1つ以上の既存のプロジェクトを割り当てる場合は、次の操作を実行します。ただし、プロジェクトの割り当てはいつでも行うことができます。
  - a [割り当て]をクリックします。[プロジェクトの割り当て]ダイアログが開きます。
  - b 既存のプロジェクトのリストから、この新しいプロダクトに割り当てるプロジェクトを選択します。
  - c [OK]をクリックします。
- 7 必要に応じて、プロジェクトをコンテナに割り当てます。コンテナの詳細については、「[\[コンテナ\]セクション](#)」(226ページ)を参照してください。
- 8 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - **保存**: 新しいプロダクトを作成して[新規プロダクト]ダイアログを閉じます。

- **保存してコピー**: 新しいプロダクトを作成し、別の新しいプロダクトを作成するために属性値を保持します。



**注記** 属性が次のプロダクトにコピーされるのは、管理者が属性を定義する際に [コピー時に入力] オプションを選択している場合のみです。「[属性プロパティ](#)」(425 ページ) を参照してください。

- **保存して新規作成**: 別の新しいプロダクトを作成するために、属性値をクリアします。

### プロジェクトの新規作成

プロジェクトを作成すると、同名のカテゴリが作成されます。そのプロジェクト内に作成した要件や、そのプロジェクトにコピーされた要件は、この特別なカテゴリまたはその下のカテゴリに配置されます。

新しいプロジェクトを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 メニューバーの [新規] をクリックし、メニューから [プロジェクト] を選択します。[新規プロジェクト] ダイアログが開きます。
- 2 必要に応じて、サブカテゴリを選択できます。ただし、サブカテゴリには、以下の制限事項があります。
  - サブカテゴリがプロジェクト自体であってはなりません。
  - プロジェクトのサブカテゴリは、**Project** カテゴリの下にある必要があります。
- 3 [短い名前] を指定します。この短い名前は、分岐オブジェクトのPUID (要件ID) に追加され、一意である必要があります。
- 4 必要に応じて、[説明] を指定します。説明は、分岐ターゲットの選択を含め、プロダクトまたはプロジェクト情報が表示されるたびに表示されます。
- 5 新しいプロジェクトにプロダクトを割り当てるには、次の手順を実行します。
  - a [割り当て] をクリックします。[プロダクトの割り当て] ダイアログが開きます。
  - b リストから、プロジェクトに割り当てるプロダクトを1つ以上選択します。
  - c [OK] をクリックします。
- 6 必要に応じて、プロジェクトをコンテナに割り当てます。コンテナの詳細については、「[\[コンテナ\] セクション](#)」(226 ページ) を参照してください。
- 7 **保存後に閉じる**: プロジェクトを保存して閉じる場合は、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、保存後もプロジェクトは編集用に開いたままになります。
- 8 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - **保存**: 新しいプロジェクトを作成して [新規プロジェクト] ダイアログを閉じます。
  - **保存してコピー**: 新しいプロジェクトを作成し、別の新しいプロジェクトに入力するために属性値を保持します。



**注記** 属性が次のプロジェクトにコピーされるのは、管理者が属性を定義する際に [コピー時に入力] オプションを選択している場合のみです。「[属性プロパティ](#)」(425 ページ) を参照してください。

- **保存して新規作成**: 属性値をクリアして、新しいプロジェクトを作成します。

## プロダクトまたはプロジェクトの編集

プロダクトまたはプロジェクトカテゴリのどちらかを強調表示すると、メインメニューバーの下に追加のアイコンが表示されます。



- 選択されたプロダクトまたはプロジェクトの編集ダイアログを開きます。
- [プロダクト/プロジェクト割り当てマトリクス] を開きます。

### 編集ダイアログ

プロダクト/プロジェクトの編集ダイアログでは、説明、短い名前、エンティティ名を変更できます。ユーザーがプロダクト/プロジェクトの構造に慣れている場合、名前の変更は混乱を招く可能性があるため、注意が必要です。

既存のプロジェクトをプロダクトに割り当てることができます。たとえば、コンポーネントを新しいプロダクトで使用するために割り当てたり、プロダクトをプロジェクトに割り当てたりすることができます。これらの割り当ては、[プロダクト/プロジェクトの編集] ダイアログの [割り当て] セクションで行われます。[割り当て] をクリックすると、使用可能な要素の一覧が表示されます。

プロダクトを編集する場合、[割り当て] ダイアログにはデフォルトでプロジェクトがリストされます。ドロップダウンを開いて、プロダクトのリストに切り替えます。プロジェクトとプロダクトのどちらにも割り当てることができます。

リストから、割り当てるプロダクトまたはプロジェクトの横にあるボックスをチェックして、[OK] をクリックします。

### 割り当てマトリクス

プロダクト/プロジェクト割り当てマトリクスは、プロダクトと関連プロジェクトの全体像を示すことを目的としています。

- プロダクトが選択されている場合、[プロダクト/プロジェクト割り当てマトリクス] には、選択したプロダクトのすべてのプロジェクトが表示されます。
- プロジェクトが選択されている場合、[プロダクト/プロジェクト割り当てマトリクス] には、選択したプロジェクトのすべてのプロダクトが表示されます。

### ビューの設定

- 列と行 (プロダクトとプロジェクト) を交換します。
- **すべて表示** ([スコープ] メニュー内): すべてのプロダクトとすべてのプロジェクトの割り当てマトリクスを表示します。
- [タイトル] または [短い名前]: プロダクトとプロジェクトの名前として、完全名 (できるだけ長い名前) と短縮名のどちらを表示するかを選択します。

### 共有要件の表示

[共有要件] ダイアログを開くには、**プロダクト**と**プロジェクト**が交差する表のセルをクリックします。共有要件の完全なリストが表示されます。各列の上部にフィルターがあります。

### 使用可能なラベルスペースのサイズ変更

プロダクトの名前またはプロジェクトの名前の長さによっては、デフォルトのスペースが小さすぎる場合があります。必要に応じて、ラベルが占めるスペースのサイズを変更できます。

使用可能なラベルスペースのサイズを変更するには、次の手順に従います。

- 1 マトリクスの左 (行の場合) または上 (列の場合) の境界にマウスポインターを移動します。マウスポインターが両矢印に変わります。
- 2 マウスの左ボタンを押したまま、マウスポインターを移動して、使用可能なスペースを増減させます。
- 3 完了したら、マウスの左ボタンを放します。

## 1つの要件の分岐

作業中のプロジェクトから既存のプロダクトに、作業中のプロダクトから関連するプロジェクトに要件を分岐することができます。[提供] ダイアログに列挙されている分岐対象は、オブジェクトの位置に基づいています。

1つの要件を分岐するには、次の手順を実行します。



**注記** [提供] ダイアログのProjectまたはProductクラスに表示される属性は、クイック検索でProjectクラスとProductクラスのために選択された属性を使用します (「[クイック検索の設定](#)」(92ページ) を参照)。

- 1 要件を編集用を開きます (「[要件の編集](#)」(194ページ) を参照)。
- 2 [分岐で使用] セクションを展開します。
- 3 [提供] をクリックして [提供] ダイアログを開きます。
- 4 表示されたリストから、オブジェクトを分岐させるプロダクトまたはプロジェクトを選択します。
- 5 分岐されたオブジェクトにリンクを含める場合は、[リンク付き提供] をチェックします。特定のリンクのみを提供したい場合は、[リンクの選択] ボタンを利用できます。
- 6 [OK] をクリックします。これにより、要件が直ちに分岐します。この要件に関連付けられた未保存の変更は、分岐バージョンには含まれません。新しく分岐したオブジェクトに未保存の変更が含まれている場合は、新しい分岐を強調表示して [同期] を選択します。

## 分岐からの1つの要件の削除

どのカテゴリのオブジェクトでも、分岐に含まれる項目を分岐内で削除済みとしてマークできます。

提供された項目を削除済みとしてマークするには、次の手順を実行します。

- 1 ソースの要件を編集用を開きます (「[要件の編集](#)」(194ページ) を参照)。
- 2 [分岐で使用] セクションを展開します。
- 3 要件を除去するプロジェクトまたはプロダクトを選択します。
- 4 [提供解除] をクリックします。[要件の提供解除] ダイアログが開きます。

- 5 [OK] をクリックします。これにより、要件とプロダクトまたはプロジェクトの間のリンクが直ちに除去されます。要件の現在のステータスが **[削除済み]** に変更されます。



**注記** この要件を、要件を削除したプロジェクトまたはプロダクトに再度追加すると、要件の削除が取り消され、リンクが復元されます。

## 分岐ビュー

[分岐ビュー] ダイアログを使用すると、選択したクラスまたはコンテナからターゲットに対して複数の要件の**提供**、または要件の**提供解除** (分岐された項目を削除済みとしてマーク) が可能です。

選択した要件は分岐ビューから同期することもできますが、複数の要件またはコンテナをマージするには、**同期ビュー**を使用すると最も効果的です。

分岐ビューを開くには、次の手順を実行します。

- 1 メニューバーの [ビュー] をポイントします。
- 2 メニューから [分岐ビュー] を選択します。  
分岐ビューは、次の2つの部分に分かれています。
  - 左側には、ドキュメント、カテゴリの一覧、またはソースプロダクトまたはプロジェクト内の選択したクラスで使用可能な要件の一覧が表示されます。
  - 右側には、ソースに基づいて利用可能なターゲットが表示されます。
- 3 ソースからターゲットへの選択方法には、次のようなものがあります。
  - 選択したカテゴリに含まれるすべてのオブジェクト
  - 選択したドキュメントに含まれるすべてのオブジェクト
  - クラスで強調表示されたアイテム、またはクラスフィルターを使用して収集されたアイテム
- 4 選択した要件をクラスから分岐するには、「[クラスから選択した要件の分岐](#)」(247ページ) を参照してください。
- 5 カテゴリから分岐するには、「[カテゴリのすべての要件の分岐](#)」(248ページ) を参照してください。
- 6 ドキュメントおよびドキュメントの内容を分岐するには、「[ドキュメントからの分岐](#)」(248ページ) を参照してください。

分岐した要件を**分岐ビュー**から同期することもできます。「[分岐ビューからの同期へのアクセス](#)」(251ページ) を参照してください。

複数の要件、カテゴリ、またはドキュメントをマージする場合は、同期ビューをお勧めします (「[同期](#)」(249ページ) を参照)。

### クラスから選択した要件の分岐

左側のリストから1つ以上の要件を選択し、ターゲットリストの上にあるボタンを使用して選択したターゲットに分岐できます。

- 1 メニューバーで、[ビュー] をポイントし、メニューから [分岐ビュー] を選択します。

- 2 [ソース] ボックスで、要件を分岐させるプロダクトまたはプロジェクトを選択します。
- 3 [クラス] セクションを展開します。
- 4 クラスを選択すると、クイック検索スタイルのフィルタリングが適用される場合があります。
- 5 分岐するオブジェクトを強調表示します。
- 6 提供された要件を受け取るプロダクトまたはプロジェクトをターゲットから選択します。
- 7 [提供] をクリックします。選択されたオブジェクトと関連リンクが確認のために表示されます。
- 8 確認し、問題がなければ [OK] をクリックします。

左側のリストで分岐された1つの要件を強調表示すると、右側に追加情報が表示されます。



選択した要件は分岐されています。矢印には向きがあり、プロダクトから下方向への分岐、またはプロジェクトからプロダクトへの上方向への分岐を示しています。



選択した要件または分岐された要件は変更されています。

提供解除は、分岐ビューから使用でき、選択した要件を分岐から削除できます。

### カテゴリのすべての要件の分岐

- 1 メニューバーで、[ビュー] をポイントし、メニューから [分岐ビュー] を選択します。
- 2 [ソース] ボックスで、要件を分岐させるプロダクトまたはプロジェクトを選択します。
- 3 [カテゴリ] セクションを展開します。
- 4 目的のカテゴリを選択します。
- 5 [提供] をクリックします。[カテゴリの内容を提供] ダイアログが開きます。
- 6 提供された要件を受け取るターゲットプロダクトまたはプロジェクトを選択します。
- 7 他の要件へのリンクを保持するには、[リンク付き提供] オプションが選択されていることを確認します。
- 8 ターゲットにサブカテゴリを作成するには、[サブカテゴリの作成] ボックスがチェックされていることを確認します。
- 9 [OK] をクリックします。

### ドキュメントからの分岐

ドキュメント自体を含む、ドキュメントに含まれるすべての要件は、分岐ビューまたはホームビューから分岐できます。

ドキュメントに含まれるすべての要件を分岐ビューから分岐するには、次の手順を実行します。

- 1 メニューバーで、[ビュー] をポイントし、メニューから [分岐ビュー] を選択します。



- 2 [ソース] ボックスで、ドキュメントが含まれているプロダクトまたはプロジェクトを選択します。
- 3 [ドキュメント] セクションを展開します。
- 4 目的のドキュメントを選択します。
- 5 [提供] をクリックします。[ドキュメントの内容を提供] ダイアログが開きます。
- 6 提供された要件のターゲットとなるプロダクトまたはプロジェクトを選択します。
- 7 他の要件へのリンクを保持する場合は、[リンク付き提供] オプションが選択されていることを確認してください。
- 8 [OK] をクリックします。

ドキュメントに含まれるすべての要件をホームから分岐するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューを開き、[ドキュメント] タブを選択します。
- 2 ドキュメントが存在するカテゴリを選択します。
- 3 目的のドキュメントを選択します。
- 4 [アクション] ペインの [ドキュメント] で、[提供] を選択します。
- 5 ダイアログ [プロジェクトにドキュメントの内容を提供してください] で、ターゲットを選択します。
- 6 デフォルトで [リンク付き提供] ボックスがチェックされています。リンクを含めない場合は、このボックスのチェックを外してください。
- 7 [OK] をクリックします。

## 同期

分岐オブジェクトに加えられた変更をマージするには、次のいずれかの方法で実行できます。

- [属性の編集] ダイアログから1つの要件を同期できます。[「\[属性の編集\] ダイアログからの同期へのアクセス」\(250ページ\)](#)を参照してください。
- 分岐されたプロジェクトまたはコンテナは、**分岐ビュー**で一覧を表示し、確認して、個別に同期できます。[「分岐ビューからの同期へのアクセス」\(251ページ\)](#)を参照してください。

完全なプロダクトやプロジェクトを含む、複数の要件の確認とマージは、**同期ビュー**を使用すると最も効率的に実行できます。

### 同期ビューのダイアログ





**注記** 複数の要件を選択してマージする場合、すべてのカスタム要件（ユーザーが編集可能な要件）とワークフロー状態を受け入れることができます。

- 1 メニューバーで、[ビュー] をポイントし、メニューから [同期ビュー] を選択します。
- 2 [ソース] ボックスで、要件のマージ対象のプロダクトまたはプロジェクトを選択します。
- 3 [ターゲット] ボックスから、プロジェクトまたはプロダクトを選択します。選択用にリストされるエントリは、ソースの選択内容によって異なります。





- 4 ソースとターゲットの両方を選択したのち、内容が比較されます。中央の列には変更のタイプが一覧表示され、そのタイプをクリックすると、ソース、ターゲット、またはその両方の変更の詳細を示すダイアログが開きます。
  - **競合** - 要件のセットがソースとターゲットの両方で変更されています。変更内容を確認して、実際に競合する変更（両方で説明が変更されているなど）について競合を軽減し、**[変更の適用]** ボタンをクリックしてマージを実行できます。
  - **新規** - ソースまたはターゲットに要件が追加されました。要件の詳細と、要件を含めるための矢印が両側に表示されます。
  - **変更済み** - ソースまたはターゲットで要件が変更されました。変更内容を含めるための矢印が両側に表示されます。
  - **削除済み** - ソースまたはターゲットのいずれかで要件が削除されました。削除されたオブジェクトは取り消し線付きで表示されます。
  - **変更なし** - ソースまたはターゲットに変更はありません。
- 5 **[詳細の表示]** をクリックして、選択した属性の変更の詳細を表示します（**「分岐/同期ビューの設定」(102ページ)** を参照）。**[詳細の非表示]** は、強調表示された変更を非表示にします。
- 6 次のいずれかを使用して、選択的にマージするか、ターゲットで行われたすべての変更をソースにマージするか、またはソースで行われたすべての変更をターゲットにマージするかを選択できます。
  - マージ対象として1つの要件を選択する場合は、**[<]** または **[>]** 矢印をクリックします。矢印は要件が右または左に同期されることを示します。変更は、**[変更の適用]** ボタンが選択されるまで適用されません。
  - マージ対象としてすべての要件を選択する場合は **[<<]** または **[>>]** をクリックします。矢印は、要件が右と左のどちらの方向に同期されるかを示します。選択すると、矢印の色が変わります。
  - 選択はタイプによって制限される場合があります。**[新規]**、**[変更済み]**、**[削除済み]**、**[競合あり]**、または **[変更なし]** のみを表示するには、1つ以上のボックスを強調表示します。
- 7 変更内容を確認したら、**[変更の適用]** をクリックします。選択したすべての変更が同期されます。

#### **[属性の編集] ダイアログからの同期へのアクセス**

- 1 要件を編集用を開きます（**「要件の編集」(194ページ)** を参照）。
- 2 **[分岐で使用]** セクションを展開します。
- 3 同期させるオブジェクトを強調表示します。
- 4 **[同期]** をクリックして **[同期]** ダイアログを開きます。
- 5 メニューバーで、**[ビュー]** をポイントし、メニューから **[同期ビュー]** を選択します。
- 6 **[ソース]** および **[ターゲット]** ボックスからプロジェクトまたはプロダクトを選択し、**[検索]** を選択します。
- 7 **[同期]** ダイアログの上部で、次のオプションのいずれかを選択します。分岐要件をソースにマージすることも、ソースの変更を分岐要件にマージすることもできます。
  - a **変更の適用先: <REQUIREMENT\_ID> (source):** すべての属性値がソースからターゲットにコピーされます。

- b **変更の適用先: <REQUIREMENT\_ID>.<SHORT\_NAME> (provided):** すべての属性値が分岐オブジェクトからソースにコピーされます。
  - c **変更を無視する:** すべての属性を無効にします。
- 8 属性名の横に  が表示される場合があります。これは、この属性が無効で、同期されないことを意味します。これらの属性を有効にするには、 をクリックします。
  - 9 値が有効な場合、属性名の横に矢印が表示される場合があります。クリックすると、属性の以下のオプションが切り替わります。
    - 変更の適用先: <REQUIREMENT\_ID> (source)
    - 変更の適用先: <REQUIREMENT\_ID>.<SHORT\_NAME> (provided)
    - 変更を無視する
- 10 **[OK]** をクリックします。これですべての変更が適用され、作業は完了となります。

### 分岐ビューからの同期へのアクセス

- 1 メニューバーで、[ビュー] をポイントし、[分岐ビュー] を選択します。
- 2 [ソース] ボックスで、要件のマージ対象のプロダクトまたはプロジェクトを選択します。
- 3 ソースに含まれる要件を表示するには、カテゴリ、ドキュメント、またはクラスを選択して要件の一覧を表示します。検索の補助としてフィルターを適用できます。「[クイック検索による要件の検索](#)」(174ページ) を参照してください。
- 4 [検索] をクリックします。
- 5 右側には、ソースから分岐した要件を含むプロダクトまたはプロジェクトがリストされます。
- 6 左側で、マージする要件を強調表示すると、リストされているすべての分岐の要件のステータスに関する情報が表示されます。
  -  選択した要件は分岐されています。矢印には向きがあり、プロダクトから下方向への分岐、またはプロジェクトからプロダクトへの上方向への分岐を示しています。
  -  選択した要件または分岐された要件は変更されています。
- 7 該当する分岐を選択します。
- 8 [同期] をクリックして [同期] ダイアログを開きます。
- 9 [同期] ダイアログの上部で、次のオプションのいずれかを選択します。
  - a **変更の適用先: <REQUIREMENT\_ID> (source):** すべての属性値がソースからターゲットにコピーされます。
  - b **変更の適用先: <REQUIREMENT\_ID>.<SHORT\_NAME> (provided):** すべての属性値が分岐オブジェクトからソースにコピーされます。
  - c **変更を無視する:** すべての属性を無効にします。
- 10 属性名の横に  が表示される場合があります。これは、この属性が無効で、同期されないことを意味します。これらの属性を有効にするには、 をクリックします。

- 11 値が有効な場合、属性名の横に矢印が表示される場合があります。クリックすると、属性の以下のオプションが切り替わります。
  - 変更の適用先: <REQUIREMENT\_ID> (source)
  - 変更の適用先: <REQUIREMENT\_ID>.<SHORT\_NAME> (provided)
  - 変更を無視する
- 12 [OK] をクリックします。選択した変更が適用されます。

## 調査

調査では、要件に関するフィードバックを特定のユーザーに求めることができます。一般に、調査は、特定の要件を承認すべきかどうかを判断する場合や、要件の内容に関して合意を得る場合に使用します。

調査は、1つの質問、複数の回答、1人以上の参加者で構成されています。適切な権限を持つ場合、RM Browserで調査の作成と変更を行うことができます。調査の参加者は、調査の投票と現在の調査結果の表示のためにRM Browserを使用します。

### 調査の作成






Poll (調査) クラスの「作成」権限を持つユーザーは、調査を作成することができます。調査を作成する前に、スキーマ定義を使用して、Pollクラス、および関連クラスへの関係を追加する必要があります。他のクラスとPollクラスとの間で関係を作成するとき、他のクラスはプライマリクラスに、Pollクラスはセカンダリクラスにする必要があります。

調査を作成するには、次の手順を実行します。

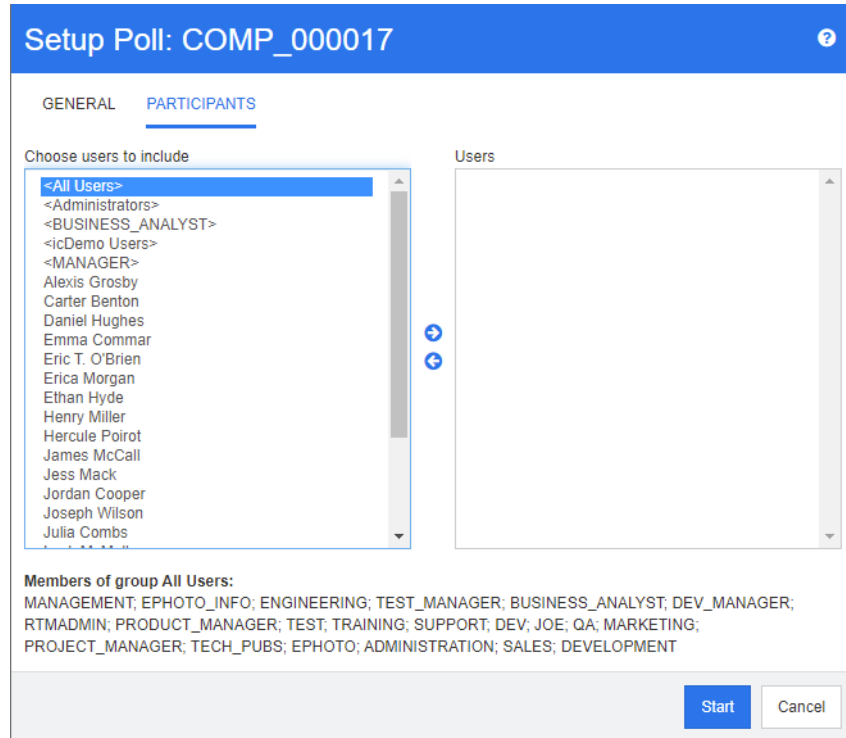
- 1 作業ペインで目的の要件を選択した後に、[アクション] ペインの [要件] セットから [調査のセットアップ] を選択します。[調査のセットアップ] ダイアログが開きます。
- 2 調査のタイトルを入力します。調査のタイトルは一意である必要はなく、他の調査と同じタイトルでもかまいません。
- 3 フィードバックが必要な質問を入力します。
- 4 調査に対して2つ以上の回答を入力します。

指定する回答数に制限はありません。最後の回答フィールドに入力を開始すると、その下に新しい回答フィールドが自動的に作成されます。

The screenshot shows a web interface for setting up a poll. At the top, there's a blue header with the text 'Setup Poll: COMP\_000017' and a help icon. Below the header, there are two tabs: 'GENERAL' (selected) and 'PARTICIPANTS'. Under the 'GENERAL' tab, there are several fields: 'Title' with the value 'Documentation', 'Question' with the text 'What documentation should be included in this package?', and 'Answers' with a list containing 'Getting Started Guide', 'Online Help', and 'Tutorial'. To the right of the 'Answers' list are several control icons: a plus sign, two up/down arrows, and a list icon. At the bottom left, there's a 'Response deadline' field set to 'No deadline' with a calendar icon. At the bottom right, there are 'Start' and 'Cancel' buttons.

- 5 回答の順序を変更するには、次のいずれかを実行します。
  - リストの末尾でなく、選択した回答の上に新しい回答を追加するには、**挿入ボタン**  をクリックします。
  - 回答を削除するには、その回答を選択し、**削除ボタン**  をクリックします。空欄の回答は無視されるため、削除する必要はありません。
  - 選択した回答をリスト内で上下に移動するには、**上矢印ボタン**  と**下矢印ボタン**  をクリックします。
  - 回答をアルファベット順に並べ替えるには、**並べ替えボタン**  をクリックします。
- 6 [回答期限] セクションでは、[期限なし] を選択するか、調査を終了する日時を選択します。  
 選択した日時を過ぎたとき、または調査の作成者が [停止] ボタンをクリックしたとき、あるいは、すべての参加者が投票を終えたとき、調査は終了します。
- 7 [参加者] タブをクリックします。
- 8 調査に参加させるユーザーを選択します。1人以上の参加者が必要です。

ユーザーグループを選択すると、[調査の作成] ダイアログボックスのリストの下にそのメンバーが表示されます。



9 [開始] をクリックして調査を開始します。

### 調査の変更

調査を作成したユーザー、またはPollクラスの「更新」権限を持つユーザーは、既存の調査を変更することができます。すでに有効な調査には、調査の停止、期限の変更、参加者リストへのユーザーまたはグループの追加を行うことができます。ただし、調査のタイトルや質問を変更することはできません。

調査を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [属性の編集] ダイアログボックスまたは [要件] ビューで、[調査] の下の [変更] をクリックします。[調査の変更] ダイアログボックスが開きます。
- 2 調査情報を変更します。
- 3 [変更] をクリックします。

### 調査の終了

調査を終了するには、次の手順を実行します。

- [属性の編集] ダイアログボックスの [調査] の下の [変更] をクリックします。[調査の変更] ダイアログボックスが開きます。
- [停止] をクリックします。  
指定した期限を過ぎた場合、またはすべての参加者が投票した場合も、調査は終了します。

## 投票

Poll (調査) クラスの「閲覧」権限を持つユーザーは、調査に投票することができます。調査の参加者は、[投票] ダイアログボックスで投票を行います。一般に、調査が始まると、[投票] ダイアログボックスへのリンクを示す電子メールメッセージが参加者に送信されます。[投票] ダイアログには、[属性の編集] ダイアログボックスの [調査] セクションから、または [要件] ビューのリストビューからアクセスすることもできます。



**注記** 管理者は、調査に関する電子メール通知を送信する前に、RM Mailサービスを設定して有効にする必要があります。詳細については、『Dimensions RM Administrator's Guide』を参照してください。

投票するには、次の手順を実行します。

- 1 次のいずれかを実行します。
  - 受信した電子メールメッセージのリンクをクリックし、Dimensions RMにログインします。
  - [属性の編集] ダイアログボックスの [調査] セクションまたは [要件] ビューのリストビューの [投票] リンクをクリックします。

[投票] ダイアログボックスが開きます。
- 2 1 つの回答を選択します。調査が設定された要件の詳細や、現在の投票結果を投票前に確認することができます。そのためには、ダイアログボックスの左下にあるリンクをクリックします。
- 3 必要な場合、[追加コメント] セクションにコメントを入力します。
- 4 [投票] をクリックします。

## 調査結果の表示

進行中、またはすでに終了した調査の詳細を表示することができます。現在の調査ステータスは、投票後に表示されます。[属性の編集] ダイアログボックスまたは [要件] ビューのリストビューでも、調査ステータスを表示することができます。

調査結果を表示するには、次の手順を実行します。


- 1 次のいずれかを実行します。
  - 投票します。
  - 投票前に、[投票] ダイアログボックスの下にある [詳細の表示] リンクをクリックします。
  - 要件を編集し、[属性の編集] ダイアログボックスを表示します。
  - [要件] ビューのリストビューに移動します。
- 2 [手順1](#)で第1の方法を使用すると、[調査結果] ダイアログボックスが開きます。
- 3 前の手順で第2～4の方法を使用した場合、ダイアログボックスの [調査] セクションを展開し (まだ展開していない場合)、次に、確認する調査を展開します。
- 4 各回答に投票した参加者と彼らのコメントを表示するには、[詳細の表示] をクリックします。この情報を非表示にするには、[詳細の非表示] をクリックします。

- 5 未投票の参加者のリストを表示するには、[投票していないユーザーを表示] をクリックします。

## [自分の作業] ダッシュボードへのアクティブな調査の追加

調査は、[自分の作業] ダッシュボードの標準装備のレポートである [最近の調査] レポートで表示することができます。

[自分の作業] ダッシュボードに標準装備のレポートを追加するには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 [ダッシュボード] タブを選択します。
- 3 [アクション] ペインの [ダッシュボード] セットから [ウィジェットの追加] を選択します。
- 4 [レポートタイプ] ボックスで [自分の作業] を選択します。
- 5 [最近の調査] を選択し、[保存] をクリックします。

## ディスカッションへの参加

チャプターまたは要件には、コメントを追加できます。コメントでは、要件やチャプターに関するトピックについてディスカッションできます。電子メールや口頭でトピックについてディスカッションするだけでなく、コメントを書きおくことで、承認プロセスなどでいつでもすべてのコメントをレビューできます。コメントの詳細については、「[コメントの操作](#)」(73ページ) を参照してください。

## NLP 複雑性分析

Dimensions RM に実装されている自然言語処理は、Flesch-Kincaid リーダビリティテストに基づきます。テキスト属性の複雑さに基づいて警告またはエラーを表示させることができます。

この機能はシステム管理者が実装する必要があり、いったん実装すると、どのデータベースインスタンスでもアクティブ化することができます。実装に関する手順は、『Administrator's Guide』の「Special Functions in Dimensions RM」を参照してください。

お客様の多くは、テスト環境やテストインスタンスで複雑性分析や類似性分析などの特殊な機能を実装して、ユーザーがこれらの機能を試し、自らのプロセスに与えるメリットを判断できるようにしています。

**複雑性分析をアクティブ化して適用するには、次の手順を実行します。**

NLP 複雑性分析はデフォルトでは無効化されています。この設定は、インスタンス管理者が RM Browser の [管理] メニューで変更できます。

- 1 [管理] > [インスタンス設定] を選択します。
- 2 [要件] タブを選択し、[複雑性分析] までスクロールします。



オプションが [警告] に設定されている場合、要件を保存すると、[要件の編集] フォームに黄色の感嘆符が表示されます。

オプションが [エラー] に設定されている場合、黄色の感嘆符が表示され、ステートメントを修正して許容される複雑さレベルに達するまで、ユーザーは要件を保存できません。

許容される複雑さレベルは、スライダーで設定します。バーを大きい値にするほど、警告は表示されにくくなります。メッセージには、現在の設定に基づいて複雑さレベルが表示されます。

管理者は、[クラスごとの設定] ボタンを選択すると、クラスに基づいて複雑さの警告を設定できます。そのため、複雑さレベルが高くなりそうなクラスの属性に対して、この分析を適用できます。

## NLP 類似性分析

文の類似性やテキストの意味的な類似性を分析するために設計された自然言語処理です。この分析を使用すると、2つのテキストがどの程度類似しているか、つまり、どの程度まで同じ意味を表しているかを測定することができます。

この機能はシステム管理者が実装する必要があり、いったん実装すると、どのデータベースインスタンスでもアクティブ化することができます。実装に関する手順は、『Administrator's Guide』の「Special Functions in Dimensions RM」を参照してください。

お客様の多くは、テスト環境やテストインスタンスで新しい機能を実装し、ユーザーがこれらの機能を試し、自らのプロセスに与えるメリットを判断できるようにしています。

### 類似性分析のアクティブ化

RM Browserの [管理] メニューで次の手順を実行します。

- 1 [管理] > [インスタンス設定] を選択します。
- 2 [要件] タブを選択し、[類似性分析] までスクロールします。
- 3 [有効] の左側にあるボックスをチェックします。

アクティブ化された後、要件の編集ダイアログで [類似の検索] アイコンを選択して要件の類似性をチェックできます。

## リスク管理のアクティブ化


### リスク管理クラスの定義

リスク管理はビジネス分析とシステムエンジニアリングの基本原則であり、その機能は、プロダクトの成果に悪影響を及ぼす可能性のあるリスクを特定、分析、評価することです。

リスク管理を実装するために、新しいクラスタイプ、**Risk**がスキーマ定義で使用できるようになりました。ソリューションで使用するために定義されたすべてのクラスタイプと同様に、このクラスは推奨属性とともに追加されており、属性はローカルプロセスのニーズに合わせて変更することができます。

クラスを作成するには、次の手順を実行します。

新しいクラスの作成については、「[スキーマクラスの作成](#)」(462ページ) で詳細な手順を確認できます。

- 1 [管理] メニューから [スキーマ定義] を選択してインスタンススキーマを開きます (問題がある場合は、「[インスタンススキーマのオープンとロックの解除](#)」(461ページ) を参照してください)。
- 2 スキーマグリッド上で目的の場所を右クリックし、[クラスの追加] を選択します。
- 3 メニューから [**Risk**] を選択します。
- 4 クラス名はデフォルトでクラスタイプに設定されますが、ローカル規則に応じて、Risk\_Mgtなどの名前に変更することも、単に**Risk**のままにすることもできます。
- 5  をクリックしてスキーマ定義を保存します。

デフォルトのRiskクラスには次のユーザー定義属性が含まれています。いずれも変更可能です (「[属性定義](#)」(423ページ) を参照)。このクラスのすべての機能は、[ホーム] ビューの [リスク] タブを含みます。

属性名	説明
Action Taken	リスクを軽減するために実行されたアクションを示すテキスト属性。
Description	リスクを示すテキスト属性。
Mitigation Strategy	リスクの軽減戦略のサマリーを示すテキスト属性。
Occurrence Rating (Initial)	リスクの初期の発生評価を示す数値属性。 1 - 可能性小 2 - 可能性あり 3 - 可能性大
Occurrence Rating (Final)	リスクの最終の発生評価を示す数値属性。 1 - 可能性小 2 - 可能性あり 3 - 可能性大
Potential Causes	失敗の原因となった可能性のある障害を示すテキスト属性。
Potential Effects	失敗から起こりうる影響を示すテキスト属性。
Reason for Change	提案されたオブジェクト変更の理由を示す標準のテキスト属性。変更提案を使用しない場合、今後のプロセス変更に備えて、この属性を非表示にすることを勧めます（「 <a href="#">属性の非表示</a> 」(426ページ)を参照）。
Recommended Action	リスクの優先度数値 (RPN) を減らすために推奨される改善措置 (例: 安全機能の追加) を示すテキスト属性。
Responsible	軽減を担当するユーザーまたはグループを示すユーザー属性。
Severity Rating - Final	リスクの最終の重大度評価を示す数値属性。 1 - 承認可能 2 - 許容可能 3 - 望ましくない 4 - 許容不可
Severity Rating - Initial	リスクの初期の重大度評価を示す数値属性。 1 - 承認可能 2 - 許容可能 3 - 望ましくない 4 - 許容不可
Title	リスクのタイトルまたはサマリーから成る英数字属性。





### リスク管理のレポート作成

[ホーム] ビューには、すべての標準レポート機能に加え、[リスク] タブを追加できます。このタブの定義は [インスタンス設定] で行い、スキーマ定義で定義された属性名を使用します。このタブは、現在のリスクの脅威を計算して表示するために、カラーコーディングを使用するように設計されています。

DOCUMENTS REQUIREMENTS (71) BOARDS (1) RISKS (4) REPORTS COLLECTIONS BASELINES GLOSSARY						
Filter risks...						
Title	Severity Rating - Initial	Occurrence Rating - Initial	Severity Rating - Final	Occurrence Rating - Final	Risk Priority - Initial	Risk Priority - Final
Performance goals...	3	3	2	2	High	Medium
SLA not reached	3	2	2	1	High	Medium
Data loss in integr...	4	2	4	2	Extreme	Extreme
Increasing round-tr...	2	2	2	3	Medium	High

[ リスク ] タブを定義してアクティブ化するには、次の手順を実行します。

- 1 [ 管理 ] > [ インスタンス設定 ] > [ リスク ] を選択します。
- 2 リスクの影響レベルの名前を指定し、そのレベルに対応するカラーバーを使用します。右側のアイコンを使用すると、行の削除や表示の並べ替えを行うことができます。

Name	Color	Description	
Low		Low probability with little or no effect	X ↑ ↓
Medium		Some annoyance, but not critical to the operation	X ↑ ↓
High			X ↑ ↓
Extreme			X ↑ ↓

Severity: Acceptable Intolerable

Little to no effect on event impact to the of action and Could result in disaster

Occurrence:

241 255 51

R G B

**3** マトリクス計算は、初期の発生評価と重大度評価の内容と、最終の発生評価と重大度評価の内容に基づきます。[名前]と[説明]は変更できます。

		× ← →	× ← →	× ← →	× ← →
Severity:		Acceptable	Tolerable	Undesirable	Intolerable
		Little to no effect on event	Effects are felt, but not critical to outcome	Serious impact to the course of action and outcome	Could result in disaster
Occurrence:					
× ↑ ↓	Improbable	Low	Medium	Medium	High
		Risk is unlikely to occur			
× ↑ ↓	Possible	Low	Medium	High	Extreme
		Risk will likely occur			
× ↑ ↓	Probable	Medium	High	High	Extreme
		Risk will occur			



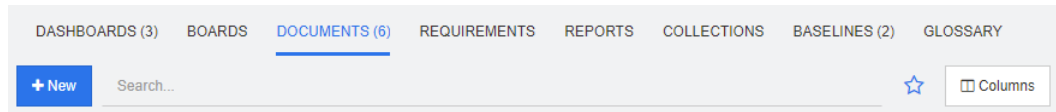
## 第5章

---

# [ホーム] ビューの操作


[ホーム] ビューについて	264
ダッシュボード	265
[ボード] タブ	274
[ドキュメント] タブ	276
[要件] タブ	277
[レポート] タブ	277
[コレクション] タブ	280
[ベースライン] タブ	281
[用語集] タブ	281

## [ホーム] ビューについて



[ホーム] ビューでは、ダッシュボードを実行したり、ドキュメント、要件、レポート、コレクション、ベースライン、用語集エントリにアクセスしたりすることができます。[ホーム] には、次の要素があります。

- **検索:** 検索文字列に一致する項目のみをアクティブタブに表示します。動的な検索であるため、文字を入力するたびに、検索結果が絞り込まれます。全項目の表示に戻すには、[検索] フィールドの文字列を削除するか、[検索] フィールドの **[X]** ボタンをクリックします。
- **タブ:** 各タブのタイトルの数値は、選択したカテゴリに各項目タイプがいくつあるかを示しています。項目をダブルクリックすると、関連する作業ページが開き、項目が表示されます。また、項目を選択し、[アクション] ペインでアクションをクリックする方法もあります。各タブの詳細については、次の各サブセクションを参照してください。

[ホーム] ビューを開くには、メニューバーの  をクリックします。メニューバーの詳細については、「[メニューバー](#)」(26ページ) を参照してください。

[ホーム] で利用可能なタブは、プロセスの目的によって異なります。以下のタブが含まれる可能性があります (詳細については、「[タブ](#)」(84ページ) を参照)。

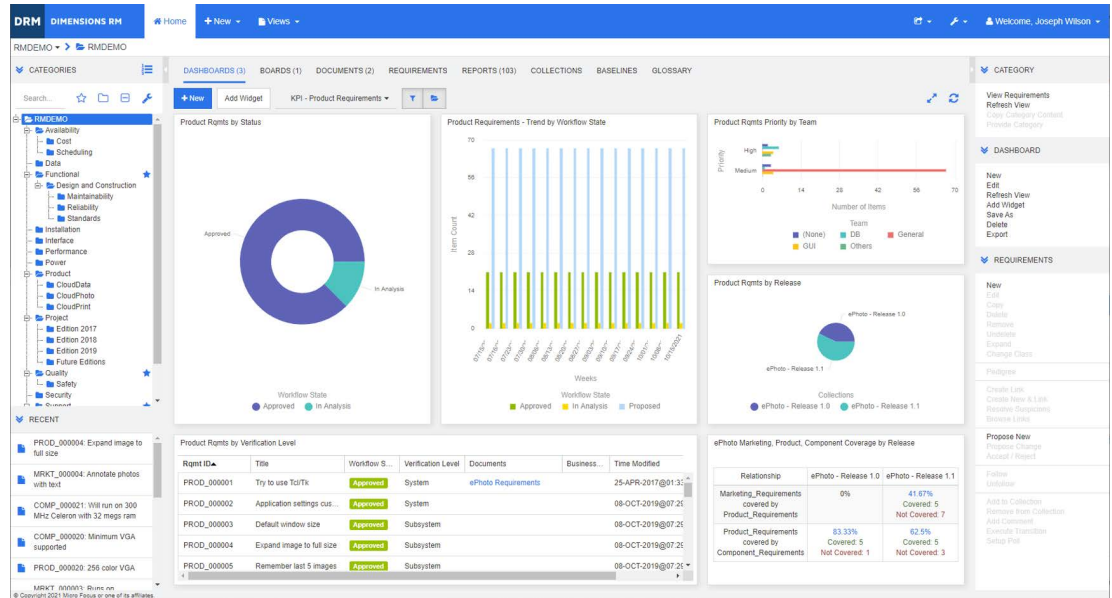
タブ名	説明
ベースライン	[ <a href="#">ベースライン</a> ] タブでは、ベースラインを作成、開く、削除、変更することができます。詳細については、「 <a href="#">[ベースライン] タブ</a> 」(281ページ) を参照してください。
ボード	[ <a href="#">ボード</a> ] タブでは、カンバンレポートを表示するためのボードを作成、変更、削除することができます。詳細については、「 <a href="#">[ボード] タブ</a> 」(274ページ) を参照してください。
コレクション	[ <a href="#">コレクション</a> ] タブでは、コレクションを作成、開く、削除、変更することができます。詳細については、「 <a href="#">[コレクション] タブ</a> 」(280ページ) を参照してください。
ダッシュボード	[ <a href="#">ダッシュボード</a> ] タブでは、ダッシュボードを作成、変更、削除、エクスポートすることができます。詳細については、「 <a href="#">ダッシュボード</a> 」(265ページ) を参照してください。
ドキュメント	[ <a href="#">ドキュメント</a> ] タブでは、ドキュメントを作成、開く、削除、エクスポートすることができます。詳細については、「 <a href="#">[ドキュメント] タブ</a> 」(276ページ) を参照してください。
用語集	[ <a href="#">用語集</a> ] タブでは、用語集のエントリを作成、編集、削除することができます。詳細については、「 <a href="#">[用語集] タブ</a> 」(281ページ) を参照してください。
レポート	[ <a href="#">レポート</a> ] タブでは、レポートを作成、開く、編集、削除すること、およびレポート結果をエクスポートすることができます。詳細については、「 <a href="#">[レポート] タブ</a> 」(277ページ) を参照してください。
要件	[ <a href="#">要件</a> ] タブでは、要件を作成、編集、削除、エクスポートすることができます。詳細については、「 <a href="#">[要件] タブ</a> 」(277ページ) を参照してください。



# ダッシュボード

RMダッシュボードは、RM内で管理されている情報を使用して、パフォーマンスとリリースステータスの概要をプロダクトチームとプロジェクトチームに提供するように設計されています。

チームリーダーは、主要なプロセス指標を扱うダッシュボードや、プロダクトマネジメントチームに固有のステータスを報告するダッシュボードを設定して、ダッシュボードを無制限に追加することができます。





## ダッシュボードの使用方法

ダッシュボードを表示するには、[ホーム] ビューを選択し、[ダッシュボード] タブをクリックします。表示されるダッシュボードは、デフォルトで最後に選択したダッシュボードになります。初めてカテゴリを参照する場合は、デフォルトダッシュボードが表示されます。別のダッシュボードに切り替えるには、[ウィジェットの追加] ボタンの右にあるドロップダウンリストからダッシュボードを選択します。

ダッシュボードのレポートには、画面左側の [カテゴリ] ツリーで選択したカテゴリの要件が使用されます。特定のカテゴリに対して作成されたダッシュボードは、そのカテゴリまたはサブカテゴリ内 (そのボックスがチェックされている場合) でのみ使用できます。

### ダッシュボードデータの制限

フィルターアイコンとフォルダーアイコンを使用すると、ダッシュボードの内容を制御できます。

選択肢	説明
	フィルターアイコンもフォルダーアイコンも選択されていない場合（両方も背景が白の場合）、表示されるデータはすべてのカテゴリから収集されます。
	図のようにフィルターアイコンが選択されている場合、現在選択されているカテゴリでレポートのフィルタリングが有効になります。 フォルダーアイコンも選択されている場合、収集されるデータには、現在選択されているカテゴリとそのサブカテゴリが反映されます。



**注記** 1つ以上のカテゴリの制約があるレポートの場合、その制約が [カテゴリ] ツリーで選択したカテゴリに優先します。


### 【自分の作業】ダッシュボードについて

【自分の作業】ダッシュボードは、事前定義されたレポートを備えたダッシュボードです。新しい Dimensions RM インスタンスが作成されたときにはダッシュボードは存在しないため、ユーザーまたは管理者がダッシュボードを作成する必要があります。

【自分の作業】ダッシュボードでは以下のレポートが利用できます。

- **提案** — [自分をフィルター条件とする] オプションがクリアされている場合（これはデフォルト設定です）、このセクションには、**任意のユーザー**によって作成または更新された提案が表示され、**任意のユーザー**によって新しい要件に関する要求として提出された保留中の提案が表示されます。  
[自分をフィルター条件とする] オプションが選択されている場合、このセクションには、**ログインユーザー**によって作成または変更された提案または**ログインユーザー**によって関連する要件が作成または変更された場所が表示されます。  
組織が提案を使用するプロセスを選択している場合にのみ適用されます。
- **最近のコメント** — 指定された期間内に任意のユーザーによって作成または更新された要件に追加されたコメントが表示されます。
- **最近変更された要件** — 指定された期間内に任意のユーザーによって変更または作成された要件が表示されます。
- **最近の調査** — 指定された期間内に指定された条件に適合する調査が表示されます。

【自分の作業】ダッシュボードを作成するには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 ダッシュボードを作成し、「自分の作業」という名前を付けます（「[ダッシュボードの作成](#)」(268 ページ) を参照）。
- 3 レポートを追加するセクションの [設定] リンクをクリックします。[ウィジェットの編集] ダイアログが開きます。
- 4 [レポートタイプ] ボックスから [自分の作業] を選択します。
- 5 追加するレポートを選択し、[次へ] をクリックします。

- 6 必要に応じて、タイトルを変更します。
- 7 必要または目的に応じて、レポートのパラメーターを指定します。
- 8 [保存] をクリックします。

## ダッシュボードウィジェットの使用法

レポートのタイトルバー上にカーソルを移動すると、次の機能が使用可能になります。



**グラフスタイル:** 表示されるリストから、別のグラフスタイルを選択します。


- ✳ **設定:** [ウィジェットの編集] ダイアログを開きます。このダイアログの機能は、[ウィジェットの追加] ダイアログと同じです。詳細については、「[ダッシュボードへの標準レポートの追加](#)」(269ページ)、「[ダッシュボードへのグラフィカルレポートの追加](#)」(270ページ)、または「[ダッシュボードへのWebサイトの追加](#)」(271ページ)を参照してください。
- 🖱 **全画面:** レポートを全画面表示にします。
- 🔄 **更新:** レポートのデータを更新します。すべてのレポートのデータを更新するには、[アクション] ペインの [ダッシュボード] の下にある [ビューの更新] をクリックします。
- 🗑 **削除:** ダッシュボードからレポートを除去します。

### ウィジェットの移動

選択したダッシュボードの中でレポートを自由に移動できます。移動するには、次の手順を実行します。

- 1 移動するレポートにマウスポインターを移動します。
- 2 タイトルバーをクリックし、マウスボタンを押したままにします。
- 3 レポートを新しい位置に移動します。新しい位置に点線が表示されます。新しい位置にすでにレポートがある場合、そのレポートは別の位置に移動します。
- 4 マウスボタンを放します。

### ウィジェットのサイズ変更

レポートのタイトルバーの [全画面] アイコン  をクリックすると、レポートは全画面表示に変更されます。この方法以外に、次の手順を実行して、レポートを1つ以上のタイルにサイズ変更することもできます。

- 1 サイズ変更するレポートの右下のコーナーにマウスポインターを移動します。マウスポインターが両矢印のポインターに変わります。
- 2 コーナーをクリックし、マウスボタンを押したままにします。
- 3 レポートの拡張先にマウスポインターを移動します。新しい位置にすでにレポートがある場合、そのレポートは別の位置に移動します。
- 4 マウスボタンを放します。

## ダッシュボードの作成

ダッシュボードを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューに移動し、[ダッシュボード] タブをクリックします。
- 2 [ダッシュボード] タブの下の [+ 新規] ボタンをクリックするか、[アクション] ペインの [ダッシュボード] の下にある [新規] をクリックします。[新規ダッシュボード] ダイアログが開きます。



**注記** このダッシュボードは、[カテゴリ] ツリーで選択したカテゴリで（選択した場合はそのサブカテゴリでも）使用できます。

- 3 [タイトル] にダッシュボードのタイトルを入力します。
- 4 ユーザーアカウントに作成（公開）権限がある場合、以下を実行できます。
  - **公開ダッシュボード:** [公開ダッシュボード] オプションを選択すると、他のユーザーがダッシュボードにアクセスできるようになります。このオプションを選択しない場合、作成したユーザーのみがこのダッシュボードにアクセスできます。
  - **表示権限を持つグループ:** このオプションは、[公開ダッシュボード] が選択されている場合にのみ使用できます。このオプションでは、ダッシュボードにアクセスできるグループを選択できます。ダッシュボードにアクセスする権限をすべてのユーザーに付与するには、[すべて] を選択します。選択したグループにはチェックマークが付きます。
  - **編集権限を持つグループ:** このオプションは、[公開ダッシュボード] が選択されている場合にのみ使用できます。このオプションでは、ダッシュボードを編集できるグループを選択できます。ダッシュボードを編集する権限をすべてのユーザーに付与するには、[すべて] を選択します。選択したグループにはチェックマークが付きます。
  - **カテゴリのデフォルトダッシュボード:** このオプションは、[公開ダッシュボード] が選択されている場合にのみ使用できます。[カテゴリのデフォルトダッシュボード] を選択すると、ユーザーが初めてカテゴリを選択する場合にこのダッシュボードが使用されます。
- 5 [サブカテゴリで表示] をチェックすると、ダッシュボードを作成したカテゴリのサブカテゴリで、ダッシュボードにアクセスできます。ルートカテゴリへのアクセス権限を持たないユーザーは、アクセス権限を持つサブカテゴリからダッシュボードにアクセスできます。
- 6 次のレイアウトのいずれかを選択します。



**自由形式:** ダッシュボードの任意の場所にレポートを追加できます。



**タイル9:** 3×3個のタイルのマトリクスを作成します。



**タイル16:** 4×4個のタイルのマトリクスを作成します。



**水平3:** 同一サイズの行を3つ作成します。



**水平2:** 同一サイズの行を2つ作成します。



**水平2/3:** 2行を作成し、1行目をダッシュボードの約2/3の大きさにします。



**水平1/3:** 2行を作成し、1行目をダッシュボードの約1/3の大きさにします。



**垂直3:** 同一サイズの列を3つ作成します。



**垂直2:** 同一サイズの列を2つ作成します。



**垂直2/3:** 2列を作成し、1列目をダッシュボードの約2/3の大きさにします。



**垂直1/3:** 2列を作成し、1列目をダッシュボードの約1/3の大きさにします。



**垂直4:** 同一サイズの列を4つ作成します。

7 [保存] をクリックします。

## ダッシュボードへの標準レポートの追加

標準レポートには、データが表形式で表示されます。自分でレポートを作成する方法については、「[レポートの操作](#)」(285ページ)を参照してください。

ダッシュボードに標準レポートを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューに移動し、[ダッシュボード] タブをクリックします。
- 2 ダッシュボードリストからダッシュボードを選択するか、「[ダッシュボードの作成](#)」(268ページ)の説明に従ってダッシュボードを作成します。
- 3 [ダッシュボード] タブの下の [ウィジェットの追加] ボタンをクリックするか、[アクション] ペインの [ダッシュボード] セットの [ウィジェットの追加] をクリックします。[ウィジェットの追加] ダイアログが開きます。
- 4 [ウィジェットタイプ] ボックスに [レポートの表示] が表示されていることを確認します。
- 5 [カテゴリ] ボックスで、レポートを配置するカテゴリを選択します。

- レポートを選択します。



**ヒント** [レポートタイプ] リストからエントリを選択したり、[タイトルのフィルター] テキストボックスにレポート名の一部を入力したりすると、レポート名を列挙できます。

- ウィジェットの [タイトル] テキストボックスのテキストを変更することで、レポートのタイトルを変更できます。
- 選択したレポートで実行時パラメーターが使用される場合、「[実行時パラメーターを持つレポートの使用方法](#)」(270ページ) を参照してください。
- [保存] をクリックします。

## ダッシュボードへのグラフィカルレポートの追加

グラフィカルレポートには、データが図入りで表示されます。自分でグラフィカルレポートを作成する方法については、「[グラフィカルレポートの作成](#)」(290ページ) を参照してください。

ダッシュボードにグラフィカルレポートを追加するには、次の手順を実行します。

- [ホーム] ビューに移動し、[ダッシュボード] タブをクリックします。
- ダッシュボードリストからダッシュボードを選択するか、「[ダッシュボードの作成](#)」(268ページ) の説明に従ってダッシュボードを作成します。
- [ダッシュボード] タブの下の [ウィジェットの追加] ボタンをクリックするか、[アクション] ペインの [ダッシュボード] セットの [ウィジェットの追加] をクリックします。[ウィジェットの追加] ダイアログが開きます。
- [ウィジェットタイプ] ボックスに [レポートの表示] が表示されていることを確認します。
- [レポートタイプ] リストから [グラフィカル] を選択します。
- [カテゴリ] ボックスで、レポートを配置するカテゴリを選択します。
- レポートを選択します。



**ヒント** [タイトルのフィルター] テキストボックスにレポート名の一部を入力すると、レポート名を列挙できます。

- 必要な場合、レポートのタイトルを変更できます。変更するには、ウィジェットの [タイトル] テキストボックスのテキストを変更します。
- 選択したレポートで実行時パラメーターが使用される場合、「[実行時パラメーターを持つレポートの使用方法](#)」(270ページ) を参照してください。
- [レポートスタイル] タブを選択してレポートのスタイルを選択します。
- [保存] をクリックします。

## 実行時パラメーターを持つレポートの使用方法

一部のレポートは、実行時にデータの入力や選択を求められます。これらの実行時パラメーターは、ダッシュボードにレポートを追加するときに定義する必要があります。レポートに実行時パラメーターがある場合、[レポート] タブの横に [パラメーター] という名前のタブが表示されます。

実行時パラメーターを入力または選択するには、次の手順を実行します。

- 1 [パラメーター] タブを選択します。
- 2 値を入力するか、各パラメーターのリストから選択します。



#### ヒント

- リストパラメーターを使用する場合：  
リストの全エントリを選択または選択解除するには、[すべて選択] または [すべて選択解除] をクリックします。
- カテゴリパラメーターを使用する場合：  
すべてのカテゴリを開く、または閉じるには、[すべて開く] または [すべて閉じる] をクリックします。  
すべてのカテゴリを選択または選択解除するには、[すべてチェック] または [すべてチェック解除] をクリックします。

## ダッシュボードへのカレンダーレポートの追加

カレンダーレポートは、要件の概要をカレンダーシートで表示し、期限の順守に役立ちます。フィルタリングには、ユーザー属性と日付属性を指定する必要があります。ユーザー属性が現在ログインしているユーザーと一致する要件のみが表示されます。

カレンダーレポートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューに移動し、[ダッシュボード] タブを選択します。
- 2 ダッシュボードリストからダッシュボードを選択するか、「[ダッシュボードの作成](#)」(268 ページ)の説明に従ってダッシュボードを作成します。
- 3 [ダッシュボード] タブの下の [ウィジェットの追加] ボタンをクリックするか、[アクション] ペインの [ダッシュボード] セットの [ウィジェットの追加] をクリックします。[ウィジェットの追加] ダイアログが開きます。
- 4 [ウィジェットタイプ] ボックスに [レポートの表示] が表示されていることを確認します。
- 5 [レポートタイプ] ボックスから [自分の作業] を選択します。
- 6 レポートリストから、[カレンダー] を選択します。
- 7 [次へ] をクリックします。
- 8 要件を検索するカテゴリを選択します。
- 9 [クラスの入力] ボックスから、結果リストに含める要件クラスを選択します。
- 10 [ユーザーの入力] ボックスで、ユーザー属性を選択します。
- 11 [日付の入力] ボックスで、日付属性を選択します。
- 12 [ビューの入力] オプションから、[週] または [月] を選択し、表示モードを指定します。
- 13 [保存] をクリックします。

## ダッシュボードへのWebサイトの追加

ダッシュボードには、レポートの代わりにWebサイトを追加することもできます。Webサイトのプロトコルは、httpまたはhttpsにする必要があります。ftpやgopherなどの他のプロトコルはサポートされていません。

ダッシュボードにWebサイトを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューに移動し、[ダッシュボード] タブをクリックします。
- 2 ダッシュボードリストからダッシュボードを選択するか、「[ダッシュボードの作成](#)」(268ページ)の説明に従ってダッシュボードを作成します。
- 3 [ダッシュボード] タブの下の [ウィジェットの追加] ボタンをクリックするか、[アクション] ペインの [ダッシュボード] セットの [ウィジェットの追加] をクリックします。[ウィジェットの追加] ダイアログが開きます。
- 4 [ウィジェットタイプ] ボックスから [Webサイトの表示] を選択します。
- 5 WebサイトのURLを入力します。



**重要!** URLの先頭には、プロトコル (<http://>または<https://>) を入力してください (例: <https://www.opentext.com>)。

プロトコルを入力しない場合、Webサイトの代わりにエラーメッセージがダッシュボードに表示されます。

- 6 Webサイトのタイトルをウィジェットの [タイトル] テキストボックスに入力します。
- 7 [保存] をクリックします。

## ダッシュボードのコピー

ダッシュボードをコピーするときには、次のプロパティを設定できます。

- **タイトル:** ダッシュボードのタイトル。
- **公開範囲:** 管理者は、[公開] と [非公開] のどちらかを選択できます。
  - [公開] は、他のユーザーがこのダッシュボードにアクセスできることを意味します。
  - [非公開] は、作成したユーザーのみがこのダッシュボードにアクセスできることを意味します。
- **サブカテゴリで表示:** このチェックボックスがチェックされている場合、ダッシュボードを作成したカテゴリのサブカテゴリでダッシュボードにアクセスできます。

ルートカテゴリへのアクセス権限を持たないユーザーは、アクセス権限を持つサブカテゴリからダッシュボードにアクセスできます。

ダッシュボードをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューに移動し、[ダッシュボード] タブをクリックします。
- 2 ダッシュボードリストからダッシュボードを選択します。
- 3 [アクション] ペインの [ダッシュボード] セットの [名前を付けて保存] をクリックします。
- 4 [タイトル] に新しいタイトルを入力します。
- 5 必要に応じて、[公開範囲] と [サブカテゴリで表示] を選択します。
- 6 [保存] をクリックします。

## ダッシュボードの編集

ダッシュボードの変更は履歴が管理されており、[ダッシュボードの編集] ダイアログの [履歴] タブを選択することで確認できます。



ダッシュボードを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 **[ホーム] ビュー**に移動し、**[ダッシュボード]** タブをクリックします。
- 2 編集するダッシュボードを開きます。
- 3 **[アクション]** ペインの **[ダッシュボード]** セットの **[編集]** をクリックします。**[ダッシュボードの編集]** ダイアログが開きます。
- 4 必要に応じてダッシュボードを変更します。オプションの詳細については、「**ダッシュボードの作成**」(268ページ)を参照してください。
- 5 **[保存]** をクリックします。

## ダッシュボードの削除

ダッシュボードの削除は取り消しができないので注意してください。

ダッシュボードを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 **[ホーム] ビュー**に移動し、**[ダッシュボード]** タブをクリックします。
- 2 ダッシュボードリストから、削除するダッシュボードを選択します。
- 3 **[アクション]** ペインの **[ダッシュボード]** セットの **[削除]** をクリックします。
- 4 **[ダッシュボードの削除]** ダイアログで削除を確認します。

## ダッシュボードのエクスポート

ダッシュボードのエクスポート機能を使用すると、すべてのグラフィカルウィジェットをPowerPointのプレゼンテーションやPDFドキュメントにエクスポートできます。他のすべてのウィジェットタイプは無視されます。エクスポート機能では、エクスポートの設定を指定できません。エクスポートの設定は、『Administrator's Guide』で説明されているように、サーバー上で設定されます。

ダッシュボードをエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 **[ホーム] ビュー**に移動し、**[ダッシュボード]** タブを選択します。
- 2 ダッシュボードリストから、エクスポートするダッシュボードを選択します。
- 3 **[アクション]** ペインの **[ダッシュボード]** セットの **[エクスポート]** をクリックします。**[ダッシュボードのエクスポート]** ダイアログが開きます。
- 4 **[ダッシュボードのエクスポート先]** リストから、目的のフォーマットを選択します。
- 5 **[エクスポート]** をクリックします。

### ダッシュボードURLの作成

この操作では、現在のユーザーが作成したダッシュボードと同じダッシュボードを生成できるURLを作成し、配布することができます。権限が適切であれば、すべてのカテゴリ設定を含め、ダッシュボードの内容は同一になります。

直接URLを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **[ホーム] ビュー**を開きます(まだ開いていない場合)。**[ホーム] ビュー**の詳細については、「**[ホーム] ビューの操作**」(263ページ)を参照してください。

- 2 [ダッシュボード] タブを選択します。
- 3 目的のダッシュボードを選択します。
- 4 [アクション] ペインの [ダッシュボード] セットで [直接URLの作成] をクリックします。[直接URL] ダイアログが開きます。
- 5 URLを右クリックし、[リンクのアドレスをコピー] を選択して、URLをクリップボードにコピーします。
- 6 [閉じる] をクリックしてダイアログを閉じます。
- 7 Ctrl+Vキー、または関連するアプリケーション固有のメニューコマンドを使用して、URLをファイルまたはメッセージに貼り付けます。

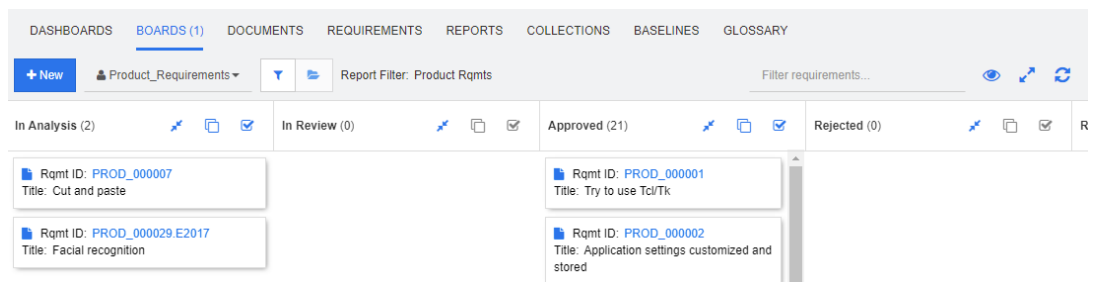
## デフォルトダッシュボード

公開ダッシュボードの作成や編集を行う際に、選択したカテゴリのデフォルトダッシュボードとしてダッシュボードを定義できます。その結果、ユーザーがカテゴリを選択すると、このダッシュボードが表示されます。ユーザーは、デフォルトを別の公開ダッシュボードまたは独自に作成したダッシュボードにリセットすることを選択できます。


ダッシュボードの作成および編集の詳細については、「[ダッシュボードの作成](#)」(268ページ) および「[ダッシュボードの編集](#)」(272ページ) を参照してください。

## [ボード] タブ

[ボード] タブでは、カンバンレポートを追加することができます。ボードを無制限に追加することができます、それぞれに1つのカンバンレポートがあります。カンバンレポートは、クラスレポート（「[クラスレポートの作成](#)」(289ページ) を参照）からデータを取得し、ワークフローが定義されたすべてのクラスで使用できます（ワークフローについては、「[ワークフロー](#)」(185ページ) を参照）。



### ボードへのアクセスと切り替え




利用可能なボードには、[新規] ボタンの右側にあるドロップダウンリストからアクセスできます。 アイコンは、プライベートボードを示します。

カテゴリは通常、フォルダーと同様に、プロジェクトに関連する要件を保存するために使用されます。カンバンレポートは通常、1つのカテゴリに保存され、そこから実行されます。また、そのフォルダーとその下のフォルダーのデータが含まれます。

カンバンレポートでは、要件を複数選択できます。複数選択の詳細については、「[複数の要件の選択](#)」(39ページ) を参照してください。

### レポートデータの制限

[カテゴリ] ツリーのカテゴリに基づいてレポート結果を制限するには、次のカテゴリフィルターオプションのいずれかを選択します。

- : ボードに、すべてのカテゴリのデータが表示されます。
- : [カテゴリ] ツリーのカテゴリに一致するデータのみがボードに表示されます。
- : ボードに、[カテゴリ] ツリーで選択したカテゴリとそのサブカテゴリのデータが表示されます。



**注記** 1つ以上のカテゴリの制約があるレポートの場合、[カテゴリ] ツリーで選択したカテゴリは無効になります。その結果、レポートには、カテゴリ制約に一致するすべての要件が表示されます。

## ボードの作成

カンバンボードを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューに移動し、[ボード] タブを選択します。
- 2 [ボード] タブの下の [+ 新規] ボタンをクリックするか、[アクション] ペインの [ボード] セットの [新規] をクリックします。[新規ボード] ダイアログが開きます。



**注記** このボードは、[カテゴリ] ツリーで選択したカテゴリで (選択した場合はそのサブカテゴリでも) 使用できます。

- 3 [タイトル] にボードのタイトルを入力します。
- 4 ボードを作成するクラスを選択します。ワークフローがあるクラスのみが選択できることに注意してください。
- 5 カンバンボードを作成する状態を選択します。
- 6 レポートのリストをフィルタリングするには、検索にレポート名の一部を入力します。
- 7 レポートを選択します。
- 8 ユーザーアカウントに**作成 (公開)** 権限がある場合、[公開ボード] オプションを選択できます。このオプションを選択すると、他のユーザーもこのボードにアクセスできます。このオプションを選択しない場合、作成したユーザーのみがこのボードにアクセスできます。  
[公開ボード] オプションを選択すると、[表示権限を持つグループ] リストと [編集権限を持つグループ] リストが表示されます。ダッシュボードの表示または編集を可能にするグループを選択します。
  - a (ボードを表示または編集する) 権限をすべてのグループに付与するには、[すべて] を選択します。
  - b (ボードを表示または編集する) 権限を特定のグループに付与するには、対象のグループを選択します。これらのグループにはチェックマークが付きます。
- 9 **サブカテゴリで表示:** チェックされている場合、ボードを作成したカテゴリのサブカテゴリでボードにアクセスできます。  
  
ルートカテゴリへのアクセス権限を持たないユーザーは、アクセス権限を持つサブカテゴリからボードにアクセスできます。
- 10 [保存] をクリックします。

## ボードの削除

ボードの削除は取り消しができないので注意してください。

ボードを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューに移動し、[ボード] タブを選択します。
- 2 ボードリストから、削除するボードを選択します。
- 3 [アクション] ペインの [ボード] セットの [削除] をクリックします。
- 4 [ボードの削除] ダイアログで削除を確認します。

## [ドキュメント] タブ

Name	Time Created	Time Modified	Modified By
Copy of ePhoto Requirements	29-JUL-2020@02:15:26	29-JUL-2020@02:15:45	Ryan Forbes
ePhoto Requirements	18-MAY-2006@00:00:00	24-FEB-2021@05:40:54	Ryan Forbes
ePhoto Requirements 0.1	10-JUL-2018@03:19:08	10-JUL-2018@03:19:08	Ryan Forbes
Photos In the Cloud (Parent)	23-MAR-2016@12:08:50	08-OCT-2019@07:32:22	Joseph Wilson
Cloud Family Photos (Child)	23-MAR-2016@12:20:05	28-JUL-2020@06:30:12	Joseph Wilson
Photo Travel (Child)	23-MAR-2016@12:25:10	08-OCT-2019@07:32:22	Joseph Wilson

現在選択されているカテゴリのRMドキュメントを [検索] フィールドでフィルタリングし、アルファベット順に並べたリストです。ドキュメントは次のアイコンで示されます。

- は、ドキュメント、親ドキュメント、または子ドキュメントを示します。
- は、削除されたドキュメントまたはスナップショットを示します。
- はスナップショットを示します。

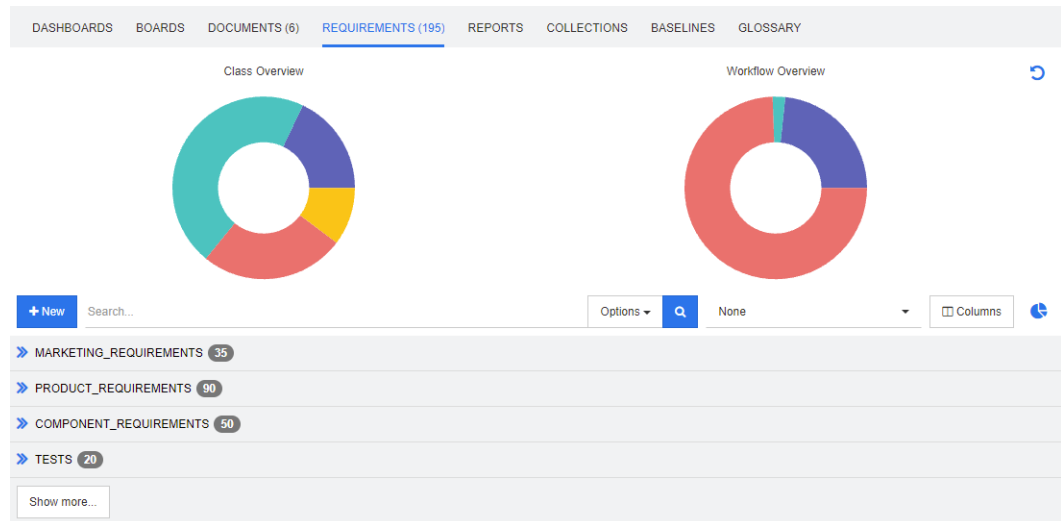
**お気に入り:** [お気に入り] オプションを選択すると、お気に入りのドキュメントのみが表示されます。

**プロパティ:** [プロパティ] ダイアログが開きます。ドキュメントに関連する属性 (カスタム属性も含む) を選択して、[ホーム] ビューに表示できます。

**▶:** ドキュメントにスナップショットまたは子ドキュメントがある場合、▶ をクリックするとこれらに直接アクセスできます。ドキュメントで多くのスナップショットを使用していて、[ホーム] ビューで最新のスナップショットのみを表示する必要がある場合は、「ドキュメント: 最も新しいスナップショットだけを表示する」(85ページ)の説明に従って、[最も新しいスナップショットだけを表示する] 設定を変更します。

項目をダブルクリックすると、ドキュメントの作業ページが開き、項目が表示されます。また、項目を選択し、[アクション] ペインでアクションをクリックする方法もあります。第3章「ドキュメントの操作」(107ページ)を参照してください。

## [要件] タブ



[要件] タブでは、選択したカテゴリのすべての要件にすばやくアクセスできます。これらの要件は、[検索] ボックスでフィルタリングできます。また、クイック検索を使用して保存したフィルターの1つを選択することもできます。

[要件] タブはクイック検索に似ていますが、次の点が異なります。

- あるセクションを展開すると、他のセクションはすべて非表示になります。そのセクションを折りたたむと、非表示のセクションは再度表示されます。
- サブカテゴリを含めるには、[カテゴリ] ペインのアイコンバーでフォルダーを開きます。フォルダーアイコンは、選択したカテゴリに表示を限定するか、サブカテゴリのコンテンツを含めるかを切り替えます。
- 表示される列は、クイック検索の列と同じです。詳細については、「[クイック検索の設定](#)」(92 ページ) を参照してください。





特定の属性で検索する場合は、クイック検索を使用します（「[クイック検索による要件の検索](#)」(174 ページ) を参照）。

## [レポート] タブ









このセクションでは、[ホーム] からのレポートの一覧表示、選択、実行について説明します。レポートの作成、編集、実行に関する詳細については、「[レポートの作成](#)」(289 ページ) を参照してください。

レポートを使用すると、クラス、カテゴリ、属性（システムまたはカスタム）、または関係に基づいてオブジェクトをフィルタリングできます。すべてのデータをレポートの作成時に定義することもできますが、選択した属性を実行時に入力することもできます。レポートには名前と説明が割り当てられ、保存されます。レポートはすべて [レポート] タブに一覧表示され、再利用できます。

[レポート] メニューバーから次のアイコンを使用できます。

- 新規 レポートの新規作成
- 検索 一覧表示されたレポートをフィルタリングします。
- ☆ クリックすると、お気に入りのみが表示されます。
-  クリックすると、公開レポートのみが表示されます。
-  クリックすると、プライベートレポートのみが表示されます。
-  クリックすると、すべてのレポートが一覧表示され、選択したタブで並べ替えることができます。
-  クリックすると、レポートがタイプ別に一覧表示されます。

表示には次のアイコンが使用されます。

-  クラスレポート
-  クラス分布レポート
-  クラストレンドレポート
-  関係レポート
-  関係マトリクスレポート
-  トレーサビリティレポート
-  トレーサビリティカバレッジレポート
-  現在のユーザーが作成したレポート

### レポートの実行

項目をダブルクリックして実行します。また、項目を選択し、[アクション] ペインでアクションをクリックすることもできます。第6章「レポートの操作」(285ページ)を参照してください。

### [タイプ別レポート] モード

現在選択されているカテゴリに含まれているレポートをアルファベット順に並べたリストです。レポートは、レポートタイプ別に列で表示されます。クラス、関係、トレーサビリティの列に分かれています。列タイトルをクリックすると、列を並べ替えることができます。




Class Reports		Relationship Reports		Traceability Reports	
Name	Class	Name		Name	
All Current Comp...	Component_Req...	All Current Discussions		Component Requirement Defects	
All Current Data ...	Component_Req...	Comp Rqmts Changed Since Date - Count		Component Requirement Tests	
All Current Defects	Defects	Component Rqmts History Back		Component Requirements Design	

### [すべてのレポート] モード

現在選択されているカテゴリのレポートをアルファベット順に並べたリストです。[すべてのレポート] モードでは、表示する列を選択できます。さまざまなレポートタイプ (クラス、関係、トレーサビリティ) は、[タイプ] 列で区別されます。[クラス] 列には要件タイプが含まれます。

Name ▲	Type	Class	Description	Created By
All Current Component Requir...	Class	Component_Requirements	This script reports all the curre...	Ryan Forbes
All Current Data Comp Require...	Class	Component_Requirements	All current component require...	Ryan Forbes
All Current Defects	Class	Defects		Ryan Forbes
All Current Design Items	Class	Design		Ryan Forbes
All Current Discussions	Relationship		This script reports all current Di...	Ryan Forbes
All Current Marketing Rqmts	Class	Marketing_Requirements	This script reports all the curre...	Ryan Forbes
All Current Product Rqmts	Class	Product_Requirements		Ryan Forbes

表示列を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 列アイコン  をクリックすると、[レポートのプロパティ] ダイアログが開きます。
- 2 表示する列を追加し、非表示にする列を削除します。
- 3 [OK] をクリックします。



#### ヒント

- [ポイントしたときにレポートツールチップを表示] ボックスをチェックすると、レポートの説明が表示されます。選択できるレポートが多数ある場合、明確な説明が表示されると非常に便利です。

#### お気に入りレポート

簡単にアクセスできるように、レポートをお気に入りレポートとしてマークすることができます。使用頻度の高いレポートにすばやくアクセスできます。各ユーザーが自身のお気に入りを定義できます。

レポートをお気に入りレポートとしてマークするには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューを開きます。
- 2 レポートを配置するカテゴリを選択します。
- 3 [レポート] タブを選択します。
- 4 レポート名上にマウスポインターを移動します。レポート名の横の星印をクリックします。

お気に入りからレポートを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューを開きます。
- 2 レポートを配置するカテゴリを選択します。
- 3 [レポート] タブを選択します。
- 4 レポート名の横の星印をクリックします。

#### レポートのフィルタリング

次のフィルターの1つ以上を使用してレポートをフィルタリングすることができます。

- **検索:** [検索] ボックスにテキストを入力します。入力したテキストが名前に含まれるレポートのみが表示されます。[検索] は、他のすべてのオプションと組み合わせることができます。

- **お気に入り:** 選択すると、お気に入りレポートが表示されます。[お気に入り] は、[公開レポート] または [自分のレポート] と組み合わせて使用できます。
- **公開レポート:** 選択すると、公開レポートが表示されます。
- **自分のレポート:** 選択すると、ログインユーザーによって作成されたレポートが表示されます。

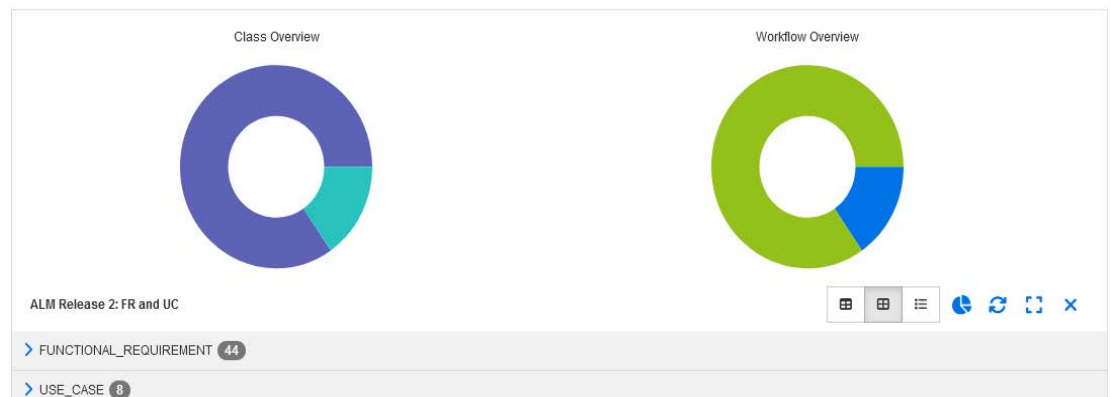
## [コレクション] タブ

コレクションは、1つ以上のクラスから選択されたオブジェクトの名前付きグループです。コレクションにより、割り当て、レビュー、ベースライン作成に必要な要件を簡単に収集することができます。Dimensions RMのすべてのコンテナと同様に、コレクションには要件のコピーは含まれず、要件のバージョン (通常は最新バージョン) へのリンクが含まれます。

コレクションの作成とメンテナンスに関する詳細については、「[コレクション内の要件の管理](#)」(320 ページ) を参照してください。リスト内の情報には、コレクション名、コレクションに含まれるオブジェクトの数が含まれます。[列] タブを使用して、表示される属性や並べ替え順を変更します。

Name	Time Created	Time Modified	Modified By
Engineering Hot List	4 02-MAY-2003@00:15:47	19-FEB-2018@13:58:51	Carter Benton
ePhoto - Release 1.0	19 25-NOV-2014@08:11:32	23-FEB-2021@06:46:34	Ryan Forbes
ePhoto - Release 1.1	25 25-NOV-2014@08:24:59	19-FEB-2018@13:59:24	Ryan Forbes
Ephoto Hot List	9 02-MAY-2003@00:15:21	19-FEB-2018@13:59:33	Carter Benton
Hot Lists (Parent)	10 23-FEB-2021@06:19:52	23-FEB-2021@06:19:52	Ryan Forbes
Marketing Hot List	3 02-MAY-2003@00:00:00	19-FEB-2018@13:59:42	Carter Benton
Marketing Requirements for Build1	9 19-FEB-2018@14:33:05	19-FEB-2018@14:33:05	Ryan Forbes
Sales Hot List	3 02-MAY-2003@00:00:00	19-FEB-2018@13:59:51	Carter Benton
Scoping	126 06-JUL-2005@00:00:00	19-FEB-2018@13:59:58	Ryan Forbes
Support Hot List	3 02-MAY-2003@00:15:53	19-FEB-2018@14:00:06	Carter Benton
User	68 01-MAY-2003@22:53:39	19-FEB-2018@14:00:20	Carter Benton

項目をダブルクリックすると、コレクションの作業ページの内容が表示されます。また、項目を選択し、[アクション] ペインからアクションをクリックする方法もあります。



開いているコレクションでは、[編集可能なグリッド]、[グリッド]、または [フォームビュー] を選択できます。[概要グラフ] には、クラスの概要と、関連する場合は [ワークフローの概要] が表示されます。表示は、更新、展開、または X を使用して閉じることができます。

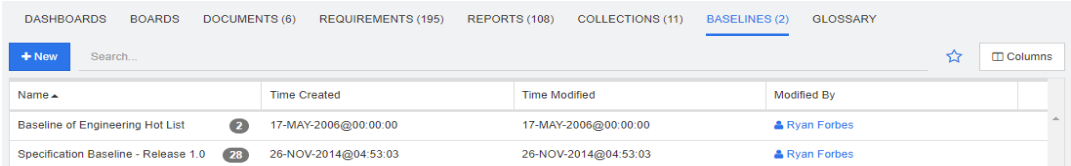


親コレクション (「(親)」サフィックスで識別) には、コレクション、ベースライン、ドキュメント、またはスナップショットを含めることができます。親コレクションの詳細については、「[親コレクションについて](#)」(327ページ) を参照してください。

## [ベースライン] タブ

ベースラインは、凍結されたオブジェクトのグループです。コレクションまたはドキュメント内の内容を使用して作成されます。一度作成した内容は変更できません。

以下は、選択したカテゴリのベースラインをアルファベット順に並べたリストです。



Name	Time Created	Time Modified	Modified By
Baseline of Engineering Hot List	17-MAY-2006@00:00:00	17-MAY-2006@00:00:00	Ryan Forbes
Specification Baseline - Release 1.0	26-NOV-2014@04:53:03	26-NOV-2014@04:53:03	Ryan Forbes

ベースラインを開くには、ベースラインリスト内の項目をダブルクリックするか、[アクション] ペインにあるベースラインアクションから [開く] を選択します。個々のベースライン項目を表示したり、ベースライン自体をエクスポートしたり、そのプロパティを変更したりできます (ただし、その内容は変更できません)。

リストから2つの項目を選択して比較することができます。これは、レビューやリリースの前に何が変更されたかを理解するのに最適な方法です。「[ベースラインおよびコレクション関連の機能](#)」(330ページ) を参照してください。

ベースラインに関する追加情報を表示するには、「[ベースラインの管理](#)」(325ページ) を参照してください。

## [用語集] タブ

アプリケーション、製品、または企業レポートで 사용되는用語をアルファベット順に並べたリストで、Dimensions RM内で作成および管理されます。「[用語集](#)」タブは、インスタンス管理者が「[クラスの定義](#)」(463ページ) で説明されている手順に従ってGlossaryクラスを作成した場合にのみ使用できます。

- 用語集エントリを追加するには、「[用語集エントリの追加](#)」(282ページ) を参照してください。
- 用語集エントリをコピーするには、「[用語集エントリのコピー](#)」(283ページ) を参照してください。
- 用語集エントリを編集するには、「[用語集エントリの編集](#)」(283ページ) を参照してください。
- 用語集エントリを移動するには、「[用語集エントリの移動](#)」(283ページ) を参照してください。
- 用語集エントリを削除するには、「[用語集エントリの削除](#)」(284ページ) を参照してください。
- 用語集の拡張情報を表示するには、「[拡張情報の表示](#)」(284ページ) を参照してください。

## 用語集エントリの追加

- 1 [用語集] タブの左上のコーナーにある [新規] をクリックするか、[アクション] ペインの [用語集] の下にあるアクション [新規] をクリックします。[用語集] タブの詳細セクションが空の入力フォームに変わります。
- 2 用語集で説明を定義する語句を [用語] ボックスに指定します。
- 3 [説明] ボックスに用語集の定義を入力します。
- 4 [同義語] ボックスには用語の代替語を入力できます。エントリ間を区切るには、カンマを使用します。
- 5 [グループ] ドロップダウンから、関連する属性グループを選択します。  
用語は、企業用語や特定の製品に関連する用語など、属性グループに分けることができます。Glossaryクラスのグループ属性に項目を追加するには、「[属性定義](#)」(423 ページ) を参照してください。
- 6 [非推奨] オプションがチェックされている場合は、ドキュメントで次のような処理が行われます。
  - その用語は用語集チャプターには含まれません。
  - 用語集の強調表示が有効になっている場合、その用語には赤色のマークが付きます。

[非推奨] エントリの説明には、この用語を使用すべきではない理由を記載してください。
- 7 **サブカテゴリで表示:** チェックされている場合 (通常はデフォルトでチェックされている)、エントリを定義したカテゴリのサブカテゴリで用語集エントリにアクセスできます。  
ルートカテゴリへのアクセス権限を持たないユーザーは、アクセス権限を持つすべてのサブカテゴリからエントリにアクセスできます。
- 8 [保存] をクリックします。

## 用語集エントリのコピー

用語集エントリの一部が同一の場合、その部分を新しいエントリに手動でコピーする代わりに、1つまたは複数のエントリをコピーして編集する方法を選択できます。

用語集エントリをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 リストから1つまたは複数の用語集エントリを選択します。
- 2 [アクション] ペインの [用語集] セットの [コピー] をクリックします。[用語集の用語のコピー] ダイアログが開きます。
- 3 用語集エントリのコピー先のカテゴリを選択します。
- 4 このカテゴリ内にすでに存在する用語を上書きする場合は、[ターゲットカテゴリの既存の用語を上書き] オプションを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

## 用語集エントリの編集

既存の用語集エントリを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [用語集] タブから、リスト内の用語集エントリを選択します。
- 2 [アクション] ペインの [用語集] セットから [編集] を選択します。[用語集] タブの詳細セクションが編集フォームに変わります。
- 3 [用語]、[説明]、[同義語]、[グループ] に必要な変更を加えます。
- 4 [非推奨] オプションが選択されている場合は、ドキュメントで次のような処理が行われます。
  - その用語は用語集チャプターには含まれません。
  - 用語集の強調表示が有効になっている場合、その用語には赤色のマークが付きます。[非推奨] エントリの説明には、この用語を使用すべきではない理由を記載してください。
- 5 **サブカテゴリで表示:** チェックされている場合 (通常はデフォルトでチェックされている)、エントリを定義したカテゴリのサブカテゴリで用語集エントリにアクセスできます。  
ルートカテゴリへのアクセス権限を持たないユーザーは、アクセス権限を持つすべてのサブカテゴリからエントリにアクセスできます。
- 6 編集フォームの下部にある [保存] をクリックするか、[アクション] ペインの [用語集] セットの [保存] をクリックします。

## 用語集エントリの移動

用語集エントリは、あるカテゴリから別のカテゴリに移動したり、すべてのサブカテゴリで利用できるようにルートカテゴリに移動したりすることができます。エントリを移動するには、次の手順を実行します。

- 1 リストから1つまたは複数の用語集エントリを選択します。
- 2 [アクション] ペインの [用語集] セットの [移動] をクリックします。[用語集の用語の移動] ダイアログが開きます。

- 3 用語集エントリの移動先のカテゴリを選択します。
- 4 ターゲットカテゴリ内にすでに存在する用語を上書きする場合は、[ターゲットカテゴリの既存の用語を上書き] オプションを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

## 用語集エントリの削除

用語集エントリを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 リストから1つまたは複数の用語集エントリを選択します。
- 2 [アクション] ペインの [用語集] セットの [削除] をクリックします。[用語の削除] ダイアログが開きます。
- 3 [OK] をクリックして、用語集エントリを削除します。

## 拡張情報の表示

用語集エントリを誰がいつ編集したか、各リビジョンの内容は何かなど、用語集エントリに関する追加情報を表示する必要がある場合、用語集エントリを「拡張フォーム」モードで開くことができます。

用語集を「拡張フォーム」モードで開くには、次の手順を実行します。

- 1 リストから用語集エントリを選択します。
- 2 [アクション] ペインの [用語集] セットの [拡張フォームの表示] をクリックします。

## 第6章

---



# レポートの操作

レポートについて	286
レポートの作成	289
レポートの編集	304
レポートの名前の変更	307
レポートの削除	307
レポートのエクスポート	307
レポートの異なるカテゴリへのコピーおよび移動	307
レポートのURLのクリップボードへのコピー	308
コンプライアンスレポート	311

## レポートについて

レポートでは、カテゴリまたは属性の内容（作成日、ステータス、優先度、説明）に基づいて要件をフィルタリング（クエリ）できます。レポートを作成、保存、または編集できるかどうかは、管理者によって割り当てられた権限に依存します。

既存のレポートを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 カテゴリ別のレポートのリストは、[ホーム] ビューの [レポート] タブで表示できます。
- 2 目的のレポートを見つけるために、以下の機能を利用できます。  
表示を絞り込むには、[検索] を使用できます。  
[タイプ別レポート]  ではなく、[すべてのレポート]  を一覧表示すると、説明を含むレポートの詳細が含まれます。  
レポート結果を表示すると、レポート結果の上にある階層リンクから同じタイプのレポートにアクセスできます。
- 3 目的のレポートをダブルクリックするか、そのレポートを強調表示して [アクション] ペインから [実行] を選択します。
- 4 実行時オプションを使用してレポートが定義されている場合は、要求された情報を入力します。
- 5 [レポート] ダイアログの [レポートの実行] ボタンをクリックします。

### レポートのオプションと機能

実行済みレポートで、メニューバーから次の機能が利用できます。


**▼ カテゴリでフィルタリング:** フィルターアイコンを選択すると、[カテゴリ] ツリーの選択したカテゴリに一致するデータのみがレポートに表示されます。


選択しない場合、レポートにはすべてのデータが表示されます。


**次の点に注意してください。** レポートの1つ以上のカテゴリに制約がある場合、選択されたカテゴリはオーバーライドされます。その結果、レポートにはカテゴリ制約に一致するすべての要件が表示されます。


**▼ サブカテゴリを含める:** 選択すると、選択したカテゴリとそのサブカテゴリのデータがレポートに表示されます。[カテゴリでフィルタリング] を選択した場合のみ、[サブカテゴリを含める] チェックボックスを選択できます。


**実行日時:** ダッシュボードを除く各レポートの上部に実行日が表示され、エクスポート時にレポートに含まれます。


 : 編集可能なグリッドビューに変更します。詳細については、「[編集可能なグリッドビュー](#)」(36ページ) を参照してください。


 : グリッドビューに変更します。詳細については、「[グリッドビュー](#)」(38ページ) を参照してください。

 : フォームビューに変更します。フォームビューはクラスレポートでのみサポートされます。詳細については、「[フォームビュー](#)」(39ページ) を参照してください。

: 選択したパラメーターを使用してレポート結果を再ロードします。この機能は、レポートが実行時パラメーターを使用する場合にのみ使用できることに注意してください。

: レポート結果を更新/再ロードします。

: レポートを拡大します。

: レポートを閉じます。

**ギャップビューに切り替えおよびアウトラインビューに切り替え:** トレーサビリティレポートでは、[アクション] ペインの [ギャップビューに切り替え] または [アウトラインビューに切り替え] をクリックして、ギャップビューとアウトラインビューを切り替えることができます。

## トレーサビリティレポート

トレーサビリティレポートは、[マトリクス] と [カバレッジ] の2つのモードをサポートしています。これらのモードはレポートの作成時に定義します。関係レポートの作成の詳細については、「[トレーサビリティレポートの作成](#)」(300ページ)を参照してください。

- **マトリクス:** このモードでは、表形式で要件が表示されます。左から右に、どの要件が(指定したデータとともに)リンクされた要件を持ち、どの要件が属性制約と一致しないかを確認することができます。
- **カバレッジ:** このモードでは、結果の表に、制約と一致する/一致しないリンクされた要件を持つ要件のパーセンテージ/カウントが表示されます。
  - **パーセンテージ:** リンクを持ち、制約に一致する要件のパーセンテージを表示します。結果のパーセンテージ値をクリックすると、カバレッジのチェックが行われたすべての要件が表示されます。
  - **カバー済み:** リンクを持ち、制約に一致する要件の合計数を表示します。[カバー済み] をクリックすると、該当する要件のみが表示されます。
  - **未カバー:** リンクを持たないか、制約と一致しない要件の合計数を表示します。[未カバー] をクリックすると、該当する要件のみが表示されます。

## 実行時パラメーターを使用したレポートの実行

実行時パラメーターは、レポート作成時には選択せず、レポートの実行時に選択する属性値です。これによって、ユーザーは、たとえば、リリースやユーザーグループなどのすべての値について、同じレポートを再利用できます。

実行時パラメーターを使用してレポートを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 たとえば、「[トレーサビリティレポート](#)」(287ページ)で説明した関係レポートを実行します。
- 2 必要または目的に応じて、Release 属性を除くすべての属性値を選択します。Release 属性については、エントリの右側にあるドロップダウンから [実行時に入力] を選択します。
- 3 [レポートの実行] をクリックします。
- 4 メッセージが表示されたら、「Release」と入力します。

## グループ属性の実行時パラメーターからの選択



グループ属性は、複数の値を使用できるテーブルのように扱われます。複数の値を次のいずれかで区切って指定できます。

- AND
- OR

### AND

グループ属性のすべての値がクエリ内のすべての値と一致する場合に、要件が結果リストに追加されます。

例:

- 1 属性 [**Operating System**] を実行時パラメーターとして指定するクラス [**Tests**] のクラスレポートを実行します。
- 2 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows**]、[**XP**] を選択します。
- 3  をクリックします。
- 4 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows**]、[**Vista**] を選択します。
- 5  をクリックします。
- 6 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows-7**] を選択します。

結果リストには、次の値の組み合わせを [**Operating System**] 属性の値として持つ要件が示されます: [**Desktop-Windows-XP**]、[**Desktop-Windows-Vista**]、[**Desktop-Windows-7**]。





**注記** レポートでは、[**Operating System**] 属性に追加の値を持つ要件も検出されます。

### OR

グループ属性のいずれかの値がクエリ内の値の1つ以上と一致する場合に、要件が結果リストに追加されます。

例:

- 1 属性 [**Operating System**] を実行時パラメーターとして指定するクラス [**Tests**] のクラスレポートを実行します。
- 2 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows**]、[**XP**] を選択します。
- 3  をクリックします。
- 4 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows**]、[**Vista**] を選択します。
- 5  をクリックします。
- 6 グループ属性ボックスで、[**Desktop**]、[**Windows-7**] を選択します。

結果リストには、[**Operating System**] 属性の値として、(他の値とともに) [**Desktop-Windows-XP**]、[**Desktop-Windows-Vista**] または [**Desktop-Windows-7**] のいずれかを含む要件が示されます。



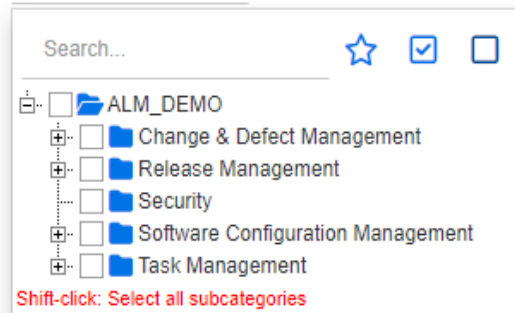
## カテゴリ実行時パラメーターの選択

多くの場合、ユーザーは、選択したカテゴリからの入力を使用して、多数のチームリーダーやプロジェクトリーダーが使用するレポートを作成します。検索を使用し、特定のカテゴリを見つけて確認することも、星印を強調表示してユーザーのお気に入りを含めることもできます。チェックボックスアイコンをクリックすると、使用可能なカテゴリがすべて選択され、空のボックスをクリックすると、すべての選択が解除されます。

The following parameters must be provided to run this report. Please provide a value for each of the parameters below.

Enter Category  
for FUNCTIONAL\_REQUIREMENT:

Choose Categories ▾



## レポートの作成

以下の各項では、さまざまなレポートタイプを作成する方法について説明します。

- 「クラスレポートの作成」(289ページ)
- 「グラフィカルレポートの作成」(290ページ)
- 「関係レポートの作成」(298ページ)
- 「トレーサビリティレポートの作成」(300ページ)

### クラスレポートの作成

以下では、クラスレポートの作成について説明します。

クラスレポートおよびすべてのレポートにおいて、レポートを実行している当人がいずれかのカテゴリで「閲覧」権限を持っていない場合、クエリパラメーターを満たしている場合でも、そのカテゴリの要件はクエリの結果として返されません。

クラスレポートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [新規] メニューから [クラスレポート] を選択して、[クラスレポート] ダイアログを開きます。
- 2 **クラス:** リストから目的のクラスを選択します。
- 3 レポートを保存する場合は、次の手順を実行します。
  - a [名前] ボックスに名前を入力します。
  - b [説明] ボックスに説明を入力します。最大文字数は1024文字です。

- c [カテゴリ] リストで、レポートを保存するカテゴリを選択します。
- 4 レポートを公開する場合は、次の手順を実行します。
- 公開レポート:** レポートを公開する場合は、このボックスを選択します。このボックスを選択しない場合、レポートは非公開になります。
- 表示権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。
- 通常、デフォルトは [すべて] です。これは、レポートが存在するカテゴリにアクセスできるすべてのグループを意味します。リストから特定のグループを選択することができます。
- 編集権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。デフォルトは、指定されたカテゴリにアクセスできるすべてのグループです。編集権限を特定のグループに制限することができます。
- 5 **サブカテゴリで表示:** チェックされている場合、レポートを保存したカテゴリのサブカテゴリでレポートにアクセスできます。
- レポートがルートカテゴリに保存されている場合、ルートアクセスのないユーザーは、アクセス権限を持つすべてのサブカテゴリからレポートを実行することができます。
- 6 **属性制約:** 必要に応じて、選択項目を、指定された属性の内容を含む要件に限定します。「[フィルタリングと検索のメカニズム](#)」(50 ページ) を参照してください。
- 7 **関係制約:** 必要に応じて、選択項目を、名前付きコンテナに含まれる要件、または指定されたリンクを持つ要件に限定します。「[\[関係制約\] タブ](#)」(57 ページ) を参照してください。
- 8 **表示オプション:** 必要に応じて、レポートに含める属性を指定します。表示の詳細とレポートの例については、「[\[表示オプション\] タブ](#)」(59 ページ) を参照してください。
- 9 **スクリプトの表示/ウィザードの表示:** クリックして、ダイアログのウィザードビューとスクリプトビューを切り替えます。現在、ほとんどの関数がウィザードを使用して利用できますが、[スクリプトビュー] を選択することで、ユーザーは、ウィザードを使用して作成された基本レポートにSQLに似た関数を追加できます («[スクリプトの構文](#)」(507 ページ) を参照)。
- レポートがいったん変更されると、ウィザードは使用できなくなります。
- 10 **プレビュー:** このボタンをクリックすると、レポートを保存することもダイアログを閉じることもなく、レポートが実行されます。
- 11 **保存:** このボタンをクリックすると、レポートが保存されて実行されます。その後、ダイアログが閉じます。

## グラフィカルレポートの作成

次のいずれかのタイプを使用して、グラフィカルレポートを作成できます。

- [分布レポート](#)
- [トレンドレポート](#)
- [ガントレポート](#)

分布レポートは、ステータスの概要を示します。たとえば、特定のリリースに割り当てられた要件に基づいて、ワークフローの状態や優先度、割り当てられたアナリストを使用して、現在の状況を報告します。

トレンドレポートは、データの時間変化を示します。チームが目標に向かう進捗速度を確認できます。

ガントレポートは、時間に対するステータスを表示するメカニズムを提供します。現在の地点に到達するまでにどの程度の時間がかかったか、また、あとどの程度の時間をかける必要があるのかが示されます。

## 分布レポート

分布レポートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [新規] メニューから [グラフィカルレポート] を選択します。[グラフィカルレポート] ダイアログが開きます。
- 2 クラス: リストから目的のクラスを選択します。
- 3 [保存が必要] グループで、[タイプ] ボックスから [分布レポート] を選択します。
- 4 レポートを保存する場合は、次の手順を実行します。
  - a [名前] ボックスに名前を入力します。
  - b [説明] ボックスにレポートの説明を入力します。最大文字数は1024文字です。
  - c [カテゴリ] リストで、レポートを保存するカテゴリを選択します。

- 5 以下を実行します。

**公開レポート:** レポートを公開する場合は、このボックスを選択します。このボックスを選択しない場合、レポートは非公開になります。

**表示権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。

通常、デフォルトは [すべて] です。これは、レポートが存在するカテゴリにアクセスできるすべてのグループを意味します。リストから特定のグループを選択することができます。

**編集権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。デフォルトは、指定されたカテゴリにアクセスできるすべてのグループです。編集権限を特定のグループに制限することができます。

**サブカテゴリで表示:** チェックされている場合、レポートを保存したカテゴリのサブカテゴリでレポートにアクセスできます。すべてのユーザーにとって有益なレポートは、ルートカテゴリで作成するか、ルートカテゴリに移動する必要があります。

- 6 ルートカテゴリへのアクセス権限を持たないユーザーは、アクセス権限を持つすべてのサブカテゴリからレポートを実行できます。
- 7 属性制約: 必要に応じて、目的の要件を見つけるための条件を指定します。「[フィルタリングと検索のメカニズム](#)」(50ページ) および「[\[関係制約\] タブ](#)」(57ページ) を参照してください。

- 8 表示オプション:

[行] および [列] ボックスに、次のものを含めてはいけないことに注意してください。複数行、HTML対応、または日付属性

a [グラフィカルスタイル] セットのリストからスタイルを選択します。グラフィカルスタイルおよびグラフオプションの詳細については、「[表示オプション](#)」(296ページ) を参照してください。

b [グラフの内容] セットで、[行] および [列] ボックスに表示する属性を選択します。選択した属性に応じて、以下のオプションが利用できます。

**ゼロ値データを含める:** これを選択すると、ゼロの値が含まれます。

**レベル:** グループ属性で使用できます。エントリを選択すると、レポートで使用されるサブ属性が定義され、追加の内容が1行に集められます。

**制約でフィルタリング:** [行] ボックスまたは [列] ボックスにリストまたはグループ属性、<コレクション>、<ペースライン>、<ドキュメント>、または <スナップショット> が含まれる場合に使用できます。このチェックボックスをオンにすると、選択したオブジェクトを含むコンテナの数に関係なく、これらの制約によってレポートが制限されるようになります。

- c [グラフの内容] セットでは、[合計を計算する属性] に表示される合計の計算に使用される属性を選択することもできます。
- d 円グラフレポートの場合は、[行] のみ使用できます。

必要に応じて、レポートの値の色を設定します。グラフィカルレポートでの値の色の定義の詳細については、「[レポートデータの色](#)の定義」(297ページ)を参照してください。

**プレビュー:** このボタンをクリックすると、レポートを保存することもダイアログを閉じることもなく、レポートが実行されます。

**保存:** このボタンをクリックすると、レポートが保存されて実行されます。その後、ダイアログが閉じます。



**ヒント** ドリルダウンは、グラフィカルレポートでのみ使用できます。たとえば、レポートが横棒グラフの場合、レポートの棒をクリックすると、その棒をサポートするオブジェクトのリストが表示されます。

## トレンドレポート

トレンドレポートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [新規] メニューから [グラフィカルレポート] を選択します。[グラフィカルレポート] ダイアログが開きます。
- 2 **クラス:** リストから目的のクラスを選択します。
- 3 [保存が必要] グループで、[タイプ] ボックスから [トレンドレポート] を選択します。
- 4 レポートを保存する場合は、次の手順を実行します。
  - a [名前] ボックスに名前を入力します。[保存] ボタンをクリックすると、レポートを保存して実行します。
  - b [説明] ボックスにレポートの説明を入力します。最大文字数は1024文字です。
- 5 [カテゴリ] リストで、レポートを保存するカテゴリを選択します。
- 6 **制約:** 必要に応じて、目的の要件を見つけるための条件を指定します。「[フィルタリングと検索のメカニズム](#)」(50ページ) および 「[\[関係制約\] タブ](#)」(57ページ) を参照してください。
- 7 **表示オプション:** [グラフスタイル] セットのリストからスタイルを選択します。グラフスタイルおよびグラフオプションの詳細については、「[表示オプション](#)」(296ページ) を参照してください。
- 8 [グラフの内容] セットの [第1フィールド] ボックスと [第2フィールド] ボックスで属性を選択します。



**注記** [第1フィールド] および [第2フィールド] ボックスには、次の属性は含まれません。

複数行の属性

HTML対応の属性

日付の属性

<> で囲まれた属性 (例: <コレクション>)

リスト属性を操作する場合は、オプションで **[ゼロ値データを含める]** オプションを選択できます。これを選択すると、ゼロの値が含まれます。

グループ属性を操作する場合は、**[レベル]** ボックスから選択することで、使用するサブ属性を定義できます。さらに、オプションで **[ゼロ値データを含める]** オプションを選択できます。これを選択すると、ゼロの値が含まれます。

必要に応じて、レポートの値の色を設定します。グラフィカルレポートでの値の色の定義の詳細については、**「レポートデータの色の定義」(297ページ)** を参照してください。

- 9 **[開始日]** ボックスから、レポートの開始日を選択します。リストには、現在の日付に対して開始日を定義するいくつかのエントリが含まれています。ユーザーはこのエントリを使用して、実行の1週間や1か月前の日付を選択できます。その期間の結果は常に記録されます。固定された開始日を定義するには、次の手順を実行します。

- a **[開始日]** ボックスから **[次の日以降]** を選択します。**[開始日]** ボックスの横に日付ボックスが表示されます。
- b 日付ボックスでカレンダーマークをクリックします。
- c 目的の日付を選択します。

- 10 **[終了日]** ボックスから、レポートの終了日を選択します。**[今日]** または **[次の日まで]** を選択できます。固定された終了日を定義するには、次の手順を実行します。

- a **[終了日]** ボックスから **[次の日まで]** を選択します。**[終了日]** ボックスの横に日付ボックスが表示されます。
- b 日付ボックスでカレンダーマークをクリックします。
- c 目的の日付を選択します。将来の日付を選択することはできません。

- 11 以下を実行します。

**公開レポート:** レポートを公開する場合は、このボックスを選択します。このボックスを選択しない場合、レポートは非公開になります。

**表示権限を持つグループ:** このオプションは、**[公開レポート]** が選択されている場合にのみ使用できます。

通常、デフォルトは **[すべて]** です。これは、レポートが存在するカテゴリにアクセスできるすべてのグループを意味します。リストから特定のグループを選択することができます。

**編集権限を持つグループ:** このオプションは、**[公開レポート]** が選択されている場合にのみ使用できます。デフォルトは、指定されたカテゴリにアクセスできるすべてのグループです。編集権限を特定のグループに制限することができます。

**サブカテゴリで表示:** チェックされている場合、レポートを保存したカテゴリのサブカテゴリでレポートにアクセスできます。すべてのユーザーにとって有益なレポートは通常、ルートカテゴリで作成するか、ルートカテゴリに移動します。

ルートカテゴリへのアクセス権限を持たないユーザーは、アクセス権限を持つすべてのサブカテゴリからレポートを実行できます。

**プレビュー:** このボタンをクリックすると、レポートを保存することもダイアログを閉じることもなく、レポートが実行されます。

**保存:** このボタンをクリックすると、レポートが保存されて実行されます。その後、ダイアログが閉じます。



**注記** トレンドレポートで計算を実行するには、要件を編集する際に常に保存を使用することが不可欠です。保存、更新、削除の機能の詳細については、「[機能の保存、更新、削除、除去](#)」(181ページ)を参照してください。



**ヒント** レポート内で使用されているデータのドリルダウンを表示できます。レポートがバーレポートである場合、レポート内のいずれかのバーをクリックすると、そのバーのデータの提供元の要件を含むリストが表示されます。この機能は、他のグラフィカルレポートでも使用できます。

## ガントレポート

ガントレポートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [新規] メニューから [グラフィカルレポート] を選択します。[グラフィカルレポート] ダイアログが開きます。
- 2 **クラス:** リストから目的のクラスを選択します。



**注記** ダイアログの起動時にいずれかのクラスの要件が選択されていた場合、クラスはすでに選択されています。

- 3 [タイプ] ボックスから [ガント] を選択します。
- 4 レポートを保存する場合は、次の手順を実行します。
  - a [名前] ボックスに名前を入力します。
  - b [説明] ボックスにレポートの説明を入力します。最大文字数は1024文字です。
- 5 [カテゴリ] リストで、レポートを保存するカテゴリを選択します。
- 6 **制約:** 必要に応じて、目的の要件を見つけるための条件を指定します。「[フィルタリングと検索のメカニズム](#)」(50ページ) および「[\[関係制約\] タブ](#)」(57ページ)を参照してください。
- 7 **表示オプション:** [グラフの内容] セットの [開始日]、[終了日]、[項目ラベル]、[追加列] ボックスで属性を選択します。
- 8 以下の内容を確認します。

**公開レポート:** レポートを公開する場合は、このボックスを選択します。このボックスを選択しない場合、レポートは非公開になります。

**表示権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。

通常、デフォルトは [すべて] です。これは、レポートが存在するカテゴリにアクセスできるすべてのグループを意味します。リストから特定のグループを選択することができます。

**編集権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。デフォルトは、指定されたカテゴリにアクセスできるすべてのグループです。編集権限を特定のグループに制限することができます。

**サブカテゴリで表示:** チェックされている場合、レポートを保存したカテゴリのサブカテゴリでレポートにアクセスできます。すべてのユーザーにとって有益なレポートは通常、ルートカテゴリで作成するか、ルートカテゴリに移動します。

ルートカテゴリへのアクセス権限を持たないユーザーは、アクセス権限を持つすべてのサブカテゴリからレポートを実行できます。

**プレビュー:** このボタンをクリックすると、レポートを保存することもダイアログを閉じることもなく、レポートが実行されます。

**保存:** このボタンをクリックすると、レポートが保存されて実行されます。その後、ダイアログが閉じます。

## トレーサビリティオプション

リンクされた要件でグラフィカルレポートの結果をフィルタリングできます。これにより、ユーザーは指定したクラスの少なくとも1つにリンクされている要件のみを表示できます。必要に応じて、リンクされた要件に1つ以上の属性値がある要件のみを含めることで、さらにフィルタリングできます。

**1つ以上のクラスへのリンクを持つ要件に結果を制限するには、次の手順を実行します。**

- 1 目的のグラフィカルレポートを編集します。
- 2 [属性制約] タブを選択します。
- 3 [関連クラスによる制限] をクリックします。[制限されたクラスを選択] ダイアログが開きます。
- 4 要件がリンクしている必要があるクラスを、結果リストに含めるために、展開して選択します。
- 5 [保存] をクリックします。これにより、[制限されたクラスを選択] ダイアログが閉じ、[属性制約] タブに [クラス] セレクターが表示されます。

**関連クラスの属性制約を定義するには、次の手順を実行します。**

- 1 [属性制約] タブを選択します。
- 2 [クラス] セレクターから、属性制約を定義するクラスを選択します。
- 3 必要に応じて属性制約を定義します。
- 4 属性制約を定義する他のクラスについて、ステップ2と3を繰り返します。

### 関連クラスに対する同一関係制約の定義

関連クラスに対して同一関係制約を定義する場合、これは、すべての要件 (結果要件およびリンクされた要件) が、同じドキュメントの一部であるなど、同じ関係制約を満たす必要があることを意味します。

**同一関係制約を定義するには、次の手順を実行します。**

- 1 [関係制約] タブを選択します。
- 2 [すべてのクラスに適用] オプションが選択されていることを確認します。
- 3 関係制約を編集します。

### 関連クラスに対する個々の関係制約の定義

関連クラスに対して個々の関係制約を定義する場合、これは、結果要件およびリンクされた要件に関係制約がある場合とない場合があることを意味します。たとえば、結果要件は1つのドキュメント内に存在する必要があっても、リンクされた要件はコレクション内に存在する必要があることがあります。

個別の関係制約を定義するには、次の手順を実行します。

- 1 [関係制約] タブを選択します。
- 2 [すべてのクラスに適用] オプションをクリアします。
- 3 [クラス] セレクターから、関係制約を定義するクラスを選択します。
- 4 必要に応じて関係制約を定義します。
- 5 関係制約を定義する他のクラスについて、ステップ3と4を繰り返します。

## 表示オプション

### グラフィスタイル

グラフィスタイルを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 目的のグラフィカルレポートを編集します。
- 2 [表示オプション] タブを選択します。
- 3 [グラフィスタイル] セクションを展開します。
- 4 ドロップダウンリストから目的のスタイルを選択します。

### グラフの内容

グラフの内容は、分布レポートとトレンドレポートとで異なります。グラフの内容については、「[分布レポート](#)」(291ページ) および「[トレンドレポート](#)」(292ページ)の各項を参照してください。

グラフの内容の設定を編集するには、次の手順を実行します。

- 1 目的のグラフィカルレポートを編集します。
- 2 [表示オプション] タブを選択します。
- 3 [グラフの内容] セクションを展開します。
- 4 目的の設定を変更します。

### グラフオプション

グラフオプションでは、レポートデータの表示方法を指定します。グラフオプションは、選択したグラフィスタイルによって異なります。「表形式」スタイルについては、「[表形式オプション](#)」(297ページ)を参照してください。その他のスタイルについては、「[共通オプション](#)」(296ページ)を参照してください。

## 共通オプション

### ■ ツールチップオプション

- **ツールチップの表示:** 選択されている場合、レポートデータにマウスポインターを合わせたときにツールチップが表示されます。



- ツールチップ値タイプ:
  - 絶対値: ツールチップに、関連するデータのカウン트가表示されます。
  - パーセンテージ値: ツールチップに、関連するデータのカウン트가パーセント単位で表示されます。この設定は円グラフでのみ使用できます。
- ラベルオプション
  - ラベル値の表示: 有効になっている場合、X軸およびY軸の値が表示されます。
  - ラベル値タイプ:
    - 絶対値: 各データのカウン트가表示されます (例: 2D縦棒レポートの縦棒)。
    - パーセンテージ値: 各データのカウン트가パーセント単位で表示されます。この設定は円グラフでのみ使用できます。
    - 値なし: 各データの属性値のみが表示されます。
- 凡例オプション
  - 凡例の表示: 選択されている場合、X軸の下に凡例が表示されます。
- 軸オプション
  - X軸名の表示: 選択されている場合、X軸のラベルが表示されます (例: 属性名)。
  - Y軸名の表示: 選択されている場合、Y軸のラベルが表示されます (例: カウント)。

#### 表形式オプション

- 並べ替えオプション
  - 行の並べ替え
    - アルファベット順: 行の値がアルファベット順に並べ替えられます (例: 1、11、111、2、3、a、b、c)
    - 数値順: 行の値が数値で並べ替えられます (例: 1、2、3)
  - 列の並べ替え
    - アルファベット順: 列の値がアルファベット順に並べ替えられます (例: 1、11、111、2、3、a、b、c)
    - 数値順: 列の値が数値で並べ替えられます (例: 1、2、3)

#### レポートデータの色の定義

グラフに表示される値の色を変更できます。

グラフ内の値の色を定義するには、次の手順を実行します。

- a [表示オプション] タブを選択します。
- b [グラフオプション] セットを展開します。
- c [色の追加] をクリックします。新しい行が作成されます。
- d リスト属性の場合: 新しい行の [値] ボックスで、目的の値を選択するか、属性値が空の場合は [(なし)] をそのまま使用します。  
テキスト属性の場合: 新しい行の [値] ボックスにテキストを入力するか、属性値が空の場合は空欄のままにします。

- e 定義済みの色を1つ選択するか、色の選択で1色を指定します。



#### 注記

- **分布レポートの場合:** [行] の設定のみが定義されている場合は、[行] ボックスで指定されている属性の値の色を指定できます。[列] の設定が定義されている場合、[列] ボックスで指定されている属性の値の色だけを指定できます。
- **トレンドレポートの場合:** [第1フィールド] の設定のみが定義されている場合は、[第1フィールド] ボックスで指定されている属性の値に色を指定できます。[第2フィールド] が設定されている場合は、[第2フィールド] ボックスで指定されている属性の値にのみ色を指定できます。

## 関係レポートの作成

関係レポートを作成するには、次の手順を実行します。



**注記** スクリプトの作成権限がない場合でもレポートを作成できますが、保存することはできません。



**注意!** いずれかのカテゴリで「閲覧」権限を持っていない場合、レポート要件を満たしている場合でも、そのカテゴリの要件はレポートの結果として返されません。

- 1 **[新規]** メニューから **[関係レポート]** を選択します。[関係によるクエリ] ダイアログが開きます。
- 2 **関係:** ドロップダウンから、レポートする関係を選択します。
- 3 レポートを保存する場合は、次の手順を実行します。
  - a **[名前]** ボックスに名前を入力します。
  - b **[説明]** ボックスに説明を入力します。この説明は、ユーザーがレポート名にマウスを重ねると表示されます。最大文字数は1024文字です。
  - c **[カテゴリ]** リストで、レポートを保存するカテゴリを選択します。
- 4 レポートを公開する場合は、次の手順を実行します。
  - **公開レポート:** レポートを公開する場合は、このボックスを選択します。このボックスを選択しない場合、レポートは非公開になります。
  - **表示権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。通常、デフォルトは [すべて] です。これは、レポートが存在するカテゴリにアクセスできるすべてのグループを意味します。リストから特定のグループを選択することができます。
  - **編集権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。デフォルトは、指定されたカテゴリにアクセスできるすべてのグループです。編集権限を特定のグループに制限することができます。
- 5 **サブカテゴリで表示:** チェックされている場合、レポートを保存したカテゴリのサブカテゴリでレポートにアクセスできます。
 

レポートがルートカテゴリに保存されている場合、ルートアクセスのないユーザーは、アクセス権限を持つすべてのサブカテゴリからレポートを実行することができます。

## 6 [レポートタイプ] タブ:

### a レポートビューを選択します。

- **テーブルビュー:** 左側にソース要件が記載され、右側にターゲット要件が記載された表形式でレポートが表示されます。
- **マトリクスビュー:** ソース要件が行として記載され、ターゲット要件が列として記載されたマトリクス形式でレポートが表示されます。関連する要件は、列と行が交差する部分にマークが付きます。  
[ターゲット要件を行として表示] オプションが選択されている場合は、ソース要件が列として表示され、ターゲット要件が行として表示されます。

マトリクスビューの使用方法的詳細については、「[マトリクスビューの使用方法的](#)」(300ページ)を参照してください。

### b レポートタイプを選択します。

選択されたレポートタイプのサンプルが、ダイアログの右側に表示されます。

#### ■ 完全 (コンプライアンスおよび非コンプライアンス):

セカンダリへのリンクの有無にかかわらず、プライマリでのすべての一致要件。プライマリへのリンクのないセカンダリを含めるには、**ボックスをチェック**します。

あるいは

プライマリへのリンクを持つセカンダリと持たないセカンダリ。セカンダリへのリンクを持たないプライマリを含めるには、**ボックスをチェック**します。

#### ■ コンプライアンスのみ: レポートには、次のいずれかが記載されます。

セカンダリクラスの一致する要件とのリンクを持つ、プライマリクラスのすべての一致する要件。

あるいは

プライマリクラスの一致する要件とのリンクを持つ、セカンダリクラスのすべての一致する要件。



**注記** [非コンプライアンス] オプションは、[テーブルビュー] オプションが選択されている場合にのみ選択できます。

#### ■ 非コンプライアンス: レポートには、次のいずれかが記載されます。

セカンダリクラスの一致する要件とのリンクを持たない、プライマリクラスのすべての一致する要件。

プライマリクラスの一致する要件とのリンクを持たない、セカンダリクラスのすべての一致する要件。

### 7 制約ソース/制約ターゲット: 必要に応じて、ソース (プライマリ) クラスおよび/またはターゲットクラスでの選択を、指定された属性の内容を含む要件に制限します。「[フィルタリングと検索のメカニズム](#)」(50ページ)を参照してください。

### 8 コンテナソース/コンテナターゲット: 必要に応じて、ソース要件および/またはターゲット要件を持つコンテナに選択を制限します。「[関係制約](#)」(57ページ)を参照してください。



**注記** マトリクスビューでは、ソースとターゲットのそれぞれに対して単一の属性のみが表示されます。

- 9 **表示ソース/表示ターゲット:** 必要に応じて、レポートに含めるセカンダリクラスの属性を指定します。「[\[表示オプション\] タブ](#) (59ページ) を参照してください。
- 10 **プレビュー:** このボタンをクリックすると、レポートを保存することもダイアログを閉じることもなく、レポートが実行されます。
- 11 **保存:** このボタンをクリックすると、レポートが保存されて実行されます。その後、ダイアログが閉じます。

#### マトリクスビューの使用方法

- 1 交差する部分の色には、次の意味があります。
  - **グレー:** 要件間にリンクが存在しません。
  - **青:** 要件がリンクされています。
  - **赤:** 要件がリンクされていますが、要検討リンクです。
- 2 **[ターゲット要件を行として表示]** オプションが選択されている場合は、ソース要件が列として表示され、ターゲット要件が行として表示されます。
- 3 2つの要件間にリンクを作成するには、次の手順を実行します。
  - a 2つの要件が交差する部分のグレーの四角形をクリックします。**[リンクの作成]** ダイアログが開きます。
  - b **[OK]** をクリックして、リンクを作成します。
- 4 2つの要件間のリンクを削除するには、次の手順を実行します。
  - a 2つの要件が交差する部分の青または赤の四角形をクリックします。**[リンクの削除]** ダイアログが開きます。
  - b **[OK]** をクリックして、リンクを削除します。
- 5 2つの要件間の要検討リンクをクリアするには、次の手順を実行します。
  - a 2つの要件が交差する部分の赤い四角形を右クリックします。
  - b ショートカットメニューから **[要検討リンクの解決]** を選択します。**[要検討リンクの解決]** ダイアログが開きます。
  - c **[OK]** をクリックして、要検討リンクを解決します。

## トレーサビリティレポートの作成

トレーサビリティレポートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **[新規]** メニューから **[トレーサビリティレポート]** を選択します。
- 2 **最上位のクラス:** レポートのルートクラスを選択します。
- 3 **タイプ:** 次のいずれかを選択します。
  - マトリクス:** レポートに、関連するクラスの値が表示されます。
  - カバレッジ:** レポートに、選択された子クラスにリンクされているクラスの要件の数がパーセント単位で表示されます。
- 4 レポートを保存する場合は、次の手順を実行します。
  - 名前:** **[名前]** ボックスに名前を入力します。

**説明:** [説明] ボックスにクエリの説明を入力します。最大文字数は1024文字です。

**カテゴリ:** [カテゴリ] ドロップダウンから、クエリを保存するカテゴリを選択します。

- 5 レポートを公開する場合は、次の手順を実行します。

**公開レポート:** レポートを公開する場合は、このボックスを選択します。このボックスを選択しない場合、レポートは非公開になります。公開レポートを作成するには、[レポート] セクションで権限を付与する必要があります。

**表示権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。

通常、デフォルトは [すべて] です。これは、レポートが存在するカテゴリにアクセスできるすべてのグループを意味します。リストから特定のグループを選択することができます。

**編集権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。デフォルトは、指定されたカテゴリにアクセスできるすべてのグループです。編集権限を特定のグループに制限することができます。

- 6 **サブカテゴリで表示:** チェックされている場合、レポートを保存したカテゴリのサブカテゴリでレポートにアクセスできます。

レポートがルートカテゴリに保存されている場合、ルートアクセスのないユーザーは、アクセス権限を持つすべてのサブカテゴリからレポートを実行することができます。

- 7 **[表示する関連クラス] タブ:**

**関係を選択:** クラスの横にあるボックスをオンにして、トレーサビリティレポートに表示する関係を指定します。

最上位のクラスの横にあるチェックボックスは、常に選択された状態で無効になっています。

循環依存を回避するため、すでに使用されている関係の横にあるチェックボックスも、選択された状態で無効になっています。

連続するクラスを選択する必要はありません。

- 8 **制約:** 必要に応じて、目的の要件を見つけるための条件を指定します。「[フィルタリングと検索のメカニズム](#)」(50 ページ) および「[\[関係制約\] タブ](#)」(57 ページ) を参照してください。

- 9 **表示オプション:** [表示オプション] タブは、選択された [タイプ] が [マトリクス] の場合にのみ表示されます。

必要に応じて、結果の表示方法を指定します。トレーサビリティレポートでは、[表示オプション] タブですべてのクラスが選択可能ですが、[表示する関連クラス] に含まれるクラスだけがレポートで保存されます。

「[\[表示オプション\] タブ](#)」(59 ページ) を参照してください。

トレーサビリティレポートでは、[表示オプション] タブですべてのクラスが選択可能ですが、[表示する関連クラス] で選択したクラスだけがレポートで保存されます。

- 10 **グループ化の条件:** 選択済みタイプがカバレッジの場合に使用できます。

次のセクションが含まれています: [コレクション]、[ベースライン]、[ドキュメント]、および [スナップショット]。これらのリストから1つまたは複数のエントリを選択すると、結果は個別の列 (選択したエントリごとに1つの列) で計算されます。

- 11 **表示オプション:** 必要に応じて、レポートに含める属性を指定します。表示の詳細とレポートの例については、「[\[表示オプション\] タブ](#)」(59 ページ) を参照してください。

- 12 **スクリプトの表示/ウィザードの表示:**

クリックして、ダイアログのウィザードビューとスクリプトビューを切り替えます。現在、ほとんどの関数がウィザードを使用して利用できますが、[スクリプトビュー]を選択することで、ユーザーは、ウィザードを使用して作成された基本レポートにSQLに似た関数を追加できます（「スクリプトの構文」(507ページ)を参照）。

スクリプトがいったん変更されると、ウィザードは使用できなくなります。

### 13 次のいずれかを選択します。

**プレビュー:** このボタンをクリックすると、レポートを保存することもダイアログを閉じることもなく、レポートが実行されます。

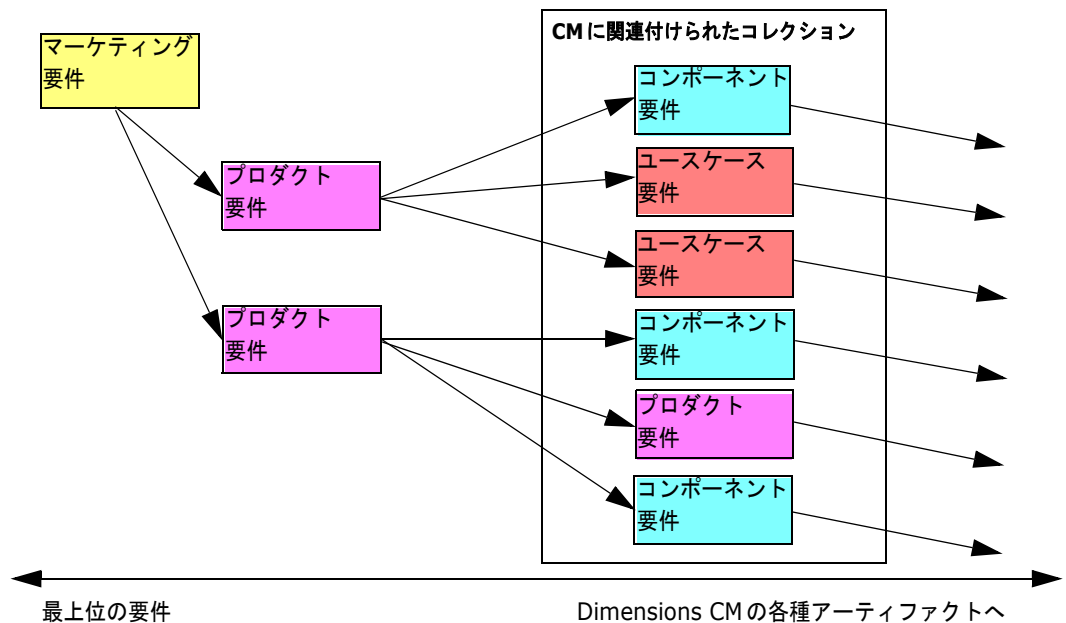
**保存:** このボタンをクリックすると、レポートが保存されて実行されます。その後、ダイアログが閉じます。

**キャンセル:** このボタンをクリックすると、変更が保存されずに終了します。

## トレーサビリティ作業ページでの作業

トレーサビリティは、要件間のリンケージを分析する1つの方法です。トレーサビリティを利用すると、追跡する関係を選択し、関係に含まれる要件を参照し、分析しやすいビジュアル形式で情報を示したトレーサビリティレポートを出力できます。

Dimensions CMのプロジェクトに関連付けられたコレクション内の要件は、トレーサビリティレポートに含めることができます。次の図は、トレーサビリティの例を示しています。



トレーサビリティ作業ページは、2つのペインで構成されています。左側のペインはトレーサビリティツリーで、最上位のクラスから関連するクラスや要件へのフローが階層形式で表示されます。右側のペインには、トレーサビリティツリーで選択した内容に基づく情報が表示されます。

トレーサビリティ作業ページには、次の表に示すコンポーネントが含まれます。

コンポーネント	説明
トレーサビリティツリー	トレーサビリティレポートの作成時に選択したクラスに属する要件が、階層形式で表示されます。トレーサビリティツリーの詳細については、「 <a href="#">トレーサビリティツリーについて</a> 」(303ページ)を参照してください。
詳細ペイン	選択した要件のリストビュー、または選択したレポートの名前と説明が表示されます。

## トレーサビリティツリーについて


トレーサビリティツリーに関する以下の点に注意してください。


クラス名が同じで関係の異なる複数のラベルが存在する場合、クラスラベルの括弧内に関係が表示されます。

要件にマウスポインターを合わせると、デフォルトで、ツールチップにその要件のクラスと要件IDが表示されます。ツールチップに表示される属性は追加することができます。詳細については、「[トレーサビリティツリーのカスタマイズ](#)」(303ページ)を参照してください。

要件ごとにトレーサビリティツリーで参照する属性を設定できます。デフォルトで、要件のPUIDとタイトルが表示されます。詳細については、「[トレーサビリティツリーのカスタマイズ](#)」(303ページ)を参照してください。

要件をダブルクリックすると、**[属性の編集]** ダイアログが開きます。ただし、右側のペインで要件の詳細内の属性をダブルクリックすると、要件の内容を直接編集することができます。

Dimensions CMのプロジェクトに関連付けられたコレクション内の各要件の横には、Dimensions CMを示すマーク  が表示されます。親要件が折りたたまれていて、親要件内にDimensions CMに関連付けられた子要件が存在する場合、親要件自体がDimensions CMに関連付けられていない場合でも、親要件にこのマークが表示されます。親要件を展開すると、このマークは関連する子要件に表示され、親要件には表示されなくなります。

要検討リンクを含む各要件の横には、要検討リンクのマーク  が表示されます。このマークは情報提供のみです。クリックしても、リンクの要検討ステータスは解消されません。

ドラッグアンドドロップ操作を使用して、ツリー内で親を変更することができます。元の親と同じクラスと同じパスを持つ親にのみ変更できます。要件は必ず新しい親にドラッグアンドドロップで移動し、新しい親の子要件に移動しないようにしてください。

Ctrlキーを押してドラッグアンドドロップ操作を使用すると、要件を別の親にコピーできます。

ツリーを再ロードするには、ツリーの右上にある更新アイコンをクリックします。

## トレーサビリティツリーのカスタマイズ

デフォルトでは、トレーサビリティツリーに表示される属性は、要件のPUIDとタイトルのみです。クラスごと、およびインスタンスごとに、トレーサビリティツリーに表示される属性を設定できます。たとえば、関連するSBMの問題番号、オーナー、ステータスが表示されるようにすると便利かもしれません。また、トレーサビリティツリーのスペースを使ってこの情報を表示する代わりに、ツールチップに要件タイトルなどの属性を表示するように設定することもできます。

トレーサビリティツリーをカスタマイズするには、次の手順を実行します。

- 1 トレーサビリティレポートの表示をアウトラインビューにします。トレーサビリティレポートがギャップビューで表示されている場合は、[アクション] ペインの [アウトラインビューに切り替え] をクリックします。
- 2 [アクション] ペインの [レポート] セクションの [属性の編集] をクリックします。[トレーサビリティレポートのプロパティ] ダイアログが開きます。



**注記** レポートがリリース10.1.2.0以前で作成されたものである場合、レポートを保存し直すまで変更が反映されないことを示す警告がダイアログボックスの上部に表示されます。

- 3 最初は、[クラスの選択] リストのみが表示されています。[クラスの選択] リストからクラスを選択します。
- 4 **ツリーに表示する属性:** レポートに表示する属性を指定します。「[表示する属性] リスト」(41ページ) を参照してください。
- 5 **ツールチップに表示する属性:** ツールチップに表示する属性を指定します。「[表示する属性] リスト」(41ページ) を参照してください。
- 6 [区切り文字] ボックスに、トレーサビリティツリーとツールチップで属性を区切るための文字を入力します。デフォルトの区切り文字は、コロン (:) です。

## レポートの編集

レポートを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [レポート] タブで、目的のレポートを選択します。



2 [アクション] ペインの [レポート] セットの [編集] をクリックします。レポートに応じて、レポートタイプの編集ダイアログまたは [スクリプトに基づくクエリ] ダイアログが開きます。前者は、ウィザードバージョンのダイアログで、これがデフォルトです。後者のダイアログでは、SQLライクなスクリプトを直接編集できます。このダイアログは、スクリプトが変更されていて、ウィザードで処理できなくなった場合に開きます。

3 新しい名前でもレポートを保存するには、次の手順を実行します。

- a [名前] ボックスに名前を入力します。
- b [説明] ボックスにクエリの説明を入力します。最大文字数は1024文字です。
- c [カテゴリ] リストで、クエリを保存するカテゴリを選択します。

4 必要に応じて、編集中のレポートのタイプに固有のフィールドを変更します。

**公開レポート:** レポートを公開する場合は、このボックスを選択します。このボックスを選択しない場合、レポートは非公開になります。公開レポートを作成するには、[レポート] セクションで権限を付与する必要があります。

**表示権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。

通常、デフォルトは [すべて] です。これは、レポートが存在するカテゴリにアクセスできるすべてのグループを意味します。リストから特定のグループを選択することができます。

**編集権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。デフォルトは、指定されたカテゴリにアクセスできるすべてのグループです。編集権限を特定のグループに制限することができます。

**サブカテゴリで表示:** チェックされている場合、レポートを保存したカテゴリのサブカテゴリでレポートにアクセスできます。すべてのユーザーにとって有益なレポートは通常、ルートカテゴリで作成するか、ルートカテゴリに移動します。

ルートカテゴリへのアクセス権限を持たないユーザーは、アクセス権限を持つすべてのサブカテゴリからレポートを実行できます。

**プレビュー:** このボタンをクリックすると、レポートを保存することもダイアログを閉じることもなく、レポートが実行されます。

**保存:** このボタンをクリックすると、レポートが保存されて実行されます。名前を変更していない場合、警告が表示され、[OK] をクリックするとファイルが上書きされます。

**クラスレポート - クラス:** リストから目的のクラスを選択します。

**関係レポート - 関係:** レポートを作成する関係を選択します。

**関係レポート - [レポートタイプ] タブ:** レポートタイプを選択します。

レポートタイプ	説明
完全 (コンプライアンスおよび非コンプライアンス)	レポートには、相互にリンクされているかどうかに関係なく、プライマリクラスとセカンダリクラスのすべての要件が記載されます。

レポートタイプ	説明
コンプライアンスのみ	レポートには、次のいずれかが記載されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ セカンダリクラスの一致する要件とのリンクを持つ、プライマリクラスのすべての一致する要件。</li> <li>■ プライマリクラスの一致する要件とのリンクを持つ、セカンダリクラスのすべての一致する要件。</li> </ul>
非コンプライアンス	レポートには、次のいずれかが記載されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ セカンダリクラスの一致する要件とのリンクを持たない、プライマリクラスのすべての一致する要件。</li> <li>■ プライマリクラスの一致する要件とのリンクを持たない、セカンダリクラスのすべての一致する要件。</li> </ul>

選択されたレポートタイプのサンプルが、ダイアログの右側に表示されます。

**トレーサビリティレポート - 最上位のクラス:** レポートのルートクラスを選択します。

**トレーサビリティレポート - [表示する関連クラス] タブ:**

クラスの横にあるチェックボックスを選択して、トレーサビリティレポートに表示する関係を指定します。



#### 注記

- 最上位のクラスの横にあるチェックボックスは、常に選択された状態で無効になっています。
- 循環依存を回避するため、すでに使用されている関係の横にあるチェックボックスも、選択された状態で無効になっています。
- 連続するクラスを選択する必要はありません。

- 5 制約:** 必要に応じて、目的の要件を見つけるための条件を指定します。「[フィルタリングと検索のメカニズム](#)」(50ページ) および「[\[関係制約\] タブ](#)」(57ページ) を参照してください。
- 6 表示オプション:** 必要に応じて、結果の表示方法を指定します。「[\[表示オプション\] タブ](#)」(59ページ) を参照してください。
- 7 表示オプション:** 必要に応じて、レポートに含める属性を指定します。表示の詳細とレポートの例については、「[\[表示オプション\] タブ](#)」(59ページ) を参照してください。
- 8 スクリプトの表示/ウィザードの表示:** クリックして、ダイアログのウィザードビューとスクリプトビューを切り替えます。現在、ほとんどの関数がウィザードを使用して利用できますが、「[スクリプトビュー](#)」を選択することで、ユーザーは、ウィザードを使用して作成された基本レポートにSQLに似た関数を追加できます（「[スクリプトの構文](#)」(507ページ) を参照）。

レポートがいったん変更されると、ウィザードは使用できなくなります。

- 9** 以下を実行します。
  - **プレビュー:** このボタンをクリックすると、レポートを保存することもダイアログを閉じることもなく、レポートが実行されます。
  - **保存:** このボタンをクリックすると、レポートが保存されて実行されます。その後、ダイアログが閉じます。

## レポートの名前の変更

最初に実行のためにレポートを開くことをしないで、レポートの名前を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューで **[レポート]** タブを開きます。
- 2 レポートを強調表示します。
- 3 **[アクション]** ペインで **[名前の変更]** をクリックします。
- 4 **[名前]** テキストボックスに新しい名前を入力します。
- 5 **[保存]** をクリックします。



**注記** 関係やレポートの名前を変更するには、**スクリプトの名前の変更権限**を持っているか、レポートのオーナーである必要があります。

## レポートの削除

レポートを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの **[レポート]** タブで、目的のレポートを強調表示します。
- 2 **[アクション]** ペインの **[レポート]** グループの **[削除]** をクリックします。確認ダイアログが表示されます。
- 3 **[OK]** ボタンをクリックします。

## レポートのエクスポート


Dimensions RM内で管理されるすべての要素をエクスポートできます。

レポート、コレクション、ベースライン、カテゴリ、ドキュメント、スナップショットのエクスポートに関する詳細については、[「要件のエクスポート」\(202ページ\)](#)を参照してください。


## レポートの異なるカテゴリへのコピーおよび移動

レポートを別のカテゴリに移動したり、レポートのコピーを別のカテゴリに保存したりすることができます。

レポートを別のカテゴリに移動するには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 目的のカテゴリを選択します。
- 3 **[レポート]** タブを選択します。
- 4 レポートをドラッグし、**[カテゴリ]** ツリーの目的のカテゴリにドロップします。


レポートを別のカテゴリにコピーするには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 目的のカテゴリを選択します。
- 3 [レポート] タブを選択します。
- 4 目的のレポートを強調表示します。
- 5 [アクション] ペインの [レポート] グループの [編集] をクリックします。選択したレポートの編集ダイアログを開きます。
- 6 **カテゴリ:** 目的のカテゴリを選択します。
- 7 次のいずれかを実行します。
  - 選択したカテゴリにレポートのコピーを保存するには、レポートの [名前] を変更し、[保存] ボタンをクリックします。
  - 選択したカテゴリに既存のレポートを移動するには、[保存] ボタンをクリックします。

## レポートのURLのクリップボードへのコピー

後から使用または参照できるように、レポートのURLをコピーしてファイルに貼り付けることができます。このURLを起動すると、RM Browserが開いて該当するレポートが表示されます。

レポートのURLをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 [レポート] タブを選択します。
- 3 レポートを選択します。
- 4 [アクション] ペインの [レポート] セクションの [直接URLの作成] をクリックします。[直接URL] ダイアログが開きます。
- 5 URLを右クリックして [リンクのアドレスをコピー] を選択します。URLがクリップボードにコピーされます。
- 6 [閉じる] をクリックしてダイアログを閉じます。
- 7 Ctrl+Vキーを押すか、関連するアプリケーション固有のメニューコマンドを使用して、そのURLを使用するファイルまたはアプリケーションにURLを貼り付けます。

## レポートの URL の変更

URL をファイルまたはアプリケーションに貼り付けた後に、URL にパラメーターを追加して、追加機能を利用することができます。URL で実行時パラメーターを指定しない場合は、レポートの実行時にこれらを指定できます。

機能	説明	URL の例
タイトルバーの非表示	デフォルトで、レポートには、データベース、インスタンス、およびレポートのパスに関する情報を含むタイトルバーが表示されます。タイトルを非表示にするには、 <b>&amp;hideTitleBar=true</b> を URL に追加します。	<code>http://myserver:8080/rtmBrowser/cgi-bin/rtmBrowser.exe?goto=report&amp;db=ORCL&amp;proj=RMDEMO&amp;reportID=1141&amp;hideTitleBar=true</code>
アウトラインビューでの追跡レポートの表示	アウトラインビューで追跡レポートを表示するには、URL に <b>&amp;outlineView=1</b> を追加します。	<code>http://myserver:8080/rtmBrowser/cgi-bin/rtmBrowser.exe?goto=report&amp;db=ORCL&amp;proj=RMDEMO&amp;reportID=1141&amp;outlineView=1</code>
実行時パラメーターの使用	実行時パラメーターを使用して、レポートの結果をフィルタリングすることができます。これらのパラメーターは、任意のレポートで使用できます。実行時パラメーターを追加するには、 <b>&amp;&lt;パラメーター名&gt;=&lt;値&gt;</b> を URL に追加します。  実行時パラメーターを指定する際には、値を URL エンコードする必要があります (例: Café は Caf%C3%A9 に変換)。	<code>http://myserver:8080/rtmBrowser/cgi-bin/rtmBrowser.exe?goto=report&amp;db=ORCL&amp;proj=RMDEMO&amp;reportID=3522&amp;RTP_VERIFICATION_LEVEL_1=System</code>
実行時パラメーターでの複数の値の使用	値を   記号でつなぎ合わせることで、実行時パラメーターで複数の値を使用できます。 例: <b>&amp;RTP_VERIFICATION_LEVEL_1=System Module</b>	<code>http://myserver:8080/rtmBrowser/cgi-bin/rtmBrowser.exe?goto=report&amp;db=ORCL&amp;proj=RMDEMO&amp;reportID=3522&amp;RTP_VERIFICATION_LEVEL_1=System Module</code>

### 実行時パラメーターの名前の取得

レポート内で使用される実行時パラメーターの名前を取得するには、次の手順を実行します。

- 1 レポートの URL をテキストエディター (メモ帳など) に貼り付けます。この URL を **Report URL** と呼びます。  
URL の例: `http://myserver:8080/rtmBrowser/cgi-bin/rtmBrowser.exe?goto=report&db=ORCL&proj=RMDEMO&reportID=3522`
- 2 次の URL をテキストエディターにコピーします: `http://host:port/rtmBrowser/RestServices/Report?id=<REPORT_ID>&db=<DATABASE>&proj=<INSTANCE>`  
この URL を **Rest URL** と呼びます。

- 3 Report URLに合わせて、Rest URLのプロトコル (httpまたはhttps)、ホスト、およびポートを調整します。
- 4 **Report URL**の**db**パラメーターの値を選択し、**Ctrl+C**キーを押すか、ハイライトされた値を右クリックしてショートカットメニューから [**コピー**] を選択して、クリップボードにコピーします。URLの例で、この値はORCLです。
- 5 **Rest URL**で<**DATABASE**>を選択し、**Ctrl+V**キーを押すか、関連するアプリケーション固有のメニューコマンドを使用して、Report URLからコピーした値に置き換えます。
- 6 **Report URL**の**proj**パラメーターの値を選択し、**Ctrl+C**キーを押すか、ハイライトされた値を右クリックしてショートカットメニューから [**コピー**] を選択して、クリップボードにコピーします。URLの例で、この値はRMDEMOです。
- 7 **Rest URL**で<**INSTANCE**>を選択し、**Ctrl+V**キーを押すか、関連するアプリケーション固有のメニューコマンドを使用して、Report URLからコピーした値に置き換えます。
- 8 **Report URL**の**reportID**パラメーターの値を選択し、**Ctrl+C**キーを押すか、ハイライトされた値を右クリックしてショートカットメニューから [**コピー**] を選択して、クリップボードにコピーします。URLの例で、この値は3522です。
- 9 **Rest URL**で<**REPORT\_ID**>を選択し、**Ctrl+V**キーを押すか、関連するアプリケーション固有のメニューコマンドを使用して、Report URLからコピーした値に置き換えます。URLの例を使用してこれらの手順を実行した場合、Rest URLは次のようになります。http://myserver:8080/rtmBrowser/RestServices/Report?id=3522&db=ORCL&proj=RMDEMO
- 10 完成した**Rest URL**を選択し、**Ctrl+C**キーを押すか、ハイライトされたURLを右クリックしてショートカットメニューから [**コピー**] を選択して、クリップボードにコピーします。
- 11 好みのWeb ブラウザーを開き、**Ctrl+V**を押して、このURLをアドレスバーに貼り付けます。続いて、**Enter**キーを押します。
- 12 ユーザー名とパスワードを求めるダイアログが表示されたら、各自の RM ユーザー名とパスワードを入力し、ダイアログを確認します。Internet Explorerでは、場合により、次の手順を実行する必要があります。
  - a [**Report.json**を開くか、または保存しますか?] バーで [**開く**] をクリックします。
  - b 次のダイアログで、[**インストールされたプログラムの一覧からプログラムを選択する**] オプションを選択し、[**OK**] をクリックします。
  - c [**プログラムから開く**] ダイアログで、**メモ帳**または別のテキストエディターを選択します。
  - d [**この種類のファイルを開くときは、選択したプログラムをいつも使う**] チェックボックスをクリアします。
  - e [**OK**] をクリックします。
- 13 **RTP\_\_**を検索します (アンダースコアが2つあることに注意してください)。
- 14 パラメーター全体 (例: RTP\_\_VERIFICATION\_LEVEL\_1) を選択し、Report URLに貼り付けます。
- 15 等号 (=) と URLエンコード値 (例: Caf%C3%A9に変換される) を追加します。URLの例を使用してこれらの手順を実行した場合、Report URLは次のようになります。http://myserver:8080/rtmBrowser/cgi-bin/rtmBrowser.exe?goto=report&db=ORCL&proj=RMDEMO&reportID=3522&RTP\_\_VERIFICATION\_LEVEL\_1=System

16 以上で、ファイルまたはアプリケーション内でReport URLを使用できるようになります。

## コンプライアンスレポート

Dimensions RMコンプライアンスレポートは、組織がDimensions RMに保存されているデータを使用して、法律、組織内あるいは組織外のルール、規制、標準に対する遵守状況の評価に役立つよう設計されています。

コンプライアンス機能の一部をトレーサビリティレポートに含めたり、複数のレポートにまとめて自分のダッシュボードに進行状況を表示させたりできます。ただし、コンプライアンス監査を使用すると、組織はすべてのルールを1つのレポートにまとめ、出力をエラーに限定することができます。

一連のカテゴリまたはリリースドキュメントでは、次の点を確認できます。

- すべての要件が特定のリリースに割り当て済みである。
- リリースに含まれるすべてのオブジェクトが承認済みである。
- すべての要件関係が存在する。
- すべてのリンク先のテストケースが成功した。

コンプライアンス監査では、定義された条件を満たせなかったオブジェクトを一覧表示します。

以下のセクションでは、次の手順について説明します。

- レポートの作成: [「シンプルなコンプライアンスレポートの作成」\(311 ページ\)](#)
- コンプライアンスレポートの実行: [「コンプライアンスレポートの実行」\(315 ページ\)](#)

### シンプルなコンプライアンスレポートの作成

コンプライアンス監査には、以下の3つのパートがあります。

- 1 一般: レポートに名前を付けて目標を記述: [「コンプライアンスレポート: 一般」\(311 ページ\)](#)
- 2 スコープ: レポートカバレッジの範囲を設定: [「コンプライアンスレポート: スコープ」\(313 ページ\)](#)
- 3 ルール: コンプライアンスで満たす必要のあるルールの定義: [「コンプライアンスレポート: ルール」\(314 ページ\)](#)

#### コンプライアンスレポート: 一般

コンプライアンスレポートを作成または実行するには、[ホーム] ビューの [コンプライアンス] タブを選択します。タブが利用できない場合は、[「ホームの設定」\(84 ページ\)](#) の手順を確認してください。

レポート作成を開始するには、次の手順を完了します。



**注意!** すべてのレポートと同様、ユーザーがいずれかのカテゴリで「閲覧」権限を持っていない場合、クエリ要件を満たしている場合でも、そのカテゴリの要件はクエリの結果として返されません。

- 1 [ホーム] ビューから [コンプライアンス] タブを選択します。
- 2 [新規] をクリックして、[新規コンプライアンス監査] >> [一般] ダイアログを開きます。
- 3 名前を入力します。
- 4 説明属性を使用して、目標を定義します。
- 5 以下のようにレポートのアクセシビリティを決定します。

**公開レポート:** レポートを公開する場合は、このボックスを選択します。このボックスを選択しない場合、レポートは非公開になります。公開レポートを作成するには、[レポート] セクションで権限を付与する必要があります。

**表示権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。

通常、デフォルトは [すべて] です。これは、レポートが存在するカテゴリにアクセスできるすべてのグループを意味します。リストから特定のグループを選択することができます。

**編集権限を持つグループ:** このオプションは、[公開レポート] が選択されている場合にのみ使用できます。デフォルトは、指定されたカテゴリにアクセスできるすべてのグループです。編集権限を特定のグループに制限することができます。

- 6 **カテゴリ:** この設定はレポートを保存するカテゴリを参照します。デフォルトでは現在のカテゴリになっています。ドロップダウンを使用して設定できます。
- 7 **サブカテゴリで表示:** チェックされている場合、レポートを保存したカテゴリのサブカテゴリでレポートにアクセスできます。すべてのユーザーにとって有益なレポートは通常、ルートカテゴリで作成するか、ルートカテゴリに移動します。

ルートカテゴリへのアクセス権限を持たないユーザーは、アクセス権限を持つすべてのサブカテゴリからレポートを実行できます。

コンプライアンス、[一般] ダイアログのサンプル:

Simple Compliance Audit » General

▼ GENERAL

Name: ●  
Simple Compliance Audit

Description:  
The workflow state of all Functional Requirements must be approved.  
All Functional Requirements must be linked to at least one Test Case.

Public Compliance Audit

Visible for: ● All

Editable for: ● Administrator

Category:  
ALM\_DEMO

Show in Subcategories

View All

Next > Save Cancel

- 8 [次へ] をクリックして [スコープ] ダイアログに進みます。



## コンプライアンスレポート: スコープ

レポートに関連するすべてのオブジェクトを特定します。スコープには、カテゴリ内のすべてのオブジェクト、またはレポート、ベースライン、ドキュメントのいずれかに含まれるオブジェクトを含めることができます。

スコープを展開して、スコープ内として定義されたオブジェクトにリンクするすべてのオブジェクトを含めることができます。

### 9 スコープでは以下を選択できます。

- 今すぐ定義 - 実行時に提供された再定義または再評価を用いる。
- 実行時に定義 - スコープの決定は後で行います。

レポートのターゲットによりますが、スコープを定義し、同時に実行時に再評価する余地を残しておくことをお勧めします。

### 10 [今すぐ定義] を選択する場合は、[スコープの追加] をクリックして、[スコープ] >> [定義] ダイアログを表示します。

オブジェクトはチェックマークを使用して選択し、複数の項目を選択することができます。

- a スコープタイプを選択します。スコープは、1つ以上のカテゴリ、コンテナ、またはレポートに基づくことができます。
- b カテゴリを選択した場合は、現在のカテゴリのみを選択することも、そのサブカテゴリを含めることもできます。



**注記** このカテゴリの選択は、コンプライアンス監査を作成および/または保存したカテゴリではなく、監査を実行するカテゴリを参照します。

c コンテナを選択した場合は、コンプライアンスレポートで関連オブジェクトを特定するために使用するドキュメント、スナップショット、コレクション、またはベースラインを選択します。

オブジェクトの選択をサポートするためのフィルターとして、ここにカテゴリを入力できます。

d レポートを選択した場合は、コンプライアンスレポートのスコープを指定するために使用するレポートを選択します。

レポートに含まれる任意の文字を入力してリストをフィルタリングします。

e [OK] をクリックします。

### 11 リンクされたオブジェクトを含める: 選択したオブジェクトにリンクするすべてのオブジェクトをスコープに含める場合は、このボックスをチェックします。この例では、ドキュメントにリリーススコープ全体を含めました。

コンプライアンススコープダイアログのサンプル - スコープをリリースドキュメントに含まれるオブジェクトのみに限定。

Simple Compliance Audit » Scope ×

▼ SCOPE ● 1

The Compliance Audit Scope defines the set of objects that the Compliance Audit operates on. The Scope is further refined by individual rules.  
The Scope can be defined through Objects contained in Categories and Containers, through Objects returned by Reports and through Objects linked by other Objects.

Define Now  Allow Redefinition on Run  
 Define on Run

Selected Scope:

Containers: TDR Release 1.5 ✎ ✖

Scope Options:

Objects: Included Types: ●

Include Linked Objects  
Enable to include all linked Objects of all Objects in the Scope at this point.

Baselines, Categories, Collections, Documents, Reports, Requirements, Snaps... ▾

12 [次へ] をクリックして [ルール] ダイアログに進みます。

### コンプライアンスレポート: ルール

ルールは、たとえば監査要件を定義する1つ以上のステートメントで構成されます。

- すべての機能要件のワークフロー状態は [承認済み] である必要があります。
- すべての機能要件は、少なくとも1個のテストケースにリンクしている必要があります。



**注記** 続行する前に入力が必要なフィールドは、赤で一覧表示されていることに注意してください。

- 13 ルール名を入力します。ルールは個別に選択および実行される可能性があるため、それぞれに意味のある名前を付ける必要があります。たとえば、承認済みFRワークフローなどです。
- 14 ルールの目標を入力します。たとえば、すべての機能要件は承認済みである必要がある、などです。
- 15 ルールには1つ以上の条件があり、条件には制約があります。最初の条件は制約用に準備されているはずですが。
- 16 [制約の追加] をクリックします。これにより、新しい行が、表示されるフィールドとともに開きます。
- a タイプをカテゴリ、クラス、オブジェクトタイプ、またはタイトルから選択します。この例では、クラスを選択します。
  - b タイプを選択すると、右側に選択肢が一覧表示されます。この例では、クラスが一覧表示され、[機能] を選択しました。
  - c [制約の追加] をクリックして、検索を [承認済み] の状態が含まれない機能要件にさらに制約します。

## コンプライアンス条件のサンプル -

Simple Compliance Audit » Rules

▼ RULES 1

▼ FR Workflow Approved

Name: FR Workflow Approved

Description:

File Edit View Insert Format Tools Table

Paragraph B I A sans-serif 9pt

All Functional Requirements must be approved.

Conditions (1): + Add Condition

▼ Condition 1

▼ Source Constraints (2) + Add Constraint

Class	in	Functional_Requirement
Workflow State	not in	Approved Completed In Dev In Test Proposed

Add Link Constraint

Count: = 0

View All < Prev Save Cancel

**17** 【カウント】をゼロに設定します。承認済みでないワークフローを持つ機能要件の数を報告していません。エラーのみが報告されます。

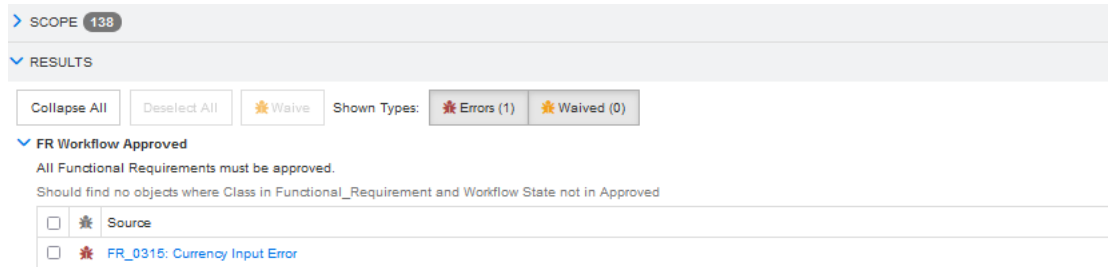
**18** レポートを保存します。

レポートを実行するためにここで一時停止します。監査に関係を追加するには、「[コンプライアンスレポートの展開](#)」(316ページ)を参照してください。

## コンプライアンスレポートの実行

- 1 [ホーム]ビューから[コンプライアンス]タブを選択します。
- 2 保存したレポートをドロップダウンから選択し、[実行]をクリックしてダイアログを表示します。
- 3 実行時にスコープを変更する機能を組み込んだ場合は、変更することができます。
- 4 コンプライアンスレポートは多くのルールで構成することができ、これらのルールは選択的に実行できます。

実行するルールの横にあるボックスをチェックにして、[実行] をクリックします。



- 5 実行ダイアログから、数千のオブジェクトで構成されるスコープを確認したり、[エラー] タブをクリックするだけで問題を一覧表示したりすることができます。問題のあるオブジェクトに直接リンクし、それを修正してレポートを再度実行することもできます。

一部のエラーは、実行中または問題が修正されるまで免除することができます。エラーの [免除] を選択できます。

コンプライアンスエラーを免除するには、以下の手順を実行します。

- 1 エラーの左側にあるボックスをチェックします。
- 2 [免除] ボタンをクリックして、[免除] ダイアログを表示します。
- 3 エラーを免除する理由を入力します。
- 4 レポートの実行を続行します。免除された問題は引き続き表示されます。

## コンプライアンスレポートの展開

### コンプライアンスに関係を追加

コンプライアンスレポートは時間の経過とともに展開でき、必要に応じて既存のルールに追加する新しいルールや条件が作成できます。以下の手順を実行して、既存のレポートに新しいルールを追加します。

- 1 [ホーム] ビューから [コンプライアンス] タブを選択します。
- 2 ドロップダウンから保存したレポートを選択し、編集用の鉛筆アイコンをクリックしてダイアログを開きます。[次へ] ボタンを使用して、[一般] および [スコープ] ダイアログを飛ばして、[ルール] に移動するか、ダイアログの下部にある [すべて表示] ボタンをクリックしてレポート全体をスクロールすることができます。
- 3 [ルールの追加] をクリックして、既存のダイアログに新しいルールを追加します。
- 4 [ルール名] を入力します。この2番目の例では、関係を含めており、ルール名は「In FR to TC」とします。
- 5 ルールの目標を入力します。例: すべての機能要件は、少なくとも1個のテストケースにリンクしている必要があります。
- 6 最初の条件はルールで作成されます。[制約の追加] をクリックして、新しい制約の行を開きます。
  - a タイプを選択します。2つのクラスのオブジェクト間のリンク / 関係の存在を確認するため、この例ではクラスを選択します。
  - b タイプを選択すると、右側に選択肢が一覧表示されます。この例では、機能クラスを選択します。

- c [リンク制約の追加] をクリックします。
  - d リンクの方向はデフォルトでは [任意] になっていますが、この例ではこのままで問題ありません。
  - e [制約の追加] をクリックして、ターゲット制約を追加します。  
[クラス]、[次の値に含まれる]、[値]、[テストケース] を選択します。
- 7 各機能要件とテストケースの間には少なくとも 1 個のリンクが存在する必要があるため、カウン트는 [ > ゼロ ] (ゼロより大きい) に設定する必要があります。

fr to tc

Name: fr to tc

Description: Functional must be linked to at least one test case

Conditions (1):

Condition 1

Source Constraints (1): Class in Functional\_Requirement

Remove Link Constraint

Link Direction: Any

Any Link Direction. Both primary and secondary linked objects form the Target Scope.

Target Constraints (1): Class in Value Test\_Case

Count: > 0

コンプライアンスレポートでは、任意のルールまたはルールの組み合わせが受け入れられます。また、ルールは個別に定義、実行できます。つまり、大規模なコンプライアンス監査のセグメントは、異なるアプリケーションチームによって異なるタイミングで実行できます。

クラスに含まれるすべての属性、またはドキュメント内のすべてのタイトルを評価できます。たとえば、要件のクラスを選択すると、すべてが適切であることが確認されるまで追加の制約を追加できます。

既存の関係用のテストに制約を追加して、関連する各テストケースがテストに合格したことを確認できます。



## 第7章

---

# コレクションとベースラインの操作

コレクション内の要件の管理	320
コレクションの新規作成	321
コレクションへの要件の追加	322
コレクションからの要件の除去	323
コレクションの削除	323
コレクションの削除の取り消し	324
コレクションの除去	324
コレクションの内容の更新	324
コレクションプロパティの更新	325
ベースラインの管理	325
ベースラインの新規作成	326
ベースラインの除去	327
ベースラインプロパティの更新	327
親コレクションの操作	327
ベースラインおよびコレクション関連の機能	330
コレクションまたはベースラインでのワークフローの使用	330
コレクションまたはベースラインの異なるカテゴリへの移動	331
コレクションまたはベースラインのURLのクリップボードへのコピー	332
コレクションまたはベースラインのURLの変更	332

## コレクション内の要件の管理

コレクションは、1つ以上のクラスから選択されたオブジェクトの名前付きグループです。

コレクションにより、ユーザーは割り当て、統合サポート、レビュー、ベースライン作成に必要な要件を収集することができます。Dimensions RMのすべてのコンテナと同様に、コレクションには要件のコピーは含まれず、要件のバージョン（通常はコレクション内での最新バージョン）へのリンクが含まれます。





**注意！** コレクションの内容を表示する場合、読み取りアクセス権がある要件のみが表示されます。

コレクションの内容は、他のコンテナやすべてのレポートタイプに含めることができます。

コレクションの内容を一覧表示するには、次の手順を実行します。

**[ホーム] ビューから：**

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 関連する場合、目的のカテゴリを選択します。
- 3 [コレクション] タブを選択します。  
[サブディレクトリを含める]  フォルダを開くと、アクセス権のあるカテゴリ内のすべてのコレクションが一覧表示されます。  
[列] タブを使用すると、ワークフロー関連の属性を含む追加のコレクションのプロパティを表示に含めることができます。
- 4 内容を一覧表示するには、目的のコレクションをダブルクリックするか、[アクション] ペインの [コレクション] の下にある [内容の表示] を選択してクリックします。

**クイック検索から：**

- 1 **クラスの選択**  
クイック検索の設定を完了し、[すべてのクラス] または少なくともコレクションに含まれるすべてのクラスが選択されていることを確認します。
- 2 コレクションは [お気に入り] に設定することができます。  
コンテナにコレクションを含めます。カテゴリと同様に、コレクションも [お気に入り] としてマークできます。



次のセクションでは、コレクションに関連する追加の機能について説明します。

[「コレクションの新規作成」 \(321 ページ\)](#)

[「コレクションへの要件の追加」 \(322 ページ\)](#)

[「コレクションからの要件の除去」 \(323 ページ\)](#)

[「コレクションの削除」 \(323 ページ\)](#)

[「コレクションの削除の取り消し」 \(324 ページ\)](#)



[「コレクションの除去」\(324ページ\)](#)

[「コレクションの内容の更新」\(324ページ\)](#)

[「コレクションプロパティの更新」\(325ページ\)](#)

[「コレクションまたはベースラインのURLの変更」\(332ページ\)](#)

## コレクションの新規作成

コレクションを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [新規] メニューから [コレクション] を選択します。[新規コレクション] ダイアログが開きます。
- 2 **コレクション名:** 新しいコレクションの名前を入力します。
- 3 **説明:** コレクションの説明を入力します。説明の最大文字数は512文字です。
- 4 **カテゴリ:** リストから所有カテゴリを選択します。
- 5 **コレクションルール:** コレクションに含まれるオブジェクトを編集したときのオブジェクトリンクへの影響を明らかにするため、コレクションリンクのルールを定義します。以下のオプションがあります。

**編集と保存の際に新しいバージョンをコレクションに追加:** このコレクションに含まれるオブジェクトが編集されると、リンクは新しいオブジェクトに移動します。ベストプラクティスとしては、コレクションをベースライン化するために固定 (不変) オブジェクトリストが必要な場合、このボックスをチェックします。

**編集と保存の際に古いバージョンをコレクションから削除:** このコレクションに含まれるオブジェクトが編集されると、リンクは新しいオブジェクトに移動し、元のオブジェクトは削除されます。ベストプラクティスとしては、このボックスをチェックします。チェックしない場合、単一の要件に対して複数のバージョンがコレクションに含まれることとなります。

**除去時に前のバージョンに戻す:** このボックスがチェックされている場合、オブジェクトがインスタンスから除去される際に、親が存在する場合、リンクは親に移動します。このボックスは、デフォルトではチェックされていません。

**オブジェクトを追加/除去可能にする:** このボックスがチェックされている場合、コレクションはアクティブになり、コレクションに要件を追加したり、コレクションから要件を除去したりできます。このボックスは、デフォルトでチェックされています。

**削除されたオブジェクトをコレクションから除去する:** このボックスがチェックされている場合、削除済みとしてマークされたオブジェクトがコレクションから除去されます。デフォルトでは、削除されたオブジェクトはインスタンス内に残るため、コレクション内に残りますが、削除済みとしてマークされます。

**これらのルールを新しいコレクションのデフォルトとして使用する:** このボックスをチェックして、以降のすべての新しいコレクションに選択したコレクションルールを適用します。

- 6 **ベースの選択:** コレクションの初期入力方法を特定するため、以下のオプションのいずれか1つを選択します。

**空のコレクション:** 既存コンテナを新しいコレクションのベースとして用いない場合は、このオプションを選択します。

**選択されたコンテナ:** このオプションを選択すると、[コンテナの追加] ダイアログが表示されます。チェックボックスを使用して、既存のタイプ(コレクション、ドキュメント、スナップショット、ベースライン) から1つ以上のコンテナを選択します。新しいベースラインには、選択したコンテナのすべての要件が含まれます。[「コンテナの追加」\(326ページ\)](#) を参照してください。

**クエリ:** 最初にドロップダウンから [カテゴリ] を選択し、次にレポート名を選択します。

リストが長い場合は、ダイアログの下部にある [クエリの検索] フィルターを使用してレポート名でフィルタリングします。

7 [OK] をクリックします。

コレクションにより、ユーザーは割り当て、統合サポート、レビュー、ベースライン作成に必要な要件を収集することができます。コレクションから利用できる [アクション] には次のものがあります。

**比較:** 2つのベースライン、またはベースラインとコレクションを比較する機能。詳細については、「[コレクションまたはベースラインの比較](#)」(330ページ)を参照してください。

**リンクの参照:** コレクションの内容のリンクグラフを表示すると、興味深い内容が表示されます。詳細については、「[リンクブラウザーの使用](#)」(224ページ)を参照してください。

**要検討リンクの解決:** コレクションの各オブジェクトからの直接リンクに関する要検討をクリアします。これには、理由が必要になる場合があります。詳細については、「[要検討リンク](#)」(219ページ)を参照してください。

機能については、以下を参照してください。

[「コレクションへの要件の追加」](#) (322ページ)

[「コレクションからの要件の除去」](#) (323ページ)

[「コレクションの削除」](#) (323ページ)

[「コレクションの削除の取り消し」](#) (324ページ)

[「コレクションの除去」](#) (324ページ)

[「コレクションの内容の更新」](#) (324ページ)

[「コレクションプロパティの更新」](#) (325ページ)

## コレクションへの要件の追加

コレクションに要件を追加するにはいくつかの方法があります。「[コレクションの新規作成](#)」(321ページ)で説明されているように、新しいコレクションでは作成中に設定できます。

要件は、[クイック検索] から、または任意のオブジェクトリストから追加できます。

- 1 作業ペインで1つまたは複数の要件を選択します。
- 2 [アクション] ペインの [要件] セットから [コレクションに追加] を選択します。
- 3 [コレクションに追加] ダイアログで、目的のコレクションを1つ以上選択します。  
選択範囲を限定するには、上部のフィルターを使用します。
- 4 [OK] をクリックします。

より大きな要件のグループをコレクションに追加する必要がある際は、[コレクション別に整理] を使用します。

- 1 コレクションがまだ開いていない場合は、作業ページにコレクションを開きます。
- 2 [アクション] ペインの [コレクション] グループの [コレクション別に整理] を選択します。
- 3 **クラスの検索:** 要件を検索するクラスを選択します。

- 4 **フィルター:** クイック検索でフィルターを保存した場合は、コレクションへの追加にこれらのフィルターを使用できます。
- 5 **制約:** 必要に応じて、目的の要件を見つけるための条件を指定します。  
「[フィルタリングと検索のメカニズム](#)」(50ページ) および「[\[関係制約\] タブ](#)」(57ページ) を参照してください。
- 6 **表示オプション:** 必要に応じて、結果の表示方法を指定します。  
「[\[表示オプション\] タブ](#)」(59ページ) を参照してください。
- 7 **検索の実行:** このボタンをクリックすると、検索が実行されます。結果はダイアログの下側のペインに表示されます。
- 8 **新規検索:** このボタンをクリックすると、現在の検索条件と結果がクリアされます。
- 9 検索結果から目的の要件を選択します。要件の複数選択については、「[複数の要件の選択](#)」(39ページ) を参照してください。
- 10 **コレクション:** 要件を追加または除去するコレクションを選択します。
- 11 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - 追加:** 選択した要件をコレクションに追加します。
  - 除去:** 選択した要件をコレクションから除去します。

## コレクションからの要件の除去

[要件] ビューから、要件を選択して、[[コレクションから要件を除去](#)] をクリックするだけで、コレクション (複数可) から要件を除去することができます。

コレクションから要件を除去するには、次の手順を実行します。

- 1 作業ペインで1つまたは複数の要件を選択します。
- 2 [[アクション](#)] ペインの [[要件](#)] セットから [[コレクションから除去](#)] を選択します。
- 3 目的のコレクションを1つ以上選択します。
- 4 [[OK](#)] をクリックします。

## コレクションの削除

コレクションを削除すると、コレクションに削除済みのマークが付きます。削除されたコレクションには内容を追加できなくなり、[[削除されたコレクションの表示](#)] を選択しない限り、[ホーム] ビューの [[コレクション](#)] タブで表示されるリストに表示されなくなります。

コレクションを完全に除去するには、[[除去](#)] 機能を使用します (「[コレクションの除去](#)」(324ページ) を参照)。

コレクションを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューを開きます (「[\[ホーム\] ビューの操作](#)」(263ページ) を参照)。
- 2 [[コレクション](#)] タブを選択します。
- 3 1つまたは複数のコレクションを選択します。

- 4 [アクション] ペインの [コレクション] セットの [削除] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックして削除を確認します。

## コレクションの削除の取り消し

コレクションを削除すると、コレクションに削除済みのマークが付きますが、データは保持されます。コレクションの削除を取り消すと、コレクションが復元されます。

コレクションの削除を取り消すには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューを開きます (「[ホーム] ビューの操作」(263ページ) を参照)。
- 2 [コレクション] タブを選択します。
- 3 [アクション] ペインの [コレクション] セットの [削除されたコレクションの表示] をクリックします。削除されたコレクションは、灰色のテキストでリストに表示されます。
- 4 1つまたは複数の削除されたコレクションを選択します。
- 5 [アクション] ペインの [コレクション] セットの [削除の取り消し] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックして、選択したコレクションの削除を取り消します。

## コレクションの除去

内容ではなく、コレクションを除去すると、データベースからコレクションが完全に除去されます。除去されたコレクションは復元できません。

コレクションは、[削除] を使用して削除済みとしてマークできます (「コレクションの削除」(323ページ) を参照)。

コレクションを完全に除去するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューを開きます (「[ホーム] ビューの操作」(263ページ) を参照)。
- 2 [コレクション] タブを選択します。
- 3 1つまたは複数のコレクションを選択します。
- 4 [アクション] ペインの [コレクション] セットの [除去] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックして、選択したコレクションを除去します。

## コレクションの内容の更新

クエリまたはレポートに基づいて作成されたコレクションの内容は、プロジェクトの内容が変わると変更されます。インスタンス管理者は、クエリまたはレポートに基づいてすべてのコレクションを自動的に更新するためにオプションを設定することが可能です。この設定は、パフォーマンスと制御両方の理由から、デフォルトでオフ(チェックなし)になっています。このオプションをアクティブ化/非アクティブ化するには、「一般設定」(83ページ) を参照してください。

自動更新がオフになっている場合は、内容の変更を含めるためにコレクションを更新する必要があります。コレクションの内容を手動で更新するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューを開きます (「[ホーム] ビューの操作」(263ページ) を参照)。

- 2 [アクション] ペインの [要件] セットで、[コレクションの更新] をクリックします。



**注記** 選択したコレクションがレポートに基づいていない場合 (つまり、コレクションが静的である場合) は、[コンテナの更新] アクションが淡色で表示されます。

## コレクションプロパティの更新

コレクションの名前の変更と説明の変更、および新しい子オブジェクトをコレクションに含める方法と含めるか否かを定義するコレクションルールの変更が行えます。

コレクションのプロパティを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 メインメニューバーで、[ホーム] ビューを選択します。
- 2 [コレクション] タブを選択します。
- 3 目的のコレクションを選択します。
- 4 [アクション] ペインの [コレクション] セットの [プロパティの編集] をクリックして、[プロパティ] ダイアログを開きます。
- 5 必要に応じて名前、説明、およびコレクションルールを変更します。コレクションルールの定義については、「[コレクションの新規作成](#)」(321 ページ) を参照してください。
- 6 [OK] をクリックして変更を確認します。

## ベースラインの管理

ベースラインとは、比較やレビューに使用できる凍結されラベルが付けられた状態です。コレクション、階層、レポート (クエリ) 出力、またはドキュメントのオブジェクトコンテンツをベースライン化できます。

次の点に注意してください。

**ベースラインの内容:** ベースラインの内容は変更できませんが、適切な権限を持つユーザーは名前の変更や削除が可能です。

ユーザーは、割り当てられた権限に関係なく、自分が作成したベースラインの削除や名前の変更が可能です。

コレクションはベースラインから作成できます。

**オブジェクトのロック:** ベースライン内から要件を開くと、ヘッダーにロックが表示されます。ベースライン化されたオブジェクトに適用された変更は新しいバージョンとして保存され、ベースライン化されたバージョン自体は変更されません。

ベースラインに含まれるオブジェクト間のリンクもベースライン化されており、ベースラインが作成された後は変更できません。適用される変更はベースライン外になります。

**要検討リンク:** 要検討リンクを含む要件は、ベースライン化された後も要検討のままです。ベースラインを変更せずに、要検討をクリアできます。

**ワークフローの遷移:** ベースラインに含まれるオブジェクトは遷移できます。新しいバージョンが作成されますが、ベースライン化されたオブジェクトは変更されません。

ベースラインの内容には、[ホーム] ビュー  の [ベースライン] タブからアクセスできます。

次のセクションでは、ベースラインに関連する機能について説明します。

[「ベースラインの新規作成」](#) (326 ページ)

[「ベースラインの除去」](#) (327 ページ)

[「ベースラインプロパティの更新」](#) (327 ページ)

[「コレクションまたはベースラインのURLのクリップボードへのコピー」](#) (332 ページ)

## ベースラインの新規作成

ベースラインとは、比較やレビューに使用できる凍結されラベルが付けられた状態です。コレクション、階層、レポート (クエリ) 出力、またはドキュメントのオブジェクトコンテンツをベースライン化できます。

コレクションからベースラインを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **[新規]** メニューから **[ベースライン]** を選択します。**[ベースラインの作成]** ダイアログが開きます。
- 2 **名前:** ベースラインの名前を入力します。
- 3 **説明:** ベースラインの説明を入力します。
- 4 **カテゴリ:** ベースラインを保存するカテゴリを選択します。  
アクセス可能な任意のカテゴリにベースラインを追加できます。
- 5 **ワークフロー:** オプションのワークフローを選択できます。  
ローカルプロセスに基づいて、ワークフローを追加するには追加データの入力が必要になる場合があります。
- 6 **ベースの選択:** 内容は以下から指定できます。

**選択されたコンテナ:** **+** をクリックすると **[コンテナの追加]** ダイアログが表示されます。チェックボックスを使用して、既存のタイプ(コレクション、ドキュメント、スナップショット、ベースライン) から1つ以上のコンテナを選択します。新しいベースラインには、選択したコンテナのすべての要件が含まれます。[「コンテナの追加」](#) (326 ページ) を参照してください。

**クエリ:** 最初にドロップダウンから **[カテゴリ]** を選択し、次にレポート名を選択します。

リストが長い場合は、ダイアログの下部にある **[クエリの検索]** フィルターを使用してレポート名でフィルタリングします。

**階層:** 階層構造を含むベースラインは、現在の **[カテゴリ]** とそのサブカテゴリから取得されません。構造全体を維持するために、階層フォルダーから選択する場合、ベースラインにはそれを含むカテゴリの内容が含まれます。

- 7 **[OK]** をクリックします。

## コンテナの追加

コンテナを選択して追加するには、次の手順を実行します。

- 1 **タイプ:** コンテナタイプをコレクション、ベースライン、ドキュメント、スナップショットから選択します。
- 2 **カテゴリ:** ベースラインまたはコレクションを保存するカテゴリを選択します。
- 3 チェックボックスを使用して、リストから1つ以上のコンテナを選択します。

新しいベースラインまたはコレクションを作成すると、選択したコンテナのすべての要件が含まれます。

## ベースラインの除去



**注意!** ベースラインを除去すると、データベースからベースラインが完全に除去されます。除去されたベースラインは復元できません。

ベースラインを除去するには、次の手順を実行します。

- 1 メインメニューバーで、[ホーム] ビューを選択します。
- 2 [ベースライン] タブを選択します。
- 3 1つまたは複数のベースラインを選択します。
- 4 [アクション] ペインの [ベースライン] セットの [除去] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックして、選択したベースラインを除去します。

## ベースラインプロパティの更新

ユーザーは名前、説明、カテゴリの場所、またはワークフローの割り当てを変更できます。



**注記** ALM統合を使用してDimensions CMから作成されたベースラインの名前を変更することはできません。

ベースラインのプロパティを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 メインメニューバーで、[ホーム] ビューを選択します。
- 2 [ベースライン] タブを選択します。
- 3 目的のベースラインを選択します。
- 4 [アクション] ペインの [ベースライン] セットの [プロパティの編集] をクリックして、[プロパティ] ダイアログを開きます。
- 5 名前、説明、カテゴリ、またはワークフローの割り当てを変更します。  
詳細については、「[ベースラインの新規作成](#)」(326ページ)を参照してください。
- 6 [OK] をクリックして変更を確認します。

# 親コレクションの操作

## 親コレクションについて

親コレクションを使用して、ユーザーはコレクション、ベースライン、ドキュメント、スナップショットの内容をリンクできます。親コレクションは、子に含まれるすべてのオブジェクトへのアクセスを提供します。オブジェクトが子に追加されたり、オブジェクトが子から除去されたりした場合、変更は親に反映されます。

親コレクションは、名前に付いた「(親)」というサフィックスで見分けられます。

#### ユースケース

**要件構造:** 親コレクションを使用して、要件を構造化できます。たとえば、親コレクションでプロジェクトを表し、子コレクションでコンポーネントまたは関数を表します。

**カテゴリ間の参照:** 他のカテゴリのコレクションを参照するために、親コレクションを使用できます。そのためには、最初に子と同じカテゴリで親コレクションを作成してから、親コレクションを目的のカテゴリに移動します。

次のセクションでは、親コレクションに関連する追加の機能について説明します。

[「親コレクションの作成」\(328ページ\)](#)


[「親コレクションへの子の追加」\(329ページ\)](#)

[「親コレクションからの子の除去」\(329ページ\)](#)

## 親コレクションの作成

親コレクションは、ドキュメント、スナップショット、コレクション、またはベースラインに基づいて作成できます。作成されると、[ホーム] ビューの [コレクション] タブの下に選択用に常時一覧表示されています。

親コレクションを作成するには、次の手順を実行します。


- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 目的のカテゴリを選択します。
- 3 ドキュメントまたはスナップショットの親コレクションを作成するには、次の手順を実行します。
  - a [ドキュメント] タブを選択します。
  - b 1つまたは複数のドキュメント、またはスナップショットを選択します。
  - c [アクション] ペインの [ドキュメント] セットから **[親コレクションの作成]** を選択します。  
**[親コレクションの新規作成]** ダイアログが開きます。
  - d ステップ6に進みます。
- 4 コレクションの親コレクションを作成するには、次の手順を実行します。
  - a [コレクション] タブを選択します。
  - b 1つまたは複数のコレクションを選択します。
  - c [アクション] ペインの [コレクション] セットから **[親コレクションの作成]** を選択します。  
**[親コレクションの新規作成]** ダイアログが開きます。
  - d ステップ6に進みます。
- 5 ベースラインの親コレクションを作成するには、次の手順を実行します。
  - a [ベースライン] タブを選択します。
  - b 1つまたは複数のベースラインを選択します。
  - c [アクション] ペインの [ベースライン] セットから **[親コレクションの作成]** を選択します。  
**[親コレクションの新規作成]** ダイアログが開きます。



- 6 **名前:** 親コレクションの名前を入力します。
- 7 **説明:** ベースラインの説明を入力します。  
説明の最大文字数は512文字です。
- 8 **カテゴリ:** 親コレクションを保存するカテゴリを選択します。  
リストからカテゴリをすばやく見つけるには、展開された [カテゴリ] リストの [検索] ボックスにカテゴリの名前を入力します。
- 9 追加で子 (コレクション、ベースライン、ドキュメント、またはスナップショット) を追加するには、次の手順を実行します。
  - a [子コンテナー] セクションを展開します。
  - b **+** をクリックします。[子コンテナーの追加] ダイアログが開きます。
  - c [タイプ] ボックスから、[コレクション]、[ベースライン]、[ドキュメント]、または [スナップショット] を選択します。
  - d 追加する子の名前の横にあるチェックボックスを選択します。
  - e 追加する他の子について、ステップcとdを繰り返します。
  - f [OK] をクリックして、すべての子を親コレクションに追加します。
- 10 [OK] をクリックして、親コレクションを作成します。


## 親コレクションへの子の追加


親コレクションに子を追加するには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 目的のカテゴリを選択します。
- 3 [コレクション] タブを選択します。コレクションには親コレクションが常に含まれています。
- 4 [アクション] ペインの [コレクション] セットの [プロパティの編集] を選択します。  
[プロパティ] ダイアログが開きます。
- 5 [子コンテナー] セクションを展開します。
- 6 **+** をクリックします。[子コンテナーの追加] ダイアログが開きます。
- 7 [タイプ] ボックスから、[コレクション]、[ベースライン]、[ドキュメント]、または [スナップショット] を選択します。
- 8 追加する子の名前の横にあるチェックボックスを選択します。
- 9 追加する他の子について、ステップcとdを繰り返します。
- 10 [OK] をクリックして、すべての子を親コレクションに追加します。
- 11 [OK] をクリックして、親コレクションを更新します。

## 親コレクションからの子の除去

子を親コレクションから除去するには、次の手順を実行します。



- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。

- 2 目的のカテゴリを選択します。
- 3 [コレクション] タブを選択します。
- 4 [アクション] ペインの [コレクション] セットの [プロパティの編集] を選択します。
- 5 [子コンテナー] セクションを展開します。
- 6 除去する1つまたは複数の子を選択します。
- 7  をクリックします。選択した子が除去されます。
- 8 [OK] をクリックして、親コレクションを更新します。

## ベースラインおよびコレクション関連の機能

### コレクションまたはベースラインの比較

2つのコレクションまたはベースラインの内容を比較するには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 [コレクション] タブまたは [ベースライン] タブを選択します。
- 3 目的のコレクションまたはベースラインを選択します。
- 4 [コンテナーの比較] ダイアログを開くには、[アクション] ペインから [比較] をクリックします。
- 5 **コンテナーの選択:**  をクリックすると、利用可能な [コンテナーの比較] が一覧表示されます。
- 6 **説明:** 結果に説明を表示するには、このオプションをオンにします。
- 7 [比較] ボタンをクリックします。

サマリーには、要件ID、タイトル、(選択した場合は) 説明、次のクラスが一覧表示されます。出力は、サマリー上部にあるアイコンを使用して以下のように制限できます。

**コンテナー内の要件のみ:** 最初のコンテナーにはあるが2番目のコンテナーにはない要件のリストです。

**コンテナー内の要件のみ:** 2番目のコンテナーにはあるが最初のコンテナーにはない要件のリストです。

**変更済みの要件:** 両方のコンテナーにある要件のリストですが、変更済みです。

**未変更の要件:** 両方のコンテナーにある要件のリストですが、変更されていません。

- 8 要件の詳細ビューを開くには、要件をダブルクリックします。

### コレクションまたはベースラインでのワークフローの使用

管理者が設定している場合は、コレクションとベースラインでワークフローを使用することができます。

コレクションまたはベースラインをワークフローに割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] の [コレクション] タブまたは [ベースライン] タブから、関連するオブジェクトを選択します。
- 2 [アクション] ペインの [コレクション] または [ベースライン] グループの [プロパティの編集] をクリックします。[プロパティ] ダイアログが開きます。
- 3 [ワークフロー] ドロップダウンで、目的のワークフローを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

#### コレクションまたはベースラインでの遷移の実行

遷移を実行するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] の [コレクション] タブまたは [ベースライン] タブから、関連するオブジェクトを選択します。
- 2 コレクションまたはベースラインを、ダブルクリックして開くか、[アクション] ペインから [開く] をクリックして開きます。
- 3 [ワークフローの遷移] ボタンが階層リンクの右側に表示されます。  
現在のワークフロー状態と次の状態が [ようこそ] メニューの下に表示されます。遷移が表示されない場合は、オブジェクトが最終遷移状態に到達しています。
- 4 遷移をクリックして実行します。  
遷移ルールで追加情報が必要な場合は、ダイアログが表示されます。
- 5 設定と内容によっては、進行状況バーも表示される場合があります。

#### コレクションまたはベースラインに関する情報の表示

コレクションまたはベースラインがワークフローに割り当てられている場合は、要件の場合と同じ機能 (属性の表示/変更、状態変更履歴の確認など) を使用できます。

- 1 [ホーム] の [コレクション] タブまたは [ベースライン] タブから、関連するオブジェクトを選択します。
- 2 [コレクション] または [ベースライン] をダブルクリックして開くか、[アクション] ペインで関連する設定から [開く] を選択して開きます。
- 3 開くと、右上の進行状況バーで以下の内容が表示されます。

コレクションに含まれるオブジェクトのワークフローの進行状況


現在のワークフロー状態、続いて

次の遷移状態

- 4 [ワークフローの進行状況] バーをクリックすると、コンテナの [属性の編集] ダイアログが開きます。  
このダイアログには、コレクションまたはベースラインに関連付けられているすべての標準属性、カスタム属性、システム属性が含まれます。

#### コレクションまたはベースラインの異なるカテゴリへの移動

コレクションまたはベースラインを作成するときに、それをカテゴリに割り当てることができます。次の手順では、既存のコレクションまたはベースラインのカテゴリ割り当てを変更する方法について説明します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 目的のタブとして、[コレクション]、または [ベースライン] を選択します。
- 3 オブジェクトをドラッグし、[カテゴリ] ツリーの目的のカテゴリにドロップします。

## コレクションまたはベースラインのURLのクリップボードへのコピー

後から使用または参照できるように、コレクションまたはベースラインのURLをコピーしてファイルに貼り付けることができます。このURLを起動すると、RM Browserが開いて該当するコレクションまたはベースラインが表示されます。

コレクションまたはベースラインのURLをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューに移動します。
- 2 [コレクション] タブまたは [ベースライン] タブを選択します。
- 3 目的のコレクションまたはベースラインを選択します。
- 4 [アクション] ペインの関連するグループの [直接URLの作成] をクリックします。[直接URL] ダイアログが開きます。
- 5 URLを右クリックして [リンクのアドレスをコピー] を選択します。URLがクリップボードにコピーされます。
- 6 [閉じる] をクリックしてダイアログを閉じます。
- 7 **Ctrl+V** キー、または関連するアプリケーション固有のメニューコマンドを使用して、URL を使用するファイルまたはアプリケーションにURLを貼り付けます。

## コレクションまたはベースラインのURLの変更

URLをファイルまたはアプリケーションに貼り付けた後に、URLにパラメーターを追加して、追加機能を利用することができます。URLで実行時パラメーターを指定しない場合は、レポートの実行時にこれらを指定できます。

機能	説明	URLの例
編集可能なグリッド	デフォルトでは、コレクションまたはベースラインの要件は通常の表に示されています。代わりに編集可能なグリッドを使用するには、 <b>&amp;editableGrid=true</b> をURLに追加します。	<code>http://myserver:8080/rtmBrowser/cgi-bin/rtmBrowser.exe?goto=collection&amp;db=ORCL&amp;proj=RMDEMO&amp;collectionId=5&amp;editableGrid=true</code>
タイトルバーの非表示	デフォルトでは、コレクションまたはベースラインには、データベース、インスタンス、およびレポートへのパスに関する情報を含むタイトルバーが表示されます。タイトルを非表示にするには、 <b>&amp;hideTitleBar=true</b> をURLに追加します。	<code>http://myserver:8080/rtmBrowser/cgi-bin/rtmBrowser.exe?goto=collection&amp;db=ORCL&amp;proj=RMDEMO&amp;collectionId=5&amp;hideTitleBar=true</code>





## 第8章

---

# 要件のインポート

Microsoft Wordドキュメントからの要件のインポート	336
ラウンドトリップドキュメントのインポート	342
XMLファイルからの要件のインポート	343
CSVまたはExcelファイルからの要件のインポート	345
テストステップを含むテストケースのインポート	349
RMからエクスポートされた要件のインポート	350
ReqIFファイルからの要件のインポート	351
[ReqIFのインポート] ダイアログ - セットアップ	353
[ReqIFのインポート] ダイアログ - マッピング	355

## Microsoft Word ドキュメントからの要件のインポート

### Microsoft Word ドキュメントのインポートに関する考慮事項

サポートされているMicrosoft Officeのバージョンを確認するには、プラットフォームマトリックス (<https://www.microfocus.com/documentation/dimensions-rm/>) を参照してください。

### Microsoft Officeがサーバーにインストールされていない場合:

RM Browserでの**Microsoft Word ドキュメントのインポート**がサポートされるのは、インポートモードで [ドキュメント全体 (チャプターのみ)] を使用した場合のみです。問題がある場合は、RM Importを検討してください。

**Microsoft Excelファイルのインポート**では、ファイルはCSVとして保存し、RM Browserでインポートする必要があります ([**CSVまたはExcelファイルからの要件のインポート**](345ページ) を参照)。

### PDF ドキュメント:

PDFドキュメントは、[ドキュメント全体 (チャプターのみ)] モードでのみインポートしてください。

PDFドキュメントはプリンターでの出力用に最適化されています。PDFファイルをインポートした場合、属性が正しく認識されない場合があります。その場合、インポートされた要件に予期しない属性値が含まれ、エラーが発生する可能性があります。

## ドキュメントのインポートにはRM BrowserとRM Importのどちらを使用すべきか

RM Browserを使用してMicrosoft Word文書をインポートすると、次の操作が可能になります。

- 新規要件の作成
- RM ドキュメントの作成と新しい要件の入力
- 既存の要件バージョンの更新または置換

RM Browserを使用してWordドキュメントをインポートする場合、インポート対象として次のいずれかを選択できます。

- ドキュメント全体 (RM ドキュメントを作成)  
画像を含む任意のドキュメントをインポートして、新しいRMドキュメントを作成できます。インポートしたテキストと画像を選択して、要件を作成できます。
- 表形式に含まれる要件のみ

**RM Browser**によるWordドキュメントのインポートでは、Wordドキュメントを目的のレイアウトと形式にしておく必要があります (以降のセクションを参照)。

**RM Import**を使用するときに**RM Import Designer**からテンプレートを作成すると、以前Word文書に保存した要件をインポートできます。RM Import DesignerとRM Importの使用方法については、『**Dimensions RM Administrator's Guide**』を参照してください。

RM Import DesignerとRM Importは、選択したユーザーのデスクトップにインストールできます。『Dimensions RM Installation Guide』の「Installing the Administrator Client」を参照してください。



## ブラウザーインポートの書式設定の要件

このセクションの残りの部分の説明は、ブラウザーインポートのみを対象としています。RMにインポートできるMicrosoft Wordドキュメントのバックログがある組織では、RM Importを使用してインポートをテストすることも検討してください。

MS Wordドキュメントを使用してインポートする場合、要件として認識されるためには、ドキュメント内の要件が正しいレイアウトと形式を使用した表になっている必要があります。

インポートには、いくつかのレイアウトオプションがあります。次に例を示します。

### 1 1つのクラスにインポートされたWordの表:

最も簡単な方法は、各行を要件として定義し、属性の表示名（選択したクラスで定義されているもの）をヘッダーに太字で記述することです。

タイトル	テキスト	カテゴリ	実現フェーズ
ePhotoがオンラインフォトアルバムになる	このePhotoシステムで、ユーザーがオンラインフォトアルバムを閲覧できるようにします。	RMDEMO/Functional/Design	Build1 Build4
保存されたフォト情報の表示	このePhotoシステムで、ユーザーが写真と一緒に保存された情報を表示できるようにします。	RMDEMO/Availability/Cost	TBD Build3

### 2 表の行に各要件のクラス名を指定します。

エクスポートされ、再インポートのために変更された要件をインポートする場合は、Excelを使用するのが最適です。ただし、Excelはセル内に画像を含めることに問題があることで知られています。画像を含む要件をエクスポートし、変更して再インポートする場合は、Microsoft Wordの表またはラウンドトリップ（ラウンドトリップドキュメントのインポートを参照）を使用することをお勧めします。

### 3 要件ごとに表を作成します。

タイトル	「標準的な」ホームPCで実行する		
優先度	段落タイトル	ドキュメントID	
1	Feature 3	Marketing Rqmts	
カテゴリ	RMDEMO/Power	実現フェーズ	Build1 TBD
テキスト			
ePhotoシステムは、標準的なWindowsソフトウェアを実行する一般的なホームPC環境からアクセスできるものとなります。ユーザーからソフトウェアのみのアプリケーションと見なされるようになります。			

RM BrowserでインポートするためのMicrosoft Wordの表の書式設定ルール:

**太字 / 通常の書体に注意します。**

**属性名**（値ではなく、表の見出し）には**太字を使用する必要があります。**

**値**（要件の内容）には**太字を使用してはなりません。**

適切な書式のテキストの中に太字の空白が1つでも存在すると、テキストは属性値としてではなく、属性名として扱われます。

一般的なテキスト書式設定（色、下線、イタリック体など）は、テキスト属性ではインポートされますが、その他の属性では無視されます（前述のように、属性値に太字を使用してはなりません）。

カテゴリは、サポート対象の形式と一致する必要があります（「[カテゴリインポート形式](#)」（341ページ）を参照）。

ドキュメントには、任意の数の表を作成できます。

表には、任意の数の行（要件）と列（属性）を含めることができます。

リスト属性に複数の値を指定する場合、値をパイプ（|）文字で区切ります。例：Build1|Build4

既存のRM要件を更新/置換するには、**要件ID**属性（PUID）を含めます。

インポートでは、**グループ**属性タイプはサポートされていません。

インポート中に、表に含まれていない必須属性の値を求められます。

画像は、RMドキュメントの本体にインポートすることはできますが、要件にインポートすることはできません。

## インポート対象のWordドキュメント全体の書式設定

Wordドキュメント全体のインポートを選択すると、次の処理が行われます。

- 適切な形式の表から要件がインポートされます（「[ブラウザーインポートの書式設定の要件](#)」（337ページ）を参照）。
- Wordドキュメントの見出しの階層に基づいて、チャプターとサブチャプターが作成されます。

Wordドキュメント	RMドキュメント
見出し1	チャプター
見出し2	サブチャプター
見出し3	サブサブチャプター
など	

- 画像は（要件の中ではなく）本体の内容にインポートされます。
- 一般的なテキスト書式設定がインポートされます。



**重要!** ドキュメントに目次を作成することを強くお勧めします。

## Wordファイルのインポート

RM BrowserのMS Wordのインポートには、選択可能な複数のインポートモードがあります。次のセクションでは、これらのインポート方法について個別に説明します。

以下のセクションでは、次の機能について説明します。

- [\[ドキュメント全体 \(チャプターのみ\)\] モードでのWordドキュメントのインポート](#)
- [\[ドキュメント全体\] モードでのWordドキュメントのインポート](#)

- [表のみ] モードでの Word ドキュメントのインポート
- ラウンドトリップドキュメントのインポート

## [ドキュメント全体 (チャプターのみ)] モードでの Word ドキュメントのインポート

[ドキュメント全体 (チャプターのみ)] モードは、ドキュメントを「そのまま」インポートします。このモードは、Microsoft Office がサーバーにインストールされていない場合に、Word ドキュメントを RM にインポートするときに使用できます。

表やテキストは要件として解析されませんが、要件テキストが要件ステートメントを簡単に選択できるように書式設定されている場合は、[クラスの変更] アクションを使用して、ドキュメントテキストから要件を作成できます。その際、ドキュメントの自由形式テキスト (チャプターの概要など) はそのまま残すことができます。[クラスの変更] 機能については、「[テキストを要件に分割する](#)」(150 ページ) で説明しています。

**Word ドキュメントをインポートするには、次の手順を実行します。**

- 1 RM Browser で、[インポート] メニューから **[Word ドキュメント]** を選択します。
- 2 **インポートファイル:** [参照...] をクリックしてダイアログを開き、Word ファイルを選択します。
- 3 Word ファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- 4 **インポートモード:** ドロップダウンリストから **[ドキュメント全体 (チャプターのみ)]** を選択します。
- 5 Word ドキュメントの内容に関して、**作成と置換**のどちらを行うかを選択します。
 

**作成:** Dimensions RM で新しいドキュメントを作成します。

**置換:** Word ドキュメントの新しい内容を使用して、既存のドキュメントを置き換えます。ドキュメントのリストから、置き換えるドキュメントを選択します。
- 6 **カテゴリ:** ドキュメントをインポートするカテゴリを選択します。
- 7 **ドキュメント名:** 作成または改訂する RM ドキュメントの名前を指定します。
- 8 **ドキュメントにはチャプター番号がある:** チャプタータイトルの先頭にある番号 (「1 はじめに」、「1.1 目的」など) の処理方法を定義します。
 

選択した場合: チャプタータイトルの先頭から数字が削除されます (たとえば、「1.1 目的」は「目的」になります)。

クリアした場合: チャプタータイトルは変更されません。
- 9 **Word 処理付きインポート:** [チャプターのみ] が選択されていても、インポート時に MS Word 処理が適用されます。
 

選択した場合: インポート時に Word 処理が適用されます。MS Office がサーバーにインストールされていない場合は、チェックしないでください。

クリアした場合: インポート時に Word 処理は適用されません。
- 10 **プレビューを表示する:** **[Word 処理付きインポート]** がクリアされている場合にのみ使用できます。選択した場合: 実際のインポートの前に、ドキュメントのセクションのアウトラインを示すダイアログが表示されます。含めるセクションの左側のボックスをチェックし、除外するセクションのチェックを外します。
 

[タイトル] ボックスを**チェック**するとすべてが選択され、必要に応じてセクションとそれに関連するサブセクションの選択を解除できます。

**11** [インポート] をクリックします。

インポートが完了すると、[インポート結果] ダイアログが開きます。このダイアログには、ドキュメント作成の成功と、作成されたチャプターの数の情報が表示されます。

**12** [閉じる] をクリックして、インポート結果を閉じます。**13** 残りのMS Wordのインポートダイアログの [閉じる] をクリックします。**[ドキュメント全体] モードでのWordドキュメントのインポート**

[ドキュメント全体] モードでは、チャプターとともにドキュメントがインポートされ、表には要件のみが含まれると想定されます。表に要件が含まれていないドキュメントをインポートするには、[ドキュメント全体 (チャプターのみ)] モード (「[ドキュメント全体 (チャプターのみ)] モードでのWordドキュメントのインポート」(339ページ) を参照) を使用するか、RM Importを使用します。

**Wordドキュメントをインポートするには、次の手順を実行します。**

- 1 RM Browserで、[インポート] メニューから [Wordドキュメント] を選択します。[Wordドキュメントのインポート] ダイアログが開きます。
- 2 インポートファイル: [参照...] をクリックしてダイアログを開き、Wordファイルを選択します。
- 3 Wordファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- 4 インポートモード: ドロップダウンリストから [ドキュメント全体] を選択します。
- 5 Wordドキュメントの内容に関して、作成と置換のどちらを行うかを選択します。

**作成:** Dimensions RMでドキュメントと新しい要件を作成します。

**置換:** Wordドキュメントの新しい内容を使用して、既存のドキュメントを置き換えて、既存の要件の新しいバージョンを作成します。既存の要件のうち、Wordドキュメント内に新しい値がある要件のみが置き換えられます。ドキュメントのリストから、置き換えるドキュメントを選択します。Dimensions RMに存在しないドキュメント名を指定すると、指定した名前が付いたドキュメントが新しく作成されます。



**ヒント** ドキュメントを簡単に見つけるには、[ドキュメントの検索] ボックスに名前の一部を入力します。

- 6 **クラスID:** クラスを識別するのに使用していた属性名を指定します。例: Class Name
- 7 **カテゴリ:** ドキュメントをインポートするカテゴリを選択します。
- 8 **ドキュメント名:** 作成または改訂するRMドキュメントの名前を指定します。
- 9 **ドキュメントにはチャプター番号がある:** チャプタータイトルの先頭にある番号 (「1はじめに」、「1.1目的」など) の処理方法を定義します。

**選択した場合:** チャプタータイトルの先頭から数字が削除されます (たとえば、「1.1 目的」は「目的」になります)。

**クリアした場合:** チャプタータイトルは変更されません。

- 10 **[インポート]** をクリックします。インポートが完了すると、**[インポート結果]** ダイアログが開きます。このダイアログには、作成された要件に関する情報とサマリーが含まれています。詳細については、「**[インポート結果] ダイアログ**」(351ページ)を参照してください。
- 11 **[閉じる]** をクリックして、インポート結果を閉じます。
- 12 残りのMS Wordのインポートダイアログの**[閉じる]** をクリックします。

### **[ラウンドトリップ] インポートモードでのWordドキュメントのインポート**

[ラウンドトリップ] インポートモードは、ラウンドトリップドキュメントをインポートするためのモードです。ラウンドトリップドキュメントのインポートの詳細については、「**ラウンドトリップドキュメントのインポート**」(342ページ)を参照してください。

### **[表のみ] モードでのWordドキュメントのインポート**

[表のみ] モードでは、要件を表のみから取得することでインポートします。周囲のドキュメントテキストはインポートされません。

必須属性が含まれており、値が指定されていることを確認します。必須属性や値がない場合、不足している属性の列を追加し、各セルに値を指定します。

**Wordドキュメントをインポートするには、次の手順を実行します。**

- 1 RM Browserで、**[インポート]** メニューから **[Wordドキュメント]** を選択します。**[Wordドキュメントのインポート]** ダイアログが開きます。
- 2 **インポートファイル:** **[参照...]** をクリックしてダイアログを開き、Wordファイルを選択します。
- 3 Wordファイルを選択し、**[開く]** をクリックします。
- 4 **インポートモード:** ドロップダウンリストから **[表のみ]** を選択します。
- 5 Wordドキュメント内の表から選択した内容に関して、**作成と置換**のどちらを行うかを選択します。  
**作成:** Dimensions RMで新しい要件を作成します。  
**置換:** Wordドキュメントの新しい内容を使用して、既存の要件の新しいバージョンを作成します。既存の要件のうち、Wordドキュメント内に新しい値がある要件のみが置き換えられます。
- 6 **クラスID:**  
表に含まれる要件に使用する要件クラスを識別するために使用した属性名を指定します。例: Class Name **「ブラウザーインポートの書式設定の要件」**(337ページ)を参照してください。
- 7 **[インポート]** をクリックします。  
インポートが完了すると、**[インポート結果]** ダイアログが開きます。このダイアログには、作成された要件に関する情報とサマリーが含まれています。詳細については、「**[インポート結果] ダイアログ**」(351ページ)を参照してください。
- 8 **[閉じる]** をクリックして、インポート結果を閉じます。
- 9 残りのMS Wordのインポートダイアログの**[閉じる]** をクリックします。

### **カテゴリインポート形式**

Wordインポートの場合、次の形式でカテゴリを指定できます。

- スラッシュを含む完全パス。例：RMDEMO/Data
- バックスラッシュを含む完全パス。例：RMDEMO\Data
- 一意のカテゴリ名。例：Data  
カテゴリまたはサブカテゴリ "Data" が他に存在してはならないことに注意してください。

#### 日付インポート形式

Wordインポートでは、Wordドキュメントで指定された日付が、インポートする要件クラスの属性の形式と一致している必要があります。

## ラウンドトリップドキュメントのインポート

ドキュメントをラウンドトリップドキュメントとしてエクスポートした場合（「[ラウンドトリップドキュメントとしてエクスポート](#)」(168ページ)を参照）、エクスポート元のシステムにラウンドトリップドキュメントをインポートすることもできます。



**注記** システムにドキュメントをインポートできるのは、ドキュメントのIDがシステムのIDと一致する場合に限られます。

ラウンドトリップのインポート機能は、ドキュメント内の次の変更を認識します。

- チャプターの追加、変更、削除、または移動
- 要件の変更、削除、または移動

ラウンドトリップドキュメントをインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 RM Browserで、[インポート] メニューから [**Wordドキュメント**] を選択します。[**Wordドキュメントのインポート**] ダイアログが開きます。
- 2 **インポートファイル:** [**参照...**] をクリックしてダイアログを開き、Wordファイルを選択します。
- 3 Wordファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- 4 **インポートモード:** ドロップダウンリストから [**ラウンドトリップ**] を選択します。
- 5 リストから [**置換**] が選択されていることを確認します。

**置換:** Wordドキュメントの新しい内容を使用して、既存の要件の新しいバージョンを作成します。既存の要件のうち、Wordドキュメント内に新しい値がある要件のみが置き換えられます。



**注記** ラウンドトリップのインポートでは、[作成] 機能は使用できません。

- 6 ドキュメントには**チャプター番号**がある:  
ドキュメントのチャプターに番号を付ける場合はチェックします。
- 7 [**インポート**] をクリックします。

インポートが完了すると、[インポート結果] ダイアログが開きます。このダイアログには、作成された要件に関する情報とサマリーが含まれています。詳細については、「[\[インポート結果\] ダイアログ](#)」(351ページ)を参照してください。

- 8 [閉じる] ボタンをクリックして、インポート結果を閉じます。
- 9 残りのMS Wordのインポートダイアログの [閉じる] ボタンをクリックします。

## XMLファイルからの要件のインポート

要件の大きなバッチを簡単に追加、更新、または更新することができます。まず、クエリ結果をXMLファイルとして保存し、Microsoft Wordやメモ帳などのエディターで要件に変更を加えた後、XMLインポート機能で変更をインポートします。

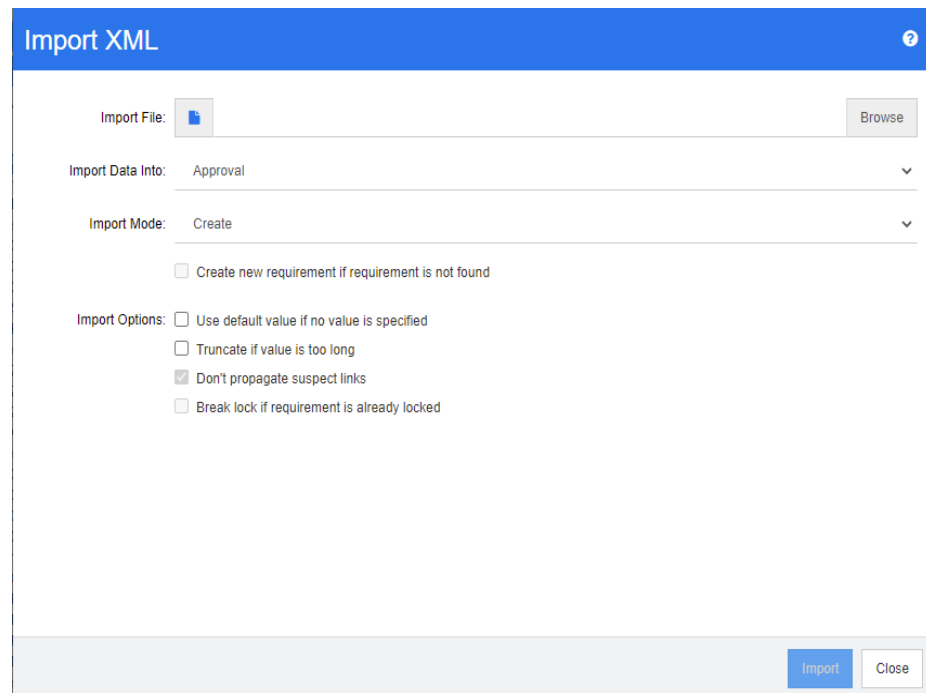
例:

ある要件マネージャーが、100個の要件の "priority" 属性の値を "Must" から "Hope" に変更したいと考えています。その場合、まずRM Browserを開き、目的のスクリプトを実行して、クエリの結果をXMLファイルに保存します。次に、そのXMLファイルの "priority" 属性を変更し、更新後のXMLファイルを保存します。

今度は、**[XMLのインポート]** ダイアログボックスで必要事項を指定し、このXMLファイルをインポートします。インポートプロセスが完了すると、インポート結果のページが開き、各要件のクラス名、PUID、ステータス、エラーの詳細が表示されます。

**XMLファイルをインポートするには、次の手順を実行します。**

- 1 **[インポート]** メニューから **[XMLファイル]** を選択します。**[XMLのインポート]** ダイアログが開きます。



- 2 **[インポートファイル]** フィールドにインポート対象XMLファイルのパスとファイル名を入力するか、**[参照]** をクリックしてファイルを選択します。
- 3 **[データのインポート先]** リストでは、ファイルのインポート先となるクラスを選択します。

- 4 [インポートモード] リストでは、次のいずれかのオプションを選択します。

モード	説明
作成	XMLファイルのオブジェクトノードが存在しない場合、新しい要件を作成します。
更新	XMLファイルの各オブジェクトノードで変更された属性を更新します。
置換	XMLファイルで指定した属性変更を使用して、XMLファイルの各オブジェクトノードの最新リビジョンを作成します。

- 5 XMLファイル内の要件のオブジェクトIDがデータベース内の要件のオブジェクトIDと一致しないときに新しい要件を作成する場合、[要件が見つからない場合は新しい要件を作成する] チェックボックスを選択します。このオプションは、[更新] モードと [置換] モードでのみ使用できます。

- 6 [インポートオプション] では、次の表で説明するオプションを選択します。

オプション	説明
値が指定されていない場合はデフォルト値を使用する	必須属性に値が指定されていない場合、デフォルト値を使用します。属性にデフォルト値がない場合、インポート結果の出力ページにエラーメッセージが表示されます。
値が長すぎる場合は切り詰める	値が属性の最大値より長い場合、要件を保存する前にその値を切り詰めます。
要検討リンクを反映しない	要件を更新または置換するとき、リンクを「要検討」としてマークしません。 <b>注:</b> このオプションは、[作成] モードでは使用できません。
要件がロックされている場合はロックを解除する	要件の更新または置換前に、ユーザーロックを解除します。このチェックボックスをオフにすると、インポート結果の出力ページにメッセージが表示されます。 <b>注1:</b> このオプションは、CMロックは解除しません。 <b>注2:</b> このオプションは、[作成] モードでは使用できません。

#### カテゴリインポート形式

XMLインポートの場合、次の形式でカテゴリを指定できます。

- スラッシュを含む完全パス。例: RMDEMO/Data
- バックスラッシュを含む完全パス。例: RMDEMO\Data
- 一意のカテゴリ名。例: Data  
カテゴリまたはサブカテゴリ "Data" が他に存在してはならないことに注意してください。

#### 日付インポート形式

XMLインポートでは、XMLファイルで指定された日付が、インポートする要件クラスの属性の形式と一致している必要があります。



# CSVまたはExcelファイルからの要件のインポート

CSVまたはExcelインポートでは、関係者の要件を一括インポートできるほか、要件セットをエクスポートして確認し、再インポートすることもできます。この機能の堅牢性により、ユーザーは要件の作成、置換、更新、削除、復元、除去、リンク、またはリンクの解除が可能になります。

この機能を使用すると、列のデータを属性にマッピングし、新しい要件を一括で作成できます。一意の属性（通常は要件ID）が使用されている場合、変更内容を既存の要件に簡単に適用できます。



**注記** Excelファイルのインポートには、次の制限が適用されます。

- Excelファイルのインポートは、Microsoft ExcelがDimensions RMサーバーにインストールされている場合にのみ機能します。サーバー上にExcelが存在しない場合は、ExcelファイルをCSVとして保存します。
- Excelファイルのインポートでは、Excelファイルの最初のワークシートのみがインポートされます。
- Excelを使用する場合、属性ごとに1つのセルのみを使用できます。
- インポート時に、ExcelファイルはCSV形式に変換されます。これは、次のことを意味します。

テキストはプレーンテキストとしてインポートされます。

画像はインポートされません。



**重要!** テキストエディター以外のツールで、CSVファイルを絶対に変更しないでください。ファイル内のデータが変更され、CSVインポートに失敗します。

## CSVを使用したエラーの修正:

**更新**は、要件の内容を上書きします。変更履歴は保持されません。履歴の維持は、RMを使用する理由の1つであるため、このモードは通常推奨されません。ただし、不正確なデータで多くのオブジェクトが変更された場合、エラーのあるエントリを修正するには更新が最善の方法である場合があります。

必要に応じて、エラーを修正するユーザーに更新アクセス権限を付与し、誤ったエントリをエクスポートし、変更を加えて修正内容をインポートします。

**CSVまたはExcelファイルから要件および要件データをインポートするには、次の手順を実行します。**

CSVインポートでは、1つのリスト属性に対して複数の値をインポートできます。値はパイプ (|) 文字を使用して区切る必要があります。例: Windows|Linux

- 1 [Excel/CSVのインポート] ダイアログを開くには、[インポート] メニューから [Excel/CSVファイル] を選択します。
- 2 [参照...] をクリックし、インポートするCSVまたはExcelファイルを選択します。

## 3 [インポートモード] リストで、次のいずれかのインポートオプションを選択します。

インポートモード	マッピングのガイドライン
作成	<p>CSVまたはExcelファイルの列をRMの要件属性にマッピングする必要があります。選択した列のデータは、新しい要件の中の、マッピング先の属性にインポートされます。</p> <p>まず、[RMクラス] フィールドから要件クラスを選択します。次に、[ファイル列リスト] フィールドから列を選択し、[RM属性] リストから該当する属性を選択します。右矢印ボタンをクリックして、マッピングされたペアを [マッピングされた属性] のリストに追加します。</p>
更新	<p><b>更新には、2つのマッピングセクションがあります。</b></p> <p>1つ目のセクションでは、変更する要件を特定するために必要な条件を定義します。変更する要件の特定に使用される属性は、一意の識別子である必要があります。通常は、要件ID (PUID) が使用されます。</p> <p>2つ目のセクションでは [ファイル列リスト] フィールドから列を選択し、[RM属性] リストフィールドから該当する属性を選択した後、右矢印ボタンをクリックして、マッピングしたペアを [マッピングリスト] フィールドに追加できます。</p> <p>オプションで、Dimensions RMの1つのオブジェクトと一意に一致する入力ファイルの行のみを含めるように指定できます。これを行うには、[複数のオブジェクトに一致する行を無視する] オプションをチェックします。たとえば、社内用の要件IDまたはタイトルを使用していて、同じIDが複数回現れる場合は、変更を再検討することをお勧めします。</p> <p>指定した条件に一致する要件がない場合は、新しい要件を作成することもできます。</p>
置換	上記の「更新」に関する情報を参照してください。
削除	<p>このインポート機能を使用して1つ以上の要件を削除済みとしてマークするには、一意の識別子のみが必要です。</p> <p>オプションで、Dimensions RMの1つのオブジェクトと一意に一致する入力ファイルの行のみを含めるように指定できます。これを行うには、[複数のオブジェクトに一致する行を無視する] オプションをチェックします。</p>
削除の取り消し	要件のグループが、手違いなどで削除済みとマークされている場合、このインポートモードを使用して「削除を取り消す」ことができます。
除去	<p>データベースから1つ以上の要件バージョンを (消去のように) 除去するには、一意の識別子のみが必要です。</p> <p><b>最新バージョンのみが除去され、直前の置換済みバージョンが最新になります。</b></p>

インポートモード	マッピングのガイドライン
リンク	<p>インポートファイルには、プライマリ要件とセカンダリ要件の両方を特定して関係を作成するために、一意の条件（通常は要件ID）が含まれている必要があります。</p> <p>[<b>関係</b>] リストから<b>関係</b>を選択します。この関係は、識別されたプライマリオブジェクトとセカンダリオブジェクトの関連属性を特定するために使用されます。</p> <p>プライマリ要件の識別に使用される値をインポートファイルから選択し、プライマリクラスから値を選択します。その後、右矢印ボタンをクリックしてマッピングしたペアを [<b>マッピングリスト</b>] フィールドに追加します。たとえば、要件IDと要件IDのペアです。</p> <p>セカンダリ要件の識別に使用される値をインポートファイルから選択し、セカンダリクラスから値を選択して、右矢印ボタンをクリックして、マッピングしたペアを [<b>マッピングリスト</b>] フィールドに追加します。たとえば、要件IDと要件IDのペアです。</p> <p>Dimensions RMの1つのオブジェクトと一意に一致するインポートファイルの行のみを含めるには、 [<b>複数のオブジェクトに一致する行を無視する</b>] を選択します。</p> <p><b>注記</b> TEXTタイプの属性はリンクペアリングには無効なため、 [<b>リンク</b>] モードのときには属性リストに含まれません。</p>
リンクの削除	<p>上記の「<b>リンク</b>」に関する手順を参照してください。</p> <p>リンクを削除済みとしてマークします。</p>
リンクの除去	<p>上記の「<b>リンク</b>」に関する手順を参照してください。</p> <p>リンクを恒久的に除去します。</p>

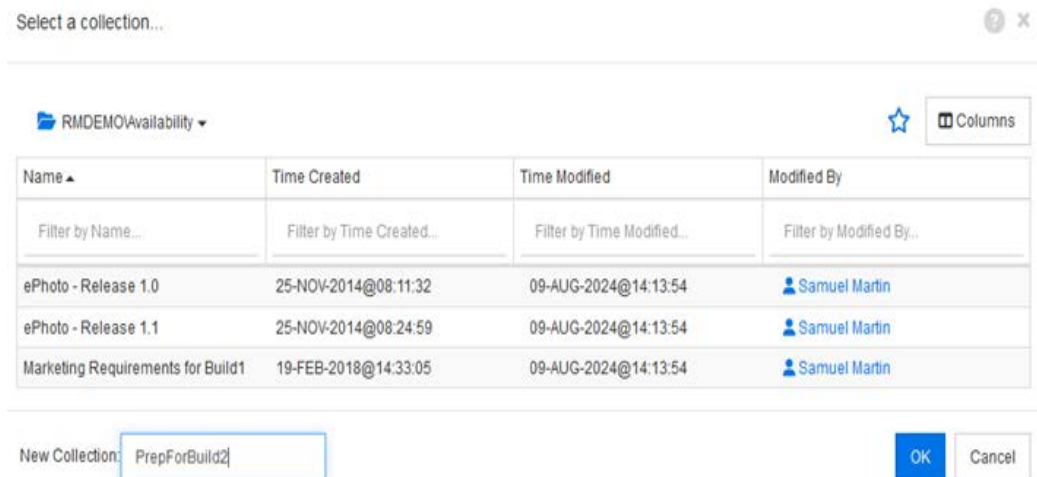
- 4 [**ファイルのエンコーディング**] リストから、ファイルで使用されているエンコードを選択します。リストに目的のエンコードがない場合は、サポート対象の形式に変換します。
- 5 CSVまたはExcelファイルで使用している区切り文字に基づいて、 [**区切り文字**] リストから [**カンマ**]、 [**セミコロン**]、 [**スペース**]、または [**タブ**] を選択します。
- 6 インポートする行の範囲を制限するには、 [**すべて**] の選択を解除し、 [**開始行**] と [**終了行**] を指定して範囲を選択します。範囲を限定しない場合は、ファイルのすべての行のデータをインポートするために、 [**すべて**] のままにします。ファイルに見出し行がある場合、 [**ファイルに見出し行が含まれる**] オプションを選択して見出し行を省略することができます。  
データが正しく定義されているかどうか不明な場合は、2～3行の範囲を選択して簡単なテストを実行します。
- 7 [**ファイルに見出し行が含まれる**] オプションを選択すると、インポートファイルの最初の行が、 [**ファイル列リスト**] の列名として使用されます。
- 8 すべての要件を既存のドキュメントまたはコレクションにインポートするには、次の手順を実行します。
  - a [**ドキュメントに追加**] または [**コレクションに追加**] を選択します。
  - b 追加の選択ボックスが開き、利用可能なドキュメントまたはコレクションのリストが表示されます。

オブジェクトがリストにないカテゴリに存在する場合は、**カテゴリドロップダウン**を使用して選択を変更します。


- c ドキュメントまたはコレクションを選択します。
- d **[OK]** をクリックします。

インポート時に新しいドキュメントまたはコレクションを作成するには、次の手順を実行します。

- a **[ドキュメントに追加]** または **[コレクションに追加]** を選択します。
- b 表示された利用可能なコンテナのリストを無視します。
- c ダイアログに表示されたボックスに新しいドキュメント名または新しいコレクション名を入力します。
- d **[OK]** をクリックします。




インポートファイルのデータで指定されたドキュメントまたはコレクションにすべての要件をインポートするには、次の手順を実行します。

- a **[ドキュメントに追加]** または **[コレクションに追加]** を選択します。
- b 要件の作成に使用するクラスを選択します。
- c **[ファイル列リスト]** で、コンテナ名を含む列を選択します。
- d **[RM 属性]** リストで、関連するコンテナの **<ドキュメント>** または **<コレクション>** エントリを選択します。
- e マッピングされた属性の場合と同様に、 をクリックします。
- f コンテナが作業カテゴリに追加されます。

**[RMマッピング]** セクションでは、入力ファイルの列とターゲットクラスの属性が組み合わせられます。マッピングの設定は、選択したインポートモードによって異なります。次の表を確認して、**[RMマッピング]** の各オプションの使用方法を理解してください。




#### ヒント

見出し行のタイトルが、選択したクラスの属性名と一致する場合、 (魔法の杖アイコン) をクリックすると、属性名を自動的にマッピングできます。

マッピングは、すばやくアクセスできるように保存できます。これは、同じマッピングを使用してファイルを繰り返しインポートする場合に便利です。マッピングは、インポートモードとクラス別に保存されます。保存されたマッピングを適用するには、**[保存されたマッピング]** リストからマッピングを選択します。

マッピングを保存するには、次の手順を実行します。

- a  をクリックします。[マッピングの保存] ダイアログが開きます。
- b マッピングの名前を入力します (例: ImportStakeholderRequirements)。
- c [OK] をクリックします。

#### カテゴリインポート形式

CSVまたはExcelインポートの場合、次の形式でカテゴリを指定できます。

スラッシュを含む完全パス。例: RMDemo/Data

バックスラッシュを含む完全パス。例: RMDemo\Data

一意のカテゴリ名。例: Data

カテゴリまたはサブカテゴリ "Data" が他に存在してはならないことに注意してください。

カテゴリID。例: 21

## テストステップを含むテストケースのインポート

関連するテストステップ (「[テストケースとテストステップの作成](#)」(361ページ) で定義) の有無にかかわらず、テストケースはExcelまたはCSVインポートを使用してインポートできます。インポートを使用して、テストケースとテストステップを作成したり、既存のオブジェクトを変更したりできます。

テスト実行は派生オブジェクトであるため、インポートできません。

テストケース内の属性は通常の方法で定義できますが、関連するテストステップにはステップ1、ステップ2などのラベルを付ける必要があります。データは最初のテストケースから列形式でリストする必要があります。

次の例は、テストケースの作成を簡略化して示しています。既存のオブジェクトを置き換えるときは、テストIDを含める必要があります。インポートの詳細については、「[CSVまたはExcelファイルからの要件のインポート](#)」(345ページ)を参照してください。

Name	Design	Text	Run Time	Pty	Test Steps - Step	Test Steps - Description	Test Steps - Expected Result
Assign Chang	Ready	Assign Change	10	3 - High	Step 1	Select Release Tab and open a	The Release attributes are
					Step 2	Press button "Assign Change	An overlay window opens
					Step 3	Select one of the displayed	Change Items is assigned
					Step 4	Select a different Release and	Change Item is assigned
					Step 5	Press button	Window is
					Step 6	Open the Release again	In the tab "Assigned
Unassign	Ready	Remove Change	10	3 - High	Step 1	Select Release Tab and open a	The Release attributes are
					Step 2	Press button "Assian Change	An overlay window opens

## RMからエクスポートされた要件のインポート

エクスポートされたデータは、Wordドキュメント、XMLファイル、Excel、またはCSVとしてインポートできます。

ユーザー属性をインポートする場合、設定が[**ユーザー IDを表示する**]になっている必要があります。詳細については、「[ユーザー属性の表示設定](#)」(87ページ)を参照してください。

エクスポート済みの要件をインポートする場合、次の2つのオプションがあります。

- 1 クイック検索の [**エクスポート**] 機能で作成したドキュメントのインポート
- 2 RMドキュメントの [**エクスポート**] 機能で作成したWordドキュメントのインポート
 

「[Microsoft Wordドキュメントからの要件のインポート](#)」(336ページ)に記載されているものと同じルールが適用されます。

変更され、エクスポートされたドキュメントをインポートするために、ラウンドトリップを使用できます(「[ラウンドトリップドキュメントのインポート](#)」(342ページ)を参照)。

  - a クラスの属性名がドキュメントの列見出しに一致することを確認します。
  - b 入力できないすべてのフィールドを除去します(例: 作成日)。新しい要件を作成する場合は、ID列のみを除去します。
  - c [**行数**] 行を除去します。
- 3 XMLファイルの場合:
  - a 入力できないすべてのフィールドを除去します(例: 作成日)。新しい要件を作成する場合は、ID列のみを除去します。

- b 属性 **id** および **version** を除去し、さらに、**id** の値として **PUID** が指定されている **attribute** 要素を除去します。
  - c 「XMLファイルからの要件のインポート」(343 ページ) の説明に従ってインポートします。
- 4 CSVまたはExcelファイルの場合:
- a [行数] 行を除去します。
  - b ファイルを保存します。
  - c 「CSVまたはExcelファイルからの要件のインポート」(345 ページ) の説明に従ってインポートします。

## [インポート結果] ダイアログ

要件またはドキュメント (要件を含めることもできる) のインポート後には、[インポート結果] ダイアログが表示されます。このダイアログには、以下のセクションが提供され、各要件のインポートの詳細 (インポートモードなど) およびインポートステータスが示されます。

- 成功
- 変更なし
- 警告
- エラー



**注意!** 要件のインポートが成功し、その要件が [警告] セクションにも表示される場合があります。これは、インポート機能で設定できない属性 (要検討、時刻の変更など) を設定しようとしたことなどが原因です。

[成功] セクションでは、[オブジェクト] 列のそれぞれのリンクをクリックして、インポートされた要件を開くことができます。

## ReqIF ファイルからの要件のインポート

要件交換フォーマット (ReqIF) は、同じベンダーまたは異なるベンダーがサポートするアプリケーション間で要件を交換するための標準化されたXMLファイル形式です。

ReqIF ファイルには次の内容が含まれます。

- データモデル
  - ユーザー定義タイプ
  - ユーザー定義属性
  - ユーザー定義の要件タイプ
- 要件
- 要件間のリンク

以下の各セクションでは、ReqIFファイルからDimensions RMインスタンスに要件とドキュメントをインポートする方法について説明します。

コマンドラインからのReqIFインポート:

Dimensions RMは、コマンドラインからのReqIFインポートの実行もサポートしています。リリース固有の手順については、以下を参照してください。

```
RM_Install\Common Tools \#.#\tomcat\#.#\webapps\rtmBrowser\WEB-INF\classes\ReqIF CmdLine
```

### ReqIFエクスポートの前提条件

次の前提条件は、Dimensions RMの他のインスタンスまたはインストールを含む、任意のソリューションによってエクスポートされたReqIFファイルに適用されます。

- 1 つまたは複数のモジュールを1つのReqIFファイルにエクスポートします。  
ReqIFエクスポートに含まれるデータの具体的な情報については、データを提供するアプリケーションのマニュアルを参照してください。
- 2 ReqIFモジュールに画像またはその他の添付ファイルが含まれている場合、これらをReqIFファイルと同じディレクトリ内に保存する必要があります (DOORSはこの方法で画像と添付ファイルをエクスポートします)。
- 3 ReqIFエクスポートディレクトリの完全な内容を、RM Browserでインポート可能な単一のZIPファイルに含める必要があります。

### ReqIFインポートの前提条件

このリストの項目はすべて重要ですが、最初の項目は決定的に重要です。

- 1 要件をインポートするRMクラスは、次の属性を含む必要があります (詳細については「[属性定義](#)」(423ページ)を参照してください)。
  - **External ID** (タイプ: 英数字)
  - **ReqIF ID** (タイプ: 英数字)
  - **ReqIF Owner** (タイプ: 英数字)
  - **File attachment** (タイプ: ファイル添付)

これらの各属性タイプの [表示名] が上記のように定義されている場合、属性は自動的にマッピングされます。

[ベースライン] オプションをサポートするには、次の属性も定義する必要があります。

#### **ID Backup** (タイプ: 英数字)

- 2 インポート中にデフォルトを設定することもできますが、必須の値については事前にデフォルトを設定するほうが簡単です。
  - 英数字またはテキストの場合は、デフォルト値を設定します。
  - リスト属性の場合は、デフォルトの選択を選択します。
- 3 すべてを1つのクラスにインポートするか、個別のRMクラスに割り当てるかを決定します。  
識別されたすべてのタイプを1つのクラスにインポートし、インポートが成功した後にデータを確認して、後で要件タイプを再割り当てする必要がある場合に [クラスの変更] アクションを使用することが可能です。  
ただし、コラボレーションが目的である場合、つまり、ドキュメントをインポートし、変更が配信されるたびにReqIFを使用して変更をインポートする場合は、インポートに含まれるすべての重要な要件タイプをRMクラスにマッピングすることをお勧めします。
- 4 ReqIFデータは常にドキュメントにインポートされます。



- a ドキュメントのベースに、既存のテンプレートドキュメントを使用することもできます。その場合、テンプレートの構造が使用され、結果のドキュメントにはインポートファイル名を使用して名前が付けられます。
  - b ターゲットドキュメントを選択できます。これは、インポートされた要件が追加される既存のドキュメントです。インポートの前にドキュメントのスナップショットが作成されます。ターゲットドキュメントを選択するには、[ベースラインをインポートする] チェックボックスをオンにします。
- 5 テンプレートドキュメントを使用して、インポートされたデータのドキュメント構造を定義できます。新しいドキュメントはその構造に基づいて作成されますが、ドキュメント名にはインポートされるReqIFドキュメントの名前が割り当てられます。これが最初のインポートである場合は、ReqIFインポートに基づいて名前が付けられたドキュメントがないことを確認してください。ドキュメントが存在する場合は、ドキュメントの名前を変更する必要があります。

インポートの詳細については、[ReqIFのインポート] ダイアログ - セットアップ、[ReqIFのインポート] ダイアログ - マッピングを参照してください。

## [ReqIFのインポート] ダイアログ - セットアップ

まだ確認していない場合は、「RMからエクスポートされた要件のインポート」(350ページ)を確認してください。

- 1 [インポート] メニューから [ReqIF] を選択します。[ReqIFのインポート] ダイアログが開きます。
- 2 [参照] をクリックし、ReqIFファイルが格納されているZIPファイルを選択します。
- 3 ZIPファイルに複数のReqIFファイルが含まれていると、[ReqIFファイルの選択] ダイアログが開きます。インポートするReqIFファイルを選択し、[OK] をクリックします。
- 4 ドキュメントテンプレートを選択するか、既存のドキュメントにインポートします。
  - a テンプレートドキュメント: 新しいドキュメントにインポートする要件の構造化に使用するテンプレートの名前をドロップダウンリストから選択します。
  - b ターゲットドキュメント: ベースラインの作成後に、要件をインポートする既存のドキュメントを選択するには、[ベースラインをインポートする] チェックボックスをオンにします。



このチェックボックスをオンにすると、既存のドキュメントに含まれる要件がReqIFを使用してインポートされたことを意味します。



### 注記

オブジェクトベースの要件管理ソリューションであるRMでは、スナップショットは変更不可能なドキュメントのコピーであり、ベースラインはドキュメント内に含まれる、変更不可能な要件のセットです。

- 5 カテゴリ: ドキュメントとそのコンテンツが配置されるカテゴリです。[ベースラインをインポートする] チェックボックスがオンにされている場合、インポート対象が選択され、カテゴリを変更することはできません。
- 6 テーブルの形式: インポートモジュールにDOORSテーブルが含まれる場合、それらをHTMLテーブルとして、または個別の要件としてインポートできます。
  - **HTML:** HTMLテーブルを作成し、テキスト属性に保存します。HTMLへの変換の際、非表示の属性は削除されます。すべての属性を残すには、[要件] を選択します。

- **要件:** テーブルの各セルを個別の要件として保存します。
- 7 モジュール構造:** ドキュメント (モジュール) をチャプターとともに、またはチャプターなしでインポートできます。
- **チャプター:** 作成されるRMドキュメントにはチャプターが含まれ、チャプターにはサブチャプターまたは要件のいずれかが含まれます。
  - **要件のみ:** 作成されるRMドキュメントには、要件のみが含まれます。
- 8 インポートモード:** [ベースライン] チェックボックスがオンにされている場合、インポートされる要件に対する動作を指定します。
- **要件の作成:** インポート時に常に要件を作成します。
  - **要件の置換:** インポート時に既存の要件を置き換えます。
  - **要件が見つからない場合は新規要件を作成する:** このオプションは、[要件の置換] が選択されている場合にのみ使用できます。
    - **チェックボックスがオン:** 要件が見つからない場合、要件が作成されます。
    - **チェックボックスがオフ:** 新しい要件は作成されません。
- 9 ReqIFドキュメント/選択したドキュメント:** インポートするドキュメント (モジュール) を定義します。
- インポートするドキュメント (モジュール) の追加:**
- a インポートするドキュメント (モジュール) をリスト [ReqIFドキュメント] から選択します。
  - b  をクリックします。ドキュメントがリスト [選択したドキュメント] に追加されます。
- 選択したドキュメントの名前変更:**
- a インポートするドキュメント (モジュール) をリスト [選択したドキュメント] で強調表示します。
  - b 選択したドキュメントリストの下にある [名前の変更] リンクをクリックします。[ドキュメント名の変更] ダイアログが開きます。
  - c テキストボックスに新しい名前を入力します。
  - d [OK] ボタンをクリックします。
- インポートからドキュメント (モジュール) を除去するには、次の手順を実行します。**
- a 除去するドキュメント (モジュール) をリスト [選択したドキュメント] から選択します。
  - b  をクリックします。
- 10 [次へ]** をクリックします。マッピングを実行するための [ReqIFのインポート] ダイアログが開きます。このダイアログで要件タイプを識別し、ReqIF属性をRM属性にマッピングします。最初の手順では、要件をインポートするクラスを選択する必要があります。

## [ReqIFのインポート] ダイアログ - マッピング



### 重要!

単一クラスモードでは、次の手順を1回だけ実行する必要があります。

複数クラスモードでは、選択したクラスごとにこれらの手順を完了する必要があります。**すべてのクラスがマッピングされるまで、[インポート] タブは反応しません。**

ReqIFインポートの前提条件の指示に従って定義した場合、属性であるReqIF ID、外部ID、およびReqIF所有者が自動的に入力されます。

属性を定義していない場合は、ダイアログを閉じて定義してください。

### 11 RMクラス: インポート時に使用されるクラスをリストします。

#### 単一クラスモード:

単一クラスモードでは、インポート時に、ReqIFファイル内のすべての要件オブジェクトを同じRMクラスタイプに変換します。単一クラスモードを使用するには、リストボックスをクリックしてRMクラスを選択します。

#### 複数クラスモード:

複数クラスモードでは、インポート時に、クラスマッピングが定義されているReqIFファイル内の各要件オブジェクトを対応するRMクラスタイプに変換します。

複数クラスモードを使用するには、次の手順を実行します。

- a 複数クラスオプションを設定するには、[複数クラス] の左側にあるチェックボックスをオンにします。
- b [クラスマッピング] をクリックします。
- c [スペックタイプ] (インポート) リストからクラスを選択し、[RMクラス] リストから対応するクラスを選択します。以下の例では、Product\_Requirementsスペックタイプで定義されたデータがFunctional\_RequirementsとしてRMにインポートされます。用語集のエントリは任意のクラスに移動して、レビュー、修正、クラスの用語集への変更が可能です。

#### Class Mapping

It is possible to map multiple Spec Types to a single class.

- d をクリックします。
- e インポート用にマッピングする他のすべてのクラスについて、ステップcとdを繰り返します。**[OK]** をクリックします。**属性マッピング:** 属性マッピングでは、各ReqIF属性の値を受け取

るDimensions RM属性を定義します。このクラスのマッピングを保存していた場合は、[保存されたマッピング] リストから選択できます。


## 12 属性マッピング:

クラスが識別されると、ReqIF属性リストの属性がRM属性リストの属性にマッピングされます。グループ、添付ファイル、URL、ルックアップ属性など、ほとんどの属性タイプがサポートされています。



### 注記


プラス記号を使用すると、マップされていない属性を自動的に作成してマップできます。この方法は、要件を一度だけインポートする場合に非常に便利です。ただし、ベースライン化および更新を目的としてRMドキュメントにインポートする場合、ベストプラクティスは、属性ターゲットを定義し、名前を付け、一貫性を確保して再利用できるようにマッピングを保存することです。

- a インポートする各ReqIF属性を強調表示します。
- b RMターゲットを強調表示します。
- c  をクリックして、両方を [マッピングされた属性] リストに割り当てます。

## 13 [ベースラインをインポートする] がチェックされている場合、[ReqIF属性] リストから [REQIF\_ID] を選択し、[RM属性] リストから [IDバックアップ] を選択します。

 をクリックして、[REQIF\_ID] と [IDバックアップ] をマッピングされた属性に移動します。既存のドキュメントを更新する場合は、この操作が必要です。

### 属性のマッピングの除去:

- a 除去する属性を [マッピングされた属性] リストから選択します。
- b  をクリックします。




**重要!** 必須属性にデフォルト値を割り当てるか、Dimensions RMの属性に [値のマッピング] の入力値を使用します。


## 14 デフォルト値を設定: データが提供されていないテキストまたは英数字属性に値を設定できます。

- 15 RM属性値マッピング:** 値のマッピングでは、複数の値を持つ属性 (例: リスト属性) の値をどのように変換するかを定義します。

**値のマッピング:**

- a [ReqIF 値] リストから ReqIF 値を選択します。
- b [RM 値] リストから RM 値を選択します。
- c  をクリックします。[マッピングされた値] リストにマッピングが表示されます。マッピングする値が他にもある場合は、この手順を繰り返します。


**値のマッピングの除去:**

- a 除去する値を [マッピングされた値] リストから選択します。
- b  をクリックします。



**注記**

オプション属性の値がマッピングされていない場合は、空欄のままです。

- 16 マッピングの保存:** これらのマッピングに名前を割り当てることで、次のインポートで、ReqIFタイプとRMクラス間のマッピングを取得できます。
- a [保存されたマッピング] リストの横にある  をクリックします。
  - b [名前] ボックスに名前を入力します。
  - c [OK] をクリックします。
- 17** 複数クラスモードでは、クラスごとにステップ**手順 12**~**手順 16**を繰り返します。選択したすべてのクラスがマッピングされるまで、インポートを続行できません。
- 18** [チャプター ID] リストからチャプターを識別するReqIF属性を選択します。
- 19** [属性値] ボックスにチャプターを識別するテキストを入力します。特別なチャプターマーカーがない場合は、空白のままにすることができます。
- 20** [インポート] をクリックしてインポートを開始します。
- 21** 必須属性がある場合、デフォルトが割り当てられていないとインポートが失敗するため、最後に警告が表示されます。[OK] をクリックします。

実行中に、データ移行の進行状況を示すメッセージが表示され、その後にリンクが移行されます。

完了すると、「インポートが終了しました」というメッセージが表示され、次の内容を含む詳細レポートが表示されます。

- インポートテンプレート
- ターゲットドキュメント
- ReqIFタイプとRMクラスのマッピング
- 識別され、インポートされた要件
- インポートに失敗した要件

このレポートは、ReqIF Import.htmlとして**保存**できます。



## 第9章

---

# テスト管理

テスト管理の使用	360
[テスト] ビューの表示	361
テストケースとテストステップの作成	361
テストスイートの作成と入力	363
テストスイートへのケースの割り当て	364
テストスイートの実行	365
テストスイート全体のベースラインの作成	366
エクスポートテストのトレーサビリティ	366
テスト実行の作成	367
テスト管理の設定	368
AI生成のテストケース	370

## テスト管理の使用

テストケース管理とは、システムで実行する一連のアクションを作成して、それらのアクションが定義済みの要件を満たしていることを確認するための機能です。要件管理ソリューション内でテストケースを維持することで、アナリストはテストケースを作成することもできます。

要件定義の一部としてテストケースを定義することにより、アナリストは要件承認の重要なルールの1つである「テスト可能かどうか?」を検討できるようになります。これにより、要件をより明確に理解できるようになり、開発時に要件のステートメントで定められたニーズを確実に満たすことができます。

テストケースは、QAチームによって改訂され、小さなテストステップに分割されることがありますが、最初は要件から直接抽出する必要があります。

### 開始:

組織がテスト管理の使用を開始するには、テスト管理をスキーマの一部として構成する必要があります。このタスクは、「[テスト管理の設定](#)」(368ページ)の手順に従ってインスタンス管理者が実行する必要があります。

以下はテスト管理のサポートを目的とするクラスです。

**テストケース**は、目標、つまり検証の対象となる特定の機能を定義します。テストケースには、前提条件と、テスト担当者の検証を支援する関連データが含まれます。

**テストステップ**は、テストケース内にあり、各アクションとその予想される結果を保持します。この解説では、テストケースと言う場合、ケース自体と検証に必要なアクションの両方を含みます。

**テスト実行**では、テストされたテストケース、テストの日時、テストの実行者、各ステップのステータスが追跡されます。

**テストスイート**は、関連するテストケースのグループ(特定のコンポーネントに関連付けられたすべてのテストケースなど)を収集し、追跡する機能を提供します。テストスイートを使用すると、チームは一連のケースを順番に実行し、すべてのケースまたは最初の実行で失敗したケースを再テストできます。

**【テスト】ビュー**は、作成、変更、実行、ステータスなど、テスト関連クラスのすべての側面を管理します。

テスト管理には、次の作業が含まれます。

[「【テスト】ビューの表示](#)」(361ページ)

[「テストケースとテストステップの作成](#)」(361ページ)

[「テストスイートの作成と入力](#)」(363ページ)

[「テストスイートへのケースの割り当て](#)」(364ページ)

[「テストスイートの実行](#)」(365ページ)

[「テストスイート全体のベースラインの作成](#)」(366ページ)

[「テスト実行の作成](#)」(367ページ) - テストスイートの一部としてではなく、テストケースを個別に実行する場合。



## [テスト] ビューの表示

[テスト] ビューでは、[ホーム] ビューや [クイック検索] ビューと同様に、テスト管理のさまざまな側面を表示、実行、レポートするためのダイアログが開きます。テストに関連するさまざまなオブジェクト、ケース、ステップ、スイートは、[テスト] ビューで作成、管理されます。

テスト管理のダイアログでは、テストを実行したユーザー、実行日時、実行にかかった時間など、実行された各テストステップの実際の結果とステータスをテスト担当者が追跡できます。

Test Suite Name	Description	Estimated Run Time	Responsible Tester	Progress
CDM new features	Extend notifications and process	70		1 (red) / 10 (blue)
Document Synchronization	Test Cases associated with document changes, incl...	45	Ryan Forbes	2 (green) / 3 (blue)
Initial Sound Tests	testing the reading of a single note with sound on an...	25	Julia Schoeller	1 (green) / 1 (blue)
Level Playing Field	testing with clean list	10	Joanna Miller	
RLM - New features Ref 2	TDR New Features List	0	Ryan Forbes	1 (green)

図 9-1. テストスイートで利用可能な機能とレポート

[テスト] ビューで使用できるタブには、[テストケース]、[テストスイート]、[テスト実行]のほか、最近開いたオブジェクトまたは実行したオブジェクトのタブが表示されます。



### 注記

テストケースとテストステップは、Dimensions RM内の他のオブジェクトと同様に作成できますが、チームがテスト管理を完全に導入している場合は、ユーザーは【テスト】ビュー内で作業することをお勧めします。これにより、要素の作成、リンク、レポート作成が簡素化されます。

テストスイートリストでは、ケースのスイートへの割り当て、テストケースのリンク付きコピー、属性の編集が可能です。また、WordまたはPDFファイルに、すべてのテストケースとテストステップを含むテストの詳細をエクスポートすることもできます。

## テストケースとテストステップの作成

テストケース:

- 1 メニューバーから [テスト] を選択すると、[テスト] ビューが表示されます。

- 2 図9-2のように、[テストケース] タブを選択します。

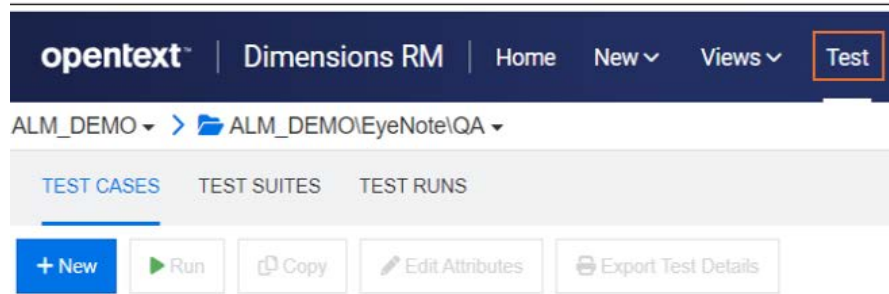


図9-2. メニューバーから [テスト] を選択し、テストケース、スイート、実行を管理

- 3 [+ 新規] をクリックして、[テストケース] ダイアログを開きます。
- 4 [標準属性] セクションで、テスト名と説明を入力します。ドキュメントのステップを自由に再利用し、独自のテストケースを作成してください。
- タイトル: テストケースの作成
  - 説明: テストケースの作成の検証
- 5 フォームの [カスタム属性] セクション (インスタンス管理者がこのセクションに「テスト設計」という名前を付けている場合があります) を展開します。この情報には以下が含まれます。
- 前提条件: テストケースの作成をテストするには、Dimensions RM 12.12 がインストールされている必要があります。
  - 優先度: 高
  - 推定実行時間: 5 (この推定値は実際の実行時間と合わせてレポートに使用されます)
  - 残りの属性の値は、ユーザーがテストプロセスにとって重要であると判断した項目によって異なりますが、デザイナーの名前、レビュー担当者、テストカテゴリ、初期ステータスを含めておくに役立ちます。
- 6 完了したら、[保存] をクリックします (類似する属性を含むオブジェクトを作成した場合は、すべてのオブジェクト作成と同様に、保存してコピーすることができます)。
- 7 テストケースを保存すると、ダイアログの [テストステップ] セクションを展開できます。テストケースが保存されるまで、テストステップを作成してリンクすることはできません。









### テストステップ

各テストステップは、作成元のテストケースにリンクされており、実行時の単一のアクションを表します。

- 8 上記で作成したテストケースを保存後に閉じた場合は、[テストケース] の下にリストされます。リストを更新し、作成したテストケースを選択し、ダブルクリックして再度開きます。
- 9 下にスクロールして、[テストステップ] セクションを展開します。
- 10 [+] をクリックして、番号付きのステップを開きます。
- 11 ステップ名を入力します (例: 「テストビューに入る」)。
- 12 アクションの説明を入力します (例: 「メニューバーから、テストをクリックします」)。

- 13 予想される結果を入力します (例: 「テストビュー (図9-2) にアクセスします」)。テスト担当者が期待どおりにテストを実行するように、添付ファイルを含めることができます。
- 14 保存して次のステップに進むか、そのまま続行します。すべてのアクションがテストケースに追加されるまで、手順10~13を繰り返します。より適切な**テスト実行**を行うには、次の例のように、さらに1つまたは2つのテストステップを作成することをお勧めします。
  - テスト名: 割り当てられたテストケースを開く
  - アクションの説明: [テストケース] タブを選択します。
  - 予期される結果: 現在のカテゴリの既存のテストケースがリストされます。
- 15 **テストケースを保存して閉じます。**

[テストステップ] セクションのヘッダーには、次の機能があります。

	<b>追加:</b> 新しいテストステップを追加します。
	<b>ステップのコピー:</b> 強調表示されたテストステップのコピーを作成します。
	<b>テストケースにコピー:</b> 強調表示したテストステップを再利用のために別のテストケースにコピーします。このアイコンは、ユーザーにターゲットケースを選択するよう求めるダイアログを表示します。 リンク (テストステップなど) を含むテストケース、テストケースが含まれるコレクションまたはドキュメントをコピーすることもできます ( <a href="#">「要件のコピー」(197ページ)</a> を参照)。
	<b>ステップの除去:</b> 強調表示したステップを除去します。
	<b>下に移動:</b> 強調表示したテストステップを下の実行順序に移動します。
	<b>上に移動:</b> 強調表示したテストステップを上に移動します。
	<b>既存要件にリンク:</b> このアイコンは、テストステップとアップストリームリンク (例: 機能要件) との関連付けを追跡する処理で使用できます。1つのテストステップを複数のテストケースにリンクすることは推奨できません。デフォルトの処理では禁じられています。
	<b>表示する属性を選択:</b> [ユーザー設定] > [テストステップ] を開き、リストされているテストステップから属性を追加または除去します。

## テストスイートの作成と入力

- 1 [テスト] ビューで [テストスイート] タブを選択します。
- 2 [+ 新規] をクリックして、[テストスイート] ダイアログを開きます。
- 3 スイート名とその内容の説明を入力します (例: テスト管理機能に関連付けられたすべてのケースをテストするスイート)。
- 4 **責任を持つテスト担当者** (スイートのテストを監督する担当者) を割り当てます。
- 5 **テストスイートを保存して閉じます。**

作成が完了すると、新しいテストスイートが開いて、テストに使用できるようになります。開いた状態のテストスイートでは、上部のパネルに属性が表示され、下部のパネルにテストケースが表示されます。テストスイートにテストケースを追加するには、[割り当て] ボタンを使用します。

メインの [テストスイート] ダイアログで既存のスイートを表示するには、[テストスイート] タブをクリックします。

テストスイートを強調表示して、ケースの割り当て、定義された属性の編集、またはスイートのコピーを行うことができます。

**コピー:** 強調表示されたテストスイートをコピーし、割り当てられたテストケースから新しいテスト実行を作成します。

**属性の編集:** 強調表示されたテストスイートの編集フォームを開きます。

## テストスイートへのケースの割り当て

テストケースは、テストスイートに個別に、またはベースラインの一部として割り当てることができます。

- 1 テストスイートのリストから、**テストケース**を割り当てるテストスイートを強調表示します。
- 2 [テストケースの割り当て] ボタンをクリックし、更新をクリックすると、現在のカテゴリで選択可能なすべてのテストケースが表示されます。
- 3 スイートに追加するテストケースの横にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 [割り当て] ボタンをクリックすると、選択したテストケースの合計数がボタンに表示されます。テストケースは、後から追加できます。

Test Suite Name	Description	Estimated Run Time	Responsible Tester
Document Synchronization	Test Cases associated with document changes, including synchronization	45	Ryan Forbes
Test Management Functions	Testing Test Management	35	Ryan Forbes
User Notification Functions	Testing User Notification Functions	20	Ryan Forbes

図9-3. テストスイートリストは、割り当てられたテスト担当者別にフィルタリングできます。

ベースラインからテストケースを割り当てるには、次の手順を実行します。



### 注記

プロセスで、ラベル付きのベースラインに含まれるテストケースのみをテスト用に提出する必要がある場合は、関係 **TSU\_TC** セカンダリでプロパティ [子に移動する] をオフにする必要があります。これにより、最新ではないテストケースをスイートに割り当てることができます (詳細については、「関係プロパティ: [プロパティ] タブ」(471ページ) を参照してください)。

- 5 [ベースラインでフィルタリング] ボックスをチェックします。
- 6 関連するカテゴリを入力します。
- 7 ドロップダウンリストからベースラインを選択します。

- 8 更新をクリックして、ベースライン内のテストケースを表示します。
- 9 すべてを含める場合は、一番上のボックスをチェックしてすべてを含めるか、個別にチェックします。
- 10 [割り当て] ボタンをクリックします。

割り当てられた合計数が表示されます。さらに割り当てを行うこともできます。

テストスイートを実行するには、[テストスイートの実行](#)を参照してください。

## テストスイートの実行

テストスイートは、関連するテストケースをグループ化し、割り当てられた順序でそれぞれをテストする機能を提供します。テストでは最初からすべてのケースをテストすることも、特定のステータスのケースのみをテストすることもできます。



**実行ステータス**は、**TEST RUN**クラス内で定義されたリスト属性です。デフォルトの定義に含まれる状態は、成功、失敗、成功（誤差あり）、実行済み、ブロック済み、実行なしです。インスタンス管理者は、これらの状態を変更して、ローカルのプロセス用語や色を組み込むことができます（「[属性定義](#)」(423ページ)を参照）。

テスト担当者は色アイコンの上にマウスポインターを合わせて、状態名を表示できます。色分けは[インスタンス設定]で定義されます。追加の詳細については、「[テスト管理](#)」(101ページ)を参照してください。

テストスイートを実行するには、次の手順を実行します。

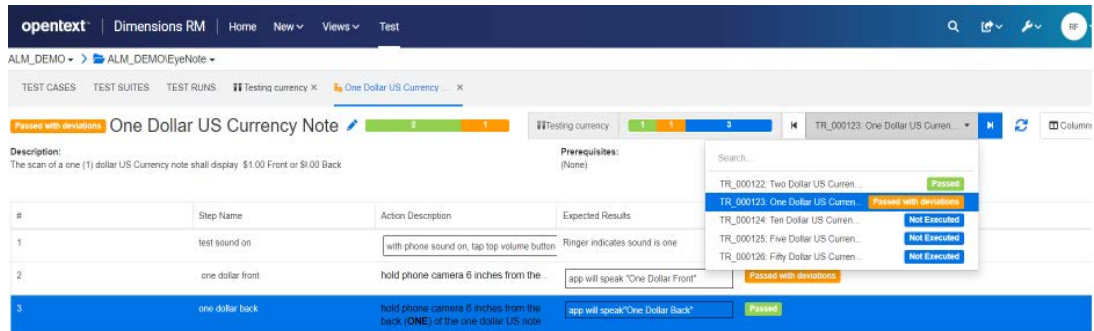
- 1 [テスト] ビューで、[テストスイート] タブを選択します。
- 2 実行するテストスイートを選択します。
- 3 次のいずれかを選択します。
  - a **[実行の続行]** を使用すると、テスト担当者は選択したテストスイートを中断した箇所から再開できます。スイートが以前に実行されていない場合は、最初のテストケースから開始されます。
  - b **[新しい実行を開始]** は、選択内容に基づいて新しいテスト実行を開始します。
    - スイート内のすべてのテストケース
    - 特定のステータスが割り当てられたすべてのテストケース。たとえば、前回の実行で**失敗**したテスト
    - 選択が済んだら、**[実行]** をクリック
- 4 スイートの最初のケース（最初のステップ）が開きます。（この実行のタブが[テスト]ビューに表示されるため、テスト担当者は現在の実行から、このタブに戻ることができます）。
- 5 各ステップを実行してテストし、関連する注記や画像と合わせて、**実際の結果**を記録します。

不具合を作成し、その不具合を失敗したステップに関連付けたり、失敗したステップを既存の不具合にリンクしたりすることができます。

	新しい不具合を作成し、失敗した <b>テスト実行ステップ</b> にリンクします。
	失敗した <b>テスト実行ステップ</b> を既存の不具合にリンクします（ <b>[既存要件にリンク]</b> ）。

- 6 関連する色分けされた実行ステータスをクリックしてステップを完了すると、実行日時とテスト担当者が記録され、次のステップに進みます。
- 7 ケース内の各ステップのテストが完了したら、▶ (次へ) ボタンをクリックして、スイート内の次のケースに進みます。

[テスト] ビューには、現在テスト中のケースの名前、ケースのステータス、スイートのステータス、スイートに含まれるすべてのテストケースのドロップダウンリストが表示されます。



## テストスイート全体のベースラインの作成

テストには終わりはありません。チームがソフトウェアアプリケーションのリリース4.2をテストしている間に、開発チームはリリース4.3の開発を開始しているかもしれません。各リリースに、変更されたテストケースが含まれるとしても、変更されていないテストケースが含まれるとしても、そのリリースのコンテキストですべてのテストケースをテストする必要があります。

カテゴリ、コンテナ、ベースラインを使用することで、テストチームはレポートとベースラインを作成できます。テストケースをベースライン化することで、割り当てられたリリースに対して設定されたとおりにテストケースを再度実行できます。テストを行う際に、チームは、テストの実行、変更、テストの実行、レポートとベースラインの再作成というプロセスを繰り返すことができます。

テストスイート全体のベースラインを作成することで、リリース4.2のいずれかのテストスイートまたは一連のテストスイートに含まれるすべての要素 (テストスイートの抽出元になった要件を含む) をロックできます。このベースラインは、リリース4.3であらためてテストを行う場合や、リリース4.2.1をテストする場合のベースとして使用できます。

ベースラインを作成するには、次の手順を実行します。

1つ以上のテストスイートを強調表示し、[アクション] ペインから [ベースラインの作成] を選択します。1つまたは複数のテストスイート (すべてのテストケース、テスト実行、およびそれらのステータス) の内容を1つのベースラインにまとめて、参照、追跡、比較に利用できます。

[ベースライン] ダイアログが開き、提案されたタイトル、オプションの説明を含める属性が表示されます。また、以下の情報を含めることができます。

- リンクされた要件 - テストケースにリンクされたアップストリームの要件
- リンクされた不具合 - テストステップにリンクされたダウンストリームのオブジェクト

## エクスポートテストのトレーサビリティ

テストスイートをテストスイートのベースラインと組み合わせ、[エクスポートテストのトレーサビリティ] を使用して、単一のレポートですべてのオブジェクト (テストケースを開始する要件からテスト実行の最終実行ステータスまで) をエクスポートします。

[テスト] ビューで、1つ以上のテストスイートを強調表示し、アクションペインから [エクスポートテストのトレーサビリティ] を選択してダイアログを表示します。選択されたコンテナを選択します。

- 鉛筆アイコンをクリックして、選択した要件、テストケース、テスト実行に属性を追加します。
- [エクスポート] をクリックします。

Excel スプレッドシートがエクスポートされます。

## テスト実行の作成

テストスイートの作成を計画し、関連するテストケースを収集して順序立ててテストを行えるようにすると、テストスイート内でテスト実行が作成されて実行されます。個別のテスト実行を作成する必要はありません。

個別のテスト実行を作成して実行すると、テスト担当者は、各実行ステップを確認してテストし、そのステータスを記録し、メモを作成し、不具合を記録できます。テスト担当者は、ステップをテストするたびに、HTML対応のテキスト属性を使用して、テスト結果を記述し、必要に応じて画像を含めることができます。



**注記** テストケースを作成してテストスイートに割り当てる場合、テスト実行の作成と実行はテストスイート内で制御されます。

- [テストケース] タブを選択し、[テストケース] リストから、テストケースを**強調表示**します (この例では、「テストケースの作成」が作成されています)。
- [実行] ボタンをクリックして、[テスト実行] ダイアログを開きます。このダイアログでは、**責任を持つテスト担当者、計画実行日、計画ホスト名**などを入力できます。

[テスト実行] ダイアログは、ケースをテストツールに変換します。変更の有無にかかわらず、1つのケースをリリースの数だけ使用できます。

- 3 **テスト実行を保存**して閉じます。

[テスト実行] タブでは、既存のすべての実行を表示でき、ステータスまたは割り当てられたテスト担当者でフィルタリングできます。

- 4 **テスト実行**を選択して開きます。

- 5 各ステップを実行してテストし、関連する注記や画像と合わせて、**実際の結果**を記録します。

不具合を作成し、その不具合を失敗したステップに関連付けたり、失敗したステップを既存の不具合にリンクしたりすることができます。

	新しい不具合を作成し、失敗した <b>テスト実行ステップ</b> にリンクします。
	失敗したテスト実行ステップを既存の不具合にリンクします ([ <b>既存要件にリンク</b> ])。]

- 6 関連する色分けされた実行ステータスをクリックしてステップを完了すると、実行日時とテスト担当者が記録された後に、次のステップに進みます。

ケース内の各ステップのテストが完了したら、[テスト実行] タブを閉じることができます。

## テスト管理の設定

Dimensions RMリリース12.11.1では、テスト管理機能が拡張されました。この機能拡張によって、以下のようなことが可能になります。

- すべてのテスト管理関連のアーティファクトを1つの新しいビューにまとめる (**【テスト】ビュー**)
- テストスイート内の関連するテストケースセットをサポートする
- 個別の再利用可能なオブジェクトとして定義されたテストステップへのリンクを含め、**テストケース**を定義する
- インスタンス管理者が実装を完了できる



### 注意!

新しい機能には、12.11.1リリースより前のテスト管理に含まれていたものとは異なるスキーマ定義が必要です。これらの拡張クラスは、以前の機能を含むインスタンスにはインストールできません。新しい機能を実装するには、インスタンスをコピーし、コピーから古いクラスを削除して、新しい実装を設定する必要があります。新しい機能をテストするために、元のインスタンスからデータをエクスポートし、新しいインスタンスにインポートできます。


テストケース管理には、以下の設定が必要です。

- 1 クラス: 「[テスト管理クラスの追加](#)」(368ページ)を参照。
- 2 関係: 「[クラス間の関係の作成](#)」(369ページ)を参照。
- 3 制約: 「[テスト管理の有効化](#)」(370ページ)を参照。

### テスト管理クラスの追加

新しいクラスの作成については、「[スキーマクラスの作成](#)」(462ページ)で詳細な手順を確認できます。

以下では、クラスを定義し、テスト管理を設定するのに必要な手順について説明します。完成したスキーマについては、[図9-4](#)、「[テスト管理のスキーマ定義](#)」(369ページ)を参照してください。

- 1 [管理]メニューから[スキーマ定義]を選択してインスタンススキーマを開きます(問題がある場合は、「[インスタンススキーマのオープンとロックの解除](#)」(461ページ)を参照してください)。
- 2 スキーマグリッド上で目的の場所を右クリックし、[クラスの追加]を選択します。
- 3 メニューから[テストスイート]を選択します。
- 4 クラス名はデフォルトでクラスタイプになります。テスト管理の場合は、クラス名として「**Test\_Suite**」をそのまま使用することをお勧めします。
- 5  をクリックしてスキーマ定義を保存します。

次のテンプレートクラスに対して手順2~5を繰り返します。

- テスト実行スイート
- テストケース
- テスト実行
- テストステップ



- テスト実行ステップ
- 不具合

### クラス間の関係の作成

追跡とレポートをサポートするためにさまざまなクラスをリンクするには、クラス間に関係を作成する必要があります。

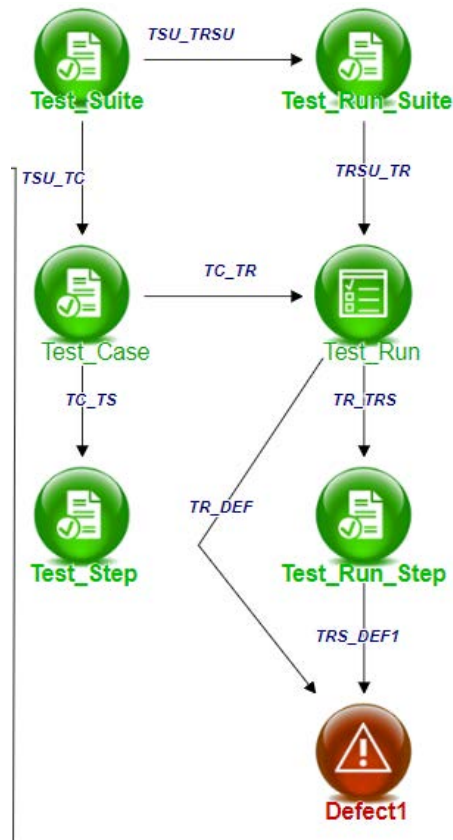



図 9-4. テスト管理のスキーマ定義

関係を作成するには、次の手順を実行します。

- 1 まだ開いていない場合は、[管理]メニューから[スキーマ定義]を選択してインスタンススキーマを開きます（問題がある場合は、「[インスタンススキーマのオープンとロックの解除](#)」(461ページ)を参照してください）。
- 2 [新規]メニューから[関係]を選択します。
- 3 Test\_Suiteクラス内をクリックします。
- 4 Test\_Run\_Suiteクラス内をクリックします。
- 5 プロンプトが表示されたら、関係名としてTSU\_TRSUを指定し、[OK]を押します。
- 6 図「[テスト管理のスキーマ定義](#)」(369ページ)に含まれる関係について手順2～5を繰り返します。
  - a Test\_SuiteからTest\_Case: TSU\_TC
  - b Test\_CaseからTest\_Step: TC\_TS
  - c Test\_CaseからTest\_Run: TC\_TR

- d Test\_Run\_SuiteからTest\_Run: TRSU\_TR
  - e Test\_RunからTest\_Run\_Step: TR\_TRS
  - f Test\_RunからDefect: TR\_DEF
  - g Test\_Run\_StepからDefect: TRS\_DEF
- 7  をクリックしてスキーマ定義を保存します。

### テスト管理の有効化

テスト管理のクラスと関係を設定した後で、テスト管理を有効にすると、完全な機能をサポートするために必要なさまざまな制約が作成されます。

テスト管理を有効にするには、次の手順を実行します。

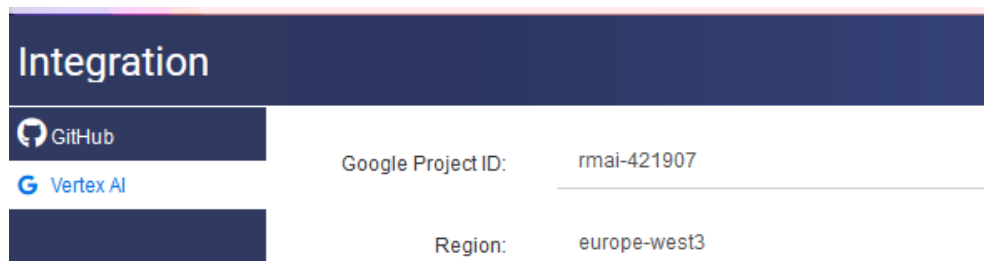
- 1 [管理]メニューから[インスタンス設定]を選択します。
- 2 [テスト管理]タブを選択します。
- 3 テスト管理を有効にします。
- 4 [OK]をクリックします。

## AI生成のテストケース

Dimensions RMでは、テストケースの作成に役立つ機能要件またはユースケースの再利用をサポートする機能を提供することで、人工知能の利用拡大を図っています。

### 管理者サーバーセットアップ

Google Cloud Vertex AIを使用してRM統合を実現しました。もちろん、他のアプリケーションを使用することもできます。この実装では、プロジェクトVertex AIを作成し、Google Cloudファイルapplication\_default\_credentials.jsonをDimensions RMサーバーにダウンロードしました。




### テストケースの生成

テストケースは、テストケースクラスへのリンクを持つ任意の上流クラスから生成できます。

テストケースジェネレーターは、1つの説明から複数のテストケースを作成し、評価します。

実施したテストでは、テストケースジェネレーターによって、基本要件の表現の複雑さも明確になることがわかりました。

テストケースを生成するには、次の手順を実行します。

- 1  をクリックして、[ホーム] ビューを開きます。
- 2 カテゴリ要件リストまたは階層から要件を選択します。  
たとえば、説明は次のようになります。閲覧権限が許可されていない場合は、閲覧エラーが発生する。
- 3 [アクション] ペインの [要件] セクションで、[テストケースの提案] をクリックします。

AI Generated Test Cases
ALM\_DEMO ▼ ✕

---

**Read Permission: Valid User**  
 **Description:** A user with Read permission should be able to read the data.  
**Prerequisites:** A user with Read permission is created.  
**Precision Score:** 9

**Read Permission: Invalid User**  
 **Description:** A user without Read permission should not be able to read the data.  
**Prerequisites:** A user without Read permission is created.  
**Precision Score:** 9

**Read Permission: Revoked Permission**  
 **Description:** A user whose Read permission has been revoked should not be able to read the data.  
**Prerequisites:** A user with Read permission is created. The user's Read permission is revoked.  
**Precision Score:** 9

**Read Permission: Multiple Users**  
 **Description:** Multiple users with Read permission should be able to read the data.  
**Prerequisites:** Multiple users with Read permission are created.

Accept

Select All

Regenerate

Close

- 4 生成されたテストケースのリストを確認し、次の操作を行います。
  - a チェックボックスを使用して、1つ以上の提案されたテストケースを選択します。
  - b [すべて選択] をクリックすると、すべてのボックスがチェックされます。
  - c [承認] をクリックして、選択した要素からテストケースを作成します。
  - d [再生成] をクリックすると、別のテストケースが生成され、興味深いテストケースが得られる可能性があります。
  - e [閉じる] をクリックしてリストを終了します。
- 5 承認を行うと選択したテストケースが作成され、テストケースIDが [承認されたテストケース] ダイアログに表示されます。

## Accepted Test Cases



(3 success, 0 failed)

→ TC\_0054

→ TC\_0055

→ TC\_0056

Generate More

Accept More

Close

6 選択したケースの作成が済んだら、次のことを行うことができます。

- a 追加のケースを生成します。
- b 提案されたテストケースを追加承認します。
- c ダイアログを閉じます。

選択した要件から選択されたテストケース。

Test Name	Description
Read Permission - Invalid User	This test verifies that a user without the Read permission cannot read data from the system. The test should involve a user without the Read permission attempting to read data from a specific resource, and the expected outcome is that the user should not be able to read the data and should encounter an error.
Read Permission - Valid User	This test verifies that a user with the Read permission can successfully read data from the ...
Read Permission - Revoked Permission	This test verifies that a user whose Read permission has been revoked can no longer read ...

## 第10章

---

# アジャイル

開始する前に	374
アジャイルの基礎	374
表示オプション	379
追加のストーリー属性のカードへの表示	380
アジャイルタブ	380
アジャイルの使用	388

## 開始する前に

Dimensions RMでアジャイルの使用を開始するには、以下のタスクを実行する必要があります。

- 1 『**Administrator's Guide**』の**第3章**の手順に従って、アジャイル関連のクラスと関係を作成します。
- 2 [管理]メニュー > [インスタンス設定] > [一般]タブで、アジャイルを有効にする必要があります。

## アジャイルの基礎

Dimensions RMのアジャイルでは以下が可能です。

### アジャイル型アーティファクトおよびアジャイルビュー:

- RMクラスに基づいたアジャイル型アーティファクト
- バックログおよびストーリーボード
- プロダクト/リリース/スプリントのブレイクダウン
- 優先度、作業量、進行状況に関する計算と視覚化
- リリースおよびスプリントレベルに関するバーンダウンレポート

### ハイブリッドアプローチのサポート:

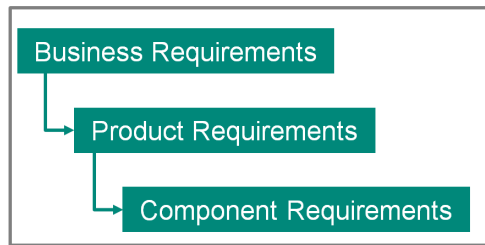
- 要件およびアジャイル型アーティファクト
- すべてのアーティファクトタイプにわたるトレーサビリティ
- 非機能要件
- 従来型アーティファクトでのバックログとストーリーボードの再利用

### 開発への統合

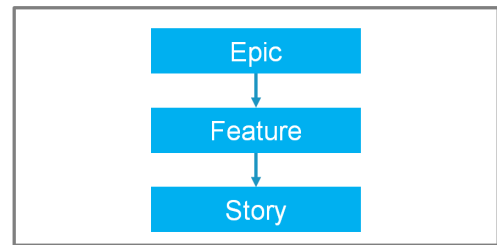
- ストーリーを (アジャイル) 開発ツールに提供
- 開発の進行状況をRMボードにフィードバック

## 要件管理とアジャイル型アプローチの比較

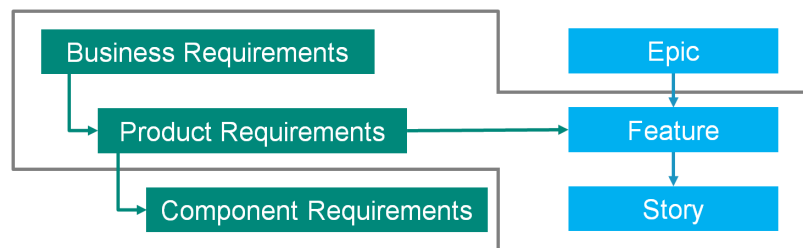
以下に、さまざまなアプローチまたは要件管理を比較するための図を示します。



ピュアRM




ピュアアジャイル






RM/アジャイルハイブリッド

- **ピュアRM:** ピュアRMアプローチでは、各種の要件を定義できますが、開発部門は要件を個々のタスクに分割することができません。
- **ピュアアジャイル:** ピュアアジャイルアプローチでは、開発は、各リリース間で異なるタスクや変更を維持できますが、これらのタスクは要件に結合されません。
- **RM/アジャイルハイブリッド:** RM/アジャイルハイブリッドアプローチは、RMとアジャイルのそれぞれの長所を兼ね備えています。さまざまな要件タイプが、開発部門のタスクや変更と結合されています。

## アジャイルへのアクセス

アジャイルにアクセスするには、メニューバーの [アジャイル] アイコン  をクリックします。[アジャイル] ビューが表示されます。右側の、メニューバーの下に、以下のコントロールがあります。

- [プロダクト] ドロップダウンリスト 
- [編集] ボタン 
- [表示オプション] メニュー 
- [新規] メニュー


次に、プロダクトを選択します (プロダクトを追加するには、「[アジャイルプロダクトの追加](#)」(388ページ)を参照してください)。選択されたプロダクトの以下のタブが開きます。

- [\[概要\] タブ](#)
- [\[プロダクトバックログ\] タブ](#)
- [\[プロダクトストーリーボード\] タブ](#)
- [\[スプリント計画\] タブ](#)
- [\[スプリントストーリーボード\] タブ](#)
- [\[タスクボード\] タブ](#)

## プロダクトについて


「プロダクト」は、エピック、フィーチャー、またはストーリーを割り当てることができる項目です。完全なプロダクト、モジュール、またはコンポーネントを表します。

## リリースについて

「リリース」は、1つのプロダクトにリンクされています。各リリースには、エピック、フィーチャー、ストーリー、スプリントが含まれており、これらはバージョンに関連します。たとえば、リリース1.1には、リリース1.0以降に変更されたフィーチャーのみが含まれます。また、こうしたリリースのフィーチャーには、リリース1.0以降に変更されたストーリーだけが含まれることになります。リリースには  マークが付きます。

## ストーリーについて

「ストーリー」は、実装される機能を記述します。ただし、1つのストーリーに複数のタスクが含まれることがあります。ストーリーが「Install database」の場合、インストールプロセス中にいくつかの設定を行う必要があります。これらの設定は、ストーリーの説明内で指定することができます。しかし、ストーリーを「Install operation system and database」のようにすることはできません。この場合、2つのストーリーに分割する必要があります。


リストでは、ストーリーに、「[バッジについて](#)」(377ページ)で説明したバッジが表示されることがあります。ストーリーには  マークが付きます。



**ヒント** ドラッグアンドドロップを使用すると、ストーリーの優先度を簡単に変更できます。


- 1 優先度を変更するストーリーを、希望の優先度を持つストーリーまで (たとえば、優先度「低」のストーリー ST\_1 を、優先度「高」のストーリー ST\_2 まで) ドラッグします。
- 2 マウスボタンを放し、ストーリー ST\_1 を ST\_2 の上にドロップします。ストーリー ST\_1 の優先度が「低」から「高」に変わります。

## スプリントについて


「スプリント」は、割り当てられたストーリーをいつまでに完了する必要があるかを示す時間枠を定義します。スプリントには  マークが付きます。



## フィーチャーについて



「フィーチャー」は、複数のストーリーを論理的にグループ化します。1つのリリースに割り当てられます。説明に、割り当てられたストーリーが達成する必要がある事柄を記述します。リストでは、フィーチャーに、「[バッジについて](#)」(377ページ)で説明したバッジが表示されることがあります。フィーチャーには  マークが付きます。

## エピックについて


「エピック」は、複数のフィーチャーとストーリーを論理的にグループ化します。1つのリリースに割り当てられます。リストでは、エピックに、「[バッジについて](#)」(377ページ)で説明したバッジが表示されることがあります。エピックには  マークが付きます。



**注記** プロダクトの作成後にエピッククラスを追加する場合、エピックを使用する各プロダクトに対して次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウンリスト  でプロダクトを選択します。
- 2 編集ボタン  をクリックします。
- 3 [表示されるマッピングされたクラス] 領域で [エピック] が有効になっていることを確認します。
- 4 [保存] をクリックします。

## タスクについて



タスクを使用すると、ストーリーをさまざまな開発ステップに分割できます。これにより、フィーチャー開発の進行状況に関するより詳細な概要が得られます。タスクには  マークが付きます。

## マッピングされたクラスについて



エピック、フィーチャー、ストーリー、タスクには、複数のクラスを使用できます。これにより、プロダクトタイプごとに異なる属性セットを使用できます。たとえば、自動車にはソフトウェア以外の属性が必要になる場合があります。プロダクトの作成または変更時には、これらのマッピングされたクラスを、プロダクトを作成または変更するダイアログの [表示されるマッピングされたクラス] セクションで見つけることができます。[表示されるマッピングされたクラス] セクションでは、アジャイルタブに表示するクラスを選択できます。管理者がクラスを作成し、「[リスト属性値の管理](#)」(444ページ)で説明されているように設定した場合にのみ、複数のクラスの中から選択できます。

## バッジについて

リストで、エピック、フィーチャー、ストーリーは、以下のバッジを使用して追加情報を提供します。

- ユーザーまたはグループ、例:  JOE
- 優先度、例:  High

さらに、ストーリーには次のバッジがあります。

- 作業量、例:  (書式: 残り作業量/推定作業量)
- ランキング、例: 

## キャパシティについて

リリースまたはスプリントの場合、[キャパシティ]を指定できます。この数値は、リリースまたはスプリントの完了までに必要な時間を指定します。

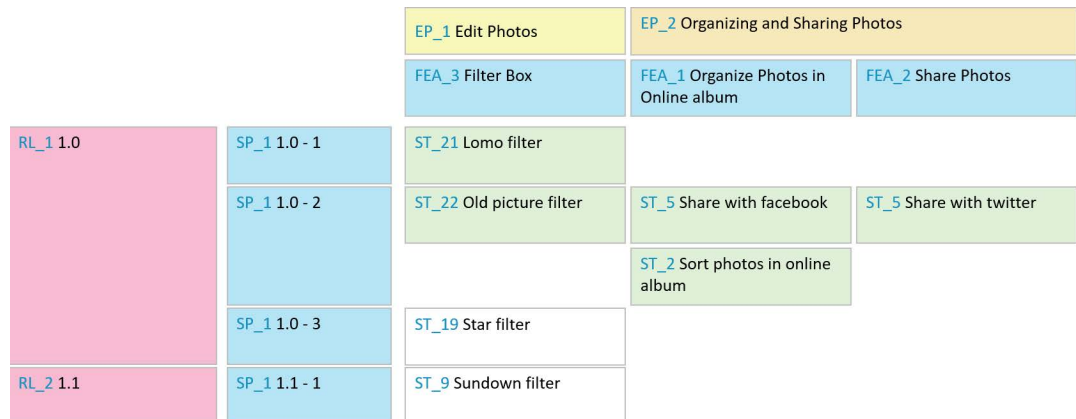
[概要] タブでは、キャパシティが指定されている場合、リリースまたはスプリントごとに進行状況バーが表示されます。

[プロダクトバックログ] タブでは、選択されているリリースの横に進行状況バーが表示されます。進行状況バーは、割り当てられたすべてのフィーチャーによってどれだけのキャパシティが使用されているかを、その推定作業量に基づいて示します。

[スプリント計画] タブでは、選択されているスプリントの横に進行状況バーが表示されます。進行状況バーは、割り当てられたすべてのストーリーによってどれだけのキャパシティが使用されているかを、その推定作業量に基づいて示します。




## ストーリーマップについて

ストーリーマップでは、エピック、フィーチャー、およびストーリーをリリースに割り当てることができます。これは、フィーチャーを複数のフェーズで実装する場合に特に便利です(基本機能をリリース1.0で実装し、拡張機能をリリース1.1で実装する場合など)。次の図は、ストーリーマップの一般的な構成を示しています。



## ツールチップ


プロダクト、リリース、スプリント、エピック、フィーチャー、またはストーリーについての簡単な情報を得るには、アジャイルのツールチップ機能を使用できます。このツールチップによって、関連するクラスのすべての関連情報が表示されます。ツールチップは、以下のアイコンを表示するリストまたはドロップダウンリストで使用できます。

-  プロダクトのツールチップを表示します。
-  リリースのツールチップを表示します。
-  スプリントのツールチップを表示します。

- エピックのツールチップを表示します。
- フィーチャーのツールチップを表示します。
- ストーリーのツールチップを表示します。

ツールチップは、別の項目で参照されている項目（例：ストーリー内で参照されているエピックまたはフィーチャー）に対しても利用できます。

## 表示オプション

[プロダクト] ドロップダウンリストの横に [表示オプション] メニュー  があります。以下の設定が提供されます。

設定	説明
カテゴリでフィルタリング	選択したカテゴリのエピック、フィーチャー、ストーリーのみを表示します。
自分のストーリーだけを表示	現在のユーザーに割り当てられているストーリーのみを表示します。
説明	<p><b>すべて:</b> ストーリー、フィーチャー、エピック、リリースの完全な説明をタイトルの下に表示します。スプリントの完全なスプリント目標をタイトルの下に表示します。</p> <p><b>ストーリー:</b> ストーリーの完全な説明をタイトルの下に表示します。</p> <p><b>非表示:</b> ストーリー、フィーチャー、エピック、スプリント、リリースの説明を非表示にします。</p>
親情報	親の情報（エピックおよびフィーチャー）をカードに表示します。
割り当てられたフィーチャー / ストーリー	<p><b>グレー:</b> リリースに割り当てられたフィーチャーとストーリーをグレーの背景で表示します。</p> <p><b>非表示:</b> リリースに割り当てられたフィーチャーとストーリーを非表示にします。</p>
リリースの進行状況	<p><b>表示:</b> 項目の背景を進行状況バーに変更することにより、進行状況が表示されます。</p> <p><b>非表示:</b> 進行状況は表示されません。</p>
スプリントの進行状況	<p><b>表示:</b> 項目の背景を進行状況バーに変更することにより、進行状況が表示されます。</p> <p><b>非表示:</b> 進行状況は表示されません。</p>
ストーリーの進行状況	<p><b>表示:</b> 項目の背景を進行状況バーに変更することにより、進行状況が表示されます。</p> <p><b>非表示:</b> 進行状況は表示されません。</p>
空のアーティファクトの表示	エピックに割り当てられていないフィーチャーとストーリーを表示します。
リリースバックログの表示	リリースとスプリントに割り当てられていないストーリーをストーリーマップに表示します。
ストーリーの説明の切り詰め	ストーリーの説明を1行に折りたたみ、画像と表を削除します。この設定はストーリーマップでのみ使用されます。

設定	説明
【割り当て先】バッジを表示	ストーリーが割り当てられているユーザーまたはグループのバッジを表示します。
【作業量】バッジを表示	ストーリーの作業量バッジを表示します。
【優先度】バッジを表示	ストーリーの優先度バッジを表示します。
【ランキング】バッジを表示	ストーリーのランキングバッジを表示します。
カード表示	選択したストーリー属性をカードに表示します。

## ダイアログの属性の表示 / 非表示

プロダクト、リリース、スプリント、エピック、フィーチャー、またはストーリーの作成、表示、または編集に使用するダイアログでは、デフォルトのアジャイル属性を表示または非表示にすることができます。属性を表示または非表示にするには、**【フィールドのカスタマイズ】**ドロップダウンリストから属性を選択します。表示される属性にはチェックマークが表示されます。属性名に続くアスタリスクは、その属性が必須であることを示します。

## 追加のストーリー属性のカードへの表示

重要なデータの概要を把握しやすくするため、ストーリーカードに追加の属性を表示することができます。ステージごとにニーズが異なるため、アジャイルタブごとに個別に設定できます。

追加のストーリー属性を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 【カード表示】ドロップダウンを開きます。
- 2 ストーリーカードに表示する属性を選択します。



**注記** エピックとフィーチャーがストーリーカードに表示されている場合は、それらのツールヒントを表示することもできます。ツールヒントの詳細については、「[ツールチップ](#)」(378ページ)を参照してください。

## アジャイルタブ

### 【概要】タブ

【概要】タブでは、関連項目が階層リストで表示されるため、フィルタリングが容易です。【概要】を使用することで、どのスプリントがどのフィーチャーおよびプロダクトに関連するかを簡単に見つけることができます。

【概要】タブは、以下のセクションに分かれています。

- [バーンダウンチャート](#)

- リリースリスト
- スプリントリスト
- ストーリーリスト

## バーンダウンチャート

バーンダウンチャートは、リリースまたはスプリントを選択した場合に表示されます。

**リリースのバーンダウン図**: 関連するスプリントの残り作業量と推定作業量を表示します。

**スプリントのバーンダウン図**: 関連するストーリーの残り作業量と推定作業量を表示します。

どちらの図でも、期限に間に合うかどうかを簡単に認識できます。

バーンダウンチャートは、前の値に基づいて今後の開発を予測します。認識しやすいように、予測値は別の色で表示されます。

グラフの種類は、以下から選択できます。

- 折れ線グラフ
- 面グラフ
- 横棒グラフ
- 縦棒グラフ

## リリースリスト

リリースリストには、選択したプロダクトのすべてのリリースが表示されます。キャパシティが指定されている場合は、リリースごとに進行状況バーが表示されます。リリースを選択すると、バーンダウンチャートとスプリントリストが読み込まれます。

## スプリントリスト

スプリントリストには、選択したリリースのすべてのスプリントが表示されます。キャパシティが指定されている場合は、スプリントごとに進行状況バーが表示されます。スプリントを選択すると、割り当てられたストーリーとバーンダウンチャートが読み込まれます。

## ストーリーリスト

ストーリーリストには、選択したスプリントまたはリリースのすべてのストーリーが表示されます。スプリントが選択されていない場合、[ストーリーのロード] をクリックし、選択したリリースのストーリーを読み込みます。

## [プロダクトバックログ] タブ

[プロダクトバックログ] タブで、以下を実行できます。

- 1つのプロダクトのフィーチャー、ストーリー、またはその他のアーティファクトの定義
- ストーリーのグループ化

- 優先順位付け
- 受け入れ基準の定義
- 1つまたは複数のプロダクトリリースに対する項目のスコープ決定

[**プロダクトバックログ**] タブは、以下のセクションに分かれています。

- **プロダクトバックログ:** どのリリースにも割り当てられていないフィーチャーとストーリーを表示します。
- **リリース:** 選択したリリースに割り当てられたエピック、フィーチャー、ストーリーを表示します。

[表示オプション] メニュー（「[表示オプション](#)」(379ページ) を参照) の [**割り当てられたフィーチャー/ストーリー**] 設定に応じて、[**プロダクトバックログ**] リストにも割り当てられたフィーチャーまたはストーリーが表示されます。

### フィーチャーまたはエピックの割り当てと割り当て解除


リリースにフィーチャーまたはエピックを割り当てるには、[**プロダクトバックログ**] リストから [**リリース**] リストにドラッグアンドドロップします。フィーチャーまたはエピックをリリースに割り当てると、関連ストーリーが選択したリリースに割り当てられ、[**プロダクトストーリーボード**] で利用可能になります。

この方法以外に、次の手順を実行して、フィーチャーまたはエピックをリリースに割り当てることができます。

- 1 割り当てるフィーチャーまたはエピックをダブルクリックします。そのフィーチャーまたはエピックの編集ダイアログが開きます。
- 2 [**リリース**] ボックスで、目的のリリースを選択します。
- 3 [**保存**] をクリックします。

フィーチャーまたはエピックを割り当て解除するには、[**リリース**] リストから [**プロダクトバックログ**] リストにドラッグアンドドロップします。これにより、選択したリリースからストーリーが割り当て解除されます。

この方法以外に、次の手順を実行して、フィーチャーまたはエピックをリリースから割り当て解除することができます。

- 1 割り当て解除するフィーチャーまたはエピックをダブルクリックします。そのフィーチャーまたはエピックの編集ダイアログが開きます。
- 2 [**リリース**] ボックスの横の  をクリックします。
- 3 [**保存**] をクリックします。

### ストーリーの割り当て

ストーリーをリリースに割り当てるには、[**プロダクトバックログ**] リストから、または [**プロダクトバックログ**] リストのフィーチャーから、[**リリース**] リストまたは [**リリース**] リストのフィーチャーにドラッグアンドドロップします。

この方法以外に、次の手順を実行して、ストーリーをリリースに割り当てることができます。

- 1 割り当てるストーリーをダブルクリックします。そのストーリーの編集ダイアログが開きます。
- 2 [**リリース**] ボックスで、目的のリリースを選択します。
- 3 必要に応じて、[**フィーチャー**] ボックスでフィーチャーを選択します。

- 4 [保存] をクリックします。

### ストーリーの割り当て解除

ストーリーをリリースから割り当て解除するには、[リリース] リストから、または [リリース] リストのフィーチャーから、[プロダクトバックログ] リストまたは [プロダクトバックログ] リストのフィーチャーにドラッグアンドドロップします。

この方法以外に、次の手順を実行して、ストーリーをリリースから割り当て解除することができます。

- 1 割り当て解除するストーリーをダブルクリックします。そのストーリーの編集ダイアログが開きます。
- 2 [リリース] ボックスの横の ✖ をクリックします。
- 3 必要に応じて、[フィーチャー] ボックスからフィーチャーを選択するか、[フィーチャー] ボックスの横の ✖ をクリックして、フィーチャーを割り当て解除します。
- 4 [保存] をクリックします。

## [ストーリーマップ] タブ

[ストーリーマップ] タブで、以下を実行できます。

- エピック、フィーチャー、スプリント、リリースの進行状況を表示する
- エピックとフィーチャーに予定されている作業量の合計を表示する
- スプリントとリリースのキャパシティと日付を表示する




**注記** ストーリーマップは、項目の数が少ない場合に最適です。したがって、以下が許可される最大項目数です。

- エピック: 20
- スプリント: 20
- ストーリー: 200

エピック、スプリント、またはストーリーの数が上記の制限を超える場合は、フィルターを使用してそれらの数を制限します ([「フィルター」\(395ページ\)](#) を参照)。他のタブに項目を表示したり、項目を (たとえば、新しいリリースに) 移動したりすることもできます。

## プロダクトバックログ

[プロダクトバックログ] は、ウィンドウの枠線の右側にある  をクリックすると表示されます。[プロダクトバックログ] では、次の機能が利用できます。

- |  |                                    |
|--|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 複数の項目を選択                  | 複数の項目を選択できるチェックボックスの表示/非表示を切り替えます。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> すべての項目を選択/選択解除 | すべての項目を選択します。                      |
| <input type="checkbox"/> 新規項目の作成                   | 新しいストーリーを作成します。                    |

## [プロダクトストーリーボード] タブ

[プロダクトストーリーボード] タブで、以下を実行できます。

- ストーリーの詳細な記述
- 分析ステージを通したストーリーの移動
- 作業量の推定
- レビュー
- スプリント準備の承認

[プロダクトストーリーボード] タブは、以下のセクションに分かれています。

- **作成済み:** リリースに割り当てられているが、スプリントの割り当てが予定されていないか、またはスプリントに割り当てられていないストーリーが含まれます。
- **事前計画中:** スプリントに (将来) 割り当てたいすべてのストーリーを含む、オプションの中間ステップです。
- **スプリント対応:** スプリントに割り当てることができるストーリーが含まれます。

ストーリーの計画ステータスを変更するには、ストーリーを目的の状態にドラッグアンドドロップします。

この方法以外に、次の手順を実行して、計画ステータスを変更することができます。

- 1 計画ステータスを変更するストーリーをダブルクリックします。そのストーリーの編集ダイアログが開きます。
- 2 [計画ステータス] ボックスで、目的の状態を選択します。
- 3 [保存] をクリックします。

## [スプリント計画] タブ

[スプリント計画] タブで、以下を実行できます。


- スプリントに入れるストーリーのスコープ決定
- 優先順位付け
- ストーリーの割り当て

[スプリント計画] タブは、以下のセクションに分かれています。

**リリースバックログ:** スプリントに割り当てられていないストーリーが含まれます。

**スプリント:** 選択したスプリントに割り当てられているストーリーが含まれます。



デフォルトで、[スプリント計画] タブにはすべてのスプリントが表示されます。スプリントに割り当てられているストーリーを表示するには、スプリント名の横にある  をクリックします。

スプリントを1つだけ表示するには、[スプリント] ボックスからスプリントを選択します。もう一度すべてのスプリントを表示する場合は、[すべて表示] をクリックします。

### スプリントキャパシティ

[スプリント] ボックスで1つのスプリントが選択されている場合、その横に [キャパシティ] 進行状況バーがあります。すべてのスプリントが表示されている場合は、スプリントごとに個別にキャパシティ進行状況バーが表示されます。

キャパシティ進行状況バーの詳細については、「[キャパシティについて](#)」(378ページ) を参照してください。

### ストーリーのスプリントへの割り当て


選択したスプリントにストーリーを割り当てるには、[リリースバックログ] リストから [スプリント] リストにドラッグアンドドロップします。すべてのスプリントを表示している場合は、[スプリント] リストの目的のスプリントにドロップします。

この方法以外に、次の手順を実行して、ストーリーをスプリントに割り当てることができます。

- 1 割り当てまたは割り当て解除するストーリーをダブルクリックします。そのストーリーの編集ダイアログが開きます。
- 2 [スプリント] ボックスで、目的のスプリントを選択します。
- 3 [保存] をクリックします。

ストーリーを割り当て解除するには、[スプリント] リストから [リリースバックログ] リストにドラッグアンドドロップします。

この方法以外に、次の手順を実行して、ストーリーをスプリントから割り当て解除することができます。

- 1 割り当て解除するストーリーをダブルクリックします。そのストーリーの編集ダイアログが開きます。
- 2 [スプリント] ボックスの横の  をクリックします。
- 3 [保存] をクリックします。

## [スプリントストーリーボード] タブ

[スプリントストーリーボード] タブで、以下を実行できます。

- ライフサイクルステージを通じたストーリーの移動
- ストーリーの再割り当て
- 要件解析スプリントにも使用可能

[スプリントストーリーボード] タブは、以下のセクションに分かれています。

- **未開始:** 実装がまだ開始していないストーリーが含まれます。
- **開発中:** 現在開発中のストーリーが含まれます。
- **テスト中:** 開発が終了し、現在テスト中のストーリーが含まれます。

- **レビュー中:** 開発が終了し、現在確認中のストーリーが含まれます。
- **承認済み:** レビューフェーズを正常に通過したストーリーが含まれます。

ストーリーのスプリントステータスを変更するには、ストーリーを目的の状態にドラッグアンドドロップします。

この方法以外に、次の手順を実行して、スプリントステータスを変更することができます。

- 1 スプリントステータスを変更するストーリーをダブルクリックします。そのストーリーの編集ダイアログが開きます。
- 2 [スプリントステータス] ボックスで、目的の状態を選択します。
- 3 [保存] をクリックします。

## [タスクボード] タブ

[タスクボード] タブでは、タスクを管理できます。タスクを管理するには、最初にスプリントを選択する必要があります。


### オプション指定なしでのタスクの作成



**注記** この方法を選択してタスクを作成した場合、タスクには次のデータが含まれます。

- 入力したタスク名
- タスクが作成された列で選択されたタスクステータス
- デフォルト値で指定された優先度
- 割り当て先 (可能な場合は、自分のユーザーアカウントを使用)
- 説明は空のまま
- ログは空のまま

タスクを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 ストーリー上にマウスポインターを合わせます。
- 2 目的のスプリントステータスの列の **+** をクリックします。
- 3 タスクの名前を入力します。
- 4  をクリックしてタスクを保存します。

### オプション指定ありでのタスクの作成



**注記** この方法を選択してタスクを作成する場合、タスクの各属性の値を指定できます。

タスクを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 ストーリーを選択します。
- 2 [新規]メニューから[タスク]を選択します。[タスク]ダイアログが開きます。
- 3 [名前]を指定します。
- 4 必要に応じて、他の各属性の値を指定します。
- 5 [保存]をクリックします。

### タスクの編集

タスクを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 目的のタスクをダブルクリックします。
- 2 必要に応じて、属性を変更します。
- 3 [保存]をクリックします。

### タスクステータスの変更


タスクステータスを変更するには、タスクを編集してそこで属性を変更するか(「[タスクの編集](#)」(387ページ)を参照)、またはドラッグアンドドロップを使用してタスクを目的のタスクステータスを示す列に移動します。




**注記** ドラッグアンドドロップを使用してタスクとそのストーリーの他のすべてのタスクを最終的なタスクステータスに移動した場合、関連するストーリーを更新するように求めるプロンプトが表示されます。これらのストーリーを変更する場合は、[推定作業量]、[残り作業量]、および[スプリントステータス]を変更して、[保存]をクリックします。

### タスクの削除

タスクを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 マウスポインターを目的のタスクの中央に移動します。
- 2 マウスポインターをまっすぐ下に移動し、タスクのすぐ下で停止します。
- 3 をクリックします。
- 4 タスクを削除することを確認します。

### タスクマーカーの変更

- 1 マウスポインターを目的のタスクの中央に移動します。
- 2 マウスポインターをまっすぐ下に移動し、タスクのすぐ下で停止します。
- 3 をクリックします。
- 4 定義済みの色の1つを選択するか、[クリア]をクリックしてマーカーを削除します。

## アジャイルの使用

### アジャイルプロダクトの追加

プロダクトを追加または変更する場合、[表示されるマッピングされたクラス] セクションでは、以下の手順を実行できます。

- すべてのアジャイルタブで、プロダクトのリリースを表示または非表示にします。
- すべてのアジャイルタブで、プロダクトのスプリントを表示または非表示にします。
- プロダクトのエピック、フィーチャー、ストーリー、およびタスクに対してすべてのアジャイルタブで表示または非表示にするクラスを選択します。

プロダクトを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 アジャイルの [新規] メニューで、[プロダクト] を選択します。[新規プロダクト] ダイアログが開きます。
- 2 必要に応じて、ダイアログのフィールドを入力します。
- 3 必要に応じて、[表示されるマッピングされたクラス] セクションの設定を変更して、アジャイルタブに表示するクラスを指定します。マッピングされたクラスの詳細については、「[マッピングされたクラスについて](#)」(377ページ)を参照してください。
- 4 表示するビューを指定するため、次のオプションでタブヘッダーの有効/無効および指定が可能です。



- 概要
- プロダクトバックログ
- ストーリーマップ
- プロダクトストーリーボード
- スプリント計画
- スプリントストーリーボード
- タスクボード

デフォルトでは、上記のオプションがすべて選択されています。

- 5 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - **保存:** 新しいプロダクトを保存し、ダイアログを閉じます。
  - **保存して新規作成:** 新しいプロダクトを保存し、新たなプロダクトを作成するための新しい空の [新規プロダクト] ダイアログを開きます。

### アジャイルプロダクトの編集

プロダクトを編集するには、次の手順を実行します。



- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、編集するプロダクトを選択します。
- 2 [プロダクト] ドロップダウンの横の [編集] ボタン  をクリックします。[プロダクト] ダイアログが開きます。
- 3 必要に応じてプロダクトを編集します。

- 4 必要に応じて、**[表示されるマッピングされたクラス]** セクションの設定を変更して、アジャイルタブに表示するクラスを指定します。マッピングされたクラスの詳細については、「**マッピングされたクラスについて**」(377ページ)を参照してください。

- 5 **[保存]** をクリックします。

### プロダクトの削除




プロダクトを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 **[プロダクト]** ドロップダウン  で、削除するプロダクトを選択します。
- 2 **[プロダクト]** ドロップダウンの横の **[編集]** ボタン  をクリックします。**[プロダクト]** ダイアログが開きます。
- 3 **[削除]** をクリックします。
- 4 **[OK]** をクリックして、削除ダイアログを確認します。

### プロダクトの手動割り当て

メニューバー、インポート、またはWebサービスの **[新規]** メニューで **[プロダクト]** を選択してプロダクトを作成した場合、いくつかの割り当てが行われていません。


プロダクトをアジャイルで使用するには、次の手順を実行します。

- 1 たとえばクイック検索でプロダクトを検索することにより、プロダクトが属するカテゴリを識別します (**「クイック検索による要件の検索**」(174ページ)を参照してください)。
- 2 メニューバーの **[アジャイル]** アイコン  をクリックします。**[アジャイル]** ビューが表示されます。
- 3 メニューバーの下のリストから、ステップ1で識別したカテゴリを選択します。
- 4 **[プロダクト]** ドロップダウンリスト  でプロダクトを選択します。
- 5 **編集** ボタン  をクリックします。
- 6 必要に応じて、**[表示されるマッピングされたクラス]** セクションの設定を変更して、アジャイルタブに表示するクラスを指定します。マッピングされたクラスの詳細については、「**マッピングされたクラスについて**」(377ページ)を参照してください。リリースを使用する場合は、**[リリース]** ボックスを選択します。
- 7 表示するタブを選択します。タブを表示するには、関連するボックスを選択します。以下のタブがあります。
  - 概要
  - プロダクトバックログ
  - ストーリーマップ
  - プロダクトストーリーボード
  - スプリント計画
  - スプリントストーリーボード
  - タスクボード
- 8 **[保存]** をクリックします。

## リリースの使用

### リリースの追加


リリースを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、リリースの追加を行うプロダクトを選択します。
- 2 アジャイルの [新規] メニューで、[リリース] を選択します。[新規リリース] ダイアログが開きます。
- 3 必要に応じて、ダイアログのフィールドを入力します。
- 4 [キャパシティ] ボックスで、リリースを完了するまでの最大許容期間（たとえば日数）を指定します。
- 5 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - **保存**: 新しいリリースを保存し、ダイアログを閉じます。
  - **保存して新規作成**: 新しいリリースを保存し、新たなリリースを作成するための新しい空の [新規リリース] ダイアログを開きます。

### リリースの編集

リリースは、複数のタブで利用することができ、これらのタブすべてで編集が可能です。簡素化するため、ここでは [概要] タブの手順のみについて説明します。


リリースを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、リリースの編集を行うプロダクトを選択します。
- 2 [概要] タブを選択します。
- 3 編集するリリースをダブルクリックします。[リリース] ダイアログが開きます。
- 4 必要に応じてリリースを編集します。
- 5 [保存] をクリックします。

### リリースの削除

リリースは、複数のタブで利用することができ、これらのタブすべてで削除が可能です。簡素化するため、ここでは [概要] タブの手順のみについて説明します。


リリースを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、リリースの削除を行うプロダクトを選択します。
- 2 [概要] タブを選択します。
- 3 削除するリリースをダブルクリックします。[リリース] ダイアログが開きます。
- 4 [削除] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックして、削除ダイアログを確認します。

## エピックの使用



### エピックの追加

エピックを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、エピックの追加を行うプロダクトを選択します。
- 2 アジャイルの [新規] メニューで、[エピック] を選択します。[新規エピック] ダイアログが開きます。
- 3 必要に応じて、ダイアログのフィールドを入力します。
- 4 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - **保存:** 新しいエピックを保存し、ダイアログを閉じます。
  - **保存して新規作成:** 新しいエピックを保存し、新たなエピックを作成するための新しい空の [新規エピック] ダイアログを開きます。



### エピックの編集

エピックを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、エピックの編集を行うプロダクトを選択します。
- 2 [プロダクトバックログ] タブを選択します。
- 3 エピックがリリースに割り当てられている場合は、[リリース] ドロップダウン  でリリースを選択します。
- 4 編集するエピックをダブルクリックします。[エピック] ダイアログが開きます。
- 5 必要に応じてエピックを編集します。
- 6 [保存] をクリックします。

### エピックの削除


エピックを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、エピックの削除を行うプロダクトを選択します。
- 2 [プロダクトバックログ] タブを選択します。
- 3 エピックがリリースに割り当てられている場合は、[リリース] ドロップダウン  でリリースを選択します。
- 4 削除するエピックをダブルクリックします。[エピック] ダイアログが開きます。
- 5 [削除] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックして、削除ダイアログを確認します。

## フィーチャーの使用

### フィーチャーの追加


フィーチャーを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、フィーチャーの追加を行うプロダクトを選択します。

- 2 アジャイルの [新規] メニューで、[フィーチャー] を選択します。[新規フィーチャー] ダイアログが開きます。
- 3 必要に応じて、ダイアログのフィールドを入力します。
- 4 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - **保存:** 新しいフィーチャーを保存し、ダイアログを閉じます。
  - **保存して新規作成:** 新しいフィーチャーを保存し、新たなフィーチャーを作成するための新しい空の [新規フィーチャー] ダイアログを開きます。


### フィーチャーの編集

フィーチャーを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、フィーチャーの編集を行うプロダクトを選択します。
- 2 [プロダクトバックログ] タブを選択します。
- 3 編集するフィーチャーをダブルクリックします。[フィーチャー] ダイアログが開きます。
- 4 必要に応じてフィーチャーを編集します。
- 5 [保存] をクリックします。

### フィーチャーの削除


フィーチャーを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、フィーチャーの削除を行うプロダクトを選択します。
- 2 [プロダクトバックログ] タブを選択します。
- 3 削除するフィーチャーをダブルクリックします。[フィーチャー] ダイアログが開きます。
- 4 [削除] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックして、削除ダイアログを確認します。

## ストーリーの使用

### ストーリーの追加

ストーリーを追加するには、次の手順を実行します。


- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、ストーリーの追加を行うプロダクトを選択します。
- 2 アジャイルの [新規] メニューで、[ストーリー] を選択します。[新規ストーリー] ダイアログが開きます。
- 3 必要に応じて、ダイアログのフィールドを入力します。
- 4 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - **保存:** 新しいストーリーを保存し、ダイアログを閉じます。
  - **保存して新規作成:** 新しいストーリーを保存し、新たなストーリーを作成するための新しい空の [新規ストーリー] ダイアログを開きます。



## ストーリーの編集

ストーリーは、複数のタブで利用することができ、これらのタブすべてで編集が可能です。簡素化するため、ここでは [概要] タブの手順のみについて説明します。


ストーリーを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、ストーリーの編集を行うプロダクトを選択します。
- 2 [概要] タブを選択します。
- 3 リリースとスプリントを選択します。
- 4 編集するストーリーをダブルクリックします。[ストーリー] ダイアログが開きます。
- 5 必要に応じて、ストーリーを編集します。
- 6 [保存] をクリックします。

## ストーリーの削除

ストーリーは、複数のタブで利用することができ、これらのタブすべてで削除が可能です。簡素化するため、ここでは [概要] タブの手順のみについて説明します。


ストーリーを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、ストーリーの削除を行うプロダクトを選択します。
- 2 [概要] タブを選択します。
- 3 リリースとスプリントを選択します。
- 4 削除するストーリーをダブルクリックします。[ストーリー] ダイアログが開きます。
- 5 [削除] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックして、削除ダイアログを確認します。

## スプリントの使用

### スプリントの追加


スプリントを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、スプリントの追加を行うプロダクトを選択します。
- 2 アジャイルの [新規] メニューで、[スプリント] を選択します。[新規スプリント] ダイアログが開きます。
- 3 必要に応じて、ダイアログのフィールドを入力します。
- 4 [キャパシティ] ボックスで、スプリントを完了するまでの最大許容期間 (たとえば日数) を指定します。
- 5 次のいずれかのボタンをクリックします。
  - **保存:** 新しいスプリントを保存し、ダイアログを閉じます。
  - **保存して新規作成:** 新しいスプリントを保存し、新たなスプリントを作成するための新しい空の [新規スプリント] ダイアログを開きます。

## スプリントの編集

スプリントは、[概要] タブ、[スプリント計画] タブ、[スプリントストーリーボード] タブで利用することができます。これらのタブすべてでスプリントの編集が可能です。簡素化するため、ここでは [概要] タブの手順のみについて説明します。


スプリントを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、スプリントの編集を行うプロダクトを選択します。
- 2 [概要] タブを選択します。
- 3 リリースを選択します。
- 4 編集するスプリントをダブルクリックします。[スプリント] ダイアログが開きます。
- 5 必要に応じて、ストーリーを編集します。
- 6 [保存] をクリックします。

## スプリントの削除

スプリントは、複数のタブで利用することができ、これらのタブすべてで削除が可能です。簡素化するため、ここでは [概要] タブの手順のみについて説明します。

スプリントを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロダクト] ドロップダウン  で、スプリントの削除を行うプロダクトを選択します。
- 2 [概要] タブを選択します。
- 3 リリースを選択します。
- 4 削除するスプリントをダブルクリックします。[スプリント] ダイアログが開きます。
- 5 [削除] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックして、削除ダイアログを確認します。

## アジャイルでのチームの使用

アジャイルでチームを使用すると、リリースまたはスプリントをチームに割り当てることができます。リリースまたはスプリントが割り当てられたチームは、それぞれに割り当てられたリリースまたはスプリントをフィルタリングできます。チームを使用するには、この機能が有効になっている必要があります。チームの詳細については、「チームの管理」(409ページ) を参照してください。

チームをサポートしているすべてのアジャイルのクラス (リリース、スプリント、ストーリー) で、チームの割り当てはオプションです。ワークフローの例を以下に示します。

- 1 1つまたは複数のチームをリリースに割り当てます。
- 2 1つまたは複数のチームを、リリースに割り当てられたスプリントに割り当てます。  
リリースにチームが割り当てられていない: すべてのチームから選択できます。  
リリースにチームが割り当てられている: リリースに割り当てられたチームから選択できます。

## 項目のリンク履歴の表示







エピック、フィーチャー、リリース、およびスプリントについては、リンク履歴を表示できます。リンク履歴を開くには、次の手順を実行します。


- 1 確認する履歴エントリにリンクされている項目（例：ストーリー）を開きます。
- 2 リンク履歴を表示するドロップダウンボックスの横にあるアイコンをクリックします。
  - エピックまたはフィーチャーは、エピックとフィーチャーの両方のリンク履歴を示します。
  - リリースまたはスプリントは、リリースとスプリントの両方のリンク履歴を示します。
- 3 エントリのリンクにマウスポインターを合わせて、リンクされている項目の追加情報を含むツールチップを表示します。

## フィルター

アジャイルタブには、フィルタリング用のオプションがいくつかあります。すべてのタブですべてのオプションを使用できるわけではないことに注意してください。

ストーリーマップをフィルタリングするには、次のドロップダウンから1つまたは複数の値を選択します。

- オプション  リスト：
  - **カテゴリでフィルタリング:** 選択したカテゴリのエピック、フィーチャー、ストーリーのみを表示します。
  - **自分のストーリーだけを表示:** 現在のユーザーに割り当てられているストーリーのみを表示します。
- 項目  リスト: 次のオプションに従ってストーリーをフィルタリングします。
  - **優先度:** フィルタリングする優先度を選択します。
  - **割り当て先:** フィルタリングする所有者を選択します。[自分] をクリックすると、フィルターが自分のユーザーアカウントに設定されます。🔍 をクリックすると、[ユーザーの検索と選択] ダイアログが開き、ユーザーを検索できます。詳細については、「[リスト値の検索と選択](#)」(49 ページ) を参照してください。
  - **色:** フィルタリングする1つまたは複数の色を選択します。
  - **エピック:** 関連するストーリーを表示する1つまたは複数のエピックを選択します。
  - **フィーチャー:** 関連するストーリーを表示する1つまたは複数のフィーチャーを選択します。
- [項目のフィルタリング...] 入力ボックス: ボックスに入力されたテキストについて、表示されているすべての項目をフィルタリングします。
- プロダクト  リスト: 関連する項目を表示するプロダクトを選択します。
- リリース  リスト: 関連する項目を表示する1つまたは複数のリリースを選択します。
- スプリント  リスト: 関連する項目を表示する1つまたは複数のスプリントを選択します。
- フィーチャー  リスト: 関連する項目を表示する1つまたは複数のフィーチャーを選択します。



- 列 : 列フィルターを選択して、列とそのストーリーのみを表示します。このフィルターは、[プロダクトストーリーボード] タブでのみ使用できます。

## 並べ替え

次のプロパティの項目を並べ替えることができます。

- 割り当て先
- 名前
- 優先度
- ランキング

[並べ替え] ボックスの横にあるアイコンをクリックして、並べ替えの順序を切り替えることができます。

-  エントリを昇順に並べ替え
-  エントリを降順に並べ替え

# 第11章

---

## 管理

管理について	398
ユーザー管理	398
グループの管理	402
チームの管理	409
カテゴリの管理	411
ドキュメントのロックの管理	420
要件のロックの管理	420
通知の管理	421
属性定義	423
リスト属性値の管理	444
カテゴリリスト属性値	447
算出属性の設定	448
Webフォームの定義	452
RMスキーマの概要	457
ワークフローの編集	479
管理ツール	492
SSO証明書の更新	494
ログファイルへのアクセス	496
スキーマに関する命名規則	497

## 管理について

Dimensions RMは、インスタンスを制御するために割り当てられた管理者と、環境を制御するために割り当てられた管理者の2種類の管理者をサポートします。

### 管理者 (インスタンス管理者)

各インスタンス内で定義されたグループ。このグループのメンバーはインスタンス管理者と呼ばれ、そのグループのメンバーとして、割り当てられたインスタンスの境界内ですべての管理者機能を実行できます。例:

- ユーザーおよびグループを作成する (ただし、担当するインスタンスの外部では、ユーザーまたはグループの設定を把握できません)
- インスタンススキーマ、属性設定を変更する
- カテゴリを定義または変更する
- インスタンス設定のデフォルトを設定する

インスタンス管理者グループには、RM Browser管理メニューからアクセスできるアクション、および [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルの下にある管理者のレンチ (スパナー) アイコンからアクセスできるアクションに対する権限が割り当てられます。

### システム管理者

システム管理者グループのメンバーは、データベースとその環境で動作する機能を担当します。システム管理者グループのメンバーシップは、RM Manageを通じて許可する必要があります。

このグループが実行する機能は次のとおりです。


- [管理ツール] からアクセスする機能とレポート (TM Browserの [管理] メニューからアクセス)。
- RM Manageでの、データベースインスタンスの作成、変更、削除、およびデプロイメント。
- RM Manageでの、ログインソースとライセンスの設定。
- RM Solution環境からのサポートを必要とする統合およびソリューション拡張の一般設定。

通常、システム管理者は、組織のメンバー用の新しいインスタンスを作成し、設定するために使用される基本インスタンスを管理します。インスタンスが作成された後は、インスタンス管理者がスキーマのすべての側面を管理します。

## ユーザー管理

ユーザーの追加、編集、削除は、[管理] メニューの下にある [ユーザー/グループの管理] の [ユーザー] タブで実行します。このメニューには、[ホーム] ビューの [カテゴリ割り当ての管理] からアクセスできます。

[ユーザー/グループの管理] > [ユーザー] ダイアログには、ユーザーのリストが含まれます。ユーザーを選択すると、そのユーザーのログインとグループ割り当てに関連する詳細が表示されます。

表示されるユーザーを制限するには、 の横にあるドロップダウンをクリックします。[ステータス] (アクティブ、無効) の下のボックスをチェックするか、[ログインソース] (内部、LDAP、SSOなど) で表示を制限します。

ユーザー管理では、次の機能が利用できます。

- ユーザー情報のエクスポート: [ユーザー情報のエクスポート](#)
- 新規ユーザーの作成: [ユーザーの新規作成](#)
- ユーザーをグループに割り当て: [グループへのユーザーの割り当て](#)を参照してください。
- ユーザーをグループから割り当て解除: [グループからのユーザーの割り当て解除](#)を参照してください。
- 既存のユーザーと同じグループとカテゴリのメンバーシップを用いてユーザーを新規作成: [既存ユーザーのコピー](#)を参照してください。
- ユーザー情報の編集: [ユーザーの編集](#)を参照してください。
- ユーザーログインの変更: [ユーザーのログインの変更](#)
- ユーザーの削除: [ユーザーの削除](#)を参照してください。

## ユーザー情報のエクスポート

表示されたユーザー情報をエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューの[ユーザー/グループの管理]で、[ユーザー]を強調表示します。
- 2 エクスポートされるユーザーデータを制限するには、▼の横にあるドロップダウンをクリックします。
- 3 ユーザーのリストの下にある[エクスポート]をクリックすると、表示されているユーザーのリストのすべてのユーザーデータが.csvにエクスポートされます。

## ユーザーの新規作成

ユーザーを新規作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューの[ユーザー/グループの管理]で、[ユーザー]を強調表示します。
- 2 ユーザーリストの下にある[新規]を選択します。[新規ユーザー名]ダイアログが開きます。
- 3 指定されたボックスに、新しいユーザーの名前 (ID) を入力します。
- 4 [OK]を選択すると、ユーザーが作成され、[新規ユーザー名]ダイアログが閉じます。
- 5 ユーザー詳細セクションで、次の手順を実行します。
  - a [パスワード]ボックスにパスワードを入力します。
  - b [パスワードの確認]ボックスに同じパスワードを入力します。
  - c 必要に応じて、その他のボックスに入力します。
  - d 以下のパスワードオプションのいずれか1つ以上を選択します。
    - ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する必要がある
    - ユーザーはパスワードを変更できない
    - パスワードの有効期限なし

- アカウントは無効



**注記** いずれのパスワードオプションも選択しなかった場合、ユーザーは60日ごとにパスワードを変更する必要があります。使用中のパスワードの有効期限が切れる14日前になると、パスワードの変更を促す警告が表示されます。この警告は、ユーザーがDimensions RMツールを使用してログインするたびに表示されます。

e ログインにLDAPまたはSSOを使用する場合は、[ログインソース]を選択します。

6 [保存]をクリックします。

7 新規ユーザーをグループに割り当てるには、「グループへのユーザーの割り当て」(403ページ)を参照してください。

## 既存ユーザーのコピー

既存ユーザーをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューの[ユーザー/グループの管理]で、[ユーザー]を強調表示します。
- 2 ユーザーリストから、コピーするユーザーを選択します。
- 3 [コピー]をクリックします。[新規ユーザー名]ダイアログが開きます。
- 4 指定されたボックスに、新しいユーザーのユーザー名を入力します。
- 5 [OK]をクリックします。コピー元のユーザーのすべてのデータを持つユーザーが作成され、[新規ユーザー名]ダイアログが閉じます。
- 6 ユーザー詳細セクションで、次の手順を実行します。
  - a [パスワード]ボックスにパスワードを入力します。
  - b [パスワードの確認]ボックスに同じパスワードを入力します。
  - c 必要に応じて、その他のボックスを入力します。
  - d 以下のパスワードオプションのいずれか1つ以上を選択します。
    - ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する必要がある
    - ユーザーはパスワードを変更できない
    - パスワードの有効期限なし
    - アカウントは無効



**注記** いずれのパスワードオプションも選択しなかった場合、ユーザーは60日ごとにパスワードを変更する必要があります。使用中のパスワードの有効期限が切れる14日前になると、パスワードの変更を促す警告が表示されます。警告は、ユーザーがDimensions RMにログインするたびに表示されます。



**注記** ユーザーをコピーすると、権限、ユーザーが割り当てられているグループ、およびインスタンスの割り当てがコピーされます。

## ユーザーの編集

ユーザーを編集するには、次の手順を実行します。



- 1 [管理]メニューの[ユーザー/グループの管理]で、[ユーザー]を強調表示します。
- 2 ユーザーリストのユーザーを選択します。
- 3 ユーザー詳細セクションで、以下を実行します。
  - a パスワードを変更するには、[パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[パスワードの確認] ボックスに同じパスワードを入力します。
  - b その他のボックスの内容を編集します。
  - c 以下のパスワードオプションのいずれか1つ以上を選択します。
    - ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する必要がある
    - ユーザーはパスワードを変更できない
    - パスワードの有効期限なし
    - アカウントは無効



**注記** いずれのパスワードオプションも選択しなかった場合、ユーザーは60日ごとにパスワードを変更する必要があります。使用中のパスワードの有効期限が切れる14日前になると、パスワードの変更を促す警告が表示されます。この警告は、ユーザーがDimensions RMツールを使用してログインするたびに表示されます。

- 4 [保存]をクリックします。

## ユーザーのログインの変更

ユーザーのログインを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューの[ユーザー/グループの管理]で、[ユーザー]を強調表示します。
- 2 ユーザーリストのユーザーを選択します。
- 3 [ユーザーID] ボックスに新しいログイン名を入力します。
- 4 [保存]をクリックします。

## ユーザーの削除



**注記** 削除したユーザーはデータベースから除去されます。これは、ユーザーが誤って作成され、変更が加えられていない場合にのみ実行するようにしてください。

ユーザーの履歴を維持しながら、ユーザーのアクセス権を取り消すには、ユーザーの詳細ページの[アカウントは無効]ボックスをチェックにして、ユーザーアカウントを編集するのが一般的です(ユーザーの編集を参照)。一部の組織では、ユーザー名にテキスト(XXなど)を追加して、ユーザーにアクセス権がなくなったことがわかるようにしています。

ユーザーを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューの[ユーザー/グループの管理]で、[ユーザー]を強調表示します。
- 2 ユーザーリストから、削除するユーザーを選択します。
- 3 [削除]をクリックします。[ユーザーの削除の確認]ダイアログが開きます。

- 4 [OK] をクリックして、ユーザーを削除します。

## グループの管理

Dimensions RMでは、ユーザーが定義され、グループに割り当てられます。グループ内のメンバーシップによって、それぞれの役割と利用可能なアクション (権限) が決まります。カテゴリ割り当てもグループを使用して行われます。

グループに関連するすべての機能にアクセスするには、[管理] メニュー > [ユーザー / グループの管理] の [グループ] タブを選択します。

ユーザーをグループに割り当てるには、[グループへのユーザーの割り当て](#)を参照してください。

また、割り当てを解除するには、[グループからのユーザーの割り当て解除](#)を参照してください。

新しいグループを作成するには、[グループの新規作成](#)を参照してください。

グループ情報を編集するには、[グループの編集](#)を参照してください。


既存のグループに基づいて、グループメンバーを含め、新しいグループを作成するには、[グループのコピー](#)を参照してください。

グループを削除するには、[グループの削除](#)を参照してください。

グループ権限の詳細については、「[デフォルトのグループ権限の設定](#)」(405ページ) を参照してください。


## グループの新規作成

新しいグループを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューの [ユーザー / グループの管理] で、[グループ] を強調表示します。
- 2 [グループ] ドロップダウンの横の  をクリックします。[グループの作成] ダイアログが開きます。
- 3 [名前] ボックスにグループ名を入力します。
- 4 必要に応じて、グループの目的を [説明] ボックスに指定します。
- 5 [OK] をクリックして、グループを作成します。グループはグループボックスで自動的に選択され、グループの割り当てで利用可能になります。ユーザーの割り当ての詳細については、「[グループへのユーザーの割り当て](#)」(403ページ) を参照してください。

## グループの編集


既存のグループを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューの [ユーザー / グループの管理] で、[グループ] を強調表示します。
- 2 [グループ] ボックスで、編集するグループを選択します。
- 3 [グループ] ボックスの横の  をクリックします。[グループの編集] ダイアログが開きます。
- 4 必要に応じて、グループ名または説明を変更します。

5 [OK] をクリックして変更をコミットします。


## グループのコピー

既存のグループをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューの [ユーザー / グループの管理] で、[グループ] を強調表示します。
- 2 [グループ] ボックスで、コピーするグループを選択します。
- 3 [グループ] ボックスの横の  をクリックします。[グループのコピー] ダイアログが開きます。
- 4 [名前] ボックスで、新しいグループ名を指定します。
- 5 必要に応じて、[説明] ボックスのテキストを編集します。
- 6 [OK] をクリックして、グループをコピーします。グループはグループボックスで自動的に選択され、ユーザーをグループに割り当てることができます。ユーザーの割り当ての詳細については、「[グループへのユーザーの割り当て](#)」(403 ページ) を参照してください。

## グループの削除

グループを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューの [ユーザー / グループの管理] で、[グループ] を強調表示します。
- 2 [グループ] ドロップダウンで、削除するグループを選択します。
- 3 [グループ] ボックスの横の  をクリックします。[グループの除去] ダイアログが開きます。
- 4 [OK] をクリックして、グループを削除します。



**注意!** 削除したグループを復元することはできません。

## グループへのユーザーの割り当て

グループへのユーザーの割り当ては、[管理] メニュー > [ユーザー / グループの管理] > [グループ] タブで行います。

カテゴリへのアクセス権限はグループを使用して割り当てることができます。

ユーザーをグループに追加する際に、カテゴリ割り当てを自動的または選択的に行うことができます。多くの組織ではアクセス権限が厳しく制限されているため、デフォルトでは、ユーザーアクセス権限をカテゴリに**選択的**に割り当てます。次のように、[グループ] タブの上部に選択肢が表示されます。

- Automatically assign user(s) to group categorie:  
 Assign user(s) to categories selectively

カテゴリ割り当てが行われていない場合、ユーザーがログインしたときに次のメッセージが表示されます。この問題を修正するには、「[カテゴリ割り当ての管理](#)」(416 ページ) の手順に従ってください。

This transaction is not permitted for this resource and user.

✕


OK

ユーザーをグループに割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューの [ユーザー / グループの管理] で、[グループ] を強調表示します。
- 2 [グループ] ドロップダウンで、ユーザーを割り当てるグループを選択します。現在の Dimensions RM インスタンスで使用されているグループには、チェックマークが付きます。
- 3 カテゴリ割り当て方法を選択します。
  - **ユーザーをグループカテゴリに自動的に割り当て:** グループがアクセスできるすべてのカテゴリにユーザーを追加し、アクセスを許可します。
  - **ユーザーを選択的にカテゴリに割り当て:** グループがアクセスできるすべてのカテゴリにユーザーを追加しますが、アクセスは拒否します。アクセスは、個別に許可する必要があります。
- 4 目的のグループに追加するユーザーの名前を強調表示します。




**注記** [グループ割り当て] ダイアログには、現在の Dimensions RM インスタンスに属するグループのみが表示されます。

- 5 矢印  をクリックして、選択した名前を左側 ([未割り当て] 列) から右側 (割り当て済み) に移動します。
- 6 [保存] をクリックします。
- 7 [ユーザーを選択的にカテゴリに割り当て] を選択した場合は、左側の列の [カテゴリ割り当て] を選択し、「[カテゴリ割り当ての管理](#)」(416 ページ) の手順に従います。

## グループからのユーザーの割り当て解除

ユーザーをグループから割り当て解除するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューの [ユーザー / グループの管理] で、[グループ] を強調表示します。
- 2 [グループ] ドロップダウンから、目的のグループを選択します。
- 3 右側のリスト (割り当て済み) から、割り当てを解除するユーザーを選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 [保存] をクリックします。

## デフォルトのグループ権限の設定



**注記** 一般的な優れた実践として、Open Textでは、Dimensions RMのグループまたはユーザー（管理者を含む）に次のアクションの権限を付与しないことをお勧めします。除去、更新、および最新以外を更新。

特別な（おそらく緊急の）状況では、これらのアクションの権限が管理者に割り当てられるかもしれませんが、更新の場合は、ワークフローの初期段階で要件の作成者に権限が割り当てられることも考えられます。しかし、当然のように利用可能にしておくことは推奨されません。

これらのアクションは、誤った一括インポートで作成されたレコードを削除する場合などに、役に立つことがあります。

**除去:** 要件のリビジョンを、削除対象としてマークし要件履歴の一部として変更を維持するのではなく、データベースから完全に除去します。

**更新:** 要件の変更履歴を維持することなく、その場で要件を変更します。このアクションは、要件の作成フェーズでは便利ですが、プロセス全体を通じて使用すると、履歴が残らず、変更の報告やトレンドの追跡を行えなくなります。

**最新以外を更新:** 最新ではない項目の変更を可能にし、実質的に履歴を変更できるようにします。このアクションは、緊急の場合にのみ使用することをお勧めします。管理者が、必要に応じてアクションを有効にし、使用した後で無効にします。

利用可能なアクションの詳細については、「[有効なトランザクション](#)」(406ページ)を参照してください。


利用可能なアクションと関連する権限の詳細については、「[有効なトランザクション](#)」(406ページ)を参照してください。

グループの一般的な権限を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューの[ユーザー/グループの管理]で、[権限]を強調表示します。
- 2 グループの表示を簡潔にするために、次の手順を実行して、変更するグループのみを表示することができます。
  - a グループのドロップダウンを選択します。
  - b [すべて選択解除]を選択します。これにより、すべてのグループが一時的に非表示になります。
  - c 変更するグループを選択します。
- 3 アクションは、機能別に分かれて表示されます。たとえば、**クラス**（要件タイプ）、**ドキュメント**、**レポート**、**コレクション**または**カテゴリ**に関連するアクションの権限は、[>]をクリックすると展開できます。展開後に、各グループの権限を変更できます。
- 4 オプションボックスを選択して、権限を割り当てる  か、権限の割り当てを解除  します。利用可能なアクションと関連する権限の詳細については、「[有効なトランザクション](#)」(406ページ)を参照してください。
- 5 [保存]をクリックします。

すべての権限の付与または取り消し

すべての権限を付与または除去するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューの[ユーザー/グループの管理]で、[権限]を強調表示します。
- 2 グループ名のすぐ下にあるオプションボックスを直接選択して、すべてのグループアクセス権限  を付与するか、すべてのグループアクセス権限  を取り消します。  
一部のアクセス権限には付与が推奨されていないものがあるので、セクションを展開してアクセス権限を確認してください。推奨されていないものには  のマークが表示されます。  
利用可能なアクションと関連する権限の詳細については、「[有効なトランザクション](#)」(406ページ)を参照してください。
- 3 [保存]をクリックします。

### 有効なトランザクション

以下は、有効なトランザクション/アクションのリストです。

トランザクション	定義
<b>属性トランザクション</b>	
更新	ユーザーは属性値を変更できます。
<b>ボードトランザクション</b>	
作成 (公開)	ユーザーは公開ボードと公開ダッシュボードを作成できます。
<b>カテゴリトランザクション</b>	
カテゴリ割り当て	ユーザーは、この権限を持つグループまたはユーザーが割り当てられているカテゴリのグループおよびユーザーに対して、カテゴリへのアクセスを許可または取り消すことができます。
リスト値の定義	ユーザーは、この権限を持つグループまたはユーザーが割り当てられているカテゴリのリストエントリを追加または削除できます。
フルアクセス	ユーザーの場合、内部でのみ使用します。グループの場合、グループ内のユーザーは、個々のカテゴリに対する権限を持つグループに属していない場合でも、スクリプトやトレーサビリティレポートを他のカテゴリに移動またはコピーしたり、カテゴリ間で要件を移動したりするための、インスタンスレベルの権限があります。グループに個々のカテゴリに対する権限を割り当てる方法については、「 <a href="#">カテゴリ割り当ての管理</a> 」(416ページ)を参照してください。 <b>注:</b> カテゴリの追加、削除、名前の変更、または移動を行うには、ユーザーは管理者のグループに属している必要があります。フルアクセストランザクションは、これらのアクションを実行する権限には影響しません。
サブカテゴリの管理	ユーザーは、この権限を持つグループまたはユーザーが割り当てられているカテゴリの下で、カテゴリの作成、名前の変更、アクティブ化、非アクティブ化、移動 (ドラッグアンドドロップによる)を行うことができます。
<b>クラストランザクション</b>	
CMロック	ユーザーは、構成管理の目的でクラスオブジェクトをロックできます。
作成	ユーザーは、新しいクラスオブジェクトを作成できます。
CRの作成	ユーザーは、クラスオブジェクトの新しい変更要求を作成できます。
削除	ユーザーは、クラスオブジェクトを削除済みとしてマークできます。

トランザクション	定義
遷移の実行	ユーザーは、任意のクラスの任意の遷移を実行できます。
所有者の場合に遷移を実行	ユーザーは、要件を所有している場合、任意の遷移を実行できます。
提出者の場合に遷移を実行	ユーザーは、要件を提出した場合、任意の遷移を実行できます。
CRの実行	ユーザーは、変更要求を承認または拒否できます。
展開	ユーザーは、クラスオブジェクトを展開できます。
集束	ユーザーは、クラスオブジェクトを集束できます。
リンク	ユーザーは、クラスオブジェクトへの一般リンクを作成できます。
提供先	ユーザーは、要件を分岐できます。
閲覧	ユーザーは、クラスオブジェクトを読み取ることができます。
除去	ユーザーは、クラスオブジェクトを除去できます。
保存	ユーザーは、クラスオブジェクトを保存できます。
所有者の場合に保存	ユーザーは、自分が所有するクラスオブジェクトを保存できます。
同期先	ユーザーは、分岐した要件をマージできます。
削除の取り消し	ユーザーは、クラスオブジェクトの削除を取り消すことができます。
ロック解除	ユーザーは、クラスオブジェクトのロックを解除することができます。
更新	ユーザーは、ステータスが「最新」のオブジェクトを更新できます。
所有者の場合に更新	ユーザーは、自分が所有するステータスが「最新」のオブジェクトを更新できます。
CRの更新	ユーザーは、ステータスが「提案済み」のオブジェクトを更新できます。
最新以外を更新	ユーザーは、ステータスが「最新」ではないオブジェクトを更新できます。
<b>コレクショントランザクション</b>	
Dimensions CM プロジェクトに関連付け	ユーザーは、コレクションをDimensions CMプロジェクトに関連付けることができます。
作成	ユーザーは、新しいコレクションを作成できます。
既存のコレクションに 基づいて作成	ユーザーは、既存のコレクションに基づいてコレクションを作成できます。
ベースラインの作成	ユーザーは、コレクションからベースラインを作成できます。
削除	ユーザーは、コレクションを削除できます。
リンク	ユーザーは、コレクションに要件を追加したり、コレクションから要件を除去したりできます。
要件をDimensions CM プロジェクトにリンク	ユーザーは、Dimensions CMプロジェクトに関連付けられたコレクションに要件を追加できます。
除去	ユーザーは、コレクションを除去できます。
ベースラインの除去	ユーザーは、ベースラインを除去できます。
ベースライン名の変更	ユーザーは、ベースライン名を変更できます。
削除の取り消し	ユーザーは、コレクションの削除を取り消すことができます。

トランザクション	定義
更新	ユーザーは、エイリアスを作成/編集し、コレクションの親/子リンクを変更できます。
<b>ドキュメントトランザクション</b>	
作成	ユーザーは、新しいドキュメントを作成できます。
既存のドキュメントに基づいて作成	ユーザーは、既存のドキュメントをテンプレートとして使用する新しいドキュメントを作成できます。
スナップショットの作成	ユーザーは、スナップショットを作成できます。
削除	ユーザーは、ドキュメントを削除できます。
スナップショットの削除	ユーザーは、スナップショットを削除できます。
スナップショットのフルアクセス	ユーザーは、要件が存在するカテゴリにアクセスできない場合でも、要件とチャプターを読み、コメントを追加することができます。ユーザーは、スナップショットが存在するカテゴリにアクセスできない場合、スナップショットにアクセスできません。
リンク	ユーザーは、ドキュメントにチャプターと要件を追加して、サブチャプターを編集できます。
親ドキュメントの管理	ユーザーは、親ドキュメントを作成および管理できます。
除去	ユーザーは、ドキュメントを除去できます。
スナップショットの除去	ユーザーは、スナップショットを除去できます。
スナップショット名の変更	ユーザーは、スナップショット名を変更できます。
削除の取り消し	ユーザーは、ドキュメントの削除を取り消すことができます。
ロック解除	ユーザーは、ドキュメントのロックを解除することができます。
更新	ユーザーは、ドキュメントのルートチャプターを編集できます。
プロパティの更新	ユーザーは、ドキュメントのプロパティを変更できます。
<b>トランザクションのインポート/エクスポート</b>	
インポート	ユーザーは、ドキュメントと要件をインポートできます。
エクスポート	ユーザーは、要件オブジェクトをエクスポートできます。ドキュメントまたはレポートをエクスポートするには、ユーザーはそのドキュメントまたはレポートに含まれるすべてのオブジェクトをエクスポートする権限を持っている必要があります。
<b>関係トランザクション</b>	
要検討リンクをクリア	ユーザーは、1つの要件の要検討リンクを一度にクリアできます。
作成	ユーザーは、関係の新しいリンクを作成できます。
削除	ユーザーは、関係のリンクを削除できます。
要検討リンクを一括クリア	ユーザーは、1つまたは複数の要件の要検討リンクを一度に削除できます。
変更	ユーザーは、関係の属性値を変更できます。
要検討リンクの提案	ユーザーは、リンクされた要件を要検討にできます。
閲覧	ユーザーは、関係リンクを表示できます。
除去	ユーザーは、関係リンクを除去できます。



トランザクション	定義
削除の取り消し	ユーザーは、関係リンクの削除を取り消すことができます。
<b>レポートトランザクション</b>	
作成	ユーザーは、新しいレポートを作成できます。 <b>注:</b> 作成権限がない場合、新しいレポートを作成することはできませんが、作成したレポートを保存することはできません。
作成 (公開)	ユーザーは、新しい公開レポートを作成できます。
閲覧	ユーザーは、レポートを表示して実行できます。
除去	ユーザーは、レポートを除去できます。
名前の変更	ユーザーは、レポート名を変更できます。
更新	ユーザーは、レポートを変更できます。
<b>ユーザートランザクション</b>	
チームの管理	ユーザーは、アジャイルチームを作成、編集、削除できます。
ユーザーグループ割り当て	ユーザーは、ユーザーをグループに割り当てることができます。

## チームの管理

Dimensions RMのチームは、実際の組織に合わせてユーザーを編成できる便利な方法です。ユーザー属性がチームモードに設定されている場合は、グループまたは個別のユーザーの代わりにチームを割り当てることができます。チームには、異なるグループ（管理者グループと役員グループなど）のユーザーを含めることができます。他の属性と同様に、属性が特定のチームと一致する（または一致しない）要件を検索できます。ただし、次のシナリオでは、チームが役に立ちます。

- **アジャイル:** チームはリリースとスプリントに割り当てることができます。
- **ワークフロー:** ユーザー属性は要件の所有者を定義するために使用できるため、チームモードでは、チームのすべてのメンバーがその要件の所有者になり、どのチームメンバーでも要件を処理できます。

### 開始する前に

チームを使用するには、前もって以下を行う必要があります。

- 1 チームの機能を有効にします。詳細については、「[チーム](#)」(84ページ)を参照してください。
- 2 目的のクラスで、「チーム」の選択モードを含むユーザー属性が利用可能であることを確認します。詳細については、「[ユーザー属性](#)」(441ページ)を参照してください。

[[ユーザー / グループの管理](#)] > [[チーム](#)] ダイアログでは、チームのリストにアクセスできます。チームを選択すると、そのチームのメンバーが表示されます。このダイアログからチームの作成と管理が可能です。

チームを作成するには、[チームの新規作成](#)を参照してください。

既存のチームを編集するには、[チームの編集](#)を参照してください。

既存のチームに基づいて、チームメンバーを含め、新しいチームを作成するには、[既存チームのコピー](#)を参照してください。

チームを削除するには、[チームの削除](#)を参照してください。

ユーザーをチームに割り当てるには、[ユーザーのチームへの割り当て](#)を参照してください。

また、割り当てを解除するには、[ユーザーのチームからの割り当て解除](#)を参照してください。

## チームの新規作成

新しいチームを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[ユーザーの管理]を選択します。[ユーザー管理]ダイアログが開きます。
- 2 左側の列で、[チーム]を選択します。
- 3 [新規]をクリックします。[新規チーム]ダイアログが開きます。
- 4 指定されたボックスに、新しいチームの名前を入力します。
- 5 [OK]をクリックします。チームが作成され、[新規チーム]ダイアログが閉じます。

## チームの編集

チームの名前を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[ユーザーの管理]を選択します。[ユーザー管理]ダイアログが開きます。
- 2 左側の列で、[チーム]を選択します。
- 3 [チーム]ボックスから名前を変更するチームを選択します。
- 4 [編集]をクリックします。[チームの編集]ダイアログが開きます。
- 5 指定されたボックスに、チームの新しい名前を入力します。
- 6 [OK]をクリックします。チームの名前が変更され、[チームの編集]ダイアログが閉じます。

## 既存チームのコピー

チームをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[ユーザーの管理]を選択します。[ユーザー管理]ダイアログが開きます。
- 2 左側の列で、[チーム]を選択します。
- 3 [チーム]ボックスから、コピーするチームを選択します。
- 4 [コピー]をクリックします。[チームのコピー]ダイアログが開きます。
- 5 指定されたボックスに、新しいチームの名前を入力します。
- 6 [OK]をクリックします。元のチームと同じユーザーでチームが作成され、[チームのコピー]ダイアログが閉じます。


## チームの削除

チームを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[ユーザーの管理]を選択します。
- 2 左側の列で、[チーム]を選択します。
- 3 削除するチームを選択します。
- 4 [削除]をクリックします。[チームの削除]ダイアログが開きます。
- 5 [OK]をクリックします。  
チームが削除され、[チームの削除]ダイアログが閉じます。


## ユーザーのチームへの割り当て

ユーザーをチームに割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[ユーザーの管理]を選択します。[ユーザー管理]ダイアログが開きます。
- 2 左側の列で、[チーム]を選択します。
- 3 [チーム]ボックスから、ユーザーを割り当てるチームを選択します。
- 4 [未割り当て]リストで、割り当てを行うユーザー(複数可)を選択します。
- 5  をクリックします。
- 6 [保存]をクリックします。

## ユーザーのチームからの割り当て解除

ユーザーをチームから割り当て解除するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[ユーザーの管理]を選択します。[ユーザー管理]ダイアログが開きます。
- 2 左側の列で、[チーム]を選択します。
- 3 [チーム]ボックスから、ユーザーの割り当てを解除するチームを選択します。
- 4 [割り当て済み]リストで、割り当て解除を行うユーザー(複数可)を選択します。
- 5  をクリックします。
- 6 [保存]をクリックします。

## カテゴリの管理

以下の各セクションでは、ユーザーインターフェイスからカテゴリを管理する方法について説明します。通常、カテゴリの管理は管理者が実行します。

## カテゴリについて

カテゴリは、各Dimensions RMインスタンス内の階層構造で表され、サブカテゴリもサポートされます。カテゴリは、ファイルシステム上のフォルダーのような使い慣れた外観と操作性で、プロジェクトまたはコンポーネントに関連付けられたオブジェクト（要件、レポート、テストケースなど）を保持します。カテゴリをお気に入りにすることで、カテゴリ構造内を簡単に移動できます。

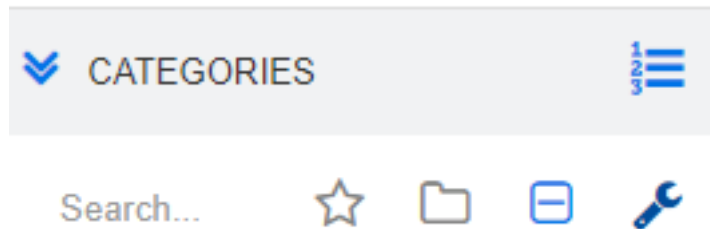
レポートを含むすべてのRMオブジェクトはカテゴリ内で管理でき、ファイルシステム上のフォルダーのように、オブジェクトを1つのカテゴリにのみ含めることができます。カテゴリ階層の各ノードは、ユーザーグループに対して異なる権限設定を持つことができます。階層内のすべてのノードが同じスキーマを共有します。

最上位のカテゴリは、Dimensions RMインスタンスの名前です。カテゴリ構造は、ホームページの左端のペインに表示されます。現在のカテゴリパス（ファイルシステム上のフォルダーと同様）は、ブラウザーのメニューのすぐ下に表示されます。[要件] タブおよび関連するすべてのダイアログからのパスは、選択または変更するために展開できます。






特定のアクション（作成、編集、コピー、閲覧など）に対する権限は、グループに割り当てられます。たとえば、閲覧の権限はすべてのグループに割り当て、編集の権限はアナリストグループのメンバーに限定することが可能になります。

カテゴリへのアクセスは、グループによって管理されます。ビジネス要件を含むカテゴリの作成、編集、コピーのアクセス権限をアナリストに付与し、機能要件を含むカテゴリについては、閲覧だけを許可するといったことが可能です。

カテゴリは、[ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルのレンチ（スパナ）アイコンを使用して管理されます。



レンチを選択すると、利用可能な機能を示すアイコンが表示されます。

	カテゴリ/ レンチアイコン	アクション
	プラス	新規カテゴリを追加します (414 ページ)。
	編集	カテゴリの編集には、既存のカテゴリ名の変更、説明の変更が含まれます (414 ページ)。 カラーまたは白黒で好みのアイコンを追加します (414 ページ)。
	非アクティブ化/ アクティブ化	このアイコンを選択して、カテゴリを非アクティブ化またはアクティブ化します (415 ページ)。
	削除	カテゴリを完全に除去します (413 ページ)。
	カテゴリ割り当て の管理	このアイコンでは、カテゴリ割り当てを含む、ユーザーとグループの管理の完全なリストにアクセスできます (416 ページ)。

## カテゴリの命名規則

**使用可能な文字:** 以下を除くすべての文字およびUnicode文字

- バックスラッシュ (\)
- スラッシュ (/)

**最大文字数:** 最大64文字

**フルパスの最大文字数:** 最大1024文字

フルパスには、ルートカテゴリから作成するカテゴリまでのすべてのカテゴリ名が含まれます。カテゴリレベルごとにバックスラッシュが追加されます (例: RMDEMO\Data)。


## カテゴリの追加

カテゴリを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナー) アイコンを選択します。カテゴリの管理を終了するには、レンチアイコンをもう一度選択する必要があることに注意してください。
- 2 [カテゴリ] ツリーで、新しいカテゴリの親を強調表示します。作成した新しいカテゴリの位置は、ドラッグアンドドロップで変更できます。
- 3 追加アイコンを選択します。+
- 4 [カテゴリ名] フィールドに、新しいカテゴリの名前を入力します。使用できる文字数は、最大で64文字です。
- 5 [説明] フィールドに、カテゴリの説明を入力します (省略可)。この説明は、[カテゴリ] ツリーのカテゴリにマウスポインターを合わせたときに、ツールチップとして表示されます。
- 6 「親カテゴリからアクセス権限を継承する」のが一般的ですので、このボックスはチェックしたままにしておくことができます。ユーザーまたはグループのアクセス権限の変更については、[管理] の [ユーザー/グループの管理] を確認してください。
- 7 [追加] ボタンをクリックします。

## カテゴリの削除

カテゴリを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナー) アイコンを選択します。カテゴリの管理を終了するには、レンチアイコンをもう一度選択する必要があることに注意してください。
- 2 削除するカテゴリを強調表示します。
- 3 [削除] アイコン  をクリックします。
- 4 削除の確認を求めるメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。



**注記** ルートカテゴリは削除できません。

サブカテゴリのあるカテゴリを削除する場合は、最初にサブカテゴリを削除します。サブカテゴリにオブジェクトが含まれている場合、そのサブカテゴリを削除することはできません。

## カテゴリ名の変更

カテゴリの名前または説明を変更するには、次の手順を実行します。

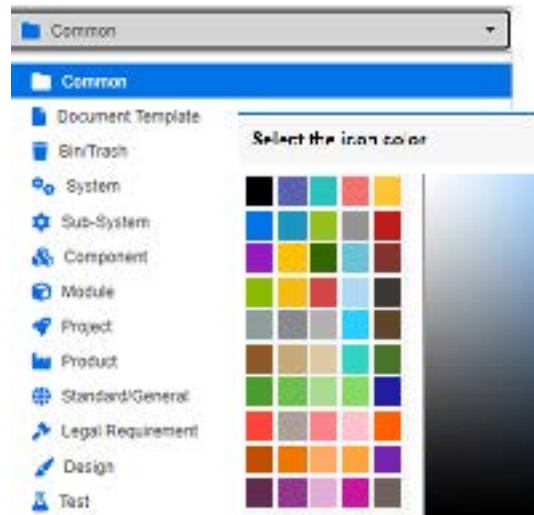
- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナー) アイコンを選択します。  
カテゴリの管理を終了するには、レンチアイコンをもう一度選択する必要があることに注意してください。
- 2 名前を変更するカテゴリを強調表示します。
- 3 [編集] アイコンを選択します。
- 4 [カテゴリ名] フィールドに、新しい名前を入力します。
- 5 [説明] フィールドで、カテゴリの説明を入力するか、変更します (省略可)。  
この説明は、[カテゴリ] ツリーのカテゴリにマウスポインターを合わせたときに、ツールチップとして表示されます。
- 6 [名前の変更] ボタンをクリックします。

## カテゴリアイコンの追加

記号と色を使用して、カテゴリを別のカテゴリと区別します。カテゴリアイコンを使用すると、カテゴリフォルダーを見つけやすくして、チームがシステムとサブシステム、プロジェクトとプロダクト、テストケースのセットとデザイン仕様を区別できるようになります。

カラーまたは白黒のアイコンを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナー) アイコンを選択します。カテゴリの管理を終了するには、レンチアイコンをもう一度選択する必要があることに注意してください。
- 2 アイコンを追加するカテゴリを強調表示します。
- 3 [編集] アイコンを選択します。
- 4 [共通] または現在割り当てられているアイコンを、ドロップダウンで選択したアイコンと置き換えます。
- 5 ペイントブラシを選択して色を変更します。



## カテゴリのアクティブ化または非アクティブ化

カテゴリを非アクティブに設定すると、カテゴリの内容が「読み取り専用」に設定されます。デフォルト設定を使用すると、カテゴリ自身が選択項目として表示されなくなります。ユーザー設定を変更して、非アクティブ化されたカテゴリを表示することが可能です。詳細については、「[カテゴリ：非アクティブなカテゴリを表示する](#)」(83ページ)を参照してください。

非アクティブ化されたカテゴリは、カテゴリ名がグレーの斜体で表示されます。

カテゴリをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナ) アイコンを選択します。  
カテゴリの管理を終了するには、レンチアイコンをもう一度選択する必要があることに注意してください。
- 2 アクティブ化する非アクティブなカテゴリを選択します。
- 3 [カテゴリのアクティブ化/非アクティブ化] をクリックします。[カテゴリのアクティブ化] ダイアログが開きます。
- 4 [はい] をクリックして、[カテゴリのアクティブ化] ダイアログを確認します。

カテゴリを非アクティブ化するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナ) アイコンを選択します。  
カテゴリの管理を終了するには、レンチアイコンをもう一度選択する必要があることに注意してください。
- 2 非アクティブ化するアクティブなカテゴリを選択します。
- 3 [カテゴリのアクティブ化/非アクティブ化] をクリックします。[カテゴリの非アクティブ化] ダイアログが開きます。
- 4 [はい] をクリックして、[カテゴリの非アクティブ化] ダイアログを確認します。

## カテゴリの移動

カテゴリを移動するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナー) アイコンを選択します。  
カテゴリの管理を終了するには、レンチアイコンをもう一度選択する必要があることに注意してください。
- 2 カテゴリをツリー内の目的の場所までドラッグアンドドロップします。

## カテゴリ割り当ての管理

アクセス権限は、カテゴリへのグループの割り当ておよびグループに割り当てられた権限を制御します。

[ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナー) アイコンを選択し、グループアイコン、[カテゴリ割り当て] の順にクリックします。このダイアログでは、次の機能を利用できます。

**すべて表示:** すべてのグループとグループ内のユーザーのアクセス権限を表示します。

**次のユーザーのアクセスを表示:** 検索アイコンを使用して単一のユーザーを選択し、このユーザーのグループとカテゴリへのアクセス権限をすべて表示します。

**カテゴリのフィルタリング:** テキスト文字列を入力して、[カテゴリ] ツリーをフィルタリングします。

**グループ/ユーザーのフィルタリング:** 選択内容に基づいて、カテゴリアクセスツリーをフィルタリングします。

**親カテゴリからアクセス権限を継承する:** 有効になっている場合、カテゴリの権限は親カテゴリの権限と同じになります。無効になっている場合、親カテゴリとは独立してアクセス権限を設定できます。

**ユーザーアクセスのコピー:** ダイアログの下部に表示されます。このタブでは、ダイアログが開き、すべてのカテゴリへのアクセス権を選択したユーザーから別のユーザーにコピーできます。

**すべての割り当てを除去:** 選択したユーザーのすべてのカテゴリへのアクセス権が削除されます。チームから離脱するユーザーがいる場合に便利な設定です。ユーザーの履歴は維持されますが、アクセス権は除去されます。

**エクスポート:** 選択したカテゴリのグループ割り当てをエクスポートします。詳細については、「[カテゴリのユーザーグループ割り当てのエクスポート](#)」(418ページ)を参照してください。

## カテゴリのアクセス権限の変更

カテゴリのアクセス権限を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナー) アイコンを選択し、グループアイコンを選択します。
- 2 [カテゴリ割り当て] を選択します。
- 3 [すべて表示] オプションが選択されていることを確認します。
- 4 アクセス権限を変更するカテゴリを選択します。
- 5 [親カテゴリからアクセス権限を継承する] ボックスがクリアされていることを確認します。
- 6 アクセスを許可するグループを選択するか、アクセスを除去するグループの選択を解除 (チェックを外す) します。



グループのアクセスが許可されているカテゴリに対して、そのグループに属する個別のユーザーのアクセスを禁止することもできます。ただし、これは推奨されません。Joelにアクセス権があり、Maryにアクセス権がない原因を特定しようとしたときに、例外が混乱を招く原因になる可能性があります。少数のユーザーであっても、例外が必要な場合は、新しいグループを作成することをお勧めします。

7 必要に応じて、他のカテゴリのアクセス権限を変更します。

8 **[OK]** をクリックします。

### アクセス権限の別のユーザーアカウントへのコピー

ユーザーアカウントを新規に作成すると、そのユーザーは割り当てられたグループがアクセス可能なすべてのカテゴリにアクセスできます。アクセス権限を制限（または既存のユーザーにアクセス権限を許可）する必要がある場合は、既存のユーザーからアクセス権限をコピーできます。



**ヒント** 異なる複数のアクセス権限設定がある場合は、テンプレート用のユーザーアカウントを作成することができます。このアカウントにはテンプレート用であることがわかる名前を付け、(セキュリティ上の理由から) 無効にしておくことをお勧めします。ユーザーアカウントの作成の詳細については、「[ユーザー情報のエクスポート](#)」(399 ページ) を参照してください。

アクセス権限を別のユーザーアカウントにコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナー) アイコンを選択し、グループアイコンを選択します。
- 2 [カテゴリ割り当て] を選択します。
- 3 [次のユーザーのアクセスを表示] オプションを選択します。
- 4 ドロップダウンリストからユーザーを選択するか、**Q** をクリックして [ユーザーの検索と選択] ダイアログを開いてユーザーを見つけます ([「リスト値の検索と選択」](#) (49 ページ) を参照)。
- 5 [ユーザーアクセスのコピー ...] をクリックして、[カテゴリグループ割り当てのコピー先] ダイアログを開きます。このダイアログには、選択したユーザーと同じグループに含まれるユーザーのみが表示されます。
- 6 1つまたは複数のユーザーを選択します。
- 7 **[OK]** をクリックして、[カテゴリグループ割り当てのコピー先] ダイアログを閉じます。
- 8 **[OK]** をクリックして [カテゴリ割り当て] ダイアログを閉じます。

### ユーザーアカウントのアクセス権限の削除

ユーザーアカウントのアクセス権限をすべて削除すると、そのユーザーは引き続きRM Browserにはログオンできますが、オブジェクト (要件など) の表示や編集は一切できなくなります。

ユーザーアカウントのアクセス権限を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナー) アイコンを選択し、グループアイコンを選択します。
- 2 [カテゴリ割り当て] を選択します。
- 3 [次のユーザーのアクセスを表示] オプションを選択します。
- 4 ドロップダウンリストからユーザーを選択するか、**Q** をクリックして [ユーザーの検索と選択] ダイアログを開いてユーザーを見つけます ([「リスト値の検索と選択」](#) (49 ページ) を参照)。

- 5 [すべての割り当てを除去...] をクリックします。
- 6 ダイアログで確認を行い、カテゴリ/グループのすべての割り当てを削除します。
- 7 [OK] をクリックして [カテゴリ割り当て] ダイアログを閉じます。

### カテゴリのユーザーグループ割り当てのエクスポート

このエクスポートでは、すべてのカテゴリ/ユーザー割り当てと、ユーザーにそのカテゴリへのアクセスが許可される原因となるグループを含めたExcelファイルが作成されます。大量の変更を簡略化するために、このファイルを編集してから、インポートすることができます。

- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナ) アイコンを選択し、グループアイコンを選択します。
- 2 [カテゴリ割り当て] を選択します。
- 3 目的のカテゴリを選択します。
- 4 [エクスポート...] をクリックします。[選択したグループのユーザーグループ割り当てのエクスポート] ダイアログが開きます。
- 5 カテゴリ/ユーザーグループ割り当てをエクスポートしないグループの選択を解除します。
- 6 サブカテゴリのカテゴリ/ユーザーグループ割り当てをエクスポートしない場合は、[サブカテゴリを含める] オプションをクリアします。
- 7 [OK] をクリックします。

### カテゴリのユーザーグループ割り当てのインポート

大量の役割の変更を簡単に適用するために、エクスポートしたExcelまたはCSVファイルを編集して、インポートすることができます。

- 1 [ホーム] ビューの [カテゴリ] パネルでレンチ (スパナ) アイコンを選択し、グループアイコンを選択します。
- 2 [カテゴリ割り当て] を選択します。
- 3 目的のカテゴリを選択します。
- 4 [インポート...] をクリックします。[ユーザー割り当てのインポート] ダイアログが開きます。
- 5 [グループ] ドロップダウンで、カテゴリ/ユーザーグループ割り当てをインポートしたくないグループの選択を解除します。
- 6 [OK] をクリックします。

### カテゴリの内容のコピー

カテゴリの内容は、[ホーム] ビューの [アクション] ペインにある [カテゴリの内容のコピー] アクションを使用して、カテゴリ間でコピーできます。

この機能は、既存のカテゴリまたはカテゴリツリーのすべての機能をコピーする必要がある組織の場合に便利です。例：

**各プロジェクトでの厳密な階層の命名:** カテゴリ名、デフォルトクラス、グループ割り当て、権限の厳密な階層を使用する組織。このユースケースに対処するために、テンプレート/開始要件を含む基本構造を作成し、新しいプロジェクトのベースとして使用することができます。

**厳密なカテゴリ構造:** プロジェクトのサブコンポーネントを分岐させ、アクセス権限、リストやユーザーフィールドのデフォルト値を含むカテゴリ値など、特定のカテゴリ設定を持つ顧客。このユースケースでは、構造全体またはサブ構造をコピーできます。

実装するには、次の手順を実行します。

- 1 ターゲットカテゴリを作成します (「カテゴリの追加」(413ページ) を参照)。
- 2 ソースカテゴリ/サブカテゴリを強調表示します。
- 3 [アクション] ペインの [カテゴリ] セクションの下にある [カテゴリの内容のコピー] アクションを選択します。
- 4 ターゲットカテゴリを選択し、[OK] をクリックします。



#### 注記

- 提案はコピーされません。要件は、ステータスが "最新" の場合のみコピーされます。
- 既存の要件は履歴なしでコピーされ、コピーされたすべての要件と同様に新しい要件識別子が割り当てられます。
- コピーしたドキュメントの名前には、サフィックス "(copy\_#)" が付加されます。"# " はコピー番号です。

## カテゴリ間での要件の移動

要件は、一度に1つのカテゴリにしか属することができません。[カテゴリ別に整理] を使用すると、要件を検索し、あるカテゴリから別のカテゴリに一括で移動できます。

カテゴリ間で要件を移動するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [カテゴリ別に整理] を選択します。[カテゴリ別に整理] ダイアログが開きます。
- 2 **クラスの検索:** 要件を検索するクラスを選択します。ダイアログの起動時にオブジェクトが選択されていた場合、このフィールドは設定済みです。必要に応じて変更してください。
- 3 **フィルター:** クイック検索でフィルターを保存している場合は、これらのフィルターを使用して移動する要件を検索できます。
- 4 **カテゴリの管理:** 移動を行う前に、カテゴリの作成、名前の変更、削除を行う場合は、このリンクをクリックします。[カテゴリの管理] ダイアログが開きます。「[ユーザー管理](#)」(398ページ) を参照してください。
- 5 **これらのオプションを記憶する:** 今後ダイアログを開く際に現在の設定をデフォルトとして維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
- 6 **制約:** 必要に応じて、目的の要件を見つけるための条件を指定します。「[フィルタリングと検索のメカニズム](#)」(50ページ) および「[\[関係制約\] タブ](#)」(57ページ) を参照してください。

- 7 **表示オプション:** 必要に応じて、結果の表示方法を指定します。「[\[表示オプション\] タブ](#)」(59 ページ) を参照してください。
- 8 **検索の実行:** このボタンをクリックすると、検索が実行されます。結果はダイアログの下側のペインに表示されます。
- 9 **新規検索:** このボタンをクリックすると、現在の検索条件と結果がクリアされます。
- 10 **検索結果から目的の要件を選択します。** 要件の複数選択については、「[複数の要件の選択](#)」(39 ページ) を参照してください。
- 11 **カテゴリ:** 選択した要件の移動先のカテゴリを選択します。
- 12 **[移動]** ボタンをクリックします。

## ドキュメントのロックの管理

ユーザーは、ドキュメントの**ロック解除**権限を持っているか、ドキュメントを自分でロックした場合、ドキュメントのロックを解除できます。

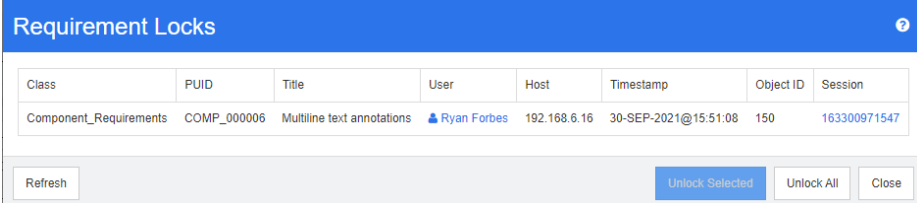
ドキュメントのロックを解除するには、次の手順を実行します。

- 1 **[管理]** メニューから **[ドキュメントロック]** を選択します。**[ドキュメントロック]** ダイアログが開きます。
- 2 **すべてのロックを解除:** このボタンをクリックすると、ロックされたすべてのドキュメントがロック解除されます。
- 3 **選択項目のロックを解除:** このボタンをクリックすると、選択したドキュメントのみがロック解除されます。Ctrlキーを押しながら複数のドキュメントを選択します。
- 4 **更新:** このボタンをクリックすると、ロックされたドキュメントの表示が更新されます。

## 要件のロックの管理

要件のロックを解除するには、次の手順を実行します。

- 1 **[管理]** メニューから **[要件ロック]** を選択します。
- 2 ロックされた要件がある場合は、ダイアログにリストが表示されます。



Class	PUID	Title	User	Host	Timestamp	Object ID	Session
Component_Requirements	COMP_000006	Multiline text annotations	Ryan Forbes	192.168.6.16	30-SEP-2021@15:51:08	150	163300971547

- 3 **すべてのロックを解除:** このボタンをクリックすると、ロックされたすべての要件がロック解除されます。

- 4 **選択項目のロックを解除:** このボタンをクリックすると、選択した要件のみがロック解除されます。Ctrlキーを押しながら複数の要件を選択します。
- 5 **更新:** このボタンをクリックすると、ロックされた要件の表示が更新されます。

## 通知の管理

ダッシュボードは、レポートを利用して重要業績評価指標 (KPI) を1つの画面に表示し、ステータスと目標に関する情報を組織に提供します。ユーザーは、ダッシュボードで特定のカテゴリまたは個々のオブジェクトをドリルダウンして、詳細を確認できます。**通知**は、個々のオブジェクトの変更を報告するために使用されます。

通知は、所有権、クラス、状態、または関心に基づいて実行できます。たとえば、プロダクトマネージャーの場合、リリースに割り当てられたビジネス要件のテキスト変更の通知を要求できます。要件セットの作成を担当するアナリストは、要件のいずれかが変更された場合に通知を受けるように選択できます。QAリーダーはテストケースの変更の通知を要求できます。

通知は、[通知ルール] ダイアログを使用して、インスタンス管理者によって作成および管理されます。「[通知ルール](#)」(421ページ)を参照してください。

ユーザーは通知のオプトインまたはオプトアウトを選択できます(「[ユーザー通知](#)」(69ページ)を参照してください)。

**設定:** 通知サービスの初期設定は、システム管理者が行う必要があります。詳細については、『Administrator's Guide』の「Configuring E-Mail Notification」を参照してください。

## 通知ルール

通知ルールには、次の2つの種類があります。

**公開通知ルール**は、指定されたグループのメンバーがアクセスできるようにインスタンス管理者によって作成されます。公開通知を定義および/または更新するには、**[管理]**メニューから**[通知の管理]**を選択します。

**プライベート通知ルール**は、Dimensions RMの任意のユーザーが作成できます。プライベート通知を定義または更新するには、**[ユーザー]**メニューから**[通知]**を選択します。

[新規]をクリックして、[新しい通知ルール]ダイアログにアクセスします。

注: 既存の通知を変更するには、通知を強調表示して**[編集]**ボタンをクリックします。

[通知ルール]ダイアログには、次の4つのタブがあります。

**一般:** 通知の**名前**を入力し、ドロップダウンリストから関連する**[クラス]**を選択します。公開通知の場合、管理者はルールにアクセスできる**ユーザーグループ**を選択する必要があります。

**制約:** レポートタイプを選択し、必要に応じて、監視する要件を識別する属性を選択します。

**トリガー:** 変更を監視する属性を選択します。一般的にユーザーは、すべての要件の変更ではなく、自分の作業に関連する属性の変更についてのみ通知を受けることを望んでいます。

**表示オプション:** 表示オプションは、通知の件名とテキストで構成されます。「[通知の表示オプション](#)」(423ページ)を参照してください。

### 制約とトリガー

以下では、基本的な制約タイプと、要件の変更をどのように監視するかを示すトリガーの例を説明します。

**[自分が作成したオブジェクトが変更された場合]** は、この通知ルールを有効にしたユーザーが作成した項目、要件、またはチャプターの変更について報告します。この制約を選択した場合、それ以上の制約は必要ありませんが、**[トリガー]** タブに監視対象の1つ以上の属性を含める必要があります。

たとえば、**[トリガー]** タブで選択した属性にタイトルと要件のステートメント(説明)が含まれている場合、どちらかが変更された場合にのみ、元の作成者に通知が送信されます。

**[属性に値がある場合]** では、**[制約]** タブで、監視対象の要件を識別するための1つ以上の属性と値を選択する必要があります。**[トリガー]** タブには、値がリストされます。これらの値が変更されると、通知がトリガーされます。

たとえば、特定のリリースパッケージに割り当てられた優先度の高い要件について、要件のステートメント(説明)の変更を報告する場合に使用します。その場合、管理者は以下の内容を選択します。

#### **[制約] タブ:**

小さな青いプラス記号をクリックして **[優先度]** を選択し、**[高]** の値を割り当てます。

小さな青いプラス記号をクリックして **[リリース]** 属性を選択し、関連するコンテンツを割り当てます。

#### **[トリガー] タブ:**

**[監視対象属性]** ボタンをクリックし、**[Requirement Statement]** を強調表示して右に移動します。

**[コメントが追加され、属性に値がある場合]** では、上記のように属性を選択し、合わせて、要件にコメントが追加された場合にのみ通知の送信を制限するための値を指定する必要があります。この選択には、トリガーは必要ありません。

**[ワークフローに基づく]** では、通知が発生するワークフロー状態の値と、通知を開始するトリガーをユーザーが特定する必要があります。たとえば、承認済みオブジェクトについて、要件のステートメント(説明)の変更を報告する場合に使用します。

#### **[一般] タブ:**

名前: 「承認された機能変更」

クラス: **機能**

ユーザーグループ <任意>

#### **[制約] タブ:**

**[ワークフローに基づく]** を選択

リストから選択された **[ワークフロー状態]** が **[承認済み]**

#### **[トリガー] タブ:**

監視対象属性のリストから、タイトルと説明を選択します。つまり、どちらかが変更されると、通知が送信されます。

## 通知の表示オプション

表示オプションは、メッセージの件名とテキストで構成されます。図 11-1、「表示オプション: 通知メッセージ」(423 ページ) を参照してください。

件名には通常、クラスと要件IDが含まれます。新しいルールには毎回、例が入力されています。

テキストボックスで、まずボックスの内側をクリックし、関連する通知テキストを入力します。[属性] ドロップダウンには、選択したクラスで使用できる属性がリストされます。このリストから属性を選択すると、テキストに表示名とコンテンツの両方が含まれます。

以下に例を示します。

表示オプション:

件名行に、「顧客要件 <#Rqmt ID#> 変更の通知」という例が表示されます。要件クラスだけ (例: 顧客から機能へ) を変更することも、追加のテキストを追加することもできます。

通知テキストを作成するには、テキストボックス内をクリックします。[属性] ドロップダウンリストのデータなど、自由形式のメッセージテキストを入力します。メッセージが完成したら、[保存] (変更する場合は [更新]) ボタンをクリックして、ルールをテストします。

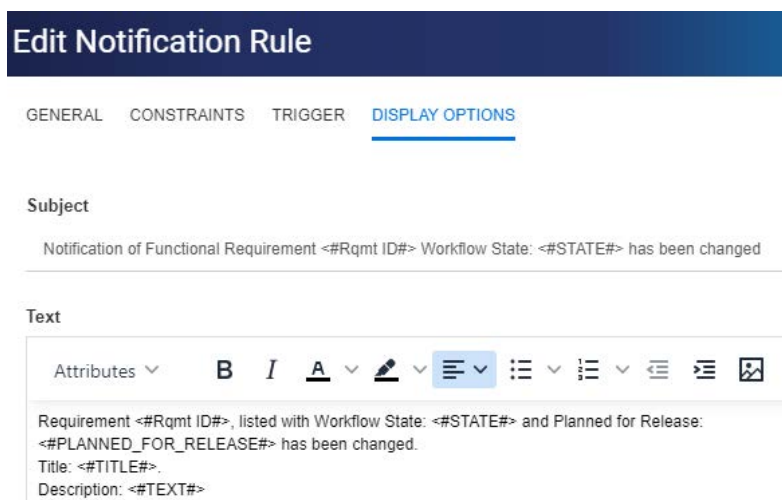


図 11-1. 表示オプション: 通知メッセージ

## 属性定義

属性は、RMクラスを使用して定義されるさまざまなオブジェクトタイプに関連付けられた各特性を管理するために使用されるプロパティです。ユーザー (カスタム) 属性とは、クラス (タイトル、説明など) でデフォルトで定義されているか、インスタンス管理者によって定義されているかに関係なく、内容がユーザーによって維持されている属性を指します。システム (暗黙の) 属性は、システムによって定義および維持され、「誰が、いつ、何をしたのか」などを管理します。

次のセクションでは、属性の定義、属性タイプ、および属性プロパティについて説明します。

#### クラスへの属性の追加:

- 1 [管理] メニューから [属性設定] を選択します。
- 2 左側のペインで [属性定義] タブを選択します。

属性設定またはスキーマ定義のいずれかが別のユーザーによって編集されている場合、[ロックの解除] ダイアログボックスが表示され、現在ロックを保持しているユーザーを特定できません。詳細については、「[インスタンススキーマのオープンとロックの解除](#) (461 ページ) を参照してください。

- 3 [クラス] ボックスから、新しい属性を追加するクラスを選択します。
- 4 [新規] をクリックし、リストから目的の属性タイプを選択します。

属性タイプの詳細については、「[属性タイプ](#)」(424 ページ) を参照してください。

属性プロパティの詳細については、「[属性プロパティ](#)」(425 ページ) を参照してください。









#### 属性に関する追加情報:

不要になった属性の非表示 - 「[属性の非表示](#)」(426 ページ)



未使用の属性の削除 - 「[属性の削除](#)」(427 ページ)

## 属性タイプ

以下の各セクションでは、利用可能な各属性タイプについて説明し、関連する定義の詳細への参照を提供します。

	属性タイプ	説明	ページ
	英数字	最大1000文字の単一行のテキスト。	<a href="#">427</a>
	日付	日付。その形式(長さ、デフォルト、最小値、最大値を含む)は、管理者が定義できます。	<a href="#">428</a>
	ファイル添付	ダウンロードまたはレポートに利用可能な1つまたは複数のファイルを保持できます。	<a href="#">429</a>
	グループ	リスト属性と似ていますが、一連のサブ属性で構成されます。ユーザーに提供される選択肢は、グループ属性内の上位レベルの属性(親属性)での選択内容に依存します。	<a href="#">430</a>
	リスト	ユーザー選択用に設定された値のリスト。リスト属性は、チェックボックスまたはラジオボタンとして表示するように設定できます。	<a href="#">436</a>
	ルックアップ	ルックアップ属性では、あるオブジェクトと別のオブジェクトを関連付け、その値にアクセスするために属性を使用できます。	<a href="#">437</a>
	数値	数値のみを使用できます。	<a href="#">439</a>
	テキスト	最大64KBの大きさのテキストのブロック。	<a href="#">440</a>



	属性タイプ	説明	ページ
	URL	1つまたは複数のURLの入力をサポートします。	441
	ユーザー	ユーザー名のリスト。グループまたは指定したユーザーを保持するように設定できます。	441

## 属性プロパティ

すべての属性タイプで、共通の属性プロパティが表示されます。共通の属性プロパティの機能を次の表に示します。

プロパティ	説明
表示名	Dimensions RM ダイアログで表示される属性の名前。表示名を指定する場合は、命名の制限を考慮してください。命名の制限の詳細については、「 <a href="#">属性の表示名の命名規則</a> 」(498 ページ) を参照してください。
属性名	属性の内部名。値が指定されない場合、表示名に基づいて新しい属性に自動的に入力されます。属性名を指定する場合は、命名の制限を考慮してください。命名の制限の詳細については、「 <a href="#">属性名の命名規則</a> 」(498 ページ) を参照してください。
説明	この属性の目的を明らかにする説明を入力します。
属性は必須	情報の格納またはキャプチャプロセス中に属性の値を指定する必要があるかどうか。
属性は編集可能	属性値を編集できるかどうか。逆に言えば、これ以上の属性変更が許されない場合は、属性を編集不可にすると便利です。
一意の値を強制	この属性の各インスタンスに一意の値を入力する必要がある(重複する値が許可されない)かどうか。これは、多くの属性タイプでグレー表示になります。
エントリの表示	属性がオブジェクトコンテンツのフォームおよびリストビューに表示されるかどうか。チェックを外すと、属性はこれらのビューに表示されません。これは一般的にセキュリティ目的で使用されます。
コピー時に入力	要件のコピー時に属性が事前入力されるかどうか。重複する要件が誤って作成されるのを防ぐには、タイトルと説明属性をコピーしないことをお勧めします。 ドキュメントに割り当てられたコンテナワークフローで [コピー時に入力] を使用する場合、このオプションを有効にすると、属性値が新しいドキュメントにコピーされます。

プロパティ	説明
作成とリンク時に入力	このオプションはクラス属性のみで使用できます。 要件を作成してそれにリンクすると、属性が事前入力されます。これは、[作成時とリンク時に属性を入力]設定が有効になっている関係にのみ適用されます（「関係プロパティ：[プロパティ]タブ」(471ページ)を参照）。
変更時に要検討を提起	変更時に要検討を提起するオプションは、カスタム属性だけでなく、多くのシステム属性についても設定できます。以下は、その例です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ワークフロー状態</li> <li>■ 所有者</li> <li>■ カテゴリ</li> </ul> <p>このオプションが有効な場合、その属性に対して置換アクションを実行すると、リンクされたオブジェクトが<b>要検討</b>としてマークされます（「移動ルール」(471ページ)を参照）。</p>

## 属性の非表示

プロジェクトのあるフェーズで定義して使用していた属性が、もはや役に立たないと気づくことがあります。おそらく、さらに悪いケースは、該当しなくなったツールヒントが表示され、何を入力してよいか、ユーザーが何分も悩むことです。こうしたものは削除できるかもしれませんが、以前の要件バージョンとともに有用な情報が格納されていることもあります。その場合の解決策は非表示にすることです。非表示にした属性は表示に切り替えることができます。

表示または変更対象だった属性を非表示にするには、次の手順で設定をクリアします。

- 1 [管理]メニューから[属性設定]を選択します。
- 2 左側のペインで、[属性定義]を選択します。
- 3 ダイアログ上部の[クラス]ボックスから、非表示にする属性のあるクラスを選択します。
- 4 非表示にする属性を選択します。
- 5 次のように、表示、コピー、入力のすべての機能を制御するチェックボックスをクリアします。
- 6 [OK]をクリックします。

 Attribute Mandatory

 Force Unique Value

 Populate on Copy

 Change raises Suspicion

 Attribute Editable

 Display for Entry

 Populate on Create And Link

## 属性の削除

プロセスの開始時に非常に多くの属性を定義し、後でその一部がまったく使用されていないことに気づくことがあります。こうした属性は削除できます。とはいえ、その手順を始める前に、保存する価値のあるものがあれば、将来の使用に備えて属性の非表示の検討をお勧めします（「[属性の非表示](#)」（426ページ）を参照）。

クラスまたは関係の定義から属性を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[属性設定]を選択します。
- 2 左側のペインで、[属性定義]を選択します。
- 3 [クラス]ボックスから、属性を削除するクラスを選択します。
- 4 定義から削除する属性を選択します。
- 5 [除去]をクリックします。
- 6 [OK]をクリックします。



**注記** 暗黙の属性は、クラスまたは関係の定義から削除できません。

## 英数字属性

英数字属性は、受け入れテストのタイトルのような、1行の英数字テキストで表されます。長さは1000文字以下です。

The screenshot shows the 'Attribute Settings' window for 'Product\_Requirements'. The left sidebar has 'Attribute Definition' selected. The main area shows a list of attributes, with 'Title' highlighted. The 'Title' attribute is being configured. The 'Display Name' is 'Title' and the 'Attribute Name' is 'TITLE'. The 'Description' field is empty. The 'Attribute Mandatory' checkbox is checked, and the 'Attribute Editable' checkbox is also checked. The 'Display Length' is set to 80. The 'Maximum Length' is set to 1000. There are 'Save' and 'Close' buttons at the bottom right.

図 11-2. 英数字属性の定義

英数字属性のプロパティを次の表に示します。

プロパティ	説明
最大文字数	属性に使用できる値の最大文字数。有効範囲は1～1000文字です。
表示文字数	この属性のデフォルトの表示文字数。有効範囲は1～1000文字です。
<b>高度な設定</b>	
最小値	属性と関連付けることができる値の最小値（ある場合）。Dimensions RMは、最小値と最大値の文字列の比較を実行します。たとえば、最小値Aと最大値Cを入力すると、Dimensions RMはDの値が範囲外であることを知らせます。
最大値	属性と関連付けることができる値の最大値（ある場合）。Dimensions RMは、最小値と最大値の文字列の比較を実行します。たとえば、最小値Aと最大値Cを入力すると、Dimensions RMはDの値が範囲外であることを知らせます。
デフォルト値	属性の初期インスタンスのデフォルト値（必要な場合）。
大文字と小文字	属性値を大文字にするか、小文字にするか、またはセンテンスケース（大文字小文字混在）にするか。

## 日付属性

日付属性には、ユーザー定義のフォーマットに基づいた値を指定できます。たとえば、日付属性はテスト日に使用できます。

The screenshot shows the 'Attribute Settings' window for the 'Approval' category. The 'End Date' attribute is selected in the left sidebar. The main configuration area includes the following options:

- Attributes:**  implicit
- Display Name:** End Date
- Attribute Name:** END\_DATE
- Description:** (Empty text area)
- Attribute Mandatory:**
- Force Unique Value:**
- Populate on Copy:**
- Change raises Suspicion:**
- Attribute Editable:**
- Display for Entry:**
- Populate on Create And Link:**
- Display Format:** DD-MON-RRRR
- Default Value:**  Current Date

Buttons at the bottom include '+ New', 'Remove', 'Advanced...', 'Save', and 'Close'.

図 11-3. 日付属性の定義

日付属性のプロパティを次の表に示します。

プロパティ	説明
表示フォーマット	日付フォーマット。 <b>注:</b> デフォルトの日付フォーマットでは、文字列「RRRR」を使用して4桁の年を表します。年を2桁で入力すると、このフォーマットでは、『Administrator's Guide』の「RRRR Date Format Elements」で説明されているルールに基づいて世紀が正しく入力されるため、「YYYY」を使用するよりも適切です。
デフォルト値	属性の初期インスタンスのデフォルト値 (必要な場合)。
現在の日付	有効にすると、現在のサーバーの日付 (および属性に定義されている場合は時刻) がデフォルト値として使用されます。
<b>高度な設定</b>	
最大文字数	属性に使用できる値の最大文字数。有効範囲は1～1000文字です。
表示文字数	この属性のデフォルトの表示文字数。有効範囲は1～1000文字です。
最小値	属性と関連付けることができる値の最小値 (ある場合)。
最大値	属性と関連付けることができる値の最大値 (ある場合)。

## 添付ファイル属性

添付ファイル属性には、RM Browserでアクセス可能な1つのファイルまたは複数のファイルを保持できます。1つまたは複数の添付ファイル属性を、ファイルが添付されるクラスに追加します。たとえば、添付ファイル属性 Use Cases、Customer Letter、および Business Justification を Marketing Requirements クラスに追加できます。次に、RM Browserを使用して、ファイルを追加、表示、またはダウンロードします。



**注記** 添付ファイル属性はクラスにのみ追加できます。

RM Browserを使用してファイル添付を表示および管理する方法の詳細については、「[ファイル添付の操作](#)」(229ページ)を参照してください。

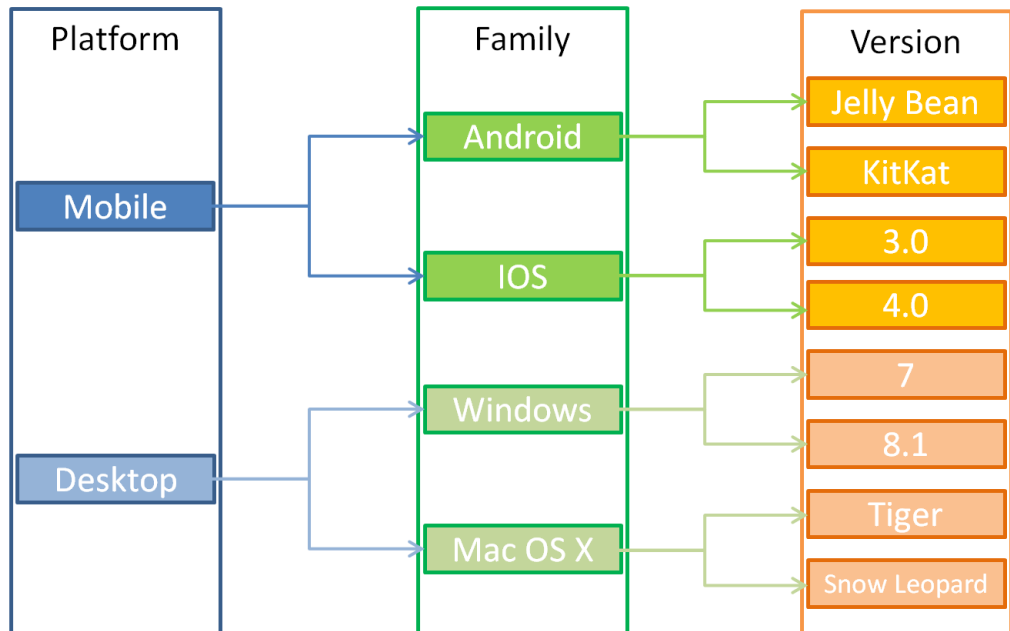
添付ファイル属性のプロパティを次の表に示します。

プロパティ	説明
複数選択が可能	属性に複数のファイルを保持できるかどうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 有効: 属性には複数のファイルを保持できます。</li> <li>■ 無効: 属性には1つのファイルを保持できます。</li> </ul>

## グループ属性

グループ属性を使用すると、リスト属性のように値を選択できます。ただし、単純なリスト属性と異なり、グループ属性は一連のサブ属性で構成されています。これらのサブ属性は、**グループメンバー**と呼ばれます。

次の図は、RMDEMOの**Tests**クラスで定義されたグループ属性**Operating System**を簡略化して表したものです。



グループ属性には、グループメンバー **Platform**、**Family**、**Version**が含まれます。制限により、ユーザーが値を選択したときに表示される値を定義できます。**Platform**グループメンバーを選択すると、**Family**グループメンバーの値が定義されます。**Family**を選択すると、**Version**グループメンバーの値が定義されます。

各グループメンバーには、前のグループメンバーの選択した値に応じて異なる可能性がある独自の値のリストが含まれます。

### グループ属性の定義:

グループ属性を定義するには、まず、新しい属性を追加する際に**グループ**を選択します (「[属性定義](#)」(423ページ)を参照してください)。

属性には名前を付ける必要があります。この例では、表示名はオペレーティングシステムです。

### 管理メンバー (サブ属性) の追加

- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2 + をクリックします。[新規メンバーのプロパティ] ダイアログが開きます。
- 3 [表示名] ボックスにメンバー名を入力します。必要に応じて、メンバーを説明するテキストを [説明] ボックスに指定します。
- 4 [OK] をクリックします。

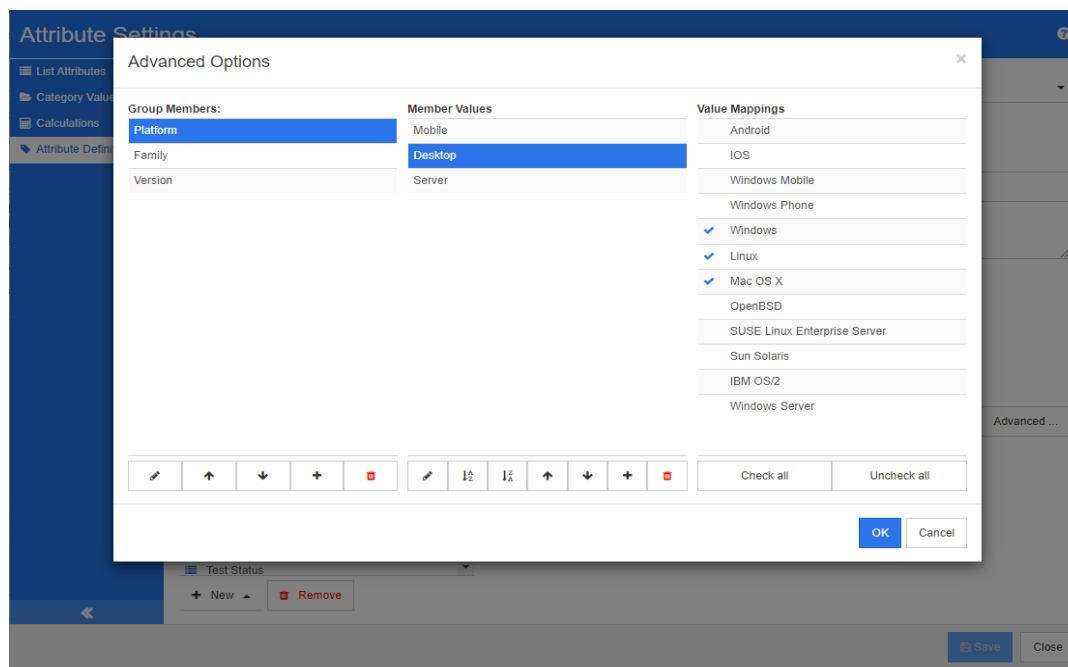


図 11-4. グループ属性の定義

### メンバーの削除 (サブ属性)

- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2 削除するメンバーを選択します。
- 3 **×** をクリックします。

### メンバーの順序付け (サブ属性)

グループの最初の属性は2番目の親、2番目は3番目の親などです。強制する依存関係ロジックを反映するように属性メンバーを並べ替えるには、次の手順を実行します。


- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2 移動するメンバーを選択します。
- 3 **^** または **v** をクリックします。

### メンバー値の追加

- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2 [グループメンバー] リストから、値を追加するメンバーを選択します。
- 3 **+** をクリックします。[値の追加] ダイアログが開きます。
- 4 [新しい値の名前] ボックスに新しい値を入力します。値は、グループメンバー内で一意である必要があります。

- 5 [OK] をクリックします。
- 6 値の位置を変更する場合は、値を選択し、値が目的の位置に来るまで **▲** または **▼** をクリックします。

### メンバー値の名前変更

- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2 [グループメンバー] リストから、値の名前を変更するメンバーを選択します。
- 3 名前を変更する値を選択します。
- 4  をクリックします。[値の名前を変更] ダイアログが開きます。
- 5 [新しい値の名前] ボックスに新しい値を入力します。値は、グループメンバー内で一意である必要があります。
- 6 [OK] をクリックします。

### 依存関係の定義

依存関係を定義することにより、ユーザーが親属性で値を選択したときにサブ属性で使用可能な値を指定します。

依存関係を定義するには、次の手順を実行します。

- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2 [グループメンバー] リストから、親属性 (例: Platform) を選択します。
- 3 [メンバー値] リストから、メンバー値 (例: Server) を選択します。
- 4 [値マッピング] リストをクリックします。

### 変更の保存

- 1 [OK] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを閉じます。
- 2 [保存] をクリックして、属性定義の変更をすべて保存します。

### リスト属性

[リスト属性] ダイアログでは、新しい属性の定義はサポートされていません。既存のリスト属性を変更することは可能です。

既存のリスト属性に値を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 ドロップダウンからクラスを選択します。クラス内で定義されているリスト属性が表示されます。
- 2 変更するリスト属性を選択します。リスト値が表示されます。
- 3 **+** をクリックします。[新しい値の名前] ダイアログが開きます。
- 4 ボックスに値を入力します。
- 5 [OK] をクリックします。



このダイアログでは、リスト値の並べ替え、上下への移動、追加、削除、既定値としての設定が可能です。また、オブジェクトに変更を加えても要検討が提起されないように値にマークを付けることもできます。

### リスト属性について

リスト属性は、ユーザーが選択するための値のリストを提示する設定可能な属性です。たとえば、優先度としてCritical、High、Medium、Lowを定義したり、デフォルトの優先度を設定したり、ユーザーに優先度の設定を要求したりすることができます。

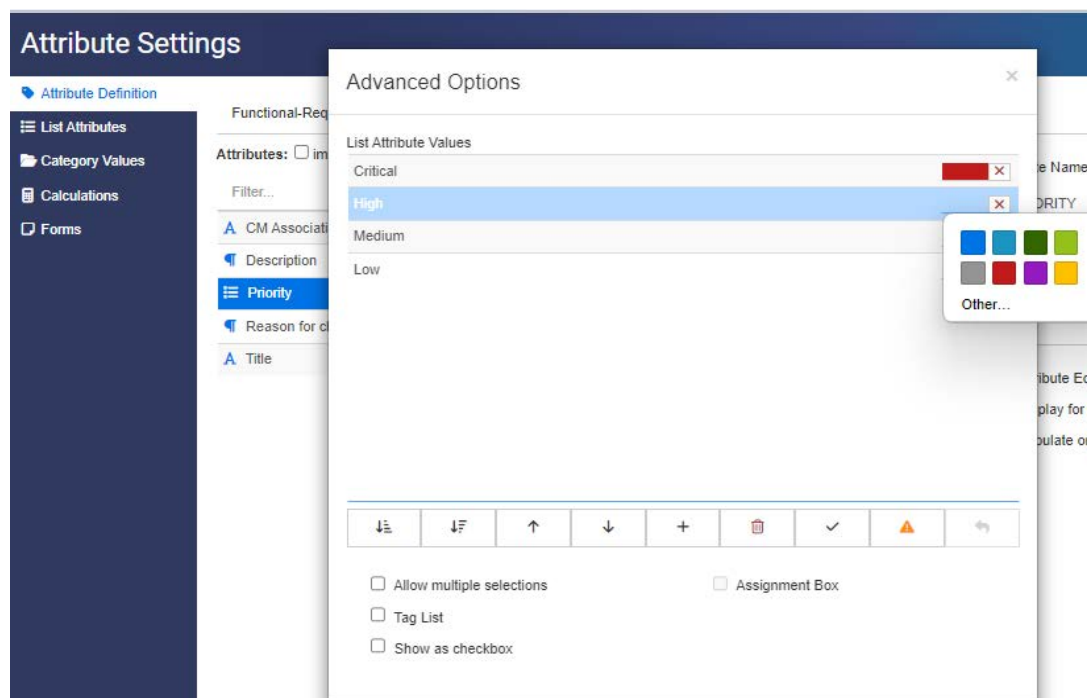





図 11-5. リスト属性は色分けされたラベルとして表示できる


### リスト属性の定義

リスト属性のプロパティを次の表に示します。



プロパティ	説明
リスト値	リスト属性で定義されている、可能な英数字の値 (スペースも使用可能) のリスト。値の右側にあるボックスのチェックは、これが複数選択リストのデフォルト値であることを示します。
複数選択が可能	リストから複数の値を選択することが可能になります。このボックスをチェックしない場合、値の選択は1つに限定されます。
割り当てボックス	[複数選択が可能] がオンで、[タグリスト] がオフの場合のみ利用可能です。 このオプションを有効にすると、1つのリストが2つのリストに置き換えられ、  および  を使用してエントリを追加/削除できるようになります。

プロパティ	説明
タグリスト  	属性値は「タグ」として表示されます。 このオプションを有効にすると、書き込みアクセス権を持つ各ユーザーがこの属性リストに英数字の値（スペースも使用可能）を追加できるようになります。 <b>注意!</b> タグエントリを追加すると、スキーマが変更されます。インスタンス管理者が変更のためにスキーマ定義を開いているときにユーザーがタグを追加した場合、そのタグは保存されません。
チェックボックスとして表示	リスト属性が、チェックボックスまたはラジオボタンとして表示されます。詳細については、「 <a href="#">チェックボックスまたはラジオボタンとしてのリスト属性の設定</a> 」(436ページ)を参照してください。
初期化されていないものを表示	[チェックボックスとして表示] が選択されている場合に、オプション [初期化されていません] をラジオボタンで表示するか、テキスト [初期化されていません] をチェックボックスで表示することができます。詳細については、「 <a href="#">チェックボックスまたはラジオボタンとしてのリスト属性の設定</a> 」(436ページ)を参照してください。
色分けされたラベル	<a href="#">図 11-5、「リスト属性は色分けされたラベルとして表示できる」</a> (433ページ)に示すように、リスト属性を色分けして、ラベルとして表示できます。



### リスト属性値の追加

- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2  をクリックします。[新しい値の名前] ダイアログが開きます。
- 3 ボックスに値を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

### リスト属性値のアルファベット順での並べ替え

- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2 昇順に並べ替えるには、 をクリックします。
- 3 降順に並べ替えるには、 をクリックします。

### 値の手動での順序付け

- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2 移動する値を選択します。
- 3  または  をクリックします。

### リスト属性値の削除

- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2 削除する値を選択します。
- 3 ゴミ箱をクリックします。



#### 注記

- 選択した値がどの要件内でも使用されていない場合、値は**除去**されます。
- 選択した値がいずれかの要件内で使用されている場合、属性値を**削除**または**除去**するためのダイアログが開きます。

値を**削除** (推奨) することは、次のことを意味します。

- この値が割り当てられたオブジェクトでは値は表示されますが、選択することはできません。
- この値はすべてのダイアログで使用可能で、フィルタリングや検索 (クイック検索など) を行うことができます。

値を**除去**すると、RMのデータベースから値が削除されます。これは、次のことを意味します。

- この値を使用していた要件内の属性は、[属性の編集] ダイアログで空になります。
- 属性値は、結果リスト (レポートなど) と、ドキュメントのスナップショットに表示されます。
- この値はすべてのダイアログで使用できなくなります。

要件バージョン内の古い値を置き換える必要がある場合は、[「既存データでのリスト値の変更」\(435ページ\)](#)を参照してください。

### デフォルトのリスト属性値の設定

- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2 提案されたデフォルト値を選択します。
- 3 チェックアイコンをクリックします。

### 要検討の提起から値の設定を除外するには

- 1 [高度] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを開きます。
- 2 要検討の提起から除外する値を選択します。
- 3 [要検討] アイコンをクリックします。

### 変更の保存

- 4 [OK] をクリックして [高度なオプション] ダイアログを閉じます。
- 5 [保存] をクリックして、属性定義の変更をすべて保存します。

### 既存データでのリスト値の変更

このセクションでは、すでに使用中で、現行でない要件バージョン内に存在する値のリストの変更に関するベストプラクティスについて説明します。現行でないバージョンの古いリスト値を置き換える必要があること、および監査証跡を維持する必要があることを前提としています。

- 1 セキュリティを含めて、インスタンスのバックアップを実行します。

- 2 新しいリスト値をインスタンススキーマに追加します。(古い値は削除しません。)
- 3 変更されたリストを含むクラスに対する更新アクセスおよび最新以外を更新アクセスが可能であることを確認します。
- 4 以下をリスト表示したレポートを作成します。
  - PUID
  - Object\_ID
  - 古い値を含む関連するリストフィールド
- 5 レポートをCSVとして保存します。
- 6 このCSVを編集して、古い値を新しい値に変更します。
- 7 **[変更理由]** 列を追加し、監査要件に合わせて必要な説明を記入します。(既存の **[変更理由]** エントリは上書きされます。)
- 8 **[更新]** モードでCSVインポートを使用し、Object\_DFで照合して変更属性のリストと理由をマッピングします。
- 9 データが正しくインポートされたことを確認します。
- 10 クラスに対する更新アクセスおよび最新以外を更新アクセスを削除します (これらをこの手順のために追加した場合)。
- 11 インスタンススキーマから古いリスト値を削除します。

### チェックボックスまたはラジオボタンとしてのリスト属性の設定

チェックボックスまたはラジオボタンは、リスト属性の設定オプションです。リスト属性の作成方法の詳細については、「[リスト属性](#)」(432ページ)を参照してください。

チェックボックスまたはラジオボタンとしてのリスト属性の設定は、リスト属性の全体的設定とオプション **[チェックボックスとして表示]** および **[初期化されていないものを表示]** によって異なります。**[初期化されていないものを表示]** は常に使用できるとは限りません。

### Yes/Noチェックボックスの設定

Yes/Noチェックボックスには2つの値があり、属性名以外の追加のテキストは表示されません。

**Yes/Noチェックボックスを作成するには、次の手順を実行します。**

- 1 リスト属性を作成し、リストに2つの値 (例: 「はい」と「いいえ」) を指定します。
- 2 **[チェックボックスとして表示]** オプションを選択します。
- 3 **[チェックした値]** ボックスから、チェックボックスの選択状態で使用する値 (例: 「はい」) を選択します。チェックボックスのクリア状態には、2番目のリスト値 (例: 「いいえ」) が自動的に使用されます。
- 4 「はい」または「いいえ」の値を選択し、✔ をクリックします。
- 5 **[OK]** をクリックします。

### 3ステートYes/Noチェックボックスの設定

Yes/Noチェックボックスには2つの値があり、属性名以外の追加のテキストは表示されません。3ステートチェックボックスには、追加の状態 ([初期化されていません]) が表示されます。

**Yes/Noチェックボックスを作成するには、次の手順を実行します。**

- 1 リスト属性を作成し、リストに2つの値 (例: 「はい」と「いいえ」) を指定します。
- 2 [チェックボックスとして表示] オプションを選択します。
- 3 [初期化されていないものを表示] オプションを選択します。
- 4 [チェックした値] ボックスから、チェックボックスの選択状態で使用する値 (例: 「はい」) を選択します。チェックボックスのクリア状態には、2番目のリスト値 (例: 「いいえ」) が自動的に使用されます。
- 5 [OK] をクリックします。

### 複数のチェックボックスまたはラジオボタンの設定

リストに3つ以上の値がある場合、リストはラジオボタンまたは複数のチェックボックスとして表示されます。リストが1つの値の選択のみをサポートしている場合、リストはラジオボタンとして表示されます。複数選択の場合、リストはチェックボックスとして表示されます。

- 1 リスト属性を作成し、リストに3つ以上の値を指定します。
- 2 複数の値を選択できるようにするには、[複数選択が可能] オプションを選択します。
- 3 [チェックボックスとして表示] オプションを選択します。
- 4 必要に応じて、[初期化されていないものを表示] オプションを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

## ルックアップ属性

ルックアップ属性では、ユーザーが属性を別のオブジェクトと関連付け、その情報にアクセスすることができます。関係は、設定に応じて1つまたは複数の値を使用して作成でき、PUID (要件ID) またはタイトルを参照できます。

たとえば、「リリース」という名前のルックアップ属性を使用して、任意のクラスの要件とリリースクラスの特定のオブジェクトを関連付けることで、リリースの完全な定義およびそのステータスとスケジュールにアクセスできるようになります。

同様に、関係者や顧客の情報を関連付けて、アクセスすることも可能です。

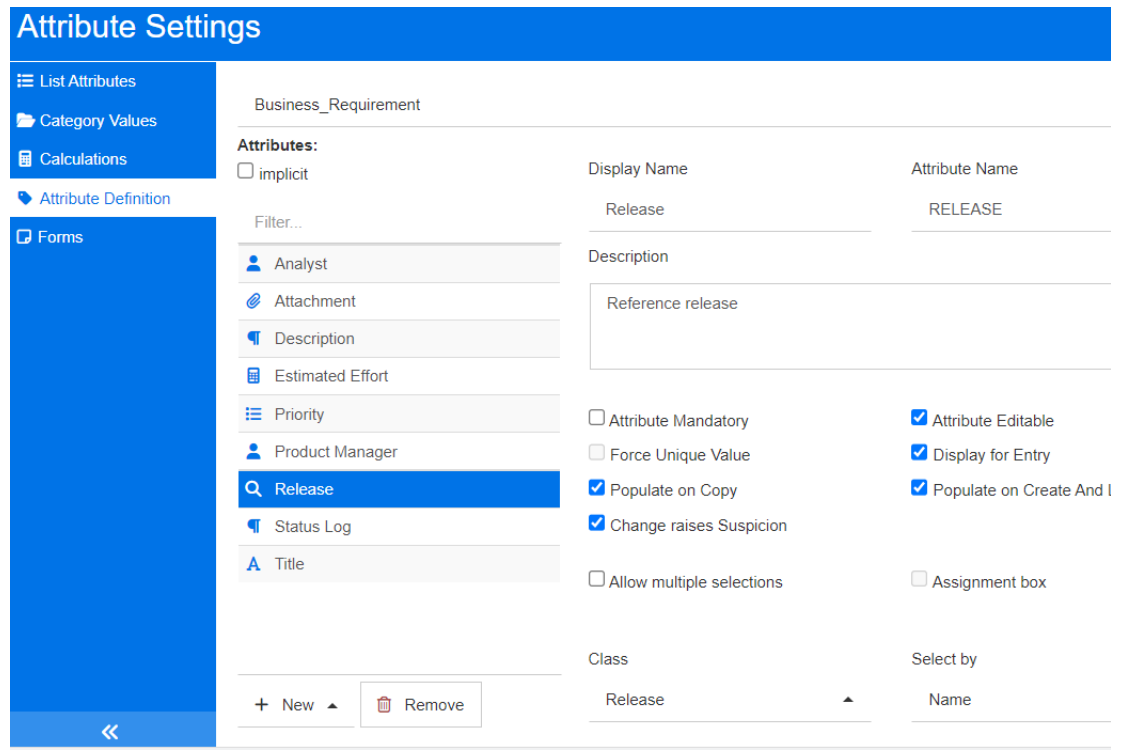


図 11-6. ルックアップ属性の定義

ルックアップ属性のプロパティを次の表に示します。

プロパティ	説明
クラス	現在のクラスに関連するクラス。
選択条件	リストの値を提供する属性。
複数選択が可能	ドロップダウンにリリースクラスのオブジェクトが名前（タイトル属性）でリストされます。このボックスをチェックしない場合、リストから1つのオブジェクトだけを選択できます。
割り当てボックス	[複数選択が可能] が選択されている場合にのみ使用できます。このオプションを有効にすると、1つのリストが2つのリストに置き換えられ、➡ および ⬅ を使用してエントリを追加/削除できるようになります。

## 数値属性

数値属性は、参照番号などの数値のみを受け入れます。値には小数点を使用できます。

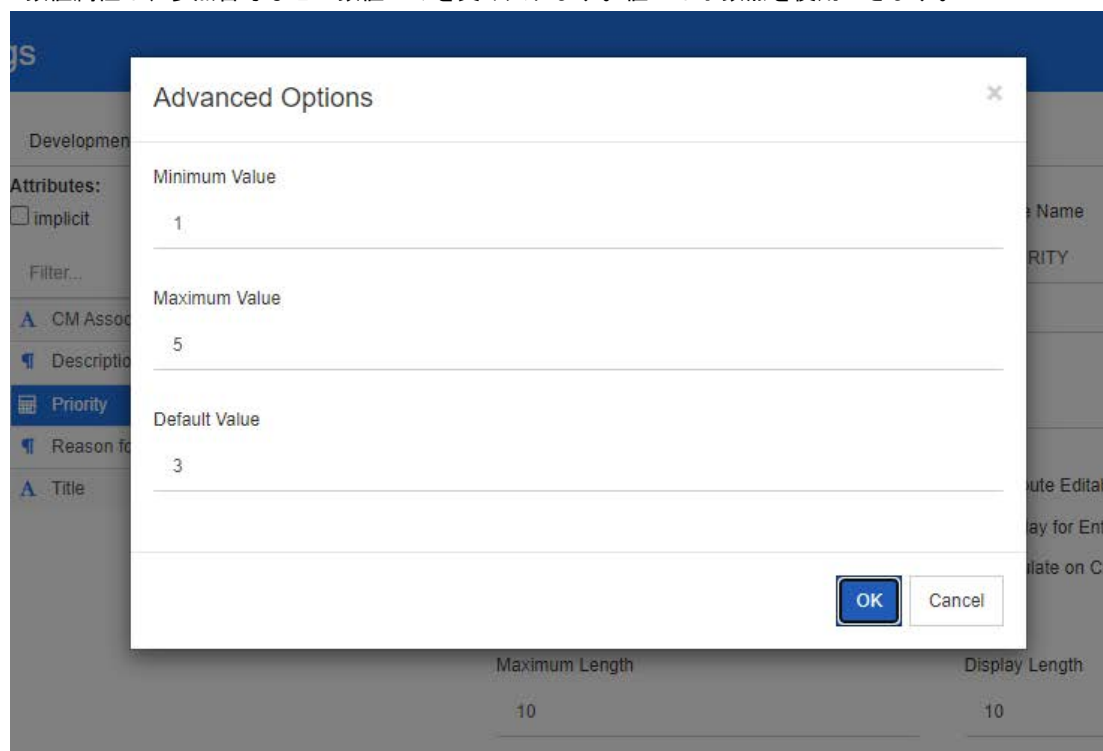


図 11-7. 数値属性の定義

数値属性のプロパティを次の表に示します。

プロパティ	説明
最大文字数	属性に使用できる値の最大文字数。有効範囲は1～1000文字です。
表示文字数	この属性のデフォルトの表示文字数。有効範囲は1～1000文字です。
<b>高度なオプション</b>	
最小値	属性と関連付けることができる値の最小値 (ある場合)。
最大値	属性と関連付けることができる値の最大値 (ある場合)。
デフォルト値	属性の初期インスタンスのデフォルト値 (必要な場合)。

## テキスト属性

テキスト属性は、複数の行にまたがることのできるテキストブロック (最大64KB) です。受け入れテキストに関する記述など、長い記述に適しています。

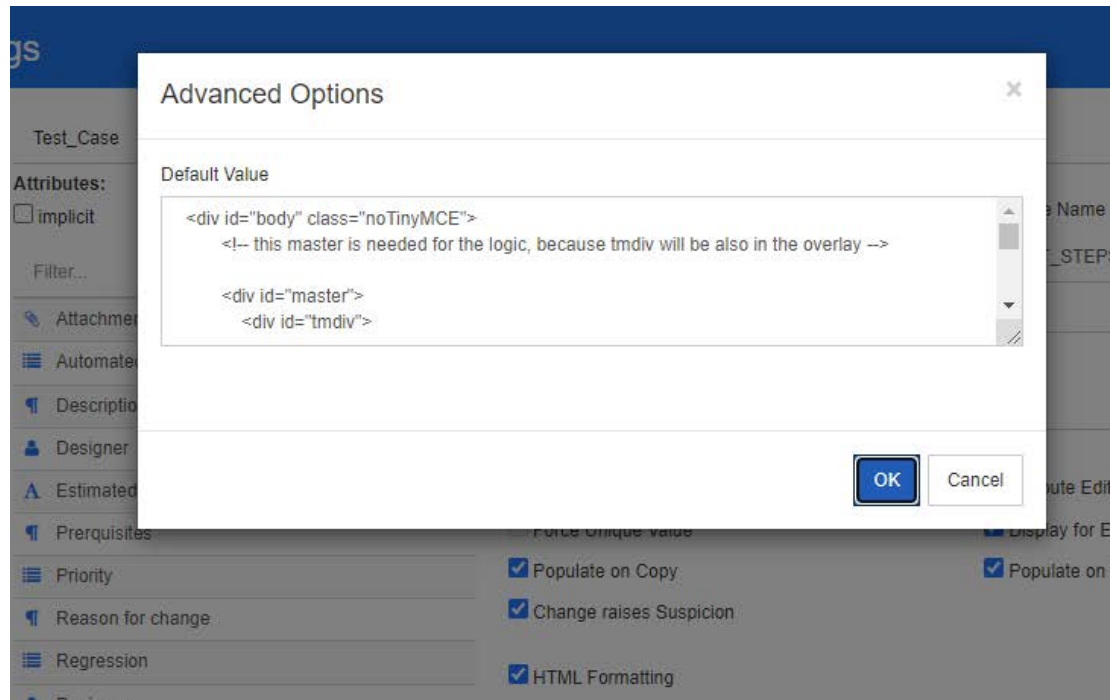


図 11-8. テキスト属性の定義

テキスト属性のプロパティを次の表に示します。

プロパティ	説明
HTML書式設定	このテキスト属性でHTML書式設定が有効かどうかを指定できるチェックボックス。 RM BrowserでHTML対応のテキスト属性を編集すると、通常のテキスト領域の代わりに特別なHTML編集コントロールが表示されます。 <b>注:</b> HTML書式設定プロパティは、Chapterクラスで無効にすることはできません。
追加のみ	有効にすると、ユーザーがテキストボックスに入力したテキストが現在のテキストを置き換えるのではなく、現在のテキストに追加されます。履歴は、関連するテキストボックスの上に表示されます。
最新のを最初に挿入	有効にすると、新しいテキストは既存のテキストの前に配置されます。無効にすると、新しいテキストは既存のテキストの後に配置されます。
<b>高度なオプション</b>	
デフォルト値	属性の初期インスタンスのデフォルト値 (必要な場合)。



## URL属性

URL属性には、1つまたは複数のURLを保持できます。URLをクリックすると、Webブラウザの新しいタブまたはウィンドウで開きます。

URL属性は、次の設定をサポートしています。

プロパティ	説明
モード	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>単一</b>: URL属性は1つのURLのみを保持できます。</li> <li>■ <b>複数</b>: URL属性は複数のURLを保持できます。</li> </ul>
検証パターン	<p>検証パターンを指定すると、URLが特定のフォーマットに一致することを確認できます。検証パターンは、JavaScriptプログラミング言語の正規表現である必要があります。次のサンプルは、[プリセット]ドロップダウンリストにあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <code>^(http[s]? ftp):\/\/\/(.*)</code> URLは、HTTP、HTTPS、FTPのいずれかのプロトコルを使用する必要があります。</li> <li>■ <code>^https:\/\/\/www\.opentext\.com\/(.*)</code> URLはHTTPSプロトコルを使用する必要があり、サーバーはwww.opentext.comである必要があります。</li> </ul>
カウントの制限:	このオプションは、[モード]が[複数]に設定されている場合にのみ使用できます。このオプションを選択し、0より大きい値を指定して、属性が保持できるURLの最大数を定義します。
プレースホルダー	予想されるフォーマットについてユーザーに通知するテキストを指定します。

## ユーザー属性

RMログイン識別子は、インスタンスおよびグループメンバーシップを通じてアクセス権を割り当てるために管理者が使用するシステム属性です。この属性は、デザイナー、アナリスト、レビュー担当者、テスト担当者などの役割を作成して設定するためにスキーマ定義でも使用されます。すべてのインスタンスユーザー、グループ内のすべてのユーザー、または選択した個人に役割の割り当てが可能です。

すべてのユーザーをリスト表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [すべてのインスタンスユーザー] オプションを選択します。
- 2 [OK] をクリックします。

1つまたは複数のグループのユーザーをリスト表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [選択したグループのすべてのユーザー] オプションを選択します。
- 2 リストに含めるグループを選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

個別ユーザーをリスト表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [特定ユーザー] オプションを選択します。
- 2 リストに含めるユーザーを選択します。

### 3 [OK] をクリックします。

#### 選択モード

プロパティ	説明
複数選択が可能	選択した場合、複数選択が可能です。 クリアした場合、単一選択が可能です。
個別ユーザー	ユーザーのみを選択できます。
グループと特定ユーザー	[ <b>選択したグループのすべてのユーザー</b> ] リストで選択したグループと、 [ <b>特定ユーザー</b> ] リストで指定したユーザーを選択できます。
グループ、グループメンバー、特定ユーザー	[ <b>選択したグループのすべてのユーザー</b> ] リストで選択したグループ、 選択したグループのメンバーになっているユーザー、および [ <b>特定ユーザー</b> ] リストで指定したユーザーを選択できます。
チーム	チームのみを選択できます。

#### デフォルト値の指定

グループまたはユーザーをデフォルト値として指定するには、次の手順を実行します。

- 1 [デフォルトを設定] をクリックします。[ユーザーの検索と選択] ダイアログが開きます。
- 2 デフォルト値として使用するユーザーまたはグループを選択します。<現在のユーザー> エントリでは、要件を編集したユーザーの名前をデフォルト値として使用します。
- 3 [OK] をクリックします。デフォルト値は、スキーマ定義を保存するまで使用されません。

## PUID属性

暗黙の属性PUIDは、各オブジェクト（要件、テストケースなど）を一意に識別します。PUIDは、要件IDと呼ばれ、オブジェクトのバージョンが複数作成されても変わりません。

図 11-9. PUID 属性の定義

PUID 属性のプロパティを次の表に示します。

プロパティ	説明
PUID フォーマット	任意の文字列の次に <#>。<#> 変数は、PUID 番号に置き換えられます。 注：# を文字として PUID に表示する場合は、かっこなしで文字列に入力します。
数値スタイル	PUID に使用するナンバリングのスタイル。
次	割り当てられる次の PUID 番号。
PUID の長さ	<#> 変数を置き換えることができる数字の数。
先頭に 0 をパディング	PUID 番号を [PUID の長さ] リストで指定された番号にするために、PUID の前にゼロを付加するかどうか。

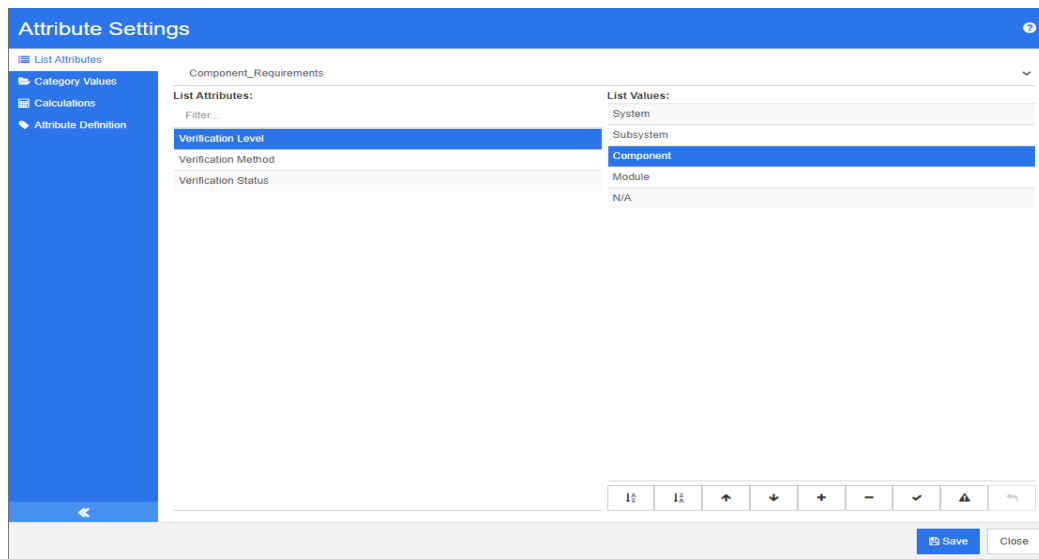


**注記** PUID 属性のプロパティは、クラスが空の場合（クラスにオブジェクト/要件が存在しない場合）にのみ表示されます。

## リスト属性値の管理

リスト属性を使用すると、選択可能な値のセットを属性に割り当てることができます。優先度や重大度などの属性は多くの場合、リリースや要件ソースのリストと同様にリスト属性を使用して定義されます。リスト属性により、入力が簡単になるだけでなく、一貫性も確保されます。

[管理] から [属性設定] を選択し、[リスト属性] タブを選択する




- リスト値（要件から要検討の可能性を排除する値など）の追加、デフォルト設定の変更 - 「リストの値の追加」(444 ページ)
- リストの値の削除または除去 - 「リストの値の削除」(445 ページ)
- リストの値を並べ替え - 「リストの値の順序付け」(445 ページ)
- 既存データのリスト値の変更 - 「既存データのリスト値の変更」(446 ページ)

### リストの値の追加

既存のリスト属性にリスト値を追加するには、次の手順を実行します。


- 1 [リスト属性] タブで、リスト属性を含むクラスを選択します。
- 2 関連するリスト属性を選択します。
- 3 値を追加するには、**+** をクリックします。[新しい値の名前] ダイアログが開きます。
  - a 新しい値を入力します。
  - b [OK] をクリックします。
- 4 新しいエントリまたは選択したリストエントリを変更します。
  - a リストエントリを選択します。
  - b ✓ をクリックして、選択したエントリをデフォルトにします。

- c  をクリックして、検討の提案の計算を無効にします。これは、この値が選択されている限り、属性の変更によって要件が「要検討」になることがないことを意味します。

- 5 [保存] をクリックします。

## リストの値の削除

リストの値を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 左側のペインで、[リスト属性] をクリックします。
- 2 上部のボックスで変更するクラスを選択します。
- 3 [リスト] ボックスで、値を削除するリスト属性を選択します。
- 4  をクリックします。



### 注記

- 選択した値がどの要件内でも使用されていない場合、値は**除去**されます。
- 選択した値がいずれかの要件内で使用されている場合、属性値を**削除**または**除去**するためのダイアログが開きます。

値を**削除**することは、次のことを意味します。

- この値を持つ要件内で値は表示されますが、選択することはできません。
- この値はすべてのダイアログで使用可能で、フィルタリングや検索（クイック検索など）を行うことができます。

値を**除去**すると、RMのデータベースから値が削除されます。これは、次のことを意味します。

- この値を使用していた要件内の属性は空になります。
- 結果リスト（クイック検索やレポートなど）や、この値を使用していた要件が表示されるドキュメントには、この属性の値が表示されます（表示されている場合）。
- この値はすべてのダイアログで使用できなくなります。

要件バージョン内の古い値を置き換える必要がある場合は、「[既存データのリスト値の変更](#)（446ページ）を参照してください。

- 5 [保存] をクリックします。

## リストの値の順序付け

エンドユーザーには、このダイアログに表示されているのと同じ順序で値が表示されます。

値のリストを並べ替えるには、次の手順を実行します。

- 1 左側のペインで、[リスト属性] をクリックします。
- 2 上部のボックスで変更するクラスを選択します。

- 3 [リスト] ボックスで、順序付けするリスト属性を選択します。続いて、次のいずれかを実行します。
  - 手で値を順序付けするには、値を選択し、**上に移動** ↑ または **下に移動** ↓ ボタンをクリックして、値を目的の位置まで移動します。
  - 値のリスト全体を英数字の順に並べ替えるには、**昇順に並べ替え** ↕ または **降順に並べ替え** ↕ ボタンをクリックします。
- 4 新しい値を入力し、[OK] をクリックします。
- 5 [保存] をクリックします。

## 既存データのリスト値の変更

既存データのリスト値を変更するためのベストプラクティスは、既存の値を削除（基本的には、廃止としてマーク）し、新しい値を作成することです（「[リストの値の削除](#)」(445ページ)を参照してください）。

既存データ（ベースライン化されたデータを含む）の変更が必要な場合については、現行ではない要件バージョンで以前から使用されているリスト値の変更方法をこのセクションで説明します。現行でないバージョンの古いリスト値を置き換える必要があること、および監査証跡を維持する必要があることを前提としています。

- 1 セキュリティを含めて、インスタンスのバックアップを作成します。バックアップの作成の詳細については、『Dimensions RM Administrator's Guide』の「Backing Up an Instance Account」を参照してください。
- 2 新しいリスト値をインスタンススキーマに追加します。（古い値は削除しません。）
- 3 変更されたリストを含むクラスに対する更新アクセスおよび最新以外を更新アクセスが可能であることを確認します。
- 4 以下をリスト表示したレポートを作成します。
  - PUID
  - Object\_ID
  - 古い値を含む関連するリストフィールド
- 5 レポートをCSVとして保存します。
- 6 このCSVを編集して、古い値を新しい値に変更します。
- 7 [変更理由] 列を追加し、監査要件に合わせて必要な説明を記入します。（既存の [変更理由] エントリは上書きされます。）
- 8 [更新] モードでCSVインポートを使用し、Object\_IDで照合して変更属性のリストと理由をマッピングします。
- 9 データが正しくインポートされたことを確認します。
- 10 クラスに対する更新アクセスおよび最新以外を更新アクセスを削除します（これらをこの手順のために追加した場合）。
- 11 インスタンススキーマから古いリスト値を削除します。

## カテゴリリスト属性値

カテゴリ値にアクセスするには、[管理] メニューから [属性設定] を選択し、[カテゴリ値] タブを選択します。

インスタンス管理者は、[カテゴリ値] タブから次の操作を実行できます。

- カテゴリリストのデフォルトの変更または設定: [カテゴリのデフォルトリスト値](#)
- カテゴリユーザーの変更または設定: [カテゴリのデフォルトユーザー値](#)

### カテゴリのデフォルトリスト値

カテゴリが異なると、別のデフォルトリスト値が必要になる場合があります。たとえば、新しいリリースまたはコンポーネントに関連付けられたオブジェクトを管理するためにカテゴリまたはサブカテゴリを作成する場合、関連付けられているすべてのリストに対して別のデフォルトを選択できます。

カテゴリのリスト値にアクセスするには、[管理] メニューから [属性設定] を選択し、[カテゴリ値] タブを選択します。

ほとんどのカテゴリのデフォルト設定は、親カテゴリから設定を継承するように設定されています。親からの継承を復元するには、以下の親カテゴリからの継承を復元する方法を参照してください。

別のリスト値を定義するには、次の手順を実行します。

- 1 カテゴリツリーで、デフォルト値を割り当てる [カテゴリ] を選択します。
- 2 変更するリストを含むクラスを選択します。
- 3 属性名の左側のボックスが選択されている場合 (設定が親から継承されることを意味します)、ボックスの選択を解除します。
- 4 属性リストを展開します。
- 5 デフォルト値として使用する値の上にマウスポインターを移動します。グレーのチェックマークが表示されます。
- 6 グレーのチェックマークをクリックします。チェックマークが青色に変わり、この値がデフォルト値として使用されることが示されます。
- 7 [保存] をクリックします。

親カテゴリからの継承を復元するには、次の手順を実行します。

- 1 左側のペインで、[カテゴリ値] をクリックします。
- 2 カテゴリツリーで、リストの値の継承を元に戻すカテゴリを選択します。
- 3 属性名の横のボックスをチェックします。
- 4 [保存] をクリックします。

### カテゴリのデフォルトユーザー値

Dimensions RMでサブプロジェクトにカテゴリを使用する場合は、異なるデフォルトユーザーを設定すると便利です。

カテゴリのデフォルトユーザーを定義するには、次の手順を実行します。

- 1 左側のペインで、[カテゴリ値] をクリックします。
- 2 カテゴリツリーで、別のデフォルト値を定義するカテゴリを選択します。
- 3 リストの値のアクセスを変更するクラスを選択します。
- 4 属性名の横のボックスをクリアします。
- 5 デフォルト値として使用する値の上にマウスポインターを移動します。グレーのチェックマークが表示されます。
- 6 グレーのチェックマークをクリックします。チェックマークが青色に変わり、この値がデフォルト値として使用されていることが示されます。
- 7 [保存] をクリックします。

## 算出属性の設定

算出属性は、数値、英数字、テキスト、およびリスト属性で使用できます。

たとえば、開発作業量の推定値を含む数値属性と、投入した作業量を含む数値属性がある場合、開発作業量から投入した作業量を引いたものを算出属性として定義できます。

また、ビジネス要件に算出属性を作成し、リンクされたすべての機能要件に含まれる開発作業量の合計を示すことも可能です。これを示したものが次の例です。

Edit Calculation
×

---

Class: Business\_Requirement ▼

Related Class: Functional\_Requirement ▼

Calculated Attribute: Estimated Effort ▼

Formula: Sum({Functional\_Requirement.Dev Effort}) Clear

Insert Attribute: CalcTest2 ▼ Insert

Insert Function: Sum ▼ Insert

この式は、関数を選択して1つ以上の関連する要件に含まれる属性に適用することで、または単一の要件の複数の属性に基づく計算によって、構築されます。

算出の対象となる属性を定義するには、[属性は編集可能] チェックボックスをオフにする必要があります。チェックボックスをオンにすると、算出の対象リストに表示されなくなります。

算出の対象として使用される属性の作成方法については、「[属性定義](#)」(423ページ) を参照してください。



以下の各セクションでは、[管理]メニューから[属性設定]を選択し、[計算]タブを選択した後に使用できる機能について説明します。

- 「算出属性の作成」(449ページ)
- 「算出属性の編集」(449ページ)を参照してください。
- 「算出属性の削除」(449ページ)
- 数式の作成について: 「式について」(450ページ)

## 算出属性の作成

算出属性を定義したら、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[属性設定]を選択します。[属性設定]ダイアログが開きます。
- 2 左側のペインで、[計算]をクリックします。
- 3 [新規]をクリックすると、[計算の作成]ダイアログが開きます。
- 4 [クラス]ボックスで、算出属性を含むクラスを選択します。
- 5 [算出属性]ボックスで、結果を受け取る属性を選択します。このリストには、読み取り専用の属性のみが含まれることに注意してください。
- 6 [式]ボックスで、式を指定します。式の詳細については、「式について」(450ページ)を参照してください。
- 7 [保存]をクリックします。



**注記** 既存の要件の場合、値は自動的に算出されません。既存の要件について値を算出するには、[計算]タブで保存した計算を強調表示し、[計算]ボタンをクリックします。算出に時間がかかる場合があるため、警告が表示されます。

## 算出属性の編集

算出属性を編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[属性設定]を選択します。[属性設定]ダイアログが開きます。
- 2 左側のペインで、[計算]をクリックします。
- 3 算出属性のリストから、変更する属性設定を選択し、[編集]をクリックし、[計算の編集]ダイアログを開きます。
- 4 [式]ボックスで、式を変更します。式の詳細については、「式について」(450ページ)を参照してください。
- 5 [保存]をクリックします。

## 算出属性の削除

算出属性を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[属性設定]を選択します。[属性設定]ダイアログが開きます。
- 2 左側のペインで、[計算]をクリックします。
- 3 算出属性のリストから、削除する算出属性を選択します。
- 4 [削除]をクリックします。[計算の削除]ダイアログが開きます。
- 5 選択した算出属性を削除することを確認します。これにより、選択した算出属性の設定が削除されます。
- 6 削除した属性は、引き続きダイアログで使用できます。属性の除去、非表示、または編集の有効化については、「[属性定義](#)」(423ページ)を参照してください。

## 式について

### 数値属性の式について

式では、数値を使用するか、数値属性を参照できます。これらは異なるクラスの属性であっても構いません。式では、括弧を使用して計算の優先順位を変更することができます。

### 英数字またはテキスト属性の式について

式では、テキストを使用するか、同じクラスの英数字またはテキスト属性を参照できます。英数字またはテキスト属性は、別の英数字またはテキスト属性や、静的なテキストと連結することができます。

英数字またはテキスト属性では、+演算子(テキストの連結)のみがサポートされます。

- 1 同じクラスの数値属性を参照するには、次の手順を実行します。
  - a [計算の作成]または[計算の編集]ダイアログの[関連クラス]オプションがオフになっている必要があります。
  - b [属性の挿入]ボックスで、目的の属性を選択し、[挿入]をクリックします。
  - c 静的な数値を挿入するには:  
[式]ボックス内で目的の位置をクリックし、数値を入力します。
  - d 演算子を挿入するには:  
[演算子の挿入]ボックスで、目的の演算子を選択し、[挿入]をクリックします。
- 2 別のクラスの数値属性を参照するには、次の手順を実行します。

他のクラスの数値属性を参照するには、2つのクラスに関係がなければなりません(「[関係の定義](#)」(470ページ)を参照してください)。他のクラスの数値属性を使用する際には、集計関数Sum、Average、Min、Maxのみを使用できます。

  - a [関連クラス]オプションが選択されていることを確認し、関連するクラスを選択します。
  - b [属性の挿入]ボックスで、目的の属性を選択し、[挿入]をクリックします。
  - c 関数を挿入するには  
[関数の挿入]ボックスで、目的の関数を選択し、[挿入]をクリックします。
- 3 英数字またはテキスト属性を参照するには、次の手順を実行します。

- a [計算の作成] または [計算の編集] ダイアログの [関連クラス] オプションがオフになっている必要があります。
- b 英数字またはテキスト属性を挿入するには、次の手順を実行します。  
[属性の挿入] ボックスで、目的の属性を選択し、[挿入] をクリックします。
- c 静的テキストを挿入するには：  
[式] ボックス内で目的の位置をクリックし、一重引用符で囲んだテキストを入力します (例: 'Your Text')。
- d テキストを連結するには：  
[演算子の挿入] ボックスで、[+] を選択し、[挿入] をクリックします。

#### 4 別のクラスのリスト属性を参照するには、次の手順を実行します。

リンクされた要件に基づいて特定の条件に一致する必要がある場合には、別のクラスのリスト属性を参照することが役立つ場合があります。例：

Product\_Requirement と Function\_Requirement の2つのクラスがあります。これらの2つのクラス間の関係 (リンク) については、Product\_Requirement は親で、Function\_Requirement は子です。どちらのクラスにも、Low、Medium、High の値を持つリスト属性 "Security" が存在します。算出リスト属性を使用すると、1つのリンクされた Function\_Requirement の Security 属性で Low が選択されている場合に、Product\_Requirement の Security 属性にも Low が表示されるということを定義できます。

- a [関連クラス] オプションが選択されていることを確認し、関連するクラスを選択します。
- b [算出属性] ボックスで、算出された値を受け取る属性を選択します。
- c [属性の挿入] ボックスで、目的の属性を選択します。



**重要!** 算出属性は、属性の挿入の属性と同じ値を持っている必要があります。

- d [関数の挿入] ボックスで、[最大値] または [最小値] を選択し、[挿入] をクリックします。



#### 注記



関数の挿入では、親クラスの属性に反映される値を定義します。

- **最小値:** 最も小さな値が反映されます。
- **最大値:** 最も大きな値が反映されます。

#### 例:

属性に Val1、Val2、Val3、Val4 の値が存在します。属性の Val2 と Val3 のみが要件で使用されます。

- **最小値:** 値 Val2 が反映されます。
- **最大値:** 値 Val3 が反映されます。

- e [値の順序付け] をクリックします。[値の順序付け] ダイアログが開きます。
- f [最大値から最小値への順序で並べる] リストで、項目をドラッグアンドドロップするか、項目を選択して  または  をクリックして項目の順序を変更します。
- g [OK] をクリックして [値の順序付け] ダイアログを閉じます。

## Web フォームの定義

Dimensions RMで定義された各クラスに格納されたデータを表示するのに使用するフォームの管理に変更が加えられています。フォームがデータベースに保存されるようになったため、インスタンス管理者はブラウザーの [フォーム] タブを使用して内容の管理と変更を行うことができるようになっています。

フォーム定義機能により、ユーザーが一般的なクラスのオブジェクトの表示、作成、または変更に利用できるようにローカルカスタマイズした内容を提供できます。

### フォームのセクション:

フォームのカスタマイズの経験がなく、これまでデフォルトを使用していたお客様向けに、フォームに通常含まれるセクションの概要説明を以下に示します。

クラスのフォームは、スキーマ定義で定義されたクラスに基づいてセクションで区切られます (「[クラスの定義](#)」(463ページ) を参照)。たとえば、以下はデフォルトフォームに含まれるセクションの一部です。未使用のセクションは定義されていても、フォームには表示されません。

- **ワークフロー履歴 (状態の履歴)** - クラスでワークフローが有効になっている場合、このセクションはフォームの上部に表示され、その内容は定義された状態と遷移内でステータスによって管理されます。
- **標準** - 標準セクションで管理される属性は、要件ID、タイトル、説明です。
- **カスタム** - デフォルトフォームのカスタムセクションには、一般クラス定義またはインスタンス管理者によって定義された属性が含まれます。

デフォルトフォームには、システムによって管理される重要な属性のほか、添付ファイル、リンク、履歴、コンテナー、プロセスに基づいて定義されたセクションも含まれます。

Web フォームとその定義の詳細については、『Dimensions RM Administrator's Guide』の「**Customizing Web Forms**」を参照してください。

フォームはブラウザーで変更できます。また、ローカルシステムにダウンロードして変更を行い、それをシステムがアクセスするデータベースにアップロードすることもできます。

フォームを変更したことがない場合は、サンプルインスタンスのフォームを使用してこの機能を試すことができます (「[サンプルインスタンス](#)」(22ページ) を参照)。

[フォーム] ダイアログにアクセスするには、「[Web フォームの管理](#)」(452ページ) の手順に従ってください。

## Web フォームの管理

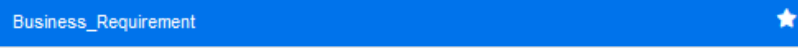
フォーム管理にアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [属性設定] を選択し、[フォーム] タブを選択します。

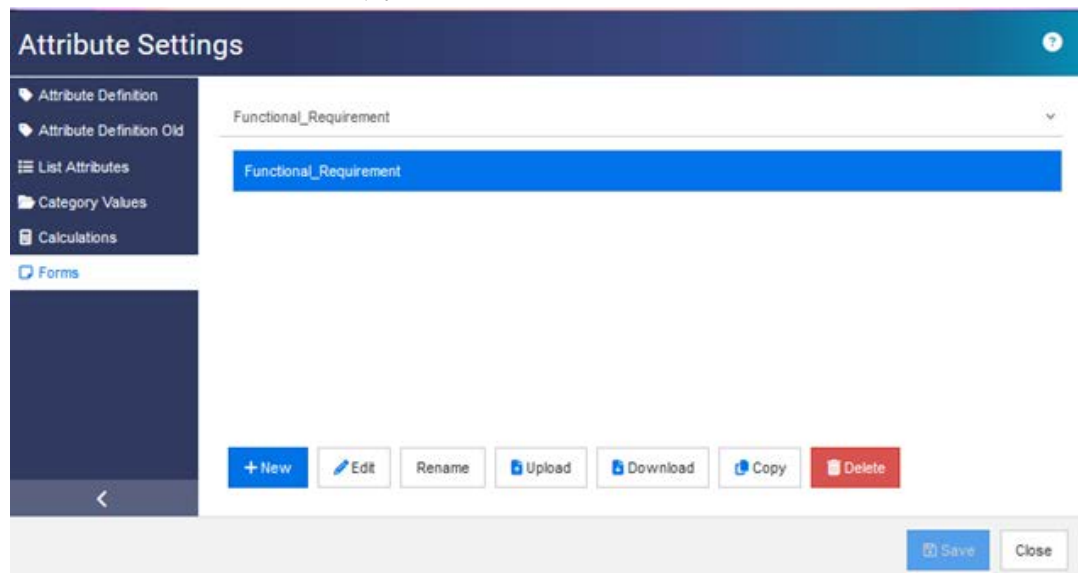
このフォームには、以下のオプションがあります。

- a **新規**: 選択したクラスの新しいカスタムフォームを作成します。これは、新しいクラス、またはそれまでデフォルトフォームを使用していたクラス用に新しいフォームを作成する場合に使用します。
- b **編集**: ブラウザーで選択したフォームを開いて変更します。
- c **名前の変更**: 選択したカスタムフォームに新しい名前を割り当てます。

- d **ダウンロード**: 変更を行うため、フォームをローカルワークスペースにダウンロードします。
  - e **アップロード**: ローカルで変更したファイルをアップロードします。ユーザーは、ローカル作業領域にフォームを**ダウンロード**し、詳細な手順 (『Dimensions RM Administrator’s Guide』の「**Customizing Web Forms**」を参照) に基づいてレイアウトを変更し、変更したフォームをアップロードできます。
  - f **コピー**: 選択したフォームのコピーを作成します。
  - g **削除**: 選択したフォームを**除去**します。
- 2 ドロップダウンから、関連する**クラス**を選択します。
  - 3 選択したクラスにカスタマイズされたフォームが関連付けられている場合は、[図 11-10](#)、「[ **フォーム** ] **ダイアログ**」に示すように、クラス名がクラスのドロップダウンの下に表示されます。  
 フォームに星印が付いている場合、これはアクティブなフォーム、つまり、表示または変更のためにクラスのオブジェクトが開かれているときにインスタンスで使用されているフォームです。



- 4 選択したクラスがDimensions RMのデフォルトを使用して属性を表示している場合、フォームを変更するには、[ **新規** ] オプションを使用してカスタムフォームを作成する必要があります。
  - a 利用可能なオプションから [ **新規** ] を選択します。[ **フォームの追加** ] ダイアログが表示されます。
  - b 最初のフォームの作成をデフォルトに基づいて行うには、[ **デフォルトフォームに基づく** ] をチェックし、[ **OK** ] をクリックします。
  - c 独自のセクションを含むまったく新しいフォームを作成する場合、このボックスはオフのままにしておくことができます。



**図 11-10.** [ **フォーム** ] **ダイアログ**

- 5 フォームを編集するには、「[ローカライズしたフォームの編集](#)」(454ページ) を参照してください。

## ローカライズしたフォームの編集

以下の説明では、新しいセクションを作成し、そのセクションに属性を追加する方法を説明します。この説明では、サンプルインスタンス「ALM\_DEMO」を使用します。

フォームに新しいセクションを追加する前に、新しいセクションを設定するのに使用する複数の新しい属性を作成できます。「[属性定義](#)」(423ページ)を参照してください。

新しいセクションを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [属性設定] を選択し、[フォーム] タブを選択します。
- 2 ドロップダウンから、フォームを変更するクラスを選択します。  
ALM\_DEMOの **Functional\_Requirement** クラスに使用されるフォームを変更します。
- 3 クラスを強調表示し、[編集] をクリックします。  
[編集フォーム] ダイアログが表示されます。
- 4 [セクションの追加] を選択し、セクションに「Test Section」という名前を付けます。
- 5 このセクション (Test Section) を強調表示し、[フィールドの追加] をクリックします。
- 6 [フィールドの追加] では、新しいセクションに追加できるすべての属性が表示されます。新しいセクションに追加する属性を1つまたは2つ選択します。
- 7 [保存] および [閉じる] をクリックします。
- 8 [新規] ドロップダウンを使用し、変更するために選択したクラスの新しい要件を作成します。  
新しいセクションを見つけます。矢印を使用してセクションを移動します。

## アジャイルの設定

アジャイルの設定を行うには、管理者によってクラスと関係が作成され、そのインスタンスでアジャイルが有効になっている必要があります。クラスおよび関係の作成の詳細については、『Dimensions RM Administrator's Guide』の「Agile」を参照してください。アジャイルを有効にするには、「[アジャイル](#)」(84ページ)を参照してください。



**注記** エピック、フィーチャー、ストーリー、タスクには、複数のクラスを使用できます。このため、1つのプロダクトで異なる属性セットを使用できます。たとえば、プロダクトが自動車の場合、ソフトウェア用以外の属性が必要になる場合があります。エピック、フィーチャー、ストーリー、またはタスクで複数のクラスを使用するには、まずスキーマ定義ツールでクラスと関係を作成してから、以下の説明に従ってそれらを設定する必要があります。

### [アジャイル設定] ダイアログを開くには

[管理] メニューから [アジャイル設定] を選択します。[アジャイル設定] を選択するには、お使いのユーザーアカウントが管理者グループに含まれている必要があります。

## プロダクト

プロダクトマッピングは必須設定です。

プロダクトマッピングを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [アジャイル設定] を選択します。[アジャイル設定] ダイアログが開きます。
- 2 [プロダクト] を選択します。
- 3 [プロダクトマッピング] セクションで、[プロダクトクラス] ボックスから、アジャイルのプロダクト機能への割り当てで使用するクラスを選択します。
- 4 [同等フィールドの選択] セクションで、アジャイルのプロダクト属性で使用する属性を選択します。
- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [閉じる] をクリックします。

## リリース

リリースマッピングはオプション設定です。この設定が設定されていない場合、アジャイルでリリースを使用することはできません。

リリースマッピングを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [アジャイル設定] を選択します。[アジャイル設定] ダイアログが開きます。
- 2 [リリース] を選択します。
- 3 [リリースマッピング] セクションで、[リリース] ボックスから、アジャイルのリリース機能への割り当てで使用するクラスを選択します。
- 4 [同等フィールドの選択] セクションで、アジャイルのリリース属性で使用する属性を選択します。
- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [閉じる] をクリックします。

## スプリント

スプリントマッピングはオプション設定です。この設定が設定されていない場合、アジャイルでスプリントを使用することはできません。

スプリントマッピングを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [アジャイル設定] を選択します。[アジャイル設定] ダイアログが開きます。
- 2 [スプリント] を選択します。
- 3 [スプリントのマッピング] セクションで、[スプリント] ボックスから、アジャイルのスプリント機能への割り当てで使用するクラスを選択します。

- 4 [同等フィールドの選択] セクションで、アジャイルのスプリント属性で使用する属性を選択します。
- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [閉じる] をクリックします。

## エピック

エピックマッピングはオプション設定です。この設定が設定されていない場合、アジャイルでエピックを使用することはできません。

エピックマッピングを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [アジャイル設定] を選択します。[アジャイル設定] ダイアログが開きます。
- 2 [エピック] を選択します。
- 3 [エピックのマッピング] セクションで、[エピック] ボックスから、アジャイルのエピック機能への割り当てで使用するクラスを選択します。
- 4 [同等フィールドの選択] セクションで、アジャイルのエピック属性で使用する属性を選択します。
- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [閉じる] をクリックします。

## フィーチャー

フィーチャーマッピングはオプション設定です。この設定が設定されていない場合、アジャイルでフィーチャーを使用することはできません。

フィーチャーマッピングを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [アジャイル設定] を選択します。[アジャイル設定] ダイアログが開きます。
- 2 [フィーチャー] を選択します。
- 3 [フィーチャーマッピング] セクションで、[フィーチャー] ボックスから、アジャイルのフィーチャー機能への割り当てで使用するクラスを選択します。
- 4 [同等フィールドの選択] セクションで、アジャイルのフィーチャー属性で使用する属性を選択します。
- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [閉じる] をクリックします。

## ストーリー

ストーリーマッピングはオプション設定です。この設定が設定されていない場合、アジャイルでフィーチャーを使用することはできません。


ストーリーマッピングを編集するには、次の手順を実行します。



- 1 [管理]メニューから[アジャイル設定]を選択します。[アジャイル設定]ダイアログが開きます。
- 2 [ストーリー]を選択します。
- 3 [ストーリーのマッピング]セクションで、[ストーリー]ボックスから、アジャイルのストーリー機能への割り当てで使用するクラスを選択します。
- 4 [同等フィールドの選択]セクションで、アジャイルのストーリー属性で使用する属性を選択します。
- 5 [保存]をクリックします。
- 6 [閉じる]をクリックします。

## アジャイルマッピングのクリア

1つのアジャイルマッピングをクリアするには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[アジャイル設定]を選択します。[アジャイル設定]ダイアログが開きます。
- 2  をクリックします。
- 3 [リセット]をクリックして、次のメッセージを確認します。

すべてのアジャイルマッピングをクリアするには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[アジャイル設定]を選択します。[アジャイル設定]ダイアログが開きます。
- 2 [リセット]をクリックします。
- 3 [リセット]をクリックして、次のメッセージを確認します。

## RMスキーマの概要

このセクションでは、RM Browserの[スキーマ定義]ダイアログで利用可能な機能について説明します。



### 注記

- 現在、管理者機能をRM ManageのClass DefinitionツールからRM Browserに移行中で、まだ完了していません。詳細については、「[インスタンススキーマエディターにない機能 \(460 ページ\)](#)」を参照してください。
- Internet Explorerでは、スキーマの編集機能は使用できません。編集にはEdge、Chrome、またはFirefoxを使用してください。

このセクションでは、スキーマ定義の概要と、次の項目について説明します。

- スキーマを設計する前に考慮すべき事項: 「[クラスを定義する前の考慮事項 \(458 ページ\)](#)」を参照してください。

- スキーマへのアクセスとロック解除：「[インスタンススキーマのオープンとロックの解除](#) (461 ページ) を参照してください。
- グリッドの設定と操作に関するヒント：「[スキーマグリッドの操作](#) (461 ページ) を参照してください。
- クラス定義の詳細：「[スキーマクラスの作成](#) (462 ページ) を参照してください。

スキーマ定義プロセス (RM Manageのクラス定義) は、使用するクラスを定義する重要なステップであり、チームにとって意味のあるプロセスによって管理されます。新しいインスタンスは、**システム管理者**がRM Manageを使用して作成する必要があります。『Administrator's Guide』の「Managing Instances」を参照するか、システム管理者に要求を提出してください。

スキーマは、あるインスタンスから別のインスタンスに**デプロイ**できます。組織のメンバーが会社の用語集を使用してプロセスを開発した場合、システム管理者は、新しいインスタンスにフレームワークを提供できます。ユーザーは、このフレームワークに基づいて、独自の環境を構築できます。

インスタンスが作成された後は、各要件の**クラス** (タイプ) (ビジネス、機能、ソフトウェア、システムなど)、クラスに含まれる属性、属性間の関係、およびそれらを結合するプロセスの定義は、**インスタンス管理者**の責任です。チームがDimensions RMおよびそのコンセプトと機能に慣れてきたら、いつでもプロセスを拡張することが可能です。属性の追加や非表示、関係の追加または変更、ワークフローの追加または変更が可能です。Dimensions RMは、プロセスの改善を念頭に置いて開発されました。

インスタンスのクラスを定義することで、以下のことが可能になります。

- わかりやすい要件タイプに従って情報を整理します。
- 定義された属性に従って、各クラス内の情報を修正します。これによって、ユーザーは特定の条件 (優先度、作成日、コンポーネント、関係者など) に基づいてインスタンスを検索できるようになります。
- トレーサビリティのためにクラス間の関係を管理します。

Dimensions RMユーザーは、各インスタンスに対して論理情報モデルを作成できます。このモデルは、クラスと関係の定義をグラフィックで表したスキーマ定義図で、図を使用して作成されます。

## クラスを定義する前の考慮事項

クラスを定義する前に、モデル化する情報のタイプとスコープを評価することが重要です。次の情報は、インスタンスを理解して最も効果的なモデルを開発するのに役立ちます。

組織に存在する**アプリケーションまたはコンポーネントのタイプ**を特定します。実現可能性調査やプロトタイプ、本格的な開発プロジェクトがあるかどうかを確認します。これにより、プロジェクトのフェーズを決定し、どの程度の情報をモデル化する必要があるか、どこに重点を置くべきか、どのような種類のレポートが必要になるのかを判断することができます。

**文書化とレポート作成の要件**を評価します。これらはプロジェクトのタイプによって異なり、また、組織が過去に作成した可能性のあるレポートの影響も受けます。たとえば、実現可能性調査の場合、リスク評価が主要な問題となるため、おそらくリスクの高いコンポーネントまたは変更についてレポートを作成する必要があります。

プロジェクトの連続するフェーズを通じてモデル化および追跡する必要がある**顧客情報**や**機密情報**を特定します。

情報のどのサブセットが最も重要か、あるいは最も有用であるかを評価します。

過去の経験が、モデル化する必要のある情報を特定する上でどのように役立つかを検討します。既存のDimensions RM情報モデルの修正版を使用できる場合があります。

プロジェクトの開発フェーズを特定します。

機能仕様など、初期フェーズに必要な情報クラスを特定します。

テスト結果（ユニットテスト、統合テスト、受け入れテスト）など、最終フェーズに必要な情報クラスを特定します。

フェーズ間で必要な情報フローを決定します。これはクラス間の関係を識別するのに役立ちます。

一部のプロジェクトがオフサイト開発チームに外注され、情報の分割が必要となるかどうかを判断します。

利用可能な情報の詳細レベルを評価し、情報の構造に関するいくつかの基本的な前提を把握します。情報評価は、次のリストに示すような情報モデルの構造を決定するのに役立ちます。

**非常に一般的:** 運用シナリオやマーケティング計画などの一般情報または要約情報。

**上位レベル:** デザイン上の制約、目的の機能、ソリューションに含めるべきではない要素をカバーする、システム仕様の説明などの上位レベル情報。

**詳細:** 実装レベルの詳細を指定するサブシステム仕様などの詳細情報。

**下位レベル:** 特定のバージョンのソフトウェアまたはハードウェアの要件など、下位レベルの詳細。

次のような運用パラメーターを評価および定義します。

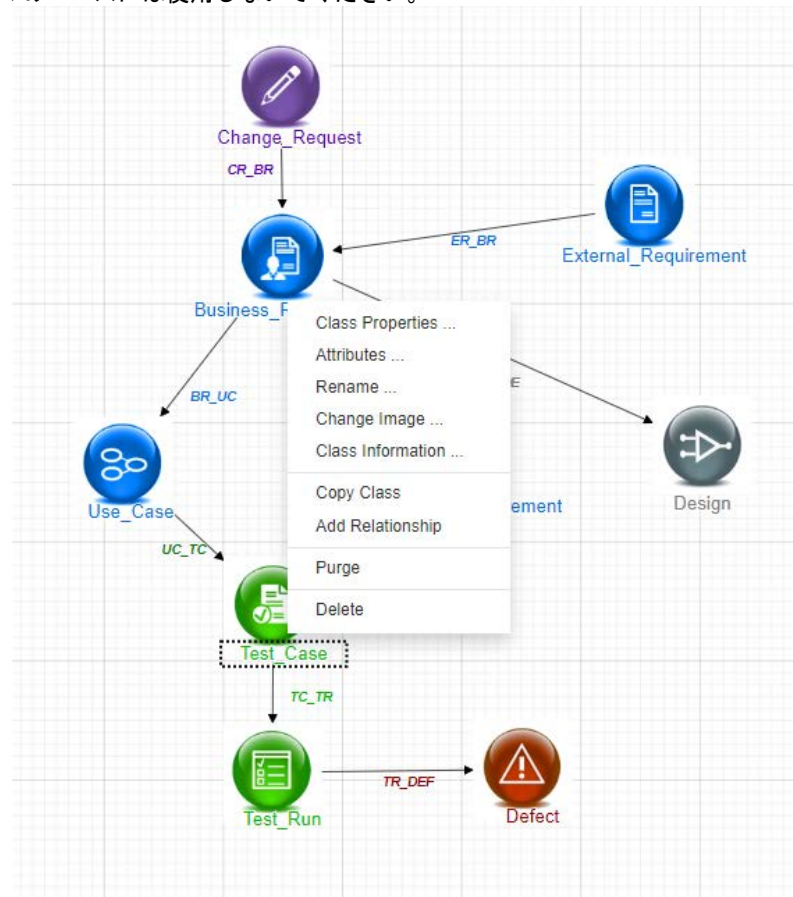
要件、他のプロジェクト情報、CASE ツールによって生成された情報の間で必要な追跡レベル。

プロジェクトチームのメンバー、その担当業務、特定のフェーズのさまざまなタイプのプロジェクト情報で各メンバーに必要となるアクセス権限。グループ、ユーザー、カテゴリの権限は、作成する必要があるクラス、各クラスに関連付けるドキュメント、データの論理的な内訳を決定するのに役立ちます。

生成されたレポートを特定することで、後で検索、並べ替え、印刷に必要な属性を決定することができます。

以下の図は、ALM\_Demo サンプルインスタンスのスキーマ定義です（「[サンプルインスタンス](#)」(22 ページ) を参照）。

これらのサンプルは、アイデアの源として便利であり、テストにも使用できますが、新しいインスタンススキーマのベースには使用しないでください。



## インスタンススキーマエディターにない機能

従来は、スキーマ管理の多くが、RM管理に使用されるツールであるRM ManageのClass Definition機能を使用して実行されていました。RMは新しいリリースごとに、管理者機能をRM Browserに移行してきましたが、以下の機能はまだ移行が完了していません。

- スキーマのデプロイメント - 選択したスキーマは、システム管理ツールのRM Manageを使用してデプロイできます。詳細については、『Administrator's Guide』を参照してください。
- あるクラスから別のクラスへのワークフローのコピーは、Class Definitionツールで実行できます。詳細については、『Administrator's Guide』の「Class Definition」を参照してください。
- カスタムクラスタイプの定義 - Browser Schema Definitionツールでは、数十の利用可能なクラスから1つを選択し、完全に変更してから保存し、コピーすることができます。新しいクラスタイプを作成して設定するには、『Administrator's Guide』の「Class Definition」を参照してください。

## インスタンススキーマへのアクセス

### インスタンススキーマのオープンとロックの解除

インスタンス管理者の役割が割り当てられているユーザーは、[管理]メニューから[スキーマ定義]または[属性設定]を選択し、ダイアログを使用してスキーマを変更できます。スキーマを開くとロックされ、そのユーザーだけがインスタンススキーマに変更を加えられるようになります。

ロックされたスキーマを開こうとすると、[スキーマはロックされています]というダイアログが表示され、スキーマを現在ロックしているユーザーが示されます。

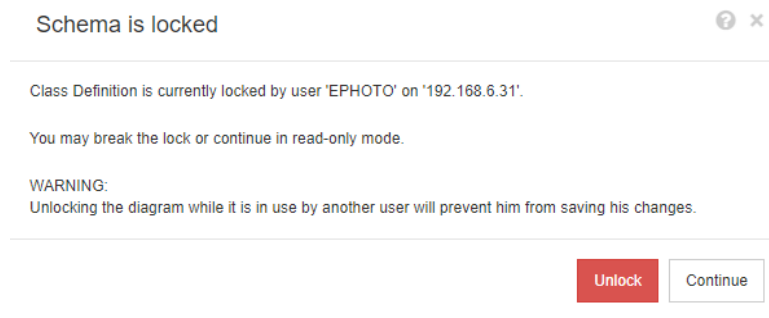



図 11-11. インスタンススキーマはロックされています


表示されたユーザーが、もうインスタンススキーマを変更していないことが確実である場合は、[ロック解除]を選択してロックをリセットし、スキーマを読み取り/書き込みモードで開きます。または、[続行]を選択して、スキーマを読み取り専用モードでロードすることもできます。

スキーマに変更を保存するには、ツールバーの  をクリックします。


インスタンススキーマを再ロードするには、ツールバーの  をクリックします。

### インスタンススキーマの保存

スキーマを変更する場合は、変更を加えてスキーマを保存し、終了するのがベストプラクティスです。

インスタンススキーマを保存するには、ツールバーの  をクリックします。

### インスタンススキーマの再ロード

インスタンススキーマを再ロードするには、ツールバーの  をクリックします。

## スキーマグリッドの操作



**注記** Internet Explorerでは、編集機能は使用できません。編集にはEdge、Chrome、またはFirefoxを使用してください。

### キャンバスグリッド

グリッドは、キャンバス上に等間隔に配置されたポイントのセットで、移動したコンポーネントを整列させるために使用します。グリッドにスナップさせるオプションが有効になっている場合、コンポーネントを移動すると、コンポーネントの左上隅がグリッドポイントに合うように配置されます。グリッドにスナップさせる機能は、[グリッド]メニューから[スナップ]を選択することで有効と無効を切り替えることができます。グリッドの表示は、[グリッド]メニューから[表示]を選択することでオンとオフを切り替えることができます。

グリッドのポイント間の距離を変更するには、[グリッド]メニューから[スペース]を選択します。

### 図のパンニング

図をパンするには、図の背景をクリックして目的の方向に移動します。

### オブジェクトの選択

単一のコンポーネントを選択するには、選択モードで左クリックします。複数のコンポーネントを選択するには、Ctrlキーを押しながら、選択対象の各コンポーネントを左クリックするか、クリックしてドラッグし、長方形の選択範囲を描きます。

### 図のズーム

ズームをすばやく変更するために、マウスホイールを使用できます。または、[ズーム]メニューから次のオプションを使用することもできます。

**ズーム率:** スライダーを右に動かすとズームインし、左に動かすとズームアウトします。

**100%:** 図を100%の大きさ(元のサイズ)にします。

**サイズに合わせてズーム:** 図を拡大縮小して、図の中のすべてのコンポーネントがウィンドウ内に表示されるようにします。

**選択項目に合わせてズーム:** 図を拡大縮小して、選択したすべてのコンポーネントがウィンドウ内に表示されるようにします。複数のコンポーネントを選択するには、Ctrlキーを押しながら、選択対象に追加するクラスまたは関係を左クリックします。

## スキーマクラスの作成

Dimensions RMスキーマの実装または拡張の際には、ユーザーが使い慣れた規則がクラス名(要件タイプ)に反映される必要があります。チームがスプレッドシート、Wordファイル、または別のソリューションで要件を管理している場合は、類似した名前を使用して、Dimensions RMでクラスを作成することをお勧めします。こうすることで、移行が容易になります。

[スキーマ定義]ダイアログの[新規]ドロップダウンには、利用可能な多数の要件クラスがあり、これからも増える予定です。任意の要件タイプに対してベースとして使用できる要件クラスのほか、ユースケース、リリース、テストケース、スプリント、ストーリーのクラスもあります。各クラスには、簡単に使用できる便利な属性のセットが含まれますが、ほぼすべての属性(例外は下記)を変更して選択することが可能です。Dimensions RMは、すべてのクラスについて、「誰が、いつ、何をしたのか」を判断するために必要な情報を自動的に格納します。

作業が進み、要件の数が増加したり、ニーズが拡大したりした場合は、いつでも属性を定義済みのクラスに追加し、レポート作成や検索に役立てることができます。

次のクラスは定義済みで、内部でのみ使用します。

**注意!**

**Poll**クラスは内部でのみ使用するクラスであるため、変更することはできません。

**Chapter**クラスは、ドキュメントの作成をサポートするために使用されます。次の属性を変更したり、名前を変更したりしないでください。

- Chapter Description
- Chapter Type
- CM Associations short
- Doc Description
- Hide Chapter Number
- Reason for Change
- Title

次の操作は可能です。

- 属性を追加する
- [**Hide Chapter Number**] 属性を表示または非表示にする

**注意!**

**Comment**クラスは、データベースオブジェクトに関するディスカッションのために内部でのみ使用されます。次のCommentクラスの属性を変更したり、名前を変更したりしないでください。

- Comment
- Subject

Commentクラスに属性を追加できます。

スキーマの編集機能の詳細については、「[スキーマグリッドの操作](#)」(461ページ)を参照してください。

クラスを追加し、関連するすべての関数にアクセスするには、「[クラスの定義](#)」(463ページ)を参照してください。

## クラスの定義

クラスを新たに選択するために、クラスのリストが用意されました。内容は変更不能ではなく、使用を開始するための出発点です。どれがニーズに最適であるかわからない場合は、追加、レビュー、検討、削除が可能です。汎用の要件クラスは、出発点として最適です。

クラスを追加するには、次の手順を実行します。


- 1 **[新規]** メニューからクラスタイプを選択するか、グリッド上の目的の場所にカーソルを移動して右クリックし、[クラスの追加]を選択して、リストから該当するタイプを選択します。

すぐに使える属性のセットを含む、さまざまなタイプが定義されています。不明な場合は、タイプを選択して保存し、データを作成して、ニーズに合っているかどうかを確認してください。属性を追加または削除したり、クラスを削除して別のタイプを試したりすることができます。

- 2 クラスを配置する場所にカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。[ **クラスの追加** ] ダイアログが開きます。
- 3 クラスの一意の名前を入力します。クラスに保持されているデータを表す名前にします。



**注意!** クラス名は、「[クラスの命名規則](#)」(498 ページ) で指定されている規則に従う必要があります。

- 4 [ **OK** ] をクリックして、指定した名前のクラスをインスタンススキーマに追加します。
- 5  をクリックして、インスタンススキーマを保存します。

クラスの定義を完了するには、新しいクラスを右クリックします。

メニューには以下のアクションがリストされています。すべてのアクションが有益ですが、初期設定に重要なアクションは**太字**で表示されています。

**タイトルと説明の割り当て:** 「[クラスプロパティ: \[プロパティ\] タブ](#)」(464 ページ) を参照してください。

**スキーマ表示に使用される色とフォント:** 「[クラスプロパティ: \[スタイル\] タブ](#)」(465 ページ) を参照してください。

**クラスのグループ権限の変更:** 「[クラスプロパティ: \[セキュリティ\] タブ](#)」(465 ページ) を参照してください。

**クラス属性の定義:** 「[属性定義](#)」(423 ページ) を参照してください。

**クラス名の変更:** 「[クラス名の変更](#)」(466 ページ) を参照してください。

**アイコンの変更:** 「[クラス画像の変更](#)」(467 ページ) を参照してください。

**クラス情報の列挙:** 「[クラス情報](#)」(467 ページ) を参照してください。

**既存のクラスからのクラスのコピー:** 「[クラスのコピー](#)」(467 ページ) を参照してください。

**新規または既存のクラスへの関係の追加:** 「[関係の定義](#)」(470 ページ) を参照してください。

**新規作成、内容のクリア:** すべてのデータの削除と新規作成: 「[クラスデータの完全削除](#)」(468 ページ) を参照してください。

**スキーマからのクラスの除去:** 「[クラスの削除](#)」(468 ページ) を参照してください。

**スキーマ構成の全部または一部のエクスポート:** 「[スキーマ設定のエクスポート](#)」(468 ページ) を参照してください。

### クラスプロパティ: [プロパティ] タブ

クラスを右クリックし、[ **クラスプロパティ** ]、[ **プロパティ** ] タブを選択して、クラスの説明、属性、設定を指定します。

**クラスに関する記述**は、インスタンススキーマで定義されるすべての項目に関連付けることが可能です。実際にそうすることをお勧めします。クラスに関する記述は、クラスの内容や内容の定義を担当するチームを明確にするのに役立ちます。たとえば、ビジネス要件クラスには、次のような説明を割り当てることができます。「ビジネスアナリストとプロダクトマネジメントによって定義され、レビューされる要件」。



**デフォルトのタイトル属性:** クラス内で定義された属性のうちの1つで、クラスオブジェクトを表示する際にタイトルとして使用されます。名前やタイトルとして定義されている属性を使用できますが、任意の英数字属性も使用可能です。

**デフォルトの説明属性:** 説明として使用されるテキスト属性です。通常は、要件のステートメント (記述) が使用されます。

**デフォルトのPUID属性:** PUID (永続的一意ID) は、要件を管理するためにRMによって使用されます。PUIDによって、一意に識別されるオブジェクトに対して、変更を維持できます。属性のデフォルト値は、PUIDに割り当てられた表示名です。

**ワークフローを有効にする:** クラスのワークフローを有効にするチェックボックスです。「[ワークフローの作成または編集](#)」(480ページ)を参照してください。

**フォーム上の属性のサイズを自動設定:** このオプションをチェックすると、長さの異なる属性がフォーム上で均等に配置され、均整の取れたレイアウトになります。

このほかにも、フォーム上の属性の配置を制御するためのメカニズムがあります。『Dimensions RM Administrator's Guide』の「Customizing Web Forms and Templates」を参照してください。

**非表示クラス:** これは、Dimensions RM内で作成され、RM制御データの管理に使用される特別なクラス用に予約された設定です。このタイプのクラスは、たとえば、**Test Run Steps**です。

**Test Run Steps**クラス内のオブジェクトは、テスト検証情報を取得するためにテスト管理の一部として生成されます。テスト実行の外部では変更できません。このクラスは、ユーザーが直接入力したり変更したりすることはできません。

**親カテゴリの作成:** この設定は、ProductクラスとProjectクラスの作成時のみ使用できます。親カテゴリの作成は、明確な体系内で基本的なアプリケーション (プロダクトなど) を管理し、バリエーションをプロジェクトの下で明確に識別する場合に最も効果的です。

## クラスプロパティ: [スタイル] タブ

クラスを右クリックし、[[クラスプロパティ](#)]、[[スタイル](#)] タブを選択して、スキーマ表示の色とフォントを変更します。クラスアイコンの画像を変更するには、「[クラス画像の変更](#)」(467ページ)を参照してください。

スキーマ定義のスクリンショットは、内部プロセスのドキュメントでよく使用されます。スキーマに多数のクラスが含まれている場合、さまざまなチームとの関連性を示すためにフォントサイズと色を変更することができます。

スキーマ内のクラスの表示を変更するには、クラスを右クリックし、[[クラスプロパティ](#)] を選択し、[[スタイル](#)] タブを選択します。

クラス名を含むラベルは、次のいずれかまたはすべての方法で変更できます。

フォント - メニューからフォントを選択できます。

フォントサイズ - サイズを拡大または縮小します。

色 - 現在の色をクリックすると、カラーバーが表示されます。

スタイル - 太字、斜体、下線、取り消し線から選択します。

## クラスプロパティ: [セキュリティ] タブ

### クラスに対するグループ権限の設定

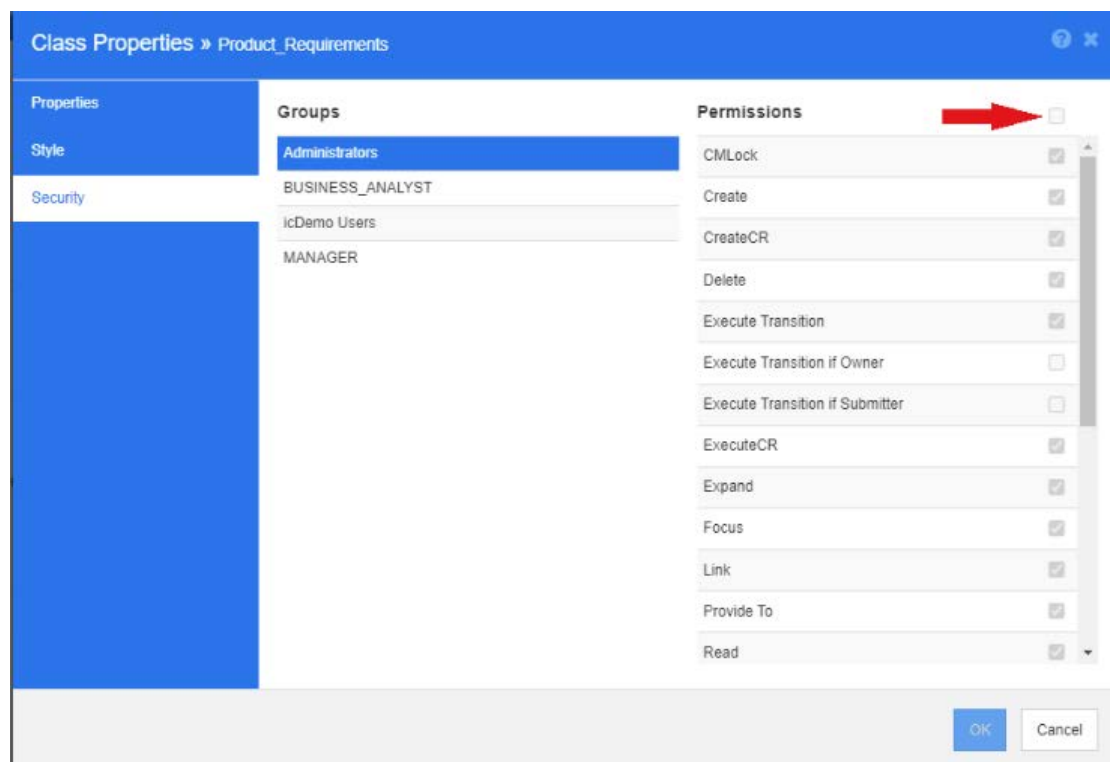
Dimensions RMでは、ユーザーが定義され、グループに割り当てられます。グループ権限の割り当ては、各クラス内で各グループに対して指定できるほか、より一般的に、複数のクラスにわたって適用される権限を持つグループごとに指定することもできます。どちらの方法が適しているかは、プロセスによって異なります。

たとえば、チームメンバー全員にビジネス要件と機能要件の両方に対して読み取りアクセス権があり、ビジネスアナリストだけがビジネス要件を変更できる場合、クラス内で権限を割り当てるほうが合理的です。

クラスのセキュリティ設定を変更するには、クラスを右クリックし、[クラスプロパティ] を選択し、[セキュリティ] タブを選択します。

左の列でグループを選択し、右の列で権限を設定します。次の図のように [権限] ボックスをチェックすると、すべての権限を設定できます。

有効なトランザクション/アクションの完全なリストについては、「[有効なトランザクション](#)」(406ページ) を参照してください。



### 属性設定

属性設定には、クラスを右クリックして、[属性] を選択し、スキーマのクラスから直接アクセスできます。


属性設定は、[管理] メニューの [属性設定] から利用できます。[属性設定] の詳細な説明については、「[属性定義](#)」(423ページ) を参照してください。

### クラス名の変更


クラスを右クリックして、ショートカットメニューから [名前の変更] を選択します。[名前の変更] ダイアログが開きます。クラスの一意的な名前を入力します。これはクラスに保持されているデータの説明とします。

クラス名は、「[クラスの命名規則](#)」(498ページ) で指定されている規則に従う必要があります。

## クラス画像の変更

クラスを作成するときは、一般クラスの画像  が使用されます。クラスの用途を反映するように画像を変更できます。さまざまな色の豊富な画像を含むフォルダーがリストアップされ、クラスのグループを簡単に区別できます。チームが独自の画像を作成して保存することも可能です。

画像を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 クラスを右クリックして、ショートカットメニューから **[画像の変更...]** を選択します。**[画像の変更]** ダイアログが開きます。
- 2 リストには水色の背景の画像が表示されています。別の背景色を使用する場合は、サブフォルダーを選択します。
- 3 画像を選択して **[OK]** をクリックします。
- 4  をクリックして、インスタンススキーマを保存します。

## クラス情報

この機能は、選択したクラスについて、ワークフロー（作成されている場合）の説明と、すべてのカスタム属性とシステム属性に関する詳細を含む印刷可能なフォームを作成します。出力には、ツールを初めて使うユーザーにも、使い慣れたユーザーにも役立つ、次のような情報が含まれます。

クラスに関する記述

ワークフロー図、ワークフローの状態と遷移の詳細

カスタム属性とその説明

システム属性とその説明

## クラスのコピー

類似の属性構造を持つ要件タイプを作成する際は、既存のクラスを右クリックして、メニューから **[クラスのコピー]** を選択します。一意の名前を割り当てるには、メニューから **[名前の変更]** を選択します。クラスの複製には、最初は元のクラスと同じ属性が含まれます。

各要件クラスに一意のプレフィックスを割り当てるようにPUIDフォーマットを変更した場合は、コピーしたクラスにも同じ変更を加える必要があることに注意してください。詳細については、**「PUID属性」(443ページ)** を参照してください。

クラスをコピー（複製）するには、次の手順を実行します。

- 1 クラスを右クリックして、**[クラスのコピー]** を選択します。
- 2 キャンバスでクラスを表示する場所を右クリックします。**[クラス]** ダイアログが開きます。
- 3 クラスの一意の名前を入力します。これはクラスに保持されているデータの説明とします。  
クラス名は、**「クラスの命名規則」(498ページ)** で指定されている規則に従う必要があります。
- 4 **[保存]** をクリックして、指定した名前のクラスをインスタンススキーマに追加します。この処理でスキーマが保存されます。



**注記** クラスを複製しても、関連するデータはコピーされません。

## クラスデータの完全削除

完全削除、つまりデータの消去は、特にツールの使用を開始した段階では便利ですが、頻繁に使用することはありません。

属性を作成し、データをインポートしてみて、結果に満足できないことは珍しくありません。属性の表示名を変更し、フォームを修正することはもちろん可能ですが、場合によってはデータを完全に削除し、すべてを最初からやり直した方が便利です。ナンバリングを1に戻してクリーンな状態に戻るか、または作業を開始した地点に戻ることができます。



**注意!** データを完全削除すると、インスタンスからオブジェクトが完全に除去されます。

クラスからデータを完全削除するには、次の手順を実行します。

- 1 クラスを右クリックして、ショートカットメニューから **[完全削除]** を選択します。 **[データの完全削除]** ダイアログが開きます。
- 2 クラス内のすべてのオブジェクトとその関連リンクを削除するには、 **[完全削除]** をクリックします。
- 3 クラスまたは関係の完全削除が正常に完了すると、成功を示すチェックマークが表示されます。完全削除が失敗した場合は、失敗を示す「x」が表示されます。「x」にカーソルを合わせると、失敗に関する詳細情報が表示されます。
- 4 **[OK]** をクリックして **[データの完全削除]** ダイアログを閉じます。

## クラスの削除

クラスを削除すると、そのクラスに関連付けられたすべてのデータがスキーマから消去されます。

クラスの削除は、コンテンツの完全削除と同様に、元に戻すことができません。管理を停止したいクラスに有益な情報が含まれる場合は、権限、他のクラスとの関係、インスタンス設定を除去することで、クラスリストから除去することができます。

インスタンススキーマからクラスを削除するには、次のいずれかを実行します。

- 削除するクラスを右クリックして、ショートカットメニューから **[削除]** を選択します。
- クラスを選択し、**Delete** キーを押します。

## スキーマ設定のエクスポート

この機能は、RMスキーマのすべてまたは一部をエクスポートします。エクスポートされたファイルは、HTML、JSON、またはプレーンテキストファイルとして保存できます。

**[スキーマ設定のエクスポート]** 機能にアクセスするには、**[管理]** メニューから **[スキーマ定義]** を選択してインスタンススキーマを開きます。スキーマを開くときに問題が発生した場合は、**「インスタンススキーマのオープンとロックの解除」** (461 ページ) を参照してください。

開いたインスタンススキーマで、上部のメニューバーから **[エクスポート]** 機能をクリックします。

- このエクスポートの出力は、選択された **クラス**、**関係** または **グループ** (またはその両方) に基づいています。
- 選択された **クラス** および **関係** について、ユーザーは暗黙の (システム) 属性、ユーザー属性、またはその両方についてレポートを作成できます。

- 選択された**グループ**の権限は、アクションセット（属性、コレクション、レポートなどに関連付けられた権限など）によって選択できます。
- 出力は、HTML、JSON、プレーンテキスト (txt) として保存できます。出力の種類は、[エクスポート] ボタンのメニューから選択します。

たとえば、次のように選択したとします。

- クラス：機能要件、ユーザー属性のみ
- 関係：選択なし
- グループ：エンジニアリング、アクションセット：すべて選択
- 出力：プレーンテキスト

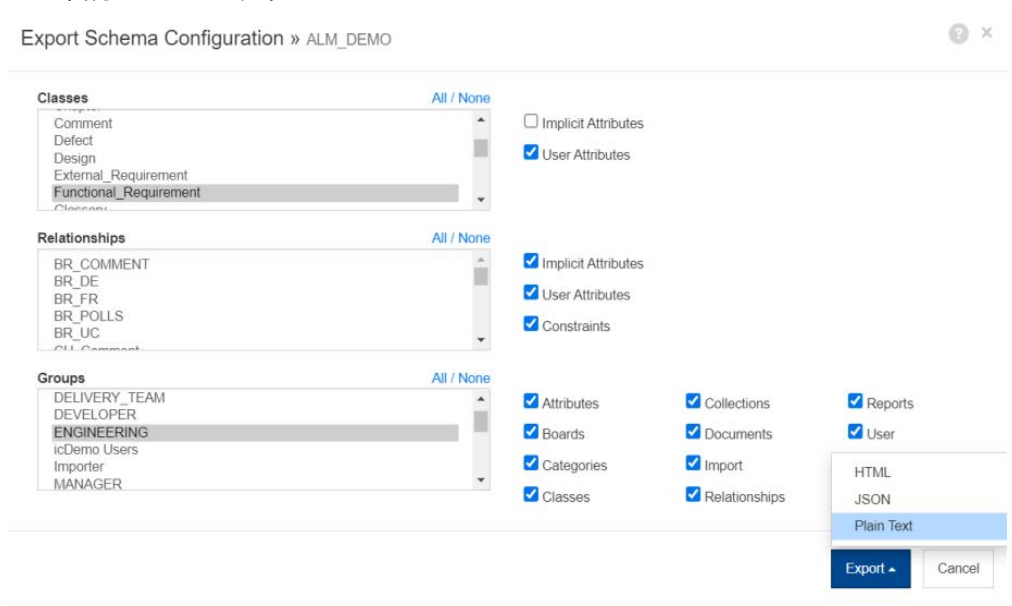


図 11-12. クラス、関係、グループ、プレーンテキストの出力を選択

結果には、選択したクラスの各属性、すべての設定と、選択した各グループのすべての権限が含まれます。以下のサンプルは、属性 **Dev Effort** の設定と、**レポートグループ** の権限を示しています。

数値属性	'Dev Effort'	開発の推定作業量
	説明	
	リリース計画に使用。	
	属性名	DEV_EFFORT
	属性は必須	False
	属性は編集可能	True
	コピー時に入力	True
	作成とリンク時に入力	True
	一意の値を強制	False
	エントリの表示	True
	変更時に要検討を提起	False
	最大文字数	10
	表示文字数	10
	最小値	<なし>
	最大値	<なし>
	デフォルト値	<なし>
レポート		
	作成	True
	作成 (公開)	True
	閲覧	True
	除去	False
	名前の変更	True
	更新	True

## 関係の定義

関係は、2つのクラス間の論理的な関連付けを表します。2つのクラスは、プライマリクラス（関係のフローの元にあるクラス）とセカンダリクラス（関係のフローの先にあるクラス）と呼ばれます。

スキーマ定義図に関係を追加すると、2つのクラス間に接続が作成され、これらのクラスタイプのオブジェクト間でリンクを作成できるようになります。たとえば、変更要求とそこから派生した要件との間にリンクを作成し、テストケースや不具合までリンクを作成することで、適切な要件管理プロセスに必要なトレーサビリティがサポートされます。

クラスと同様に、関係もスキーマ図の一部となり、制約や属性などのプロパティを持ちます。

### 新しい関係の追加

関係は、スキーマ定義の **[新規]** メニューから追加できるほか、クラス上で右クリックして追加することもできます。後者の方法のメリットは、ソースが明確で、ターゲットをクリックするだけで、関係を作成できることです。




#### 注意！

- 関係名は、「[関係の命名規則](#)」(499ページ) で指定されている規則に従う必要があります。
- どのクラスからも Chapter クラスへの関係は作成しないでください。

関係を作成するには、次の手順を実行します。

- 1 関係のソース（プライマリクラス）となるクラスを右クリックします。
- 2 メニューから **[関係の追加]** を選択します。
- 3 関係のターゲット（セカンダリクラス）にするクラスをクリックすると、**[関係の追加]** ダイアログが開きます。
- 4 組織の命名規則に従って、関係に一意の名前を入力します。たとえば、標準的な略語を使用してリンクの方向を示す、BRtoFRのような名前を付けます。

5 **[OK]** をクリックして、インスタンススキーマに関係を追加します。

6 続行する前にインスタンススキーマを保存 (  ) する必要があります。

関係の定義を完了するには、関係の線を右クリックしてメニューから選択します。すべてのアクションが有益ですが、新しい定義の場合に重要なのは最初のアクションだけです。

- **タイトル、説明、カーディナリティ、移動ルール**: [関係プロパティ: \[プロパティ\] タブ](#) を参照してください。
- スキーマ表示に使用される色とフォント: [「関係プロパティ: \[スタイル\] タブ」](#) (473 ページ) を参照してください。
- 関係制約の追加または変更: [「関係プロパティ: \[制約\] タブ」](#) (473 ページ) を参照してください。
- クラスのグループ権限の変更: [「関係プロパティ: \[セキュリティ\] タブ」](#) (474 ページ) を参照してください。
- 関係属性の定義: [「関係属性」](#) (475 ページ) を参照してください。
- 関係名の変更: [「関係の名前の変更」](#) (475 ページ) を参照してください。
- 関係のソースとターゲットの変更: [「関係の反転」](#) (476 ページ) を参照してください。
- 関係の削除: [「関係の削除」](#) (476 ページ) を参照してください。
- 関係データの完全な削除: [「関係データの完全削除」](#) (476 ページ) を参照してください。

### 関係プロパティ: [プロパティ] タブ

関係の線を右クリックし、メニューから [\[関係プロパティ\]](#) を選択します。

必要に応じて関係名を変更し、[\[説明\]](#) ボックスのテキストを編集します。

#### カーディナリティ

カーディナリティは、関係内のクラスのオブジェクト間で作成できるリンクの数を制御します。たとえば、カーディナリティが2:3 (2はプライマリカーディナリティ、3はセカンダリカーディナリティ) の場合、プライマリクラスのオブジェクトからセカンダリクラスのオブジェクトに対して作成できるリンクは2つまでです。また、セカンダリクラスのオブジェクトからプライマリクラスのオブジェクトに対して作成できるリンクは3つまでです。

プライマリクラスまたはセカンダリクラスのオブジェクトに対してリンクを作成できないことを示すには、適切なフィールドに値0を入力します。プライマリクラスまたはセカンダリクラスのオブジェクトに対して作成されるリンクの数に制約がないことを示すには、適切なフィールドに値nを入力します。

クラステストケースとテスト実行の間には、制限付きのカーディナリティが適用されます。1つのテストケースに対するテスト実行は1つのみで、セカンダリクラスであるテスト実行のカーディナリティは数字1です。

移動ルールの [\[現在のバージョンにのみ適用\]](#) ( [「現在のバージョンにのみ適用」](#) (472 ページ) ) も参照してください。

#### 移動ルール

移動ルールは、関係に参加しているオブジェクトを編集した場合にオブジェクトリンクに何が起こるかを管理します。必要な値のオンまたはオフを切り替えると、リンク移動ルールが設定されます。

次の表に、リンク移動ルールのタイプを示します。

## プライマリ:

ルールタイプ	説明
子に移動する	関係のプライマリオブジェクトが編集および置換されると、プライマリオブジェクトからのリンクが新しいバージョンにコピーされます。
親から削除する	関係のプライマリオブジェクトが編集および置換されると、前のバージョンのプライマリオブジェクトからのリンクが削除されます。
子の削除時に親に移動する	プライマリオブジェクトが除去されると、リンクはそのオブジェクトの前のバージョンに移動します。
変更時にセカンダリを要検討に指定	プライマリオブジェクトが変更されると、セカンダリオブジェクトは要検討としてマークされます。変更をトリガーする属性を制限するには、「 <a href="#">属性プロパティ</a> 」(425ページ)の属性設定[ <b>変更時に要検討を提起</b> ]を参照してください。
リンク削除時または削除の取り消し時にセカンダリを要検討に指定	プライマリオブジェクトとセカンダリオブジェクトの間のリンクが削除されるか、削除が取り消されると、セカンダリオブジェクトは要検討としてマークされます。
コンテナからの除去時にセカンダリを要検討に指定	プライマリオブジェクトがドキュメントまたはコレクションから削除されると、セカンダリは要検討としてマークされます。
作成時とリンク時に属性を入力	セカンダリオブジェクトが新しいプライマリオブジェクトを作成してそれにリンクすると、属性名(表示名ではない)が一致した場合に、属性値がセカンダリオブジェクトからプライマリオブジェクトにコピーされます。この設定は、[作成とリンク時に入力]設定が有効になっている属性にのみ適用されます(「 <a href="#">属性プロパティ</a> 」(425ページ)を参照)。
現在のバージョンにのみ適用	このオプションはカーディナリティに関連しており、プライマリカーディナリティに数値が設定されている場合にのみ有効になります。 有効にすると、ステータスが「最新」のプライマリオブジェクトのみが考慮されます。無効にすると、プライマリオブジェクトのすべてのバージョンが考慮されます。

## セカンダリ:

ルールタイプ	説明
子に移動する	関係のセカンダリオブジェクトが編集および置換されると、セカンダリオブジェクトからのリンクが新しいバージョンにコピーされます。
親から削除する	関係のセカンダリオブジェクトが編集および置換されると、前のバージョンのセカンダリオブジェクトからのリンクが削除されます。
子の削除時に親に移動する	プライマリオブジェクトが除去されると、リンクはそのオブジェクトの前のバージョンに移動します。
変更時にプライマリを要検討に指定	セカンダリオブジェクトが変更されると、プライマリオブジェクトは要検討としてマークされます。変更をトリガーする属性を定義するには、「 <a href="#">属性プロパティ</a> 」(425ページ)の属性設定[ <b>変更時に要検討を提起</b> ]を参照してください。



ルールタイプ	説明
リンクの削除時または削除の取り消し時にプライマリを要検討に指定	プライマリオブジェクトとセカンダリオブジェクトの間のリンクが削除されるか、削除が取り消されると、プライマリオブジェクトは要検討としてマークされます。
コンテナからの除去時にプライマリを要検討に指定	セカンダリオブジェクトがドキュメントまたはコレクションから削除されると、プライマリは要検討としてマークされます。
作成時とリンク時に属性を入力	プライマリオブジェクトが新しいセカンダリオブジェクトを作成してそれにリンクすると、属性名（表示名ではない）が一致した場合に、属性値がプライマリオブジェクトからセカンダリオブジェクトにコピーされます。この設定は、[作成とリンク時に入力] 設定が有効になっている属性にのみ適用されます（「 <a href="#">属性プロパティ</a> 」(425ページ) を参照）。
現在のバージョンにのみ適用	このオプションはカーディナリティに関連しており、セカンダリカーディナリティに数値が設定されている場合にのみ有効になります。 有効にすると、ステータスが「最新」のセカンダリオブジェクトのみが考慮されます。無効にすると、セカンダリオブジェクトのすべてのバージョンが考慮されます。

### 関係プロパティ：[スタイル] タブ

関係線を右クリックし、メニューから **[関係プロパティ]** を選択して、[スタイル] タブを選択します。  
フォント、サイズ、色、スタイル、関係線の色や幅を変更することも可能です。

### 関係プロパティ：[制約] タブ

関係制約を使用すると、プライマリクラスとセカンダリクラスのオブジェクト間のリンクの作成を管理するルールを作成できます。

定義されたプロセスに必要なルールのタイプによっては、ワークフローを使用する場合に、オブジェクトが遷移する前に関係を強制するワークフロー遷移を定義することもできます（「[ワークフローの編集](#)」(479ページ) を参照してください）。

制約を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 **[属性制約]** 領域で **[OR]** または **[AND]** をクリックし、指定する論理関係のタイプを指定します。
  - OR: 制約の1つが一致すると、リンクが作成されます。
  - AND: すべての制約が一致すると、リンクが作成されます。
- 2 新しい制約を追加するには、**+** をクリックします。  
新しい行がテーブルに追加され、選択した関係に基づいて **[クラス]** と **[属性]** メニューに情報が入力されます。これらのセルをクリックして、最初にクラスを選択し、次にドロップダウンメニューから属性値を選択します。
- 3 **[制約]** セル内をクリックし、ドロップダウンメニューから目的の制約タイプを選択します。  
次の制約タイプが利用できます。
  - =: 属性が値と完全に等しい。

- **!=**: 属性が値と等しくない。
- **Like**: 属性に、より大きな文字列の一部として値が含まれている。  
**Like**を使用する場合は、1つまたは複数のアスタリスク (\*) をワイルドカードとして使用し、値が属性文字列のどの部分に当てはまるかを指定します。

例:

- \*UNIXには、UNIXで終わるすべての値が含まれます (例: HP-UNIX)
  - \*UNIX\*には、UNIXを含むすべての値が含まれます (例: HP-UNIX?HP-UNIX-11?UNIX-11)
  - UNIX\*には、UNIXで始まるすべての値が含まれます (例: UNIX-11)
- **Not Like**: 属性に、より大きな文字列の一部として値が含まれてはいけません。  
**Not Like**を使用する場合は、1つまたは複数のアスタリスク (\*) をワイルドカードとして使用し、値が属性文字列のどの部分に当てはまるかを指定します。

例:

- \*UNIXは、UNIXで終わるすべての値を除外します (例: HP-UNIX)
  - \*UNIX\*は、UNIXを含むすべての値を除外します (例: HP-UNIX?HP-UNIX-11?UNIX-11)
  - UNIX\*は、UNIXで始まるすべての値を除外します (例: UNIX-11)
- 4 [値]セル内をクリックします。選択した属性がリストである場合は、表示される値のリストから値を選択します。それ以外の場合は、セルに値を入力します。



**注記** LikeまたはNot Like制約を使用する場合は、ワイルドカードとしてアスタリスクを使用します。

- 5 リンク作成時にのみ適用: 制約をリンクの作成時に限定するには、このオプションを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

制約を削除するには、行の末尾にあるゴミ箱をクリックします。

既存の制約ルールを変更するには、変更するセルをクリックして値を変更します。

## 関係プロパティ: [セキュリティ] タブ

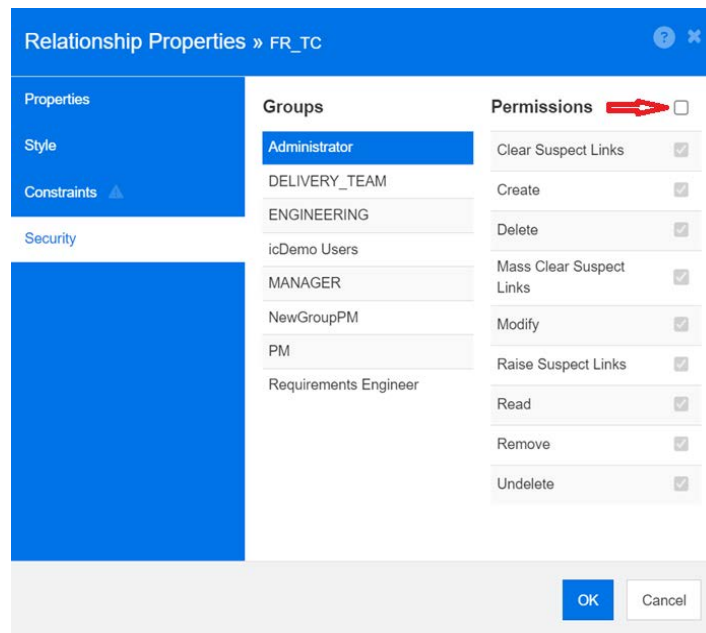
### 関係に対するグループ権限の設定

Dimensions RMでは、ユーザーが定義され、グループに割り当てられます。グループ権限の割り当ては、各関係内で各グループに対して指定できるほか、より一般的に、複数の関係にわたって適用される権限を持つグループごとに指定することもできます。どちらの方法が適しているかは、プロセスによって異なります。

すべてのグループが要検討リンクを一括でクリアできるようにすべきでしょうか? おそらく、特定のパワーユーザーだけに実行を許可したほうがよいでしょう。また、QAグループのテスト関連クラスについては、特定のクラスのすべての権限を選択することもあります。

クラスのセキュリティ設定を変更するには、クラスを右クリックし、[クラスプロパティ] を選択し、[セキュリティ] タブを選択します。

左の列でグループを選択し、右の列で権限を設定します。[権限] ボックスをチェックすると、すべての権限を設定できます。



## 関係属性

すべてのクラスオブジェクトと同様に、関係は履歴が管理されます。関係は、現在のバージョン、現在のバージョンを作成したユーザーと作成日時を追跡するために定義された暗黙のオブジェクトを使用して定義されます。この方法により、ベースラインに含まれる関係は、新しいバージョンが追加された場合にのみ変更され、ベースラインオブジェクトは変更されません。

暗黙の属性によって制御される情報以外の情報を保存するために、ユーザー属性を関係に追加できます。

関係に属性を追加するには、次の手順を実行します。

- 関係の線を右クリックし、[属性] を選択します。
- または [管理] メニューから [属性設定] 機能を使用し、クラスリストの下部の [関係の表示] を選択します。リストから関連する関係を選択します。

詳細については、「[属性定義](#)」(423 ページ) を参照してください。

## 関係の名前の変更


関係名には、関係に関連付けるデータを記述する必要があります。各関係名は、インスタンススキーマに対して一意である必要があります。



**注意!** 関係名は、「[関係の命名規則](#)」(499 ページ) で指定されている規則に従う必要があります。

関係の名前を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 関係を右クリックして、ショートカットメニューから [名前の変更] を選択します。[名前の変更] ダイアログが開きます。
- 2 関係の一意の名前を入力します。この名前には、関係に関連付けるデータを記述する必要があります。

- 3 [OK] をクリックして、関係名を変更します。
- 4 変更が完了したら、 をクリックしてインスタンススキーマを保存します。

### 関係の反転

関係が最初に作成された方向に情報が流れていないように見える場合は、関係を反転させることができます。

関係を反転させるには、次の手順を実行します。

- 1 関係を右クリックして、ショートカットメニューから [反転] を選択します。
- 2 次のいずれかのオプションを選択します。関係が反転すると、選択したオプションが既存のすべてのリンクに適用されます。
  - **リンクを保持する:** 関係の方向は逆にしますが、既存のリンクはすべてそのままにします。
  - **リンクの除去:** 関係の方向を逆にし、関係の既存のリンクをすべて除去します。

### 関係の削除

インスタンススキーマから関係を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 削除する関係 (線) を右クリックします。
- 2 [削除] を選択します。[削除の確認] ダイアログが開きます。
- 3 [OK] をクリックして、関係を削除します。



**注意!** この操作によって、インスタンススキーマから関係定義が削除されるだけでなく、関係に関連付けられているすべてのリンクも削除されます。

### 関係データの完全削除



**注意!** データを完全削除すると、インスタンスからリンクが完全に除去されます。

関係からリンクを完全削除するには、次の手順を実行します。

- 1 関係を右クリックして、ショートカットメニューから [完全削除] を選択します。[データの完全削除] ダイアログが開きます。
- 2 この関係のすべてのリンクを削除するには、[完全削除] をクリックします。
- 3 関係の完全削除が正常に完了すると、成功を示すチェックマークが表示されます。完全削除が失敗した場合は、失敗を示す「x」が表示されます。「x」にカーソルを合わせると、失敗に関する詳細情報が表示されます。
- 4 [OK] をクリックして [データの完全削除] ダイアログを閉じます。

## ProductクラスとProjectクラスの作成

Productクラスは、リリース、アプリケーション、またはコンポーネントに関連付けられたすべての成果物を管理するための方法を提供します。

**Product**クラスは、**アジャイル**開発とアプリケーション分岐の両方をサポートするために使用されます。

**Project**クラスは、主に分岐をサポートするために作成されます。

**アジャイル: Product**クラスが必要。プロダクトePhoto - iPhone Appは、サンプルインスタンスAGILE\_RMDEMOに含まれており、Dimensions RMを使用したアジャイル開発の例を示しています。アジャイルで使用するプロダクトを作成するには、「[アジャイルプロダクトの追加](#) (388ページ) を参照してください。


**分岐: Product**クラスと**Project**クラスが必要。RMDemoサンプルインスタンスでは、Project CloudPhotoとともにProduct CloudPhotoが作成され、分岐機能の例が示されます。分岐ありで使用するプロダクトを作成するには、「[分岐用のProductクラスとProjectクラスの作成](#)」(477ページ) を参照してください。

**プロダクトの割り当ての要件: Product**クラスが必要 (分岐なし)。分岐なしで使用するプロダクトを作成するには、「[分岐なしのProductまたはProjectの作成](#)」(477ページ) を参照してください。

**プロジェクトの割り当ての要件: Project**クラスが必要 (分岐なし)。分岐なしで使用するプロジェクトを作成するには、「[分岐用のProductクラスとProjectクラスの作成](#)」(477ページ) を参照してください。

## 分岐用のProductクラスとProjectクラスの作成

新しいクラスの作成については、「[スキーマクラスの作成](#)」(462ページ) で詳細な手順を確認できます。

- 1 [管理] メニューから [スキーマ定義] を選択してインスタンススキーマを開きます。  
詳細については、「[インスタンススキーマのオープンとロックの解除](#)」(461ページ) を参照してください。
- 2 スキーマグリッド上で目的の場所を右クリックし、[クラスの追加] を選択します。
- 3 メニューから [**Product**] を選択します。
- 4 クラス名はデフォルトでクラスタイプになります。クラス名として「**Product**」をそのまま使用することをお勧めします。
- 5 スキーマを保存します。
- 6 [Product] クラスを右クリックしてクラスプロパティを選択し、[**親カテゴリの作成**] オプションの横にあるチェックボックスをオンにします。
- 7 手順2～6を繰り返し、[Product] ではなく、[**Project**] を選択します。
- 8  をクリックしてスキーマ定義を保存します。

特別なクラス**Product**と**Project**がカテゴリツリーにリストされ、選択できるようになります。カテゴリに似ていますが、カテゴリよりも多くの機能があります。ProductとProjectで定義されるProductクラスエントリには通常、特別なアイコンが割り当てられます。また、これらのProductとProjectを標準カテゴリと明確に区別するために、異なる色を使用することも検討してください。「[カテゴリアイコンの追加](#)」(414ページ) を参照してください。

この特別な [Product] カテゴリ内で、チームは [Product] クラスからエントリを作成します。

## 分岐なしのProductまたはProjectの作成

- 1 インスタンススキーマを開きます (「[インスタンススキーマのオープンとロックの解除](#)」(461ページ) を参照)。

**2 Productクラスを作成するには、次の手順を実行します。**

- a プロダクトタイプをベースにしたクラスを追加し（「[クラスの定義](#)」(463ページ)を参照）、ニーズに合った名前を付けます（例：プロダクト）。
- b ステップ4に進みます。

**3 Projectクラスを作成するには：プロジェクトタイプをベースにしたクラスを追加し（「[クラスの定義](#)」(463ページ)を参照）、ニーズに合った名前を付けます（例：プロジェクト）。****4 後で分岐を使用する予定がない場合は、プロダクトまたはプロジェクトの作成時に短い名前は必要ないため、以下の変更を行うことができます。**

- a [属性定義] ダイアログ（「[属性定義](#)」(423ページ)を参照）で、作成したクラスを選択します（ProductまたはProject）。
- b [短い名前] 属性を選択します。
- c 次のオプションをクリアします。
  - 属性は必須
  - エントリの表示
- d [保存] をクリックして変更を保存します。

## コメントのサポート

チャプターまたは要件には、コメントを追加できます。コメントでは、要件やチャプターに関するトピックについてディスカッションできます。電子メールや口頭でトピックについてディスカッションするだけでなく、コメントを書きおくことで、承認プロセスなどでいつでもすべてのコメントをレビューできます。



**注記** コメントを追加したり、コメントに返信したりするには、次の権限が必要です。

Commentクラスの**作成権限**

要件クラスの**閲覧権限**

Commentクラスと要件クラス間の関係の**作成権限**

### Commentクラスと関係の追加

次の手順では、Commentクラスを追加する方法と、コメントをサポートするクラスとの関係を作成する方法について説明します。スキーマのCommentクラスの名前は自由に変更できます。


**注意！**

クラス名は、「[クラスの命名規則](#)」(498ページ)で指定されている規則に従う必要があります。

関係名は、「[関係の命名規則](#)」(499ページ)で指定されている規則に従う必要があります。

次の手順を実行します。

- 1 [新規] メニューから [コメント] を選択します。
- 2 クラスを配置する場所にカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。[クラスの追加] ダイアログが開きます。
- 3 クラスの一意の名前を入力します。これはクラスに保持されているデータの説明とします。
- 4 [OK] をクリックして、指定した名前のクラスをインスタンススキーマに追加します。
- 5 コメントを使用するクラスごとに、次の手順を実行します。
  - a [新規] メニューから [関係] を選択します。
  - b コメントを使用するクラスを選択してから、Comment クラスを選択します。[新規関係] ダイアログが開きます。
  - c 関係の一意の名前を入力します。この名前には、関係に関連付けるデータを記述する必要があります。
  - d [OK] をクリックして、インスタンススキーマに関係を追加します。
  - e [関係の定義] ダイアログを開くには、次の手順を実行します。

関係 (クラスから Comment クラスに伸びる矢印) をダブルクリックするか、  
関係を選択して、ショートカットメニューから [関係プロパティ ...] を選択します。
  - f プライマリおよびセカンダリで、[子に移動する] オプションが選択されていることを確認します。
  - g [OK] をクリックします。
- 6  をクリックして、インスタンススキーマを保存します。

## ワークフローの編集

Dimensions RMでは、要件オブジェクトおよびコンテナ (ドキュメント、コレクションなど) が、定義された条件セットを満たしてから承認済みの状態になるようにワークフローが定義されます。ワークフローを使用すると、ユーザーは進捗状況を追跡し、承認プロセスを管理できます。特定の属性や関係に制約を設けることができます。

たとえば、タイトル、説明、検証方法、変更要求またはビジネス要件との関係、およびレビューを担当するユーザーまたはグループが含まれていない場合、機能要件をドラフト状態からレビュー状態に移行できないようにできます。

ワークフローは通常、要件チームによって定義され、ツール管理者がスキーマ定義ツールを使用して実装します。

## サンプル

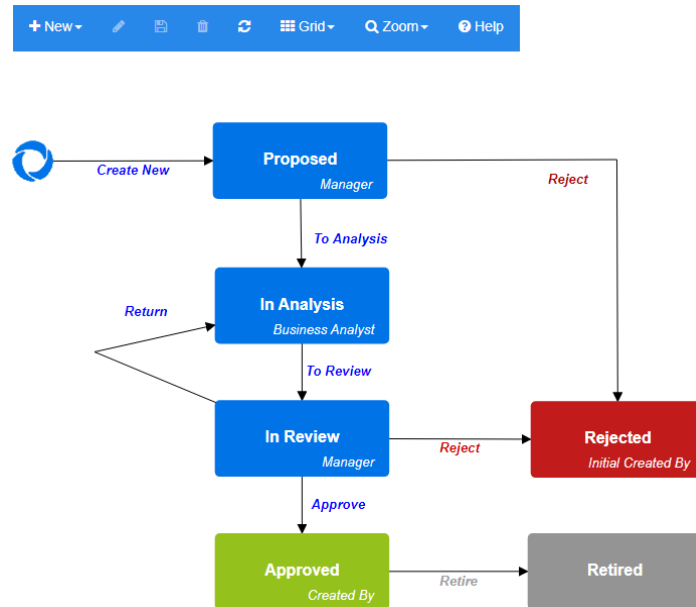


図 11-13. クラス Product\_Requirements のワークフロー

このセクションの内容は次のとおりです。

- 「ワークフローの作成または編集」(480 ページ)
- 「ワークフロー状態」(481 ページ)
- 「ワークフローの遷移」(483 ページ)
- 「ワークフローの削除」(491 ページ)
- 「ワークフローでのコンテナの使用」(491 ページ)

## ワークフローの作成または編集

### ワークフローの要素

ワークフローは、状態と遷移の2要素で構成されています。

**状態:** 状態とは、ワークフロー内での要件の位置です。特定の状態にある要件にはオーナーが存在し、オーナーは、その要件で特定のタスクを実行することに責任を持ちます。



**遷移:** 遷移とは、要件がワークフローのある状態から別の状態へと移動することです。

ワークフローはクラスごとに作成されます。RM Manageのクラス定義ツールを使用して、ワークフローをあるクラスから別のクラスにコピーすることはできますが、1つのワークフローで複数のクラスを処理することはできません(管理者ガイドの「Copying a Workflow to another Class」を参照)。

ワークフローを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[スキーマ定義]を選択します。
- 2 目的のクラスを右クリックして、[クラスプロパティ]を選択します。




- 3 [ワークフローを有効にする] オプションが選択されていることを確認します。
- 4 [ワークフロー定義] ボタンをクリックします。[ワークフロー定義] ダイアログが開きます。
- 5 状態および遷移の追加、変更、または削除を行って、ワークフローをデザインします。
- 6  をクリックして変更を保存します。
- 7 [ワークフロー定義] ダイアログを閉じます。
- 8 次のいずれかを実行します。
  - [ワークフローを有効にする] オプションを選択してワークフローを有効にした場合、次の手順を実行します。
    - a [OK] をクリックして [クラスプロパティ] ダイアログを閉じます。
    - b  をクリックしてスキーマ定義を保存します。
    - c [スキーマ定義] ダイアログを閉じます。
  - 既存のワークフローを編集した場合、次の手順を実行します。
    - a [キャンセル] をクリックして [クラスプロパティ] ダイアログを閉じます。
    - b [スキーマ定義] ダイアログを閉じます。

## ワークフロー状態

### ワークフロー状態の追加

状態を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [新規] メニューから  を選択し、キャンバスの目的の場所をクリックします。  
[状態の追加] ダイアログが開きます。
- 2 デフォルトの名前である新規状態を目的の状態の名前に置き換えて、[OK] をクリックします。



**注記** 状態の名前は一意である必要があります。

### ワークフロー状態の名前の変更

状態の名前を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 名前を変更する状態をダブルクリックするか、状態を右クリックして [名前の変更] を選択します。
- 2 新しい状態の名前を入力します。
- 3 [OK] をクリックします。

### ワークフロー状態の定義の変更

状態の定義を変更するには、状態をダブルクリックするか、状態を右クリックしてショートカットメニューから [プロパティ ...] を選択します。[状態のプロパティ » '状態の名前'] ダイアログが開き、次の設定を変更することができます。

### ワークフロー状態のプロパティ設定

[状態のプロパティ » '状態の名前'] ダイアログを開くと、[プロパティ] タブが表示されます。他の設定を変更した後にプロパティを変更するには、[プロパティ] タブを選択します。[プロパティ] タブでは、次の設定を変更できます。



- 名前: [名前] ボックスの値を変更すると、ワークフロー状態の名前が変更されます。
- 説明: 状態の目的の説明を入力または変更します。この説明は、フォームの [状態の履歴] で状態にマウスポインターを合わせたときに表示されるツールチップとして使用されます。
- 所有者: 所有者を変更すると、他のユーザーがこの状態でトランザクションを実行できなくなります。これは、属性の設定 (個別ユーザー、グループ、またはチーム)、ユーザー/グループの権限、および遷移のセキュリティ設定に依存します。

### ワークフロー状態のスタイル設定

[スタイル] タブでは、次の設定を変更できます。

- ラベル: ラベルに使用するフォントを定義します。ラベルのフォントは状態図でのみ使用されます。
- 所有者: 所有者に使用するフォントを定義します。所有者のフォントは状態図でのみ使用されます。
- アイコン: 状態アイコンに使用する色を定義します。アイコンの色は状態図とリストのワークフロー状態タグで使用されます。

### ワークフロー状態の遷移設定

[遷移] タブでは、フォーム上に遷移を表示する順序を変更できます。順序を変更するには、遷移を選択し、 または  をクリックします。

### ワークフロー状態のフォーム設定

[フォーム] タブでは、次の設定にアクセスできます。

**セクション:** 要件がこの状態で開かれたときに表示されるセクションを定義します。

**属性:** 以下の説明に従って、属性の処理を定義します。

設定	説明
表示	<p>属性を表示します (親セクションが表示される場合)。</p> <p><b>注</b> 選択されたワークフローのフォーム上で属性を非表示にすることをを選択する場合は、表示のテストを行ってください。</p> <p>変更されたフォームを使用するかどうかにかかわらず、属性を非表示にする表示のフォーマットが変わります。表示の変更はユーザーを混乱させる可能性があります。プロセスのさまざまな状態で非表示にする属性がある場合は、それらの属性を1つのセクションに配置することを検討してください。こうすることで、フォームで個別の属性の表示に影響を与えることなく、セクションを非表示にすることができます。</p>
編集可能	属性は、遷移フォーム上で編集できます。
必須	遷移を完了するには、この属性に値が必要です。
値のクリア	<p>遷移中に属性がクリアされます。</p> <p>たとえば、レビュープロセス中に維持されるステータス属性は、最終レビューの前にクリアすることができます。</p>

## ワークフロー状態のセキュリティ設定

管理者は [セキュリティ] タブの設定によって、選択された状態の要件の閲覧、保存、または更新を行うことができるグループを定義できます。

トランザクション	定義
閲覧	ユーザーは要件のデータを参照できます。
保存	ユーザーは要件の属性値を置き換えることができます。
所有者の場合に保存	ユーザーは自分が所有する要件の属性値を置き換えることができます。
更新	ユーザーは要件の属性値を更新できます。
所有者の場合に更新	ユーザーは自分が所有する要件の属性値を更新できます。

このダイアログでは、各グループを選択して、そのグループの権限をすべて追加または削除することができます。

詳細については、「[グループの管理](#)」(402ページ)を参照してください。

## ワークフロー状態の削除

状態を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 削除する状態を選択します。
- 2 **Delete**キーを押すか、状態を右クリックしてショートカットメニューから **[削除]** を選択します。
- 3 次のダイアログを確認します。




**注記** 状態を削除できるのは、その状態に要件が存在しない場合のみです。

## ワークフローの遷移

### ワークフロー遷移の追加

遷移を追加するには、ワークフロー図に少なくとも2つの状態が必要です。

遷移を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 **[新規]** メニューから **[遷移]**  を選択します。
- 2 遷移を開始する状態をクリックします。
- 3 遷移を終了する状態をクリックします。



**ヒント** 終了状態をクリックする前に作業領域内で複数のポイントををクリックすると、「角度付き」の遷移矢印（直角の矢印など）を作成できます。

- 4 遷移の名前を入力し、**[OK]** をクリックします。

### ワークフロー遷移の名前の変更

遷移の名前を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 遷移矢印をダブルクリックするか、遷移矢印を右クリックしてショートカットメニューから [遷移のプロパティ...] を選択します。[遷移のプロパティ] ダイアログが開きます。
- 2 [名前] ボックスに新しい名前を入力します。
- 3 [OK] をクリックします。

#### ワークフロー遷移の定義の変更

遷移の定義を変更するには、遷移矢印をダブルクリックするか、遷移矢印を右クリックして [遷移のプロパティ...] を選択します。[遷移のプロパティ » '遷移の名前'] ダイアログが開き、次の設定を変更することができます。

#### ワークフロー遷移のプロパティ設定

[遷移のプロパティ » '遷移の名前'] ダイアログを開くと、[プロパティ] タブが表示されます。他の設定を変更した後にプロパティを変更するには、[プロパティ] タブを選択します。[プロパティ] タブでは、次の設定を変更できます。

**名前:** [名前] ボックスの値を変更すると、ワークフロー遷移の名前が変更されます。

**説明:** 遷移の目的の説明を入力または変更します。この説明は、ユーザーがフォームの [状態の履歴] で遷移にマウスポインターを合わせたときに表示されるツールチップとして使用されます。

#### ワークフロー遷移のスタイル設定

[スタイル] タブでは、次の設定を変更できます。

**線:** 遷移を視覚化する矢印線のスタイルを定義します。矢印線のスタイルは状態図でのみ使用されます。

**ラベル:** ラベルに使用するフォントを定義します。ラベルのフォントは状態図でのみ使用されます。

#### ワークフロー遷移のフォーム設定

管理者は [フォーム] タブの上部にあるチェックボックスで、**クイック遷移** を選択したり、**電子署名** を要求したりできます。

クイック遷移では、**状態プロパティ** として必須としてリストされているすべての属性が処理されると、直ちに要件が自動的に遷移します。たとえば、チームリーダーが要件をレビューし、Manager 属性に値を割り当てることがプロセスで要求されている場合、状態フォームで Manager 属性が必須として設定されます。Manager 属性に値が入力されると、要件が遷移します。

通常の遷移は、手動で実行され、以下の要素を含む遷移フォームが表示されます。

**セクション:** ユーザーが要件を開いたときにどのセクションを表示するかを定義します。

**ユーザー定義属性:** ユーザー定義属性の処理方法を定義します。

設定	説明
表示	属性を表示します (親セクションが表示される場合)。  注 属性コントロールを非表示にすると、非表示にした属性コントロールに続く属性コントロールが再配置される場合があります。このため、一部のユーザーを混乱させる可能性があります。
編集可能	属性を変更できます。
必須	属性に値が必要です。
値のクリア	属性の値をクリアします。

電子署名を要求するボックスにチェックを入れると、ユーザーはユーザー名とパスワードを入力して、本人確認を行う必要があります。遷移では、以下のデータが保存されます。

- ユーザー名とユーザー ID
- 遷移が実行されたタイムスタンプ
- 実行された遷移

#### ワークフロー遷移のユーザーフィールド設定

[ユーザーフィールド] の設定によって、遷移中に属性間でユーザーの割り当てや移動が可能になり、チームが重要な情報を維持したり、プロセスを実行したりできるようになります。

チームは [ユーザーフィールド] を使用して、遷移中にユーザーを削除したり、ユーザーをさまざまな役割に割り当てたりすることができます。たとえば、要件の記述とレビューへの提出を担当する作者を、レビュー担当者や承認者の候補から除外します。

レビュー担当者は、次の遷移で承認者のリストから除外され、それぞれの役割を別々のユーザーが担当するようにします。

各リリースプロセスで別の個人に役割が割り当てられる状況では、ある役割を担う人物 (たとえば、プロダクトマネージャー) が、別の役割 (たとえば、承認者) に自動的に割り当てられることがあります。

実際の環境に合わせて、機能を有効に活用してください。

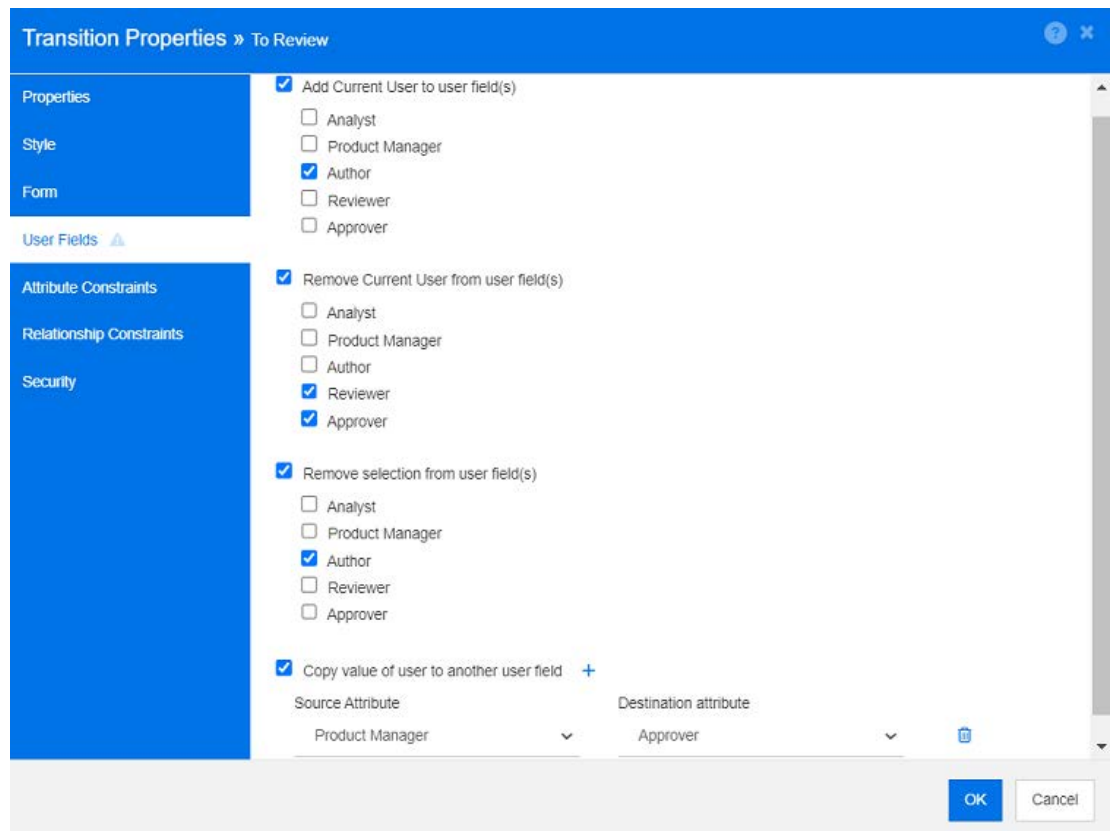


図 11-14. 設定の例: レビューへの遷移

以下のオプションが利用できます。

現在のユーザーをユーザーフィールドに**追加**：

- **単一値のリスト：**

選択したユーザー属性に、遷移を実行中のユーザーが表示されます。

上記の例では、要件の作成とレビューへの遷移を担当するユーザーに、複数のエントリを許可しないリストである作者の役割が割り当てられます。

- **複数値のリスト：**

選択したリストに現在のユーザーを追加します。

現在のユーザーをユーザーフィールドから**除去**：

- **単一値のリスト：**

選択したユーザー属性の中に、遷移を実行中のユーザーが保持されているものがある場合、そのユーザー属性がクリアされます。

- **複数値のリスト：**

遷移を実行しているユーザーが、選択したリストから除去されます。上記の例では、遷移を実行しているユーザー（レビュー担当者）が、承認者のリストから除去されます。

**選択項目をユーザーフィールドから除去：**

- **単一値のリスト:**  
選択したユーザー属性がクリアされます。
- **複数値のリスト:**  
選択したユーザー属性ですべてのユーザーが選択解除されます。

### ワークフロー遷移の属性制約設定

属性制約設定を変更するには、[属性制約] タブを選択します。属性制約を作成または変更して、遷移を実行する条件を定義します。

- 1 [属性制約] 領域で [OR] または [AND] をクリックし、指定する論理関係のタイプを指定します。
- 2 以下のセクションの説明に従って、制約を指定します。
- 3 [OK] をクリックします。

新しい属性制約を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [属性制約] 領域で + をクリックします。  
新しい行が表に追加され、[属性] セルに値が設定されます。必要に応じて、[属性] セルをクリックしてドロップダウンメニューから別の属性を選択します。
- 2 [制約] セル内をクリックし、ドロップダウンメニューから目的の制約タイプを選択します。次の制約タイプが利用できます。

=: 属性が値と完全に等しい。

!=: 属性が値と等しくない。

**Like:** 属性に、より大きな文字列の一部として値が含まれている。

Like を使用する場合は、ワイルドカードとしてアスタリスクを使用します。

**Like を使用する場合は**、1つまたは複数のアスタリスク (\*) をワイルドカードとして使用し、値が属性文字列のどの部分に当てはまるかを指定します。たとえば、\*UNIX、\*UNIX\*、UNIX\* の値はそれぞれ、HP-UNIX、HP-UNIX-11、UNIX-11 の属性に一致します。

**Null:** 属性に値が含まれていない。

**Not Null:** 属性に値が含まれている。

- 3 [値] セル内をクリックします。  
選択した属性がリストである場合は、表示される値のリストから値を選択します。それ以外の場合は、セルに値を入力します。
- 4 [自動] セルは、「はい/いいえ」を選択するチェックボックスです。




**注意!** 同じワークフロー状態から始まる複数の遷移で自動実行を使用しないようにしてください。複数の遷移の制約が満たされる場合、どの遷移を Dimensions RM が実行するか予測できなくなります。

**いいえ:** 遷移ボタンを選択することで、遷移が実行されます。

**はい:** すべての制約が満たされると、「最新」状態の要件の遷移が自動的に実行されます。自動遷移では、ユーザーインターフェイスに遷移ボタンが表示されません。

5 [OK] をクリックします。

属性制約を削除するには、次の手順を実行します。

1 削除する制約の行の  をクリックします。

2 [OK] をクリックします。

既存の属性制約ルールを変更するには、次の手順を実行します。

1 変更するセルをクリックし、値を変更します。

2 [OK] をクリックします。

#### ワークフロー遷移の関係制約設定

関係制約設定を変更するには、[関係制約] タブを選択します。制約を作成または変更して、遷移を実行する条件を定義します。


関係制約を追加するには、次の手順を実行します。

1 [関係制約] 領域で [OR] または [AND] をクリックし、指定する論理関係のタイプを指定します。

2 以下のセクションの説明に従って、制約を指定します。

3 [OK] をクリックします。

新しい関係制約を追加するには、次の手順を実行します。

1 [関係制約] 領域で  をクリックし、新しい行を表に追加します。

2 [トリガークラス] セル内をクリックし、ドロップダウンメニューから制約を定義するクラスを選択します。

3 [トリガー属性] セル内をクリックし、ドロップダウンメニューから制約を定義する属性を選択します。

4 [制約] セル内をクリックし、ドロップダウンメニューから目的の制約タイプを選択します。次の制約タイプが利用できます。

=: 属性が値と完全に等しい。

!=: 属性が値と等しくない。

**Like:** 属性に、より大きな文字列の一部として値が含まれている。

Likeを使用する場合は、ワイルドカードとしてアスタリスクを使用します。

**Likeを使用する場合は**、1つまたは複数のアスタリスク (\*) をワイルドカードとして使用し、値が属性文字列のどの部分に当てはまるかを指定します。たとえば、\*UNIX、\*UNIX\*、UNIX\* の値はそれぞれ、HP-UNIX、HP-UNIX-11、UNIX-11の属性に一致します。

5 [値] セル内をクリックします。選択した属性がリストである場合は、表示される値のリストから値を選択します。それ以外の場合は、セルに値を入力します。



- 6 必要に応じて、[実行条件]セル内をクリックして、ドロップダウンメニューから別の値を選択します。以下のいずれかを選択できます。

**少なくとも1個:** 1つのリンクされた要件が制約を満たす場合に、遷移を実行します。

**すべて:** すべてのリンクされた要件が制約を満たす場合に、遷移を実行します。

**すべてまたはリンクなし:** すべてのリンクされた要件が制約を満たす場合、または ([トリガークラス]セルで指定された)クラスの要件がリンクされていない場合に、遷移を実行します。

- 7 必要に応じて、[自動]セル内をクリックして、ドロップダウンメニューから別の値を選択します。以下のいずれかを選択できます。

**いいえ:** 遷移ボタンをクリックすることで、遷移が実行されます。


**はい:** 要件が「最新」状態の場合に、遷移が自動的に実行されます。ユーザーインターフェイスには、遷移用のボタンは表示されません。



**注意!** 同じワークフロー状態から始まる複数の遷移で自動実行を使用しないようにしてください。複数の遷移の制約が満たされる場合、どの遷移を Dimensions RM が実行するか予測できなくなります。

- 8 [OK] をクリックします。

関係制約を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 削除する制約の行の  をクリックします。

- 2 [OK] をクリックします。

既存の関係制約ルールを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 変更するセルをクリックし、値を変更します。


- 2 [OK] をクリックします。

#### ユースケース: コンテナワークフローでの要件の自動遷移

このユースケースでは、コンテナ (ドキュメント、スナップショット、コレクション、またはベースライン) 内の要件を新しいワークフロー状態に遷移する方法について説明します。以下の手順では、RMDEMO インスタンスを使用します。コンテナを遷移させる際には、要件も遷移されます。

要件の自動遷移を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから [スキーマ定義] を選択します。[スキーマ定義] ダイアログが開きます。
- 2 次のいずれかの方法で、変更するワークフローを含むクラス (例: Product\_Requirements) を開きます。
  - クラスをダブルクリックする
  - クラスを右クリックして、ショートカットメニューから [クラスプロパティ ...] を選択する
- 3 [ワークフロー定義] ボタンをクリックして、ワークフローを開きます。
- 4 次のいずれかの方法で、実行する遷移 (例: 承認) を開きます。

- 遷移をダブルクリックする
  - 遷移を右クリックして、ショートカットメニューから [遷移のプロパティ ...] を選択する
- 5 [関係制約] タブを選択します。
  - 6 [関係制約] 領域で + をクリックし、新しい行を表に追加します。
  - 7 [トリガークラス] セル内をクリックし、ドロップダウンメニューから、制約を定義するコンテナワークフロークラス (例: Approval) を選択します。
  - 8 [トリガー属性] セル内をクリックし、ドロップダウンメニューから、[ワークフロー状態] 属性を選択します。
  - 9 [制約] セルに [=] と表示されていることを確認します。
  - 10 [値] セル内をクリックします。要件を遷移する先のワークフロー状態を選択します (例: 承認済み)。
  - 11 [実行条件] セルに [少なくとも1個] と表示されていることを確認します。
  - 12 右にスクロールし、[自動] セル内をクリックして選択します (チェックマークが表示されます)。
  - 13 [OK] をクリックします。
  - 14  をクリックして変更を保存します。
  - 15 [ワークフロー定義] ダイアログを閉じます。
  - 16 [キャンセル] をクリックして [クラスプロパティ] ダイアログを閉じます。
  - 17 [スキーマ定義] ダイアログを閉じます。

#### ワークフロー遷移のセキュリティ設定

セキュリティ設定を変更するには、[セキュリティ] タブを選択します。セキュリティ設定では、選択された状態の遷移を実行できるグループを定義します。

トランザクション	定義
遷移の実行	ユーザーはこの遷移を実行できます。
所有者の場合に遷移を実行	ユーザーは、要件を所有している場合、この遷移を実行できます。
提出者の場合に遷移を実行	ユーザーは、要件を提出した場合、この遷移を実行できます。

#### ワークフロー遷移の削除



遷移を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 遷移を右クリックして、ショートカットメニューから [削除] を選択します。
- 2 次のダイアログを確認します。


## ワークフローの削除

ワークフローを削除できるのは、ワークフローのいずれの状態にも要件が存在しない場合のみです。これ以外の場合、ワークフローの削除はできませんが、ワークフローを無効化することはできます。

ワークフローを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[スキーマ定義]を選択します。[スキーマ定義]ダイアログが開きます。
- 2 目的のクラスを右クリックして、ショートカットメニューから[クラスプロパティ...]を選択します。[クラスプロパティ]ダイアログが開きます。
- 3 [ワークフロー定義]ボタンをクリックします。[ワークフロー定義]ダイアログが開きます。
- 4 [新規]状態を除くすべての状態と遷移を削除します。
- 5 をクリックして変更を保存します。
- 6 [ワークフロー定義]ダイアログを閉じます。
- 7 [クラスプロパティ >> 'クラス名']ダイアログで、[ワークフローを有効にする]ボックスをクリアします。
- 8 [OK]をクリックして、[クラスプロパティ >> 'クラス名']ダイアログを閉じます。
- 9 をクリックしてスキーマ定義を保存します。

ワークフローを無効化するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[スキーマ定義]を選択します。[スキーマ定義]ダイアログが開きます。
- 2 目的のクラスを右クリックして、ショートカットメニューから[クラスプロパティ...]を選択します。[クラスプロパティ]ダイアログが開きます。
- 3 [ワークフローを有効にする]ボックスをクリアします。
- 4 [OK]をクリックします。
- 5 をクリックしてスキーマ定義を保存します。


## ワークフローでのコンテナの使用

ワークフローはクラスに対して定義されますが、コンテナに適用できます。ワークフローを定義して、コンテナ(ドキュメント、コレクション、ベースライン)の進行状況の追跡に使用するには、まずワークフローを割り当てるクラスを作成する必要があります。このニーズに対処するには、**Workflow\_Container**クラスを利用できます。

コレクションまたはドキュメントには、承認プロセスを定義できます。たとえば、ドキュメントをレビュー用に提出し、レビュー担当者の承認後に、ベースラインを設定して関係者に提出するというプロセスを定義できます。

**Workflow\_Container**クラスを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理]メニューから[スキーマ定義]を選択します。[スキーマ定義]ダイアログが開きます。

- 2 [スキーマ定義] ダイアログで空きスペースを右クリックし、ショートカットメニューから【クラスの追加】>【ワークフローコンテナ】を選択します。
- 3 空きスペースをクリックして、新しいクラスを配置します。
- 4 好みに合わせて名前を変更します（例：Workflow\_Container）。
- 5  をクリックしてスキーマ定義を保存します。
- 6 WorkFlow Containerクラスの定義を拡張する場合は、カスタム属性を追加します。  
属性の追加の詳細については、「[属性定義](#)（423ページ）を参照してください。
- 7 「[ワークフローの作成または編集](#)」（480ページ）の説明に従って、Workflow\_Containerクラスにワークフローを追加します。

Workflow\_Containerクラスに対してワークフローが定義されると、ドキュメントまたはコレクションのプロパティの作成時または編集時にワークフローを割り当てることができます。

## 管理ツール

以下の機能は、システム管理者グループのメンバーがRM Browserの [管理] ドロップダウンからアクセスできる [管理ツール] メニューで利用できます。詳細については、「[管理について](#)」（398ページ）を参照してください。

[管理ツール] メニューには次のものが含まれます。

- 証明書の更新：
  - Open Text Common Tomcatサーバー証明書の更新。詳細については、「[Tomcat 証明書の更新](#)」（492ページ）を参照してください。
  - SSO証明書の更新。詳細については、「[SSO証明書の更新](#)」（494ページ）を参照してください。
- サービスの管理 - システム管理者がDimensions RM関連サービスを管理できます。詳細については、「[RMサービスの管理](#)」（495ページ）を参照してください。
- プロセスログ - Dimensions RMサービスのステータス。詳細については、「[RM プロセスログ](#)」（495ページ）を参照してください。
- ログファイル - すべてのDimensions RMログファイルの確認やダウンロードを行うことができます。詳細については、「[ログファイルへのアクセス](#)」（496ページ）を参照してください。
- 管理監査 - ユーザー関連の変更、カテゴリ、スキーマなど、管理レベルの変更を行うことができます。詳細については、「[管理監査へのアクセス](#)」（496ページ）を参照してください。

## Tomcat証明書の更新

以下では、HTTPS接続で使用されるOpen Text Common Tomcatの証明書を更新する方法について説明します。Open Text Common Tomcatには必ず証明書をインストールするため、この機能はサーバー証明書の初期設定に使用できます。

Open Text Common Tomcatサーバー証明書を更新するには、次の手順を実行します。



**重要!** 開始する前に、すべての前提条件が満たされていることを確認してください (「Tomcat証明書の前提条件」(493ページ)を参照)。

[管理ツール] メニューから利用できる証明書の更新にアクセスするには、システム管理者のアクセス権が必要です。詳細については、「管理について」(398ページ)を参照してください。

- 1 [管理] メニューから、[管理ツール] を選択します。これは、システム管理者グループのメンバーがRM Browserの [管理] ドロップダウンからアクセスできます。
- 2 [証明書の更新] を選択します。
- 3 [参照...] をクリックして、ファイルのアップロードダイアログを開きます。
- 4 証明書を含むPFXファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- 5 [証明書のパスワード] ボックスにPFXファイルのパスワードを入力します。
- 6 [エイリアスの取得] をクリックして、PFXファイルから証明書エイリアスを読み取ります。
- 7 [RMサーバー名] ボックスに、Dimensions RMへのログインに使用したサーバー名が表示されます。

このサーバー名が完全なサーバー名であることを確認する**必要があります**。

例:

myserverでログインしたが、証明書のサーバー名はmyserver.mycompany.comである。この場合、[RMサーバー名] ボックスには「myserver.mycompany.com」と入力する必要があります。

- 8 [証明書の更新] をクリックして、証明書の更新を開始します。



#### 注記

- この更新の際にはTomcatが再起動します。このため、ユーザーはDimensions RMをはじめ、Open Text Common Tomcatで動作するすべてのWebアプリケーションを操作できなくなります。
- 証明書の更新に失敗した場合、以前の証明書が復元されます。

- 9 [OK] をクリックして警告メッセージを確認します。
- 10 [証明書の更新] ダイアログで更新処理の完了が報告されるまで待ちます。

### Tomcat証明書の前提条件

証明書を正常にインポートするには、次のすべての前提条件が満たされている必要があります。

Dimensions RMサーバーは、**未変更のOpen Text Common Tomcat**セットアップを使用する。

証明書ファイルはPFX形式である。

PFXファイルのパスワードがわかっている。

証明書は有名な証明機関が発行したもので、Dimensions RMを実行しているWindowsサーバーによって受け入れられている。自己署名証明書の場合、Tomcatサーバー証明書を更新する前に、信頼されたルート証明機関ストアに証明書をインポートする。

Open Text Common Tomcatで実行中のすべてのWebアプリケーションのユーザーに、サーバーが数分間ダウンすることと、その間はそのサーバーで作業できないことが通知される。

## SSO 証明書の更新

次の章では、Solution Business Manager (SBM) およびDimensions CMで使用するSSO証明書を更新する方法について説明します。



**注意！ Windows SSO**を使用する場合は、この更新機能を使用しないでください。Windows SSOの証明書の更新については、『Administrator's Guide』を参照してください。

### 前提条件



**重要！** 開始する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

[管理ツール] メニューから利用できる証明書の更新にアクセスするには、システム管理者のアクセス権が必要です。詳細については、「[管理について](#)」(398ページ)を参照してください。

- SSOが有効になっている。
- Dimensions RMサーバーは、未変更のOpen Text Common Tomcatセットアップを使用する。
- ゲートキーパーとフェデレーションサーバーの証明書ファイルがCERフォーマットである。
- STSの証明書がPEMフォーマットである。
- 証明書は有名な証明機関が発行したもので、Dimensions RMを実行しているWindowsサーバーによって受け入れられている。自己署名証明書の場合、SSO証明書を更新する前に、信頼されたルート証明機関ストアに証明書をインポートする。
- Open Text Common Tomcatで実行中のすべてのWebアプリケーションのユーザーに、サーバーが数分間ダウンすることと、その間はそのサーバーで作業できないことが通知される。

SSOサーバー証明書を更新するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [管理ツール] を選択します。
- 2 ナビゲーションペインから [SSO 証明書の更新] を選択します。
- 3 ゲートキーパー証明書の場合、[参照...] をクリックしてファイルアップロードダイアログを開きます。
- 4 CERフォーマットのゲートキーパー証明書ファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- 5 STS証明書の場合、[参照...] をクリックしてファイルアップロードダイアログを開きます。
- 6 PEMフォーマットのSTS証明書ファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- 7 フェデレーションサーバー証明書の場合、[参照...] をクリックしてファイルアップロードダイアログを開きます。
- 8 CERフォーマットのフェデレーションサーバー証明書ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

- 9 [SSO証明書の更新] をクリックして、証明書の更新を開始します。



#### 注記

- この処理中にTomcatが再起動します。ユーザーはDimensions RMをはじめ、Open Text Common Tomcatで動作するすべてのWebアプリケーションを操作できなくなります。
- 途中でTomcatが再起動されるため、更新処理にはしばらく時間がかかります。

- 10 [OK] をクリックして警告メッセージを確認します。
- 11 [SSO証明書の更新] ダイアログで更新処理の完了が報告されるまで待ちます。

## RMサービスの管理

サービスの管理機能を使用すると、TomcatとDimensions RMサーバーが同じマシンにインストールされている場合に、システム管理者はすべてのDimensions RM関連サービスを管理できます。

システム管理者のアクセス権を利用します。

**RMサービスを管理するには、次の手順を実行します。**

- 1 [管理] メニューから、[管理ツール] を選択します。これは、システム管理者グループのメンバーがRM Browserの [管理] ドロップダウンからアクセスできます。アクセス権の詳細については、[「管理について」\(398ページ\)](#) を参照してください。
- 2 ナビゲーションペインから [サービスの管理] を選択します。

## RMプロセスログ

プロセスログには、Open Text Common Tomcatを含むDimensions RMサービスの開始時刻、統計、RM Pool ManagerおよびRM Webserviceサービスの現在の状態が表示されます。

**プロセスログにアクセスするには、次の手順を実行します。**

- 1 [管理] メニューから、[管理ツール] を選択します。これは、システム管理者グループのメンバーがRM Browserの [管理] ドロップダウンからアクセスできます。アクセス権の詳細については、[「管理について」\(398ページ\)](#) を参照してください。
- 2 ナビゲーションペインから [プロセスログ] を選択します。

サービス統計では次のデータが提供されます。

**アプリケーションサーバー数:** RM Application serverインスタンスの数。

**WSワーカー数:** RM Webサービス要求を処理しているワーカーの数。

**処理済みの要求:** すべてのインスタンスが処理した要求の数。

**未処理の要求:** すべてのプロセスがビジーであったために処理されなかった要求の数。通常、実行できるプロセスの数を増やすことでこの問題を解決できます。

**強制終了されたプロセス:** 空きメモリの不足によりDimensions RMによって強制終了されたプロセスの数。プロセスの強制終了が頻繁に発生する場合は、Dimensions RMサーバーのRAMを増やすことを検討する必要があります。

**クラッシュしたプロセス:** 予期せず終了したプロセスの数。

[**RM Pool Manager プロセス**] テーブルには、RM Pool Manager (RM Application serverとRM Webservice) のすべての子プロセスのリストが含まれ、次のデータが提供されます。

**パイプ:** プロセス間通信で 사용되는内部ID

**PID:** プロセスID

**ステータス:** 現在のプロセスのステータス


**メモリ:** 現在使用されているメモリの量

**処理済みの要求:** プロセスが処理した要求の数

## ログファイルへのアクセス

### Dimensions RM ログファイルへのアクセス

Dimensions RM ログファイルにアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [管理ツール] を選択します。
- 2 左側のペインで、[ログファイル] を選択します。
- 3 [ログファイルの選択...] ボックスで、目的のログファイルを選択します。
- 4 ログファイルをダウンロードするには、 をクリックします。

### Dimensions RM およびTomcat ログファイルのダウンロード

Dimensions RM およびTomcat ログファイルをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [管理ツール] を選択します。
- 2 左側のペインで、[ログファイル] を選択します。
- 3 [すべてのサーバーログファイルのダウンロード] をクリックします。

ログファイルがZIPアーカイブでダウンロード可能になるか、または自動的にダウンロードされます (Web ブラウザーによって異なります)。

## 管理監査へのアクセス

[管理監査] ダイアログには、システム管理者が管理タスクの一覧を表示できるツールがあります。すべてのアクションまたは一部のアクション、すべてのユーザーまたは一部のユーザー、期間を指定してタスクを表示できます。

Dimensions RM 管理監査を実行するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理] メニューから [管理ツール] を選択します。
- 2 左側のペインで、[管理監査] を選択します。
- 3 レポートの開始日と終了日はデフォルトで現在の日付になります。

開始日を変更するには、[次の日以降のアクティビティを表示] に日付を入力します。



終了日を変更するには、アクティビティを表示する日付を [次の日まで] に入力します。

- 4 1つのアクションについてレポートを作成するには、[すべてのアクション] ドロップダウンを使用します。
- 5 1人のユーザーについてレポートを作成するには、[すべてのユーザー] ドロップダウンを使用します。
- 6 レポートをエクスポートするには、[エクスポート] ボタンを使用します。

## スキーマに関する命名規則

インスタンス - 「[インスタンスの命名規則](#)」(497ページ)

クラス - 「[クラスの命名規則](#)」(498ページ)

属性の表示名 - 「[属性の表示名の命名規則](#)」(498ページ)

属性名 - 「[属性名の命名規則](#)」(498ページ)

関係 - 「[関係の命名規則](#)」(499ページ)

ワークフロー状態 - 「[ワークフロー状態の命名規則](#)」(499ページ)

ワークフローの遷移 - 「[ワークフロー遷移の命名規則](#)」(499ページ)



**注記** 通常のASCII文字セット以外の文字 (ドイツ語のウムラウト、中国語や日本語の文字など) を使用できるオブジェクトを定義する場合、1文字を格納するために最大4バイトが必要になります。サポートされているデータベースはUTF-8エンコーディングを使用しているため、実際の文字数は、どの文字を使用するかによって異なります。

### インスタンスの命名規則

インスタンス名には、次の命名規則が適用されます。

使用できる文字:

大文字と小文字のアルファベット

数字

アンダースコア (\_)

ハイフン (-)

**最大文字数:** 最大30文字

インスタンス名には、予約語を使用できません (「[Dimensions RMの予約語](#)」(499ページ) を参照)。

データベースのユーザー名について指定された制限事項。

## クラスの命名規則

クラス名には、次の命名規則が適用されます。

**使用できる文字:**

大文字と小文字のアルファベット

Unicode文字

数字

アンダースコア (\_)

ハイフン (-)

アンパサンド (&)

コロン (:)

**最大文字数:** 最大1024文字

クラス名には、予約語を使用できません (「[Dimensions RMの予約語](#)」(499ページ) を参照)。

## 属性の表示名の命名規則

**使用できる文字:**

大文字と小文字のアルファベット

Unicode文字

数字

アンダースコア (\_)

ハイフン (-)

アンパサンド (&)

コロン (:)

スペース

**最大文字数:** 最大1024文字

属性の表示名には、予約語を使用できません (「[Dimensions RMの予約語](#)」(499ページ) を参照)。

## 属性名の命名規則

**使用できる文字:**

大文字と小文字のアルファベット

数字

アンダースコア (\_)

ハイフン (-)

アンパサンド (&)

コロン (:)

**最大文字数:** 最大1024文字

属性名をRTM\_で開始することはできません。

属性名には、予約語を使用できません (「[Dimensions RMの予約語](#)」(499ページ) を参照)。

## 関係の命名規則

使用できる文字:

大文字と小文字のアルファベット

Unicode文字

数字

アンダースコア (\_)

ハイフン (-)

アンパサンド (&)

コロン (:)

**最大文字数:** 最大1024文字

関係名には、予約語を使用できません (「[Dimensions RMの予約語](#)」(499ページ) を参照)。

## ワークフロー状態の命名規則

使用できる文字: すべてのASCII文字とUnicode文字

最大文字数: 最大1024文字

## ワークフロー遷移の命名規則

使用できる文字: すべてのASCII文字とUnicode文字

最大文字数: 最大1024文字

## Dimensions RMの予約語

### A

- ACCESS
- ADD
- ALL
- ALTER
- AND
- ANY

- AS
- ASC
- AUDIT
- AVER
- AVERAGE

## **B**

- BETWEEN
- BY

## **C**

- CALC
- CALCULATE
- CHAR
- CHECK
- CLAR\_CONDITION
- CLASS\_NAME
- CLUSTER
- COLUMN
- COMPRESS
- CONNECT
- COUNT
- CREATE
- CURRENT

## **D**

- DATALESS\_TAG\_COLUMN
- DATE
- DATE\_CREATED
- DATE\_LAST\_MODIFIED
- DBA
- DECIMAL
- DEFAULT
- DELETE
- DESC
- DISTINCT
- DROP

- DTP\_TEXT

## **E**

- ELSE
- EXCLUSIVE
- EXISTS
- EXPAND

## **F**

- FILE
- FIRST
- FLOAT
- FOCUS
- FOR
- FOURTH
- FROM

## **G**

- GEN\_KEY\_COLUMN
- GRANT
- GRAPHIC
- GROUP

## **H**

- HAVING
- HAVING\_CLARIFICATION\_TEXT
- HAVING\_NO\_CLARIFICATION\_TEXT
- HAVING\_NO\_QUERY\_TEXT
- HAVING\_QUERY\_TEXT

## **I**

- IDENTIFIED
- IF
- IMMEDIATE
- IMMEDIATE\_XREF
- IN
- INCREMENT
- INDEX

- INITIAL
- INITIALIZED
- INSERT
- INTEGER
- INTERSECT
- INTO
- IS

## **K**

- KEY
- KEYWORD\_COLUMN
- KEY\_LIST\_CONDITION

## **L**

- LEVEL
- LIKE
- LINKS\_IN
- LOCK
- LONG
- LOWEST\_LEVEL\_REQUIREMENT\_CONDITION

## **M**

- MATH\_OP
- MATH\_TAG
- MAX
- MAXEXTENTS
- MAXIMISE
- MAXIMUM
- MIN
- MINIMISE
- MINIMUM
- MINUS
- MODE
- MODIFY

## **N**

- NOAUDIT

- NOCOMPRESS
- NORM
- NORMALISE
- NORMALIZE
- NOT
- NOT\_LOWEST\_LEVEL\_REQUIREMENT\_CONDITION
- NOT\_PRIMARY\_IN
- NOT\_PRIMARY\_IN\_CONDITION
- NOT\_SECONDARY\_IN
- NOT\_SECONDARY\_IN\_CONDITION
- NOT\_SOURCE\_REQUIREMENT\_CONDITION
- NOWAIT
- NULL
- NUMBER

## O

- OF
- OFFLINE
- ON
- ONLINE
- OPTION
- OR
- ORDER
- ORDER\_COLUMN

## P

- PCTFREE
- POP
- POPULATED
- PRIMARY
- PRIMARY\_HISTORY
- PRIMARY\_IN
- PRIMARY\_IN\_CONDITION
- PRIMARY\_IN\_RELATIONSHIP
- PRIOR
- PRIVILEGES

- PUBLIC

## Q

- QUERY\_CONDITION

## R

- RAW
- RELATIONSHIP\_COLUMN
- RENAME
- REPLACE
- RESOURCE
- REVOKE
- ROW
- ROWID
- ROWNUM
- ROWS

## S

- SECOND
- SECONDARY
- SECONDARY\_HISTORY
- SECONDARY\_IN
- SECONDARY\_IN\_CONDITION
- SECONDARY\_IN\_RELATIONSHIP
- SELECT
- SESSION
- SET
- SHARE
- SIZE
- SMALLINT
- SOURCE
- SOURCE\_DOC
- SOURCE\_DOC\_TREE
- SOURCE\_REQUIREMENT\_CONDITION
- SOURCE\_XREF
- START
- SUCCESSFUL



- SYNONYM
- SYSDATE

## T

- TABLE
- THEN
- THIRD
- TO
- TOTAL
- TRIGGER
- TypeNameHere

## U

- UID
- UNION
- UNIQUE
- UPDATE
- USER
- USING

## V

- VALIDATE
- VALUES
- VARCHAR
- VARGRAPHIC
- VIEW

## W

- WHENEVER
- WHERE
- WITH
- WITHOUT\_CLAR\_CONDITION
- WITHOUT\_QUERY\_CONDITION
- WITH\_CLAR\_CONDITION
- WITH\_QUERY\_CONDITION

## X

- XREF



## 第12章

---

# スクリプトの構文

概要	508
SELECTステートメント	508
CALCULATEステートメント	520
XREFステートメント	521
PLUSステートメント	523
COMMENTステートメント	523
クエリプロンプトへのリッチフォーマットテキストの追加	524

## 概要

スクリプトには、Dimensions RMデータベースからデータを抽出し、結果の書式を整えるコマンドが含まれています。この付録では、Dimensions RMのスクリプト言語の構文について説明します。このスクリプト言語は、標準言語であるSQLをDimensions RM用にカスタマイズしたもので、SQLをよくご存知の方は、似ていると思うかもしれません。



**重要!** Dimensions RMのスクリプト言語は、**SQLではありません**。SQLに似ているとはいえ、実際にはDimensions RM独自のスクリプト言語です。使用方法については、この章をお読みください。

RMスクリプト言語には次の特徴があります。

- インタープリター型言語です。SQLインジェクション攻撃の防止に有効です。
- データベースのメタモデルを使用するため、クラス名は実際のデータベーステーブル名ではありません。

Dimensions RMのレポートスクリプトには、インスタンスから抽出するデータとその書式設定方法をDimensions RMに指示するコマンドが含まれています。スクリプトでは、次のタイプのコマンドを使用できます。

- **SELECT**: 抽出するデータ (オブジェクト属性) を定義します。
- **CALCULATE**: 抽出されたデータに基づいて計算を行います。
- **XREF**: オブジェクト間のリンクを示す相互参照を制御します。
- **PLUS**: SELECTステートメントを連結します。
- **COMMENT**: 説明を追加します。この説明は、Dimensions RMの解釈の対象とはなりません。



**注記** スクリプトの「作成」権限がない限り、スクリプトを保存することはできません。

## SELECTステートメント

SQL (Structured Query Language) を使い慣れた方々には、スクリプトのSELECTステートメントはSQL SELECTステートメントと多くの点で似ているように見えるかもしれません。

SELECTステートメントでは、次の要素を使用することができます。必須要素を太字で示します。

- 予約語 **SELECT**
- 表示要素 (属性) のリスト。各要素の前には、<DTPTag> を指定します。DTPTagには、表形式表示の列見出しを指定します。スクリプトの結果を書式設定ファイルに保存する場合は、デスクトップパブリッシングツールの段落のスタイルまたは形式を指定します。属性は、1つ以上選択する必要があります。列見出しまたは段落スタイルを必要としない場合、<> のように空の区切り記号を使用する必要があります。
- 予約語 **FROM**
- RMクラス名
- 予約語 **WHERE**

- 抽出時の条件
- 予約語 ORDER BY
- 抽出内容の並べ替えに使用するフィールドのリスト
- 実行するメトリック計算

このステートメントの形式は、SELECT <>'attribute' FROM 'class' です。表示属性の前には、文字 "<" および ">" が必要です。これらの文字がない場合、レポートドキュメントに属性は含まれません。

1つのSELECTステートメントには、表示要素を必要なだけ指定できます。ただし、各要素を特定のクラスの属性として定義する必要があります。

例:

```
SELECT <>TEST_ID <>TEST_DESCRIPTION <>TEST_NOTES <>REQUIRED_RESULT
FROM TEST
```

このSELECTステートメントは、Dimensions RMデータベースのTESTクラスの全オブジェクトをDimensions RMのキーの順に列挙します。属性であるテストID、説明、注記、必要な結果が、表示リストと同じ順序で出力されます。

```
SELECT <Requirement ID>REQ_ID <Status>STATUS <Text>Text FROM
CustomerRequirements WHERE STATUS != 'Deleted' ORDER BY STATUS
```

このselectステートメントは、削除されていないCustomerRequirementsクラスの全オブジェクトを列挙します。画面に表形式で出力するか、CSVファイルに保存するために、列見出しが指定されています。結果は、STATUS属性値のアルファベット順に並べ替えられます。

## DTPtag

出力の書式設定を指定するために、レポートの各属性にDTPtagを指定できます。表形式で出力する場合、DTPtagは列見出しとして使用します。RTFなどのドキュメント形式の場合、DTPtagは、属性値に関連付ける段落スタイルを指定するために使用します。タグ名は < > で囲み、各表示リスト要素の前に配置します。タグ名は19文字以下です。

タグ名の中に "#" 文字を使用するときには、前にバックスラッシュ (\) を付加する必要があります。

表形式で使用する場合、タグ名は列見出しとして表示されます。このとき、列幅はDimensions RMが決定します。列幅を自分で指定するには、タグの前に "!n" を付加します。nは希望する列幅の文字数です。スクリプトジェネレーターウィザードでは、列幅はサポートされていません。

例 (DTPtagは**太字**):

```
SELECT !8<Test ID>TEST_ID !25<Description>TEST_DESCRIPTION
!25<Test Notes>TEST_NOTES !25<Results>REQUIRED_RESULT FROM TEST
```

## DTP\_TEXT 表示項目

Dimensions RMは、属性に対応していないDTP\_TEXTという表示リスト要素をサポートしています。表形式で出力する場合、DTP\_TEXTは、出力に空白列を挿入するために使用できます。ドキュメントとして出力する場合は、「空」のコンポーネントタグ (対応するテキストまたはデータのないDTPタグ) を挿入するために使用します。これにより、ヘッダーやフッター、またテキスト文字列の繰り返しをドキュメントに含めることができます。

表示リストには、必要な数のDTP\_TEXT項目を使用できますが、表示リスト内での位置が重要です。

たとえば、リスト内の各TESTレコードをマーカー（たとえば、区切り線）で区切るには、次のように指定します。

```
SELECT <Test ID>TEST_ID <Description>TEST_DESCRIPTION <Test
Notes>TEST_NOTES <Result>REQUIRED_RESULT <separator>DTP_TEXT FROM
TEST
```

必要なタイプの段落が生成されるように、RM Word内でseparatorタグ（複数のハイフンやアスタリスクで構成される行など）を定義する必要があります。

## RTM\_KEYWORD表示項目

Dimensions RMは、属性に対応していない表示リスト項目をもう1つサポートしています。それはRTM\_KEYWORDです。この表示項目は、各オブジェクトにリンクされたコレクションのリストをDimensions RMに要求するために使用します。例：

```
SELECT <Test ID>TEST_ID <Description>TEST_DESCRIPTION <Test
Notes>TEST_NOTES <Result>REQUIRED_RESULT
<Linked Collections>RTM_KEYWORD FROM TEST
```

## WHERE句

多くのレポート作成では、クラスの一部のオブジェクトのみが必要です。SELECTステートメントに予約語WHEREを組み合わせて使用すると、属性値、コレクションのメンバーシップ、関係のリンクに関する選択の制約を指定することができます。一般に、WHERE句の形式は次のとおりです。

WHERE ConditionalExpression

ConditionalExpressionは論理式であり、その要素は次の形式を持ちます。

- AttributeName Operator Valuelist
- Direction Relationship
- Group {in | not in} (collectionList)
- SpecialConstraint

条件式 (ConditionalExpression) の要素は、論理演算子ANDまたはORで結合します。SELECTステートメントでは、予約語ANDまたはORで結合した条件をいくつでも使用することができます。ANDとORのどちらも優先順位は等しく、左結合です。優先順位を変更するには、かっこを使用します。

Dimensions RMのインスタンススキーマで使用する属性タイプと使用可能な演算子を次の表に示します。

属性タイプ	演算子	注
英数字	INITIALIZED、NOT INITIALIZED、IN、NOT IN、=、!=、<、>、<=、>=	詳細については、「 <a href="#">テキストの比較</a> 」(512ページ)を参照してください。
日付	INITIALIZED、NOT INITIALIZED、=、!=、<、>、<=、>=	詳細については、「 <a href="#">日付の比較</a> 」(514ページ)を参照してください。
ファイル添付		サポート対象外
グループ	INITIALIZED、NOT INITIALIZED、IN、NOT IN、=、!=、<、>、<=、>=	詳細については、「 <a href="#">テキストの比較</a> 」(512ページ)を参照してください。
リスト	INITIALIZED、NOT INITIALIZED、IN、NOT IN、=、!=、<、>、<=、>=	詳細については、「 <a href="#">テキストの比較</a> 」(512ページ)を参照してください。
数値	INITIALIZED、NOT INITIALIZED、IN、NOT IN、=、!=、<、>、<=、>=	詳細については、「 <a href="#">数値の比較</a> 」(512ページ)を参照してください。
テキスト	INITIALIZED、NOT INITIALIZED、IN、NOT IN、=、!=、<、>、<=、>=	詳細については、「 <a href="#">テキストの比較</a> 」(512ページ)を参照してください。

## 数値の比較

演算子	説明
INITIALIZED	属性に値が含まれています。 例: TEST_ATTRIBUTE INITIALIZED
NOT INITIALIZED	属性に値が含まれていません。 例: TEST_ATTRIBUTE NOT INITIALIZED
=	属性の値が指定された値と同じである必要があります。 例: TEST_ATTRIBUTE = 5
!=	属性の値が指定された値と同じでない必要があります。 例: TEST_ATTRIBUTE != 5
<	属性の値が指定された値より小さくなければなりません。 例: TEST_ATTRIBUTE < 5
>	属性の値が指定された値より大きくなければなりません。 例: TEST_ATTRIBUTE > 5
<=	属性の値が指定された値以下である必要があります。 例: TEST_ATTRIBUTE <= 5
>=	属性の値が指定された値以上である必要があります。 例: TEST_ATTRIBUTE >= 5
IN	属性の値が指定された値のいずれかと同じである必要があります。 例: TEST_ATTRIBUTE IN (3, 4, 5)
NOT IN	属性の値が指定された値のいずれとも同じでない必要があります。 例: TEST_ATTRIBUTE NOT IN (3, 4, 5)

## テキストの比較

テキストの比較では、語の大文字と小文字の区別が非常に重要です。コンピューターでは、テキストを数値で表現するためです。英大文字は英小文字より値が小さく、"A" の値が65であるのに対して、"a" の値は97です。次の表では、演算子INITIALIZEDとNOT INITIALIZEDを除き、2つの要件REQ1とREQ2があると仮定します。REQ1のTEST\_ATTRIBUTE属性の値は "Test" です。REQ2のTEST\_ATTRIBUTE属性の値は "test" です。

演算子	説明
INITIALIZED	属性に値が含まれています。 例: TEST_ATTRIBUTE INITIALIZED
NOT INITIALIZED	属性に値が含まれていません。 例: TEST_ATTRIBUTE NOT INITIALIZED
=	属性の値が指定された値と同じである必要があります。 例: TEST_ATTRIBUTE = 'Test' この例では、REQ1が返されます。



演算子	説明
!=	属性の値が指定された値と同じでない必要があります。 <b>例:</b> TEST_ATTRIBUTE != 'Test' この例では、REQ2が返されます。
<	属性の値が指定された値より小さくなければなりません。 <b>例:</b> TEST_ATTRIBUTE < 'test' この例では、REQ1が返されます。
>	属性の値が指定された値より大きくなければなりません。 <b>例:</b> TEST_ATTRIBUTE > 'Test' この例では、REQ2が返されます。
<=	属性の値が指定された値以下である必要があります。 <b>例:</b> TEST_ATTRIBUTE <= 'test' この例では、REQ1とREQ2が返されます。
>=	属性の値が指定された値以上である必要があります。 <b>例:</b> TEST_ATTRIBUTE >= 'Test' この例では、REQ1とREQ2が返されます。
IN	属性の値が指定された値のいずれかと同じである必要があります。 <b>例:</b> TEST_ATTRIBUTE IN ('Test', 'test') この例では、REQ1とREQ2が返されます。
NOT IN	属性の値が指定された値のいずれとも同じでない必要があります。 <b>例:</b> TEST_ATTRIBUTE NOT IN ('Test', 'test') この例では、要件は返されません。

演算子	説明
LIKE	<p>属性に値が指定された検索パターンと一致している必要があります。大文字/小文字が区別されることに注意してください。</p> <p><b>例:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• TEST_ATTRIBUTE LIKE 'Business*'           <p>値は、語 "Business" で始まる必要があります。</p> </li> <li>• TEST_ATTRIBUTE LIKE '*business.'           <p>値は、"business." で終わる必要があります。</p> </li> <li>• TEST_ATTRIBUTE LIKE ~'*business*'           <p>値は、語 "business" を含む必要があります。</p> </li> </ul> <p>*または %: 任意の文字列を表すワイルドカード。 _: 1つの文字を表すワイルドカード。</p>
NOT LIKE	<p>属性に値が指定された検索パターンと一致していない必要があります。大文字/小文字が区別されることに注意してください。</p> <p><b>例:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• TEST_ATTRIBUTE NOT LIKE 'Business*'           <p>値は、語 "Business" で始まってはなりません。</p> </li> <li>• TEST_ATTRIBUTE NOT LIKE '* business.'           <p>値は、"business." で終わってはなりません。</p> </li> <li>• TEST_ATTRIBUTE NOT LIKE ~'*business*'           <p>値は、語 "business" を含んではなりません。</p> </li> </ul> <p>*または %: 任意の文字列を表すワイルドカード文字。 _: 1つの文字を表すワイルドカード文字。</p>

### 日付の比較

日付の比較の構文は、文字列の比較の構文と似ています。ただし、日付の比較では、クエリの形式が属性の形式と一致していることが重要です。新しいスクリプトを開始するときには、ウィザードで日付を選択することをお勧めします。

演算子	説明
INITIALIZED	<p>属性に値が含まれています。</p> <p><b>例:</b> TEST_ATTRIBUTE INITIALIZED</p>
NOT INITIALIZED	<p>属性に値が含まれていません。</p> <p><b>例:</b> TEST_ATTRIBUTE NOT INITIALIZED</p>
=	<p>属性の値が指定された値と同じである必要があります。</p> <p><b>例:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ TEST_ATTRIBUTE = '01-SEP-2015'</li> <li>■ TEST_ATTRIBUTE = '01-SEP-2015@01:02:03'</li> </ul>

演算子	説明
!=	<p>属性の値が指定された値と同じでない必要があります。</p> <p><b>例:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ TEST_ATTRIBUTE != '01-SEP-2015' 2015年9月1日以外の日がこの条件に一致します。たとえば、2015年8月30日、2014年12月31日、2015年9月2日です。</li> <li>■ TEST_ATTRIBUTE != '01-SEP-2015@01:02:03' 2015年9月1日01:02:03以外の日時がこの条件に一致します。たとえば、2015年8月30日12:05:45、2015年9月1日01:02:02、2015年9月2日02:03:04です。</li> </ul>
<	<p>属性の値が指定された値より小さくなければなりません。</p> <p><b>例:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ TEST_ATTRIBUTE &lt; '01-SEP-2015' 2015年9月1日より前の日がこの条件に一致します。たとえば、2015年8月30日、2014年12月31日です。</li> <li>■ TEST_ATTRIBUTE &lt; '01-SEP-2015@01:02:03' 2015年9月1日01:02:03より前の日時がこの条件に一致します。たとえば、2015年8月30日12:05:45、2015年9月1日01:02:02です。</li> </ul>
>	<p>属性の値が指定された値より大きくなければなりません。</p> <p><b>例:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ TEST_ATTRIBUTE &gt; '01-SEP-2015' 2015年9月1日より後の日がこの条件に一致します。たとえば、2015年9月2日、2016年1月1日です。</li> <li>■ TEST_ATTRIBUTE &gt; '01-SEP-2015@01:02:03' 2015年9月1日01:02:03より後の日時がこの条件に一致します。たとえば、2015年9月2日12:05:45、2015年9月1日01:02:04です。</li> </ul>
<=	<p>属性の値が指定された値以下である必要があります。</p> <p><b>例:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ TEST_ATTRIBUTE &lt;= '01-SEP-2015' この条件に一致するには、2015年9月1日またはそれより前の日である必要があります。たとえば、2015年8月30日、2014年12月31日です。</li> <li>■ TEST_ATTRIBUTE &lt;= '01-SEP-2015@01:02:03' この条件に一致するには、2015年9月1日01:02:03またはそれより前の日時である必要があります。たとえば、2015年8月30日12:05:45、2015年9月1日01:02:02です。</li> </ul>

演算子	説明
>=	<p>属性の値が指定された値以上である必要があります。</p> <p><b>例:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>TEST_ATTRIBUTE &gt; '01-SEP-2015' この条件に一致するには、2015年9月1日またはそれより後の日であることが必要です。たとえば、2015年9月2日、2016年1月1日です。</li> <li>TEST_ATTRIBUTE &gt; '01-SEP-2015@01:02:03' この条件に一致するには、2015年9月1日01:02:03またはそれより後の日時であることが必要です。たとえば、2015年9月2日12:05:45、2015年9月1日01:02:04です。</li> </ul>
LIKE	<p>属性に値が指定された検索パターンと一致している必要があります。</p> <p><b>例:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>TEST_ATTRIBUTE LIKE ~'17-*-2015' 2015年の任意月の17日であることが必要です。</li> <li>TEST_ATTRIBUTE LIKE ~'*-SEP-2015' 2015年9月の任意の日であることが必要です。</li> <li>TEST_ATTRIBUTE LIKE ~'*-SEP-%' 任意年の9月の任意の日であることが必要です。</li> <li>TEST_ATTRIBUTE LIKE '01-SEP-2015@*' 2015年9月1日であることが必要です。時刻は問いません。</li> </ul> <p>*または%: 任意の文字列を表すワイルドカード文字。 _: 1つの文字を表すワイルドカード文字。</p>
NOT LIKE	<p>属性に値が指定された検索パターンと一致していない必要があります。</p> <p><b>例:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>TEST_ATTRIBUTE NOT LIKE ~'17-*-2015' 2015年の任意月の17日であってはなりません。</li> <li>TEST_ATTRIBUTE NOT LIKE ~'*-SEP-2015' 2015年9月の任意の日であってはなりません。</li> <li>TEST_ATTRIBUTE NOT LIKE ~'*-SEP-*' 任意年の9月の任意の日であってはなりません。</li> <li>TEST_ATTRIBUTE NOT LIKE '01-SEP-2015@%' 2015年9月1日であってはなりません。</li> </ul> <p>*または%: 任意の文字列を表すワイルドカード文字。 _: 1つの文字を表すワイルドカード文字。</p>

## Direction Relationship

この制約形式は、特定の関係によってリンクされたオブジェクトを指定するために使用します。たとえば、SystemRequirementクラス（プライマリクラス）とTestクラス（セカンダリクラス）との間の関係では、テストオブジェクトにリンクされているシステム要件オブジェクトを検索することができます。代わりに、リンクされていないオブジェクトを検索すると、まだ完了していない作業を特定するのに便利です。次の「Direction (方向)」が定義されています。

- PRIMARY\_IN

- NOT\_PRIMARY\_IN
- SECONDARY\_IN
- NOT\_SECONDARY\_IN

これらの演算子は、指定された関係のリンクを持つ（または持たない）オブジェクトのみを抽出するために使用します。そのため、「コンプライアンス」リスト（要件にリンクされている、またはされていないテストのリストなど）を作成するために使用できます。

次に示すのは、Direction Relationshipの例です。プライマリクラスSystemRequirementsとセカンダリクラスTestとの関係Tested\_Byに基づきます。

- PRIMARY\_IN Tested\_By  
少なくとも1つのTestオブジェクトにリンクされているSystemRequirementsを検索します。
- NOT\_SECONDARY\_IN Tested\_By  
どのSystemRequirementオブジェクトにも関連付けられていないTestオブジェクトを検索します。

要件に関するSELECTステートメントの場合、事前に定義された2つの関係も使用できます。SOURCEとIMMEDIATEです。各関係演算子をSOURCE関係またはIMMEDIATE関係とともに使用する場合の影響を次の表に示します。

演算子	IMMEDIATE	SOURCE
PRIMARY_IN	子を持つ要件（最下位レベルの要件ではない要件）	親を持たない要件（ソース要件）
SECONDARY_IN	親を持つ要件（派生した要件）	子を持たない要件（最下位レベルの要件）
NOT_PRIMARY_IN	子を持たない要件（最下位レベルの要件）	親を持つ要件（派生した要件）
NOT_SECONDARY_IN	親を持たない要件（ソース要件）	子を持つ要件（最下位レベルの要件ではない要件）

Group {in | not in} (collectionList)

この制約形式は、1つ以上のコレクションへのリンクに基づいてオブジェクトを特定するために使用します。たとえば、優先順位の管理に使用するコレクションを定義すると仮定します。親コレクションPrioritiesは、子コレクションPriority 1、Priority 2などを持っています。これらのコレクションを使用すると、特定の優先順位に基づいてレポートを整理したり、優先順位が設定されていない項目を検索したりすることができます。

コレクション制約の例を示します。

- GROUP IN ('Priority 1', 'Priority 2')  
Priority 1とPriority 2のどちらかのコレクションにリンクしているオブジェクトを検索します。
- GROUP NOT IN ('Priorities')  
優先順位がまだ設定されていないオブジェクトを検索します。

## 特別な制約

この制約形式は、要件のクラスタイプに基づいてクラスの標準装備属性をサポートします。これらのクラスには、QueryとClarificationという標準装備のテキスト属性があります。これらの属性は、要件そのものに関する質問と回答に使用します。次に示すSpecialConstraintのキーワードには、追加のオペランドはありません。

- HAVING\_CLARIFICATION\_TEXT
- HAVING\_NO\_CLARIFICATION\_TEXT
- HAVING\_QUERY\_TEXT
- HAVING\_NO\_QUERY\_TEXT

SpecialConstraintの例を示します。

- `SELECT <Requirement ID>REQ_ID <Status>STATUS <Text>Text FROM CustomerRequirements WHERE HAVING_QUERY_TEXT`

CustomerRequirementsクラスのオブジェクトから、Query属性が空でないオブジェクトのID、ステータス、テキストを検索します。

## プロンプト

スクリプトでは、専用の形式を持つプロンプトを指定することができます。ユーザーがスクリプトを対話的に実行すると、このプロンプトが表示され、ユーザーに情報の入力を求めます。スクリプトのプロンプトの構文は次のとおりです。

スクリプトの任意の場所で、<#prompt#> の形式で指定します。例：`select <id>object_id from ECP where object_id = '<#enter id#>'`

このプロンプト構文では、要求した値を変数としてスクリプトの複数の場所で使用することもできます。例：

- `select <id>object_id from CR where object_id='<#enter id^var1#>'  
xref`
- `select <id>object_id from SR where object_id='<#^var1#>'`

CRクラスのオブジェクトIDとしてユーザーが入力した値は、SRクラスのselectステートメントのwhere句でも使用されます。“^”は、その後の変数に値を格納することを意味します。この変数名は、他の場所でプロンプトを表示することなく使用できます。“prompt ^ variable name” (variable nameは同じ) がもう1つある場合、この変数の値は変更されます。

## ORDER BY句

SELECTステートメントにORDER BY句を追加すると、レコードの出力順を指定することができます。ORDER BY句は、WHERE句の後か、WHERE句がない場合はクラス名の後に追加します。予約語ORDER BYの後には、カンマ区切りの属性リストを指定する必要があります。抽出順を指定するために、クラスの属性をいくつでも使用できます。

### 昇順での並べ替え

デフォルトでは、ORDER BY句は昇順で並べ替えを行います。

例：

- `SELECT <>TEST_SETUP FROM TEST  
ORDER BY TEST_ID, TEST_DATE`
- `SELECT <>TEST_SETUP FROM TEST  
WHERE TEST_ID = '7'  
ORDER BY TEST_DATE, REQUIRED_RESULT`



**注記** ORDER BYに指定した属性がNULL値の場合、この属性はリストの末尾に配置されます (つまり、最大値を持つと見なされます)。

### 降順での並べ替え

降順で並べ替えるには、属性名の後に **|DESC|** を追加します。

例:

- `SELECT <>TEST_SETUP FROM TEST  
ORDER BY TEST_ID|DESC|, TEST_DATE|DESC|`
- `SELECT <>TEST_SETUP FROM TEST  
WHERE TEST_ID = '7'  
ORDER BY TEST_DATE|DESC|, REQUIRED_RESULT|DESC|`



**注記** ORDER BYに指定した属性がNULL値の場合、この属性はリストの先頭に配置されます (つまり、最大値を持つと見なされます)。

### デューイ 10 進法の値による並べ替え

レポートをデューイ 10 進法 (例: 1.2.3.12) の属性で並べ替えることはよくあります。一般に、PARAGRAPH\_ID属性は、この種の形式です。ASCIIコードによる単純な並べ替えでは、数値ではなく文字ごとに並べ替えが行われるため、正しい順序にはなりません。

デューイ 10 進コードでは、英字 (大文字または小文字) または数字を小数点またはハイフンで区切る必要があります。正しいデューイ 10 進コードの例を次に示します。

- 1.2.5
- a.b
- 3
- d
- d-1-2

コードの長さに制限はありません。

デューイ 10 進法で並べ替えるには、該当する属性の前に @ 記号を付加します。

例:

```
SELECT <PUID>PUID <Title>TITLE <Paragraph ID>PARAGRAPH_ID FROM REQ
ORDER BY @PARAGRAPH_ID
```

デューイ10進法の値を持つ属性は、**|DESC|** を追加することで、降順で並べ替えることもできます。

## CALCULATEステートメント

実行できる計算は次のとおりです。

- 任意のフィールドで選択されたレコードの**カウント**
- 数値フィールドで選択されたレコードの**値の合計**
- 数値フィールドで選択されたレコードの**平均**
- 数値フィールドで選択された**最小値**
- 数値フィールドで選択された**最大値**
- 単純演算式で選択された値の**正規化**

カウント、合計、平均、最小値、最大値の各メトリックの結果は、レポート下部に表示されます。正規化を実行すると、レポート本体の各レコード値が演算式に基づいて変更されます。

NULLのフィールドは次の2つの方法で処理されます。

- フィールドに値のあるレコードのみを使用する場合 (POPULATED)、NULLのフィールドは無視されます (デフォルトの処理)。
- 内容に関係なくすべてのレコードを使用する場合 (ALL)、NULLのフィールドは値0 (ゼロ) として扱われます。

CALCULATEステートメントの形式は次のとおりです。

- メトリックの実行を示すために、CALCULATEキーワードを最初に指定します。
- 続いて、計算タイプのリスト (COUNT、TOTAL、AVERAGE、MINIMIZE、MAXIMIZE、またはNORMALIZE) と該当するフィールド (フィールド間はカンマで区切る) を指定します。
- 各計算タイプキーワードの前に、ALLまたはPOPULATEDフラグを付加できます。何も指定しない場合、デフォルトのPOPULATEDが使用されます。

合計、カウント、平均、最小値、最大値については、次のように指定します。

- フィールド名の前に「タグ」を [string] の形式で指定します。タグは、特定の値を示すためにレポートで使用する文字列であり、必須です。有効なのは [] であることに注意してください。
- リスト内の各 [tag] フィールドエントリの前には、ALLまたはPOPULATEDフラグを指定できます。

正規化については、次のように指定します。

- 各エントリの形式は、"fieldname operator value" です。operatorは、"+", "-", "\*", "/" のいずれかで、valueは実数または整数です。正規化では、タグは使用しません。
- リスト内の各 [tag] フィールドエントリの前には、ALLまたはPOPULATEDフラグを指定できます。



例:

```
SELECT <number>PARTS_AVAILABLE FROM REQ
CALCULATE COUNT [count]PARTS_AVAILABLE
TOTAL [total]PARTS_AVAILABLE
AVERAGE [average]PARTS_AVAILABLE
MINIMIZE [min]PARTS_AVAILABLE
MAXIMIZE [max]PARTS_AVAILABLE
```

レポートのPARTS\_AVAILABLE属性の値を変更するには、NORMALIZEメトリックを使用します。

```
SELECT <id>REQUIREMENT_KEY <number>PARTS_AVAILABLE FROM REQ CALCULATE
NORMALIZE ALL PARTS_AVAILABLE + 5
```

## XREFステートメント

XREFステートメントでは、オブジェクト間のリンク、つまりトレーサビリティを示すことができます。XREFは、SELECTステートメントとその直後のSELECTステートメントをリンクします。

XREFステートメントには、予約語XREFと、トレーサビリティを定義する関係の名前が必要です。また、予約語PRIMARY、SECONDARY、PRIMARY\_HISTORY、SECONDARY\_HISTORYと、FIRST、SECOND、THIRD、FOURTHのいずれかまたは数字を指定することができます。

両方のSELECTステートメントが同じクラスから選択を行う場合、XREFステートメントには予約語PRIMARYまたはSECONDARYを指定する必要があります。第2のSELECTステートメントで関係のプライマリ側を参照する場合、PRIMARYを使用します。第2のSELECTステートメントで関係のセカンダリ側を参照する場合、SECONDARYを使用します。



**注記** スクリプトジェネレーターウィザードは、予約語PRIMARY\_HISTORY、SECONDARY\_HISTORY、FIRST、SECOND、THIRD、FOURTHと、SELECTステートメントを参照するための番号の使用をサポートしていません。

XREFステートメントは、2つのSELECTステートメントの間に指定する必要があります。また、第2のステートメントで指定するクラスは、XREFステートメントで指定された関係のメンバーとして定義されている必要があります。さらに、XREFステートメントの前にあるSELECTステートメントの少なくとも1つは、関係のもう一方のクラスを指定している必要があります。

たとえば、REQ\_TESTという関係が定義されていると仮定します。この関係は、要件タイプのREQクラス (関係ではPRIMARYオブジェクト) をTESTというクラス (SECONDARYオブジェクト) にリンクしたもので、これらのクラスのオブジェクトの間には、トレーサビリティリンクが作成されています。要件のリストを作成し、要件に関連するTESTを示すには、次のステートメントを使用します。

```
SELECT <ID>REQ_ID <>TEXT FROM REQ WHERE STATUS='CURRENT'
XREF REQ_TEST
SELECT <TEST ID>TEST_ID <>TEST_DESCRIPTION FROM TEST
```

このスクリプトは、REQクラスから、STATUS属性の値が "最新" の要件をすべて出力します。さらに、要件が関係REQ\_TESTに属している場合は、該当するTESTを抽出します。なお、この形式のスクリプトは、条件に一致する各要件を抽出し、その後でそれらの要件にリンクされたTESTを抽出します。複数の要件が抽出されるような条件を指定し、かつ、1つのTESTが複数の要件にリンクされている場合、1つのTESTが複数回出力される可能性があります。

TESTに関連する要件のみを出力するには、次のように条件を追加します。

```
SELECT <ID>REQ_ID <>TEXT FROM REQ WHERE STATUS='CURRENT'
AND PRIMARY_IN REQ_TEST
XREF REQ_TEST
SELECT <TEST ID>TEST_ID <>TEST_DESCRIPTION FROM TEST
```

PRIMARY\_IN演算子を使用するのは、REQがREQ\_TEST関係でプライマリとして定義されているためです。

次のようにNOT\_PRIMARY\_IN演算子を使用する場合、

```
SELECT <ID>REQ_ID <>TEXT FROM REQ WHERE STATUS='CURRENT'
AND NOT PRIMARY_IN REQ_TEST
XREF REQ_TEST
SELECT <TEST ID>TEST_ID <>TEST_DESCRIPTION FROM TEST
```

要件のみのリストが出力されます。これは、TESTに関連しない要件が検出された場合、TESTが抽出されないように定義されているためです。

次のスクリプトでは問題が発生します。

```
SELECT <original>REQ_ID FROM REQ XREF REQ_TEST SELECT
<test>TEST_DESCRIPTION FROM TEST XREF SOURCE SECONDARY SELECT <low
child>REQUIREMENT_KEY FROM REQ XREF REQ_EVENT SELECT
<events>EVENT_TEXT FROM EVENT
```

このスクリプトは、オブジェクトと属性が指定され、関係が定義されている点では有効です。しかし、第3のXREFステートメント (XREF REQ\_EVENT) は、次のSELECTステートメントで指定されているクラス (EVENT) が関係REQ\_EVENTでリンクされていなければならないことを意味します。この関係はREQをEVENTにリンクするものであり、次のクラスはEVENTであるため、前のSELECTステートメントでEVENTをREQにリンクしておく必要があります。

このスクリプトでは、SELECTステートメントにREQが2回指定されています (SELECTステートメント1と3)。デフォルトでは、最初のSELECTステートメントがクラスの照合のために使用されます。そのため、この例のEVENTは、REQの最初のセット (originalの要件) にリンクされたイベントです。

次の4つの予約語を使用すると、スクリプトでオブジェクトの重複が生じた場合にどのリンクを使用するかを選択できます。

- FIRST
- SECOND
- THIRD
- FOURTH



**注記** これらの予約語は、以前のバージョンのRMとの互換性を維持するために提供されていますが、スクリプトジェネレーターウィザードではサポートされていません。

これらの予約語は、次のSELECTステートメントが何番目のSELECTステートメントにリンクするかを表します。その場合、これらの予約語のいずれかをXREFステートメントの最後の語として使用します。また、スクリプトで5番目以降のSELECTステートメントを参照しなければならない場合があります。この場合は、正の整数で指定します。

sourceのREQUIREMENTにリンクされたEVENTが表示されるように前のスクリプトを変更するには、最後のXREFステートメントに予約語THIRDまたは数字の3を追加します。

```
SELECT <original>REQUIREMENT_KEY FROM REQ XREF REQ_TEST SELECT
<test>TEST_DESCRIPTION FROM TEST XREF SOURCE SECONDARY SELECT <low
```

```
child>REQUIREMENT_KEY FROM REQ XREF REQ_EVENT THIRD SELECT
<events>EVENT_TEXT FROM EVENT
```

このスクリプトの最後のXREFステートメントは、次のSELECTステートメントで指定されたクラス (EVENT) を、関係REQ\_EVENTに基づいて、第3のSELECTステートメントで抽出されたオブジェクトにリンクしなければならないことを意味します。関係REQ\_EVENTはREQをEVENTにリンクし、どちらもSELECTステートメントで指定されているため、このスクリプトは有効であり、目的どおりにリストを出力します。

## PLUSステートメント

PLUSステートメントは、複数のスクリプトを1つに結合するために使用できます。作成されたスクリプトから、1回のデータ抽出で複数のレポートが作成されます。

例:

```
SELECT <4.1_Title>DTP_TEXT <>TEXT FROM REQ WHERE
PRIMARY_IN IS_ALLOCATED_TO_HARDWARE
PLUS SELECT <4.2_Title>DTP_TEXT <>TEXT FROM REQ WHERE
PRIMARY_IN IS_ALLOCATED_TO_SOFTWARE
PLUS SELECT <4.3_Title>DTP_TEXT <>TEXT FROM REQ WHERE
PRIMARY_IN IS_ALLOCATED_TO_MANUAL_OPERATION
```

## COMMENTステートメント

コメントを使用すると、コマンドラインで使用するスクリプトに説明を追加できます。スクリプトジェネレーターウィザードは、コメントをサポートしていません。コメントはいくつかの形式でスクリプトに挿入できます。

- ##、--、または\$!の後の文字列は、改行まで無視されます。
- 複数行のコメントは、コメント区切り記号のペア { }、/\* \*/、または (\* \*) で囲むことができます。

例:

```
/* Version 1.0
Date: 14th May 2006*/
SELECT <key>REQUIREMENT_KEY ## extract RMs no.
FROM REQ-- for the req class
WHERE SOURCE_REQUIREMENTS = 'Y'$! of all original requirements
{Now find all derived requirements}
XREF SOURCE SECONDARY
(* and extract the RM nos *)
SELECT REQUIREMENT_KEY FROM REQ
```

## クエリプロンプトへのリッチフォーマットテキストの追加

クエリプロンプトでリッチテキストを使用すると、ユーザーに追加情報を提供することができます。たとえば、次に示すのは、マーケティング要件IDを要求する標準的なクエリプロンプトです。

The screenshot shows a web interface for 'DRM DIMENSIONS RM'. The breadcrumb trail is 'RMDemo > RMDemo > Marketing\_Requirements > Selected Requirements'. The main content area is titled 'Selected Requirements' and contains the following text: 'The following parameters must be provided to run this report. Please provide a value for each of the parameters below.' Below this, it says 'Enter Rqmt ID for MARKETING\_REQUIREMENTS:' followed by a text input field. At the bottom right, there is a blue 'Run Report' button and a checkbox labeled 'Remember these parameters'.

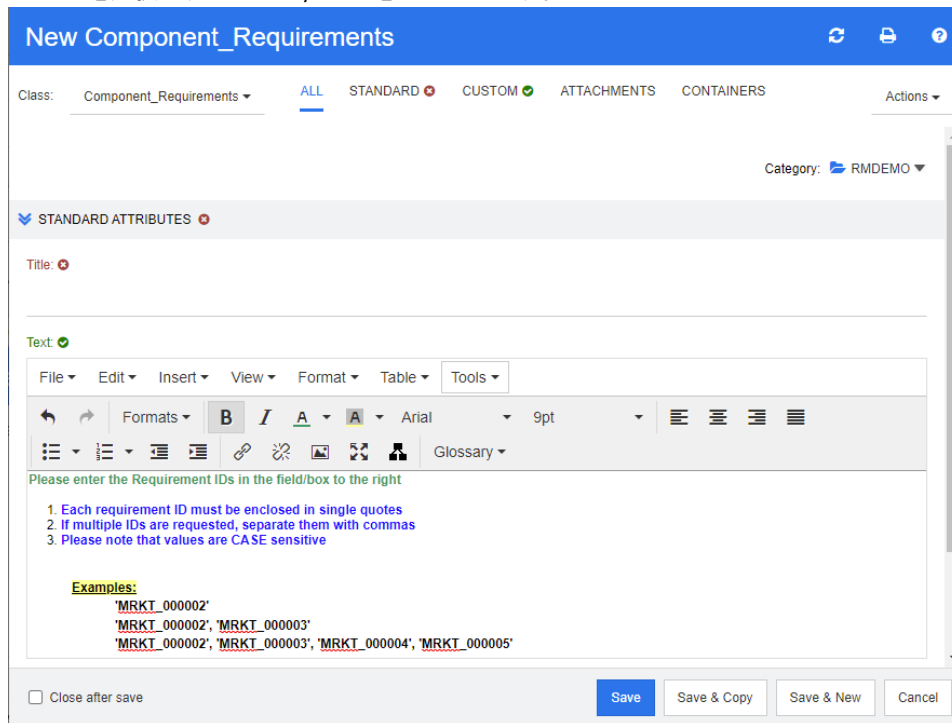
ここで、レイアウトを次のように変更すると仮定します。

The screenshot shows the same web interface as above, but with additional instructions and examples. The text now reads: 'Please enter the Requirement IDs in the field/box to the right' followed by a list of instructions: '1. Each requirement ID must be enclosed in single quotes', '2. If multiple IDs are requested, separate them with commas', and '3. Please note that values are CASE sensitive'. Below these instructions, there is an 'Examples:' section with three lines of example IDs: 'MRKT\_000002', 'MRKT\_000002, MRKT\_000003', and 'MRKT\_000002, MRKT\_000003, MRKT\_000004, MRKT\_000005'. The rest of the interface, including the input field, 'Run Report' button, and 'Remember these parameters' checkbox, remains the same.

この追加情報を表示するには、次の手順でクエリプロンプトを変更します。

- 1 [新規] メニューから [クラスレポート] を選択します。
- 2 目的のクラス (この例では "Marketing Requirements") を選択します。
- 3 クエリ名を指定します。
- 4 [属性制約] タブを選択します。
- 5 [要件ID] フィールドの矢印をクリックし、[実行時に入力] を選択します。
- 6 メインウィンドウで、[新規] メニューから [要件] を選択します。
- 7 HTML対応属性を持つクラスを選択し、その属性をクリックします。

- 8 クエリプロンプトとともに使用するテキストを入力します。
- 9 [ツール] メニューから [ソースコード] を選択して、未処理のHTMLコードを取得します。すべてを選択し、このtext/htmlをコピーします。



- 10 HTMLソースエディターウィンドウを閉じ、[新規 Marketing\_Requirements] ウィンドウを閉じます。
- 11 [Query By Class: Marketing\_Requirements] ウィンドウで、左下にある [スクリプトの表示] ボタンをクリックします。スクリプトが次のように表示されます。

```
select <Rqmt ID>PUIID <Title>TITLE from Marketing_Requirements where
PUIID LIKE ~'<#Enter Rqmt ID#>' and STATUS IN ('Current') order by
PUIID calculate all count[Row Count:]PUIID
```

- 12 プロンプト "<#Enter Rqmt ID#>" の2つの "#" の間にあるテキストを削除し、"<##>" のみを残します。
- 13 2つの "#" の間にカーソルを移動し、Enterキーを2回押します。スクリプトは次のようになります。

```
Script: select <Rqmt ID>PUIID <Title>TITLE from Marketing_Requirements where PUIID LIKE ~'<#
##>' and STATUS IN ('Current') order by PUIID calculate all count[Row Count:]PUIID
```

**14** HTMLコードを空白行に貼り付けると、次のようになります。

```
Script: select <Rqmt_ID>PUID <Title>TITLE from Marketing_Requirements where PUID LIKE ~'<#<br><p><strong><span style="color: #339966;">Please enter the Requirement IDs in the field/box to the right</span></strong></p></ol></li><span style="color: #0000ff;"><strong>Each requirement ID must be enclosed in single quotes</strong></span></li><li><strong><span style="color: #0000ff;">If multiple IDs are requested, separate them with commas</span></strong></li><li><span style="color: #0000ff;"><strong>Please note that values are CASE sensitive</strong></span></li></ol><p></p><p style="margin-left: 40px;"><span style="text-decoration: underline; background-color: #ffff99;"><strong>Examples:</strong></span></p><p style="margin-left: 80px;"><strong>'MRKT_000002'</strong></p><p style="margin-left: 80px;"><strong>'MRKT_000002', 'MRKT_000003'</strong></p><p style="margin-left: 80px;"><strong>'MRKT_000002', 'MRKT_000003', 'MRKT_000004', 'MRKT_000005'</strong></p>#>' and STATUS IN ('Current') order by PUID calculate all count[Row Count:]PUID
```

**15** [保存して実行] をクリックします。

<b>Class Definition</b>	RM Manageから起動するDimensions RMツール。インスタンスの作成とインスタンスへの初期入力に使用します。スキーマの定義には、ブラウザーの[管理]メニューからアクセスできます。 <a href="#">スキーマ定義</a> を参照してください。
<b>CM ロック</b>	設定管理ロック。オブジェクトを読み取り専用にして、更新されないようにするセキュリティ機能です。要件、コレクション、ドキュメントをロックできます。
<b>CSV インポート</b>	カンマ区切り値ファイルからDimensions RMインスタンスデータベースにデータをインポートできるユーティリティ。
<b>Dimensions RM</b>	システムエンジニアリング情報のキャプチャー、管理、トレーサビリティ、文書化をサポートする、複数ユーザーによる設定が可能なツールスイート。
<b>Dimensions RM サードパーティ インテグレーター</b>	API機能を使用してサードパーティツールをDimensions RMと統合する担当者。
<b>Doctool</b>	ドキュメントのスク립トを解釈して画面上にレポートを出力するDimensions RMツール。
<b>ECP</b>	Engineering Change Proposal。クラスタイプです。関連し合う一連の提案済み要件を作成するとき、これらの要件をECPオブジェクトにリンクすると、レビューの際、まとめて簡単にアクセスできます。
<b>Lock Manager</b>	ソースドキュメント、ツール、オブジェクト、コレクションなどのDimensions RMデータベース要素をロックまたはロック解除するために使用するDimensions RMツール。
<b>NOT_PRIMARY_IN</b>	リンク元として使用できるものの、実際にはリンク元ではない要件を示すために使用する関係演算子。
<b>NOT_SECONDARY_IN</b>	リンク先として使用できるものの、実際にはリンク先ではない要件を示すために使用する関係演算子。
<b>Object Editor</b>	属性の変更、クラス情報の編集、集束、展開に使用するDimensions RMダイアログ。
<b>OLE</b>	Object Linking and Embedding (オブジェクトのリンクと埋め込み)。アプリケーション間で情報を転送および共有するためのテクノロジーです。
<b>ORACLE_HOME</b>	インストールしたOracleのファイルシステムまたはネットワーク上の場所を示す論理パス名。
<b>PRIMARY_IN</b>	リンク元要件を示すために使用する関係演算子。
<b>PUID</b>	永続的一意ID。組み込み属性。一部のダイアログやレポートでは要件IDと呼ばれます。
<b>RM Import Designer</b>	RM ImportからWordドキュメントをインポートするときにユーザーが選択するテンプレートを管理者が設計できるDimensions RMツール。テンプレートとは、クラス、属性、チャプター、要件、カテゴリの指定方法を定義したものです。
<b>RM Browser</b>	Dimensions RMの核となる機能にWebでアクセスできるDimensions RMツール。

<b>RM Import</b>	下書きのMicrosoft Wordドキュメントのプレビュー、チャプターの記述変更、チャプターの再編、属性値の変更、チャプター間での属性の移動などを実行できるDimensions RMツール。作成した下書きをDimensions RMにインポートすると、RM Browserのドキュメントビューでそのドキュメントを表示し、変更することができます。
<b>RM Manage</b>	インスタンス管理者がユーザーとグループの定義、インスタンスセキュリティの管理、インスタンスデータベースの設定、データの整理、ユーザーアクセスとデータルーティングの制御を実行できるDimensions RMツール。
<b>RTM_HOME</b>	Dimensions RMのプログラムとデータが格納されているファイルシステムの場所の論理名。
<b>SECONDARY_IN</b>	リンク先要件を示すために使用する関係演算子。
<b>Source 関係</b>	一連のバージョンの最初のオブジェクトを表す関係。 <a href="#">直接関係</a> との違いに注意。
<b>アクセス権限</b>	カテゴリ、グループ、ユーザーの組み合わせに基づいて、ユーザーに付与される権限の完全なセット。
<b>アルファベット順による並べ替え</b>	アルファベット順による単純な並べ替え。 <a href="#">数値による並べ替え</a> との違いに注意。アルファベット順による並べ替えでは、大文字と小文字は無視されます（例：abcはABCと同じ）。
<b>暗黙の属性</b>	インスタンス情報の整合性を維持するために使用する属性。暗黙の属性には、永続的一意ID (PUID)、オブジェクトID、変更時刻などの組み込み情報が含まれます。暗黙の属性を変更することはできません。暗黙の属性は、クラスと要件ごとに提供されています。 <a href="#">ユーザー定義属性</a> との違いに注意。
<b>一般リンク</b>	関係を表すリンク。
<b>インスタンス</b>	情報を作成し、維持するDimensions RMの作業領域。
<b>インスタンス管理者</b>	この役割を持つユーザーは、割り当てられたインスタンスの境界内で、すべての管理者機能を実行できます。
<b>インポートユーティリティ</b>	インスタンスまたはデータベースをバックアップから復元できるユーティリティ。
<b>英数字属性</b>	受け入れテストのタイトルなど、1行の英数字で表される属性。長さは1000文字以下です。
<b>エイリアス</b>	主なキーワードのバリエーションまたは同義語として定義された一連のキーワード。たとえば、キーワード "calibrate" (調整) のエイリアスは、"calibrated" や "calibrating"、あるいはワイルドカード文字列の "cal*" などです。特定のDimensions RMツールがアクティブな間だけ存在する仮名とは異なり、エイリアスは、インスタンスが存在する間、またはエイリアス自身が削除されるまでの間存在します。
<b>エクスポートユーティリティ</b>	インスタンスまたはデータベースのバックアップに使用できるユーティリティ。1つのディレクトリに含まれるファイルのコレクションや、1つのファイルをパッケージとして作成し、宛先サイトへの転送に備えることができます。
<b>オブジェクト</b>	<a href="#">要件</a> と同義。
<b>オプション属性</b>	デフォルト値を使用したり、空白のままにしたりできる属性。 <a href="#">必須属性</a> との違いに注意。
<b>親オブジェクト</b>	オブジェクトを編集して新しいオブジェクトを作成したときの元となるオブジェクト。元のオブジェクトは直接の親オブジェクト、新しいオブジェクトはその直接の子オブジェクトとして扱われます。このプロセスを繰り返すと、子オブジェクトは親オブジェクトになり、子オブジェクトを持つこととなります。このように、元の親オブジェクトは、直接の子オブジェクトと最下位レベルの子オブジェクトを含む複数レベルの子孫を生成できます。1つ以上の親オブジェクトが1つ以上の子オブジェクトを生成できます。



親コレクション	子コレクションをリンクするコレクション。親コレクションをオブジェクトに直接リンクすることはできません。
カーディナリティルール	プライマリまたはセカンダリオブジェクトとの間のリンクの最大数を定めたルール。たとえば、カーディナリティ 2:3は、セカンダリオブジェクトへのリンクは2つまで、プライマリオブジェクトへのリンクは3つまでであることを示します。一般に、特定の要件にリンクするユースケースの数や、テストケースの数などを制限するプロセスで使用します。
カテゴリ	オブジェクトを整理する方法。一部のユーザーのために、要件のビュー、スクリプト、フィルターを作成できます。要件が属することのできるカテゴリは1つだけです。
仮名	コレクションにリンクするオブジェクトを配置するために使用するテキストパターン。たとえば、キーワード "calibrate" (調整) の仮名は、"calibrated" や "calibrating"、あるいはワイルドカード文字列の "cal*" などです。インスタンスが存在する間、または自身が削除されるまでの間存在するエイリアスとは異なり、仮名はリンクプロセスの間のみ存在します。 <a href="#">エイリアス</a> も参照。
関係	2つの要件オブジェクト間の関連付け。関係 (つまり、リンク) は、属性および関連付けられたユーザーアクセス権限を持つという点で、それ自体もエンティティです。 <a href="#">リンク</a> も参照。
関係属性	カーディナリティや継承特性など、関係に関するプロパティ。関係属性は、インスタンス管理者によって定義され、互いに異なる関係間でトレーサビリティをどのように確立するかを制御できます。インスタンス管理者は、1つ以上のクラス属性の値に基づいて2つのオブジェクト間にリンクを作成するように指定することができます。たとえば、変更要求オブジェクトの APPROVAL_STATUS属性の値がAPPROVEDの場合に限り、変更要求オブジェクトから要件オブジェクトへのリンクを作成するように指定することができます。 <a href="#">カーディナリティルール</a> も参照。
監査証跡	要件の各種バージョンの履歴を追跡したもの。要件の進化を再現できます。Visual Network ツールでは、監査証跡をグラフィカルに表示できます。
管理者	「インスタンス管理者」とも呼ばれます。この役割を持つユーザーは、割り当てられたインスタンスの境界内で、すべての管理者機能を実行できます。インスタンス管理者は、RM Browserの管理者機能にアクセスできます。 <a href="#">システム管理者</a> も参照。
拒否	提案された変更を拒否するコマンド。提案された要件の現在のステータスは "拒否済み" になり、この要件のコピーが作成され、現在のステータスは "最新" になります。
拒否済み	拒否された変更要求の現在のステータス。
クイック検索	クエリを素早く作成してカテゴリの内容を表示できる RM Browserの [要件] ビューの機能。
クエリ	インスタンススキーマによって表されたスクリプト。特定の要件を取得するために使用します。
クラス	関連する種類の情報 (属性) を保持する構造。定義したクラスに要件を格納します。
クラス属性	クラスのプロパティ。インスタンス管理者が定義し、プロセスやリリースに関連する追加の詳細を提供します。
クラス定義図	<a href="#">スキーマ定義図</a> を参照してください。
グリッドビュー	複数の要件を表形式のリストで表示するビュー。列見出しは、要件の属性を表します。
グループ	個々のユーザーを機能的なカテゴリにまとめたもの。グループに割り当てたアクセス権限は、グループのすべてのメンバーに割り当てられます。グループを使用してユーザーをインスタンスに割り当てた場合、アクセスが明示的に許可または拒否されていない限り、それらのユーザーはグループのアクセス権限を継承します。

グループ属性	グループ属性は、ユーザー選択用に定義済みの値のリストを提供するという点でリスト属性に似ています。ただし、単純なリスト属性と異なり、グループ属性は一連のサブ属性で構成されています。ユーザーに提供される選択肢は、グループ属性内の上位レベルの属性（親属性）での選択内容に依存します。
系統リンク	親オブジェクトと子オブジェクトとの間のリンク、または親コレクションと子コレクションとの間のリンク。
関係ルール	オブジェクト間のリンクを許可する状況。 <a href="#">カーディナリティ ルール</a> も参照。
権限	グループによって割り当てられたアクションを実行する権限。
現在のステータス	要件の状態を示す暗黙の特殊な属性。
更新	要件の内容を上書きするコマンド。変更履歴は維持されません。要件の前バージョンを削除しなければならない場合のみ使用してください。その他の属性（現在のステータスを含む）は、変更されません。
子オブジェクト	オブジェクトを編集して置換すると、新しいオブジェクトが作成されます。元のオブジェクトは親オブジェクト、新しいオブジェクトはその子オブジェクトとして扱われます。このプロセスを繰り返すと、子は親になり、子を持つこととなります。
子コレクション	オブジェクト階層は上から下、つまり親から子へと作成しますが、コレクション階層は逆方向に作成します。つまり、子コレクションをグループ化して親コレクションを作成します。子コレクションは、オブジェクトに直接リンクできます。コレクションを作成すると、そのコレクションは、デフォルトにより子コレクションになります。
コレクション	任意のクラスの要件をグループ化する手段。コレクションの作成後に、コレクションに要件をリンクして、コレクションと要件を関連付けることができます。各要件は異なる複数のコレクションにリンクでき、各コレクションは異なる複数の要件にリンクできます。親コレクションには子コレクションが含まれます。子コレクションには要件が含まれます。親コレクションが要件に直接リンクされることはなく、必ず子コレクションを介して間接的にリンクされます。 <a href="#">ベースライン</a> も参照。
コレクションのリンク性	コレクション間の関係によって定義された関連性。
コンテナ	コンテナとは、さまざまなラベル付き要件セット（ <a href="#">コレクション</a> 、 <a href="#">ベースライン</a> 、 <a href="#">ドキュメント</a> 、 <a href="#">スナップショット</a> ）を表す用語です。コンテナは要件タイプによって制限されず、インスタンス全体で使用できます。
コンプライアンスチェック	データベースを検索し、定義された関係のリンクが含まれていないオブジェクトをレポート出力する Dimensions RM のプロセス。
コンプライアンスレポート	関係で定義された他方のクラスのオブジェクトにリンクしている、またはリンクしていない要件を示すレポート。Full のコンプライアンスレポートには、相互にリンクされているかどうかに関係なく、プライマリクラスとセカンダリクラスのすべての要件が出力されます。コンプライアンスのみレポートには、セカンダリクラスの一致する要件とのリンクを持つ、プライマリクラスのすべての一致する要件か、プライマリクラスの一致する要件とのリンクを持つ、セカンダリクラスのすべての一致する要件が出力されます。非コンプライアンスレポートには、セカンダリクラスの一致する要件とのリンクを持たない、プライマリクラスのすべての一致する要件か、プライマリクラスの一致する要件とのリンクを持たない、セカンダリクラスのすべての一致する要件が出力されます。
最下位レベルの子	選択したオブジェクトに由来する現行オブジェクト。最下位レベルの子のリストに含まれているオブジェクトは、オブジェクトの生成をスキップできます。つまり、選択したオブジェクトの直接の子である必要はありません。

最新	最新バージョンの要件の現在のステータス。
削除	要件の現在のステータスを "削除済み" に変更するコマンド。ただし、要件はインスタンス内に残ります。
削除済み	削除された変更要求の現在のステータス。削除された要件は、インスタンス内に残ります。要件に前バージョンがある場合、そのバージョンのステータスが "最新" になります。
削除の取り消し	要件の現在のステータスを "削除済み" から "最新" に変更するコマンド。
システム管理者	システム管理者の役割は、RM環境の設定と保守に携わる人物に割り当てられます。システム管理者は、インスタンスの作成、変更、削除、全インスタンスのユーザーおよびグループの作成、変更、削除、すべての関連ツール (例: <a href="#">RM Manage</a> ) へのアクセスを行うことができます。
自動リンク	選択した関係に属すプライマリクラスとセカンダリクラスのオブジェクト間でリンクを作成または解除できるユーティリティ。
集束	複数の親オブジェクトを編集して1つの子オブジェクトを作成するプロセス。
循環関係	あるクラスがそれ自身を指しているような関係。この関係は、単一の要件 (プライマリ) を、関連し合う複数のサブ要件 (セカンダリ) に分割するために作成されます。
承認	提案された変更を承認するコマンド。提案された要件の現在のステータスは "承認済み" になり、この要件のコピーが作成され、現在のステータスは "最新" になります。
承認済み	承認された変更要求の現在のステータス。
除去	インスタンスから要件を物理的に除去するコマンド。除去できるのは、"最新" ステータスの要件のみです。
数値属性	参照番号など、数値を使用するユーザー定義属性タイプ。数値には小数点を使用できます。
数値による並べ替え	アウトラインの段落番号などの英数字属性に使用する並べ替え方法。たとえば、数値による並べ替えでは、(10、20、1、2) という数字は、(1、10、2、20) ではなく (1、2、10、20) という順序に並べ替えられます。 <a href="#">アルファベット順による並べ替え</a> との違いに注意。
スキーマ定義	各種クラス (つまり、要件タイプ)、クラスでサポートされる属性、クラス間の関係を定義または変更できる管理者機能。各要件クラスで定義された属性は、各クラス内の要件のステータスを報告する際の入力となります。  インスタンス構造をこのようにクラス定義として指定することにより、インスタンスの存続期間中にクラス、属性、関係のインスタンスを作成する方法に関して、開発チームに制約を示すとともに、サポートを提供することができます。開発チームの全メンバーは、スキーマ定義を使用して、各クラス、クラスの内容、クラス間の関係を確認します。
スキーマ定義図	インスタンスに存在する情報クラスとクラス間の関係を示すグラフィカル表現。
スクリプト	1つ以上のクラスに対するクエリ。スクリプトを使用すると、選択条件機能と複雑なリンク走査、パラメーター設定、基本計算、出力形式を組み合わせることができます。
スクリプトジェネレーターウィザード	グラフィカルインターフェイスで特定のレポートの内容を指定できるDimensions RMウィザード。
スナップショット	ドキュメントの内容 (要件とテキスト) を凍結したバージョン。通常、レビュー用にドキュメントを配布する前に作成されます。スナップショットと組み合わせて <a href="#">ベースライン</a> が作成される場合があります。

セカンダリクラス	クラス定義図で、プライマリクラスからの関係矢印の先にあるオブジェクトクラス。関係矢印はセカンダリクラスを指しています。 <a href="#">プライマリクラス</a> との違いに注意。
ソースドキュメント	開発対象システムへの入力として使用されるドキュメント。通常はお客様が提供します。ソースドキュメントはDimensions RMでも作成できます。空のドキュメントにオブジェクトを挿入して作成します。
属性	情報のクラスに論理的に関連付けられた情報。情報の内容を示します。 <a href="#">クラス属性</a> 、 <a href="#">評価属性</a> 、 <a href="#">暗黙の属性</a> 、 <a href="#">関係属性</a> 、 <a href="#">ユーザー定義属性</a> も参照。
属性制約	リンク対象のオブジェクト(プライマリまたはセカンダリ)の属性が特定の制約に従う場合にのみリンクの作成を許可するルール。 <a href="#">プライマリ オブジェクト</a> も参照。
属性タイプ	属性のデータタイプの性質。英数字文字列、フリーテキストフィールド、日付などです。
タイプ	クラス、関係、属性の一連のインスタンスが持つ基本プロパティの定義。
置換済み	新しいバージョンによって置換された要件の現在のステータス。 <a href="#">保存</a> も参照。
調査	要件に関するフィードバックを特定のユーザーに求めるRM Browserの機能。一般に、調査は、特定の要件を承認すべきかどうかを判断する場合や、要件の内容に関して合意を得る場合に使用します。
直接関係	オブジェクトの直前のバージョンまたは直後のバージョンを指す関係。 <a href="#">Source関係</a> との違いに注意。
直接の親	現在選択されているオブジェクトの作成に使用されたオブジェクト。親オブジェクトのステータスは、"最新"にはなりません。
直接の子	元のオブジェクトを置換、集束、または展開して作成したオブジェクト。直接の子は、系図では次のバージョンのオブジェクトに相当し、ステータスは"最新"か、別のステータスです。
提案済み	現在の要件の変更または要件の新規作成のために変更要求が行われた要件の現在のステータス。
提供	分岐とは、別のプロジェクトやプロダクトと要件を共有し、共通の履歴を維持しながら変更を可能にすることです。
データベース	Dimensions RM環境では、Oracleのインスタンス。Dimensions RMツールに表示されるデータベースは、tnsnames.oraファイル(Oracleファイル)の内容によって決まります。
テキスト属性	英数字、つまりASCIIテキストを64KBまで保持できるユーザー定義属性タイプ。値は複数行でもかまいません。受け入れテストに関する記述など、長い記述に適しています。
展開	1つの親オブジェクトを編集して、1つ以上の子オブジェクトを作成するプロセス。
電子メール通知	インスタンスデータに対する特定のタイプの変更に興味がある場合、その旨を登録し、そのタイプの変更が発生したときに電子的に通知を受け取る機能。
添付ファイル属性	単一のファイルまたは複数のファイルを保持できるユーザー定義の属性タイプ。ファイル添付にはRM Browserからアクセスできます。
テンプレート	管理者がRM Import Designerで定義する一連のルール。RM Importツールを使用してドキュメントをどのようにDimensions RMにインポートするかを定めたものです。
ドキュメント	チャプターと要件を階層的に配置したもの。要件オブジェクトとともに、自由形式のテキストを入力できます。ドキュメントは、ドキュメントビューで作成、管理できます。

ドキュメントビュー	RM Browserのビューの一つ。目次、チャプター、およびサブチャプターを含むドキュメント形式で要件を表示します。要件はチャプターとサブチャプターに含まれます。ドキュメントビューを使用すると、チャプターと要件の追加、削除、移動、および編集を簡単に行うことができます。RM Importを使用してインポートしたMicrosoft Wordドキュメントは、ドキュメントビューに表示されます。インポートしたWordドキュメントのチャプターと要件は、ドキュメントビューで簡単に追加、削除、移動、編集することができます。 <a href="#">要件</a> も参照。
トランザクション	リソースのカテゴリに関連付けられたアクション。そのリソースに対して実行できる内容を表示します。たとえば、更新トランザクションは、クラス定義に関連付けられています。特定のクラス定義の更新トランザクションを持つユーザーは、そのクラス定義の特性を変更し、その特性をデータベースに格納することができます。
トレーサビリティ	要件と他のエンティティを明示的にリンクするプロセス。トレーサビリティによって、インスタンスの進化を追跡することができます。
トレーサビリティビュー	RM Browserビューの一つ。要件を特定のベースライン、ドキュメント、コレクション、またはカテゴリに限定して、追跡する関係を選択できます。また、関係に含まれる要件の閲覧や、分析しやすいビジュアル形式のトレーサビリティレポートの出力が可能です。 <a href="#">ドキュメントビュー</a> 、 <a href="#">要件</a> も参照。
派生	オブジェクトの形式を変更または変換して、低レベルの分析と設計に適した形式にする分析プロセス。
派生オブジェクト	高レベルのオブジェクトを実装するために必要な低レベルのオブジェクト。形式を変更したオブジェクトは、派生オブジェクトになります。一般に、派生オブジェクトはサブ要素として使用され、元のオブジェクトより具体的です。
日付属性	ユーザー定義の日付形式で値を格納するユーザー定義の属性タイプ。
必須属性	ユーザーが値を指定しなければならない属性。 <a href="#">オプション属性</a> との違いに注意。
評価属性	外部環境から値を取得する属性。こうした属性を英数字、数値、または日付属性のデフォルト値として指定することができます。指定したスクリプトまたはコマンドが実行時に実行され、結果の値が属性に設定されます。
表領域	論理的な格納単位。インスタンスデータは、表領域に関連付けられた1つ以上のデータファイルに物理的に格納されます。表領域に最初に関連付けられるファイルは1つだけですが、必要に応じてファイルを追加できます。表領域のサイズは、その表領域を構成する1つまたは複数のデータファイルのサイズによって決まります。
フォーム	クラスと関係の要件情報を表示する構造。フォームは、クラスと要件ごとに作成されます。新しいフォームを作成するには、Dimensions RMによって作成されたフォームをカスタマイズします。さらに、どのフォームも、デフォルトフォームとして指定することができます。
フォームビュー	要件を一度に1つずつ表示するビュー。フォームビューから要件の属性を編集できます。
プライマリオブジェクト	オブジェクトがリンクされているプライマリクラスのインスタンス。
プライマリクラス	2つのクラス間の直接関係を構成する第1のクラス。たとえば、Code_ModuleクラスとAcceptance_Testsクラスを結合するIs_Testing_By関係では、Code_Moduleがプライマリクラス、Is_Testing_Byが関係、Acceptance_Testsがセカンダリクラスです。クラス定義図では、関係矢印の方向は常にプライマリクラスからセカンダリクラスに向きます。図でのこの方向と位置は、関係の方向を示します。 <a href="#">セカンダリクラス</a> との違いに注意。

フローダウン	オブジェクトを割り当て済みの派生オブジェクトに分解し、低レベルのモデルコンポーネントに割り当てる体系的なプロセス。このフローダウンプロセスによって、システムのためにキャプチャーしたオブジェクトを派生オブジェクトに精製する階層構造が作成されます。
プロジェクト	ソフトウェア開発におけるプロジェクトとは、新規または既存のコンポーネントに価値を加えるために設計された作業単位を指します。Dimensions RMでプロジェクトを定義するときには、カテゴリを使用する方法と、ProductクラスとProjectクラスを使用する方法があります。ProductクラスとProjectクラスは、1つのプロダクトの中で複数または並列のプロジェクトを管理するために設定します（「要件の分岐とマージ」(241ページ)を参照）。
ベースライン	一定状態の変更不可能な要件のセット。要件のコレクションまたはドキュメントの要件の内容をベースライン化することで、変更が不可能になります。
ベースラインロック	項目の特定のバージョンに対するロック。そのバージョンがベースラインの一部であるため変更不可能であることを示します。
変更要求	1つ以上の要件属性を変更する提案。
保存	変更を加えて要件の新しいバージョンを作成するコマンド。元の要件の現在のステータスは「最新」から「置換済み」に変わり、元の要件から新しい要件への親子リンクが作成され、新しい要件の現在のステータスは「最新」に設定されます。
保留中の変更要求	まだ承認または拒否されていない変更要求。保留中の変更要求の現在のステータスは「提案済み」です。
ユーザー	基本的な情報管理タスクの実行を担当する個人。タスクには、オブジェクトのキャプチャー、要件と他のデータとの間のトレーサビリティリンクの作成、オブジェクトのエンジニアリングと分類、レポートの作成などがあります。個々のDimensions RMユーザーを意味します。
ユーザー属性	ユーザー名のリストを指定するユーザー定義属性タイプ。Dimensions RMユーザーはこのリストから選択を行います。ユーザー属性には、すべてのユーザー、1つ以上のグループのメンバー、または個別のユーザーのいずれかを含めることができます。
ユーザー定義属性	特定のクラスで使用するために作成できる属性。 <a href="#">英数字属性</a> 、 <a href="#">日付属性</a> 、 <a href="#">添付ファイル属性</a> 、 <a href="#">グループ属性</a> 、 <a href="#">リスト属性</a> 、 <a href="#">数値属性</a> 、 <a href="#">テキスト属性</a> 、 <a href="#">ユーザー属性</a> も参照。 <a href="#">暗黙の属性</a> との違いに注意。
要件	クラスのインスタンス。プロダクトまたはプロセスに適用される一連の条件を記述したものです。この記述は、達成可能かどうかを検証できる必要があります。記述された条件をプロダクトまたはプロセスが満たしていることがテストによって判明した場合に限り、プロダクトまたはプロセスは要件オブジェクトを満たすこととなります。オブジェクトと同義。
要検討リンク	リンクの一方の要件が変更された後で不確実な状態になったリンク。変更によって、他方の要件が不確実、つまり「要検討」状態になった可能性があります。
要件 ビュー	カテゴリ別に整理された要件を表示し、変更できるRM Browserのビュー。このビューでは、既存のスクリプトを実行したり、クイック検索を実行して新しいクエリを作成したり、使用頻度の高いクエリをお気に入りのフォルダーに追加したりすることができます。 <a href="#">ドキュメントビュー</a> も参照。
ライフサイクル	初期の要件指定から要件の実装までのインスタンスのフェーズ。
リスト属性	値のリストを指定するユーザー定義属性タイプ。Dimensions RMユーザーはこのリストから値を選択します。たとえば、Dimensions RMユーザーにtest_result属性の値として一連の値のいずれかを選択させる場合、この属性をリスト属性として指定し、使用可能な値のセットとしてpass、fail、untestedを定義します。 <a href="#">グループ属性</a> も参照。グループ属性は、相互依存のリスト属性グループとして機能します。

---

リソースカテゴリ	複数のリソースを項目のクラスにまとめたもの。たとえば、一意のドキュメント名は、ドキュメントのカテゴリに分類されます。リソースカテゴリは、デフォルト権限を割り当てる際に重要です。デフォルトは、個別のリソースではなく、リソースのクラス全体に割り当てられるためです。また、リソースのクラスに適切なトランザクションを割り当てる際にも、リソースカテゴリは重要です。適しているトランザクションは、リソースカテゴリによって異なるためです。
リンク	関係のインスタンス。2つの要件どうしをリンクするには、それらのクラス間で関係を定義します。





# 索引

---

## D

Dimensions CM  
セキュリティ 407

## H

HTML 書式設定 440  
HTML 書式設定ツールバー 43

## L

Like 制約 474, 487, 488

## N

Not Like 制約 474

## P

PUID 属性 443

## Q

QLARIUS\_RM サンプルデータベース 22

## R

ReqIF 351  
RM Browser 57  
    オブジェクトの新規作成 190  
    概要 18  
    基礎 24  
    クエリで使用する演算子 56  
    クエリで使用するカテゴリ 53  
    削除の取り消し、要件 198  
    削除、要件 197  
    システム情報の表示 77  
    [属性制約] タブ 52  
    調査 252  
    データの更新 180  
    ディスカッションへの参加 73, 256  
    トレーサビリティビュー 302  
    バージョン情報の表示 77  
    パスワードの変更 68  
    ヘルプの表示 69  
    変更要求の提出 200

変更要求のレビュー 201  
要件の除去 198  
要件の編集 194  
連絡先情報の表示 77  
ログアウト 67  
ログイン 65, 66, 67  
RM Browser、ナビゲーション 25  
RM Browser インターフェイス 24  
RM Browser の演算子 56  
RM Browser のカテゴリ 53  
RM Browser へのアクセス 65, 66, 67  
RMDemo サンプルデータベース 22

## S

SQL 508

## U

URL  
    コレクション、クリップボードにコピー 332  
    ドキュメント、クリップボードにコピー 121  
    要件、クリップボードにコピー 188  
    レポート、クリップボードにコピー 308  
URL 属性 441

## X

XML ファイル、インポート 343

## あ

[アクション] ペイン 31  
アクセス権限  
    取り消し 405  
    付与 405  
アジャイル 373  
    [概要] タブ 380  
    ストーリー  
        削除 393  
        追加 392  
        編集 393  
    スプリント  
        削除 394  
        追加 393  
        編集 394  
    [スプリント計画] タブ 384  
    [スプリントストーリーボード] タブ 385

- [タスクボード] タブ 386
- 表示オプション 379
- フィーチャー
  - 削除 392
  - 追加 391
  - 編集 392
- プロダクト
  - 削除 389
  - 手動割り当て 389
- [プロダクトストーリーボード] タブ 384
- [プロダクトバックログ] タブ 381
- リリース
  - 削除 390
  - 追加 390
  - 編集 390
- アルファベット順による並べ替え 42

## い

- 一般設定 83
- 移動、要件をカテゴリ間で 419
- 移動ルール 471
- 印刷 116, 198
- インスタンス階層リンク 27
- インスタンススキーマ
  - オブジェクトの選択 462
  - キャンバスグリッド 461
  - ズーム 462
  - パンニング 462
- インスタンス設定 82
- インポート 335
  - CSV 345
    - テストケース 349
    - テスト実行 349
- ReqIF 351
- Word 336, 338
- XML 343
- エクスポート済みの要件 350
- テストケース 349
- テスト実行 349
- ラウンドトリップ 350

## え

- 英数字属性 427
- エクスポート
  - CSV 202
  - Excel 202
  - Excelスプレッドシート 169
  - PDF 202
  - PDFドキュメント 169
  - ReqIFドキュメント 170
  - Word 202
  - Wordドキュメント 165

- HTML 202
- XML 202
- テキスト 202

## か

- カーディナリティ 471
- 階層リンク 27
- カテゴリ
  - アクセス権限 416
  - 移動 416
  - 管理 411
  - コピー 418
  - 最大文字数 413
  - 削除 413
  - 追加 413
  - 名前の変更 414
  - 命名 497
- カテゴリ、要件の移動 419
- [カテゴリ] ペイン 28
- 関係
  - 移動ルール 471
  - カーディナリティ 471
  - 概要 470
  - 削除 476
  - データの完全削除 476
  - 名前の変更 475
  - 反転 476
- [関係制約] タブ 57
- 関係レポート、作成 298
- 監査性 182

## <

- クイック検索 174
- クイック検索の設定 92
- クラス
  - 概要 462
  - クラス画像の変更 467
  - コピー 467
  - 削除 468
  - スタイルのプロパティの変更 465
  - 説明の指定 464
  - データの完全削除 468
  - 名前の変更 466
  - 命名 497
- クラス画像、変更 467
- クラス情報 467
- クラス定義図
  - オブジェクトの選択 462
  - キャンバスグリッド 461
  - ズーム 462
  - パンニング 462
- クラスレポート、作成 289

グラフィカルレポート、作成 290  
 グリッドビュー 35, 38  
 グループ属性 53, 176, 230, 430  
 グループ割り当て 402, 403, 404

## け

継承されたコンテナ 228  
 継承されたリンク 223  
 系図ビュー 237  
 検索と置換、ドキュメント作業ページ 119  
 検索、要件 174

## こ

更新  
   データ 180  
 更新、要件 182  
 コピー、コレクションのURLをクリップボードに 332  
 コピー、URL  
   コレクション 332  
   ドキュメント 121  
   要件 188  
   レポート 308  
 コピー、ドキュメントのURLをクリップボードに 121  
 コピー、ユーザー 400  
 コピー、要件 191, 196, 197, 244  
 コピー、要件のURLをクリップボードに 188  
 コピー、レポートのURLをクリップボードに 308  
 コメント  
   追加 73, 256  
 コレクション  
   削除 323  
   削除の取り消し 324  
   作成 321  
   ベースライン化 326  
   除去 324  
 コレクションのURL、クリップボードにコピー 332  
 コンテナ 227, 228  
   継承された 228  
   ワークフロー 330  
 コンテナのプロパティ 228

## さ

最初の作成者属性 174  
 削除、コレクション 323  
 削除、ドキュメント 126  
 削除の取り消し、コレクション 324  
 削除の取り消し、ドキュメント 127  
 削除の取り消し、要件 182, 198  
 削除、ユーザー 401  
 削除、要件 182, 197  
 作成者属性 174

作成、新規コレクション 321  
 作成、新規ドキュメント 123  
 作成、ユーザー 399  
 サンプルデータベース 22

## し

実行時パラメーター (レポート) 287  
 自動ロード、設定 95  
 [自分の作業] ダッシュボード  
   作成 266  
   調査 256  
 従属属性 230  
 情報 467  
 除去、コレクション 324  
 除去、ドキュメント 127  
 除去、ベースライン 327  
 除去、要件 182, 198  
 書式設定、HTMLでのテキスト属性 43  
 書式設定、ドキュメント 130

## す

数値属性 439  
 数値による並べ替え 42  
 スナップショット  
   新しいドキュメントとして保存 161  
   削除 161  
   ドキュメントからの作成 160  
   表示 161  
   変更 161  
 スペルチェック  
   Chrome 80  
   Edge 78  
   Firefox 79  
   Internet Explorer 78

## せ

!= 制約 473  
 = 制約 473  
 制約タイプ 473  
 セキュリティ  
   Dimensions CM プロジェクト 407  
   インポートトランザクション 408  
   関係トランザクション 408  
   クラストランザクション 406  
   コレクショントランザクション 407  
   属性トランザクション 406  
 設定  
   一般 83  
   インスタンス設定 82  
   クイック検索 92  
   同期ビュー 102

ドキュメント 94  
分割ビュー 98  
分岐ビュー 102  
ホーム 84  
ユーザー設定 82  
ユーザー属性 87, 88  
要件 86  
リンクブラウザー 97  
レポート 97

## 選択

複数の要件 39

## そ

## 属性

PUID 443  
URL 441  
英数字 427  
グループ 176, 430  
コピー 191, 244, 425  
最初の作成者 174  
削除 426, 427  
作成者 174  
数値 439  
タイプ 424  
テキスト 440  
日付 428  
ファイル添付 429  
命名 497  
ユーザー 441  
要件 ID 443  
リスト 432  
ルックアップ 437

属性、HTMLでのテキストの書式設定 43

属性、グループ 230

## た

## ダッシュボード

Webサイトの追加 271  
グラフィカルレポートの追加 270  
コピー 272  
削除 273  
作成 268  
実行時パラメーター 270  
標準レポートの追加 269  
レポートの使用方法 267

## ち

## チャプター

移動 149  
削除 143  
作成 139

編集 142  
チャプターレイアウト  
グリッド 113  
段落 113  
編集可能なグリッド 114

## 調査

概要 252  
結果の表示 255  
作成 252  
終了 254  
投票 255  
標準装備のクエリ 256  
変更 254

## て

## 提案済み要件

レビュー 201  
ディスカッション 73, 256  
テキスト属性 440  
テキスト属性、書式設定 43  
テクニカルサポート

問い合わせ 15

## テスト管理 360

## テストケース

CSVインポート 349

## テストケース管理

クラス関係 369  
テストケース 360  
テスト実行 362  
テストステップ 370

## テスト実行

CSVインポート 349

デフォルトドキュメントビューモード 96

デフォルトのグループアクセス 405

添付ファイル属性 429

## と

問い合わせ、テクニカルサポートへ 15

同期ビューの設定 102

同時編集モード 83, 86

投票、調査 255

## ドキュメント

要件の追加 147

Adobe PDFドキュメントのエクスポート 169

Excelスプレッドシートのエクスポート 169

Excelの作成 169

Microsoft Wordドキュメントのエクスポート  
165

PDFの作成 169

ReqIFドキュメントのエクスポート 170

ReqIFの作成 170

Wordの作成 165

印刷 116  
削除 126  
削除の取り消し 127  
作成 123  
自動ロードの設定 95  
除去 127  
スナップショットの作成 160  
チャプターの移動 149  
チャプターの削除 143  
チャプターの作成 139  
チャプターの編集 142  
デフォルトビューモード 96  
ドキュメント差異レポート 164  
ドキュメントのプロパティ 133  
ドキュメントの編集 129  
比較 162  
ファイル添付の表示 166  
編集 129  
文字列の検索と置換 119  
要件差異サマリー 164  
要件の移動 149  
要件のクラスの制限 134  
要件の削除 148  
要件の作成 146, 147  
要件のデフォルトレイアウト 96  
要件バージョン 236  
ワークフロー 171  
ドキュメント、書式設定 130  
ドキュメントとスナップショットの比較 162  
ドキュメントのURL、クリップボードにコピー 121  
[ドキュメントの自動ロード] チェックボックス 95  
ドキュメントの設定 94  
取り消し、アクセス権限 405  
トレーサビリティ  
概要 302  
ツリーのカスタマイズ 303  
トレーサビリティツリーについて 303  
トレーサビリティレポート、作成 300  
トレンドレポート 182  
トレンドレポート、作成 292

## な

ナビゲーション 25  
並べ替え、リストの値 446

## は

パスワード、サンプルデータベース 22  
パスワード、変更 68

## ひ

日付属性 428

## ビュー

グリッド 35  
フォーム 35  
編集可能なグリッド 35

## ふ

ファイル添付 166  
フォームビュー 35  
付与、アクセス権限 405  
分割ビューの設定 98  
分岐 241, 246  
分岐ビューの設定 102  
分布レポート、作成 291

## へ

ベースライン  
作成 326  
除去 327  
ベースライン化 326  
ベースラインロック 534  
ヘルプ 69  
変更要求  
新しい要件の提案 193  
新しい要件の要求 193  
提出 193, 200  
レビュー 201  
編集可能なグリッドビュー 35  
編集モード 83, 86  
編集、ユーザー 400

## ほ

ホームの設定 84  
保存、要件 182

## ま

マージ 241  
マージ、要件変更 239

## め

命名(クラス、属性、カテゴリ) 497  
メニューバー 26

## ゆ

ユーザー管理 398  
グループ割り当て 402, 403, 404

削除 401  
コピー 400  
作成 399  
編集 400  
ユーザー設定 82  
ユーザー属性 441

## よ

### 要件

ReqIF ファイルからのインポート 351  
XML ファイルからのインポート 343  
印刷 198  
カテゴリ間での移動 419  
クイック検索 174  
クイック検索の結果のエクスポート 203, 204, 207  
継承されたコンテナ 228  
継承されたリンク 223  
検索 174  
更新 182  
コピー 191, 196, 197, 244, 425  
コンテナからの除去 228  
コンテナへの追加 227  
コンテナを開く 228  
削除 148, 182, 197  
削除の取り消し 182, 198  
作成 193  
除去 182, 198  
選択、複数 39  
ドキュメントでの移動 149  
ドキュメントでのクラスの制限 134  
バージョン 184, 236  
複数選択 39  
分岐 241, 246  
分岐後のマージ 241  
変更のマージ 239  
編集 194  
保存 182  
履歴 232, 236  
履歴、系図ビュー 237  
ワークフローの要素 186  
要件 ID 属性 443  
要検討リンク 219  
要件の URL、クリップボードにコピー 188  
要件のクラスの制限、ドキュメント内 134  
要件の設定 86  
要件のデフォルトレイアウト 96  
[ようこそ] メニュー 26

## ら

ラウンドトリップ 350

## り

リスト属性 432  
リストの値、並べ替え 446  
履歴、要件 232  
リンク  
    継承された 223  
    要検討 219  
リンクの移動ルール 471  
リンクの参照 224  
リンクブラウザー 224  
リンクブラウザーの設定 97

## る

ルックアップ属性 437

## れ

### レポート

関係レポートの作成 298  
クラスレポートの作成 289  
グラフィカルレポートの作成 290  
実行 287  
トレーサビリティレポートの作成 300  
トレンドレポートの作成 292  
分布レポートの作成 291  
編集 304  
レポート実行時パラメーター 287  
レポートトランザクション 409  
レポートの URL、クリップボードにコピー 308  
レポートの設定 97

## ろ

ログイン 65, 66  
ログイン、Azure 67  
ログイン、SSO 66  
ログイン、スマートカード 66  
ロック、ベースライン 534

## わ

### ワークフロー

コンテナ 330  
ドキュメント 171  
無効化 491  
要素 186, 480  
ワークフロー状態 481  
ワークフローの遷移 483  
割り当て解除、ユーザーをグループから 404  
割り当て、ユーザーをグループへ 403